

序

東日本大震災、原子力発電所事故から5年が経過した平成28年度は、未だ多くの子供たちが避難生活を続けており、震災に起因する課題が山積している一方、本県教育の復興が着実に進んだ一年でもありました。

まず、避難指示の解除等に伴う地元での小中学校再開に向けた動きが加速化し、県教育委員会では、ふるさとに根ざした魅力的な学校教育の実現のため、「学校再開支援チーム」を設置し、国や有識者等の協力を得ながら市町村へのきめ細かな支援を行いました。また、平成29年度に本県、宮城県、山形県で開催される南東北総合体育大会2017（インターハイ）の準備を着実に進めるとともに、今後の県立高等学校の在り方について、学校教育審議会での議論を5年ぶりに再開しました。

このような中、県教育委員会では、平成25年3月に改定した第6次福島県総合教育計画に基づき、各種事業を展開しているところですが、計画の後半4年間に当たる平成29～32年度の取組みを加速させるため、今後の教育施策の骨太の方針となる「頑張る学校応援プラン」を平成29年3月に策定し、課題に応じた有効な手立てとなる5つの主要施策を推進していくことにしました。

さて、本教育年報は、平成28年度における教育に関する施策概要や事業実績等を収録しており、本県教育行政を一望できる資料として、また、本県の過去の教育行政を現在まで伝える貴重な資料として、教育関係者のみならず、多方面の方々に広く御利用いただいているところです。

今後も本書が、教育施策を推進する上での参考資料として広く活用され、本県教育振興の一助となりますことを願っています。

平成30年2月

福島県教育委員会

教育年報目次

第1章 教育行政の概観

- 1 平成28年度の本県教育の概要…………… 1
- 2 第6次福島県総合教育計画及び平成28年度の重点施策…………… 1

第2章 教育行政

第1節	教育委員会……………	5
	1 教育委員会……………	5
	2 審議事項……………	5
第2節	教育庁組織……………	8
第3節	企画調整……………	9
	1 教職員現職教育計画の策定……………	9
	2 調整事務……………	9
第4節	広報・広聴……………	10
	1 教育委員会だより……………	10
	2 教育年報……………	10
	3 福島県の教育……………	10
	4 ふくしま教育ニュース……………	10
	5 教育庁各課・所・館の広報誌・紙……………	11
	6 記者発表及び資料提供（投げ込み）件数……………	13
	7 教育フォーラム……………	13
	8 平成28年度「ふくしま教育の日」啓発推進事業……………	13
	9 「県庁に みんなの声を 届けよう！」プロジェクト……………	13
第5節	調査統計……………	14
	1 学校統計要覧……………	14
	2 地方教育費調査（一般統計）……………	14
	3 学校教員統計調査（基幹統計）……………	14
	4 子供の学習費調査（一般統計）……………	14
	5 進路状況等に関する調査……………	14
第6節	教職員の給与……………	14
	1 給料関係……………	14
	2 扶養手当（平成29年4月1日適用）……………	14
	3 通勤手当（平成29年4月1日適用）……………	14
	4 期末・勤勉手当（平成28年12月1日適用）……………	15
第7節	附属機関等……………	15
	1 福島県学校教育審議会……………	15
	2 福島県社会教育委員の会議……………	16
	3 福島県文化財保護審議会……………	17
第8節	市町村教育委員会……………	18
	1 概要……………	18
	2 組織……………	18
	3 平成28年度市町村教育委員会援助指導の概要……………	18
第9節	職員団体との話し合い……………	19
	1 福島県教職員組合……………	19
	2 福島県高等学校教職員組合……………	19
	3 福島県立高等学校教職員組合……………	19
	4 福島県学校事務労働組合……………	20
第10節	不利益処分審査請求事件及び損害賠償請求事件……………	20
	1 不利益処分審査請求事件……………	20
	2 損害賠償請求事件……………	20

第11節	公益法人等の指導等並びに公益信託の状況	20
	1 公益法人等	20
	2 公益信託	21
第12節	表彰及び叙勲	21
	1 教育・文化関係表彰	21
	2 文部科学大臣表彰	22
	3 春・秋・高齢者叙勲、死亡叙位・叙勲	22
第13節	奨学育英	25
	1 福島県奨学資金	25
	2 福島県高等学校定時制課程及び通信制課程修学資金貸与制度	25

第3章 教育財政

第1節	平成28年度決算	27
	1 歳入	27
	2 歳出	28
第2節	学校教育施設	30
	1 県立学校	30
	2 幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校(市町村立分)	32
第3節	産業教育設備整備事業	33
	1 産業教育施設・設備の整備	33
第4節	理科教育振興法補助事業	33
	1 理科設備	33
	2 算数・数学特別設備	33
第5節	情報処理設備整備事業	33
	1 県単独事業	33
第6節	体育施設	34
	1 公立学校施設設備費補助(学校体育諸設備補助)	34

第4章 教育の情報化

第1節	基盤整備	35
第2節	人材の育成・活用	35

第5章 義務教育

第1節	概要	37
第2節	学校管理	37
	1 児童生徒数・学級数と教職員定数	37
	2 教職員人事・任用	39
	3 教育職員免許の授与状況	40
	4 学校の設置及び統廃合	40
	5 学校防火	40
	6 へき地対策	41
第3節	学校教育	43
	1 概要	43
	2 現職教育	44
	3 教育課程	47
	4 学力向上等	47
	5 放射線教育(放射線教育推進支援事業)	47
	6 防災教育(「生き抜く力」を育む防災教育推進事業)	48
	7 道徳教育	48
	8 特別活動	49

	9 生徒指導・進路指導	49
	10 幼稚園教育	50
	11 へき地教育	50
	12 環境教育	51
	13 教科用図書	51
	14 教育研究団体	52
第4節	国際化・科学技術の進展等への対応	55
	1 中学生・高校生の科学・技術研究論文	55
	2 中学生・高校生の国際理解・国際交流論文	56

第6章 高等学校教育

第1節	概要	57
第2節	学校管理	58
	1 生徒数と教職員数	58
	2 教職員人事・任用	62
	3 学校の設置及び統廃合	65
第3節	学校教育	66
	1 概要	64
	2 現職教育	73
	3 教育課程	74
	4 学力向上対策等	74
	5 生徒指導・進路指導	75
	6 学校行事	75
	7 産業教育	76
	8 学校訪問	77
	9 県立学校教育指導委員	77
	10 教科用図書	78
	11 教育研究団体	78
第4節	文化活動の振興	80
	1 文化活動の振興	80

第7章 特別支援教育

第1節	概要	87
第2節	学校管理	87
	1 児童生徒数と教職員定数	87
	2 特別支援学校及び特別支援学級の実態	89
	3 教職員人事・任用	92
第3節	学校教育	93
	1 概要	93
	2 現職教育	95
	3 教育課程	96
	4 訪問教育	96
	5 生徒指導・進路指導	97
	6 特別活動	98
	7 学校訪問	98
	8 県立学校教育指導委員	98
	9 就学指導	98
	10 教科用図書	99
	11 教育研究団体	99

第8章	体育・健康	
第1節	概要	101
	1 学校体育の充実	101
	2 学校保健・学校安全の充実	101
	3 食育の推進	102
	4 学校給食の充実	102
	5 全国高等学校総合体育大会	102
第2節	表彰	102
	1 体育関係	102
	2 学校保健・学校安全関係	103
	3 学校給食関係	105
第3節	学校体育	105
	1 学校体育関係各種研修	105
	2 福島県高等学校体育連盟	107
	3 福島県中学校体育連盟	109
第4節	学校保健・学校安全	110
	1 学校保健・学校安全研修会等	110
	2 児童・生徒の健康管理費補助	110
	3 福島県学校保健会	110
	4 独立行政法人日本スポーツ振興センター	110
第5節	学校給食	111
	1 学校給食に関する研修会	111
	2 学校給食用パン品質調査	111
	3 食育等に関する研修会等	111
	4 地場産物活用のための研修会	112
	5 学校給食関係の国庫助成実績	112
第6節	体育施設	113
	1 公立学校施設整備費補助（学校体育諸施設補助）	113
第7節	全国高校総体	114
	1 福島県実行委員会総会	114
	2 専門委員会等	114
	3 高校生活動	114
	4 各種広報活動	115
第9章	社会教育	
第1節	概要	117
第2節	社会教育一般	117
	1 社会教育推進体制の充実	117
	2 社会教育施設の整備充実	118
	3 社会教育関係職員の研修	118
	4 社会教育研究集会	118
	5 社会教育指導員の設置	119
	6 社会教育主事の市町村派遣	119
	7 社会教育研修会	119
	8 福島県公民館研究集会	119
	9 福島県社会教育職員研修派遣	120
	10 出版資料	120
第3節	地域コミュニティの再生	120
	1 放課後子ども教室推進事業	120
	2 学校支援地域本部事業	120
	3 学校・家庭・地域連携サポート事業	120
	4 東日本大震災福島県復興ライブラリー整備事業	121

第4節	家庭教育	122
	1 地域でつながる家庭教育応援事業	122
第5節	青少年教育	124
	1 体験活動・ボランティア推進センター事業	124
	2 ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業	125
第6節	成人教育	125
第7節	子どもの読書活動推進	125
	1 ふくしまの未来をひらく読書の力 プロジェクト	125
第8節	ユネスコ活動	126
	1 ユネスコ協会事務局一覧	126
	2 福島県ユネスコ活動研修会	127
第9節	ふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業	127
	1 内容	127
第10節	子どもがふみだす ふくしま復興体験応援事業	128
第11節	公民館等社会教育施設	128
	1 公民館を除く主な社会教育施設	128
	2 文化施設の整備充実	133
第12節	福島県立図書館	134
	1 概要	134
	2 資料の収集・整理	134
	3 館内奉仕	136
	4 館外奉仕	141
	5 図書館協力	142
第13節	福島県立美術館	144
	1 概要	144
	2 美術品の収集・保存	144
	3 展示事業	145
	4 調査研究事業	148
第14節	福島県立博物館	151
	1 概要	151
	2 資料収集事業	151
	3 保存管理事業	152
	4 展示事業	155
	5 調査研究事業	161
	6 教育普及事業	162
	7 東日本大震災からの復興支援	169
	8 次世代ミュージアム機能	169
	9 開館30周年記念事業	170
第15節	福島県自然の家	171
	1 概要	171
	2 教育目標及び基本的視点	171
第16節	福島県郡山自然の家	172
	1 概要	172
	2 施設・設備の概要	173
	3 企画事業	174
第17節	福島県会津自然の家	177
	1 概要	177
	2 施設・設備の概要	178
	3 利用状況	178
	4 企画事業	178
第18節	福島県いわき海浜自然の家	183
	1 概要	183
	2 施設・設備の概要	184
	3 利用状況	184
	4 企画事業	184

第10章 文化財

第1節	文化財保護体制の充実	189
第2節	埋蔵文化財の保護の充実	189
第3節	文化財保存助成の充実	206
第4節	文化財の保護と公開の推進	209
第5節	銃砲刀剣類の登録状況	209
第6節	文化財センター白河館の運営状況	210

第11章 福利厚生

[教職員の健康管理・福利厚生事業]

第1節	概要	214
第2節	事業実績	214
1	教職員の健康管理	214
2	保健事業	215
3	厚生事業	217
第3節	貸付事業	219
1	共済組合	219
第4節	宿泊・保養施設	219
第5節	児童手当（特例給付を含む）	220
第6節	財産形成貯蓄制度	220

[福利給付事業]

第7節	概要	220
第8節	短期給付	220
1	共済組合	220
2	互助会	221
第9節	長期給付	221
1	恩給	221
2	退職手当	222
3	年金	222

第12章 福島県教育センター

第1節	概要	224
1	調査・研究事業	224
2	研修事業	224
3	情報教育事業	224
4	教育相談事業	224
5	教育図書・資料事業	225
第2節	調査・研究事業	225
1	調査・研究	225
2	長期研究員制度による研究	226
第3節	研修事業	226
1	研修講座の概要	226
2	研修講座	228
3	指導主事派遣等	230
第4節	情報教育事業	231
1	研修講座の概要	231
2	施設利用概況	231
第5節	教育相談	231
1	対象別	231
2	区分別	231
3	地区別来所相談件数	231
4	月別相談件数・回数	231

第6節	教育図書・資料事業	231
1	教育図書・教育資料の収集	232
2	教育資料の刊行	232

第13章 福島県養護教育センター

第1節	概要	234
1	教育相談事業	234
2	教職員研修事業	234
3	調査研究・教育研究事業	234
4	教育図書・資料の収集・提供事業	234
5	広報・啓発事業	235
6	情報教育事業	235
第2節	教育相談事業	235
1	相談対象	235
2	形態	235
3	現状と課題	235
第3節	教職員研修事業	235
1	教職員の研修講座	236
第4節	調査研究・教育研究事業	237
1	調査研究	237
2	教育研究	238
第5節	教育図書・資料の収集・提供事業	239
1	教育図書・資料の収集・整理	239
第6節	広報・啓発事業	239
1	所報「特別支援教育」(69号)	239
2	研究紀要「第30号」	239
第7節	情報教育事業	240
1	ICT活用支援	240
2	情報機器活用	240
3	情報教育ネットワークとWebサイトの充実	240

第1章 教育行政の概観

1 平成28年度の本県教育の概要

東日本大震災、原子力発電所事故から5年が経過してもなお、多くの幼児児童生徒が県内外への避難生活を続けているなど厳しい状況が続いているが、避難指示の解除等に伴う小中学校の学校再開の動きが加速化するなど、本県教育の復興は着実に進行している。

このような中、平成29年3月に幼稚園、小学校、中学校の新学習指導要領が公示されたほか、高大接続システム改革の更なる検討、教員の養成・採用・研修の一体化に向けた教育公務員特例法等の一部改正など、国における教育施策のさらなる推進が見られた。

県教育委員会においては、「第6次福島県総合教育計画(改定版)」の3つの基本目標ごとに重視する観点を定め、20の施策に基づく事業に取り組んできたところであるが、本県教育をめぐる現状と課題を分析し、第6次福島県総合教育計画の後半4年間の取組を推進するための教育政策の方針となる「頑張る学校応援プラン」について検討を進め、平成29年3月に策定した。次年度以降、本プランに掲げた5つの主要施策を戦略的に推進することとした。

2 第6次福島県総合教育計画及び平成28年度の重点施策

基本理念

“ふくしまの和”で奏でる、
こころ豊かなたくましい人づくり

基本目標

基本目標1 知・徳・体のバランスのとれた、社会に貢献する自立した人間の育成

基本目標2 学校、家庭、地域が一体となった教育の実現

基本目標3 豊かな教育環境の形成

基本目標を達成するための施策

基本目標1

施策1 子どもたちの豊かなところをはぐくみます

施策2 子どもたちの健やかな体をはぐくみます

施策3 子どもたちの生き抜く力を支える「確かな学力」を身につけさせます

施策4 望ましい勤労観・職業観をはぐくみます

施策5 障がいのある子どもたちが「地域で共に学び、共に生きる教育」を推進します

施策6 高度情報化社会を主体的に生きていく力をはぐくみます

施策7 国際化の進展に対応できる人づくりを進めます
施策8 公立大学において、社会をリードし、地域に貢献する人づくりを進めます

基本目標2

施策9 地域全体で子どもたちを教え育てる取組を支援します

施策10 家庭における教育を支援します

施策11 生涯を通して学習し、その成果が生きる環境を整備します

施策12 自然に親しみ、自然を尊重するところをはぐくみます

施策13 地域に根ざした伝統文化を保存・継承し、地域を愛するところをはぐくみます

基本目標3

施策14 教員の資質の向上を図ります

施策15 一人一人の子どもに教員が向き合うことができる環境を整備します

施策16 透明性の高い、開かれた教育を推進します

施策17 安全で安心できる学習環境の整備を促進します

施策18 地域における身近な文化・スポーツ環境を整備します

施策19 私立学校の振興を図ります

施策20 社会情勢や環境の変化に対応した学校づくりを推進します

本計画の運用に当たっては、毎年度重視する観点を定め、これに基づく事業を明らかにするとともに、計画の進捗状況を点検・評価することとしている。平成28年度は次の3つの観点を重視し、これらに沿った施策・事業を総合的に展開し、他部局における関連事業も含め、連携を図りながら教育施策を推進した。

平成28年度の重視する観点及び主な重点事業

基本目標1において重視する観点

夢や希望の実現に向けた、たくましく生き抜く力を育む教育の推進

継続 道徳教育総合支援事業

道徳教育推進校を指定し、推進校の授業公開や地区別協議会での実践研究発表を行うとともに、「ふくしま道徳教育資料集」を県内全ての小・中・高・特別支援学校に配布した。

継続 子どもがふみだす ふくしま復興体験応援事業

子どもたちが仮設住宅訪問するなど、避難者との交流を通して元気を発信する事業、地域の復興を考え復興を他県等にアピールする事業、主体的に復興に寄与する社会体験・貢献活動事業をそれぞれ支援した。

継続 スクールカウンセラー等活用事業

スクールカウンセラーを小学校、中学校、高等学校、特別支援学校に配置し、児童生徒の心のケアに当たった。

新規 不登校・いじめ等対策推進事業

生徒指導上の諸課題についての調査研究を行うため、運営協議会及び小中学校教員対象の研修会を実施するとともに、不登校対応資料を改訂し、配布した。

新規 ふくしまの未来をひらく読書のカプロジェクト

講習や演習を通してボランティア等の育成や資質向上を図ったほか、高校生が読書の楽しさを発信する「ビブリオバトル福島県大会」を開催した。

一部新 ふくしまっ子体力向上総合プロジェクト

「自分手帳」を小学校4年生全員に配布したほか、体育専門アドバイザーを小学校に派遣した。

一部新 平成29年度南東北インターハイ開催事業

平成29年度南東北インターハイに向けての高校生の強化を実施するとともに、高校部活動を通して福島県の復興を県内外に発信した。

新規 ふくしま未来キッズワクワクプロジェクト

自然体験や体を動かすことの魅力を伝え、運動不足の解消や体力増進につなげるため、自然の家においてアスレチック等様々な体験活動を楽しめる事業を開催した。

継続 地域スポーツ人材の活用実践支援事業

中学校の武道・ダンスの授業と中学校・高等学校の運動部活動に対しスポーツ人材を派遣し、一層の指導の充実を図った。

一部新 ふくしまから はじめよう。元気なふくしまっ子食環境整備事業

関係部局等が連携し、「食環境を考える会」を開催したほか、小中学生を対象とする「ごはんコンテスト」を開催するなど、子どもたちの食環境の整備を進めた。

一部新 学校給食地場産物活用事業

望ましい食習慣の形成や食育の観点から、学校給食に地場産物を活用する市町村の取組を支援した。

一部新 学力向上推進支援事業

指導の改善に資する評価問題の作成と活用、効果的な指導法の実践研究を行った。さらに、学力調査を実施して本県児童生徒の学力の実態を把握し、授業の改善を図った。

継続 ふくしまから はじめよう。学力向上のための「つなぐ教育」推進事業

指定地域の中学校を拠点校とし、推進協力校である小学校との交流授業を含めた授業研究等を行ったほか、家庭と連携を図るための「学びのプラン」「学びの手引き」を作成した。

継続 サポートティーチャー活用事業

地域に貢献できる人材や社会においてリーダーシップを発揮できる人材を育成するため、サポートティーチャーを学校や教育委員会に派遣し、教科の学習を支援した。

継続 ふくしまから はじめよう。未来を拓く理数教育充実事業

児童生徒の理数や専門的な学習の機会を充実させるため、

「福島県算数・数学ジュニアオリンピック事業」「理数教育優秀教員活用事業」「科学の甲子園福島県大会事業」を実施した。

継続 中間地域インターネット活用学力向上支援事業

南会津地区の中学校において、英語に特化したライブ事業の実施や、文化体験・語学体験研修会等を実施した。

継続 「生き抜く力」を育む防災教育推進事業

「放射線・防災教育指導資料」等を作成し、研究協議会で活用するとともに、実践協力校による授業実践への支援を行ったほか、防災個人カードを小学校1年生全員に配布した。

新規 ふくしまの未来を医療で担う夢応援事業

本県の地域医療に貢献できる人づくりを支援するため、高校2年生対象の「メディカルセミナー」、高校1年生対象の「地域医療体験セミナー」、中学生対象の「医療体験セミナー」を開催した。

新規 ふくしまで生活基盤を築くための高校生支援事業

県内各地に配置した進路アドバイザーが、事業所訪問、面接指導、進路講演会を実施した。

継続 インクルーシブ教育システム推進事業

市町村や各地域における支援体制の整備・充実に向けて「地域支援ネットワーク会議」等を開催した。また、臨床心理士等を含む相談支援チームを県内6地区に配置し、ケース会議等をおこなうとともに、特別支援学校教員が小中学校を訪問するなど、相談支援を行った。

新規 入院児童生徒等への学習支援体制整備事業

長期入院している児童生徒の在籍校、病院、特別支援学校、教育委員会等の関係機関が連携し、支援体制の構築を行った。

継続 高等学校学習支援推進事業

県立高等学校に学習支援員を配置し、発達障がい等の生徒の特性に応じた学習支援など、きめ細かな支援を行った。

継続 夢に向かってテクノチャレンジ事業

生徒の学習意欲の向上や、各学校における作業学習のさらなる充実を図るため、特別支援学校作業技能大会を開催した。

継続 特別支援学校における医療的ケア実施事業

重度の障害のある児童生徒が、安心・安全に学ぶことができる環境づくりを行うため、医療的ケアが必要な児童生徒が在籍する特別支援学校に看護師を配置した。

継続 うつくしま教育ネットワーク事業

ネットワークの運用に必要なシステム運用管理等の委託や、機器の保守・更新等を行った。また、平成29年10月で運用を停止するメールシステムに替わるふくしま教育クラウドサービス（FCS）の運用を開始した。

新規 グローバル人材を育む小中連携英語教育推進事業

グローバル化に対応できる未来のふくしまを担う人材の育成を目指すため、双葉地区の小中学校を対象に、小中一貫した指導計画の作成や、異文化体験交流活動等を実施した。

一部新 ふくしまの未来を担う高校生海外研修・グローバル支援事業

高校生がホームステイをしながら本県の現状や復興の状況の発信等を行うため、高等学校の支援を行った。

継続 スーパーグローバルハイスクール事業

ふたば未来学園高等学校が企業や大学と連携し、質の高い国際的素養の育成を図るためのカリキュラムの開発、実践を行った。

継続 英語指導力向上事業

英語指導及び学習評価の改善についての実践研究を行うため、小中学校、高等学校のモデル校を指定し、公開授業や授業研究を行ったほか、大学教授等を講師とした研修会を開催した。

継続 双葉地区教育構想（国際人育成プラン）

スポーツ交流を目的として、ふたば未来学園の生徒をドイツに派遣したほか、JICA 職員による授業を実施した。

基本目標2において重視する観点

学校、家庭、地域の連携・協働による、総合的な教育力の向上

新規 学校支援地域本部事業

地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進し、地域教育の活性化を図るため、市町村に委託して学校支援地域本部を設置した。各市町村のコーディネーターが中心となり、学校支援ボランティアが学習活動の支援や登下校時の見守り、部活動補助等の活動が行われた。

また、子どもたちがスポーツや文化活動、交流活動などを行うことができる放課後子ども教室が運営された。

継続 学校・家庭・地域連携サポート事業

地域全体で教育活動を支援する体制づくりを構築するため、コーディネーター養成研修会や、先進的な取組の実施状況の見学等を実施した。

新規 ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業

「人と人のかかわり」の中で感じたことや、「ふくしま」への思い、復興への願い等を十七字で綴った作品を募集し、優秀作品を表彰した。

継続 地域でつながる家庭教育応援事業

親の学びを支援するために、親子の学び応援講座を開催したほか、家庭教育応援企業推進活動を募集した。

継続 東日本大震災福島復興ライブラリー整備事業

東日本大震災に関する資料を収集し、広く県民に情報提供するとともに、避難自治体等を対象に移動図書館車の巡回を行い、資料の貸し出しを行った。

継続 ふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業

豊かな人間性と生きる力の育成を図るため、震災の体験を踏まえ再発見した郷土の良さを発信していく交流活動や、充実した自然体験活動を行う機会等を提供した。

新規 先駆けの地における再生可能エネルギー教育推進事業

推進校の児童生徒が、県内における再生可能エネルギー関連施設でフィールドワークを行いながら、再生可能エネルギーと資源の利用に関する理解を深めた。

継続 指定文化財保存活用事業（災害復旧事業）

東日本大震災で被災した国指定・県指定文化財の修復に要する費用を助成した。

継続 地域の「きずな」を結ぶ民俗芸能支援事業

東日本大震災・原子力発電所事故の影響により存続の危機にある民俗芸能を、避難先等で公開する活動等の費用を助成した。

基本目標3において重視する観点

安全・安心で魅力ある教育環境の充実

継続 優秀教職員表彰制度

教育活動の活性化を図るため、学習指導や生徒指導等において顕著な成果をあげている教職員を表彰した。

継続 大規模改造事業

学校施設の安全性を確保するため、老朽化した学校施設の機能を回復する大規模改修と耐震改修を併せて行った。

継続 高校等奨学資金貸付事業 大学等奨学資金貸付事業

能力があるにも関わらず、経済的理由により就学困難と認められる高等学校、専修学校、大学等に在学する者や、東日本大震災により被災し経済的に修学困難と認められる高等学校、専修学校（高等課程）に在学する者に対し、奨学資金の貸与を行った。

継続 被災児童生徒等就学支援事業

東日本大震災により被災、避難した幼児児童生徒に就学支援等を行った。

継続 高等学校通学費支援事業

サテライト校等への通学により経済的負担が大きくなる生徒の保護者等に対し、通学費を支援した。

継続 県立学校施設等災害復旧事業

東日本大震災により被災した県立学校施設等の復旧を行った。

継続 県立学校施設応急仮設校舎等設置事業

東日本大震災、原子力発電所事故により避難を余儀なくされた学校の教育環境を確保するため、応急仮設校舎等の設置を行った。

一部新 学校給食検査体制支援事業

学校給食の一層の安全・安心を確保するため、学校給食食材の放射性物質検査を実施する市町村を支援した。

継続 学校給食モニタリング事業

希望する市町村の学校給食1食分に含まれる放射性物質検査を民間の検査機関に委託して行った。

継続 公立学校等校舎内緊急環境改善事業

市町村等が行う市町村立学校等への空調機器等の整備を支援した。

継続 少人数教育推進事業

個に応じたきめ細かな指導が可能となるよう、30人及び30人程度学級編制に必要な教員を配置した。

一部新 双葉郡中高一貫校設置事業

ふたば未来学園高校の備品、教材等を整備するとともに、寮及び食堂施設の運営を行ったほか、県立中学校の在り方や教育内容を協議するための「県立中学校検討協議会」を開催した。

継 続 ふたば未来学園中学校・高等学校整備事業

生徒の学習・生活環境の確保を図るため、ふたば未来学園中学校・高等学校の校舎・寄宿舎等の施設を整備した。

一部新 双葉・南相馬教育復興推進事業

双葉郡内の小中学校及びふたば未来学園高等学校の教育活動の充実を図るとともに、サテライト校及び本校に復帰した高校に対し、地域課題解決や、イノベーション・コースト構想に寄与し、地方創生を担う人材を育成するための教育活動を支援した。

継 続 双葉地区教育構想緊急対応事業

富岡高校及びふたば未来学園高校の緊急寮の生活環境及びスポーツ競技に係る授業トレーニング環境を整備した。

継 続 特別支援学校整備事業

相馬支援学校移転新築準備、たむら支援学校、石川支援学校たまかわ校の開校準備、富岡支援学校の四倉高校内への移設準備などを行った。

新 規 県立特別支援学校学習環境整備事業

特別支援学校全体整備計画に基づき整備する学校の備品等を整備した。

継 続 サテライト校宿泊施設支援事業

サテライト校の集約に伴い、保護者の元からの通学が困難となる生徒の宿泊施設を確保した。

継 続 サテライト校運営管理事業

サテライト校の管理運営に係る経費を支援した。

継 続 サテライト校支援事業

学校行事等を一堂に会して実施できるよう、バスや会場使用料等を支援したほか、高等学校入学者選抜における受験生用バスを用意するなどした。

継 続 復旧・復興の基盤作りのための教員配置

相双、いわき地区を中心に、児童生徒が安心して学校生活を送れるよう、震災加配教員を配置した。

第2章 教育行政

第1節 教育委員会

1 教育委員会

平成28年4月1日から新教育委員会制度に移行し、教育長及び5人の委員による体制となった。教育長職務代理者には、小野栄重委員が指名された。

職名	氏名	就任年月日	職業	備考
教育長	鈴木 淳一	平成28年 4月1日		福島市
委員 教育長職務代理者	小野 栄重	平成25年 12月24日 (2期目)	会社代表取締役	いわき市
委員	蜂須賀禮子	平成28年 10月19日 (2期目)	生花販売	大熊町
委員長	高橋 金一	平成23年 12月27日	弁護士	郡山市
委員	岩本 光正	平成28年 10月19日	会社取締役	会津若松市
委員	浅川なおみ	平成27年 4月1日	ピアノ教室主宰	白河市

2 審議事項

4月定例会(28.4.15)

- 審議事項
 - (1) 教職員の懲戒処分について
 - (2) 平成29年度福島県公立学校教員採用予定者数について
- 報告事項
 - (1) 平成28年度福島県立高等学校入学者選抜の結果について
 - (2) 平成28年度福島県立特別支援学校高等部入学者選抜の結果について
 - (3) 訓告処分等について

5月定例会(28.5.20)

- 審議事項
 - (1) 福島県教育委員会が取り扱う個人情報の保護に関する規則の一部を改正する規則について
 - (2) 福島県社会教育委員の任命について
 - (3) 福島県立博物館運営協議会委員の任免について
 - (4) 福島県いじめ問題対策委員会委員の任命について
 - (5) 福島県学校教育審議会委員の任命について

- (6) 福島県学校教育審議会への諮問について
- (7) 福島県立高等学校条例の一部を改正する条例案について
- (8) 教職員の懲戒処分について
- (9) 教職員の懲戒処分について

○ 報告事項

- (1) 平成29年度使用教科用図書の採択等に関する答申について
- (2) 訓告処分等について

6月定例会(28.6.10)

○ 審議事項

- (1) 平成29年度使用教科用図書調査研究資料について
- (2) 教育長臨時代理による処理事項の承認について
- (3) 工事請負契約案の作成について
- (4) 教職員の懲戒処分について
- (5) 懲戒処分取消等請求訴訟について

○ 報告事項

- (1) 訓告処分等について

7月定例会(28.7.15)

○ 審議事項

- (1) 福島県学校教育審議会委員の任免について
- (2) 教職員の懲戒処分について

○ 報告事項

- (1) 福島県教育庁事務職員の人事について
- (2) 訓告処分等について

8月定例会(28.8.19)

○ 審議事項

- (1) 平成29年度使用県立特別支援学校小学部・中学部の教科用図書の採択について
- (2) 平成28年度福島県指定重要文化財の指定に係る諮問について
- (3) 教職員の懲戒処分について
- (4) 教職員の懲戒処分について
- (5) 教職員の懲戒処分について
- (6) 教職員の懲戒処分について
- (7) 福島県公立学校教頭の人事について
- (8) 福島県教育庁事務職員の人事について

○ 報告事項

- (1) 訓告処分等について

9月定例会(28.9.9)

○ 審議事項

- (1) 平成29年度福島県立中学校入学者選抜について
- (2) 平成29年度福島県立高等学校入学者選抜について
- (3) 平成29年度福島県立特別支援学校高等部入学者選抜

について

- (4) 福島県教育委員会に係る福島県行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律施行条例施行規則の制定について
 - (5) 平成28年度9月補正予算案(教育委員会関係部分)について
 - (6) 平成28年度教育・文化関係表彰について
 - (7) 平成29年度福島県公立学校実習助手採用予定者数及び平成29年度福島県公立学校寄宿舎指導員採用予定者数について
 - (8) 福島県立特別支援学校条例の一部を改正する条例について
 - (9) 福島県市町村公立学校教頭の人事について
 - (10) 教職員の懲戒処分について
- 報告事項
- (1) 訓告処分等について

10月定例会(28.10.21)

- 審議事項
- (1) 技能労務職員の給与及び勤務時間等に関する規則の一部を改正する規則について
 - (2) 平成29年度福島県立学校生徒募集定員について
 - (3) 平成29年度使用県立高等学校の教科用図書の採択について
 - (4) 平成29年度使用県立特別支援学校高等部の教科用図書の採択について
 - (5) 平成28年度教育・文化関係表彰について
 - (6) 平成29年度人事異動方針及び各人事異動実施要項について
 - (7) 平成29年度福島県公立学校教員採用候補者選考試験について
 - (8) 福島県市町村公立学校長の人事について
 - (9) 教職員の懲戒処分について
 - (10) 教職員の懲戒処分について
 - (11) 教職員の懲戒処分について
- 報告事項
- (1) ふたば未来学園本設校舎建設に係る実施設計の概要について
 - (2) 訓告処分等について

11月定例会(28.11.25)

- 審議事項
- (1) 福島県市町村立学校職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例案について
 - (2) 福島県立特別支援学校条例の一部を改正する条例案について
 - (3) 平成28年度12月補正予算案(教育委員会関係部分)について
 - (4) 工事請負契約の一部を変更する契約案について
 - (5) 平成28年度中学生・高校生の国際理解・国際交流論

文朝河貫一賞の受賞者について

- (6) 平成28年度中学生・高校生の科学・技術研究論文野口英世賞の受賞者について
 - (7) 福島県学校教育審議会委員の任免について
 - (8) 教職員の懲戒処分について
 - (9) 教職員の懲戒処分について
 - (10) 教職員の懲戒処分について
 - (11) 教職員の懲戒処分について
 - (12) 教職員の懲戒処分について
 - (13) 教職員の懲戒処分について
 - (14) 教職員の懲戒処分について
 - (15) 教職員の懲戒処分について
 - (16) 退職手当の支給について
 - (17) 退職手当の支給について
- 報告事項
- (1) 訓告処分等について

12月定例会(28.12.16)

- 審議事項
- (1) 技能労務職員の給与及び勤務時間等に関する規則の一部を改正する規則について
 - (2) 福島県立美術館運営協議会委員の委嘱について
- 報告事項
- (1) 福島県学校教育審議会の中間まとめについて
 - (2) 訓告処分等について
 - (3) 控訴事件について

1月定例会(29.1.20)

- 審議事項
- (1) 平成27年度福島県教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検・評価結果について
 - (2) 教育職員の免許状に関する規則の一部を改正する規則について
 - (3) 教育長臨時代理による処理事項の承認について
 - (4) 福島県立特別支援学校学則の一部を改正する規則について
 - (5) 平成28年度教育・文化関係表彰について
 - (6) 平成28年度福島県指定天然記念物の追加指定に係る諮問について
 - (7) 福島県高等学校奨学資金貸与基金条例の一部を改正する条例案について
 - (8) 平成29年度福島県公立学校実習助手採用候補者選考試験の合格者について
 - (9) 平成29年度福島県公立学校寄宿舎指導員採用候補者選考試験の合格者について
- 報告事項
- (1) 訓告処分等について
 - (2) 平成29年度人事異動(教員系)について
 - (3) 和解案について

2月定例会(29.2.10)

○ 審議事項

- (1) 福島県立高等学校学則の一部を改正する規則について
- (2) 平成29年度当初予算案(教育委員会関係部分)について
- (3) 平成28年度2月補正予算案(教育委員会関係部分)について
- (4) 福島県教育関係職員定数条例等の一部を改正する条例案について
- (5) 福島県市町村立学校職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例案について
- (6) 福島県養護教育センター条例の一部を改正する条例案について
- (7) 指導不適切教諭等に関する措置について
- (8) 教職員の懲戒処分について

○ 報告事項

- (1) 訓告処分等について

2月臨時会(29.2.24)

○ 審議事項

- (1) 平成29年度教育庁及び教育機関の主要職員(教育系)の人事について
- (2) 平成29年度市町村公立小・中・特別支援学校長の人事について
- (3) 平成29年度市町村公立小・中・特別支援学校教頭の人事について
- (4) 平成29年度県立学校長の人事について
- (5) 平成29年度県立学校教頭の人事について

○ 報告事項

- (1) 福島県立高等学校入学者選抜検討会議からの報告について

3月定例会(29.3.21)

○ 審議事項

- (1) 「頑張る学校応援プラン」について
- (2) 第6次福島県総合教育計画「平成29年度アクションプラン」について
- (3) 福島県教育庁組織規則の一部を改正する規則について
- (4) 福島県養護教育センター組織規則の一部を改正する規則について
- (5) 福島県教育委員会文書等管理規則の一部を改正する規則について
- (6) 福島県立学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則について
- (7) 福島県教育委員会が保有する公文書の開示等に関する規則の一部を改正する規則について
- (8) 福島県教育委員会が取り扱う個人情報の保護に関する規則の一部を改正する規則について
- (9) 職員の給与等の決定の基準に関する規則の一部を改正する規則について

- (10) 技能労務職員の給与及び勤務時間等に関する規則の一部を改正する規則について

- (11) 平成28年度教育・文化関係表彰について
- (12) 福島県立博物館長の委嘱について
- (13) 福島県立博物館運営協議会委員の任命について
- (14) 福島県文化財保護審議会委員の任命について
- (15) 福島県指定重要文化財の指定について
- (16) 福島県指定天然記念物の部分指定解除及び追加指定について
- (17) 平成30年度使用教科用図書選定審議会委員の任命について
- (18) 平成29年度教育庁及び教育機関の職員の人事について
- (19) 平成29年度市町村公立小・中・特別支援学校職員の人事について
- (20) 平成29年度県立学校教職員の人事について
- (21) 教職員の懲戒処分について
- (22) 教職員の懲戒処分について
- (23) 教職員の懲戒処分について
- (24) 教職員の懲戒処分に関する基準について
- (25) 懲戒処分の公表基準について

○ 報告事項

- (1) 平成30年度福島県公立学校教員採用候補者選考試験の実施に係る改善点について
- (2) 訓告処分等について

第2節 教育庁組織

政策監 佐久間 弘元
 教育次長（業務） 大沼 博文
 教育庁参事（人事・企画） 熊田 孝

課室名	職名	課長等名
教育総務課	課長 庁主幹兼副課長 庁企画主幹兼副課長	高橋 洋平 奥寺 洋暁 郡司 完
財務課	課長 主幹兼副課長	高木 正弘 松本 勉
施設財産室	室長 主幹 副課長兼主任主査	坂内 健二 伊東 誠 舟山 真吾 (H28.7.1から)
職員課	参事兼課長 主幹兼副課長 主幹	力丸 忠博 鈴木 芳人 角田 禎雄
福利課	課長 主幹兼副課長	須藤 幹子 大槻 善行
社会教育課	参事兼課長 副課長兼主任主査 副課長兼主任主査 主幹	佐川 正人 遠藤 仁 舟山 真吾 (H28.6.30まで) 平久井 淳
文化財課	課長 主幹兼副課長 副課長兼専門文化財主査	千葉 勇二 芳賀 友則 木村 裕之
義務教育課	課長 主幹兼副課長 主幹 主幹	佐藤 秀美 東間 孝文 佐藤 浩哉 福地 裕之
高校教育課	課長 主幹兼副課長 主幹 主幹	阿部 武彦 永澤 英樹 平澤 洋介 佐藤 秀美
特別支援教育課	課長 主幹兼副課長	小檜山 宗浩 郷家 俊哉
健康教育課	庁参事兼課長 主幹兼副課長 主幹	塩田 正信 眞壁 勝 佐藤 文男
全国高校総体推進室	室長	鈴木 義祐

会津	次長(業) 武藤 誠 所長 星 克一 次長(総) 小檜山滋人 次長(業) 唐司 和彦	学校教育(兼) 武藤 誠 総務社会教育(兼) 小檜山滋人 学校教育(兼) 唐司 和彦
南会津	所長 渡辺 惣吾 次長(総) 佐々木孝一 次長(業) 馬場 俊忠	総務社会教育(兼) 佐々木孝一 学校教育(兼) 馬場 俊忠
相双	所長 木村 政文 次長(総) 芳賀 宏政 次長(業) 午來 勝頭	総務社会教育(兼) 芳賀 宏政 学校教育(兼) 午來 勝頭
いわき	所長 水野 達雄 次長(総) 白井 一章 次長(業) 西内 英理	総務社会教育(兼) 白井 一章 学校教育(兼) 西内 英理

所管教育機関等

教育機関名	所館長名	次長等名
福島県教育センター	渡辺 昇	次長(総務) 寫影 政弘 総務管理部長(兼) 寫影 政弘 研究・研修部長 味原 正美
福島県養護教育センター	須田 康仁	主幹兼事務長 鈴木 純 企画事業部長 橋本 淳一
福島県立図書館	五十嵐宏治	副館長 石幡 敦
福島県立美術館	早川 博明	副館長 佐藤 泰彦
福島県立博物館	赤坂 憲雄	副館長 山田 英一
郡山自然の家	長場 壮夫	次長 森谷 吉博
会津自然の家	永瀬 功一	主幹兼次長 佐藤 広威

教育事務所

教育事務所	所長・次長名	課長名
県北	所長 菊池 篤志 次長(総) 大竹 伸明 次長(業) 佐藤 則之	総務社会教育(兼) 大竹 伸明 学校教育(兼) 佐藤 則之
県中	所長 歌川 哲由 次長(総) 石井 一志 次長(業) 御代田進一	総務社会教育(兼) 石井 一志 学校教育(兼) 御代田進一
県南	所長 佐藤 晃 次長(総) 鎌田 忠夫	総務社会教育(兼) 鎌田 忠夫

第3節 企画調整

1 教職員現職教育計画の策定

(1) 福島県公立学校教職員現職教育計画

教職員現職教育担当者会議を開催し、平成28年度の教職員研修計画及び研究学校(地区)指定計画について、策定に関する協議や関係課・所間の調整を行い、「福島県公立学校教職員現職教育計画」を策定した。

(2) 策定計画

回	開催期日	会議の場所	議事及び協議の概要
第1回	27.6.3	自治会館 303会議室	<ul style="list-style-type: none"> ○平成28年度教職員現職教育計画作成日程について ○平成28年度教職員現職教育計画策定に向けた全体及び各課・所の検討事項について ○平成28年度教職員現職教育計画作成方針を踏まえ、関係課・所において、予算化等を見通した研修の改善及び新設、変更、廃止の案の検討について
第2回	27.8.28	西庁舎9階 教育委員室	<ul style="list-style-type: none"> ○第1回会議の確認事項について ○各課・所における予算化等を見通した具体的計画案について ○平成28年度教職員現職教育計画修正案作成の関係課・所への依頼について

(3) 構成員

教育総務課

企画主幹兼副課長、主任主査

社会教育課

主幹、主任社会教育主事、社会教育主事兼指導主事

義務教育課

課長、主幹、主任管理主事、主任指導主事、管理主事、指導主事

健康教育課

主幹、主任指導主事、主任栄養技師、指導主事

特別支援教育課

主幹兼副課長、主任指導主事、管理主事、指導主事

高校教育課

課長、主幹、主任管理主事、主任指導主事、管理主事、指導主事

教育センター

研究・研修部長、主任指導主事、指導主事

養護教育センター

企画事業部長、主任指導主事

2 調整事務

(1) 教育庁内企画・調整事務

- ア 総合教育計画に関する連絡調整
- イ 県教委重点施策に関する連絡調整
- ウ 県教委点検・評価に関する連絡調整
- エ 県重点事業に関する連絡調整
- オ 県重点施策評価に関する連絡調整
- カ 政府予算対策に関する連絡調整
- キ 双葉地区教育構想推進事業に関する連絡調整

(2) 知事部局との調整事務

- ア 総務部
 - 行財政改革推進本部
- イ 危機管理部
 - 風評・風化対策プロジェクトチーム、公立大学法人関係庁内連絡会議、安全で安心な県づくり推進庁内連絡会議、総合教育会議
- ウ 企画調整部
 - 県総合計画・復興計画関係、施策評価関係、県重点事業関係、政府予算対策活動関係、過疎・中山間地域経営戦略本部会議、エネルギー政策検討会、電子社会推進本部会議、政策調整会議、避難地域復興推進会議、新生ふくしま復興推進本部会議、地産地消推進会議、地域創生・人口減少対策本部会議、原子力損害対策協議会、復興対策推進プロジェクトチーム、渇水対策連絡会議、東京オリンピック・パラリンピック関連事業推進本部会議
- エ 生活環境部
 - ユニバーサルデザイン推進本部会議、青少年健全育成推進本部、環境影響評価庁内連絡会議、循環型社会形成庁内推進会議、景観形成推進庁内連絡会議、特定外来生物対応庁内連絡会議、野生鳥獣被害対策庁内連絡会議、男女共同参画推進本部会議、環境・エネルギー施策推進庁内連絡会議、ふくしま地球温暖化対策推進本部会議
- オ 保健福祉部
 - 子育て支援推進本部会議、高齢社会対策推進本部会議
- カ 商工労働部
 - 緊急経済・雇用対策本部会議、企業誘致・立地企業振興対策本部会議、商業まちづくり推進調整会議
- キ 農林水産部
 - ふくしま県産木材利用推進会議、ふくしまからはじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動
- ク 警察本部
 - 福島県被害者等支援連絡協議会

第4節 広報・広聴

1 教育委員会だより

(1) 編集方針

教育庁の新陣容や教育行政の諸領域の中から広報を要する事項及び教職員に周知させる必要のあるものを掲載し、教育委員会施策の徹底を図る。

(2) 内容

県教育委員会重点施策、県教育委員会所管予算、県教育庁組織改編の概要、県教育委員名簿・県教育庁新陣容、県教育庁の組織及び電話番号一覧

(3) 規格・部数

- ア 規格 A4判 4ページ
- イ 部数 4,000部

(4) 配布対象

市町村教育委員会、県内公立学校、私立団体連合会、各教育関係機関、北海道・東北各県教育委員会等

(5) 発行時期

4月に発行

2 教育年報

(1) 編集方針

平成28年度の県教育行政の成果を記録し、将来に残る公的記録として保存する。

(2) 内容

平成28年度の本県教育行政の実績

(3) 規格・部数

- ア 規格 A4判 319ページ
- イ 部数 150部

(4) 配布対象

市町村教育委員会、各教育関係機関

3 福島県の教育

(1) 編集方針

本県教育の実績と教育行政の要点を図式化して掲載し、教育庁への来訪者等に配布し、本県教育に対する理解を図る。

(2) 内容

本県教育の実情及び教育行政の要点

(3) 規格・部数

- ア 規格 A4判 8ページ カラー
- イ 部数 1,000部

(4) 配布対象

教育機関への来訪者、市町村教育委員会、県内公立学校、各教育関係機関、各都道府県教育委員会等

4 ふくしま教育ニュース

(1) 編集方針

県教育委員会の教育行政施策、実績等を県民、特に保護者を対象として伝えることにより、本県教育に対する理解を図る。7月・3月の年2回発行した。

(2) 内容

ア 第46号（7月発行）

福島県立小高産業高等学校開校
ふくしまの未来を医療で担う夢応援事業
インターハイ選手特別強化事業・指定証交付式
福島県算数・数学ジュニアオリンピック2016
放課後子ども教室推進事業・学校支援地域本部事業
宇宙教育フォーラム・研修会
特別支援学校作業技能大会
夏休みの主なコンテスト等
相談窓口の案内

イ 第47号（3月発行）

子どもたちが安心して学べる環境づくりを目指して
頑張る学校応援プラン（特集）
～ふくしまの挑戦と戦略～
「頑張る学校応援プラン」Q&A

(3) 規格・部数

- ア 規格 A4判 4ページ カラー
- イ 部数 各号 255,000部

(4) 配布対象

県内公立学校の全保護者、県外に避難している児童生徒の保護者、私立幼稚園及び小・中・高等学校、市町村教育委員会、各教育関係機関等

5 教育庁各課・所・館の広報誌・紙

課・所・館名	広報誌・紙名	内 容	発行回数	判	ページ	発行部数	配 布 対 象
教育総務課	福 島 県 の 教 育	本県教育の実情及び教育行政の要点を図式化して表示	1	A 4	8	1,000	教育機関への来訪者、教育関係機関等
	教育委員会だより	県教育長あいさつ、教育施策及び予算、県教育委員名簿、県教育庁新陣容、組織及び電話番号	1	A 4	4	4,000	県内公立学校、私学団体連合会、教育関係機関等
	教 育 年 報	前年度の県教育行政の実績	1	A 4	319	150	市町村教委、教育関係機関等
	ふ く し ま 教 育 ニ ュ ー ス	県教育委員会の教育行政施策、実績、事業のお知らせ等	2	A 4	4	各255,000	県内公立学校の全保護者・教職員、教育関係機関等
福 利 課	ふ く し ま り 福 利 だ よ り	教職員の福利・厚生事業の紹介等	4	A 4	20 16 12	20,500	全教職員 (6月) (9月) (12月、3月)
社会教育課	社 会 教 育	社会教育に関する情報、活動状況の取りまとめ	1	A 4	12	—	webに掲載
健康教育課	29南東北インターハイ NEWS	インターハイ関連広報	1 3	A 4	3~4	—	webに掲載
	福島県版ポスターリーフレット		1 1	B 2 A 4		1,500 5,000	会場市町、学校、関係機関、カウントダウンイベント等
教育センター	要 覧	教育センターについての沿革、設置の趣旨、組織、予算、事業内容を掲載	1	A 4	20	160	学校、関係機関
	所報ふくしま「窓」	教育関係者の提言や県内教員の教育研究等についての紹介及び教育センターからの案内	2	A 4	8	—	webに掲載
	研 究 紀 要	研究の成果をとりまとめて刊行し、本県学校教育の向上に資する。	1	A 4	80	1,000	学校、関係機関
	長 期 研 究 員 個人研究報告書	長期研究員の個人研究の成果をとりまとめた報告書	1	A 4	156	140	関係機関
養護教育センター	リーフレット	事業内容・研修講座名等	1	A 5	4	100	来所者、webに掲載
	所報特別支援教育	センターの取組や国内外の教育動向等	1	A 4	26	200	関係機関
	要 覧	沿革、事業体系、事業概要、施設・設備	1	A 4	16	50	関係機関
	研 究 紀 要	調査研究・教育研究及び授業研究支援の成果報告	1	A 4	50	80	関係機関 webに掲載

課・所・館名	広報誌・紙名	内 容	発行回数	判	ページ	発行部数	配 付 対 象
図 書 館	館 報 あ づ ま	図書館業務の広報	1	A 4	6	1,000	図書館・関係機関
	福島県立図書館要覧	県立図書館の概況	1	A 4	22	—	webに掲載
美 術 館	美術館ニュース ART INFORMATION	企画展・普及事業等の案内	6	A 4 三折		各11,000	関係機関、来館者等
	ミュージアム カレンダー	年間事業紹介	1	B 5		35,000	〃
博 物 館	県立博物館年報	前年度の事業実績	1	A 4	85	400	関係機関
	月行事予定表	月行事予定	12	A 4	1	各1,400	〃
	博物館だより	行事予定、企画展案内、講演要旨等	4	A 4	8	各3,500	学校、関係機関
	はくぶつかん ニュース	月毎の博物館行事予定及び博物館にかかわるニュース	12	A 4	2	各12,600	〃
	企画展ポスター・ リーフレット	企画展2回分・特別展1回分紹介	3	ポスターB2 リーフレット A4		8,500 120,000	学校、関係機関 関係機関、来館者など
	年間催し物案内	主催行事などの紹介	1	200×394 四折		45,000	関係機関、来館者など
自 然 の 家	利 用 案 内 (いわき)	施設概要、利用方法等	1	A 4	32	500	関係機関
	し お ね (いわき)	企画事業内容、実施期日、対象等	1	A 4	8	2,000	関係機関
	リーフレット (いわき)	施設概要、全体図等	1	A 3	1	1,000	関係機関
	企画事業案内 (郡 山)	企画事業内容、実施期日、対象等	1	A 4	1	—	w e b に掲載
	会津自然の家だより (会 津)	企画事業内容、実施期日、対象等	1	A 4	2	—	w e b に掲載
文セ白 化ン河 財タ館 	年 報	沿革、事業の概要、入館者統計、予算等	1	A 4	28	500	関係機関
	まほろん通信	イベントの内容、体験学習の案内等	4	A 4	4	各4,000	関係機関、利用者等
	研 究 紀 要	学芸員の調査、研究成果の報告	1	A 4	72	500	関係機関

6 記者発表及び資料提供(投げ込み)件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
記者発表	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	1	3
資料提供	24	20	18	28	24	22	36	43	27	34	29	32	337

阿部 武彦(高校教育課長)
 小檜山宗浩(特別支援教育課長)
 鈴木 義祐(全国高校総体推進室長)
 水野 達雄(いわき教育事務所長)

(エ)参加者 約200名

7 教育フォーラム

(1) 目的

県民各層との対話をとおして、多様化している県民の意向を積極的かつ多角的に把握し、県民と一体となった開かれた教育を推進するために実施した。

今年度は、「文化活動と表現」をテーマとし、表現・発信・構成を課題としていくことで、本県における情報教育の一助とし、基調講演のほかに、これからの活躍が期待される本県の中学生、高校生、大学生、一般の代表が、情報化社会を生き抜くための意見発表をすることにより、本県の教育活動を発信する機会とする。あわせて、浜通りで活躍する中・高校生の文化活動への取組を広く紹介した。

(2) テーマ

「今、伝えたい・想いをかたちにする喜びを」

(3) 内容

ア 開催形態

意見発表・意見交換・独唱及び合唱披露
 メッセージ発表

イ 会場

福島県立橋高等学校

ウ 開催日時

平成28年11月6日(日)

「ふくしま教育週間」13:00～15:50

エ 出席者

(ア) 意見発表者

いわき市立藤間中学校3年 鈴木 雅大
 いわき市立勿来第一中学校3年 大平 茉奈
 県立平商業高等学校2年 渡辺 真由
 いわき明星大学教養学部2年 滝本 航太
 いわき総合高等学校教諭 齋藤夏菜子

(イ) 復興応援パフォーマンス

県立磐城桜が丘高等学校 箏曲部
 県立平商業高等学校フラダンス愛好会

(ウ) 福島県教育委員会

高橋 金一(県教育委員会委員)
 蜂須賀禮子(県教育委員会委員)
 小野 栄重(県教育委員会委員)
 浅川なおみ(県教育委員会委員)
 鈴木 淳一(県教育委員会教育長)
 佐久間弘元(政策監)
 大沼 博文(教育次長)
 熊田 孝(教育庁参事)
 高橋 洋平(教育総務課長)
 佐藤 秀美(義務教育課長)

8 平成28年度「ふくしま教育の日」啓発推進事業

県民の教育に対する理解、関心を高め、学校教育、社会教育及び文化の充実、発展を期するため、平成15年3月にふくしま教育の日条例を制定し、ふくしま教育の日(11月1日)及びふくしま教育週間(11月1日～7日)を設けている。当該期間を含むその前後の期間において「教育の日」の趣旨にふさわしい取組が実施されるよう、市町村や関係機関に働きかけた。さらに、今年度は「ふくしま教育の日」に教育フォーラムを実施し、普及啓発を図った。

9 「県庁に みんなの声を 届けよう！」プロジェクト

子どもたちに県庁を見学する機会を提供することにより、職業や社会への理解を深めてもらう機会とした。

また、この取組を広報することにより、県民に対して復興をアピールする機会とするため、子どもたちに福島県の復興のためにできることを話し合ってもらい、その考えや意見を知事に届ける活動を行うことで、復興に向けた県の取組を理解してもらおうとともに、子どもたちを勇気づけ、生きる力を涵養することも目的とした。

(1) 日時 平成28年8月8日(月) 9:00～15:00

(2) 参観者 小学生とその保護者など計48人

(3) 内容 ア 県庁見学(議場・河川流域総合情報システム室・通信司令室)

イ 教育庁見学

ウ 知事及び教育委員の前で提言を発表

第5節 調査統計

平成28年度において実施した調査統計事業は、次のとおりである。

1 学校統計要覧

平成28年5月1日現在で調査した「学校基本調査」（指定統計13号）の調査結果及び県独自に実施している進路状況等に関する調査結果に基づき、学校数、児童生徒数、教職員等の基本的事項や県内の中学生・高校生の進路状況等を収録した「学校統計要覧」を作成し、県教委ホームページで公開した。

2 地方教育費調査（一般統計）

この調査は、平成27会計年度において、学校教育、社会教育、生涯学習関連及び教育行政における県及び市町村（教育事務組合を含む。）から支出された経費並びに授業料等の収入の実態及び地方教育行政機関の組織等の状況を明らかにし、教育諸施策を検討・立案するための基礎資料を得ることを目的として文部科学省が実施したものである。

3 学校教員統計調査（基幹統計）

この調査は、学校の教員構成並びに教員の個人属性、職務様態及び異動状況等を明らかにすることを目的に文部科学省が実施したものである。

4 子供の学習費調査（一般統計）

この調査は、子どもを公立または私立の学校に通わせている保護者が、子どもの学校教育及び学校外活動のために支出した経費並びに世帯の年間収入の実態をとらえることを目的に文部科学省が実施したものである。

5 進路状況等に関する調査

この調査は、中学校・高等学校生徒の進路希望及び卒業後の状況を調査し、進路指導及び高等学校の適正配置計画並びに課程・学科等の整備計画の基礎資料を得ることを目的とした県単独調査である。

第6節 教職員の給与

平成28年度の教職員の給与改定については、平成28年10月7日の県人事委員会給与勧告に基づき、給料月額及び諸手当について、平成28年12月県議会において、給与条例等の一部改正が提案され、議決・公布された。その概要は、次のとおりである。

1 給料関係

(1) 給料月額（平成28年4月1日適用）

全ての給料表において、若年層に重点を置いて給料月額が引き上げられた。

(2) 給料の調整額（平成28年4月1日適用）

給料月額の改定に伴い、一部の調整基本額が改められた。

(3) 昇格時号給対応表（平成28年4月1日適用）

給料表の改定に伴い、昇格時号給対応表の一部が改められた。

2 扶養手当（平成29年4月1日適用）

配偶者、子及び配偶者がいない場合の手当額が次のとおり改められた。

区分	手当額
配偶者	10,000円
子	各 8,000円
職員に配偶者がいない場合、そのうち1人目	10,000円
特定期間にある子の加算額	各 5,000円
父母等	各 6,500円
職員に配偶者及び子がいない場合、そのうち1人目	9,000円

3 通勤手当（平成29年4月1日適用）

自動車等交通用具使用者の手当額が次のとおり改められたこと。

片道の 自動車等の 使用距離	手当額	
	自動車	自動車以外の原動機付きの交通用具
2km以上 4km未満	2,200円	2,000円
4km以上 6km未満	3,300円	2,000円
6km以上 8km未満	4,500円	2,300円
8km以上 10km未満	5,600円	2,800円
10km以上 12km未満	6,700円	3,400円
12km以上 14km未満	7,800円	3,900円
14km以上 16km未満	8,900円	4,500円
16km以上 18km未満	10,100円	5,100円
18km以上 20km未満	11,200円	5,600円
20km以上 22km未満	12,300円	6,200円
22km以上 24km未満	13,400円	6,700円
24km以上 26km未満	14,500円	7,300円
26km以上 28km未満	15,600円	7,800円
28km以上 30km未満	16,800円	8,400円
30km以上 32km未満	17,900円	9,000円
32km以上 34km未満	19,000円	9,500円
34km以上 36km未満	20,100円	10,100円

36km以上 38km未満	21,200円	10,600円
38km以上 40km未満	22,400円	11,200円
40km以上 45km未満	24,800円	12,400円
45km以上 50km未満	27,200円	13,600円
50km以上 55km未満	29,500円	14,800円
55km以上 60km未満	31,600円	15,800円
60km以上 65km未満	33,200円	16,600円
65km以上 70km未満	35,700円	17,900円
70km以上 75km未満	38,300円	19,200円
75km以上 80km未満	40,800円	20,400円
80km以上	43,400円	21,700円

4 期末・勤勉手当（平成28年12月1日適用）

支給割合が次のとおり改められたこと。

◎一般職員

	区分	6月期	12月期	年間支給割合	
改正前	期末手当	1.225ヶ月	1.325ヶ月	2.55ヶ月	計
	勤勉手当	0.75ヶ月	0.85ヶ月	1.60ヶ月	4.15ヶ月
改正後 (28年度)	期末手当	1.225ヶ月	1.325ヶ月	2.55ヶ月	計
	勤勉手当	0.80ヶ月	0.90ヶ月	1.70ヶ月	4.25ヶ月
(29年度)	期末手当	1.225ヶ月	1.325ヶ月	2.55ヶ月	計
	勤勉手当	0.85ヶ月	0.85ヶ月	1.70ヶ月	4.25ヶ月

◎特定幹部職員

	区分	6月期	12月期	年間支給割合	
改正前	期末手当	1.025ヶ月	1.125ヶ月	2.15ヶ月	計
	勤勉手当	0.95ヶ月	1.05ヶ月	2.00ヶ月	4.15ヶ月
改正後 (28年度)	期末手当	1.025ヶ月	1.125ヶ月	2.15ヶ月	計
	勤勉手当	1.00ヶ月	1.10ヶ月	2.10ヶ月	4.25ヶ月
(29年度)	期末手当	1.025ヶ月	1.125ヶ月	2.15ヶ月	計
	勤勉手当	1.05ヶ月	1.05ヶ月	2.10ヶ月	4.25ヶ月

第7節 附属機関等

1 福島県学校教育審議会

根拠法令

福島県学校教育審議会条例（昭和41年福島県条例第42号）

目的

- ・教育委員会の諮問に応じ、学校教育の振興についての総合計画に関する事項及び学校教育についての基本的な重要施策に関する事項について調査審議する。
- ・学校教育に関する事項について、必要があると認めるときは、教育委員会に対し、意見を申し出る。

(1) 審議状況

震災から5年が経過し、復興を担う人材の育成や中山間地域の「核」としての役割など、社会が高等学校に求めるものが変化しつつあることを踏まえ、県立高等学校の在り方を検討するため、平成28年5月26日に「社会の変化に対応した県立高等学校の在り方について」諮問をした。

(2) 諮問の主な内容

- ① 本県高等学校教育の在り方
- ② 適切な学校の規模、学校・学科の配置
- ③ 過疎・中山間地域の教育環境の在り方
- ④ 多様な学習内容の確保及び教育の質の向上

(3) 審議の経緯

○第1回審議会（H28.5/26） ●**諮問**

・アンケート調査実施

・学校訪問〈3地方7校〉

- 〔7/6 中通り（長沼、郡山商、橘）
- 〔7/8 浜通り（四倉、ふたば未来）
- 〔7/12 会津地方（田島、会津学鳳）

・第1回部会（7/21）

○第2回審議会（8/24）

・第2回部会（9/23）

・第3回部会（10/28）

○第3回審議会（12/1）

●**中間まとめ公表（12/16）** 教育委員会定例会に報告

・教育公聴会〈県内7地区〉

（H29.1/11県中、1/19相双、1/21県南、1/25いわき、1/28南会津、2/1県北、2/3会津）

・総合教育会議で報告（2/10）

・第4回部会（2/16）

(4) 委員

平成28年5月20日の定例教育委員会で委員19名が決定。（公募委員1名を含む。）任期は、平成28年5月20日～平成30年5月19日。

※ 議論をより深めるため、上記のうち会長が指名した9名の委員で構成する「部会」を設けた。

(5) 福島県学校教育審議会委員

	氏名	役職名	備考
学識経験を有する者	伊藤 信弘	福島商工会議所常議員、株式会社いちい代表取締役社長	
	小沢 喜仁	福島大学理事・副学長 統括学系長、地域創造支援センター長	会長・部会長
	川上 雅則	福島県農業協同組合中央会常務理事	
	菅野 誠	福島県高等学校長協会会長、福島高等学校	
	菊池 克彦	福島民友新聞社編集局長	H28. 7. 16～
	菅野 篤	〃	H28. 5. 20～H28. 7. 15
	菊池 真弓	いわき明星大学教養学部教授	
	早川 正也	福島民報社編集局長	
	佐治 和則	会津美里町教育委員会教育長	
	佐藤 浩子	福島県中学校長会広報部長、福島市立西根中学校長	
	杉内 亜希	前一般社団法人原町青年会議所直前理事長	
	鈴木 茂	日本労働組合総連合会福島県連合会副事務局長	H28. 11. 26～
	澤田 精一	〃	H28. 5. 20～H28. 11. 25
	錫谷 和子	元福島市学校給食センター運営委員	
	橋 文紀	福島県PTA連合会、郡山市PTA連合会会長	副会長
市町村長	中山 美華	南会津町教育委員会委員、 放課後こども教室げんき山クラブコーディネーター	
	森 涼	福島県私立中学高等学校協会会長、 学校法人石川義塾理事長、石川義塾中学校・学校法人石川高等学校校長	
	吉田 尚	いわき市教育委員会教育長	
	和合アヤ子	福島商工会議所副会頭、福島県住宅生活協同組合代表理事	
	立谷 秀清	福島県市長会会長、相馬市長	
	加藤 憲郎	福島県町村会会長、新地町長	

2 福島県社会教育委員の会議

根拠法令

社会教育法（昭和24年法律第207号）第15条並びに福島県社会教育委員の委嘱の基準、定数及び任期に関する条例（昭和24年福島県条例第56条）

目的

社会教育に関する諸計画を立案するとともに教育委員会の諮問に応じ、意見を述べたり必要な研究調査を行ったりし、社会教育に関して教育長を経て教育委員会に助言する。

(1) 福島県社会教育委員

任期 平成28年6月20日～平成30年6月19日

区分	氏名	役職名	備考
学校教育関係者	高橋 澄子	小学校長会（新地町立駒ヶ嶺小学校長）	新任
	香内 一宏	中学校長会（福島市立福島第三中学校長）	新任
	吉田 豊彦	高等学校長会（福島県立福島東高等学校長）	新任
社会教育関係団体の関係者	堀 金 靖	福島県公民館連絡協議会会長	副議長・新任
	阿部 君江	福島県市町村社会教育委員連絡協議会理事	新任
	菊地 真弓	福島県PTA連合会母親代表理事	新任
	石川 美知	福島県婦人団体連合会評議員	新任
	山本 フミ子	ガールスカウト福島県連盟長	新任
	齋藤 雄一郎	福島県商工会連合会	新任
家庭教育関係者	清水 国明	NPO法人明日飛子ども自立の里理事長	新任
	星 尚子	福島県家庭教育インストラクター連絡協議会理事	
学識関係者	木暮 照正	福島大学地域創造支援センター副センター長・准教授	議長・新任
	前川 直哉	桜の聖母短期大学兼任講師	新任

	本 多 環	福島大学うつくしまふくしま未来支援センター特任教授	新任
公 募	佐 藤 房 枝	農業	
	大 友 靖 子	主婦	新任

(2) 定例会の開催

ア 第1回定例会

- (ア) 日時 平成28年7月25日(月)
 (イ) 場所 県庁西庁舎9階 教育委員室
 (ウ) 内容

- a 報告事項
 平成28年度社会教育に関する主要施策・事業の概要について
 b 審議事項
 本県における社会教育推進のあり方について

イ 第2回定例会

- (ア) 日時 平成29年2月17日(金)
 (イ) 場所 杉妻会館
 (ウ) 内容
 a 報告事項
 平成28年度社会教育関係事業報告について
 平成29年度社会教育関係主要施策・事業(案)について
 b 審議事項
 福島県社会教育委員の会議「提言」について

3 福島県文化財保護審議会

(1) 福島県文化財保護審議会委員

任期 平成27年4月1日~平成29年3月31日

氏名	所属等	担当分野	備考
阿部 俊夫	元郡山女子大学短期大学部准教授	古文書、歴史資料	
泉 武夫	東北大学大学院教授	絵画	
伊藤 喜良	福島大学名誉教授・日本経済大学非常勤講師・歴史学研究会・東北史学会	古文書(中世)・書跡・典籍	会長
永広 昌之	東北大学総合博物館・東北大学名誉教授・日本地質学会・日本古生物学会	天然記念物(地質鉱物、古生物)	
荒木 志伸	山形大学基盤教育院准教授	史跡・考古資料・埋蔵文化財	
懸田 弘訓	会津大学非常勤講師・民俗芸能学会・福島県民俗学会・日本民俗音楽学会	有・無形民俗文化財	副会長
狩野 勝重	元日本大学教授・工学博士・日本建築学会・伝統建築文化推進協議会	建造物・伝統的建造物群	
鈴木 俊行	(公財)福島県都市公園・緑化協会・樹木医学会・日本造園学会・日本桜学会	天然記念物(植物)	
竹原 明秀	岩手大学教授・日本生態学会・植生学会・日本植物学会	天然記念物(植生)	
田辺 真弓	郡山女子大学短期大学部教授・服装美学会・国際服飾学会	工芸品・染織	
辻 秀人	東北学院大学教授・日本考古学協会・福島県考古学会・全日本博物館協会	考古資料・史跡・埋蔵文化財	
塘 忠顕	福島大学教授・日本動物学会・日本昆虫学会・日本発生生物学会	天然記念物(動物)	
藤井 英二郎	千葉大学名誉教授・日本庭園学会・日本造園学会	史跡・名勝地(庭園)	
守谷 早苗	福島市史編纂室(嘱託員)・東北史学会・国史談話会	歴史資料	
若林 繁	東京家政大学教授・美術史学会	彫刻	

(2) 会議

ア 第1回審議会

- (ア) 期日 平成28年9月4日(月)
 (イ) 場所 福島県庁本庁舎3階 総務委員会室
 (ウ) 内容
 a 福島県指定文化財候補等の審議

イ 第2回審議会

- (ア) 期日 平成29年2月2日(木)
 (イ) 場所 福島県庁本庁舎3階 総務委員会室
 (ウ) 内容
 a 福島県指定文化財候補等の審議
 b 新たな県指定文化財の候補について

第8節 市町村教育委員会

1 概要

本県の市町村教育委員会数は、平成28年5月1日現在、13市46町村1組合の計60である。

県教育委員会は、市町村教育委員会連絡協議会、都市教育長協議会、町村教育長協議会等との密接な連絡、連携のもとに、教育行政の適正な事務の執行と管理に努めている。

2 組織

平成28年5月1日現在、県内各市町村教育委員会の委員長及び教育長は次のとおりである。

教育委員会名	委員長・職務代理者	教育長
県北(8)		
福島市	中村 恵子	本間 稔
伊達郡川俣町	佐藤 捷善	神田 紀
伊達市	高野 保夫	湯田 健一
伊達郡桑折町	柴田 宣広	会田 智康
伊達郡国見町	高橋 幸子	岡崎 忠昭
二本松市	宮前 貢	小泉 裕明
安達郡大玉村	伊藤 忠和	佐藤 吉郎
本宮市	谷 明子	原瀬久美子
県中(12)		
郡山市	阿部 晃造	小野 義明
須賀川市	深谷 敬一	柳沼 直三
岩瀬郡鏡石町	塩田 重男	高原孝一郎
岩瀬郡天栄村	清水 栄一	増子 清一
石川郡石川町	高原 一紀	田口 和憲
石川郡玉川村	大木 孝行	富岡ケイ子
石川郡平田村	久保木日出子	吾妻 幹廣
石川郡浅川町	緑川 貴司	内田 賢壽
石川郡古殿町	鈴木 〃	矢吹 伸一
田村市	吉田 忠晴	助川 弘道
田村郡三春町	武地 優子	遠藤 真弘
田村郡小野町	大千里義市	西牧 裕司
県南(9)		
白河市	藤田 克彦	星 浩次
西白河郡西郷村	小菅 秀雄	鈴木 且雪
西白河郡中島村	水野谷剛夫	佐藤 正敏
西白河郡矢吹町	水戸 勘十	栗林 正樹
西白河郡泉崎村	中畑 満	杉田久美子
東白川郡棚倉町	益子 秀一	松本 市郎
東白川郡塙町	金澤 誠治	欠 員
東白川郡矢祭町	・野 宗和	古張 金一
東白川郡鮫川村	水野 春雄	奥貫 洋
会津(13)		
会津若松市	一ノ瀬美枝	本田 樹
耶麻郡磐梯町	宮森 優治	田中 靖則
耶麻郡猪苗代町	二瓶 和夫	土屋 重憲

教育委員会名	委員長・職務代理者	教育長
喜多方市	関口 高志	芳賀 忠夫
耶麻郡北塩原村	斎藤 弘幸	鈴木 力雄
耶麻郡西会津町	五十嵐長孝	新井田 大
河沼郡会津坂下町	斎藤志津子	佐藤 玄
河沼郡湯川村	伊藤 幸喜	星 三千男
河沼郡柳津町	新井田順一	目黒健一郎
大沼郡会津美里町	猪俣 一徳	佐治 和則
大沼郡三島町	阿部 和彦	坂内 洋二
大沼郡金山町	山口 京子	滝沢 敬樹
大沼郡昭和村	五十嵐喜久男	本名 幸平

南会津(5)

南会津郡南会津町	渡部 謙一	星 英雄
南会津郡下郷町	白石 光史	渡部 岩男
南会津郡檜枝岐村	星 尚子	平野 信之
南会津郡只見町	角田 行雄	齋藤 修一
南会津郡地方広域市町村圏組合	渡部 岩男	星 英雄

相双(12)

相馬郡新地町	加藤 潤一	佐々木孝司
相馬市	宗形 明子	堀川 利夫
南相馬市	大石 力彌	阿部 貞康
相馬郡飯舘村	佐藤 眞弘	中井田 榮
双葉郡浪江町	今野 秀則	畠山熙一郎
双葉郡葛尾村	東海林幸敏	猪狩 省造
双葉郡双葉町	岡村 隆夫	半谷 淳
双葉郡大熊町	嶋貫 光喜	武内 敏英
双葉郡富岡町	関本 征司	石井 賢一
双葉郡川内村	遠藤 眞一	秋元 正
双葉郡檜葉町	渡邊 司	矢内賢太郎
双葉郡広野町	根本 修行	浅野 一

いわき(1)

いわき市	馬目 順一	吉田 尚
------	-------	------

3 平成28年度市町村教育委員会援助指導の概要

県教育委員会は、市町村教育委員会教育長会議、新任教育委員研修会を開催して助言指導を行うとともに、教育行政関係の諸資料等を配布して県内市町村教育委員会への援助に努めた。

(1) 平成28年度福島県市町村教育委員会教育長会議

- ア 主催 福島県教育委員会
- イ 期日 平成28年4月11日(月)
- ウ 会場 西庁舎12階 講堂
- エ 出席者 市町村教育委員会教育長 59名
- オ 内容
平成28年度教育庁各課(室)・所の重点施策の説明

(2) 平成28年度福島県市町村教育委員会新任教育委員研修会

- ア 主催
福島県市町村教育委員会連絡協議会
福島県教育委員会

- イ 期日
平成28年11月16日（水）
- ウ 会場
本庁舎5階 正庁
- エ 参加者
平成27年11月19日から平成28年9月30日の間に任命された委員及び、それ以前に就任し未参加の委員 37名
- オ 内容
 - 講話
 - ・演題 「教育委員に期待するもの」
 - ・講師 福島県教育委員会教育長 鈴木 淳一
 - 講話
 - ・演題 「教育委員会の運営はいかにあるべきか」
 - ・講師 福島県市町村教育委員会連絡協議会副会長 藤田 克彦
 - 講義
 - ・演題 「教育委員会の組織と運営について」
 - ・講師 福島県教育庁職員課管理主事 遠藤 裕一

- ク 労働安全衛生法について
- ケ 休暇制度について
- コ 校舎移転作業について
- サ 学力テストについて
- シ アンケート調査について
- ス 多忙化解消について

2 福島県高等学校教職員組合

- (1) 平成28年4月27日
 - ア 耐震改修工事について
 - イ サテライト校等について
 - ウ 高等学校再編計画について
 - エ 教育の振興充実について
 - オ 養護教諭等の配置について
 - カ 特別支援の教室不足等について
 - キ 教員給与等について
 - ク 人事評価制度について
 - ケ 旅費需用費等について
 - コ 各種手当について
 - サ 実習教員の部活動引率について
 - シ 多忙化解消について
 - ス 休暇等について

- (2) 平成28年11月7日
 - ア 人事委員会勧告について
 - イ 諸手当について
 - ウ 人事評価制度について
 - エ 実習教員の部活動について
 - オ サテライト校関係について
 - カ 学校再編計画について

- (3) 平成28年11月24日
 - ア 教職員の採用について
 - イ 学校の統廃合について
 - ウ 養護教諭等の配置について
 - エ 特別支援教育について
 - オ 需用費の増額について
 - カ 業務のICT化関係について
 - キ 多忙化解消について
 - ク 人事評価制度について

3 福島県立高等学校教職員組合

- (1) 平成28年4月27日
 - ア 賃金諸手当の改善について
 - イ 社会保険について
 - ウ 勤務時間の割振り変更について
 - エ 育児短時間勤務について
 - オ 人事異動について
 - カ 教職員の高齢期雇用について
 - キ サテライト校の教育環境について
 - ク 高速道路利用代金について
 - ケ 人事評価制度について
 - コ 長時間勤務の解消について
- (2) 平成28年11月7日
 - ア 人事評価制度と給与への反映について
 - イ 学校施設の修繕費について
 - ウ 在校時間調査について

第9節 職員団体との話合い

平成28年度における「福島県教職員組合」「福島県高等学校教職員組合」「福島県立高等学校教職員組合」「福島県学校事務労働組合」との話合いのうち、主なものは次のとおりである。

1 福島県教職員組合

- (1) 平成28年4月26日
 - ア 多忙化解消について
 - イ 自分手帳について
 - ウ 在勤時間把握について
 - エ 賃金について
 - オ 臨時的任用職員の処遇改善について
 - カ 主任主査への昇任について
 - キ 人事評価制度について
 - ク 震災加配について
 - ケ 相双地区の住宅問題について
 - コ 休暇制度について
 - サ ハラスメント関係について
 - シ プールの除染関係について
 - ス 再任用職員について
- (2) 平成28年11月4日
 - ア 人事委員会勧告等について
 - イ 人事評価の給与反映について
 - ウ 学校事務職員の号給の逆転現象の改善について
 - エ 人事評価制度の説明会について
- (3) 平成28年11月22日
 - ア 人事委員会勧告等について
 - イ 人事評価の給与反映について
 - ウ 事務職員の55歳昇給停止について
 - エ 時間講師の処遇改善について
 - オ 再任用関係について
 - カ 被災地域の住宅確保について
 - キ 教頭の休業対応について

エ 土日の部活動について

オ 週休日の振替について

(3) 平成28年11月24日

ア 冒頭回答について

イ 長時間労働関係について

ウ 再任用特別支援教育について

エ 校地の除染について

4 福島県学校事務労働組合

(1) 平成28年4月26日

ア 主任主査について

イ 学校事務の共同連携について

ウ 在職者調整の救済措置について

エ 主任・副主査の昇任について

オ 号給増設による影響について

カ 人事評価制度について

キ 再任用職員の雇用保険について

ク 臨時的任用職員経験者の採用について

ケ 週休日の振替について

(2) 平成28年11月4日

ア 人事委員会勧告関係について

イ 人事評価制度関係について

ウ 学校事務職員の賃金制度について

エ 学校事務の共同連携について

(3) 平成28年11月22日

ア 人事委員会勧告関係について

イ 学校事務職員の賃金制度について

ウ 永年勤続表彰の不利益について

エ 土曜授業時の週休振替について

オ 臨時的任用講師の勤務日について

カ 旅費事務について

キ 有給休暇の取得方法の周知について

ク マイナンバー制度について

第10節 不利益処分審査請求事件及び損害賠償請求事件

1 不利益処分審査請求事件

平成29年3月31日現在、県人事委員会に不利益処分審査請求事件として係属中のものはない。

2 損害賠償請求事件

平成29年3月31日現在、裁判所損害賠償等請求等事件として係属中のものは4件であり、その概要及び進行状況等は下表のとおりである。

請求事件名	請求年月日	請求の内容	請求者	備考
懲戒処分取消等請求事件	平26. 4. 4	平24. 6. 15付懲戒処分等についてその取消を請求	元県立高等学校 教員	係属中
安全な場所で教育を受ける 権利の確認等請求事件	平26. 8. 29 平27. 1. 14 平28. 5. 10	安全な場所で教育を受けることができる権利の 確認等	県内住民 多数	係属中
損害賠償請求事件	平27. 9. 28	退学処分とされた事等に対する慰謝料等の請求	元県立高等学校 生徒	係属中
停職処分取消請求事件	平28. 7. 20	平26. 10. 17付停職処分についてその取消を請求	元市町村立小学校 教員	係属中

第11節 公益法人等の指導等並びに 公益信託の状況

1 公益法人等

平成29年3月31日現在、県教育委員会の所管に属する公益法人等は54法人である。

各法人から事業報告書・収支決算書、事業計画書、収支予算書等の提出を求めた。

法人ごとの内訳は下表のとおり。

法人種別	所管する 法人数	平成28年度に公益法人又は 一般法人に移行した法人数
公益財団法人	25	0
公益社団法人	2	0
一般財団法人	20	0
一般社団法人	5	0
特例民法法人	2	—
解散した法人	23	—
計	77	0

2 公益信託

平成29年3月31日現在、県教育委員会の所管に属する公益信託は3件である。

なお、平成28年度に引き受けを許可した公益信託はない。

第12節 表彰及び叙勲

平成28年度教育・文化関係表彰式は、11月1日(火)とうほう・みんなの文化センター(福島県文化センター)、平成29年2月8日(水)杉妻会館において、それぞれ厳粛のうちにも盛大に行われた。

また、文部科学大臣による地方教育行政功労者表彰式は10月14日(金)に文部科学省講堂において、また、教育者表彰式は11月29日(火)、国立劇場小劇場において、それぞれ行われた。

1 教育・文化関係表彰

(1) 地方教育行政功労者(5名)

(前) 福島市教育委員会教育委員	大野 順道
(前) 本宮市教育委員会委員	仲川 清
(前) 大玉村教育委員会委員	斎藤 雅子
三春町教育委員会委員長	武地 優子
猪苗代町教育委員会教育長	土屋 重憲

(2) 学校教育功労者(15名)

福島市立福島第二小学校長	福士 寛樹
福島市立福島第四小学校長	中村 利幸
福島市立渡利小学校長	内藤 良行
福島市立笹谷小学校長	二谷 京子
福島市立庭坂小学校長	竹之下道子
郡山市立郡山第四中学校長	志村 隆弘
白河市立白河第一小学校長	角田彰三郎
白河市立白河第二中学校長	面川 三雄
喜多方市立第一小学校長	大場 健哉
大熊町立大熊中学校長	小野田敏之
福島県立福島商業高等学校長	喜多見 薫
福島県立安積高等学校長	久保田範夫
福島県立安積黎明高等学校長	源後 正能
福島県立田村高等学校長	長岐 博
福島県立盲学校長	阿部 教夫

(3) 社会教育関係

ア 社会教育功労者(3名)

福島県婦人団体連合会評議員	湯田 直子
相馬市社会教育委員の会議議長	遠藤百合江
ガールスカウト福島県連盟顧問	川瀬トキ子

イ 功績顕著な団体・施設(3団体・3施設)

〈社会教育団体〉

三春町立中郷小学校父母と教師の会

猪苗代小学校父母と教師の会

ぐるっと湖南・伝承会

〈社会教育施設〉

福島市吉井田学習センター
郡山市立日和田公民館
矢祭もったいない図書館

(4) 文化財保護関係

ア 文化財保護功労者(2名)

(前) 須賀川市文化財保護審議会会長	小豆畑清種
伊達市文化財保護審議会会長	八巻善兵衛

(5) 学校体育・学校保健関係

ア 学校保健功労者(3名)

二本松市立油井小学校 学校薬剤師	伊藤 勝康
いわき市立大野中学校 学校歯科医	長谷川 徹
福島県立光南高等学校 学校歯科医	高久 達朗

(6) へき地教育関係

ア へき地教育功労者(2名)

南会津町立南会津中学校長	馬場 永好
下郷町立下郷中学校長	室井 永治

イ 功績顕著な団体(1団体)

猪苗代町立長瀬小学校

(7) 特別支援教育関係

ア 特別支援教育功労者(2名)

医療法人安積保養園あさかホスピタル理事長・院長	佐久間 啓
一般財団法人大原記念財団大原綜合病院小児科診療顧問	三島 博

(8) 永年勤続関係

	小学校	中学校	県立学校	教育庁	計
校長	27	17	3		47
教頭	40	11	15		66
教員	208	148	116		472
計	286	180	134	20	620

(9) 特別功績者

ア 児童・生徒(団体)の部(9団体)

- 喜多方市立第二小学校合奏部
- いわき市立錦小学校吹奏楽部
- 郡山市立郡山第二中学校管弦楽部
- 郡山市立郡山第五中学校合唱部
- 猪苗代町立猪苗代中学校女子バドミントン部
(富岡町立富岡第一中学校女子バドミントン部)
- いわき市立勿来第一中学校報道委員会
- 安積黎明高等学校放送委員会
- 郡山商業高等学校珠算部
- 富岡・ふたば未来学園高等学校バドミントン部

イ 優秀教職員の部(23名)

伊達市立伊達小学校	教 諭	金成 豊
郡山市立行健小学校	教 諭	福本 政之
郡山市立金透小学校	教 諭	加藤與志輝
郡山市立鬼生田小学校	教 諭	小松 嘉代
棚倉町立棚倉小学校	教 諭	中野久美子
会津若松市立鶴城小学校	教 諭	岩本 宏幸
磐梯町立磐梯第一小学校	教 諭	古川 潔
喜多方市立松山小学校	教 諭	峯岸 睦浩

南会津町立南郷小学校	主 査	白井多恵子
いわき市立郷ヶ丘小学校	教 諭	堀越 陽子
いわき市立御厩小学校	主任主査	渡辺 幸夫
二本松市立二本松第一中学校	教 諭	齋藤 嘉徳
二本松市立二本松第一中学校	教 諭	引地 祐子
郡山市立小原田中学校	教 諭	栗原 洋美
白河市立白河南中学校	養護教諭	坂内百合子
南会津町立田島中学校	教 諭	生出 貴志
南会津町立南会津中学校	養護教諭	目黒 久美
富岡町立富岡第一中学校	教 諭	遠藤 立子
いわき市立植田東中学校	養護教諭	加瀬 文子
福島県立安積黎明高等学校	教 諭	宍戸 真市
福島県立小野高等学校	教 諭	目時 千夏
福島県立大沼高等学校	教 諭	本田 一弘
福島県立田島高等学校	教 諭	星 博之

高久 庄三(教育功勞 元会津高田町立第一中学校長)
(3) 高齢者叙勲(平成28年4月1日～平成29年3月1日発令)

- ア 瑞宝小綬章(教育功勞)
 中村 正直 (元福島県立小野高等学校長)
 渡邊 政男 (元福島県立須賀川養護学校長)
 小島 喜一 (元福島県立安達高等学校長)
- イ 瑞宝双光章(教育功勞)
 矢橋 俊夫 (元二本松市立二本松南小学校長)
 矢橋 俊夫 (元二本松市立二本松南小学校長)
 花澤 繁 (元福島市立杉妻小学校長)
 馬場 昭 (元下郷町立旭田小学校長)
 松井幸三郎 (元泉崎村立泉崎第二小学校長)
 渡部 光裕 (元猪苗代町立月輪小学校長)
 花澤 繁 (元福島市立杉妻小学校長)
 馬場 昭 (元下郷町立旭田小学校長)
 松井幸三郎 (元泉崎村立泉崎第二小学校長)
 渡部 光裕 (元猪苗代町立月輪小学校長)
 鈴木 一右 (元郡山市立橋小学校長)
 今井 安富 (元福島市立大波小学校長)
 家久来勝美 (元郡山市立安積中学校長)
 村越 亮 (元東村立釜子小学校長)
 平野 長一 (元会津坂下町立川西小学校長)
 鈴木 榮一 (元郡山市立大田小学校長)
 竹田 武雄 (元いわき市立江名中学校長)
 阿部 良全 (元いわき市立四倉小学校長)
 馬場 綾子 (元新鶴村立新鶴小学校長)
 大澤堂勝永 (元東和町立上太田小学校長)
 平野 勝敏 (元須賀川市立第三中学校長)
 市川 守孝 (元三春町立三春中学校長)
 湯浅伊佐夫 (元福島市立下川崎小学校長)
 村田 吉三 (元福島市立福島第二中学校長)
 大平 喜昭 (元いわき市立植田小学校長)
 稲垣 正八 (元いわき市立御厩小学校長)
 猪狩 勝雄 (元いわき市立中央台北中学校長)
 永田 融司 (元川俣町立福沢小学校長)
 鈴木 仁 (元会津若松市立第五中学校長)
 小柳 昭三 (元三春町立沢石小学校長)
 佐藤 壽之 (元郡山市立永盛小学校長)
 加藤 茂雄 (元福島市立岳陽中学校長)
 須藤 信立 (元熱塩加納村立熱塩小学校長)
 近内多喜夫 (元塙町立塙小学校長)
 松本 裕也 (元郡山市立喜久田小学校長)
 鈴木 廣茂 (元須賀川市立大東小学校長)
 羽曾部 實 (元塩川町立塩川小学校長)
 芳賀 北彦 (元いわき市立平第二中学校長)
 小河 徹也 (元伊達町立伊達中学校長)
 増子 彥雄 (元長沼町立長沼中学校長)
 武田 昭三 (元白沢村立白岩小学校長)
 八田部良夫 (元白河市立白河第二中学校長)
 松本 肇 (元会津高田町立旭小学校長)

2 文部科学大臣表彰

(1) 地方教育行政功勞者表彰(5名)

(前)会津若松市教育委員会教育長	星 憲隆
猪苗代町教育委員会教育長	土屋 重憲
(前)猪苗代町教育委員会委員長	岩橋 紀男
(前)泉崎村教育委員会委員長	本柳 功
(前)大玉村教育委員会委員	齋藤 雅子

(2) 教育者表彰(3名)

福島県立安積高等学校長	久保田範夫
福島県白河市立白河第二中学校長	面川 三雄
福島県福島市立福島第二小学校長	福士 寛樹

3 春・秋・高齢者叙勲、死亡叙位・叙勲

(1) 平成28年春の叙勲

- ア 瑞宝小綬章
 鈴木 敏夫(教育功勞 元福島県立会津高等学校長)
 中村 雅彦(教育功勞 元福島県立盲学校長)
- イ 瑞宝双光章
 木村 孝雄(教育功勞 元郡山市立郡山第二中学校長)
 青木 紀男(教育功勞 元原町市立原町第一小学校長)
 湯田 一秋(教育功勞 元会津若松市立第三中学校長)
 佐久間俊彦(教育功勞 元郡山市立金透小学校長)
 松本 建男(教育功勞 元福島市立福島第二中学校長)
 金澤 武男(教育功勞 元福島市立岳陽中学校長)

(2) 平成28年秋の叙勲

- ア 瑞宝双光章
 加藤 征男(教育功勞 元白河市立白河第一小学校長)
 齋藤 文和(教育功勞 元福島市立渡利中学校長)
 栗村 謙一(教育功勞 元会津若松市立第一中学校長)
 星 幸雄(教育功勞 元会津若松市立鶴城小学校長)
 渡部 雄次(教育功勞 元田島町立荒海小学校長)
 吉田 勝人(教育功勞 元三春町立三春中学校長)
 渡邊 勇喜(教育功勞 元棚倉町立近津小学校長)

上野 啓次 (元喜多方市立第一小学校長)
坂内 勝典 (元田島町立檜沢中学校長)
藤島 昭 (元長沼町立長沼東小学校長)
猪俣 好巳 (元桑折町立半田醸芳小学校長)
沼田 潔 (元いわき市立錦小学校長)
佐藤 公基 (元福島市立蓬萊東中学校長)
野口 五郎 (元大信町立大信中学校長)
大越 弘 (元西会津町立新郷小学校長)
佐々木 廣 (元船引町立瀬川中学校長)

正六位瑞宝双光章
正六位瑞宝双光章
正六位瑞宝双光章
正七位瑞宝双光章
正六位

佐久間 直
(元郡山市立郡山第三中学校長)
松本 卓夫
(元いわき市内郷第二中学校長)
齋藤 茂良
(元新地町立新地小学校長)
棚木 英一
(元会津坂下町立八幡小学校長)
佐藤 幹夫
(元福島市立森合小学校長)

(4) 死亡叙位・叙勲

《平成28年度》

従六位瑞宝双光章 池田 威信
(元福島市平田小学校長)
正七位 出牛 千夫
(元郡山市立三和小学校長)
正六位 五十 嵐巖
(元山都町立山都第一小学校長)
正六位瑞宝双光章 若松 善男
(元いわき市立玉川中学校長)
従五位 三瓶 芳徳
(元福島市立第二中学校長)
従六位瑞宝双光章 長沼 源治
(元福島市立渡利中学校長)
正六位瑞宝双光章 西牧 宏
(元船引町立瀬川中学校長)
従五位瑞宝双光章 内藤 良夫
(元矢吹町立善郷小学校長)
正六位 三瓶 悦雄
(元白河市立東中学校長)
正六位瑞宝双光章 高木 廣志
(元霊山町立霊山中学校長)
正六位瑞宝小綬章 陸 勤
(元福島県立福島西女子高等学校長)
正六位 田名網 得平
(元福島県立新地高等学校長)
従五位 菊池 玄
(元棚倉立棚倉小学校長)
従五位瑞宝双光章 水戸 衛
(元東村立釜子小学校長)
従五位瑞宝双光章 角田 俊雄
(元伊達市立梁川小学校長)
正六位瑞宝双光章 尾平 孝次
(元西郷村立小田倉小学校長)
従五位瑞宝小綬章 七島 藤雄
(元福島県立安達東高等学校長)
従五位 竹田 武雄
(元いわき市立江名小学校長)
正六位瑞宝双光章 宮原 紀昭
(元鹿島町立八沢小学校長)

従五位
正六位
正六位
従六位瑞宝双光章
正六位瑞宝双光章
正六位瑞宝双光章
従五位瑞宝双光章
正六位瑞宝双光章
正七位瑞宝双光章
従六位瑞宝双光章
正五位
正六位瑞宝双光章
従六位瑞宝双光章
従五位瑞宝小綬章
正六位瑞宝双光章
従六位
正六位瑞宝双光章
正六位瑞宝双光章
正六位
従六位瑞宝双光章

小野田 禮常
(元双葉町立双葉北小学校長)
喜古 亮
(元福島市立福島第二小学校長)
長谷川 次男
(元喜多方市立松山小学校長)
村野井 幸雄
(元会津本郷町立本郷中学校長)
佐藤 武
(元福島市立杉妻小学校長)
藤田 敏貞
(元矢祭町立東館小学校長)
小野 進
(元大玉村立玉井小学校長)
平山 新
(元会津坂下町立西川小学校長)
縄野 健一
(元福島市立庭塚小学校長)
中澤 満
(元原町市立原町第三小学校長)
田山 末男
(元福島県立湯本高等学校長)
本郷 孝夫
(元石川町立中谷第一小学校長)
長谷部 弘七
(元須賀川市立小塩小学校長)
佐藤 澤彌
(元福島県立白河実業高等学校長)
安齋 昭治
(元原町市立大甕小学校長)
茨木 龍信
(元西郷村立西郷第二中学校長)
佐藤 静雄
(元福島市立水保小学校長)
齋藤 茂
(元いわき市立草野小学校長)
和知 謙
(元郡山市立赤木小学校長)
濱須 義昌

従五位	坂内 健次郎 (元福島県立会津農林高等学校長)	正六位	稲垣 正伋 (元いわき市立御厩小学校長)
正六位瑞宝双光章	國分 道男 (元二本松市立二本松第一中学校長)	従六位瑞宝双光章	川音 正平 (元須賀川市立第二小学校長)
正六位瑞宝双光章	五ノ井 三男 (元会津高田町立高田小学校長)	正六位	永山 親雄 (元棚倉町立棚倉中学校長)
従六位瑞宝双光章	佐藤 磐雄 (元いわき市立泉小学校長)	正六位瑞宝双光章	佐藤 稔 (元西会津町立奥川小学校長)
従五位瑞宝小綬章	山本 武雄 (元福島県立湯本高等学校長)	正六位瑞宝双光章	中高 富雄 (元いわき市立植田中学校長)
正六位瑞宝双光章 (元国見町梁川町大枝小学校組合立大枝小学校長)	佐藤 昭雄	従五位	大川原 和助 (元福島県立若松商業高等学校長)
従五位瑞宝双光章	清水 光好 (元塩川町立塩川中学校長)	正六位	松井 幸三郎 (元泉崎村立第二小学校長)
従六位	宗像 列郎 (元福島県立福島女子高等学校長)	従六位瑞宝双光章	永井 邦弘 (元飯舘村立飯舘中学校長)
従六位	村上 進 (元石川町立石川中学校長)	正五位瑞宝小綬章	小田島 哲夫 (元福島県双葉農業高等学校長)
従六位瑞宝双光章	岩城 圭一 (元郡山市立開成小学校長)		
従五位	長谷川 三雄 (元いわき市立御厩小学校長)		
正六位瑞宝双光章	本多 四郎 (元福島市立鳥川小学校長)		
正六位	藤田 克孝 (元郡山市立橘小学校長)		
正七位	遠藤 信男 (元磐梯町立磐梯中学校長)		
従五位	松本 紹夫 (元福島県立郡山北工業高等学校長)		
従六位瑞宝双光章	作田 晶 (元いわき市立四倉小学校長)		
従五位瑞宝双光章	佐藤 宣夫 (元霊山町立掛田小学校長)		
正六位	秋山 芳郎 (元いわき市立植田中学校長)		
従六位	永山 直治 (元いわき市立公立学校歯科医)		
正六位瑞宝小綬章	橘 和彦 (元福島県立梁川高等学校長)		
正六位	星 正 (元保原町立保原小学校長)		
正六位瑞宝双光章	橋本 多惣 (元須賀川市立阿武隈小学校長)		
正六位	下山 政一 (元福島市立清水小学校長)		
従五位	吉田 行雄 (元会津若松市立城北小学校長)		
正六位	荒川 修司 (元棚倉町立棚倉小学校長)		

第13節 奨学育英

1 福島県奨学資金

(1) 貸与金額

区 分	貸与月額		
高等学校	国公立	自宅	18,000円
		自宅外	23,000円
	私立	自宅	30,000円
		自宅外	35,000円
高等専門学校	18,000円		
大 学	国公立	35,000円	
	私立	40,000円	
入学一時金 (H25～)	(一括貸与) 500,000円		

(2) 平成28年度の貸与状況

学 年 別	定時制	通信制	計
1 年 生	0人	0人	0人
2 年 生	0人	0人	0人
3 年 生	0人	0人	0人
4 年 生	3人	0人	3人
計	3人	0人	3人

(2) 平成28年度の貸与状況

ア 募集期間

(イ) 在学採用

平成28年4月入学以降～6月30日

(ロ) 震災特例採用

平成28年5月1日～7月31日

イ 奨学生決定

(イ) 在学採用

平成28年8月9日

(ロ) 震災特例採用

平成28年9月23日

ウ 貸与状況

区 分	継続 貸与	新規貸与		計
		応募者	貸与者	
高等学校 (うち震災特例)	550人 (294人)	303人 (172人)	297人 (172人)	847人 (466人)
大 学 高等専門学校	262人	171人	116人	378人
大学等 入学一時金		88人	74人	74人
計	812人	562人	487人	1,299人

2 福島県高等学校定時制課程及び通信制課程 修学資金貸与制度

(1) 貸与月額

定時制課程

1～4学年 14,000円

通信制課程

1～4学年 14,000円

第3章 教育財政

第1節 平成28年度決算

1 歳入

一般会計

(単位：千円)

款	項	決算額	%
分担金及び負担金		0	0.0
	負担金	0	0.0
使用料及び手数料		5,114,308	9.3
	使用料	4,980,063	9.1
	手数料	134,245	0.2
国庫支出金		37,752,646	68.7
	国庫負担金	29,176,625	53.1
	国庫補助金	8,361,810	15.2
	委託料	214,211	0.4
財産収入		241,065	0.4
	財産運用収入	42,237	0.1
	財産売却収入	198,828	0.4
寄付金		103,613	0.2
	寄付金	103,613	0.2
繰入金		1,836,264	3.3
	特別会計繰入金	53,221	0.1
	基金繰入金	1,783,043	3.2
諸収入		580,640	1.1
	預金利子	0	0.0
	貸付金元利収入	65,871	0.1
	受託事業収入	287,811	0.5
	収益事業収入	62,899	0.1
	雑入	164,059	0.3
県債		9,346,600	17.0
	県債	9,346,600	17.0
計		54,975,136	100.0

福島県奨学資金貸付金特別会計

(単位：千円)

款	項	決算額	%
国庫支出金		0	0.0
	国庫補助金	0	0.0
繰入金		339,814	50.8
	一般会計繰入金	339,814	50.8
繰越金		48,759	7.3
	繰越金	48,759	7.3
諸収入		279,930	41.9
	預金利子	5	0.0
	貸付金元利収入	278,610	41.7
	雑収入	1,315	0.2
財産収入		291	0.0
	財産運用収入	291	0.0
計		668,794	100.0

2 歳 出

(1) 県予算に占める教育費

(単位：千円)

区 分	当初予算額	%	最終予算額	%	決 算 額	%
県 予 算	1,881,924,898	100.0	2,312,899,552	100.0	2,070,466,062	100.0
教 育 費	230,156,186	12.2	232,140,321	10.0	223,717,731	10.8
教育委員会所管分	201,593,459	10.7	203,984,551	8.8	196,074,911	9.5
知事部局所管分	28,562,727	1.5	28,155,770	1.2	27,642,820	1.3
教育委員会所管分総務費	0	0.0	149	0.0	149	0.0
教育委員会所管分災害復旧費	769,618	0.0	1,732,387	0.1	1,416,306	0.1

(最終予算額及び決算額には繰越分を含む)

(2) 教育委員会所管目的別予算及び決算状況

(単位：千円)

区 分 (款・項・目)	当初予算額	%	最終予算額	%	決算額	%
総 務 費	0	0.0	149	0.0	149	0.0
総 務 管 理 費	0	0.0	149	0.0	149	0.0
諸 費	0	0.0	149	0.0	149	0.0
教 育 費	201,593,459	99.7	203,984,551	99.1	196,074,911	99.2
教 育 総 務 費	25,709,117	12.8	23,820,276	11.5	23,488,185	11.8
教 育 委 員 会 費	11,122	0.0	10,442	0.0	9,808	0.0
事 務 局 費	4,493,578	2.2	4,498,042	2.1	4,478,035	2.2
財 務 管 理 費	1,077,762	0.5	990,834	0.4	881,859	0.4
義 務 教 育 指 導 費	748,501	0.4	690,371	0.3	647,969	0.3
教 職 員 福 利 厚 生 費	17,371,873	8.6	15,759,007	7.6	15,691,219	7.9
育 英 費	1,536,515	0.8	1,403,675	0.6	1,320,755	0.6
恩 給 及 び 退 職 年 金 費	124,191	0.1	107,228	0.0	105,704	0.0
教 育 セ ン タ ー 費	335,350	0.2	350,452	0.1	342,810	0.1
養 護 教 育 セ ン タ ー 費	10,225	0.0	10,225	0.0	10,026	0.0
小 学 校 費	61,756,233	30.5	62,543,476	30.4	62,465,420	31.6
教 職 員 費	61,756,233	30.5	62,543,476	30.4	62,465,420	31.6
中 学 校 費	41,009,669	20.3	40,591,848	19.7	40,529,911	20.5
教 職 員 費	41,009,669	20.3	40,591,848	19.7	40,529,911	20.5
高 等 学 校 費	52,265,876	25.9	57,557,286	27.9	51,538,066	26.1
教 職 員 費	36,464,182	18.0	36,783,127	17.8	36,732,898	18.6
高 等 学 校 指 導 費	520,567	0.3	469,126	0.2	447,405	0.2
高 等 学 校 管 理 費	9,100,025	4.5	12,018,809	5.8	10,841,462	5.4
施 設 等 整 備 費	2,564,986	1.3	2,597,738	1.2	1,918,124	0.9
農 業 高 等 学 校 実 習 費	149,291	0.1	149,291	0.0	148,203	0.0
水 産 高 等 学 校 実 習 費	224,396	0.1	168,947	0.0	165,225	0.0
28～31 ふたば未来学園中学・高校整備費	3,242,429	1.6	3,242,429	1.5	159,077	0.0
27～29 実習船福島丸代船建造費	0	0.0	2,127,819	1.0	1,125,672	0.5
特 別 支 援 学 校 費	16,083,669	8.0	16,213,455	7.8	14,939,821	7.5
特 別 支 援 学 校 費	2,567,746	1.3	2,790,268	1.3	2,048,247	1.0
教 職 員 費	13,515,923	6.7	12,913,311	6.2	12,891,574	6.5
28～32 聴覚支援学校福島校整備費	0	0.0	509,876	0.2	0	0.0
社 会 教 育 費	3,394,770	1.6	2,535,426	1.2	2,452,532	1.2
社 会 教 育 総 務 費	939,256	0.5	742,179	0.3	707,022	0.3
図 書 館 費	83,267	0.0	83,267	0.0	82,655	0.0
自 然 の 家 費	414,221	0.2	376,963	0.1	372,064	0.1
文 化 振 興 費	78,383	0.0	1,000	0.0	1,000	0.0
文 化 財 保 護 費	978,955	0.5	498,422	0.2	493,809	0.2
美 術 館 費	244,765	0.1	236,178	0.1	229,532	0.1
博 物 館 費	409,743	0.2	351,237	0.1	320,312	0.1
文 化 財 セ ン タ ー 費	246,180	0.1	246,180	0.1	246,138	0.1
保 健 体 育 費	1,374,125	0.6	722,784	0.3	660,976	0.3
保 健 体 育 総 務 費	298,071	0.1	254,394	0.1	251,528	0.1
学 校 保 健 費	489,363	0.2	297,487	0.1	248,525	0.1
体 育 振 興 費	586,691	0.3	170,903	0.0	160,923	0.0
災 害 復 旧 費	769,618	0.4	1,732,387	0.8	1,416,306	0.7
文 教 施 設 災 害 復 旧 費	769,618	0.4	1,732,387	0.8	1,416,306	0.7
公 立 文 教 施 設 災 害 復 旧 費	769,618	0.4	1,732,387	0.8	1,416,306	0.7
計	202,363,077	100.0	205,717,087	100.0	197,491,366	100.0

区 分 (款・項・目)	当初予算額	%	最終予算額	%	決算額	%
奨学資金貸付事業費	617,778	100.0	657,938	100.0	649,774	100.0
奨学資金貸付事業費	617,778	100.0	657,938	100.0	649,774	100.0
貸付金	605,048	97.9	592,664	90.1	584,680	90.0
償還金	300	0.0	0	0.0	0	0.0
事務費	12,429	2.0	12,053	1.8	11,873	1.8
一般会計繰出金	1	0.0	53,221	8.1	53,221	8.2
計	617,778	100.0	657,938	100.0	649,774	100.0

第2節 学校教育施設

1 県立学校

(1) 学校建設の概要

平成29年5月1日現在の県立学校の現況は、別表のとおりである。全体を構造的に見ると、鉄筋コンクリート造が73.8%、鉄骨その他造が24.5%と非木造建物が98.3%を占めており、木造建物が1.7%となった。

別表 県立学校建物の現況

区 分		中学校		高等学校		特別支援学校		計	
		面積	構成比	面積	構成比	面積	構成比	面積	構成比
校舎	R	5,583	100.0	639,596	85.3	82,493	92.3	727,672	86.1
	S	0	0.0	95,547	12.7	4,393	4.9	99,940	11.8
	W	0	0.0	15,054	2.0	2,460	2.8	17,514	2.1
	計	5,583	100.0	750,197	100.0	89,346	100.0	845,126	100.0
体育館	R	1,297	100.0	24,122	13.7	4,919	47.4	30,338	16.1
	S	0	0.0	151,131	85.8	5,462	52.6	156,593	83.4
	W	0	0.0	937	0.5	0	0.0	937	0.5
	計	1,297	100.0	176,190	100.0	10,381	100.0	187,868	100.0
寄宿舍	R	0	0.0	11,304	98.6	4,664	96.7	15,968	98.0
	S	0	0.0	164	1.4	101	2.1	265	1.6
	W	0	0.0	0	0.0	57	1.2	57	0.4
	計	0	0.0	11,468	100.0	4,822	100.0	16,290	100.0
計	R	6,880	100.0	675,022	72.0	92,076	88.1	773,978	73.8
	S	0	0.0	246,842	26.3	9,956	9.5	256,798	24.5
	W	0	0.0	15,991	1.7	2,517	2.4	18,508	1.7
	計	6,880	100.0	937,855	100.0	104,549	100.0	1,049,284	100.0

R 鉄筋コンクリート造、 S 鉄骨その他造、 W 木造

※一部仮設校舎を使用している学校及び別敷地に仮設建物等を用いて学校を開設しているものについては除外している。

磐城農業、双葉、浪江、浪江津島校、富岡、双葉翔陽、ふたば未来学園、相馬農業飯館校、旧小高商業、富岡養護

※構成比率は小数点第2位以下四捨五入

※特別支援学校には視覚・聴覚支援学校面積を含む

(2) 平成 28 年度事業実績

ア 高等学校一般施設整備事業

事 項	校数	学 校 名	事 業 費 (決算額)	財 源 内 訳		
				国 庫	その他	県 費
			千円	千円	千円	千円
大規模改造事業	18	橘、福島工業、福島西、本宮、安積黎明、郡山、須賀川桐陽、小野、葵、会津学鳳、喜多方桐桜、田島、磐城、磐城桜が丘、湯本、小名浜、好間、相馬東	409,515		50,756	358,759
合 計	18		409,515	0	50,756	358,759

イ 特別支援学校施設整備事業(一般施設)

事 項	校数	学 校 名	事 業 費 (決算額)	財 源 内 訳		
				国 庫	その他	県 費
			千円	千円	千円	千円
大規模改造事業	1	聾	7,572			7,572
合 計	1		7,572	0	0	7,572

2 幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校（市町村立分）

(1) 構造物保有面積

平成29年5月1日現在

区分	小学校		中学校		小・中学校計		特別支援学校		幼稚園		
	面積	構成比	面積	構成比	面積	構成比	面積	構成比	面積	構成比	
	㎡	%	㎡	%	㎡	%	㎡	%	㎡	%	
校舎	R	1,421,843	97	863,983	96	2,285,826	96	2,461	66	30,775	29
	S	30,031	2	20,706	2	50,737	2	1,290	34	46,239	44
	W	20,973	1	15,473	2	36,446	2	0	0	28,275	27
	計	1,472,847	100	900,162	100	2,373,009	100	3,751	100	105,289	100
屋内運動場	R	154,953	43	132,638	52	287,591	47	391	94	0	0
	S	203,081	56	118,634	47	321,715	52	26	6	0	0
	W	3,242	1	1,762	1	5,004	1	0	0	0	0
	計	361,276	100	253,034	100	614,310	100	417	100	0	0
寄宿舎	R	65	100	2,427	83	2,492	84	0	0	0	0
	S	0	0	312	11	312	10	0	0	0	0
	W	0	0	172	6	172	6	0	0	0	0
	計	65	100	2,911	100	2,976	100	0	0	0	0
計	R	1,576,861	86	999,048	86	2,575,909	86	2,852	68	30,775	29
	S	233,112	13	139,652	12	372,764	13	1,316	32	46,239	44
	W	24,215	1	17,407	2	41,622	1	0	0	28,275	27
	計	1,834,188	100	1,156,107	100	2,990,295	100	4,168	100	105,289	100

R 鉄筋コンクリート造、 S 鉄骨その他造、 W 木造

※檜葉町、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯館村の全学校及び従来の施設の全てが被災等により使用できず、仮設建物等を用いて学校を開設しているものについては除外している。

※構成比率は小数点以下四捨五入

※各町村において施設台帳管理システムにて入力した内容を参照。

なお、H29.12.12時点でのデータで有り、現在、修正登録を実施中であり、最終結果内容は反映していない。

(2) 公立学校施設整備事業（市町村分実績額）

平成 28 年度

区 分	単年度		国庫債務負担行為	
	学校数	負担金及び交付金(千円)	学校数	負担金及び交付金(千円)
公立小学校 校舎の 新增築	1	13,243	0	0
公立中学校 校舎の 新增築	—	—	—	—
公立小学校 屋内運動場 の新增築	1	6,527	0	0
公立中学校 屋内運動場 の新增築	1	16,611	—	—
公立小・中 学校の統合	4	1,413,755	0	0
公立小・中 学校危険 建物の改築	3	293,612	—	—
公立小・中 学校不適格 建物の改築	7	363,728	—	—
屋外 環境整備	2	19,714	—	—
大規模改造	15	296,511	—	—
地震補強	36	788,788	—	—
地震改築	1	183,032	—	—
公立幼稚園 の新增築	0	0	—	—
太陽光発電	4	87,438	—	—
防災機能強化	22	59,454	—	—
長寿命化	1	40,135	—	—
計	(延べ 校数)		(延べ 校数)	
	98	3,582,548	0	0

第 3 節 産業教育設備整備事業

1 産業教育施設・設備の整備

高等学校産業教育施設・設備等整備

県立高等学校における産業教育のための設備促進を図っ

た。平成 28 年度における実施状況は次のとおりである。

設備

(1) 県単独事業

老朽設備の整備

213,166 千円

第 4 節 理科教育振興法補助事業

1 理科設備

学校規模別設備現有状況

区分 規模別	学校 数	基準金額	現有金額	現有率
		円	円	%
高校 I	89	9,269,439,000	1,101,204,187	11.9
高校 II	0	0	0	—
小計	89	9,269,439,000	1,101,204,187	11.9
盲学校	1	170,615,000	5,389,060	3.2
聾学校	4	149,698,000	10,716,975	7.2
特別支援学校	16	968,293,000	36,262,718	3.7
小 計	21	1,288,606,000	52,368,753	4.1

2 算数・数学特別設備

学校規模別設備現有状況

区分 規模別	学校 数	基準金額	現有金額	現有率
		円	円	%
高校 I	89	189,353,000	71,584,023	37.8
高校 II	0	0	0	—
小計	89	189,353,000	71,584,023	37.8
盲学校	1	3,180,000	42,400	1.3
聾学校	4	5,951,000	616,443	10.4
特別支援学校	16	36,206,000	4,575,459	12.6
小 計	21	45,337,000	5,234,302	11.5

※規模別の高校 I は学級数合計が 27 学級以下、
高校 II は学級数合計が 28 学級以上の学校が対象となり、
現在は 28 学級以上の学校は無い。

第 5 節 情報処理設備整備事業

1 県単独事業

(1) 教育用コンピュータの整備

86 校（リース・保守）

319,238 千円

(2) 校内 LAN 保守

110 校（特別支援・分校含む）

14,322 千円

第6節 体育施設

1 公立学校施設整備費補助（学校体育諸施設補助）

(1) 水泳プール（屋外）

設置者名	施設名	水面積（m ² ）	交付金額（千円）
矢祭町	矢祭小学校	295	15,791
会津坂下町	坂下南小学校	360	11,570
白河市	釜子小学校	325	17,397
会津美里町	高田小学校	375	43,046

(2) 学校クラブハウス

設置者名	施設名	面積（m ² ）	交付金額（千円）
該当なし			

(3) 中学校武道場

設置者名	施設名	面積（m ² ）	交付金額（千円）
埴町	埴中学校	450	17,925
平田村	ひらた清風中学校	180	7,035

第4章 教育の情報化

第1節 基盤整備

県立学校、図書館、美術館及び博物館等の教育関係機関が専用イントラネット及び電子メール等のインターネットサービスを利用できるよう、平成11年度から県教育センターを拠点として運用している情報環境の基盤「うつくしま教育ネットワーク」により、専用基盤での教育情報の提供・検索、情報教育での活用などを可能とし、電子情報利活用のための利便性の維持を図っている。

また、県立学校の教職員が校務に使用するパソコンについては、平成21年度までに、県立学校に教員1人1台に相当するパソコンの配備を行ったが、平成28年度はWindows Vistaのサポート期限到来に備え、228台の更新・配備を行った。

さらに、次期メールシステム及びテレビ会議システムとして、教員の多忙化解消等の視点を踏まえ、グループウェア機能を持つGoogle社の運営するG Suite for Educationを活用した「ふくしま教育クラウドサービス (FCS)」の試行運用を開始した（本運用は平成29年10月の予定）。

うつくしま教育ネットワークのサービス

- ・ ホームページの利用環境
学校や教育関係機関等のホームページを設置できるスペースを提供し、取組や研究成果などを広く共有する場を提供する。
- ・ 電子メールサービス
電子メールアカウントを、教職員、学校、教育関係機関等に発行する。
- ・ 不適切情報のフィルタリング
児童・生徒に触れさせたくない情報をネットワーク拠点で一元的に管理し、教育にふさわしい情報の提供を行う。
- ・ セキュリティやウィルス等への対策
- ・ 教育情報データベース（アーカイブとして公開）
- ・ コミュニケーション環境（メーリングリスト、メールマガジン等）
- ・ ヘルプデスクによるネットワークサービスの相談受付

過去10年間の県立学校基盤整備状況

年度	教職員PC配備実績	校内LAN整備
H19	926台	
H20	735台	
H21	2,049台	7校
H22	0台	
H23	316台 ※1	
H24	1,395台 ※2	1校
H25	814台 ※2	
H26	0台	
H27	0台	
H28	228台 ※3	

※1 東日本大震災に伴うサテライト拠点校等への緊急配備

※2 WindowsXPのサポート終了に伴う更新

※3 Windows Vistaサポート終了に伴う更新等

学校の基盤整備状況（小・中・高・特別支援学校）

項目	福島県	全国平均
コンピュータ1台当たりの児童生徒数	5.2人	5.9人
校務用PCの整備率	113.0%	118.0%
普通教室のLAN整備率	81.0%	88.9%
電子黒板のある学校	75.4%	79.4%
超高速インターネット接続率	76.2%	87.2%
校務支援システムの整備状況	63.1%	85.9%
デジタル教科書の整備状況	35.0%	48.3%
学校CIOの設置状況	28.8%	43.6%

H29.3月現在 文部科学省調べ

第2節 人材の育成・活用

すべての教職員がコンピュータを操作でき、コンピュータを用いて指導できることを目指して、研修の充実を図っている。

人材の育成状況

項目	福島県	全国平均
教材研究・指導の準備・評価などにICTを活用する能力	80.4%	84.0%
授業中にICTを活用して指導する能力	66.7%	75.0%
児童・生徒のICT活用を指導する能力	64.0%	66.7%
情報モラルなどを指導する能力	77.4%	80.0%
校務にICTを活用する能力	75.7%	80.2%

H29.3月現在 文部科学省調べ

第5章 義務教育

第1節 概要

今年度は、県内の小・中学校児童生徒の学力の向上を図るため、「授業改善のための定着確認シート活用実践事業」、「ふくしまからはじめよう。学力向上のための『つなぐ教育』推進事業」、「学力調査研究事業」及び「理数教育優秀教員活用事業」を実施した。また、県内の児童生徒の数学的な考え方や科学的な思考力を高めるため、福島県算数・数学ジュニアオリンピック事業、「科学の甲子園」福島県大会事業を実施した。さらに、少人数教育充実のために、30人程度学級又は少人数指導の教員を配置するなど、各市町村教育委員会への支援を通して、各小・中学校における日々の授業の工夫改善を図り、学力向上に努めた。

生徒指導関係では、「ピュアハートサポートプロジェクト」の一環として、教育センターに学校教育相談員を配置し、電話相談等を実施した。また、小学校24校、中学校133校に文部科学省事業によるスクールカウンセラーを配置し、いじめ問題や不登校等の学校不適応問題への指導援助の強化を図った。また、大震災後、児童生徒がPTSD等にならないように文部科学省事業による緊急スクールカウンセラーを小学校107校、中学校86校に派遣し、心のケアに当たった。

さらに、教育相談研修会や各種協賛会を開催し、教職員の資質の向上を図った。

第2節 学校管理

1 児童生徒数・学級数と教職員定数

(1) 小学校

年度	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
本校	531	530	525	512	511	497	489	479	472	468	458	452
分室	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
分校	12	10	10	9	8	8	6	5	5	5	5	5
計	543	540	535	521	519	505	495	484	477	473	463	457
前差	△13	△3	△5	△14	△2	△14	△10	△11	△7	△4	△10	△6

(2) 平成28年度の学級数別学校数(小学校) ※臨時休業が4校(5/1時点)あり、0学級になります。

学級数別	1～5学級	6～11学級	12～18学級	19～24学級	25学級以上	合計
本校	99	183	104	44	16	446
分室	—	—	—	—	—	—
分校	5	—	—	—	—	5
計	104	183	104	44	16	451
構成比	23	41	23	10	4	100

(3) 中学校

年度	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
本校	240	240	239	239	237	237	237	236	232	229	224	223
分室	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
分校	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	240	240	239	239	237	237	237	236	232	229	224	223
前差	0	0	△1	0	△2	0	0	△1	△4	△3	△5	△1

※平成19年度から県立中学校を含む。

(4) 平成28年度の学級数別学校数(中学校) ※臨時休業が2校(5/1時点)あり、0学級になります。

学級数別	1～5学級	6～11学級	12～18学級	19～24学級	25学級以上	合計
本校	73	72	53	17	6	221
分室	—	—	—	—	—	—
分校	—	—	—	—	—	—
計	73	72	53	17	6	221
構成比	33	33	24	8	3	100

(5) 公立幼稚園の設置状況

年度	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
園数	219	218	216	210	209	206	204	201	193	191	184	166
園児数	11,643	11,742	11,541	11,162	11,083	10,749	9,136	8,646	8,320	8,005	7,590	6,603

(6) 小学校児童数・学級数の推移

小学校の児童数は昭和34年度が最高で、その後は減少を続けてきた。昭和52年度を境に児童数、学級数とも増加傾向にあったが、昭和60年度を境に児童数が再び減少傾向にあり、学級数も学級編制基準の改善にもかかわらず少しずつ減少している。

年度	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
単式	5,125	5,042	4,950	4,948	4,849	4,795	4,465	4,301	4,197	4,103	4,019	3,883
複式	183	211	218	202	219	197	180	204	203	215	209	225
特別支援	320	326	328	329	333	336	332	350	377	403	440	492

年度	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
児童	123,856	121,591	120,270	118,036	116,177	107,043	102,095	99,339	96,776	94,686	92,449
学級	5,579	5,496	5,479	5,401	5,328	4,977	4,855	4,777	4,721	4,668	4,600

(7) 中学校生徒数・学級数の推移

中学校の生徒数は昭和37年度が最高となり、その後は減少を続けてきた。昭和56年度を境に生徒数、学級数とも増加傾向にあったが、昭和63年度より再び減少傾向にある。

年度	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
単式	2,398	2,396	2,350	2,311	2,251	2,180	2,089	2,079	2,050	1,997	1,953	1,861
複式	5	5	6	6	7	10	8	8	8	8	8	12
特別支援	144	142	153	162	177	191	187	203	218	233	248	254

年度	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
生徒	67,489	66,447	65,234	63,696	62,642	60,746	58,212	56,922	56,262	54,929	53,608	52,194
学級	2,547	2,543	2,509	2,479	2,435	2,381	2,284	2,290	2,276	2,238	2,209	2,127

(8) 小・中・特別支援学校条例定数の推移

年度		19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
小学校	教員	7,640	7,490	7,402	7,293	7,235	7,131	7,028	6,979	6,944	6,850	6,812
	事務職員	521	509	505	495	487	474	466	468	467	458	455
	充指導主事	27	26	19	15	22	23	23	25	26	27	29
	補充教職員	349	365	360	353	329	312	293	332	321	309	257
	県単独負担教員	312	305	272	246	211	182	171	170	141	155	153
	学校栄養職員	146	144	145	141	138	128	124	125	123	121	121

中 学 校	教 員	4,508	4,450	4,401	4,326	4,361	4,399	4,324	4,337	4,241	4,240	4186
	事 務 職 員	230	231	225	229	228	227	228	229	244	241	242
	充 指 導 主 事	58	53	46	42	40	40	38	35	40	40	39
	補 充 教 職 員	182	159	178	169	160	150	143	167	167	163	132
	県単独負担教員	219	209	183	166	188	161	160	151	143	144	139
	学校栄養職員	65	64	61	66	67	65	67	69	70	74	72
市 立 特 別 支 援 学 校	教 員	106	65	64	36	40	46	41	39	32	30	32
	事 務 職 員	6	4	4	2	2	2	2	2	2	2	2
	補 充 教 職 員	8	10	10	12	13	13	13	7	6	6	6
	県単独負担教員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	学校栄養職員	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1

2 教職員人事・任用

平成28年度人事異動方針

教育に対する県民の期待と要望に応え、第6次福島県総合教育計画に沿った教育施策を推進するとともに、東日本大震災及び東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故からの復興に向けた取組を進め、本県教育の一層の充実と向上発展を目指すためには、適正な人事配置により、各学校の教職員組織及び教育庁職員組織を活性化し、教職員の志気の高揚を図らなければならない。

本委員会は、この実現のため、下記の方針に基づき人事異動を行うものである。

I 基本方針

- 1 全県的視野に立ち、適材を適所に配置し、教育効果及び行政効果の向上を図る。
- 2 教育の機会均等の理念に立脚し、各学校の教職員組織の充実と均衡に努めるとともに、第6次福島県総合教育計画に沿った教育施策を推進するため、教育庁職員組織の充実を図る。
- 3 厳正かつ適正な人事を行い、各学校の教職員及び教育庁職員の志気の高揚を図る。
- 4 教育に対する県民の信頼と期待に応えるため、人事の公平性・公正性・透明性の確保に一層努める。
- 5 東日本大震災及び東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故に伴う様々な課題に適切に対応するための教員配置等を継続し、復興に向けた取組を進める。

II 重点

- 1 市町村立学校関係
 - (1) 教育の充実を図るため、有能適格な教職員の採用に努めるとともに有為な人材を登用する。
 - (2) 教職員組織の充実と均衡を図るため、計画的な異動を推進する。
 - (3) 特別支援教育及びへき地教育の充実を図るため、適任者を配置するとともに適正な異動を行う。
 - (4) 管理監督の立場となる職への登用に当たっては、その職責の重要性に鑑み、適任者を厳選し、適所に配置

する。

2 平成28年度公立小・中学校人事(平成28年3月末公表)

(1) 異動件数

異動件数2,980件(前年度2,982件) 2件の減少となった。

(2) 採用について

本年度は218名(小学校教諭130名、中学校教諭46名、養護教諭23名、事務職員13名、栄養職員6名)を新規に採用した。

(3) 異動について

各学校の均衡を図るため、免許状、年齢構成、性別等に考慮して、努めて広域にわたるとともに、各地域の実態に応じ、都市、へき地等相互間の計画的な異動を積極的に行うようにした。

また、東日本大震災後の児童・生徒の学力向上や心のケアに配慮するとともに、警戒区域等にあつて臨時休業中の学校の再開を視野に入れた教職員配置に努め、相双地区で臨時休業中の学校の教職員については、被災した児童生徒を受け入れている学校に兼務加配として配置した。

(4) 昇任について

ア 管理職への昇任は校長105名(小学校81名、中学校24名、前年度比21名増)、教頭138名(小学校93名、中学校45名、特別支援学校0名、前年度比39名増)、計243名で、前年度より60名増加した。

イ 女性教員の管理職登用に意を用いた。小学校長10名、中学校長2名、小学校教頭9名、中学校教頭5名を登用した。

ウ 教頭の昇任は受考者497名に対し、138名で昇任率は27.5%となっている。

(5) 退職について

ア 平成28年度末の退職者数は447名で前年度に比べ19名の増である。

イ 退職者の内訳は定年退職者299名、勸奨による退職者111名、普通退職者37名となっている。

ウ 退職者中、校長は108名(小学校82名、中学校26名、

市立特別支援学校0名)、教頭は38名となっている。

3 教育職員免許状の授与状況

平成28年度中に本県で授与した教育職員免許状は、総数で1,549件あり前年度より43件増となっている。

普通免許状は、前年度より37件増で1,460件、臨時免許状は9件増で89件、特別免許状は前年度より3件減で0件となっている。

普通免許状のうち平成28年度大学卒業者の占める割合は、約78%で、1,145件となっている。

免許状の種類別授与件数は、次のとおりである。

小学校教諭専修免許状	12件
同 一種免許状	125件
同 二種免許状	34件
中学校教諭専修免許状	27件
同 一種免許状	269件
同 二種免許状	11件
同 特別免許状	0件
高等学校教諭専修免許状	33件
同 一種免許状	359件
同 特別免許状	0件
幼稚園教諭専修免許状	2件
同 一種免許状	51件
同 二種免許状	410件
特別支援学校教諭専修免許状	1件
同 一種免許状	33件
同 二種免許状	59件
養護教諭専修免許状	0件
同 一種免許状	2件
同 二種免許状	13件
栄養教諭専修免許状	0件
同 一種免許状	15件
同 二種免許状	4件
特別支援学校自立活動教諭一種免許状	0件
小学校助教諭免許状	49件
中学校助教諭免許状	12件
高等学校助教諭免許状	20件
幼稚園助教諭免許状	3件
特別支援学校助教諭免許	5件
特別支援学校自立教科助教諭免許状	0件
養護助教諭免許状	0件

4 学校の設置及び統廃合

地域社会における過疎・過密化の進行に伴い地域の事情に応じた教育諸条件の整備充実が図られてきた。学校規模の適正化もその一つであり、地域にあった設置、廃止が計画的に進められている。

公立小・中学校の設置・廃止

	廃止(平成29.3.31)	設置(平成29.4.1)
小学校	福島市立大波小学校 伊達市立五十沢小学校 伊達市立白根小学校 伊達市立山舟生小学校 伊達市立富野小学校 伊達市立大枝小学校 田村市立古道小学校 田村市立岩井沢小学校 相馬市立玉野小学校	田村市立都路小学校
中学校	南会津町立檜沢中学校 相馬市立玉野中学校	

5 学校防火

学校火災は、公有財産を消失し、児童生徒に精神的な打撃を与え学校教育の質の低下を招くとともに、教育行政を停滞させるなど、社会に及ぼす物心両面の影響はきわめて大きい。

県教育委員会は、市町村教育委員会の協力のもと、次の観点から、各学校における防火体制を再点検し、その強化を図っているところである。

- ・ 学校防火計画及び防火診断の内容と方法の改善
- ・ 木造校舎を中心とする防火上の施設設備の充実と整備方法の改善
- ・ 児童生徒及び教育関係者の防火意識の高揚と防火訓練の強化

平成28年度の学校火災は、市町村立中学校において1件発生し、前年度より2件減少した。今後とも学校火災の絶無を期するよう努める。

また、昭和50年度以降の県内の学校火災は原因別にみると、放火又は放火の疑い、火遊び、たばこの不始末など生徒指導上の問題と関連の深い火災が多く、防火の面からも生徒指導の一層の充実と強化を図る必要がある。なお、原因不明による火災が突出している。

次に、学校の警備状況を見ると、その多くが機械警備となっており、機械が探知した火災情報の確認から消火活動に至るまで、関係者の連携が一層迅速になるよう検討し、改善を図っていくことが重要である。

さらに、灯油、アルコール、シンナー等の燃えやすい物質や混合爆発、発火等の可能性の高い毒劇物・危険物等薬品の保管については、防火上のみならず、防犯上からも厳重な管理を徹底していくことが必要である。

平成28年度の学校防火診断の概要及び学校管理の状況は次のとおりである。

(1) 平成28年度公立小・中・特別支援学校防火診断項目

- ア 防火体制について
- イ 警備員、代行員の勤務状況について
- ウ 火気関係設備及び取り扱い状況について

- エ 電気設備について
- オ 消防用設備及びその管理について
- カ その他
 - ・諸表簿の管理状況
 - ・毒劇物・危険物等薬品の保管状況

結果や実際の学校火災事例等をもとに、防火対策上必要な措置を市町村教育委員会及び各小・中・特別支援学校に指導した。

※ 平成21年度より県教育委員会による研修を目的とした学校防火診断は実施しないこととしたが、市町村教育委員会と連携を図りながら、各学校における防火診断の適正な実施を行っていく。

(2) 学校防火診断の実施と活用

- ア 各学校における防火診断に係る報告を集約し、実施状況や課題を確認した。
- イ 学校事故防止対策研究協議会において、防火診断の

6 へき地対策

(1) へき地学校の状況

ア へき地学校

教育事務所		級地		4 級		3 級		2 級		1 級		準 1 級		特 地		教育事務所指定		計		
		本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	
小 学 校	県北								2								15		17	0
	県中					2		3	1	1	1	1	1	1	1	1	28	1	35	4
	県南			1				1									9		11	0
	会津					3		4			1						6		14	0
	南会津					7		1									6		14	0
	相双					2		2			2						4		10	0
	いわき					2		2			1						9	1	14	1
	計	0	0	1	0	16	0	15	1	5	1	1	1	1	1	1	77	2	115	5
中 学 校	県北							1									7		8	0
	県中					2		2			1			1			10		16	0
	県南							1									4		5	0
	会津					2		4			1						6		13	0
	南会津					4											3		7	0
	相双					2		2									1		5	0
	いわき					2		2			1						4		9	0
	計	0	0	0	0	12	0	12	0	3	0	1	0	3	0	35	0	63	0	
総計	0	0	1	0	28	0	27	1	8	1	2	1	112	2	178	5				
	0		1		28		28		9		3		114		183					

イ 特別へき地学校数、学級数、児童生徒数、教員数(休校中も含む)

	小学校												中学校												合計											
	学校数			児童数			学級数			教職員数			学校数			生徒数			学級数			教職員数			学校数			児童生徒数			学級数			教職員数		
級地	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計			
4級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
3級	1	0	1	8	0	8	2	0	2	5	0	5	3級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3級	1	0	1	8	0	8				
2級	16	0	16	586	0	586	73	0	73	150	0	150	2級	12	0	12	343	0	343	32	0	32	129	0	129	2級	28	0	28	929	0	929	105	0	105	
1級	15	1	16	1077	15	1092	81	2	83	169	0	169	1級	10	0	10	523	0	523	36	0	36	133	0	133	1級	25	1	26	1600	15	1615	117	2	119	
準1	5	1	6	190	0	190	19	0	19	48	0	48	準1	3	0	3	92	0	92	9	0	9	33	0	33	準1	8	1	9	282	0	282	28	0	28	
特地	1	1	2	54	12	66	7	2	9	12	0	12	特地	1	0	1	30	0	30	3	0	3	11	0	11	特地	2	1	3	84	12	96	10	2	12	
教育事務所指定	72	2	74	5280	15	5295	407	2	409	801	0	801	教育事務所指定	23	0	23	2113	0	2113	104	0	104	331	0	331	教育事務所指定	95	2	97	7393	15	7408	511	2	513	
合計	110	5	115	7195	42	7237	589	6	595	1185	0	1185	合計	49	0	49	3101	0	3101	184	0	184	637	0	637	合計	159	5	164	10296	42	10338	773	6	779	

(2) へき地教育の振興策

へき地の学校は、概して小規模であり、また、複式学級も多い。したがって、教育条件の改善充実を図るとともに、へき地学校に優秀な教員を確保することが緊要である。

ア へき地教育の人事行政

「平成28年度人事異動方針」第1の2において、「教育の機会均等の理念に立脚し、各学校の教職員組織の充実と均衡に努めるとともに、第6次福島県総合教育計画に沿った教育施策を推進するため、教育庁職員組織の充実を図る」ことを基本として掲げ、これを受けて平成28年度小・中・特別支援学校教職員人事異動実施要項第2の2の(1)において「異動のための区分を設定し、すべての教職員を在職期間中に都市、平地、へき地の勤務を公平に経験させる」こととし、へき地と各地域との計画的な異動の推進を図った。

a へき地異動の地域区分

県内の地域区分を次のとおりとする。

- A地域 市の中心部で比較的交通の便のよい地区及び桑折町、国見町、鏡石町、石川町、浅川町、三春町、小野町、棚倉町、塙町、会津坂下町、会津美里町、浪江町、富岡町の中心部の学校
- B地域 A及びC地域以外の学校
- C地域 へき地の学校(人事委員会・教育事務所指定の学校)

b 異動基準

- (a) へき地学校勤務については次の基準による。
 - へき地学校勤務未了者については、へき地学校へ計画的に転出させる。へき地学校勤務満了者であっても、へき地学校に勤務すべき該当者が少ない場合においては、へき地学校へ計画的に転出させる。
 - へき地学校勤務については、別表1による期間勤務した場合は満了とする。ただし、会津ブロック外出身者の会津ブロックへき地学校勤務については、別表2による。
 - すでに、へき地学校勤務満了者が、再び相当期間へき地学校に勤務し、都市又は平地の学校に転出を希望する者については考慮する。相当期間とは、2年以上とする。

別表1 (教員のへき地校勤務年数)

級別	教育事務所指定のへき地	人事委員会指定へき地			
		特地・準1級地	1級地	2級地	3級地
勤務年数	4年以上	3年以上	2年以上		

別表2 (教員のへき地校勤務年数)

会津ブロック外出身者の会津ブロックへき地勤務年数(新採は含まない)	へき地級地別	
	教育事務所指定	特地、準1級地、1級地以上
	3年以上	2年以上

(b) 他管内へき地等への計画的異動

小学校・中学校等に勤務する教員のうち、学習指導等の実績のある優秀な教員を選考して、他管内へき地等の学校に計画的に異動させ、その教育実践を通して、県内全域の教育の振興・充実を図ることとした。異動先での勤務期間は3年以上である。また、異動先での勤務期間を良好な成績で勤務した者については、教頭昇任選考筆頭試験の一部(指導関係)を免除する施策もあわせて実施した。

イ へき地学校教職員の経済的優遇策

人事委員会指定のへき地学校等に勤務する教職員に対し、次の手当が支給される。

○ へき地手当等の支給

勤務するへき地学校等の級別区分に応じて、次のとおり支給される。

級地	手当額	支給割合
4級地	(給料の月額+教職調整額+扶養手当)×支給割合	20/100
3級地		16/100
2級地		12/100
1級地		8/100
準1級地		4/100

(注) 給料の月額=給料月額+給料の調整額

○ へき地手当に準ずる手当

へき地学校等又は特別の地域に所在する学校等(人事委員会指定)へ、異動に伴い住居を移転した場合に支給される。

・異動日から5年間

(異動等の日における給料の月額+教職調整額)

- +扶養手当)×4%
- ・5年を経過した後の1年間
- (異動等の日における給料の月額+教職調整額
- +扶養手当)×2%

ウ ヘキ地学校教職員の配置に対する特別措置

ヘキ地教育振興法第4条の2項に「都道府県は、ヘキ地学校に勤務する教員及び職員の決定について特別の考慮を払わなければならない。」とあり、本県としてもヘキ地学校教職員及び養護教員、事務職員等の配置について特別措置を講じている。

(3) 今後の問題点

- ア ヘキ地学校の教職員配置の改善を図ること。
ヘキ地学校の教職員の年齢構成からみて、中堅教員が少ない傾向にある。今後中堅教員を計画的にヘキ地に配置していく必要がある。
また、ヘキ地に勤務する教職員の優遇策や地元の受け入れ態勢の整備充実について努力する必要がある。
- イ 都市・平地とヘキ地との人事異動を推進すること。
ヘキ地学校勤務未了者を解消するため、これまでも計画的に平地、ヘキ地の異動を推進してきた。今後一層計画的、広域的な異動を推進する必要がある。

第3節 学校教育

1 概要

(1) 指導行政の基本方針

平成22年3月に策定した本県の教育施策を総合的・計画的に推進するための指針である「第6次福島県総合教育計画」(平成25年3月改定)では、「“ふくしまの和”を奏でる、こころ豊かなたくましい人づくり」を基本理念に、

- ① 知・徳・体のバランスのとれた、社会に貢献する自立した人間の育成
- ② 学校、家庭、地域が一体となった教育の実現
- ③ 豊かな教育環境の形成

の3つの基本目標のもと、平成27年度の成果を踏まえるとともに、引き続き、震災後の本県学校教育分野の復興に適切に対応するため、事業を展開してきた。

特に、「夢や希望の実現に向けた、たくましく生き抜く力を育む教育の推進」「学校、家庭、地域の連携・協力による、総合的な教育力の向上」「安全・安心で魅力ある教育環境の充実」を、重視する3つの観点として、学校教育の推進を図ってきた。

(2) 指導組織

各課長を中心に、主幹、主任指導主事、指導主事及び各教育事務所学校教育課長、指導主事、各市町村教育委員会指導主事等(下表)によって、幼稚園、小学校、中学校の指導に当たった。

	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	計
指導主事数 (学校教育課長を含む)	11	13	9	13	7	12	9	74
市町村教育委員会 指導主事等数	27	44	12	15	1	15	19	133

(3) 学校教育指導の重点

学習指導要領の趣旨を踏まえ、「確かな学力」「豊かな人間性・社会性」の育成を図るため、教育課程の改善・充実、学習指導と生徒指導の充実に努めた。

- ア 教育内容・方法の改善充実に努めた。
 - (ア) 「学校教育指導の重点」などにより、具体的な実践例を紹介したり指導の重点を示したりし、授業の改善が図られるようにした。
 - (イ) 本県教育行政の推進を図るため、指導担当者の資質向上のための研修に努めた。
 - 指導担当者研究協議会
 - 主任指導主事等会議
 - 学力向上担当指導主事会議
 - 生徒指導担当指導主事会議
 - (ウ) 小・中学校教育課程研究協議会を開催し、学習指導要領の趣旨の徹底と教員の指導力向上を図った。
 - 対象者 各校長・教頭及び教務主任等のうちから2名以内
 - (エ) 福島県小・中学校教育研究会を共催し、教育課程実施上の諸問題を研究し、その改善・充実に努めた。
 - (オ) 各種研究学校(地区)を指定し、指導内容や指導方法の改善・充実に努めた。
 - 文部科学省及び国立教育政策研究所の研究委託による研究指定校等
 - ・ 生徒指導・進路指導総合推進事業 ほか
 - 県教育委員会による研究指定校
 - ・ 学力向上推進支援事業 ほか
- イ 教職員の資質と指導力の向上に努めた。
 - (ア) 小学校、中学校初任者研修の実施
 - (イ) 事務職員、教職経験者、校長研修会、新任校長、新任教頭、新任教務主任等の研修会の実施
 - (ウ) 中央研修講座への派遣
 - (エ) 長期研修生(内地留学)の派遣
 - (オ) 教育研究団体に対する援助と指導
 - (カ) 教職員研究論文の募集
- ウ 免許外教科担当教員の研修の充実と指導力の向上に努めた。
 - (ア) 中学校免許外教科担任教員研修会
- エ 幼稚園教育担当教員の研修の充実と指導力の向上に努めた。
 - (ア) 幼稚園等新規採用教員研修
 - (イ) 幼稚園経験者研修Ⅱ
 - (ウ) 幼稚園教育理解推進事業中央協議会

- (エ) 幼稚園教育課程研究協議会
- (オ) 幼児教育実技研修会
- オ 生徒指導の充実に努めた。
 - (ア) 運営協議会を開催し、生徒指導の充実に努めた。
 - いじめ対策等生徒指導総合推進事業運営協議会 (2回)
 - (イ) 各種研修会を実施し、生徒指導の充実・改善に努めた。
 - いじめ等対策担当者協議会 (県内7地区開催)
 - (ウ) ピュアハートサポートプロジェクトを実施した。
 - いじめの問題の解消とその未然防止に努めるとともに、不登校等の学校不適応問題の解決に努めた。
 - 教育相談体制の充実
 - ・ スクールカウンセラー等活用事業
 - ・ 緊急時カウンセラー派遣事業
 - ・ 学校教育相談員 (教育センターに配置)
 - ・ スクールカウンセラー緊急派遣事業 (震災対応)
 - ・ スクールソーシャルワーカー緊急派遣事業
 - ・ 子ども24時間いじめ電話相談
 - ・ サポートティーチャー派遣事業
 - 道徳教育の充実
 - ・ 道徳教育総合支援事業
 - ・ 道徳教育推進校による実践研究 (7地区)
 - ・ 道徳教育教材作成
 - 教育相談専門研修及び関係機関との連携強化
- カ 社会の変化に対応した教育の充実に努めた。
 - (ア) 情報化社会への対応
 - 学校におけるコンピュータ等の整備 (市町村教委)
 - (イ) 国際化への対応
 - 語学指導等を行う外国青年招致事業の実施
 - 140名の外国JET青年の受入れ (101名を市町村教育委員会が配置)

(4) 県立中学校入学者選抜

ア 基本方針

「平成29年度福島県立中学校入学者選抜における基本方針」

県立中学校入学者選抜に当たっては、適性検査及び作文の成績、面接の結果、並びに小学校の校長から提出される調査書を資料として、志願者の意欲・能力・適性等を総合的に判定し、入学予定者を決定するものとする。

- (ア) 選抜の資料は次のとおりとする。
 - a 適性検査
 - 問題発見・解決能力、思考力、判断力、表現力等、小学校における教育において身に付けた総合的な力をみる。
 - b 作文
 - 与えられた課題について、考えたことや感じたことなどをまとめ表現する力をみる。
 - c 面接
 - 志願者の目的意識、意欲や長所等をみる。

d 調査書

小学校での学習や生活の状況をみるために、各教科の学習の記録、外国語活動の記録、総合的な学習の時間の記録、特別活動の記録、行動の記録などが記載された調査書を選抜資料に用いる。

なお、調査書は福島県教育委員会教育長が定める様式及び調査書作成要領に基づき、志願者の在学している小学校の校長が作成する。

- (イ) 入学予定者の決定に当たっては、次の手順で行う。
 - まず、適性検査及び作文の成績の合計並びに調査書の成績のいずれもが定員内にある者で、かつ、調査書の記載事項及び面接の結果に特に問題のない者を入学予定者とする。
 - 次に、その他の者については、適性検査及び作文の成績、調査書の記載事項並びに面接の結果を十分に精査して、総合的に判定し、入学予定者を決定する。
- (ウ) 選抜結果については、志願者及び志願者の在学している小学校の校長に通知するものとする。
- (エ) 入学辞退その他の理由により入学予定者の定員に欠員が生じた場合は、入学予定者とならなかった者の中から速やかに新たな入学予定者を決定し、入学の意思を確認の上、補充するものとする。

イ 入学者選抜関係日程

- 6月9日 第1回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議
- 7月14日 第2回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議
- 8月22日 県立中学校・高等学校入学者選抜方法の改善に関する調査研究報告書提出
- 10月3日、10月7日 県中及び会津地区で入学者選抜実施要綱説明会実施
- 10月14日 平成29年度入学者募集定員決定
- 12月5日～12月9日 出願書類受付
- 1月7日 適性検査、作文及び面接
- 1月13日 選抜結果通知書の発送
- 1月16日～1月20日 入学確約書提出
- 1月23日～1月27日 欠員補充

2 現職教育

(1) 教職員等中央研修

ア 趣旨

校長、教頭、中堅教員に対し、学校の管理運営、学習指導などの諸問題について、それぞれの職務に必要な研修を行い、その識見を高め、指導力の向上を図る。

- イ 主催 独立行政法人教員研修センター
- ウ 共催 文部科学省
- エ 会場 独立行政法人教員研修センター
- オ 期間及び参加者

◇校長研修

6月13日(月)～6月17日(金)

福島市立大島中学校

安齋 康仁

田村市立古道小学校 平塚 裕二
郡山市立大槻小学校 酒井 勝弘
郡山市立日和田中学校 熊坂 洋
教育センター主任指導主事 石綿 厚

◇副校長・教頭研修

7月25日(月)～8月5日(金)

白河市立信夫第一小学校 教頭 岸波 明美

2月6日(月)～2月17日(金)

会津若松市立北会津中学校 教頭 遠藤 修一

◇中堅教員研修

7月19日(火)～8月5日(金)

本宮市立本宮まゆみ小学校 大野 武文

会津若松市立鶴城小学校 五十嵐直登

新地町立駒ヶ嶺小学校 荒 博史

郡山市立富田西小学校 三坂 克典

8月8日(月)～8月26日(金)

伊達市立桃陵中学校 金子 雄樹

只見町立只見中学校 青田 亮一

郡山市立日和田中学校 矢吹 真

11月21日(月)～12月9日(金)

平田村立蓬田小学校 田中 知

(2) 各種研修会

ア 福島県公立学校長研修会地区別研修会(公立小・中・特別支援学校長、県立学校長)

(ア) 主催 福島県教育委員会

(イ) 管内・期日・会場・参加人数【参加760名】

- 県北 6月24日(金) 【伊達市ふるさと会館】 150名
- 県中 6月21日(火) 【郡山市労働福祉会館】 203名
- 県南 6月15日(水) 【西郷村文化センター】 67名
- 会津 6月27日(月) 【会津美里町新鶴公民館】 110名
- 南会津 6月21日(火) 【御蔵入交流館】 24名
- 相双 6月22日(水) 【安達公民館】 85名
- いわき 6月20日(月) 【いわき合同庁舎】 121名

イ 公立小・中・特別支援学校新任校長研修会

(ア) 主催 福島県教育委員会

(イ) 会場 福島県教育センター

(ウ) 期間・参加人数

4月27日(水)～4月28日(木) 小学校 76名

中学校 21名

(エ) 講師 義務教育課長 佐藤 秀美 他

ウ 公立小・中・特別支援学校新任教頭研修会

(ア) 主催 福島県教育委員会

(イ) 会場 福島県教育センター

(ウ) 期間・参加人数

5月16日(月)～5月17日(火) 小学校 88名

5月19日(木)～5月20日(金) 中学校 42名

(エ) 講師 義務教育課主幹 佐藤 浩哉 他

エ 公立小・中・特別支援学校新任教務主任研修会

(ア) 主催 福島県教育委員会

(イ) 管内・期日・会場・参加人数

○ 県北 5月25日(水)【二本松文化センター】

小学校16名 中学校8名 特別支援学校1名

○ 県中 5月12日(木)【郡山合同庁舎】

小学校11名 中学校5名 特別支援学校0名

○ 県南 5月11日(水)【白河合同庁舎】

小学校10名 中学校5名 特別支援学校0名

○ 会津 5月11日(水)【湯川村公民館】

小学校10名 中学校4名 特別支援学校0名

○ 南会津 5月11日(水)【湯川村公民館】

小学校1名 中学校1名 特別支援学校0名

○ 相双 5月17日(火)【南相馬合同庁舎】

小学校7名 中学校3名 特別支援学校0名

オ 公立小・中学校経験者研修(I、II)

(ア) 経験者研修 I

○ 主催 福島県教育委員会

○ 期間・会場

a 5月～12月 勤務校

b 5月～12月 研修会等への参加

※先進校での研修

c 6月～10月 教育センター

(小) 6月15日(水)～17日(金)

(中) 10月5日(水)～7日(金)

10月18日(火)～20日(木)

○ 参加人数(小学校55名、中学校45名)

○ 講師 教育センター依頼の外部講師・大学教授

※主にセンター指導主事が講座担当、一部大学教授等が講師

(イ) 経験者研修 II

○ 主催 福島県教育委員会

○ 期間・会場

a 4月～11月 教育事務所

b 5月～1月 勤務校

c 9月～11月 教育センター

(小) 9月12日(月)～9月14日(水)

(中) 8月31日(水)～9月2日(金)

○ 参加人数(小学校60名、中学校40名)

○ 講師 教育センター依頼の外部講師・大学教授、教育センター指導主事等

カ 公立小・中学校初任者研修

(ア) 校内における研修 150時間以上

各学校で年間を通じて計画し、実施する。

(イ) 校外における研修 22日間

a 地区別研修 A

(7日間、各教育事務所の計画による)

・ 一般研修

1日間

- ・ 授業研修 2日間
- ・ へき地校研修 1日間
- ・ カウンセリング研修 2日間
- ・ 特別支援学校研修 1日間

b 地区別研修B

(9日間、各市町村教育委員会の計画による)

- ・ 一般研修 1日間
- ・ 研究発表集会等研修 5日間
- ・ 社会奉仕体験活動研修 2日間
- ・ 他校種園参観研修 1日間

c 宿泊研修

- ・ 磐梯青少年交流の家 3日間
- ・ 教育センター 3日間

(ウ) 参加者数

- a 小学校 95名
- b 中学校 35名

キ 公立小・中・特別支援学校事務職員研修

(ア) 新規採用職員研修

- ・ 対象 平成28年度新規採用者
- ・ 日数 前期5日間、後期5日間
- ・ 参加人数21名(小学校15名、中学校5名、市立養護学校1名)
- ・ 会場 ふくしま自治研修センター

(イ) 基礎力アップ研修

- ・ 対象 採用後5年目
- ・ 日数 3日間
- ・ 参加人数 0名

(ウ) 応用力アップ研修

- ・ 対象 採用後9年目
- ・ 日数 2日間
- ・ 参加人数 1名

(エ) 実行力アップ研修

- ・ 対象 採用後13年目
- ・ 日数 3日間
- ・ 参加人数 4名

(オ) 総合力アップ研修

- ・ 対象 採用後21年目、41歳以上
- ・ 日数 2日間
- ・ 参加人数 0名

(カ) 新任係長研修会

- ・ 対象 新任の主任主査
- ・ 日数 3日間
- ・ 参加人数 11名

ク 事務職員研修(小・中学校)

- 主催 独立行政法人教員研修センター
- 期間 6月13日(月)～6月17日(金)
- 参加人数 3名(小学校1名、中学校2名)
- 会場 独立行政法人教員研修センター

(3) 教員長期研修

(研修機関、研修期間、研修生)

ア 上越教育大学

(ア) 平成27年4月1日～平成29年3月31日

北塩原村立第一中学校教諭 稲場 哲郎
昭和村立昭和中学校教諭 室井 章太

(イ) 平成28年4月1日～平成30年3月31日

伊達市立伊達小学校教諭 久能 潤一
会津若松市立小金井小学校教諭 鈴木 崇之

イ 福島大学

(ア) 平成27年4月1日～平成29年3月31日

福島市立吉井田小学校教諭 内池 美穂
三春町立三春小学校教諭 佐藤 幸子
石川町立中谷第二小学校教諭 力丸 愛
いわき市立小名浜第一中学校 志賀 匡行

(イ) 平成28年4月1日～平成30年3月31日

福島市立水原小学校教諭 菅野 卓郎
いわき市立三和小学校教諭 守山 直樹
矢祭町立東館小学校教諭 久野 雄平
矢祭町立石井小学校教諭 村松 弘基
北塩原村立裏磐梯小学校教諭 神尾 洋
いわき市立汐見が丘小学校教諭 星野 尊乘

(4) 平成28年度産業・情報技術等指導者養成研修(中学校)

教科	技術・家庭
氏名	星 由起子
職名	教諭
学校名	南会津町立館岩中学校
研修先	国立大学法人横浜国立大学
研修期間	8月1日～8月4日

(5) 教育研究奨励

- ア 名称 福島県教職員研究論文
イ 主催 福島県教育委員会
ウ 応募資格 福島県公立幼稚園・小・中・高・特別支援学校の教職員
エ 審査委員
福島大学総合教育研究センター准教授 宗形 潤子
こむこむ館 学習指導員 長尾順一郎
こむこむ館 学習指導員 小山 金也
オ 応募数 30点
カ 入賞者
(ア) 特選

氏名・学校名	所 属
伊達市立保原小学校	団 体
郡山市立芳賀小学校	団 体
教諭 荒井 智	白河市立小野田小学校

(イ) 入選

氏名・学校名	所 属
郡山市立朝日が丘小学校	団 体
郡山市立郡山第一中学校	団 体
塙町立塙小学校	団 体
教諭 岩本 宏幸	会津若松市立鶴城小学校
喜多方市立第二小学校	団 体
只見町立只見小学校	団 体
只見町立朝日小学校	団 体
教諭 矢内 丈博	いわき市立泉北小学校

(ウ) 奨励賞

氏名・学校名	所 属
鮫川村立青生野小学校	団 体
只見町立明和小学校	団 体
教諭 加藤 文彦	新地町立新地小学校

3 教育課程

(1) 平成28年度福島県小・中学校教育課程研究協議会

〈平成28年度福島県小学校教育課程研究協議会〉

- ア 主催 福島県教育委員会
- イ 実施期間
- | | |
|-------|--|
| 県北域内 | 9月5日(月) |
| 県中域内 | 9月2日(金) |
| 県南域内 | 9月15日(木) |
| 会津域内 | 9月15日(木) |
| 南会津域内 | 9月14日(水) 小中合同 |
| 相双域内 | 9月7日(水) 相馬地区 小中合同
9月8日(木) 双葉地区 小中合同 |
| いわき域内 | 9月7日(水) |
- ウ 実施教科等
- 総則、国語、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、体育、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動
- エ 参加者数 395名

〈平成28年度福島県中学校教育課程研究協議会〉

- ア 主催 福島県教育委員会
- イ 実施期間
- | | |
|-------|--|
| 県北域内 | 9月7日(水) |
| 県中域内 | 9月8日(木) |
| 県南域内 | 9月21日(水) |
| 会津域内 | 9月8日(木) |
| 南会津域内 | 9月14日(水) |
| 相双域内 | 9月7日(水) 相馬地区 小中合同
9月8日(木) 双葉地区 小中合同 |
| いわき域内 | 9月14日(水) |
- ウ 実施教科等
- 総則、国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、外国語、道徳、総合的な学習の時間、特別活動
- エ 参加者数 235名

4 学力向上等

(1) 学力向上推進支援事業

- ア 授業改善のための定着確認シート活用実践事業
- イ 学力調査研究事業
- ウ 学校図書館の活性化実践事業

(2) ふくしまからはじめよう。学力向上のための「つながり教育」推進事業

(3) ふくしまからはじめよう。未来を拓く理数教育充実事業

- ア 理科力アップ事業
- イ 理数教育優秀教員活用事業
- ウ 算数・数学学力向上のための学校訪問
- エ 福島県算数・数学ジュニアオリンピック事業
- オ 「科学の甲子園」福島県大会事業

(4) 少人数教育推進事業

学力向上や人間性・社会性の育成を総合的・効果的に推進するための「個に応じた指導」の徹底を図るため、チーム・ティーチングや習熟度別等指導、及び30人学級編制等

の少人数教育を進め、教員等の目が子ども一人一人に行き届き、きめ細かな指導や評価ができる体制を作る。

- 30人程度学級
- 30人学級編制(小1、小2、中1)

5 放射線教育(放射線教育推進支援事業)

未来を拓く社会の一員として、放射線等に関する知識や身の回りで行われている復興への取組を基に、自ら考え、判断し、行動する力を育成することを目的とした取組の支援として、下記の事業等を実施した。

(1) 実践協力校

- ア 小学校
- 川俣町立川俣小学校
西郷村立羽太小学校
会津若松市立行仁小学校
富岡町立富岡第一・第二小学校
いわき市立小名浜第一小学校
- イ 中学校
- 三春町立三春中学校
南会津町立只見中学校
富岡町立富岡第一・第二中学校

(2) コーディネーター養成研修会

- ア 主催 福島県教育委員会
- イ 期日 平成28年8月4日(木)
- ウ 会場 環境創造センター
- エ 参加者 93名

(3) 地区別研究協議会

- ア 主催 福島県教育委員会
- イ 期日
- | | |
|-------|-----------|
| 県北域内 | 8月23日(火) |
| 県中域内 | 9月7日(水) |
| 県南域内 | 10月14日(金) |
| 会津域内 | 9月2日(金) |
| 南会津域内 | 10月6日(木) |
| 相双域内 | 10月13日(木) |
| いわき域内 | 8月19日(金) |
- ウ 参加者数 752名

(4) 運営協議会

- ア 主催 福島県教育委員会
- イ 期間 4月～2月(6回)
- ウ 参加対象者 本庁関係課、教育事務所、教育センターの担当指導主事等及び実践協力校担当者、放射線教育推進委員
- エ 内容 各種放射線教育研究協議会の企画・立案、指導資料の作成及び事業の総括

(5) 「放射線・防災教育指導資料(活用版)」「放射線・防災教育実践事例パンフレット」の作成と配付

- ア 発行者 福島県教育委員会
- イ 発行 平成29年3月
- ウ 部数 指導資料活用版 : 10000部
実践事例パンフレット : 32000部

6 防災教育

「生き抜く力」を育む防災教育推進事業

地域の自然環境、災害や防災について正しい知識を身に付け、災害発生時における危険を理解し、状況に応じて的確な判断の下に、自らの安全を確保するための行動ができたり、災害発生時及び事後に、進んで他の人々や集団、地域の安全に役立つことができたりする態度及び能力を児童生徒に育成するため、下記の事業等を実施した。

(1) 実践協力校

福島市立佐倉小学校
猪苗代町立吾妻小学校
南相馬市立高平小学校

(2) 地区別研究協議会

ア 主催 福島県教育委員会

イ 期日

県北域内 8月23日(火)
県中域内 9月7日(水)
県南域内 9月5日(月)
会津域内 10月6日(木)
南会津域内 9月8日(木)
相双域内 10月13日(木)
いわき域内 7月14日(木)

ウ 参加者 731人

(3) 運営協議会

ア 主催 福島県教育委員会

イ 期間 4月～1月(6回)

ウ 参加対象者 本庁関係課、教育事務所、教育センターの担当指導主事等及び実践協力校担当者

エ 内容 防災教育地区別研究協議会の企画・立案、指導資料の作成及び事業の総括

(4) 「防災個人カード」の作成と配付

ア 発行者 福島県教育委員会

イ 発行 平成28年5月

ウ 配付者 県内国公立私立小学1年生

(5) 「放射線・防災教育指導資料(活用版)」「放射線・防災教育実践事例パンフレット」の作成と配付

ア 発行者 福島県教育委員会

イ 発行 平成29年3月

ウ 部数

指導資料活用版 : 10000部

実践事例パンフレット : 32000部

7 道徳教育

(1) 道徳教育

ア 道徳教育を推進するための中核となる指導者の養成を目的とした研修

(ア) 主催 中央指導者研修

独立行政法人教員研修センター

ブロック別指導者研修

独立行政法人教員研修センター、

福島県教育委員会

(イ) 会場 中央：独立行政法人教員研修センター

ブロック：コラッセふくしま

(ロ) 期日

中央指導者研修 平成28年5月16日～20日

ブロック別指導者研修 平成28年10月24日～10月26日

〈中央指導者研修〉

氏名	勤務先	職名
阿部 裕好	県北教育事務所	指導主事
今井 仁	只見町立只見中学校	校長
高野 道子	南相馬市立八沢小学校	教頭
國分 佐知	郡山市立高瀬小学校	教諭
栗原 洋美	郡山市立小原田小学校	教諭
窪木 富士美	いわき市教育委員会総合教育センター	指導主事

〈ブロック別指導者研修〉

佐藤 和典	三春町立岩江中学校	校長
志賀 秀幹	いわき市立小名浜東小学校	教頭
川島 心	福島県立塙工業高等学校	教諭
齋藤 園子	会津教育事務所	指導主事
新田 泰尋	郡山市教育委員会	指導主事

イ 小学校教育研究会道徳部会

(ア) 研究主題

「道徳的価値の自覚と自己の生き方についての考え方を深める指導の充実」

(イ) 主催

福島県小学校教育研究会

(ロ) 会場・期日

各地区ごとに設定

ウ 中学校教育研究会道徳部会

(ア) 研究主題

「ふるさとを愛し、ふくしまの未来を拓く、たくましい心を育てるためにはどうすればよいか」～価値を高める発問と話し合い活動の工夫～

(イ) 主催

福島県中学校教育研究会

(ロ) 会場・期日

各地区ごとに設定

(2) 道徳教育総合支援事業

ア 趣旨

学習指導要領の趣旨並びに児童生徒、学校等の実態を踏まえ、創意工夫を生かした道徳教育を推進するための実践研究を行い、その成果を普及することにより道徳教育の充実を図る。

イ 福島県道徳教育推進協議会

年2回開催(5月19日、2月7日)

- ウ 福島県道徳教育地区別推進協議会
各事務所ごとに設定、1回開催
- エ 道徳教育推進校
小学校3校、中学校3校、高等学校1校
- オ 「特別の教科道徳」の実施に向けた地区別研修会
各事務所ごとに設定、1回開催
- カ 道徳教材作成
「ふくしま道徳教育資料集」【小・中・高等学校版】
- キ 道徳教育リーフレットの作成
「道徳のとびら」

(3) 人権教育

- ア 人権教育研究開発事業
 - 趣旨
人権意識を培うための学校教育の在り方について幅広い観点から実践的な研究を行い、人権教育に関する指導方法等の改善及び充実を図る。
 - 推進地域
田村市常葉中学校区（田村市教育委員会）幼・小・中学校（1園4校）
 - 研究テーマ
自分を大切に、他の人も大切にやさしい人づくりをめざして
～家庭・地域とともに育む人権教育～
 - 研究期間
平成28・29年度
- イ 人権教育指導者養成研修
 - 主催 独立行政法人教員研修センター
 - 期日 平成28年7月13日～15日
 - 会場 独立行政法人教員研修センター
 - 参加者 田村市立常葉小学校
教頭 橋本 みゆき
田村市立常葉中学校
教諭 白岩 恒雄

(4) 「モラル・エッセイ」コンテスト

- ア 趣旨
モラルやマナー、いのち、家族、人との絆など、心温まるちょっといいお話、今伝えたいメッセージ等を募集し、学校と家庭・地域が一体となって、子どもたちの道徳的実践力を養うとともに、県民一丸となって「生きる力」を身に付ける機会とする。
- イ 応募期間
平成28年7月1日～8月28日
- ウ 応募数

中学校	1, 115点
高等学校	18点
一般	2点
- エ 受賞者
 - 【中学校】
最優秀賞 福島大学附属中学校 3年 過足 俊介
優秀賞 平田日立ひらた清風中学校 3年 國井 ひなた
白河市立表郷中学校 3年 大久保 雄飛

- 【高等学校】
最優秀賞 県立盲学校高等部 2年 鯨岡 涼
優秀賞 福島高等学校 2年 高野 真有
浪江高等学校津島校 3年 大山 美奈子
- 【一般】
最優秀賞 会津若松市在住 道川 千穂
優秀賞 会津若松市在住 小野田 敏之

8 特別活動

(1) 県小学校教育研究会特別活動部会

- ア 主催 県小学校教育研究会
- イ 研究主題
望ましい集団活動を通して、個性の伸長を図るとともに、よりよい生活や人間関係を築き、自主的、実践的な態度を育てる特別活動の指導の充実
- ウ 県研究協議会
 - 期日 平成28年10月14日(金)
 - 会場 じょーもびあ宮畑（宮畑遺跡史跡公園）

(2) 県中学校教育研究会特別活動部会

- ア 主催 県中学校教育研究会
- イ 研究主題
学校の創意工夫を生かし、よりよい集団や社会を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるための特別活動の指導はどうすればよいか。
- ウ 県研究協議会
 - 期日 平成28年10月12日(水)
 - 会場 川俣町立川俣中学校

9 生徒指導・進路指導

(1) 生徒指導

- ア 生徒指導研究連絡会議
国立教育政策研究所主催
 - 期日 平成28年6月3日
 - 会場 文部科学省講堂
 - 参加者 県教育庁義務教育課
主任指導主事 林 和樹
いわき市教育委員会
指導主事 鯨岡 寛泰
- イ 生徒指導指導者養成研修
 - 期日 平成28年6月27日～7月8日
 - 会場 独立行政法人教員研修センター
 - 参加者 会津若松市立松長小学校
教諭 高倉 順一
郡山市立富田中学校
教諭 諸越 正直
- ウ 教育相談指導者養成研修
 - 期日 平成28年8月23日～8月26日
 - 会場 独立行政法人教員研修センター
 - 参加者 郡山市立富田小学校
教諭 荻原 直樹

(2) 進路指導・キャリア教育

- ア キャリア教育指導者養成研修会(第2回)
- (ア) 主催 独立行政法人教員研修センター
- (イ) 会場 独立行政法人教員研修センター
- (ウ) 期間 平成28年6月6日(月)～6月10日(金)
- (エ) 参加者
- | | |
|--------------|--------|
| 伊達市立大田小学校教諭 | 山室 紀幸 |
| 棚倉町立棚倉小学校教諭 | 中野 久美子 |
| 郡山市立片平中学校教諭 | 矢吹 憲正 |
| 福島県立新地高等学校教諭 | 高村 泰広 |

- エ 参加者 研修対象者 公立47名 私立71名 計118名
- オ 内容 講義……教師の役割、幼稚園教育の現状
- 演習……遊びに必要な材料の工夫
- 協議……諸問題、教師のかかわり
- 実技……絵本のイメージと遊び、みんなで楽しむ歌やゲーム
- 参観……先進的研究実践園、小学校、保育所
- 実習……保育実習

10 幼稚園教育

平成28年度公立幼稚園数は、166園(休園20を含む)であった。学級数は428学級であったが、東日本大震災及びその後の原子力発電所事故の影響による幼児数の減少も影響し、少人数保育になっているところが多い。県全体の公立幼稚園平均学級園児数は、15.4人である。

幼稚園教育の一層の充実を図るため、市町村教育委員会、福島県公立幼稚園・こども園教育研究会及び公益社団法人福島県私立幼稚園連合会協会等の協力を得て、次の事業を実施した。

(1) 幼稚園教育課程研究協議会

- ア 主催 福島県教育委員会
- イ 期日
- | | |
|----------|-----------|
| 県北域内 | 10月 5日(水) |
| 県中域内 | 9月 9日(金) |
| 県南域内 | 9月27日(火) |
| 会津・南会津域内 | 10月 7日(金) |
| 相双域内 | 9月23日(金) |
| いわき域内 | 9月16日(金) |
- ウ 内容
- 幼稚園教育要領の理解
 - 幼稚園の教育活動及び運営に係る課題と対応策
 - 幼児期における運動遊びに関する講義
- エ 参加者数 315名(6地区合計)

(2) 幼児教育実技研修会

- ア 主催 福島県教育委員会
- イ 期日 平成28年8月3日(水)～8月5日(金)
- ウ 会場 福島大学附属幼稚園
- エ 受講者 のべ358名(3日間合計)

(3) 福島県幼稚園等新規採用教員研修

- ア 主催 文部科学省、福島県教育委員会
- イ 会場 教育センターが定めた場所、勤務園、参観を希望する幼稚園、保育所、小学校
- ウ 日数 園外研修(教育センターの計画) 3泊4日
- 〃 (教育センターの計画) 3日間
- 〃 (幼稚園、保育園、小学校参観) 3日間

(4) 幼稚園経験者研修Ⅱ

- ア 主催 文部科学省、福島県教育委員会
- イ 期日 年間
- ウ 日数・内容・会場
- 園外研修…5日以上
 - ・共通研修………1日(各教育事務所)
 - ・保育専門研修…1泊2日(教育センター)
 - ・社会体験研修…1日(社会体験を行う各施設等)
 - ・選択研修 ……1日以上(幼児教育実技研修会等)
 - 園内研修…7日以上
 - ・保育力の向上に関する研修
 - ・教育課題の解決に向けた実践に関する研修
 - ・パイオニア研修
- エ 参加者 研修対象者 公立15名 私立0名 計15名

(5) 幼児教育指導者養成研修

- ア 期日 平成28年11月30日(水)～12月2日(金)
- イ 会場 独立行政法人教員研修センター
- ウ 参加者 義務教育課 指導主事 君 佳子

11 へき地教育

本県におけるへき地学校は、県全体の小・中学校別の総数に対して、小学校120校で、26.3%、中学校63校で28.3%を占め、小・中学校総数に対して26.9%の割合となっている。

このへき地、山村、過疎地域の教育の振興を図るため、下記の事業を実施した。

(1) 複式学級担当教員研修会

- ア 主催 福島県教育委員会
- イ 期日 平成28年5月23日(月)～5月24日(火)
- ウ 会場 福島県教育センター
- エ 講師 小学校教諭他
- オ 参加者数 46名

(2) 中学校免許外教科担当教員研修会

- ア 主催 福島県教育委員会
- イ 期日 平成28年5月9日(月)～5月11日(水)
- 平成28年5月25日(水)～5月27日(金)
- ウ 会場 福島県教育センター
- エ 講師 中学校教諭他
- オ 参加者数 84名

(3) 全国へき地教育研究大会

第65回全国へき地教育研究大会青森大会
 ア 主催 文部科学省、全国へき地教育研究連盟
 青森県教育委員会
 イ 期日 平成28年10月13日(木)～10月14日(金)
 ウ 会場 全体会 リンクステーションホール青森
 分散会 県内3会場
 分科会 県内9会場

エ 研究主題
 ○ 大会主題
 「ふるさとで心豊かに学び、新しい時代を切り拓く子どもの育成」
 オ 派遣者氏名

氏名	職	勤務先
遠藤 敦子	教諭	二本松市立旭小学校
高原 元樹	教諭	天栄村立湯本中学校

(4) 福島県へき地・小規模学校教育研究会

平成22年度末に福島県へき地・小規模学校教育研究会が解散している。

12 環境教育

学校における環境教育は、学校教育全体を通して行う必要があり、自然とふれあいを深め自然を愛護することの大切さを理解させるように努めている。

(1) 「尾瀬サミット」小・中学生3県交流事業「尾瀬子どもサミット」

ア 主催 福島県教育委員会
 群馬県・群馬県教育委員会

新潟県教育委員会

イ 期日 平成28年7月26日(火)～7月29日(金)
 ウ 会場 群馬県利根郡片品村「至仏山荘」
 エ 参加者数 福島県 県内小・中学生20名
 群馬県 県内小・中学生20名
 新潟県 県内小・中学生20名
 オ 活動内容 尾瀬レクチャー・フィールド活動・意見交換会
 カ 知事報告会 平成28年7月29日(金) 県庁

13 教科用図書

(1) 平成29年度使用教科用図書の採択

公立小・中学校教科用図書の採択は、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」に基づき、学校教育法附則第9条図書を採択した。小・中学校用教科書は継続採択であった。

ア 教科用図書選定審議会

(ア) 委員 16名

(イ) 任期 平成28年4月1日～平成28年8月31日

(ウ) 開催期日 第1回 平成28年4月12日

第2回 平成28年5月26日

(エ) 会場 第1回 県庁本庁舎5階 正庁

第2回 福島県教育センター231 研修室

イ 教科書展示会

平成28年6月17日から14日間、県内18の会場で開催した。会場及び来会者は下の表のとおりである。

※ 双葉教科書センターは震災の影響により休止

教科書センター (展示会場)	採択地区名	展示教科書(該当に○印)			展示会場設置場所(該当に○印)			来会者総数
		小・中・高	小・中	高	教科書センター	分館	その他	
福島教科書センター(福島市立図書館)	福島・伊達・安達地区	○			○			10
伊達教科書センター(保原小学校)	〃		○		○			25
二本松教科書センター(二本松市文化センター)	〃		○		○			3
郡山教科書センター(郡山市中央図書館)	郡山地区	○			○			26
須賀川教科書センター(文化の森てんえい)	岩瀬地区		○			○		30
石川教科書センター(石川中学校)	石川地区		○		○			44
三春教科書センター(田村市図書館)	田村地区		○		○			10
〃(三春小学校)	〃		○				○	3
〃(小野町文化の館)	〃		○				○	18
西白河教科書センター(白河市立図書館)	西白河・東白川地区	○			○			115
東白川教科書センター(棚倉町立図書館)	〃	○			○			40
会津若松教科書センター(会津若松市歴史センター)	会津地区	○			○			1
喜多方教科書センター(喜多方第一小学校)	〃	○			○			4
会津坂下教科書センター(坂下南小学校)	〃	○			○			10
南会津教科書センター(御蔵入交流館)	〃		○		○			34
南会津教科書センター(南会津中学校)	〃		○			○		13
相馬教科書センター(相馬市立中央図書館)	相馬地区	○			○			66
〃(広野町中央公民館)	〃		○				○	46
双葉教科書センター(富岡町文化交流センター)	双葉地区		—		—			—
いわき教科書センター(いわき市総合教育センター)	いわき地区	○			○			17
合計	(展示会場19箇所) (採択地区10地区)	9	10		14	2	2	515

ウ 平成29年度使用小学校教科書採択一覧（採択3年目）

種目	国語	書写	社会	地図	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	保健
採択地区											
福島・伊達・安達	東書	東書	東書	帝国	東書	東書	東書	教芸	日文	開隆堂	東書
郡山	光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教芸	開隆堂	東書	学研
田村	光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教芸	日文	東書	東書
岩瀬	光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教出	日文	東書	東書
石川	光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教出	開隆堂	開隆堂	東書
西白河・東白川	光村	光村	東書	東書	教出	東書	東書	教出	開隆堂	開隆堂	東書
会津	東書	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教出	日文	東書	東書
相馬	光村	光村	東書	東書	東書	東書	東書	教芸	日文	東書	東書
双葉	光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教芸	日文	東書	東書
いわき	光村	東書	東書	帝国	東書	東書	東書	教出	日文	開隆堂	東書

エ 平成29年度使用中学校教科書採択一覧（採択2年目）

種目	国語	書写	社会 (地理的分野)	社会 (歴史的分野)	社会 (公民的分野)	地図	数学	理科	音楽 (一般)	音楽 (器楽合奏)	美術	保健体育	技術・家庭 (技術)	技術・家庭 (家庭)	英語
採択地区															
福島・伊達・安達	光村	東書	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	東書	東書
郡山	光村	光村	帝国	帝国	東書	帝国	東書	東書	教芸	教芸	日文	学研	東書	東書	東書
田村	光村	光村	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	教出	教芸	日文	東書	東書	開隆堂	東書
岩瀬	光村	光村	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	東書	東書
石川	光村	光村	東書	帝国	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	開隆堂	開隆堂	東書
西白河・東白川	光村	光村	東書	東書	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	開隆堂	東書
会津	光村	光村	東書	東書	帝国	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	東書	東書
相馬	光村	光村	帝国	東書	帝国	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	東書	東書
双葉	光村	光村	東書	東書	東書	帝国	東書	東書	教芸	教芸	日文	東書	東書	東書	東書
いわき	光村	光村	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	東書	東書

(2) 教科用図書無償給与

平成28年度も義務教育諸学校の全児童生徒に教科書の無償給与が行われた。また、平成29年度使用教科用図書無償給与事務説明会を市町村教育委員会及び県立特別支援学校・私立学校等の教科書事務担当者を対象に下表のとおり開催し、適正かつ円滑な事務処理が図られるようにした。

期 日	会 場	参集範囲
平成29年2月8日	福島県教育センター	県北
平成29年2月6日	郡山合同庁舎	県中
平成29年2月3日	白河合同庁舎	県南
平成29年2月9日	ユースピアゆがわ	会津
平成29年2月10日	南会津合同庁舎	南会津
平成29年2月2日	南相馬合同庁舎	相双
平成29年2月13日	いわき合同庁舎	いわき

14 教育研究団体

(1) 福島県公立幼稚園・こども園教育研究会

ア 研究主題（平成28年度）

協議 主題1	幼稚園教育要領の理念を実現するための、各幼稚園における教育課程の編成、実施、評価、改善の一連のカリキュラム・マネジメントの適切な実施について
協議 主題2	特別な支援を必要とする幼児の状態等に応じた計画的、組織的な指導の在り方について

イ 組織及び財政の状況

- 会 長 佐藤 明彦
- 会員数 758名
- 平成28年度予算額 1,951,251円
- 上記のうち補助金 なし

ウ 主な事業

- ブロック研究協議会(2年に1回 H28は実施年)
- (ア) 主催 福島県公立幼稚園・こども園教育研究会

(イ) 期日・会場

(ウ) 指導助言者 指導主事等

期 日	会 場	参集範囲
平成28年10月13日	伊達幼稚園 保原幼稚園 刈込認定こども園 伊達市ふるさと会館	県北
平成28年10月14日	長沼幼稚園 須賀川市長沼公民館	県中
平成28年10月20日	棚倉幼稚園 棚倉町文化センター 倉美館	県南
平成28年9月21日	河東第三幼稚園 河東学園小学校	会津・南会津
平成28年10月26日	草野・飯樋幼稚園	相双
平成28年10月19日	湯本第三幼稚園 湯本第三小学校	いわき

○ 研究主題研修会

(ア) 期日・会場

平成28年6月1日(水) 福島市吾妻学習センター

(イ) 講師 福島県教育庁義務教育課指導主事

(2) 福島県小学校教育研究会

ア 基本主題(平成28年度～平成30年度)

(ア) 「豊かにかかわり確かな学びを通して生きる力をはぐくむ授業の充実」

イ 各研究部研究主題

研究部	研究主題
国 語	児童一人一人の表現力や理解力を育成し、伝え合う力を高める指導はどうあればよいか。
社 会	児童一人一人に、我が国の国土、産業、歴史、社会生活などに対する理解と愛情を深め、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を養う社会科の授業はどうあればよいか。
算 数	算数的活動を通して、算数を学ぶ楽しさやよさを実感し、新たな課題解決に向けて主体的に学ぶ子どもの育成
理 科	自ら自然にはたらきかけ、感じ、考え、実感できる理科学習の充実
生 活・総 合	人々・社会・自然に進んでかかわり、自らの考えを生かして学び合い、確かな学びを実感できる子どもの育成
音 楽	多様な音楽活動を通して、音楽のよさや美しさを、自ら感じ、考え、音楽の喜びを分かち合う子どもの育成
図 画 工 作	つくり出す喜びを味わう造形活動を通して、感性を働かせながら、自分の思いを豊かに表現することができる図画工作科の指導
家 庭	家族とのきずなを深め、生き抜く力をはぐくむ家庭科の学習はどうあればよいか。
体 育	運動の楽しさや喜びに触れる学びを通して、進んで運動に取り組み、体力の向上を図るたくましい子どもをはぐくむ体育指導の充実

道 徳 道徳的価値の自覚と自己の生き方についての考えを深める指導の充実

特 別 活 動 望ましい集団活動を通して、個性の伸長を図るとともに、よりよい生活や人間関係を築き、自主的、実践的な態度を育てる特別活動の指導の充実

ウ 組織及び財政の状況

(ア) 会長 小林 希一(郡山市立桑野小学校)

(イ) 会員数 5,846名

(ウ) 平成28年度決算額 4,716,100円

エ 主な事業

○ 研究協議会

(ア) 主催 福島県小学校教育研究会

(イ) 共催 福島県教育委員会・開催地区関係市町村教育委員会

(ウ) 期日・会場

a 地区研究協議会 各地区

各地区の計画による

b 県研究協議会 10月4日(火)～10月27日(木)

県内11会場

(エ) 指導助言者 指導主事等

(3) 福島県中学校教育研究会

ア 研究主題

(ア) 基本主題

「確かな学力を身につけ、ふくしまの未来を創造する心豊かでたくましい生徒の育成」

イ 各部研究主題

部 会	平成28年度の研究主題・研究副主題
国 語	言語感覚を豊かにし、社会生活に生きて働くことばの力を身につけさせるための指導はどうあればよいか。 H28 「書くこと」の領域における指導の工夫
社 会	社会の変化に主体的に立ち向かう力を育成する社会科の指導はどうすればよいか。 H28 根拠をもとに思考・判断する力を育てる指導の工夫
数 学	数学的活動の充実を図り、確かな学力を身につけさせるためにはどうすればよいか。 H28 数学を利用する活動の工夫
理 科	科学的な体験や自然体験を通して、日常生活や社会で活用できる力を育む指導はどうすればよいか。 H28 観察、実験の結果を分析して解釈する力を育てる学習活動の工夫
音 楽	幅広い音楽活動を通して、生徒一人一人の感性を磨き、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育て、豊かな情操を養う指導はどうすればよいか。 H28 音楽の豊かさや美しさを感じ取り、主体的に表現させる学習活動の工夫
美 術	生徒一人一人に自己実現の喜びを味わわせ、心豊かな生活を創造していこうとする態度を育てる美術教育をどうすればよいか。 H28 自己実現を支援する指導の工夫

保健体育	生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、積極的に体力の向上と健康の保持増進に取り組ませる指導はどうあればよいか。 H28 運動の良さを実感し、主体的に運動や課題に取り組む態度をはぐくむ体育授業～体育分野～
技術・家庭	社会の変化に主体的に対応し、生活に生かせる力をはぐくむためにはどう指導すればよいか。 H28 習得した知識や技術を適切に活用して課題解決する体験的な学習活動の工夫
英語	自らの体験や考えなどを互いに発信できるコミュニケーション能力をはぐくむためには、どう指導すればよいか。 H28 4技能を総合的に活用し、自らの体験や考えなどを発信する言語活動の工夫
道徳	ふるさとを愛し、ふくしまの未来を拓く、たくましい心を育てるためにはどうすればよいか。 H28 価値を高める発問と話し合い活動の工夫
特別活動	学校の創意工夫を生かし、よりよい集団や社会を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるための特別活動の指導はどうすればよいか。 H28 生徒会の一員としての自覚を高め、自主的、実践的な態度を育てる生徒会活動の指導

ウ 組織及び財政の状況

- (ア) 会長 亀岡 友博 (福島市立信陵中学校)
- (イ) 会員数 3,345名
- (ウ) 平成28年度の決算額 7,674,732円

エ 主な事業

○ 研究協議会

- (ア) 主催 福島県中学校教育研究会
- (イ) 共催 福島県教育委員会
- (ウ) 期日・会場
 - a 支部研究協議会 各支部
 - b 県研究協議会 10月12日(水)
県内11会場

- (エ) 指導助言者 指導主事等

(4) 福島県小学校長会

ア 組織及び財政の状況

- (ア) 会長 福士 寛樹 (福島市立福島第二小学校)
- (イ) 会員数 442名
- (ウ) 平成28年度の決算額 15,220,058円

イ 主な事業

- (ア) 平成28年度小・中合同開会式、第1回理事会
- (イ) 開催期日 4月20日(水)
- (ウ) 会場 福島県教育会館

(5) 福島県中学校長会

ア 組織及び財政の状況

- (ア) 会長 福地 憲司 (福島市立福島第四中学校)
- (イ) 会員数 224名
- (イ) 平成28年度の決算額 8,039,874円

イ 主な事業

- (ア) 第44回福島県中学校長会研究協議会いわき大会
- (イ) 開催期日 10月14日(金)
- (ウ) 会場 スパリゾートハワイアンズ
- (エ) 参加者数 222人

(6) 福島県公立小・中学校教頭会

ア 組織及び財政の状況

- (ア) 会長 佐藤 健 (福島市立福島第四小学校)
- (イ) 会員数 680名
- (ウ) 平成28年度の決算額 11,868,407円

イ 主な事業

- 平成28年度福島県小・中学教頭会総会及び研修会
- (ア) 開催期日 5月9日(月)
- (イ) 会場 福島県教育会館

(7) 福島県学校図書館協議会

ア 組織及び財政の状況

- (ア) 会長 遠藤 俊彦 (郡山市立富田小学校)
- (イ) 加盟校 674校
- 平成28年度の決算額 845,801円

イ 主な事業

- (ア) 第64回福島県学校図書館研究大会伊達大会
- (イ) 研究主題 「未来を拓き、学びの中核となる学校図書館」
- (ウ) 開催期日 平成28年10月12日(水)
- (エ) 会場 いわき市立内町小学校
いわき市立内郷第二中学校
- (オ) 参加人数 245人

(8) 福島県公立小中学校事務研究協議会

ア 組織及び財政の状況

- (ア) 会長 野邊 久美子
- (イ) 会員数 604名
- (ウ) 平成28年度の前算額 3,908,500円

イ 主な事業

学校事務研修会

研修Ⅰ(講話)

福島県教育庁義務教育課 管理主事 石幡 良子
「福島県の教育施策と学校事務職員の役割」

研修Ⅱ(講演)

郡山女子大学家政学部人間生活学科

講師 佐久間 邦友

「学校事務と学習支援の関係性

～学校事務に「できる」こと・「できない」こと～

- ・開催期日 平成28年5月23日(月)

- ・会場 ユラックス熱海

- ・参加人数 役員・代議員150名、一般会員83名

第4節 国際化・科学技術の進展等への対応

1 中学生・高校生の科学・技術研究論文

野口英世賞募集

(1) 募集の趣旨

郷土が生んだ世界的な医学者、「医聖のぐち」とうたわれた野口英世博士の名を冠した賞を制定し、県内の中学校・高等学校生徒を対象に論文の募集、表彰を行い、科学及び技術の発展に対応した人材の育成に努める。

(2) 応募期間

平成28年9月1日（木）～9月9日（金）

(3) 応募数

中学校 16点（8校）

高等学校 18点（8校）

(4) 審査会

平成28年10月11日（火） 自治会館 301会議室

（審査員長）

福島大学 副学長 小沢喜仁

（審査員）

いわき明星大学教授 岩田恵理

福島大学教授 大山大

福島大学准教授 兼子伸吾

県中学校教育研究会理科部長 工藤裕也

県私立中学高等学校協会監事 山崎尚宏

県高等学校教育研究会理科部会長 高城友治

(5) 受賞者

【中学校】

・個人研究の部

賞	氏名	学校名	論文の題名
優秀賞	矢澤 宗一郎	福島県立会津学鳳中学校	宮川の浄化力の調査 ～地元の河川から視る自然の自浄作用～
	新田 悠樹	いわき市立湯本第二中学校	ナカフフトハオリズランの質量増加率と土壌環境の関係
入選	木口創太郎	福島大学附属中学校	よく混ぜる・よく振る

・共同研究の部

賞	団体名	論文の題名
	該当なし	

【高等学校】

・個人研究の部

賞	氏名	学校名	論文の題名
優秀賞	佐藤 舜	福島県立磐城高等学校	ポリアニリン電極の研究
入選	伊藤 理咲	福島県立郡山東高等学校	「イモリの右折・左折行動」
	関根 恵	福島県立郡山東高等学校	アカムシの光の刺激による運動回数の変化
	大和田 済熙	福島県立磐城高等学校	夏井川水系における河川水硬度と地質の関係

・共同研究の部

賞	団体名	論文の題名
優秀賞	福島県立福島高等学校 スーパーサイエンス部放射線班	福島県内外の高校生個人線量調査
	福島県立会津学鳳高等学校 SSH探求部	ミミズと土壌の関係
入選	福島県立福島高等学校 SS部化学班 Mg グループ	マグネシウム二次電池に関する研究
	福島県立会津学鳳高等学校 SSコース化学班	ガラスの物性に関する研究 ～自然環境に優しい低融点ガラスを作る～

2 中学生・高校生の国際理解・国際交流論文

朝河貫一賞募集

(1) 募集の趣旨

国際化の進展に対応し、世界のさまざまな文化や価値観を尊重するとともに、国際社会の平和と発展を担っていくことのできる青少年の育成を図る観点から、郷土が生んだ国際的な歴史学者「朝河貫一博士」の名を冠した賞を制定し、県内の中学校・高等学校の生徒を対象に論文の募集、表彰を行い、国際化に対応した人材の育成に努める。

(2) 応募期間

平成28年9月1日（木）～9月9日（金）

(3) 応募数

中学校 105点（33校）

高等学校 60点（8校）

(4) 審査会

平成28年10月13日（木） 自治会館301会議室

（審査員長）

郡山女子大学非常勤講師 ジョンティルメント

（審査員）

福島学院大学客員講師 玄永牧子

福島大学行政政策学類准教授 真歩仁 しょうん

福島民報社論説委員長 佐久間 順

福島民友新聞社編集局報道部長 佐藤 掌

福島県中学校長会常任理事 佐藤 和彦

福島県高等学校長協会普通部会長 青山 修身

(5) 受賞者

【中学校の部】

賞	氏名	学校名	学年	論文の題名
最優秀賞	林 帆夏	福島市立福島第三中学校	3	「ヘイトスピーチ」をなくすために
優秀賞	佐藤 梨沙	福島大学附属中学校	3	「おたがいさま」の心
	渡邊 弥生	二本松市立二本松第一中学校	2	今私にできること
	菅野 真衣	本宮市立本宮第一中学校	3	貧しさと戦い続けて
	林 瞳美	福島県立会津学鳳中学校	3	国際社会における世界平和の意味
	大平 茉奈	いわき市立勿来第一中学校	3	私の故郷小笠原で学んだこと
入選	木口創太郎	福島大学附属中学校	2	全ての人々への医療
	酒井 昌盛	福島県立会津学鳳中学校	3	ピクトグラムから感じる思いやりの心

【高等学校の部】

賞	氏名	学校名	学年	論文の題名
最優秀賞	大川 蘭子	福島県立小高商業高等学校	2	ミール城は知っている
優秀賞	牧野 智史	福島県立原町高等学校	1	開発途上国支援における報徳仕法の活用 ～自助努力を引き出す報徳仕法～
	白岩 睦加	福島県立郡山萌世高等学校	3	見直そう戦争のこと
	樋口 紗織	福島県立安積高等学校	2	福島で生きる自分にできること
	五十嵐うた	福島県立あさか開成高等学校	2	世界への扉
	佐藤 杏果	福島県立あさか開成高等学校	2	日本とのつながり
入選	橋本 菜桜	福島県立あさか開成高等学校	1	オーストラリアで学んだこと
	五十嵐美香	福島県立あさか開成高等学校	1	体験することで分かる世界

第6章 高等学校教育

第1節 概要

今年度は、高等学校において、生徒の学力向上を図り将来への展望を抱かせるとともに、地域に貢献できる人材や社会においてリーダーシップを発揮できる人材を育成し、教員研修及び生徒指導等に取り組んだ。

(1) 「ふくしま高校生進路実現サポート事業」

ア 地域に貢献できる人づくりプロジェクト

- 対象校 27校
- 各校の取組内容
 - ・生徒の基礎学力を高める取組
 - (ア) 学ぶ意欲を向上させ主体的に学習に取り組む態度を育む講演会やガイダンス
 - (イ) 指導力向上のための校内研修の活性化
 - ・3年間の計画的な進学指導體制の充実を図る取組
進路指導連絡協議会の開催
 - ・生徒・保護者・教員・地域をつなぐ取組
 - (ア) 地域人材を活用した職業研究講話
 - (イ) 地域貢献活動
 - (ウ) 進路便りや年間指導計画表の作成・配布
 - ・社会人としての在り方についての理解を深める取組
 - (ア) 社会人としての在り方についての講演会
 - (イ) 職場見学会（選択）
 - (ウ) デュアルシステム等の実施（選択）

イ 大学進学プロジェクト

- 対象校 13校
- 各校の取組内容
 - ・論理的思考力・読解力・表現力養成講座
 - ・教員による、難関大学等の入学試験問題の研究と発展的内容に係る指導
 - ・生徒の実態に応じた各校独自作成による校内模擬試験等の実施
 - ・社会人としての在り方についての理解を深める講話
 - ・大学教授等による最先端研究や理論に関する講義や演習
 - ・大学等と連携した最先端研究実習体験や課題研究指導（選択）
 - ・卒業生（大学生等）による講話
 - ・保護者を交えた進学勉強会
 - ・進路便りや年間進路指導計画表の作成・配布
- 研究会等の開催
 - ・進学指導力向上のための研究会
 - (ア) 進路指導の組織的対応等に係る研究会
 - (イ) 予備校等を活用した大学入試の方法や問題分析とその指導、模擬試験のデータ等の活用等についての研究会
 - (ウ) 大学入試センター等主催のシンポジウム等への参加
 - ・学力向上のための教科指導力向上研究会
言語活動の充実を意識し、生徒の主体性を生かす授業改善を進めるための研究
 - ・進路指導連絡協議会

ウ オールふくしまリーダー育成プロジェクト

- 対象 県立高等学校1年生
- 実施内容
 - ・教員による入試問題研究講座（国語・数学・英語）
 - ・予備校等講師による難関大合格に向けたハイレベル講座（国語・数学・英語）
 - ・生徒によるグループ協議とプレゼンテーション等
 - ・社会人等による講演会等

・大学生との交流会、パネルディスカッション等

- (2) 教職員現職教育計画に基づいて、各種研修会や講習会を開催し、教職員の職責にふさわしい資質・能力の向上に努めるとともに、社会の変化や時代の進展に対応した実践的指導力を習得させるため、各種の研修等を実施した。
- (3) 多様化した生徒の心の問題の解決のために、ピュアハートサポートプロジェクトとしてカウンセリング等の各種研修会を開催し、教員の資質向上に努めた。さらに、教育相談専門研修及び関係機関との連携強化のために各種連絡協議会を開催し、教員の実践的指導力の向上を図った。

第2節 学校管理

1 生徒数と教職員数

(1) 県立高等学校の推移

区分		年度									
		19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
全日制	本校	85	85	84	83	83	83	83	83	84	84
	分校	6	6	5	5	5	5	5	5	5	5
定時制	独立	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	併置	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	計	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
	分校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(注) 募集基準として学校数を算定(課程の変更、募集停止を実施した場合、2年以上の生徒が在籍しても学校数に含めない)。

(2) 中学校卒業者の進学状況

区分	年度											
	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
卒業生数(A)	23,593	22,851	23,127	22,333	21,807	21,930	20,887	20,220	19,427	19,782	18,929	18,824
進学志願者数(B)	22,957	22,231	22,471	21,704	21,176	21,305	20,219	19,659	18,873	19,150	18,215	18,232
進学者数(C)	22,981	22,337	22,593	21,873	21,371	21,529	20,467	19,835	19,072	19,388	18,548	18,487
進学志願率(B/A)	97.3	97.3	97.2	97.2	97.1	97.2	96.8	97.2	97.1	96.8	96.2	96.9
進学率(C/A)	97.4	97.8	97.7	97.9	98.0	98.2	98.0	98.1	98.2	98.0	98.0	98.2
入学率(C/B)	100.0	100.5	100.5	100.8	100.9	101.1	101.2	100.9	101.1	101.2	101.8	101.4

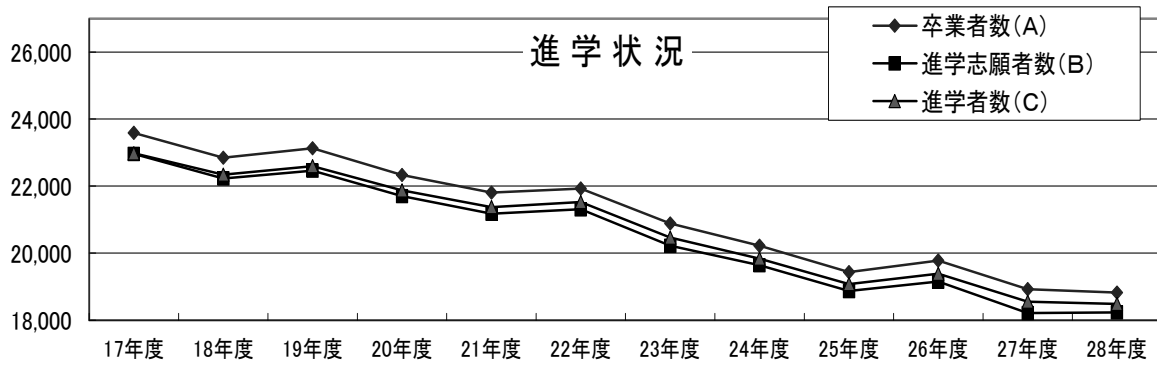
(注) 進学とは中学校卒業者のうち県内外を問わず、高校の全日制、定時制、通信制、別科、高専及び特別支援学校高等部へ進学したことをいう(就職者を含む)。進学志願者数には高校の通信制課程志願者は含まれない。

中学校卒業生数は前年度より105名減少し、進学率は前年度と0.2ポイント上昇、入学率は0.4ポイント低下した。

平成28年度の進学者の内訳は次のとおりである。

高等学校全日制 17,414名 (94.2%)
 高等学校定時制 302名 (1.6%)
 高等学校通信制 389名 (2.1%)
 高等専門学校 228名 (1.2%)
 特別支援学校高等部 154名 (0.8%)

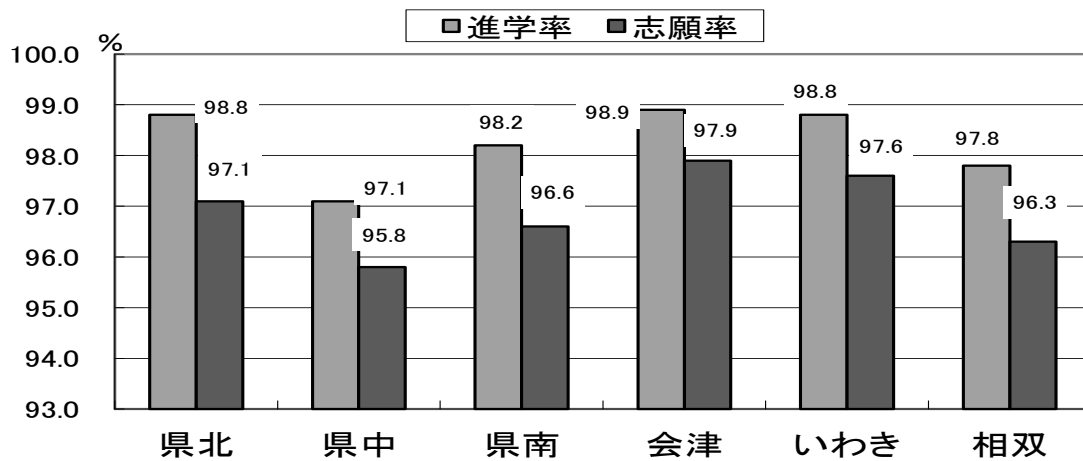
ア 中学校卒業者の進学状況の推移、進学率の推移



○高校進学率(%)

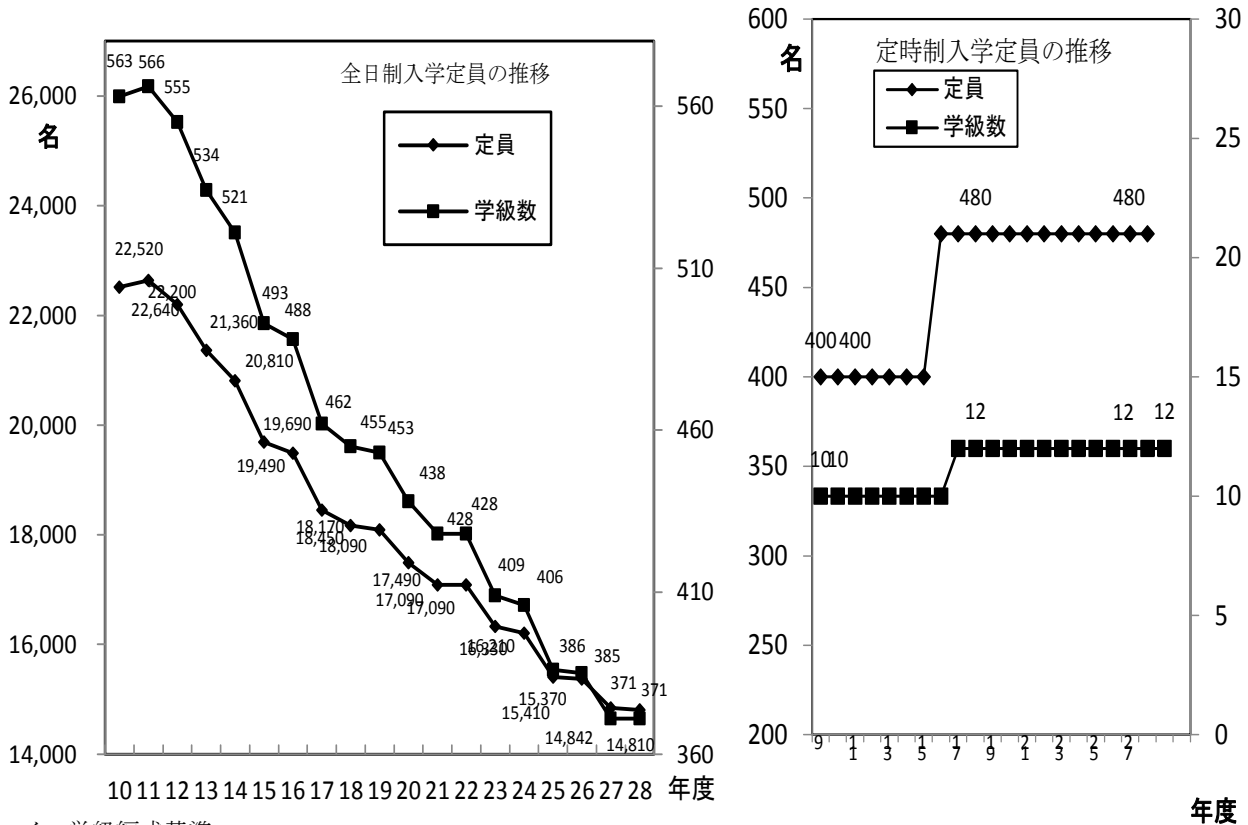
年度	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
全国	96.8	96.8	96.9	97.0	96.9	97.0	97.3	97.5	97.6	97.7	97.7	97.8	97.9	98.0	98.2	98.3	98.4	98.4	98.5	98.7
本県	95.5	95.2	95.6	96.3	96.0	96.6	96.9	97.5	97.4	97.8	97.7	97.9	98.0	98.2	98.0	98.1	98.2	98.0	98.0	98.2

イ 地域別高校志願率・進学率



(3) 県立高等学校入学定員の推移

ア 全日制入学定員並びに定時制入学定員の推移



イ 学級編成基準

学科の区分	全日制	定時制	学科の区分	全日制	定時制
普通科	35, 40	40	国際文化に関する学科	40	-
農業に関する学科	40	-	英語に関する学科	40	-
工業に関する学科	40	40	体育に関する学科	40	-
商業に関する学科	40	-	美術に関する学科	40	-
家庭に関する学科	40	-	国際科学に関する学科	40	-
水産に関する学科	40	-	総合学科	40	-
理数に関する学科	40	-	国際・スポーツに関する学科	40	-
文理に関する学科	40	-			

(4) 県立高等学校全日制課程入学状況の推移

年度	中学校卒業生数	入学定員		志願者数		志願倍率	入学者数	
	A	B 定員	B/A (%)	C 志願者数	C/A (%)	C/B (%)	D 入学者数	D/C (%)
19	23,127	18,090	78.2	20,130	87.0	111	17,530	87.1
20	22,333	17,490	78.3	19,368	86.7	111	16,934	87.4
21	21,807	17,090	78.4	18,975	87.0	111	16,666	87.8
22	21,930	17,090	77.9	18,996	86.6	111	16,599	87.4
23	20,887	16,330	78.2	17,725	84.9	109	15,460	87.2
24	20,220	16,210	80.2	16,961	84.3	105	15,090	89.0
25	19,427	15,410	79.3	16,231	83.5	105	14,307	88.1
26	19,782	15,370	77.7	16,589	83.9	108	14,421	86.9
27	18,929	14,842	78.4	15,716	83.0	105	13,961	88.8
28	18,824	14,810	78.7	15,598	82.9	105	13,945	89.4

(5) 県立高等学校生徒数 (28.5.1現在)

学科の区分	課程	全日制	定時制			専攻科	合計	通信制
			学年制	単位制	計			
普通科	男	9,882	133	303	436		10,318	876
	女	11,114	104	311	415		11,529	830
	計	20,996	237	614	851		21,847	1,706
農業に関する学科	男	1,396					1,396	
	女	1,391					1,391	
	計	2,787					2,787	
工業に関する学科	男	5,608	55		55		5,663	
	女	530	10		10		540	
	計	6,138	65		65		6,203	
商業に関する学科	男	1,689					1,689	
	女	2,955					2,955	
	計	4,644					4,644	
家庭に関する学科	男	10					10	
	女	43					43	
	計	53					53	
水産に関する学科	男	312				40	352	
	女	77				0	77	
	計	389				40	429	
理数に関する学科	男	281					281	
	女	175					175	
	計	456					456	
文理に関する学科	男	396					396	
	女	549					549	
	計	945					945	
国際文化に関する学科	男	22					22	
	女	102					102	
	計	124					124	
国際・スポーツに関する学科	男	46					46	
	女	16					16	
	計	62					62	
国際科学に関する学科	男	117					117	
	女	481					481	
	計	598					598	
英語に関する学科	男	46					46	
	女	197					197	
	計	243					243	
体育に関する学科	男	82					82	
	女	28					28	
	計	110					110	
美術に関する学科	男	15					15	
	女	102					102	
	計	117					117	
総合学科	男	1,582					1,582	
	女	2,360					2,360	
	計	3,942					3,942	
合計	男	21,484	188	303	491	40	22,015	876
	女	20,120	114	311	425	0	20,545	830
	計	41,604	302	614	916	40	42,560	1,706

(6) 県立高等学校通信制課程入学者、卒業者の推移

区分	学校	年度											
		17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
入学者	安積第二高校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	あさか開成高校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	郡山萌世高校	263	253	239	262	278	290	216	197	152	133	124	99
	計	263	253	239	262	278	290	216	197	152	133	124	99

区分	学校	年度											
		16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
卒業者	安積第二高校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	あさか開成高校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	郡山萌世高校	233	207	204	200	218	228	260	223	231	192	155	158
	計	233	207	204	200	218	228	260	223	231	192	155	158

(7) 県立高等学校教職員数の推移

区分	種別	高等学校																			
		全日制・定時制										通信制									
	職種年度	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
教員	校長	87	87	86	85	85	85	85	85	86	86										
	教諭等	3790	3730	3674	3617	3523	3446	3351	3312	3223	3218	37	37	37	37	37	37	36	36	36	36
	養護教員	119	116	114	113	110	110	109	106	106	105										
	補充教員	161	167	155	148	148	144	157	153	153	145										
	講師																				
	寄宿舎指導員	5	5	5	5	5	5	3	3	5	6										
	実習助手	351	346	334	330	330	329	326	326	323	322										
	計	4513	4451	4368	4298	4201	4119	4031	3985	3896	3882	37	37	37	37	37	37	36	36	36	36
事務職員	272	266	263	262	257	256	251	249	245	247	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
その他の職員	技能員																				
	学校司書	65	64	61	62	58	57	55	53	53											
	用務員	56	56	56	54	53	52	49	48	45	41										
	ボイ-技師	17	16	16	14	11	10	11	10	7	6										
	栄養士	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4										
	調理給食員	4	4	4	4	5	4	4	3	3	3										
	計	147	144	141	138	131	127	123	118	112	107										
	練習船	技能職員	9	9	9	9	9	9	9	9	9										
その他の職員	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13											
計	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22											
合計	4954	4883	4794	4720	4611	4524	4427	4374	4275	4258	43	43	43	43	43	43	42	42	42	42	

2 教職員人事・任用

(1) 人事異動の概要

平成28年度の高等学校教職員定数は、前年度比9人減の4,178人となった。このうち、教諭等は、前年度比5人減の3,254人である。

また、特別支援学校については、前年度比29人増の1,572人となった。このうち教諭等は前年度比28人増の1,342人となった。

ア 新採用(教諭)について

平成28年度は53名(国語5名・地理歴史公民5名・数学3名・理科7名・保健体育9名・音楽1名・美術1名・書道1名・英語4名・家庭1名・情報0名・農業7名・工業6名・商業2名・水産1名)の新採用教員を県立高等学校に配置した。

平成28年度に実施した平成29年度福島県公立学校教員採用候補者選考試験は、採用予定者数40名程度に対して、高等学校志願者は前年度比70名減の710名であった。

一次及び二次選考試験の結果、名簿登載者数は41名(前年度比13名減)となり、辞退者がいないので41名(前年度比12名減)が新採用教員として配置されることになる。

イ 校長への昇任

県立学校の校長への昇任は、その職責の重要性にかんがみ、資格・人物・指導力等を十分考慮のうえ、教頭から4名、教育庁関係から現場復帰による4名の登用をみた。これらの管理職は、できる限り自分の専門性をいかせるよ

う適材を適所に配置し、適正な学校管理運営をするよう努めた。

ウ 異動について

本年度も昨年度同様の方針にのっとり、同一校永年勤務者、採用後引き続き同一校に3年以上勤務する者等を含めて415名の教諭等の異動が実現した。

経験豊かな教員の転出が促進されたこととともに、定時制・通信制・及び特別支援学校と全日制高校との交流が進んだことは、教育組織の強化充実に資するところであり、全県的に教育水準及び教育効果の向上に役立つものと期待される。

(2) 平成28年度県立学校教員異動基準

I 一般基準

(ア)過員解消のための異動は、全県的視野から優先的に取り扱う。

(イ)教育課程の適正な運営を期するため、教員組織の均衡化を図り主免許教科を担当させるように努める。

(ウ)優秀な人材の定時制(夜間)・通信制・分校及びへき地校への転入を図るとともに、その者が相当年数(3年以上)勤務した場合の転出については、特に考慮する。

(エ)同一校には、原則として、最低3年は勤務するものとする。

(オ) 2親等以内の者（姻族を含む。）は、原則として、同一校勤務を避ける。

(カ) 教員人事公募選考制度については、別に定める。

II 異動基準

ア 勤続年数による基準

次に該当する者は、異動の対象とする。

(ア) 採用後引き続き同一校に3年以上勤務した者（以下「初任者」という。）

(イ) 異動2校目において3年以上勤務した者（以下「若年者」という。）

ただし、(ア)、(イ) いずれの場合も、原則として3年以上5年以内で異動させるものとする。

（「若年者」については平成21年度以降の採用者から適用する。）

(ウ) 同一校に8年以上勤務した者（以下「永年者」という。）

ただし、若年者が中通り地域の4校（湖南・埴工業・修明・修明鮫川）、会津地域の4校（川口・田島・南会津・只見）及び浜通り地域の2校（浪江津島・相馬農業飯館）に勤務した場合は、原則として3年以上勤務した場合は、永年とみなすことができる。

イ 地域、地区及び学校群による基準

教員の適材適所への配置及び教員組織の均衡化を図るため、県内を中通り、会津、浜通りの3地域に分け、各地域に所在する学校を学校規模及び交通の利便性等を考慮して、別表①に定めるⅠ・Ⅱ群に分類し、以下により異動を促進する。

(ア) 原則として、採用後20年以内に3地域の学校に勤務するものとする。

(イ) 農業、工業、商業、看護、福祉等を除く教科の教員については、Ⅱ群の学校に勤務している者が同一地区内で異動するときは、原則としてⅠ群の学校に勤務するものとする。

ただし、Ⅱ群普通系からⅡ群専門系への異動、Ⅱ群専門系勤務者のうち直近の勤務がⅠ群校の者のⅡ群普通系への異動は可とする。

なお、相双地区においてはⅡ群普通系内の異動も可とする。

(ウ) 農業、工業、商業、看護、福祉等の教科の教員については、全県的視野から地域間で相互に異動させるものとする。

ウ 平成20年度以前の採用者について

平成30年度までは次の基準（以下「旧基準」という。）を準用し、下記の（イ）aを満たす者は、上記イ（ア）の規定を満たすものとする。

(ア) 勤続年数による基準

次に該当する者は、異動の対象とする。

a 初任者 b 永年者

(イ) 地区及び学校群による基準

教員組織の均衡化を図るため、県内を県北・県南・会津・いわき・相双の5地区に分け、地区ごとに所在する学校を地理的特殊性等を考慮して、別表②に定めるA・B・C3群に分類し、以下により異動を促進する。

a 原則として次の条件を満たすよう勤務するものとする。

(a) 採用後15年以内に2地区以上の学校に勤務する。

(b) A・B2群の学校に勤務する。ただし、A群については、採用後15年以内とする。

b 県南地区の4校（湖南・埴工業・修明・修明（鮫川）、会津地区の4校（川口・田島・南会津・只見）及び相双地区の3校（浪江津島・富岡川内・相馬農業飯館）は、それぞれ1地区とみなす。

c 本宮は平成16年度より県北地区とし、平成16年度以降の転入・在籍者から適用する。

d 群の取扱いの変更は、別表③の適用年度以降に当該校へ転入・在籍した者について適用する。

e 同一学校群内の異動については、次の諸点に留意する。

(a) A群については、原則として、へき地校間、分校間の異動は行わない。

(b) B群については、原則として、同一市内間の異動は行わない。ただし、いわき市及び南相馬市は除く。

(c) C群については同一市内間の異動は行わない。

f 職業に関する学科の教員で、永年者については、全県的視野から地区間で相互に異動することができるものとする。

また、異動後同一校に3年以上勤務した場合は、直近の勤務地区内へ異動することができる。

エ 寄宿舎指導員

原則として2に準ずるが、採用後20年以内に2地域の学校に勤務するものとする。

オ 交流

(ア) 学校種別間の交流

高等学校、特別支援学校及び中学校における教育を充実させるため、県立特別支援学校、市町村公立中学校との交流を促進する。

a 県立特別支援学校との交流は教諭、養護教諭、実習助手、寄宿舎指導員を対象とする。

その期間は、教諭及び実習助手については原則として3年とし、養護教諭及び寄宿舎指導員については原則として3年から8年とする。

b 市町村公立中学校との交流は教諭を対象とし、その期間は原則として2年とする。

(イ) 他県との交流

他県との交流については、別に定める。

別表① 地域・地区・群学校分類表

群 地域・地区	I		II		会 津	猪苗代 耶麻農業 西会津 大沼 川口 坂下 会津農林 田島 南会津 只見 会津二	会津学鳳	
	県	北	普通系	福島 橋 福島西 福島東 福島南				専門系
中 通 り	県	福島工業(定) 福島北 川俣 梁川 保原 保原(定) 安達 二本松工業 安達東 本宮 福島中央	普通系	福島 橋 福島西 福島東 福島南	い わ き	湯本 小名浜 いわき海星 磐城農業 勿来 勿来工業 好間 遠野 四倉 いわき翠の杜	普通系	磐城 磐城桜が丘 いわき光洋
	北		専門系	福島商業 福島明成 福島工業				専門系
	県	安積(御館) 湖南 須賀川 須賀川桐陽 清陵情報 長沼 岩瀬農業 石川	普通系	安積 安積黎明 郡山東 郡山 あさか開成	相 双	浪江 浪江(津島) 真岡 双葉翔陽 ふたば未来学園 相馬農業 相馬農業(飯館) <u>小高産業技術</u> <u>小高商業</u> <u>小高工業</u> 新地	普通系	双葉 相馬 原町
	中	田村 船引 小野 小野(平田) 郡山萌世	専門系	郡山商業 郡山北工業				専門系
県	光南 塙工業 修明 修明(鮫川) 白河二	普通系	白河 白河旭					
南		専門系	白河実業					
		喜多方 喜多方東 喜多方桐桜	普通系	会津 葵				

別表② 地区・群別学校分類表

群 地区	A	B	C	特別支援学校 (A群校扱い)
県 北	福島工業(定) 川俣 梁川 保原(定) 安達東 福島中央	福島商業 福島明成 福島北 保原 安達 二本松工業 本宮	福島 橋 福島工業 福島西 福島東 福島南	盲 聾(福島) 大笹生養護 須賀川養護(医大)
県 南	安積(御館) 長沼 石川 船引 小野 小野(平田) 郡山萌世 白河第二 湖南 塙工業 修明	須賀川 須賀川桐陽 清陵情報 岩瀬農業 光南 白河実業 田村	安積 安積黎明 郡山東 郡山商業 郡山北工業 郡山 あさか開成 白河 白河旭	聾 郡山養護 あぶくま養護 あぶくま養護(安積) 須賀川養護 須賀川養護(郡山) <u>たむら支援</u> 西郷養護 石川養護 <u>石川養護(分校)</u>
会 津	猪苗代 耶麻農業 西会津 会津第二 川口 田島 南会津 只見 会津学鳳中学校	喜多方 喜多方東 喜多方桐桜 大沼 坂下 会津農林	会津 葵 会津学鳳 若松商業 会津工業	聾(会津) 会津養護 会津養護(竹田) 猪苗代養護
いわき	いわき海星 磐城農業 勿来 勿来工業 遠野 いわき翠の杜	いわき総合 いわき光洋 湯本 小名浜 好間 四倉	磐城 磐城桜が丘 平工業 平商業	聾(平) 平養護 いわき養護
相 双	双葉翔陽 新地 浪江(津島) 相馬農業(飯館)	双葉 浪江 真岡 相馬農業 <u>小高産業技術</u> <u>小高商業</u> <u>小高工業</u>	相馬 相馬東 原町	富岡養護 相馬養護

別表③

高校名	群	適用年度	高校名	群	適用年度	高校名	群	適用年度
小野	A	昭和52	白河実業	B	昭和61	棚倉	A	平成10
福島明成	B	昭和56	川俣	A	平成2	東白川農商	A	〃
福島北	B	〃	福島商業	B	〃	あさか開成	C	平成11
いわき海星	A	〃	梁川	A	平成8	光南	B	〃
磐城農業	A	〃	船引	A	〃	石川	A	〃
勿来工業	A	〃	いわき光洋	C	〃	いわき光洋	B	平成16
双葉翔陽	A	〃	勿来	A	〃			
猪苗代	A	昭和58	相馬農業	B	〃			

(3) 教頭複数制実施校(平成28年度実績)

福島	橘	福島西	福島北
保原	安積	安積黎明	郡山東
郡山北工	郡山	須賀川	岩瀬農業
光南	白河	白河実業	修明
田村	葵	会津学鳳	会津工業
喜多方桐桜	磐城	磐城桜が丘	平工業
平商業	いわき総合	湯本	勿来工業
ふたば未来学園		郡山萌世	いわき翠の杜
盲	聾	大笹生養護	郡山養護
あぶくま養護	須賀川養護	会津養護	平養護
いわき養護			

3 学校の設置及び統廃合**- 公立高等学校の設置・廃止等(平成29年度) -****(1) 学校の開設・廃止等**

- ①統合に伴う学校廃止 全日制2校
小高商業高等学校、小高工業高等学校
- ②統合に伴う学校新設 全日制1校
小高産業技術高等学校
- ③ふたば未来学園高等学校開校に伴い、避難区域にある
高等学校の生徒募集休止による休校 全日制5校
双葉高等学校、浪江高等学校、浪江高等学校津島校、
富岡高等学校、双葉翔陽高等学校

(2) 学級増

なし

(3) 学級減

全日制5校5学級

課程	学校名	内 容
全日制	福島北	総合学科1学級
	二本松工業	機械システム科1学級
	白河	普通科1学級
	喜多方東	普通科1学級
	いわき総合	総合学科1学級

(4) 募集停止

全日制2校2学級

課程	学校名	内 容
全日制	小野・平田校	普通科1学級
	湯本	英語科1学級

(5) 35人学級編制

全日制3校6学級

課程	学校名	内 容
全日制	川口	普通科2学級
	南会津	普通科2学級
	只見	普通科2学級

(6) 課程廃止

なし

(7) 学科転換・学科改編

なし

(8) 学科名変更

なし

(9) 校名変更

なし

(10) 連携型中高一貫教育校

課程	学校名	連携中学校
全日制	塙工業	塙
	田島 <small>ふたば未来学園</small>	田島、檜沢、荒海 浪江、浪江東、津島、葛尾、双葉 大熊、富岡第一、富岡第二、川内 檜葉、広野 玉野、中村第一、中村第二、向陽、磯部
	相馬東	

(11) 併設型中高一貫教育校

会津学鳳高等学校(会津学鳳中学校)

(12) 定時制・通信制

変更なし

(13) 専攻科

変更なし

第3節 学校教育

1 概要

(1) 指導行政の基本方針

生徒の能力・適性、進路・関心等を十分考慮し、地域や学校の実態に応じた教育指導の充実を図りながら、人間性豊かな生徒の育成を目指して、学校教育活動が活発に展開されるよう次の重点目標を設定し、その達成に努めた。

ア 生徒の実態等を踏まえ、各学校が主体性をもって、多様な教育課程を編成し、特色ある学校づくりができるよう指導・援助する。

イ 指導内容の精選と構造化に努め、言語活動の充実と生徒のよい点を積極的に評価するなどの評価の改善を進めることにより、生徒一人一人の個性を生かす指導方法の工夫・改善が図られるよう指導・援助する。

ウ 生徒指導の組織・体制を点検するとともに、教職員の共通理解を基盤として、中学校や家庭との連携を深めながら、生徒理解に基づいた指導が展開されるよう、指導・援助する。

エ 生徒の学校生活への適応を促し、中途退学者の減少及び問題行動・生徒事故の未然防止が図られるよう指導・援助する。

オ 教職員の資質と指導力の向上に努める。

カ 勤労観・職業観の育成にかかわる体験的な学習及び産業教育、情報教育の推進を図る。

(2) 指導組織

高校教育課長を中心に、主幹、主任指導主事及び指導主事が一体となって、それぞれの分掌に従い、企画・運営・指導助言に当たった。

また、学校教育指導委員の指名については、県立高校教諭及び養護教諭40名を指名し、各教科等の指導活動の充実・強化を図った。

(3) 学校教育指導の重点

前記の基本方針に基づき、指導の重点を次のように設定し、指導の充実を図った。

ア 教育課程の適切な運営と指導法の改善を図る。

(ア) 教育課程の適正な実施について、校長会、教頭会において周知徹底を図った。

(イ) 福島県高等学校教育課程講習会において、高等学校学習指導要領について、その趣旨の徹底を図るとともに、教育課程実施に伴う諸問題について研究協議を行った。

イ 学力向上を図る。

「ふくしま高校生進路実現サポート事業」として、生徒の進路希望実現を目指した各学校の学力向上やキャリア教育に関する取組の支援、授業改善や進学指導力向上のための研究会などを実施した。また、将来社会においてリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指し、難関大学進学への意識、意欲の高い生徒を対象とした学習セミナーを実施した。さらに、対象校の進路指導担当

者を出席者とする進路指導連絡協議会を実施した。

ウ 生徒指導の充実を図る。

(ア) 各種研修会、学校訪問等の指導を通して、校内における指導体制の確立を図るとともに、教職員の共通理解を図り、同一歩調による生徒指導の充実に努めた。

(イ) 生徒指導担当者研修会を開催し、生徒の多様化に即した生徒指導の在り方、開かれた生徒指導の在り方について研究協議を行った。

(ウ) 学校における教育相談体制の確立と教育相談活動の改善・充実を図った。

(エ) スクールカウンセラー活用事業として、生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識・経験を有するスクールカウンセラーを配置し、いじめや不登校等生徒の問題行動の解決に当たった。

エ 進路指導の充実を図る。

各種の研修会や講座を通して、下記事項の徹底に努めた。

(ア) キャリア教育の観点より低学年からの計画的・組織的な進路指導を通し進路意識の高揚に努めること。

(イ) ホームルーム活動における進路指導の充実を図ること。

(ウ) 面談や諸調査・諸検査を通して、生徒の能力・適性・進路の希望等を的確に把握すること。

(エ) 生徒の自己理解の促進に努めること。

(オ) 進路指導室の整備及び進路に関する情報や資料の収集に努めるとともに、その効果的な活用を図ること。

(カ) 組織的・計画的な進路相談の充実を図ること。

(キ) きめ細かな就職指導の充実・徹底に努めること。

オ 産業教育の充実を図る。

産業教育の改善・充実を図るため、施設・設備の充実及び情報教育の推進に努めた。

(ア) 体験入学の内容の質的改善・充実を図った。

(イ) 情報教育の充実のため、教員の研修に努めた。

(ウ) 産業教育関係機関との連携により、産業教育の振興に努めた。

(4) 教職員の資質の向上と学校管理運営の充実

ア 現職教育の充実

(ア) 校内における研修体制の改善・充実を図った。

(イ) 研修会、講習会等への積極的な参加を促進し、指導力の向上を図った。

(ウ) 自己研修の充実により、教職員の能力が効果的に発揮されるように努めた。

イ 学校管理運営の適正化

(ア) 学校経営・運営ビジョンを定め、その達成度を客観的に評価し、その結果を公表するように努めた。

(イ) 管理者が学校管理運営について積極的に指導助言を行うよう努めた。

(ウ) 諸表簿の整理と保管、設備・備品の管理と活用については、適正に行われるように努めた。

(エ) 学校事務の責任分担を明確にし、正確、敏速、円滑に

処理するよう努めた。

- (オ) 各種調査報告について、厳正、的確に作成し、期限の厳守に努めた。

ウ 勤務体制の確立

教職員の勤務内容を明確にし、その実績について客観的に評価できるようにした。

エ 使命感の高揚

- (ア) 教育公務員としての使命感に徹し、規律と責任ある体制を整え、教育能率の向上に努めた。
- (イ) 教育公務員としての立場を自覚するとともに、服務倫理委員会を活用して事故防止に努め、社会的信用を失墜させることのないようにした。
- (ウ) 絶えず自己研修に努め、豊かな知性を養い、指導力を高め、職責を十分果たせるようにした。

(5) 教育環境の整備充実

ア 学習環境の整備充実

- (ア) 環境整備については、方針を確立し、年次計画による充実を図った。
- (イ) 学習環境を整備し、学習意欲の高揚を図った。
- (ウ) 施設・設備の管理と運営の適正化を図った。

イ 学校事故防止の徹底

- (ア) 安全教育の計画的実施と、事故防止を配慮した環境の整備改善に努めた。
- (イ) 学校事故、教職員事故の防止については、適切な対策を講じ、事故の絶無を期した。
- (ウ) 指導・管理の充実を図るため、関係機関、団体等との連携を密にして協力体制の確立に努めた。

(6) 県立高等学校入学者選抜

ア 基本方針

平成29年度福島県立高等学校入学者選抜における基本方針

(ア) I 期選抜

I 期選抜は、各高等学校が自校の特色に応じてどのような受験生に志願してほしいかを選抜方法と併せて明示し、受験生は、それに応じて自分の志願したい高等学校を主体的に選択し出願できる選抜とする。選抜に当たっては、受験生の個性や学ぶ意欲を重視するとともに、自校の特色に応じた選抜となるよう選抜資料を活用し、各高等学校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

- a 選抜に当たっては、志願理由書の記載内容、調査書の審査結果、面接の結果を資料とする。なお、各高等学校の判断により、学校の特色や学科の特性に応じて、小論文（又は作文）の結果、実技等の結果を選抜資料に加えることができるものとする。

- b I 期選抜においては、各高等学校が自校の教育目標にふさわしい入学者を選抜するため、受験生を多面的・多角的に評価するための資料の一つとして面接の結果を積極的に活用するものとする。

このため、面接の内容としては、受験生の個性や学ぶ意欲をみるとともに、中学校における学習活動

の成果を問う内容を含むことができるものとする。

- c I 期選抜の定員枠については、県教育委員会が定める範囲の中で、各高等学校が、その特色や学科の特性に応じて設定するものとする。

(イ) II 期選抜

II 期選抜は、中学校における学習活動の成果を総合的にみる選抜とする。選抜に当たっては、学力検査の成績、調査書の審査結果を資料とし、さらに面接を実施する高等学校においては面接の結果とを併せて資料とし、各学校の特色、学科の特性等に配慮しつつ、その教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

- a 学力検査を実施する教科は、全日制の課程においては、国語、社会、数学、理科、外国語（英語）の5教科とする。

定時制の課程においては、各高等学校の判断により、実施教科を減じることができるものとする。

また、定時制の課程においては、年齢18歳以上の者については、学力検査を免除することができるものとし、学力検査を免除した場合、小論文（又は作文）を実施することができるものとする。

- b 学力検査の問題作成に当たっては、中学校学習指導要領に示された各教科の目標及び内容を踏まえて、基礎的・基本的な内容の確実な定着をみる出題を一層工夫するとともに、論述式の解答を求める出題や思考力・分析力を問う出題をさらに工夫するものとする。

- c 学力検査問題の配点については、各問の標準配点に留意しつつ、各高等学校の判断により配点ができるものとする。

- d 特定の教科の学力検査の配点の比重を変える傾斜配点については、各学校の特色・学科の特性を考慮し、各高等学校の判断により実施することができるものとする。

また、志願者の自己申告による傾斜配点についても、各高等学校の判断により実施できるものとする。

- e II 期選抜の合否判定に当たっては、学力検査と調査書の成績の比重を原則として同等とする。

ただし、各高等学校が自校の特色化を図るために必要と判断する場合には、学力検査と調査書の成績の比重を変えることができるものとする。

具体的には、次のようにして合否判定を行う。

- (a) 学力検査と調査書の成績の比重を同等とする場合

学力検査と調査書の成績のいずれもが定員内にある者で、調査書の記載事項及び面接を実施した場合にはその結果に特に問題のない者を合格とする。次に、その他の者については、学力検査の成績と調査書の記載事項及び面接を実施した場合にはその結果とを十分に精査して、総合的に判定する。

- (b) 学力検査と調査書の成績の比重を変える場合

学力検査と調査書の成績のいずれか一方に一定の数値を掛けて両者を加えて得られた成績と、調査書の記載事項及び面接を実施した場合にはその

結果とを十分に精査して、総合的に判定する。

ただし、学力検査と調査書の成績の比重を変える場合には、学力検査の特定の教科への傾斜配点及び自己申告による傾斜配点は実施しないものとする。

f 面接については、各高等学校の判断により実施できるものとする。

(ウ) III期選抜

III期選抜は、I期選抜、II期選抜及び連携型中高一貫教育に係る入学者選抜（以下「連携型選抜」という。）により定員（会津学鳳高等学校においては、会津学鳳中学校から会津学鳳高等学校への入学を志願する者の数を除いた数とする。）を充足しない高等学校において実施するものとし、I期選抜、II期選抜及び連携型選抜の受験の有無にかかわらず出願できる選抜とする。

選抜に当たっては、調査書の審査結果、面接の結果及び小論文（又は作文）の結果を資料として、各高等学校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

なお、I期選抜、II期選抜又は連携型選抜に合格した者は出願できないものとする。

a 選抜に当たっては、調査書の成績とともに、面接の結果及び小論文（又は作文）の結果を十分に精査する。

b II期選抜における学力検査の成績は、III期選抜の資料とはしないものとする。

c III期選抜における面接は、受験生の学ぶ意欲をみる内容とともに、中学校における学習活動の成果を問う内容を含むことができるものとする。

(エ) 連携型選抜

連携型中高一貫教育を実施する高等学校（以下「連携型高等学校」という。）において、連携型中高一貫教育を実施する中学校（以下「連携型中学校」という。）から目的意識や意欲のある生徒の入学を促進し、6年間を通して生徒一人一人の個性をより重視した教育の実現を図るため連携型選抜を実施する。選抜に当たっては、受験生の個性や学ぶ意欲をみるとともに、連携している内容に応じた選抜となるよう配慮し、各連携型高等学校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

a 選抜に当たっては、中学校長から提出された調査書及び面接の結果を資料とする。

なお、各連携型高等学校長の判断により、学校の特色や連携している内容に応じて、課題研究レポート、適性検査等の結果を選抜資料に加えることができるものとする。

b 連携型選抜においては、各連携型高等学校が連携型中高一貫教育にふさわしい入学者を選抜するため、面接の内容としては、受験生の個性や学ぶ意欲をみるとともに、中学校における学習活動の成果を問う内容を含むことができるものとする。

c 募集定員枠については、別に公告する募集定員の30%を下限とし、各連携型高等学校が学校・学科の特色や地域の特性に応じて設定する。

ただし、定員枠については、当該高等学校長はあらかじめ県教育委員会と協議するものとする。

また、I期選抜の募集定員枠は、これとは別に設定するものとする。

d 連携型高等学校の連携型選抜に出願することができる者は、当該高等学校と連携している中学校を卒業する見込みの者とする。

なお、連携型中学校を卒業する見込みの者は、当該中学校と連携している高等学校のI期選抜へ出願することはできない。

e 実施期日については、I期選抜と同日又はI期選抜に近接した日とする。

なお、併設型中高一貫教育校である会津学鳳中学校から会津学鳳高等学校への入学を志願する者については、各選抜に出願することはできないものとする。

イ 入学者選抜関係日程

6月9日 第1回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議

7月14日 第2回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議

8月22日 第3回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議

8月22日 県立中学校・高等学校入学者選抜方法の改善等に関する調査研究報告書提出

10月6日～10月17日

県北・県中・県南・会津・南会津・いわき・相双の7地区で入学者選抜実施要綱説明会実施

10月21日 平成29年度入学者募集定員決定

(ア) I期選抜関係日程

1月19日～1月24日 出願書類受付

2月2日（2月3日） 面接等

2月7日 合格内定通知

2月9日～2月13日 入学確約書提出

3月14日 合格者発表

(イ) II期選抜関係日程

2月14日～2月17日 出願書類受付

2月20日～2月22日 出願先変更

2月23日～2月24日 調査書提出

3月8日 学力検査

3月8日又は9日 面接等

3月14日 合格者発表

(ウ) III期選抜関係日程

3月15日～3月16日 出願書類受付

3月17日 出願先変更

3月22日 面接等

3月23日 合格者発表

(エ) 連携型選抜関係日程

1月19日～1月24日 出願書類受付
I期選抜と同日又はI期選抜に近接した日 面接等
2月7日 合格内定通知
2月9日～2月13日 入学確約書提出
3月14日 合格者発表

(オ) 通信制の課程選抜日程

2月14日～3月27日 出願書類受付
4月5日 合格者発表(個人宛通知)

るために福島県立高等学校入学者選抜検討会議が設置された。

10月31日 第1回福島県立高等学校入学者選抜検討会議
12月5日 第2回福島県立高等学校入学者選抜検討会議
1月30日 第3回福島県立高等学校入学者選抜検討会議
2月16日 第4回福島県立高等学校入学者選抜検討会議
2月24日 高等学校入学者選抜制度の在り方に関する報告書提出

ウ ふたば未来学園高等学校の入学者選抜

平成27年度入学者選抜において、双葉高等学校(普通科)、浪江高等学校(普通科)、浪江高等学校津島校(普通科)、富岡高等学校(国際・スポーツ科)、双葉翔陽高等学校(総合学科)を募集停止とし、平成27年4月にふたば未来学園高等学校を開校した。平成29年度連携型選抜においては、次の(ア)～(ウ)に該当する者を出願資格を有する者とした。

(ア) 出願時にJFAアカデミー福島又は双葉地区教育構想ビクトリープログラムに参加している者

(イ) 次の双葉郡の中学校に在籍している者

双葉郡浪江町立浪江中学校
双葉郡浪江町立浪江東中学校
双葉郡浪江町立津島中学校
双葉郡葛尾村立葛尾中学校
双葉郡双葉町立双葉中学校
双葉郡大熊町立大熊中学校
双葉郡富岡町立富岡第一中学校
双葉郡富岡町立富岡第二中学校
双葉郡川内村立川内中学校
双葉郡檜葉町立檜葉中学校
双葉郡広野町立広野中学校

(ウ) ふたば未来学園高等学校との連携型中高一貫教育を実施している中学校に在籍している者以外で、東日本大震災が発生した時に、双葉郡内の小学校に在籍していた者又は双葉郡内に保護者が居住していた者で、中学校若しくはこれに準ずる学校若しくは義務教育学校若しくは中等教育学校の前期課程を平成29年3月に卒業見込又は修了見込の者

エ 福島県立高等学校入学者選抜検討会議の設置

平成28年度福島県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議が平成28年8月22日に教育長に提出した「福島県立中学校・高等学校入学者選抜方法の改善等に関する調査研究報告書」において、「各高等学校の特色に応じて多角的な評価による選抜を実施し、受験生の基礎学力の向上に資する本県の高等学校入学者選抜制度の特色をさらに意義あるものとするため、受験生の学習意欲を喚起するための方策等、入学者選抜制度の今後の在り方について検討していく必要がある」との報告がなされた。このことを受け、本県の高等学校入学者選抜の在り方等について検討す

オ 志願者数・合格者数

◇ 各選抜ごとの集計

※「普通科等」には、普通科、理数科、数理科学科、文理科、国際文化科、英語科、体育科、デザイン科学科、国際科学科が含まれる。

() 内は平成28年度入試のもの。

(1) I期選抜

《全日制》

学科	入学定員	I期選抜 定員	志願者数			志願 倍率	合格内定者数		
			男	女	計		男	女	計
普通科等	8,170	2,015	1,196	1,851	3,047	1.51	762	1,303	2,065
農 業	1,040	448	285	391	676	1.51	191	276	467
水 産	160	56	95	16	111	1.98	49	14	63
工 業	2,160	976	1,186	146	1,332	1.36	870	118	988
商 業	1,640	690	327	748	1,075	1.56	193	520	713
家 庭	40	14	4	6	10	0.71	4	5	9
総 合	1,320	425	218	422	640	1.51	144	298	442
計	14,530 (14,810)	4,624 (4,712)	3,311 (3,465)	3,580 (3,662)	6,891 (7,127)	1.49 (1.51)	2,213 (2,383)	2,534 (2,537)	4,747 (4,920)

《定時制》

学科	入学定員	I期選抜 定員	志願者数			志願 倍率	合格内定者数		
			男	女	計		男	女	計
普 通	440	140	80	99	179	1.28	40	71	111
工 業	40	12	4	0	4	0.33	4	0	4
計	480 (480)	152 (152)	84 (78)	99 (83)	183 (161)	1.20 (1.06)	44 (53)	71 (62)	115 (115)

(2) 連携型選抜

学科	入学定員	連携型選抜 定員	志願者数			志願 倍率	合格内定者数		
			男	女	計		男	女	計
普 通	80	40	19	22	41	1.03	18	22	40
工 業	80	24	13	1	14	0.58	13	1	14
総 合	320	128	69	92	161	1.26	53	70	123
計	480 (480)	192 (224)	101 (98)	115 (102)	216 (200)	1.13 (0.89)	84 (78)	93 (89)	177 (167)

(3) II期選抜

《全日制》

学科	入学定員	I期選抜・連携型選抜合格内定者を除いた定員	志願者数			志願倍率	合格者数		
			男	女	計		男	女	計
普通科等	8,170	6,065	3,107	3,319	6,426	1.06	2,568	2,717	5,285
農 業	1,040	573	348	245	593	1.03	287	208	495
水 産	160	97	81	12	93	0.96	67	12	79
工 業	2,160	1,158	993	90	1,083	0.94	887	76	963
商 業	1,640	927	416	572	988	1.07	336	446	782
家 庭	40	31	3	10	13	0.42	3	10	13
総 合	1,320	668	319	443	762	1.14	255	361	616
計	14,530 (14,810)	9,519 (9,638)	5,267 (5,513)	4,691 (4,673)	9,958 (10,186)	1.05 (1.06)	4,403 (4,628)	3,830 (3,897)	8,233 (8,525)

《定時制》

学科	入学定員	I期選抜合格内定者を除いた定員	志願者数			志願倍率	合格者数		
			男	女	計		男	女	計
普 通	440	329	117	75	192	0.58	84	66	150
工 業	40	36	7	3	10	0.28	4	3	7
計	480 (480)	365 (365)	124 (120)	78 (81)	202 (201)	0.55 (0.55)	88 (90)	69 (68)	157 (158)

(4) 外国人生徒等に係る特別枠選抜

学校名	学科名	定員	志願者数			合格者数		
			男	女	計	男	女	計
福島北	総合	若干名	1	0	1	1	0	1
福島南	国際文化	若干名	0	0	0	0	0	0
あさか開成	国際科学	若干名	1	1	2	1	1	2
光南	総合	若干名	1	3	4	0	3	3
会津学鳳	総合	若干名	0	0	0	0	0	0
湯本	普通	若干名	0	0	0	0	0	0
相馬東	総合	若干名	0	0	0	0	0	0

(5) Ⅲ期選抜

《全日制》

学科	入学定員	志願者数			合格者数		
		男	女	計	男	女	計
普通科等	780	127	78	205	90	70	160
農業	78	15	7	22	10	6	16
水産	18	0	0	0	0	0	0
工業	195	33	10	43	22	9	31
商業	145	9	12	21	5	12	17
家庭	18	1	1	2	1	1	2
総合	52	5	7	12	3	7	10
計	1,286 (1,113)	190 (195)	115 (113)	305 (308)	131 (143)	105 (96)	236 (239)

《定時制》

学科	入学定員	志願者数			合格者数		
		男	女	計	男	女	計
普通	179	22	13	35	15	11	26
工業	29	4	0	4	3	0	3
計	208 (207)	26 (40)	13 (24)	39 (64)	18 (25)	11 (18)	29 (43)

◇ Ⅲ期選抜実施後の最終集計

※「普通科等」には、普通科、理数科、数理科学科、文理科、国際文化科、英語科、体育科、デザイン科学科、国際科学科が含まれる。

() 内は平成28年度入試のもの。

《全日制》

学科	入学定員	Ⅰ期選抜 合内定者数	連携型選抜 合内定者数	Ⅱ期選抜 合格者数	Ⅲ期選抜 合格者数	合格者数		
						男	女	計
普通科等	8,170	2,065	40	5,285	160	3,438	4,112	7,550
農業	1,040	467		495	16	488	490	978
水産	160	63		79	0	116	26	142
工業	2,160	988	14	963	31	1,792	204	1,996
商業	1,640	713		782	17	534	978	1,512
家庭	40	9		13	2	8	16	24
総合	1,320	442	123	616	10	455	736	1,191
計	14,530 (14,810)	4,747 (4,920)	177 (167)	8,233 (8,525)	236 (239)	6,831 (7,232)	6,562 (6,619)	13,393 (13,851)

《定時制》

学科	入学定員	Ⅰ期選抜 合内定者数	連携型選抜 合内定者数	Ⅱ期選抜 合格者数	Ⅲ期選抜 合格者数	合格者数		
						男	女	計
普通	440	111		150	26	139	148	287
工業	40	4		7	3	11	3	14
計	480 (480)	115 (115)		157 (158)	29 (43)	150 (168)	151 (148)	301 (316)

2 現職教育

(1) 各種研修並びに講習会

名称	期日	期間	会場	参加者
新任校長研修会	5.12 ～5.13	2日	教育センター	新任県立高等学校長 15名
新任教頭研修会	5.19 ～5.20	2日	教育センター	新任県立高等学校教頭 21名
経験者研修Ⅲ (中堅教員研修)	10.26 ～10.28	3日	教育センター	県立学校中堅教員58名
初任者研修 (基本研修)	4.5 ～4.6	2日	教育センター	高等学校初任者研修 対象教員50名
〃 (一次研修)	4.20 ～4.22	3日	教育センター	
〃 (二次研修)	2.15 ～2.17	3日	教育センター	
〃 (教科別研修)	(1班) 9.7 ～9.9	3日	・地歴公民 (清陵情報) ・数学 (いわき総合) ・理科(白河) ・保健体育 (好間) ・書道 (喜多方東) ・英語(会津 学鳳) ・工業 (二本松工業)	
	(2班) 9.28 ～9.30	3日	・国語(会津) ・音楽 (白河旭) ・美術 (相馬東) ・家庭 (ふたば未来) ・農業水産 (福島明成) ・商業 (若松商業)	
〃 (地区別研修)	4月～ 11月	11日	各地区施設 学校等	
〃 (所属校に おける研修)	4月 ～3月	150 時間	各所属校	高等学校初任者研修修了 教員46名
2年次教員 フォローア ップ研修 (教科等指 導研修)	7.22	1日	教育センター	
〃 (企業体験 研修)	長期 休業 期間 中	2日	各企業等	
〃 (所属校に おける研修)	4月 ～3月	30 時間	各所属校	
経験者研修 Ⅰ (校外研修)	1班 10.5	3日	教育センター	県立学校教職経験5年 を超過した者90名

	～ 10.7 2班 10.18 ～ 10.20			
〃 (所属校にお ける研修) 経験者研修 Ⅱ (共通研修)	5月～ 12月	5日	各所属校	
〃 (生徒指導 研修)	4.13	1日	教育センター	県立学校教職経験10年 を超過した者51名
〃 (教科指導 研修Ⅰ)	7.5	1日	教育センター	
〃 (教科指導 研修Ⅱ)	7.6	1日		
〃 (社会体験 研修Ⅰ)	2.8 ～2.9	2日		
〃 (所属校に おける研修)	4月 ～1月	2日	各所、施設等	
〃 (選択研修) 新任教務 主任研修会	4月 ～1月	3日 以上	各所、施設等	
	8.10	1日	川俣高校	新任教務主任27名
	8.18	1日	小野高校	
	8.18	1日	葵高校	
	8.18	1日	湯本高校	

(2) 教員体験研修(2か月)

実施せず

(3) 教職員等中央研修

ア 趣旨

学校経営力向上のための高度で専門的な知識等を習得させ、各地域の中核となる校長、教頭、中堅教員を育成する。

イ 主催 独立行政法人教員研修センター

ウ 共催 文部科学省

エ 会場 独立行政法人教員研修センター

オ 期間及び参加者

◇校長研修(10月17日～10月21日)

県立梁川高等学校長 瓜生 康弘

◇副校長・教頭等研修(9月26日～10月7日)

県立湯本高等学校教頭 原田 大輔

◇中堅教員研修(11月21日～12月9日)

県立須賀川高等学校教諭 佐藤 秀明

県立白河実業高等学校教諭 金成 力

(4) 学校組織マネジメント指導者養成研修

ア 趣旨

学校組織マネジメントの理論を身に付け、的確な校長のリーダーシップと経営理念のもとに戦略を構築し、学校内外の資源を活用することができるようにする。

イ 主催 独立行政法人教員研修センター

- ウ 共催 文部科学省
- エ 会場 独立行政法人教員研修センター
- オ 期間及び参加者
(9月5日～9月9日)
県立ふたば未来学園高等学校教頭 和田 直也

- (ア) 専門研修 高等学校教育の産業教育及び教育センターの情報処理教育講座の欄参照
- (イ) 一般研修 各種研修において情報処理に関する演習等を実施

イ 情報処理関係学科の設置状況

農 業	生産情報	福島明成、岩瀬農業
	情報技術	郡山北工業、会津工業、平工業
	情報電子	福島工業、清陵情報
工 業	情報システム	二本松工業
	情報処理	郡山商業、清陵情報
商 業	情報会計	福島南、本宮、清陵情報
	情報ビジネス	福島商業、白河実業、若松商業、小高商業
	オフィス情報	須賀川
	情報マネジメント	修明
	情報システム	喜多方桐桜、平商業
水 産	情報通信	いわき海星

3 教育課程

(1) 高等学校教育課程説明会

平成28年度は実施せず。

(2) 福島県高等学校教育課程講習会

ア 目的

高等学校学習指導要領について、その趣旨の徹底を図るとともに、教育課程実施に伴う諸問題について研究協議を行う。

イ 主催

文部科学省及び福島県教育委員会

ウ 期日・会場・参加者数

地 区	期 日	会 場	参加者数
相 双	8月1日	相 馬 高 等 学 校	38
県 北	8月2日	福 島 明 成 高 等 学 校	108
県 中・県 南	8月3日	清 陵 情 報 高 等 学 校	183
会 津・南 会 津	8月4日	会 津 学 鳳 高 等 学 校	81
い わ き	8月5日	い わ き 光 洋 高 等 学 校	107
合 計			517

エ 部会の参加者

設置部会及び参加者数は次の通りである。

部 会	参加者数	部 会	参加者数
総 則	47	書 道	1
国 語	77	家 庭	3
地理歴史	22	情 報	3
公 民	3	農 業	30
数 学	87	工 業	73
理 科	51	商 業	42
保健体育	61	水 産	9
音 楽	4	福 祉	1
美術・工芸	3	計	517

※外国語部会については、教育課程講習会を実施せず英語教育推進リーダー中央研修参加者による研修を実施する。

(3) 情報教育の充実

ア 情報教育研修

(4) 国際理解教育の充実

語学指導等を行う外国青年招致事業

国際化に対応できる人材の育成及び外国語教育の充実

ア 招致人数 32名

イ 配 置 ○県内23の高校に各1名を配置、配置校における指導及び訪問指導

○県内8つの高校に各1名、県立中学校に1名配置、専任教員における指導

4 学力向上対策等

(1) 平成28年度文部科学省指定各種研究校

研究種別	学校名	指定年度	研究主題
ス ー パ ー サイエンス ハイスクール (SSH)	福 島	24 ～ 28	「震災・原発被災地として国内外に認知された福島の地域性と5年間のSSH研究開発を融合し、災害復興を可能とする領域横断的な科学力と国際コミュニケーション力を持つ次世代型の指導的人材育成プログラムの開発研究」
	会 津 学 鳳	28 ～ 32	大学、研究機関、地元企業の協力のもとに、高度なコンピュータリテラシーをそなえ、国際化、情報化社会で活躍できる科学技術系人材を、中学校・高等学校・大学の連携体制を通して育成するプログラムの研究開発。

磐城	28	最先端の研究機関や大学との連携を密にし、科学技術に対する興味、関心、探究心を高め、地域性を生かした研究を通して才能を伸ばし、国際化社会でも活躍できる人材を育成する理数系教育に関する研究
----	----	--

(2) ふくしま高校生進路実現サポート事業

ア 地域に貢献できる人づくりプロジェクト

生徒の進路実現に必要な学力向上や指導力の向上及び地域とのつながりを重視したプログラム等を実施し、社会人としての自覚や基礎学力の育成を図った。さらには、各学校における指導内容や指導法について連携を図り、3年間を見通した計画的な指導体制の充実を図った。

○対象校：県立高等学校27校

福島商業、福島明成、福島西、梁川、安達、須賀川、須賀川桐陽、長沼、岩瀬農業、光南、白河旭、白河実業、塙工業、石川、田村、船引、小野、若松商業、喜多方東、猪苗代、川口、田島、南会津、湯本、いわき海星、相馬農業、新地

イ 大学進学プロジェクト

生徒の大学進学へ向けた早期の意識改革と学力向上を図った。さらには、教員の教科指導力や進学指導力の向上を図るとともに、各学校における指導内容や指導法等について情報共有や連携を進めて、3年間を見通した計画的な指導体制の充実を図った。

○対象校：県立高等学校13校

福島、福島東、安積、安積黎明、郡山東、郡山、白河、会津、葵、会津学鳳、喜多方、磐城、原町

ウ オールふくしまリーダー育成プロジェクト

教員や予備校講師によるレベルの高い授業を実施し学力の向上を図るとともに、進路講演会や大学の先輩との交流、参加者同士の協議等を通して進路意識の高揚を図り、将来リーダーシップを発揮し社会に貢献できる人材としての礎を築いた。

○日時：平成29年3月24日～27日（3泊4日）

○場所：国立磐梯青少年交流の家

○対象：難関大学進学への意識、意欲の高い県立高等学校1年生150名程度。

5 生徒指導・進路指導

(1) 教育事務所指導主事の活動

県内7地区の教育事務所の指導主事の活動によって生徒指導の充実を図った。

主な活動は次のとおりである。

- ア 地区内の高等学校の訪問指導（計画・随時）
- イ 地区内の高等学校生活指導協議会の指導・援助
- ウ 関係諸機関、諸団体との連携

- エ 生徒指導関係の情報と資料の収集
- オ 生徒指導関係の諸研修会における指導

(2) スクールカウンセラーの配置

生徒の問題行動の多様化や深刻化、東日本大震災に伴う心のケアに対応するため、全ての県立高等学校（94校）にスクールカウンセラーを配置した。

6 学校行事

(1) 卒業式

ア 県立高等学校卒業生数

課程	性別		計
	男	女	
全 日 制	7,089	6,677	13,766
定 時 制	103	109	212
通 信 制	53	69	122
計	7,245	6,855	14,100

イ 卒業式実施期日

種別	全日制	定時制	通信制	計
3月1日	87	6	0	93
3月2日	1	0	0	1
3月3日	0	1	0	1
3月5日	0	0	1	1
合 計	88	7	1	96

ウ 県知事、県議会議長、県教育長臨席校

県知事臨席校 3月1日 富岡高等学校

県議会議長臨席校 3月1日 大沼高等学校

県議会副議長臨席校 3月1日 白河高等学校

県教育長臨席校 3月1日 双葉高等学校

双葉翔陽高等学校

(2) 修学旅行（県立高等学校）（ ）は前年度

ア 参加生徒総数 13,592人(14,012人)

イ 参加率 98.3%(95.2%)

ウ 行 先

行先	北海道	関東	奈良・京都	中国・近畿	九州	沖縄	四国・中国・近畿	四国・近畿	四国	海外
校数	0 (2)	0 (0)	52 (49)	15 (14)	1 (2)	15 (22)	1 (0)	0 (1)	0 (0)	4 (3)

エ 航空機利用 43校(49校)
北海道方面 0校(2校)

大阪方面 23校 (20校)
九州方面 1校 (2校)
沖縄方面 15校 (22校)
広島 0校 (0校)
愛媛 0校 (0校)
海外 4校 (3校)

2泊3日 2校 (4校)
3泊4日 73校 (75校)
4泊5日 13校 (14校)

カ 必要経費

生徒一人当たりの最高額 169,386円 (167,254円)
最低額 73,603円 (67,739円)
平均額 101,556円 (99,848円)

オ 泊日数

1泊2日 0校 (0校)

キ 引率責任者

校長 41校 (46校)
教頭 47校 (47校)

7 産業教育

(1) 県産業教育フェア

平成28年度は実施せず。

(2) 文部科学省主催の研修講座と内容

ア 平成28年度産業・情報技術等指導者養成研修

教科	氏名	職名	学校名	研修先	研修期間
農業	大森賢治	教諭	岩瀬農業高等学校	クリエイト浜松	8月1日～8月5日
工業	渡邊豊	教諭	会津工業高等学校	金沢工業大学	8月23日～8月27日
商業	鈴木康弘	教諭	白河実業高等学校	千葉商科大学	8月1日～8月5日
家庭	川名三起子	教諭	安達東高等学校	全国高等学校長協会家庭部 会事務局他	7月26日～7月29日
情報	佐藤信彰	教諭	二本松工業高等学校	千葉商科大学	8月1日～8月5日

イ 平成28年度学校農業・家庭クラブ連盟指導者養成講座

教科	氏名	職名	学校名	研修先	研修期間
農業	菅野順	教諭	安達東高等学校	国立オリンピック記念 青少年総合センター	8月8日～8月10日
家庭	石田美紀	教諭	喜多方東高等学校	国立オリンピック記念 青少年総合センター	7月21日～7月22日

8 学校訪問

(1) 目的

指導主事等が県立学校を訪問し、関係者とともに授業研究や教科の指導に関する研究協議を行うことにより、学習指導等の充実を図る。

(2) 訪問校

経験者研修Ⅰ、又は経験者研修Ⅱの該当者の勤務する学校から教校を選定する。

(3) 訪問学校一覧

福島商業高等学校	音楽
福島明成高等学校	理科
福島工業高等学校	工業
二本松工業高等学校	理科
郡山高等学校	学校保健
須賀川高等学校	国語、数学
清陵情報高等学校	工業
長沼高等学校	国語、保健体育
光南高等学校	美術、学校保健
塙工業高等学校	英語
船引高等学校	地理歴史、公民
小野高等学校	商業
会津高等学校	地理歴史
葵高等学校	保健体育
会津学鳳高等学校	書道
若松商業高等学校	国語
喜多方桐桜高等学校	工業、商業
猪苗代高等学校	公民
耶麻農業高等学校	農業
川口高等学校	家庭
坂下高等学校	保健体育
南会津高等学校	数学、英語
磐城高等学校	理科、英語
いわき総合高等学校	国語
いわき光洋高等学校	保健体育
湯本高等学校	情報
いわき海星高等学校	水産
磐城農業高等学校	農業
勿来工業高等学校	工業
相馬高等学校	数学
相馬東高等学校	理科、家庭

9 県立学校学校教育指導委員

教科名	氏名	職名	学校名
国語	青木 仁志	教諭	小名浜高等学校
	岩田 隼	教諭	小野高等学校
	小野寺洋子	教諭	郡山高等学校
地理歴史	岩間真由美	教諭	須賀川桐陽高等学校
	神田みほ子	教諭	猪苗代高等学校
公民	菅野 京子	教諭	福島明成高等学校
	八幡 史恵	教諭	あさか開成高等学校
数学	五十嵐健博	教諭	会津学鳳高等学校
	小池 博枝	教諭	郡山東高等学校
	高谷 喜彦	教諭	相馬東高等学校
理科	生田目淳司	教諭	白河旭高等学校
	西山 博文	教諭	相馬高等学校
	渡邊 大典	教諭	湖南高等学校
保健体育	渡邊 吉城	教諭	保原高等学校
	相原 隆幸	教諭	葵高等学校
	五島 裕美	教諭	田村高等学校
芸術(音楽)	澤田 匡史	教諭	小名浜高等学校
	三國 邦彦	教諭	喜多方高等学校
	近藤 和子	教諭	須賀川桐陽高等学校
芸術(美術)	木口 純孝	教諭	福島西高等学校
	郡司 仁美	教諭	福島北高等学校
	折内 豊	教諭	勿来高等学校
外国語	春日 智志	教諭	田島高等学校
	吉田 寛	教諭	小野高等学校
	戸坂 孝子	教諭	耶麻農業高等学校
家庭	渡邊ひとみ	教諭	相馬農業高等学校
	阿部 泰之	教諭	磐城桜が丘高等学校
情報	鈴木 拓也	教諭	遠野高等学校
	佐藤 博之	教諭	会津農林高等学校
	山田みどり	教諭	相馬農業高等学校
農業・水産	清水 弥	教諭	いわき海星高等学校
	小宅 郁雄	教諭	平工業高等学校
	熊谷 雅仁	教諭	白河実業高等学校
工業	清水 隆司	教諭	塙工業高等学校
	高橋 健也	教諭	福島工業高等学校
	五十嵐陽一	教諭	湖南高等学校
商業	高野 賢司	教諭	平商業高等学校
	木村 哲也	教諭	会津第二高等学校
定通	森田千香子	養護教諭	聾学校
学校保健	小林 恵子	養護教諭	塙工業高等学校

(40名)

10 教科用図書

(1) 教科書採択事務説明会

平成28年度は実施せず。

11 教育研究団体

(1) 福島県高等学校長協会

組織

平成28年度福島県高等学校長協会役員名簿

役職名	氏名
会長	久保田 範夫 (安積)
副会長	菅野 誠 (福島)
副会長	山内 正之 (会津)
副会長	阿部 正春 (磐城)
副会長	鎌田 由人 (相東)
監査	吉田 啓一郎 (福西)
監査	池田 健一郎 (福南)
事務局長	吉田 豊彦 (福東)

支部

支部	支部長	副支部長
県北	菅野 誠 (福島)	青山 修身 (橘) 喜多見 薫 (福商)
県南	久保田 範夫 (安積)	源後 正能 (黎明) 太田 孝 (白河)
会津	山内 正之 (会津)	高城 友治 (葵) 佐藤 肇 (喜多方)
いわき	阿部 正春 (磐城)	根本 良政 (桜が丘) 松田 泰夫 (平商)
相双	鎌田 由人 (相東)	佐川 尚史 (原町) 小島 稔 (双葉)

理事会

	氏名
理事会	久保田 範夫 (安積) 青山 修身 (橘) 菅野 誠 (福島) 喜多見 薫 (福商) 山内 正之 (会津) 佐久間 秀夫 (福明) 阿部 正春 (磐城) 松本 明倫 (福工) 鎌田 由人 (相東) 白石 文夫 (萌世) 吉田 豊彦 (福東) 阿部 教夫 (盲) 長岐 博 (高体連)

専門委員会

◎印 委員長 ○印 副委員長

専門委員会	氏名
管理運営委員会	◎吉田 強栄 (翠杜) ○二瓶 晃一 (猪苗代) 池田 健一郎 (福南) 阿部 教夫 (盲) 長岐 博 (田村) 渡邊 周二 (石養) 阿部 正春 (磐城) 天野 温子 (猪養) 阿部 秀樹 (四倉) 西村 則昌 (相養) 丹野 純一 (ふ未来)

教育課題委員会	◎田中 誠 (石川) ○山崎 雅弘 (富岡) 吉田 豊彦 (福東) 長島 雄一 (川口) 佐藤 恵一 (清陵) 松尾 親弥 (遠野) 水野 晴夫 (修明) 小島 稔 (双葉) 山内 正之 (会津) 片寄 一 (大笹養) 安田 修久 (耶農) 上妻 弘 (郡養) 中野 隆幸 (西会) 門馬 栄 (平養)
生徒指導委員会	◎高梨 哲夫 (二工) ○渡辺 譲治 (磐農) 高野 成一 (福北) 菅野 利彦 (双翔) 桑名 俊之 (長沼) 江尻 雅彦 (新地) 佐藤 浩正 (埴工) 古河志津子 (あ養) 伊豆 幸男 (船引) 神田 豊 (会養) 澁谷 栄一 (桐桜) 齋藤 秀美 (い養)
教育課程委員会	◎吉田 佳正 (大沼) ○佐藤 京治 (浪江) 佐久間 秀夫 (福明) 猪俣 豊 (只見) 松本 明倫 (福工) 吉村 淳 (勿来) 吉田 浩美 (湖南) 富樫 実 (勿工) 大和田 範雄 (岩農) 鹿目 敦子 (須養) 湯田 重哉 (田島)
高校入試検討委員会	◎菅野 哲哉 (光南) ○瓜生 康弘 (梁川) 安田 徹 (保原) 鈴木 健生 (喜東) 久保田 範夫 (安積) 諏佐 一夫 (坂下) 鈴木 睦治 (あ開) 星 栄一 (小名浜) 瀬谷 真理子 (須高) 比佐 功 (好間) 末永 仁 (須桐) 中野 幹夫 (相農)
大学入試対策委員会	◎吉田 啓一郎 (福西) ○竹田 真二 (郡東) 菅野 誠 (福島) 加藤 知道 (学鳳) 青山 修身 (橘) 佐藤 肇 (喜多方) 源後 正能 (黎明) 根本 良政 (桜丘) 大和田 修 (郡山) 廣瀬 敬彦 (い光) 太田 孝 (白河) 遠藤 雄二郎 (湯本) 安倍 真一郎 (白旭) 横山 隆 (相馬) 高城 友治 (葵) 佐川 尚史 (原町)
就職指導対策委員会	◎木田 英男 (郡北) ○小林 喜則 (郡商) 喜多見 薫 (福商) 鈴木 康隆 (平工) 佐藤 誠一 (川俣) 松田 泰夫 (平商) 杉内 聡恵 (本宮) 澤尻 京二 (海星) 長田 公雄 (小野) 齋藤 寿 (小商) 深津 文夫 (若商) 鈴木 稔 (小工) 二瓶 賢一 (会工) 白石 文夫 (萌世) 渡邊 芳広 (会農) 芳賀 孝美 (豊)
人権教育委員会	◎小河原 健一 (富養) ○吉津 三千彦 (南会津) 佐藤 信常 (安達) 安瀬 一夫 (い総) 森田 晶代 (安達東) 鎌田 由人 (相東) 馬場 裕史 (白実) 眞部 知子 (西養)

部会長

部 会	氏 名
普通部会	青山 修身 (橘)
商業部会	喜多見 薫 (福島商業)
農業部会	佐久間秀夫 (福島明成)
工業部会	松本 明倫 (福島工業)
水産部会	澤尻 京二 (いわき海星)
家庭部会	森田 晶代 (安達東)
定通部会	白石 文夫 (郡山萌世)
特別支援部会	阿部 教夫 (盲)
理数部会	末永 仁 (須賀川桐陽)
英語国際部会	池田健一郎 (福島南)
体育部会	長岐 博 (田村)
総合学科部会	高野 成一 (福島北)

全国校長会

部 会	氏 名
理 事	菅野 誠 (福島)
理 事	久保田範夫 (安積)
理 事	阿部 正春 (磐城)
管理運営	吉田 強栄 (いわき翠の杜)
教育課題	田中 誠 (石川)
生徒指導	高梨 哲夫 (二本松工業)
教育課程	吉田 佳正 (大沼)
大学入試	吉田啓一郎 (福島西)
就職対策	木田 英男 (郡山北工業)
人権教育	小河原健一 (富岡養護)

(2) 福島県高等学校教育研究会

ア 財政及び組織の状況

(7) 本部

平成28年度福島県高等学校教育研究会

役職名	氏名	所属校・職名
会長	松本 明倫	福島県立福島工業高等学校長
副会長	竹田 真二	郡山東高等学校長
副会長	高城 友治	葵高等学校長
監査	高野 成一	福島北高等学校長
監査	吉田 豊彦	福島東高等学校長
委員	佐藤 恵一	清陵情報高等学校長
委員	比佐 功	好間高等学校長
委員	佐久間秀夫	福島明成高等学校長
委員	喜多見 薫	福島商業高等学校長
委員	二瓶 晃一	猪苗代高等学校長
委員	渡辺 譲治	磐城農業高等学校長
委員	菅野 哲哉	光南高等学校長
幹事	芳賀 菊博	福島工業高等学校教頭
幹事	加勢 宏	福島工業高等学校教頭

(1) 部会

部会名	部会長氏名	所属校・職名	会員数
養護教諭	佐藤 恵一	清陵情報高等学校長	1 5 2
保健体育	比佐 功	好間高等学校長	4 5 1
理 科	高城 友治	葵高等学校長	5 3 4
音 楽	佐藤 恵一	清陵情報高等学校長	8 7
農 業	佐久間秀夫	福島明成高等学校長	2 3 0
工 業	松本 明倫	福島工業高等学校長	4 2 4
商 業	喜多見 薫	福島商業高等学校長	3 5 0
定 通	松本 明倫	福島工業高等学校長	1 5 6
英 語	二瓶 晃一	猪苗代高等学校長	4 6 8
数 学	竹田 真二	郡山東高等学校長	5 1 4
家 庭	渡辺 譲治	磐城農業高等学校長	1 3 9
美術工芸	菅野 哲哉	光南高等学校長	6 9

○平成28年度予算 120,002円

第4節 文化活動の振興

1 文化活動の振興

高校生の芸術文化活動の充実向上を図るため、福島県高等学校文化連盟に対する助成を行った。

平成28年12月18日(日)、いわき芸術文化交流館アリオスにおいて第35回福島県高等学校総合文化祭～ふくしまをつなぐ2016～活動優秀校公演が行われ、事務局校である四倉高等学校を中心とした実行委員会の協力により、成功裏のうちに終了した。

(1) 芸術文化活動発表機会の充実

ア 福島県高等学校文化連盟への助成

福島県高等学校総合文化祭の開催に対する補助を行った。(補助対象事業費計：8,732千円、補助金額計：1,000千円)

18年度福島県高等学校文化連盟

氏名	職	所属校	役職名	氏名	職	所属校
源 後 正 能	校長	安積黎明高等学校	監事	小 林 喜 則	校長	郡山商業高等学校
森 涼	校長	学法石川高等学校	幹事	飯 豊 利 子	教諭	郡山高等学校
佐 藤 信 常	校長	安達高等学校	幹事	土 屋 裕 子	教諭	四倉高等学校
竹 田 真 二	校長	白河実業高等学校	幹事	菊 地 良 尚	教諭	郡山東高等学校
吉 田 佳 正	校長	大沼高等学校	幹事	辻 本 理 恵	教諭	安達高等学校
阿 部 秀 樹	校長	四倉高等学校	幹事	吉 田 義 仁	教諭	郡山北工業高等学校
中 野 幹 夫	校長	相馬農業高等学校	幹事	岩 田 隼	教諭	小野高等学校
三 條 敦	教諭	安積黎明高等学校	幹事	津 瀧 亜 希 子	講師	安積黎明高等学校
根 本 靖 彦	教諭	安積黎明高等学校	顧問	阿 部 武 彦	課長	高校教育課
加 藤 尚 実	教諭	安積黎明高等学校				

会長・専門部委員長

部	部会長	職	所属校	部委員長	職	所属校
劇	吉 田 佳 正	校長	大 沼	佐 藤 雅 通	教諭	大 沼
音 連	佐 藤 恵 一	校長	清 陵 情 報	菅 原 民 栄	教諭	岩 瀬 農 業
唱	久 保 田 範 夫	校長	安 積	鈴 木 敦	教諭	安 積
楽	丹 野 純 一	校長	ふ た ば 未 来	今 野 貴 文	教諭	ふ た ば 未 来
弦 楽	小 林 喜 則	校長	郡 山 商	鈴 木 敦	教諭	郡 山 商
音 楽	星 栄 一	校長	小 名 浜	瀬 谷 浩 子	教諭	小 名 浜
詩 舞	永 井 祥 一	校長	昌 平	賀 澤 裕 三	講師	昌 平
芸 能	中 野 幹 夫	校長	相 馬 農	村 田 和 丈	教諭	相 馬 農
工 芸	小 林 喜 則	校長	郡 山 商	横 田 日 夏	教諭	郡 山 商
道	菅 野 哲 哉	校長	光 南	片 平 仁	教諭	福 島 工 業
真	吉 田 啓 一 郎	校長	福 島 西	鹿 山 俊	教諭	福 島 西
送	小 林 喜 則	校長	郡 山 商	石 井 克 明	教諭	郡 山 商
碁	加 藤 知 道	校長	会 津 学 鳳	高 橋 俊 男	教諭	会 津 学 鳳
棋	阿 部 正 春	校長	磐 城	鈴 木 仁 孝	教諭	橋
論	菅 野 誠	校長	福 島	根 本 郁 男	教諭	福 島
人 論	山 内 正 之	校長	会 津	佐 藤 繁	教諭	会 津
聞 芸	源 後 正 能	校長	安 積 黎 明	橋 本 安 広	教諭	田 村
科 学	横 山 隆	校長	相 馬	武 内 義 明	教諭	相 馬
業 業	竹 田 真 二	校長	郡 山 東	奥 真 理 子	教諭	会 津 学 鳳
業 業	高 城 友 治	校長	葵	山 口 伝	教諭	会 津 学 鳳
庭	中 野 幹 夫	校長	相 馬 農 業	藤 原 忍	教諭	相 馬 農 業
通	木 田 英 男	校長	郡 山 北 工	片 平 崇 之	教諭	郡 山 北 工
援 学 校	喜 多 見 薫	校長	福 島 商	三 浦 純	教諭	福 島 商
C	鈴 木 健 生	校長	喜 多 方 東	石 田 美 紀	教諭	喜 多 方 東
	吉 田 強 栄	校長	いわき翠の杜	原 寛 子	教諭	いわき翠の杜
	齋 藤 秀 美	校長	いわき養護	田 野 入 亜 希 子	教諭	いわき養護
	菅 野 哲 哉	校長	光 南	揚 妻 敏 子	教諭	光 南

イ 第35回福島県高等学校総合文化祭

県内高校生の文化活動の成果発表と相互の交流を目的として、全県内において、平成28年5月から平成28年12月まで、専門部の行事を開催した。

ウ 第40回全国高等学校総合文化祭への参加

平成28年7月30日から8月3日まで、広島県で開催された文化祭に参加する160名を派遣した。

[参加部門等及び参加生徒数]

総合開会式1名、器楽・管弦楽12名、日本音楽15名、吟詠剣詩舞12名、郷土芸能27名、美術・工芸5名、書道5名、写真8名、放送22名、囲碁5名、将棋6名、弁論2名、小倉百人一首9名、新聞8名、文芸5名、自然科学14名、ボランティア4名

エ 平成28年度福島県高文連専門部全国大会入賞状況

(ア) 団体

専門部	大会名	成績	学校名
合唱	第69回全日本合唱コンクール全国大会	金賞(全国2位相当) (香川県知事賞)	会津
		金賞	郡山
		銀賞	安積黎明
	第83回NHK全国学校音楽コンクール全国大会	銅賞(3位相当)	安積黎明
	第10回声楽アンサンブルコンテスト全国大会	第3位	郡山
吹奏楽	第64回全日本吹奏楽コンクール	銀賞	磐城
		銀賞	湯本
	第40回全日本アンサンブルコンテスト全国大会	金賞	平商業
放送	第63回NHK杯全国高等学校放送コンテスト	創作ラジオドキュメント部門 優勝 (全国1位相当)	安積黎明
	第40回全国高等学校総合文化祭広島大会放送部門	ビデオメッセージ部門 優秀賞 (全国1位相当)	安積黎明
新聞	第2回高校新聞部インターハイ新聞コンクール	最優秀賞(読売新聞社賞)	郡山東
	第45回全国高校新聞コンクール	優秀校	安積
工業	第7回国際ナノ・マイクロアプリケーションコンテスト世界大会	世界第3位、特別賞	郡山北工業
	本田宗一郎杯Hondaエコマイレージチャレンジ2016	第3位	会津工業
	第36回全国大会2人乗りクラス		
商業	全国高等学校珠算・電卓競技大会	優勝(全国1位相当)	郡山商業
	団体総合競技		
	全国簿記電卓競技大会電卓部門	準優勝(全国2位相当)	郡山商業
	全国高等学校情報処理選手権大会	準優勝(全国第2位相当)	福島商業
マーチングバンド	全国高等学校ダンスドリル選手権大会2016	プロップ部門 優勝 (全国1位相当)	郡山商業
	全国高等学校ダンスドリル選手権大会	ポン部門 優勝 (全国1位相当)	郡山商業
トワリング	ウィンターカップ		

	全国高等学校ダンスドリル選手権大会 ウィンターカップ	リリカル部門 第3位	郡山商業
		ジャズ部門 第3位	郡山
新聞	第41回全国高校新聞コンクール	優秀賞	相馬

(イ) 個人

専門部	大会名	成績	学校名	氏名
放送	第40回全国高等学校総合文化祭広島大会放送部門 朗読部門	優秀賞 (全国1位相当)	会津学鳳	富田夏芽
小倉百人一首かるた	第40回全国高等学校総合文化祭 広島大会 小倉百人一首かるた部門読手の部	全国優秀賞	安積黎明	片桐沙都
	第40回全国高等学校総合文化祭 広島大会 小倉百人一首かるた部門競技の部	優良賞 (全国3位相当)	安積黎明	西牧真凜
		優良賞 (全国3位相当)	安積黎明	古川唯夏
		優良賞 (全国3位相当)	安積黎明	増子未夕
		優良賞 (全国3位相当)	安積黎明	馬場智大
		優良賞 (全国3位相当)	安積黎明	田村優樹
		優良賞 (全国3位相当)	安積黎明	阿部麻莉奈
		優良賞 (全国3位相当)	安積黎明	宇佐神奏子
商業	全国高等学校珠算・電卓競技大会 電卓の部個人総合競技	第3等 (全国3位相当)	福島商業	南澤義幸
		第2等 (全国2位相当)	郡山商業	佐藤有美
		第2等 (全国2位相当) 優勝 (全国1位相当) 第2等 (全国2位相当) 準優勝 (全国2位相当)	郡山商業	水野雄斗
				弟子丸遥花
				優良賞 (全国1位相当)

	全国高等学校珠算・電卓競技大会 電卓の部伝票算競技	第 2 等 (全国 2 位相当)	郡山商業	濱津花恋
マーチング バンド ・バトン トワリン グ	全国高等学校ダンスドリル選手権大会 ウィンターカップ 学年別ソロの部	第 1 位	郡山	鈴木梨奈
弁論	第 1 2 回高校生スピーチコンテスト	審査員特別 賞 (全国 3 位相当)	会津	齋藤奏
	第 6 3 回国際理解・協力のための高 校生の主張コンクール	外務大臣賞 (全国 1 位相当)	安積	和田奈那
農業	第 67 回日本学校農業クラブ全国大会大阪大会 農業鑑定競技会 分野 農業	最 優 秀 (全国 1 位相当)	耶麻農業	五十嵐智美
	第 67 回日本学校農業クラブ全国大会大阪大会 意見発表Ⅲ類ヒューマンサービス	最 優 秀 (文部科学大臣賞)	福島明成	佐藤真未子
家庭	第 6 4 回全国高等学校家庭クラブ連盟 研究発表大会ホームプロジェクトの部	福島県教育委員会賞 (全国 3 位相当)	湯本	我妻美紅
工業	第 1 6 回全国高校生ものづくり コンテスト建設系木材加工部門	準 優 勝 (全国 2 位相当)	福島工	佐藤天

オ 平成 28 年度福島県高等学校文化連盟表彰

(ア) 優秀団体

No.	団体名	所属校名	専門部	全国大会等での成績
1	チアリーダーイング部	郡山商業	マーチ ングバ ンド・ バトン トワリ ング	全国高等学校ダンスドリル選手権大会 2016 主催：ミスダンスドリルチーム・インターナシ ョナル・ジャパン プロップ部門 優勝 (全国 1 位相当)
				全国高等学校ダンスドリル選手権大会ウィンター カップ 主催：ミスダンスドリルチーム・インターナシ ョナル・ジャパン ポン部門 優勝 (全国 1 位相当)
				全国高等学校ダンスドリル選手権大会ウィンター カップ 主催：ミスダンスドリルチーム・インターナシ ョナル・ジャパン リリカル部門 第 3 位
2	放送委員会	安積黎明	放送	第 6 3 回 N H K 杯全国高等学校放送コンテスト 主催：全国放送教育研究連盟 創作ラジオドキュメント部門 優勝 (全国 1 位相 当)
				第 4 0 回全国高等学校総合文化祭広島大会放送部 門 主催：全国高等学校文化連盟 ビデオメッセージ部門 優秀賞 (全国 1 位相当)

3	コンピュータ部	郡山北工業	工業	第7回国際ナノ・マイクロアプリケーションコンテスト 主催：MEMS パークコンソーシアム 世界大会3位 特別賞 国内予選(全国1位相当)
4	珠算部	郡山商業	商業	全国簿記電卓競技大会(電卓部門) 主催：全国経理教育協会 団体競技準優勝(全国2位相当)
5	珠算部	郡山商業	商業	全国高等学校珠算・電卓競技大会 主催：全国商業高等学校協会 団体総合競技優勝(全国1位相当)
6	情報処理部	福島商業	商業	全国高等学校情報処理選手権 主催：学校法人立志舎 団体2位(全国2位相当)
7	コーラス部	安積黎明	合唱	第83回NHK全国学校音楽コンクール全国大会 主催：NHK 銅賞(全国3位相当)
				第69回全日本合唱コンクール 主催：全日本合唱連盟 銀賞
8	合唱部	会津	合唱	第69回全日本合唱コンクール 主催：全日本合唱連盟 金賞(第2位相当)
9	合唱部	郡山	合唱	第69回全日本合唱コンクール 主催：全日本合唱連盟 金賞
				第10回声楽アンサンブルコンテスト全国大会 主催：福島県 第3位(全国3位相当)
10	吹奏楽	平商業	吹奏楽	第40回全日本アンサンブルコンテスト 主催：全日本吹奏楽連盟 金賞(全国1位相当)
11	チアダンス部	郡山	マーチングバンド・ジャズ部門	全国高等学校ダンスドリル選手権大会ウィンターカップ 主催：ミスダンスドリルチーム・インターナショナル・ジャパン ジャズ部門(全国3位相当)
12	機械研修部	会津工業	工業	本田宗一郎 Honda エコマイレッジ チャレンジ 2016第36回全国大会 主催：Honda 2人乗りクラス 3位(全国3位相当)

(イ) 優秀個人

No.	氏名	所属校名	専門部	全国大会等での成績
1	富田夏芽	会津学鳳	放送	第40回全国高等学校総合文化祭広島大会放送部門 主催：全国高等学校文化連盟 朗読部門 優秀賞(全国1位相当)
2	片桐沙都	安積黎明	小倉百人一首かるた	第40回全国高等学校総合文化祭広島大会小倉百人一首かるた部門 主催：全国高等学校文化連盟 読手コンクールの部 全国優秀賞(全国2・3位相当)

3	西 牧 真 凜	安 積 黎 明	小 倉 百 人 一 首 か る た	第 4 0 回 全 国 高 等 学 校 総 合 文 化 祭 広 島 大 会 小 倉 百 人 一 首 か る た 部 門 主 催 : 全 国 高 等 学 校 文 化 連 盟 競 技 の 部 優 良 賞 (全 国 3 位 相 当)
4	古 川 唯 夏	安 積 黎 明	小 倉 百 人 一 首 か る た	第 4 0 回 全 国 高 等 学 校 総 合 文 化 祭 広 島 大 会 小 倉 百 人 一 首 か る た 部 門 主 催 : 全 国 高 等 学 校 文 化 連 盟 競 技 の 部 優 良 賞 (全 国 3 位 相 当)
5	増 子 未 夕	安 積 黎 明	小 倉 百 人 一 首 か る た	第 4 0 回 全 国 高 等 学 校 総 合 文 化 祭 広 島 大 会 小 倉 百 人 一 首 か る た 部 門 主 催 : 全 国 高 等 学 校 文 化 連 盟 競 技 の 部 優 良 賞 (全 国 3 位 相 当)
6	馬 場 智 大	安 積 黎 明	小 倉 百 人 一 首 か る た	第 4 0 回 全 国 高 等 学 校 総 合 文 化 祭 広 島 大 会 小 倉 百 人 一 首 か る た 部 門 主 催 : 全 国 高 等 学 校 文 化 連 盟 競 技 の 部 優 良 賞 (全 国 3 位 相 当)
7	田 村 優 樹	安 積 黎 明	小 倉 百 人 一 首 か る た	第 4 0 回 全 国 高 等 学 校 総 合 文 化 祭 広 島 大 会 小 倉 百 人 一 首 か る た 部 門 主 催 : 全 国 高 等 学 校 文 化 連 盟 競 技 の 部 優 良 賞 (全 国 3 位 相 当)
8	阿 部 麻 利 奈	安 積 黎 明	小 倉 百 人 一 首 か る た	第 4 0 回 全 国 高 等 学 校 総 合 文 化 祭 広 島 大 会 小 倉 百 人 一 首 か る た 部 門 主 催 : 全 国 高 等 学 校 文 化 連 盟 競 技 の 部 優 良 賞 (全 国 3 位 相 当)
9	宇 佐 神 奏 子	安 積 黎 明	小 倉 百 人 一 首 か る た	第 4 0 回 全 国 高 等 学 校 総 合 文 化 祭 広 島 大 会 小 倉 百 人 一 首 か る た 部 門 主 催 : 全 国 高 等 学 校 文 化 連 盟 競 技 の 部 優 良 賞 (全 国 3 位 相 当)
10	菊 地 信 吾	安 積 黎 明	小 倉 百 人 一 首 か る た	第 4 0 回 全 国 高 等 学 校 総 合 文 化 祭 広 島 大 会 小 倉 百 人 一 首 か る た 部 門 主 催 : 全 国 高 等 学 校 文 化 連 盟 競 技 の 部 優 良 賞 (全 国 3 位 相 当)
11	南 澤 義 幸	福 島 商 業	商 業	全 国 高 等 学 校 情 報 処 理 選 手 権 主 催 : 全 国 商 業 高 等 学 校 協 会 個 人 3 位 (全 国 3 位 相 当)
12	佐 藤 有 美	郡 山 商 業	商 業	全 国 高 等 学 校 珠 算 ・ 電 卓 競 技 大 会 主 催 : 全 国 商 業 高 等 学 校 協 会 電 卓 の 部 個 人 総 合 競 技 2 等 (全 国 2 位 相 当)
13	水 野 雄 斗	郡 山 商 業	商 業	全 国 高 等 学 校 珠 算 ・ 電 卓 競 技 大 会 主 催 : 全 国 経 理 教 育 協 会 全 国 簿 記 ・ 電 卓 競 技 大 会 主 催 : 全 国 商 業 高 等 学 校 協 会 電 卓 の 部 個 人 総 合 競 技 2 等 (全 国 2 位 相 当) 応 用 計 算 競 技 優 勝 (全 国 1 位 相 当) 伝 票 算 競 技 2 等 (全 国 2 位 相 当) 電 卓 の 部 個 人 総 合 競 技 準 優 勝 (全 国 2 位 相 当)
14	弟 子 丸 遥 花	郡 山 商 業	商 業	全 国 高 等 学 校 珠 算 ・ 電 卓 競 技 大 会 主 催 : 全 国 商 業 高 等 学 校 協 会 電 卓 の 部 伝 票 算 競 技 優 勝 (全 国 1 位 相 当)
15	濱 津 花 恋	郡 山 商 業	商 業	全 国 高 等 学 校 珠 算 ・ 電 卓 競 技 大 会 主 催 : 全 国 商 業 高 等 学 校 協 会 電 卓 の 部 伝 票 算 競 技 2 等 (全 国 2 位 相 当)
16	齋 藤 奏	会 津	弁 論	第 1 2 回 高 校 生 ス ピ ー チ コ ン テ ス ト 主 催 : 東 北 文 化 学 園 大 学

				審査員特別賞(全国3位相当)
17	和田 奈那	安 積 弁 論		第63回国際理解・協力のための高校生の主張コンクール 主催：外務省・公益財団法人日本国際連合協会 外務大臣賞(全国1位相当)
18	五十嵐 智美	耶麻農業 農 業		第67回日本学校農業クラブ全国大会大阪大会 主催：日本学校農業クラブ連盟 農業鑑定競技会 分野 農業 最優秀(全国1位相当)
19	佐藤 真未子	福島明成 農 業		第67回日本学校農業クラブ全国大会大阪大会 主催：日本学校農業クラブ連盟 意見発表 III類ヒューマンサービス 最優秀(文部科学大臣賞、全国1位相当)
20	鈴木 梨奈	郡 山 マーチン グバンド ・バトン トワリン グ		全国高等学校ダンスドリル選手権大会ウィンターカップ 主催：ミスダンスドリルチーム・インターナショナル・ジャパン 学年別ソロの部 第1位(全国1位相当)
21	我妻 美紅	湯 本 家 庭		第64回全国高等学校家庭クラブ連盟研究発表大会 主催：全日本家庭クラブ連盟 ホームプロジェクトの部 福島県教育委員会賞(全国3位相当)
22	佐藤 天	福島工業 工 業		第16回全国高校生ものづくりコンテスト 主催：公益財団法人全国工業高等学校長協会 建設系 木材加工部門 準優勝(全国2位相当)

(ウ) 優秀指導者

No.	氏 名	所属校名	専 門 部	指 導 歴 等
1	吉 田 義 仁	郡山北工業	新聞専門部	第38回全国高等学校総合文化祭新聞部門年間紙面審査優良賞(郡山東高校) 第2回高校新聞部インターハイ新聞コンクール最優秀賞(読売新聞社賞)
2	佐藤 繁	会 津	福島県高文連事務局	第62回全国高等学校決勝弁論大会個人の部準優勝(館林市議会議長賞) 第63回全国高等学校決勝弁論大会準優勝(群馬県議会議長賞) 第69回全国高等学校弁論大会(内閣総理大臣賞・文部科学大臣賞) 第4回安田峰一郎記念 世界平和弁論大会(特選) 第59回文部科学大臣杯全国青年弁論大会(優秀賞・名古屋市議会議長賞)
3	高橋 佳典	福島明成	農業専門部	第9回酪農の夢コンクール全国大会最優秀賞 農業専門部 平成27年度第66回日本学校農業クラブ連盟全国大会群馬大会意見発表会区分 「食料・生産」優秀賞
4	遠藤 教広	磐 城	文芸専門部	平成24年度第27回全国高等学校文芸コンクール文芸部誌部門 優秀賞(一ツ橋文芸教育振興賞) 全国第3位相当 第30回全国高等学校文芸コンクール優秀賞

第7章 特別支援教育

第1節 概要

県教育委員会では、福島県学校教育審議会に本県における今後の特別支援教育の在り方について諮問し、平成21年9月に「地域で共に学び、共に生きる教育」の推進を基本理念とする答申を受けた。本答申を具体的な施策に反映させるため、第6次福島県総合教育計画（改訂版）においては、「地域におけるインクルーシブ教育システムの構築と理解啓発の促進」、「小・中学校における特別支援教育の充実」、「高等学校における特別支援教育の充実」、「特別支援学校における特別支援教育とセンター的機能の充実」、「教員の特別支援教育に関する指導力の向上」の5項目を本県の目指すべき特別支援教育の方向性として示した。

また、「夢に向かってテクノチャレンジ事業」を実施し、高等部設置県立特別支援学校全校による特別支援学校作業技能大会を開催した。各校の進路に関する学習の成果を発表し合うとともに、作業技能検定等において外部専門家から客観的な評価を受けることを通して、生徒の自立や社会参加につながる学力や技能、意欲の向上を図った。また、「次世代のふくしまを担う人材育成事業（特別支援学校における就労総合支援事業）」を実施し、特別支援学校高等部生徒の就職率と職場定着率の向上に向けて、労働や福祉の関係機関と連携体制の構築と、企業への理解啓発並びに企業で働き続けることのできる人材の育成を図った。

「インクルーシブ教育システム推進事業」では、市町村教育委員会と連携協力の下、医療、保健、福祉、労働との関係機関と連携を図りながら、県内全ての特別な支援を必要とする幼児児童生徒が自立に向けて地域において一貫した支援を受けることができる体制整備を進めた。特別支援学校教員に対する研修の充実を図り専門性の向上を図るとともに、特別支援学校のセンター的機能による、幼稚園、小・中・高等学校への相談支援や研修支援を充実させ、地域における指導支援の充実を図った。さらに、教育事務所を中心として養護教育センター、特別支援学校がそれぞれの役割や機能を生かし、地域支援チームとして連携・協力して市町村や学校等のニーズに応じて、支援体制整備に向けた取組を行った。

「特別支援学校における医療的ケア実施事業」を実施し、教育・医療・福祉等関係者からなる「医療的ケア実施運営協議会」を設置し、本県における医療的ケアの在り方について研究・協議を行った。また、常時、医療的ケアを必要とする児童生徒（訪問教育や病院入院生徒は除く）が在籍している学校(12校)に常勤講師及び特別非常勤講師として看護師を配置した。さらに、医療的ケアの実施を指導する「指導医の委嘱」、地域の保健・医療・福祉機関のバックアップ体制の確立のための「医療的ケアサポート会議の設置」、医療的ケアの実施に必要な「医療機器等の整備」を行った。

第2節 学校管理

1 児童生徒数と教職員定数

(1) 児童生徒数の推移

種別	部/年度	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
視覚障がい 特別支援学校	小学部	12	8	8	10	9	7	6	6	4	3	5
	中学部	5	11	12	10	7	6	7	8	6	5	3
	高等部	36	39	28	29	32	33	35	30	25	24	22
	計	53	58	48	49	48	46	48	44	35	32	30
聴覚障がい 特別支援学校	幼稚部	13	13	14	17	17	14	16	11	17	12	10
	小学部	39	33	35	35	44	42	46	54	45	44	44
	中学部	24	24	21	24	20	21	17	18	22	25	26
	高等部	24	27	25	23	24	25	29	24	24	22	23
計	100	97	95	99	105	102	108	107	108	103	103	
知的障がい 特別支援学校	小学部	457	460	462	464	493	498	504	501	517	529	543
	中学部	330	354	385	408	376	345	334	362	373	371	370
	高等部	546	601	657	670	746	763	824	757	749	751	803
	計	1,333	1,415	1,504	1,542	1,615	1,606	1,662	1,620	1,639	1,651	1,716
肢体不自由 特別支援学校	小学部	113	117	114	118	119	120	124	128	142	139	136
	中学部	80	67	77	73	71	58	71	68	69	70	66
	高等部	86	91	84	90	78	83	75	76	72	79	82
	計	279	275	275	281	268	261	270	272	283	288	284
病弱	小学部	29	26	30	29	37	40	34	29	35	27	33
	中学部	39	39	39	40	36	46	46	36	25	32	23

特別支援学校	高等部	58	40	42	40	45	44	46	40	32	37	35
	計	126	105	111	109	118	130	126	105	92	96	91
計		1,891	1,950	2,033	2,080	2,154	2,145	2,214	2,148	2,157	2,170	2,224

※1 知的障がい特別支援学校は市立特別支援学校、福島大学附属特別支援学校を含む。

※2 視覚障がい特別支援学校高等部は専攻科を含む。

(2) 平成28年度児童生徒数

(H28.5.1 学校基本調査、含む訪問学級)

種別	性別	部	小学部							中学部				高等部				専攻科	合計	総計	
			本科																		
			1	2	3	4	5	6	計	1	2	3	計	1	2	3	計				
視覚障がい 特別支援学校	男		1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	1	3	3	7	7	14	16	
	女		0	0	0	1	2	1	4	0	1	1	2	5	2	1	8	0	8	14	
	計		1	0	0	1	2	1	5	0	2	1	3	6	5	4	15	7	22	30	
聴覚障がい 特別支援学校	男	6	4	4	2	6	3	8	27	4	5	7	16	0	7	5	12			61	
	女	4	3	2	1	5	4	2	17	2	4	4	10	5	2	4	11			42	
	計	10	7	6	3	11	7	10	44	6	9	11	26	5	9	9	23			103	
知的障がい 特別支援学校	男		71	68	57	51	56	73	376	88	77	85	250	201	189	157	547			1173	
	女		26	23	32	31	26	29	167	34	42	44	120	70	86	100	256			543	
	計		97	91	89	82	82	102	543	122	119	129	370	271	275	257	803			1716	
肢体不自由 特別支援学校	男		10	15	14	9	13	15	76	14	16	11	41	18	19	14	51			168	
	女		7	7	12	16	11	7	60	8	8	9	25	11	10	10	31			116	
	計		17	22	26	25	24	22	136	22	24	20	66	29	29	24	82			284	
病弱 特別支援学校	男		3	3	4	2	3	5	20	1	6	3	10	7	9	6	22			52	
	女		1	0	2	3	2	5	13	3	7	3	13	4	3	6	13			39	
	計		4	3	6	5	5	10	33	4	13	6	23	11	12	12	35			91	

※ 市立特別支援学校、福島大学附属特別支援学校を含む。

(3) 県立特別支援学校教職員定数の推移

種別	年度	盲学校・聾学校										養護学校									
		19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
教員	校長	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	11	11	11	12	12	12	12	12	12	12
	教頭・教諭	117	114	122	123	121	117	119	115	131	129	868	882	887	948	994	965	963	967	1,145	1,157
	養護教諭	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	23	23	23	24	25	24	24	23	24	24
	兼任主事																				
	補充教員	9	11	7	10	5	10	11	16	14	8	94	120	148	147	132	162	159	160	160	150
	講師																				
	寄宿舎指導員	25	22	24	24	24	26	25	25	25	27	32	31	30	31	34	33	33	32	34	32
	実習助手	6	8	8	8	8	8	8	8	8	8	22	22	22	24	24	24	24	24	24	25
	計	163	161	167	171	164	167	169	170	184	178	1,186	1,186	1,121	1,186	1,221	1,220	1,215	1,218	1,399	1,400
事務職員	11	11	11	10	11	11	12	11	11	11	46	45	44	48	48	49	53	51	50	51	
その他の職員	技能労務員																				
	学校司書																				
	用務員	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	8	8	8	6	6	6	6	6	6	7
	ボイラー技師	2	1	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	2	2	2	1	1	1	1
	栄養職員	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	4	6	6	7	7	9	8	9	9	9
	調理給食員																				
	技能訓練士																				
	マッサージ師																				
	運転手											1	1	1	1	1					
計	6	5	6	6	6	6	6	6	6	5	14	16	16	16	16	17	15	16	16	17	
合計	180	177	184	187	181	184	187	187	201	194	1,110	1,150	1,181	1,250	1,285	1,286	1,283	1,285	1,465	1,468	

種別 年度	計										
	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	
校長	13	13	13	14	14	14	14	14	14	14	14
教頭・教諭	985	996	1,009	1,071	1,115	1,082	1,082	1,082	1,276	1,286	
教養護教諭	27	27	27	28	29	28	28	27	28	28	
兼任主事	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
補充教員	103	131	155	157	137	172	170	176	174	158	
講師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
員 寄宿舎指導員	57	53	54	55	58	59	58	57	59	59	
実習助手	28	30	30	32	32	32	32	32	32	33	
計	1,213	1,250	1,288	1,357	1,385	1,387	1,384	1,388	1,583	1,578	
事務職員	57	56	55	58	59	60	65	62	61	62	
技能労務員											
学校司書											
そ 用務員	10	10	10	8	8	8	8	8	8	9	
の ボイラー技師	3	2	3	4	4	4	3	3	3	2	
他 栄養職員	6	8	8	9	9	11	10	11	11	11	
の 調理給食員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
職 技能訓練士											
員 マッサージ師											
運 転手	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	
計	20	21	22	22	22	23	21	22	22	22	
合計	1,290	1,327	1,356	1,437	1,466	1,470	1,470	1,472	1,666	1,662	

2 特別支援学校及び特別支援学級の実態

(1) 特別支援学校（学部別学級・児童生徒数）

障 が い 種 別	種別 校名	幼稚部		小学部		中学部		高等部				計	
		学級数	幼児数	学級数	児童数	学級数	生徒数	本科		専攻科		学級数	児童生徒数
								学級数	生徒数	学級数	生徒数		
視 覚	県立盲学校			4	5	1	3	8	15	3	7	16	30
	小計			4	5	1	3	8	15	3	7	16	30
聴 覚	県立聾学校	1	3	7	21	8	26	8	23			24	73
	県立聾学校福島分校	1	2	6	11							7	13
	県立聾学校会津分校	1	1	2	3							3	4
	県立聾学校平分校	2	4	3	9							5	13
	小計	5	10	18	44	8	26	8	23			39	103
知	県立大笹生養護学校			35	101	11	43	21	106			67	250
	県立あぶくま養護学校			29	100	20	77	36	202			85	379

障 が い	県立あぶくま養護学校安積分校			8	18	5	12					13	30
	県立西郷養護学校			14	41	8	30	11	51			33	122
	県立石川養護学校			16	40	9	30	14	65			39	135
	県立会津養護学校			21	65	12	33	20	105			53	203
	県立猪苗代養護学校			4	10	5	17	6	22			15	49
	県立いわき養護学校			26	82	18	59	16	78			60	219
	県立いわき養護学校くぼた校							5	18			5	18
	県立富岡養護学校			5	12	3	11	6	18			14	41
	県立相馬養護学校			9	29	6	23	8	48			23	100
	福島市立福島養護学校			9	31	5	19	13	67			27	117
	小 計			176	529	102	354	156	780			434	1663
不 肢 自 体 由	県立郡山養護学校			30	82	16	44	21	58			67	184
	県立平養護学校			20	54	9	22	9	24			38	100
	小 計			50	136	25	66	30	82			105	284
病 弱	県立須賀川養護学校			5	11	5	12	12	35			22	58
	県立須賀川養護学校医大分校			4	11	2	5					6	16
	県立須賀川養護学校郡山分校			3	2	3	6					6	8
	県立会津養護学校竹田分校			2	9	1	1					3	9
	小 計			14	33	11	24	12	35			37	91
合 計		5	10	262	747	147	472	214	935	3	7	631	2171

(2) 特別支援学級（障がい別・児童生徒数）

管内	学校別 種別 内容	小学校							中学校							計		
		弱視	難聴	知的	病弱・ 身体虚弱	肢体 不自由	言語	自閉症・ 情緒	小計	弱視	難聴	知的	病弱・ 身体虚弱	肢体 不自由	言語		自閉症・ 情緒	小計
北	学校数	0	4	61	1	1	0	41	108	0	2	36	0	2	0	28	68	176
	学級数	0	4	69	1	1	0	52	127	0	2	38	0	2	0	29	71	198
	児童生徒数	0	6	309	2	3	0	238	558	0	4	150	0	3	0	103	260	818
中	学校数	0	1	66	0	0	0	51	118	0	1	40	0	0	0	28	69	187
	学級数	0	1	77	0	0	0	61	139	0	1	43	0	0	0	28	72	211
	児童生徒数	0	2	311	0	0	0	290	603	0	2	166	0	0	0	92	260	863
南	学校数	2	2	23	0	2	0	13	42	0	0	14	0	0	0	7	21	63
	学級数	2	2	25	0	2	0	15	46	0	0	14	0	0	0	7	21	67
	児童生徒数	2	3	96	0	2	0	62	165	0	0	38	0	0	0	21	59	224
会津	学校数	0	0	32	0	2	0	21	55	0	0	20	0	0	0	8	28	83
	学級数	0	0	33	0	2	0	21	56	0	0	22	0	0	0	8	30	86
	児童生徒数	0	0	126	0	4	0	69	199	0	0	73	0	0	0	22	95	294
南会津	学校数	0	0	9	1	0	0	4	14	0	0	4	0	0	0	3	7	21
	学級数	0	0	9	1	0	0	4	14	0	0	4	0	0	0	3	7	21
	児童生徒数	0	0	19	1	0	0	8	28	0	0	7	0	0	0	3	10	38
相双	学校数	0	1	22	1	1	0	15	40	0	0	13	0	0	0	6	19	59
	学級数	0	1	24	1	1	0	15	42	0	0	13	0	0	0	6	19	61
	児童生徒数	0	2	88	1	1	0	43	135	0	0	42	0	0	0	18	60	195
いわき	学校数	1	0	38	0	0	0	24	63	0	0	22	0	0	0	11	33	96
	学級数	1	0	43	0	0	0	24	68	0	0	22	0	0	0	12	34	102
	児童生徒数	2	0	207	0	0	0	106	315	0	0	95	0	0	0	43	138	453
計	学校数	3	8	251	3	6	0	169	440	0	3	149	0	2	0	91	245	685
	学級数	3	8	280	3	6	0	192	492	0	3	156	0	2	0	93	254	746
	児童生徒数	4	13	1156	4	10	0	816	2003	0	6	571	0	3	0	302	882	2885

(3) 通級による指導（障がい別・児童生徒数）

管内	学校別 種別 内容	小学校							中学校							計		
		弱視	難聴	言語障がい	自閉症	情緒障がい	LD	ADHD	小計	弱視	難聴	言語障がい	自閉症	情緒障がい	LD		ADHD	小計
北	学校数	0	0	3	2	0	3	3	11	0	0	0	1	0	2	1	4	15
	教室数	0	0	11	4	0	5	3	23	0	0	0	1	0	2	1	4	27
	児童生徒数	0	0	168	94	0	103	50	415	0	0	0	23	0	17	16	56	471
中	学校数	0	1	2	5	0	0	7	15	0	0	1	0	0	0	1	2	17
	教室数	0	1	3	5	0	0	7	16	0	0	1	0	0	0	1	2	18
	児童生徒数	0	10	65	59	0	0	86	220	0	0	10	0	0	0	13	23	243
南	学校数	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	教室数	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	児童生徒数	0	0	0	0	0	0	19	19	0	0	0	0	0	0	0	0	19
会津	学校数	0	0	1	0	0	3	2	6	0	0	0	0	0	1	1	2	8
	教室数	0	0	1	0	0	3	2	6	0	0	0	0	0	1	1	2	8
	児童生徒数	0	0	9	0	0	35	13	57	0	0	0	0	0	17	3	20	77
南会津	学校数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	教室数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	児童生徒数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相双	学校数	0	0	2	0	0	0	2	4	0	0	0	0	0	0	1	1	5
	教室数	0	0	6	0	0	0	2	8	0	0	0	0	0	0	1	1	9
	児童生徒数	0	0	102	0	0	0	25	127	0	0	0	0	0	0	4	4	131
いわき	学校数	0	0	2	1	1	0	2	6	0	0	1	0	0	0	0	1	7
	教室数	0	0	4	1	1	0	2	8	0	0	1	0	0	0	0	1	9
	児童生徒数	0	0	61	13	9	0	22	105	0	0	1	0	0	0	0	1	106
計	学校数	0	1	10	8	1	6	18	44	0	0	2	1	0	3	4	10	54
	教室数	0	1	25	10	1	8	18	63	0	0	2	1	0	3	4	10	73
	児童生徒数	0	10	405	166	9	138	215	943	0	0	11	23	0	34	36	104	1047

(4) 訪問教育対象児童生徒数及び担当教員数

年 度	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
対象児童生徒数	76	80	77	75	89	69	90	80	69	58	55	54	49	50	43	42	39	43	38	33	34	36	33
担 当 教 員 数	33	35	33	36	41	36	45	36	41	33	33	35	27	27	27	27	30	29	24	19	27	32	20

(5) 障がいによる就学義務の猶予・免除者の推移

年 度	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
猶 予 者 数	0	1	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
免 除 者 数	4	5	7	5	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

3 教職員人事・任用

(1) 人事異動の概要

平成28年度の県立特別支援学校教職員の定数は、前年比1人増の1,420人となった。このうち、教諭等は、前年比10人増の1,286人である。

ア 新採用について

平成29年度福島県公立学校教員採用試験での特別支援学校の志願者数は、平成28年度に比べ、前年比10人増の266人（小中学校教員採用試験との併願者を含む）であった。一次及び二次選考試験の結果、名簿登載者数は62人であり、58人が教諭として採用された。

イ 交流について

平成28年度人事異動は、例年通り4月1日付け実施となった。同一校永年勤務者、採用後引き続き同一校に3年以上勤務する者等を含め131人の教諭の交流が実現した。

また、小・中学校・市立特別支援学校及び福島大学附属特別支援学校との交流（転入）は24人で、高等学校との交流（転入）は8人であった。特別支援教育の更なる充実が期待される。

(2) 平成28年度県立特別支援学校教員異動・交流基準

ア 一般基準

(ア) 教育課程の適正な運営を期するため、教員組織の均衡をはかるように努める。

(イ) 同一校には原則として最低3年は勤務するものとする。

(ウ) 2親等以内の者（姻族を含む）は原則として同一校勤務をさける。

イ 平成20年度以前の採用者についての基準（以下「旧基準」）という。

(ア) 勤続年数による基準

次の基準に該当する者は、原則として異動の対象とする。

○ 採用後引き続き同一校に3年以上勤務した者（以下「初任者」という。）

○ 同一校に8年以上勤務した者（以下「永年者」という。）

(イ) 地区、障がいによる基準

教員の均衡化を図るため、県内を県北、県南、会津、

いわき、相双の5地区に分け、地区及び障がい別に、所在する学校を別表1に定めるⅠ・Ⅱ群に分類し、以下により異動を促進する。

○ 昭和52年度以降、特別支援学校教員採用者は、原則として、15年以内に2地区および2障がい以上の学校に勤務するものとする。

○ 上記の2障がいの経験については、原則として、別表1注によるものとする。

ウ 平成21年度以降の採用者についての基準（以下「新基準」という。）

(ア) 勤続年数による基準

次に該当する者は、異動の対象とする。

○ 初任者

○ 異動2校目において3年以上勤務したもの（以下「若年者」という。）

○ 永年者

(イ) 地域による基準

教員の適材適所への配置及び教員組織の均衡化を図るため、県内各学校を別表2のとおり中通り、会津、浜通りの3地域に分け、異動を促進する。

原則として、採用後20年以内に3地域の学校に勤務するものとする。

エ 平成24年度より、採用年度にかかわらず新基準を適用する。

ただし、平成20年度以前の旧基準採用者については、平成30年度まではイ(イ)別表1を準用し、(イ)○印を満たす者は、ウ(イ)の規定を満たす者とみなす。

オ 交流

特別支援学校及び小学校、中学校、高等学校における教育を充実させるため、県立特別支援学校と市立特別支援学校及び市町村公立小・中学校、県立高等学校との交流を促進する。その期間は、教諭及び実習助手については原則として3年とし、養護教諭及び寄宿舎指導員については、原則として3年から8年とする。

別表1 県立特別支援学校地区別・障がい別・群別学校

群分類 障がい 地区	I 群	II 群			
	知的障がい教育を主とする学校	視覚障がい教育を主とする学校	聴覚障がい教育を主とする学校	肢体不自由教育を主とする学校	病弱教育を主とする学校
県北	大笹生養護	盲	聾(福島)		須賀川養護(医大)
県南	あぶくま養護 <u>あぶくま養護(安積)</u> ----- 石川養護 石川養護(分校) <u>たむら支援</u> 西郷養護		聾	郡山養護	須賀川養護 須賀川養護(郡山)
会津	会津養護 猪苗代養護		聾(会津)		会津養護(竹田)
いわき	いわき養護 いわき養護(くぼた)		聾(平)	平養護	
相双	富岡養護 相馬養護				

注：平成20年度までの採用教員について

- (1) II群内の学校のみ経験者は、I群の学校に勤務することを必須とする。
- (2) I群の学校に勤務している者、又は勤務した者で、2障がいの経験を有していない者は、II群内の学校での勤務をするものとする。
- (3) ただし、平成7年度までに2地区及び2障がいの勤務経験を終了している者はこの限りではなく、これまで2地区及び2障がいの勤務経験を有していない者、及び平成8年度以降平成20年度までの採用教員については、(1)、(2)の勤務経験を必要とする。

* 波線の学校は、平成29年3月末で閉校。下線の学校は、平成29年4月より開校。

別表2 県立特別支援学校地域別学校

地域	地区	学校
中通り	県北	盲聾(福島) 大笹生養護 須賀川養護(医大)
	県中	聾 須賀川養護 あぶくま養護 郡山養護 須賀川養護(郡山) <u>あぶくま養護(安積)</u>

		たむら支援	
		県南	
		石川養護 <u>石川養護(分校)</u>	西郷養護
会津	会津	会津養護 聾(会津)	会津養護(竹田) 猪苗代養護
浜通り	いわき	平養護 聾(平)	いわき養護 いわき養護(くぼた校)
	相双	富岡養護	相馬養護

* 波線の学校は、平成29年3月末で閉校。下線の学校は、平成29年4月より開校。

第3節 学校教育

1 概要

(1) 指導行政の基本方針

学校教育審議会答申(平成21年9月)の基本理念「地域で共に学び、共に生きる教育」をもとに、第6次総合教育計画(改訂版)で、特別支援教育の推進に向けた取組を行った。

本県では、「共に学ぶ」理念のもと、障がいのある子どもが障がいのない子どもと共に学ぶ環境づくりを推進し、障がいのある子どもが地域の小・中学校等で、障がいのない子どもと共に学ぶことができる教育環境の整備を進めた。第6次総合教育計画(改訂版)では、次の基本的な方針のもとに、大きく5つの具体的な取組を示し、その充実に努めた。

○ 基本的方向性

- ・ 障がいのある子どもが、就学前、在学中、さらには卒業後において、一貫した支援を受けることができるよう、医療、保健、福祉、教育、労働等の関係機関の連携を深めることなどにより、地域で「共に生きる」ことができる体制の整備を進める。
- ・ 障がいのある子どもが、一人一人のニーズに応じて、地域の幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校において学ぶことができるよう、教員の専門性の向上、校内支援体制の整備・充実、すべての保護者に対する特別支援教育への理解の促進などにより、各学校における「共に学ぶ」環境づくりを進める。

○ 具体的な取組

- ・ 地域におけるインクルーシブ教育システムの構築と理解啓発の促進、小・中学校における特別支援教育の充実
- ・ 高等学校における特別支援教育の充実
- ・ 特別支援学校における特別支援教育とセンター的機能の充実
- ・ 教員の特別支援教育に関する指導力の向上

(2) 指導組織

課長、主幹兼副課長、主任管理主事1名、管理主事3名、主任指導主事1名、指導主事5名、各教育事務所特別支援教育担当指導主事7名、教育委員会委嘱特別支援教育担当学校教育指導委員8名をもって指導に当たった。

(3) 学校教育指導の重点

前記の基本方針に基づき、指導の重点を次のように設定し、指導の充実を図った。

ア 教育内容・方法の改善充実

- (ア) 児童生徒一人一人の障がいの状態や教育的ニーズに応じた適切な教育を行うために特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室等の教員に対し、教育課程実施に伴う指導上の問題点、個に応じた指導の工夫改善、「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」の作成等について研修を行い、指導担当者の指導力の向上に努めた。
- (イ) 各種研修会、要請訪問等を通して、幼児児童生徒の実態に応じた学習指導、生徒指導等の諸問題について協議を深め、学校運営の質的向上に努めた。

イ 生徒指導の充実

幼児児童生徒の障がいの状態や特性について、教職員の共通理解を図り、幼・小・中・高等部の一貫した指導に努めるとともに、生徒指導の機能を生かした授業や家庭及び関係機関との連携に努めた。

また、県立特別支援学校の生徒指導担当者による連絡協議会を5月と11月の2回開催し、本県の生徒事故の現状や課題の共有を図り、事故の未然防止に向けた取組の充実に努めた。

ウ 進路指導の充実

「夢に向かってテクノチャレンジ事業」を実施し、生徒の自立や社会参加を図るため、全ての高等部設置県立特別支援学校による「特別支援学校作業技能大会」を開催した。作業技能検定や作業製品品評等で得られた外部専門家からの評価を生かし、各校の進路に関する取組のさらなる充実を図ると共に、生徒の就労に向けた企業等への理解啓発を行った。また、「次世代のふくしまを担う人材育成事業（特別支援学校における就労総合支援事業）」において、生徒の就職率とその定着率の向上を目指し、高等部を設置する特別支援学校の進路指導担当者による進路支援チーム会議を開催し、教員の進路指導に関する専門性の向上と、労働、福祉の各関係機関と連携した早期からの支援体制の構築を図った。

エ 発達障がいのある児童生徒への指導の充実

障がいの多様化に対応した教育課程の編成に努め、個に応じた指導計画の作成及び指導の充実に努めるなど、学習指導要領の趣旨を生かした特別支援学級経営の充実に努めた。また、通常の学級に在籍する発達障がいのある児童生徒の理解や指導の在り方について、各地域において幼稚園、小・中学校、高等学校等の特別支援教育コーディネーターや教員を対象とした研修を開催し、指導力や専門性の向上に努めた。

オ 交流及び共同学習の推進

近隣の幼稚園や小・中学校、高等学校との交流及び共同学習や、児童生徒の居住地における学校との交流を通し、幼児児童生徒の経験を広め、社会性を養うとともに、障がいのあるなしにかかわらず、お互いを理解し尊重す

る心を育むことに努めた。

カ 情報教育の充実

幼児児童生徒の学習上又は生活上の困難を改善・克服し、学習を支援するために情報機器や情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用するとともに児童生徒の情報活用能力の育成に努めた。

(4) 教職員の資質と指導力の向上

ア 「インクルーシブ教育システム構築事業」事業担当者会議の開催

事業を推進する指導主事が参集し、各事業実施状況等の報告及び課題についての協議を行い、各教育事務所域内の支援体制の整備や特別支援教育に関する指導の重点や事業概要等について研究協議を行い、各教育事務所域内の特別支援教育の充実に向けた指導業務の円滑な推進を図った。

イ 学校教育指導委員連絡協議会の開催

特別支援教育に関する指導の重点や事業概要及び学校教育指導委員の任務についての研修を行い、学校教育指導委員の資質の向上を図った。

ウ 特別支援学校初任者研修、経験者研修の実施

特別支援学校の初任者に対し、校内・校外における研修を通して、実践的指導力と使命感を養った。

また、教職経験に応じた経験者研修を実施し、校内におけるリーダーとしての力量の向上に努めた。経験者研修において、教科（領域）指導研修や社会体験研修等を行った。

エ 特別支援教育担当教員専門研修

特別支援教育に関し、指導的立場に立つ教員の育成に対し、専門的知識及び技術を習得させ、資質の向上と指導力の向上を図るため、教員6名を国立特別支援教育総合研究所の専門研修へ派遣した。

(5) 就学相談の推進

学校教育法施行令一部改正による就学の仕組み等の周知を図るため、「就学指導の手引き」を作成し、市町村教育委員会、学校、関係機関に配布するとともに、市町村教育委員会を対象に就学指導協議会を県内7か所で開催した。

また、市町村の就学先決定における相談の充実については、各教育事務所で支援し、障がい児の早期からの一貫した支援に努めた。

(6) 特別支援教育の推進

ア 特別支援学校における医療的ケア実施事業

「平成28年度特別支援学校における医療的ケア実施事業」を実施し、教育・医療・福祉等関係者からなる「医療的ケア実施運営協議会」を設置し、本県における医療的ケアの在り方について研究・協議を行った。また、常時、医療的ケアを必要とする児童生徒（訪問教育や病院入院生徒は除く）が、在籍している学校(12校)に看護師を配置した。さらに、医療的ケアの実施を指導する「指導医の委嘱」、地域の保健・医療・福祉機関のバックアップ体制の確立のための「医療的ケアサポート会議の設置」、医療的

ケアの実施に必要な「医療機器等の整備」を行った。

※看護師配置校

豊学校、大笹生養護学校、郡山養護学校、あぶくま養護学校、須賀川養護学校、西郷養護学校、石川養護学校、会津養護学校、会津養護学校竹田分校、平養護学校、いわき養護学校、相馬養護学校

【平成28年度医療的ケア実施運営協議会委員】

氏名	委嘱時の職名
◎森田 浩之	県総合療育センター・副所長
○上妻 弘	郡山養護学校・校長
古橋 知子	福島医科大学看護学部・准教授
緑川 博人	保健福祉部自立支援総室障がい福祉課 主幹兼副課長
鈴木 朋子	保健福祉部自立支援総室障がい福祉課主査
須田 康仁	県養護教育センター・所長
鈴木 仁	白河こひつじ学園・相談支援アドバイザー
加藤 一之	豊学校・教頭
小川 令子	大笹生養護学校・教頭
菅野かおり	郡山養護学校・教頭
柳沼 哲	あぶくま養護学校・教頭
喜多見久美	須賀川養護学校・教頭
江見 浩二	西郷養護学校・教頭
菅野美恵子	石川養護学校・教頭
丹野 好恵	会津養護学校・教頭
梅津 幸男	会津養護学校竹田分校・分校長
小野 美花	平養護学校・教頭
千葉 秀樹	いわき養護学校・教頭
本田 知史	相馬養護学校・教頭
鈴木志保子	平養護学校・看護師
小林 玲子	郡山養護学校・看護師

(◎委員長 ○副委員長)

【医療的ケア実施運営協議会の開催】

○ 平成28年9月1日

【会議における検討事項】

○ 特別支援学校における高度な技術を必要とする医療的ケア（人工呼吸器等）の取組に向けて

【看護師研修会の開催】

○ 年1回の医療的ケア実施校看護師研修会を県養護教育センターにおいて実施した。

イ 「インクルーシブ教育システム構築事業」による市町村における支援体制整備の促進

県内7地区において「特別支援教育体制促進協議会」を年2回開催し、市町村における支援体制の整備・機能充実に向けた支援や、地域自立支援協議会子ども部会等の充実のための具体的方策について協議するとともに、保健福祉部局と連携した相談体制の整備や相談支援ファイルの作成・活用の促進に取り組んだ。また、各教育事務所で特別支援教育啓発セミナーを開催し、地域住民への特別支援教育の理解・啓発に努めた。

ウ 地域支援体制の充実

特別支援学校が、地域における特別支援教育のセンターとして、小・中学校等や市町村教育委員会のニーズに応じた相談や研修等の支援を実施した。

相談件数は1,700件であった。

また、県内6箇所で開催支援チームを編制し、市町村や小・中学校等への支援の在り方や具体的な方策について協議するとともに、地域の小・中学校等における特別支援教育の充実に向けた支援に努めた。

エ 「高等学校学習支援推進事業」による後期中等教育における発達障がい等のある生徒の支援の充実

平成17年度から平成23年度まで、文部科学省「研究開発学校」制度や、県重点事業「LD等の中高連携型生徒支援事業」、「特別支援教育総合推進事業」において進めてきた学習支援員を活用した生徒支援のノウハウを活かし、平成28年度は県立高等学校18校に学習支援員を配置し、高等学校における支援を必要とする生徒への支援の充実に努めた。

オ 障がいのある幼児児童生徒の就学相談の充実

市町村教育委員会、公立小・中学校長を対象に学校教育法施行令の一部改正に伴い、「特別支援教育就学指導協議会」において、平成26年4月に発行した「特別支援学校にかかわる就学事務の手引き」を活用し新しい就学の考え方、就学先決定の流れを周知した。また、本協議会を通して各市町村における早期からの相談支援体制の整備と各学校における教育相談の充実に努めた。

2 現職教育

(1) 教職員の研修

研修会については、下表のとおり実施し、教職員の資質向上に努めた。

名称	期日	期間	会場	人数	対象
特別支援学校教育課程運営改善講座	8月18日	1日	県養護教育センター	42	特別支援学校教員
特別支援学級等新任担当教員研修会	4月20日～21日	2日	県養護教育センター	117	特別支援学級担当教員
通級指導教室担当教員研修会	7月14日	1日	県養護教育センター	61	通級指導教室担当教員
特別支援学校経験者研修Ⅰ	6月29日～7月1日	3日	県養護教育センター	44	特別支援学校教員
特別支援学校経験者研修Ⅱ	6月21日～23日	3日	県養護教育センター	25	特別支援学校教員

特別支援学校初任者研修

	名称	期 日	期間	会 場
宿 泊 研 修	一次研修	8月2日～4日	3日	磐梯青少年交流の家
	二次研修	2月8日～10日	3日	磐梯青少年交流の家
	一般研修	4月13日 ～14日	2日	県養護教育センター
	カウンセ リング研修	6月15日 ～16日	2日	県養護教育センター
地 区 別 研 修	講習会研 修会等参 加研修	各校で実施	1日	各地区内の該当 学校等
	他校参観 研修	各校で実施	5日	各地区内の該当 学校等
	企業等 体験研修	各校で実施	4日	各地区内の該当 学校等
	社会奉仕 体験活動 研修	各校で実施	2日	各地区内の該当 施設
	教育課程別 研修	9月14日	1日	初任者配置校
	学部別研修	11月9日	1日	初任者配置校
			年間 150 時間 以上	各所属校

(2) 特別支援教育教員短期研修

国立特別支援教育総合研究所（専門研修 2か月）

氏 名	職名	学校名	コース等	期 間
國田 顕應	教諭	猪苗代養護 学校	知的障害 教育専修	5月9日～ 7月8日
中野 正貴	教諭	会津養護学 校	知的障害教 育専修	5月9日～ 7月8日
今野 千寿	教諭	聾学校 福島分校	聴覚障害 教育専修	9月1日～ 11月8日
氏家かおり	教諭	聾学校 平分校	聴覚障害 教育専修	9月1日～ 11月8日
渡邊 万里	教諭	郡山養護 学校	肢体不自 由教育専修	9月1日～ 11月8日

(3) 小・中学校特別支援教育コーディネーター研修会

小・中学校の特別支援教育コーディネーターに対し、校内支援や関係機関との連携の在り方について研修し、特別

支援教育コーディネーターの実践力の向上を図った。

(4) 高等学校特別支援教育コーディネーター研修会

高等学校の特別支援教育コーディネーターに対し、校内支援や関係機関との連携の在り方について研修し、特別支援教育コーディネーターの実践力の向上を図った。

(5) 特別支援学校特別支援教育コーディネーター研修会

特別支援学校の特別支援教育コーディネーターを対象に、センター的機能の在り方、国や県の教育施策、コンサルテーションの進め方等について研修し、特別支援教育コーディネーターとしての専門性の向上及び実践力の向上を図った。

地区	会 場	期 日	受講者数
県内	県養護教育センター	5月13日	22

3 教育課程

〈特別支援学校教育課程運営改善講座〉

特別支援学校における教育課程実施上の諸問題に関する専門的な研修を実施することにより、指導的立場にある教員の指導力の向上を図るとともに、学校の実態や児童生徒の障がいの種類と程度に応じた教育課程の編成と適切な実施及び管理に努め、特別支援教育の改善・充実に資する。

地区	期 日	会 場	人数	参加対象
県内	8月18日	県養護教育セ ンター	40	特別支援学校の 教務主任等

4 訪問教育

通学して教育を受けることが困難な児童生徒に対して行う訪問教育を週3回実施し、登校可能な児童生徒に対して、定期的に他の子どもたちと交流したり、集団学習を行ったりすることができるように、1回はスクーリング（登校学習）を実施した。

さらに、郡山養護学校、会津養護学校、石川養護学校では高等部の訪問教育を実施している。

実施状況は次のとおりである。

校名	学級数		学級数						児童生徒数						スクーリング児童生徒数					
	小学部	病院訪問	中学部	病院訪問	高等部	病院訪問	学部計	病院訪問計	小学部	病院訪問	中学部	病院訪問	高等部	病院訪問	学部計	病院訪問計	小学部	中学部	高等部	計
大笹生養護学校	2		1		1		4		4		2		2		8		1			1
郡山養護学校	1		1		2		4		3		3		5		11		3		2	5
須賀川養護学校郡山分校		1		1				2		1						1				
須賀川養護学校医大分校		1						1		1						1				
石川養護学校			1		1		2			1		1		2					1	1
会津養護学校	1		1		1		3		3		1		1		5		3	1	1	5
平養護学校	1	2					1	2	3	5					3	5	1			1
相馬養護学校	1						1		1						1		1			1
合計	6	4	4	1	5	0	15	5	14	7	7	0	9	0	30	7	9	1	4	14

※スクーリング児童生徒数は再掲。

5 生徒指導・進路指導

(1) 生徒指導

障がいのある児童生徒一人一人の意思や個性を生かしながら、障がいの状態や発達段階・特性等に応じた指導が十分に行えるように、校内の生徒指導体制の確立に努めた。

特に、児童生徒一人一人の課題を的確に把握し、児童生徒の立場に立った行動理解を行い、児童生徒の自己実現を図るべく、生徒指導の機能を生かした指導支援に努めた。

(2) 進路指導

ア 夢に向かってテクノチャレンジ事業

(ア) 事業の趣旨

特別支援学校高等部生徒の自立や社会参加を促すため、特別支援学校作業技能大会を開催し、日頃の進路に関する学習の成果を発表するとともに、外部専門家から客観的な評価を受ける機会とする。

(イ) 実施校

高等部設置県立特別支援学校 15校
 福島大学附属特別支援学校
 福島市立福島養護学校 計17校

(ウ) 実施状況

a 特別支援学校作業技能大会の開催

- ・ 期日 7月27日(水)
- ・ 場所 ビッグパレットふくしま

b 実施部門

- ・ 作業技能検定部門
ビルクリーニング、喫茶接客サービス、パソコンデータ入力
- ・ 作業製品品評部門
作業製品の品評と作業学習の紹介等

・ デモンストレーション部門

盲学校理療科のあん摩マッサージ等の技術披露
 新種目「品出し」「パッケージ」デモンストレーション検定

c 外部評価の活用

- ・ 各作業技能検定部門及び作業製品品評部門の評価表に関する助言
- ・ 作業技能検定部門と作業製品品評部門の審査

イ 次世代のふくしまを担う人材育成事業（特別支援学校における就労総合支援事業）

(ア) 事業の趣旨

高等部を設置する特別支援学校を対象として、労働、福祉等の各関係機関と連携した支援体制整備を基盤とし、企業への理解啓発と、企業で働き続けることのできる人材育成を充実させることにより、就職率と定着率の向上を図る。

(イ) 実施校

高等部設置県立特別支援学校 15校
 福島大学附属特別支援学校
 福島市立福島養護学校 計17校

(ウ) 実施状況

a 進路支援チーム会議の実施

- ・ 特別支援学校進路指導担当による就労促進及び支援の充実に関する協議
- ・ 障がい者就業・生活支援センターとの連携強化

b 移行支援機能の充実

- ・ 関係機関と連携した、早期からの移行支援会議の実施
- ・ 在学中から卒業後までの長いスパンでの支援

c 企業の求める人材育成

- ・ 作業学習の内容や手法の見直し

- ・ ジョブコーチや企業等からの指導助言
 - ・ 「障がい者就職面接会」への参加
 - ・ 「特別支援学校早期訓練コース」の活用
- d 外部評価の活用
- ・ 「特別支援学校作業技能大会」における作業技能検定の活用
 - ・ 「障がい者技能競技大会」への参加

6 特別活動

(1) 卒業式

ア 県立特別支援学校卒業生数

学部 障がい	学部				合計
	幼稚部	小学部	中学部	高等部	
視覚障がい		1	1	5	7
聴覚障がい	5	10	11	8	34
知的障がい		90	113	224	427
肢体不自由		22	20	22	64
病弱		9	6	12	27
計	5	132	151	271	559

(2) 修学旅行

イ 県立特別支援学校卒業式学部別開催日(校数)

学部	開催日									
	3月1日	3月2日	3月3日	3月6日	3月10日	3月13日	3月15日	3月16日	3月17日	3月21日
幼稚部							1	1	1	1
小学部					2	1	2	9	5	2
中学部					1	1	2	9	4	
高等部	1	1	1	2	1		2	4	3	

学部	行き先									人数		
	日数	県北	東北	関東	北陸	関西	九州・沖縄	北海道	日帰り			
小学部	6	8							12	2	107	
中学部			15						4	11	150	
高等部			4		11		1		1	10	5	305

7 学校訪問

(1) 県立特別支援学校

ア 経験者研修

経験者研修Ⅰ、Ⅱの研究授業日に学校訪問を実施した。

No.	訪問日	学校名
1	10月6日	郡山養護学校

2	10月20日	猪苗代養護学校
3	10月27日	会津養護学校
4	10月28日	大笹生養護学校
5	11月1日	相馬養護学校
6	11月2日	平養護学校

8 県立学校教育指導委員

氏名	職名	所属校
渡部 経子	教諭	盲学校
佐々木 孝幸	教諭	聾学校
平野 真実子	教諭	大笹生養護学校
林 裕子	教諭	会津養護学校
折原 清治	教諭	郡山養護学校
近藤 聡美	教諭	郡山養護学校
深松 さつき	教諭	須賀川養護学校
山田 真里恵	教諭	相馬養護学校

9 就学指導

(1) 福島県特別支援教育推進会議

ア 福島県特別支援教育推進会議委員

委員	職名
学識見識者	大学教授
関係機関	NPO団体代表
関係機関	県総合療育センター所長
関係機関	県保健福祉部障がい福祉課長
関係機関	県保健福祉部子ども未来局児童家庭課長
関係機関	県商工労働部雇用労政課長
教育関係	小学校長会代表
教育関係	中学校長会代表
教育関係	高等学校長会代表
教育関係	特別支援学校長会代表
教育関係	県養護教育センター所長
教育関係	県教育庁特別支援教育課長

(2) 特別支援教育就学指導協議会

ア 期日及び会場

地区	期日	会場	参加者数
県北	6月10日	安達公民館	56
県中	6月8日	県養護教育センター	43
県南	5月27日	白河合同庁舎	28

会 津	6月17日	新鶴公民館	4 7
南会津	6月 3日	御蔵入交流館	1 0
相 双	6月24日	県養護教育センター	1 7
	6月28日	相馬市教育実践センター	1 8
いわき	5月27日	いわき合同庁舎	5 5

イ 参加者

- ・各市町村教育委員会就学指導関係者

ウ 説明及び協議

- (ア) 説明「障がいのある児童生徒の就学について～平成26年4月作成「特別支援学校にかかわる就学事務の手引き」より～」
- (イ) 説明及び協議
「就学事務の手続きについて」
「自校における就学相談の取組」

10 教科用図書

(1) 教科用図書事務説明会

ア 開催日時・場所

平成28年6月8日・福島県教育センター

イ 参加者

各教育事務所 各市町村教育委員会
特別支援学校教科書担当者

(2) 学校教育法附則第9条に規定する一般図書の展示期及び会場

6月13日～6月15日	相馬養護学校
6月16日～6月17日	福島市立福島養護学校
6月20日～6月21日	大笹生養護学校
6月22日～6月23日	福島大学附属特別支援学校
6月24日～6月28日	会津養護学校
6月29日～6月30日	南会津町御蔵入交流館
7月 1日～7月 5日	西郷養護学校
7月 6日～7月 8日	あぶくま養護学校
7月11日～7月13日	平養護学校
7月15日～7月22日	県養護教育センター(一般公開)

11 教育研究団体

(1) 平成28年度福島県特別支援学校長会役員

役職名	氏 名	所 属 校
会 長	阿 部 教 夫	盲学校
副会長	芳 賀 孝 美	聾学校
副会長	塚 野 薫	福島市立福島養護学校

(2) 平成28年度福島県特別支援学校教頭会役員

役職名	氏 名	所 属 校
会 長	江 尻 修	聾学校福島分校

副会長	梅津 幸男	会津養護学校竹田分校
副会長	香取 重治	富岡養護学校

(3) 福島県特別支援教育研究会

ア 組織

役職名	氏 名	所 属 校
会 長	塚野 薫	福島市立福島養護学校
副会長	阿部 教夫	盲学校
副会長	吉井 修一	郡山市立橋小学校

イ 事業の概要

事業名	期 日	会 場	概 要
役員会	2月18日	県養護教育センター	H28事業報告、H29事業計画について

(4) 福島県特別支援教育振興会

ア 役員

役職名	氏 名	所 属
会 長	柳 沼 穹 壹	元あぶくま養護学校長
副会長	桜 井 和 朋	元県PTA連合会長
副会長	齋 藤 義 人	元福島商業高等学校長
理 事	氏 家 守 義	県北支部長
理 事	松 井 壽 則	県中支部長
理 事	圓 谷 美 智 子	県南支部長
理 事	木 村 秀	会津支部長
理 事	只 野 裕 一	相双支部長
理 事	大 谷 明	いわき支部長
監 事	須 田 康 仁	県養護教育センター所長
監 事	高 屋 隆 男	元聾学校長

イ 事務局

(ア) 本部事務担当

聾学校	校長	芳賀 孝美
〃	教頭	齊藤 恵子
		加藤 一之
	事務長	加藤 吉昭

(イ) 支部

支 部	事務局校	支 部	事務局校
県 北	盲学校	会 津	会津養護学校
県 中	郡山養護学校	相 双	相馬養護学校
県 南	石川養護学校	いわき	平養護学校

第8章 体育・健康

第1節 概要

東日本大震災により、甚大な被害を受けたが、「健康」や「体力」の必要性・重要性について、再認識されたところである。また、震災後の深刻な健康課題の解決に向けて、ふくしまっ子体力向上総合プロジェクトを策定した。これは、望ましい運動習慣や食習慣を形成するために、「自分手帳」を活用した生活改善、小学校体育専門アドバイザー及び運動部活動への外部指導者の派遣、学校等における個別・集団指導への外部人材・専門家の派遣、運動する楽しさを体感できる親子イベントの開催と体力向上表彰の実施、関係機関・団体によるチーム会議と外部評価を一体的に展開し、体力の向上及び肥満の解消を図るものである。

学校体育の充実については、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現することを重視し、運動を楽しみながら体力の向上を目指す授業の普及に努めた。

また、体育の授業のさらなる充実と運動部活動の一層の活性化を図るため、地域スポーツ人材の活用実践支援事業及び武道指導者派遣事業により、中学校の武道・ダンスの授業と中・高等学校の運動部活動に専門的な技能を有する地域のスポーツ人材を指導者として派遣し、教員との連携による効果的な指導の実践に努めた。

健康教育の充実・普及については、平成16年度から実施している「うつくしまっ子すこやか事業」の中で、平成19年度より「学校すこやかプラン」を展開し、関係機関との連携や地域を巻き込んだ学校保健委員会の活性化を目指して取り組んでいる。さらに児童生徒の自ら健康的な生活を営む実践力を育むための指導の在り方について研究を深め、関係機関と一体となって児童生徒の健康課題解決を目指している。また、食生活を取り巻く社会環境等の変化に伴い、偏った栄養摂取、肥満等の生活習慣病の増加及び若年化など、食に起因する新たな健康問題が増加している。こうした状況の下、生涯を通じた健康づくりの観点から、食に関する指導を一層充実するとともに、各種研修会・講習会の開催を通して、衛生管理指導の徹底を図り、豊かで安全な学校給食の実現に努めた。

平成29年度全国高等学校総合体育大会（南東北インターハイ）の開催を次年度に控え、福島県実行委員会事務局として新たに健康教育課内に全国高校総体推進室を設置、担当職員10名を配置し、会場市町実行委員会や各関係団体と連携を図り準備に取り組んだ。加えて、会場地実行委員会に県高体連の専門部員である教職員11名を会場地担当教員として週3日派遣し、準備体制の強化を図った。

今年度、多くの本県中高生が全国大会で活躍した。全国中学校体育大会では、猪苗代中学校バドミントン部の大活躍が光った。女子団体が優勝、男子団体では準優勝を果たし、女子シングルスでは染谷菜々美選手が優勝、他2名が3位入賞、男子シングルスでは3位入賞、男子ダブルスにおいては2位入賞と猪苗代中旋風を巻き起こした。また、二本松第一中学

校男子ソフトテニス部は昨年度の3位入賞を上回る2位入賞を果たした。

全国高等学校総合体育大会においては、陸上競技男子1500mで遠藤日向選手（学法石川高3年）、ウエイトリフティング競技男子77Kg級で宍戸大輔選手（福島工業高3年）、自転車競技スクラッチで根本雄真選手（学法石川高3年）、バドミントン競技男子シングルスで山沢直貴選手（富岡・ふたば未来学園高3年）、女子シングルスで仁平菜月選手（富岡・ふたば未来学園高3年）、そして女子団体が優勝するなどすばらしい活躍があった。

年度末に開催された全国高等学校選抜大会においては、富岡・ふたば未来学園高校バドミントン部が学校対抗で男女アベック優勝、男子ダブルスにおいて金子真大・久保田友之祐選手（3年）が優勝を果たした。

7月に開催された全日本高等学校馬術競技大会では、岩瀬農業高校が団体の部において優勝の栄冠を勝ち取った。

1 学校体育の充実

学校における体育・スポーツ活動のより一層の充実を図るとともに、本県児童生徒の実態を把握し、今日的な課題の解決に資するため「子どもの体力向上支援委員会」を開催し、具体的な方策について検証した。

また、体力向上に関する体育指導担当者研修会や小・中・高等学校体育担当者連絡協議会、地域スポーツ人材の活用実践支援事業及び武道指導者派遣事業を実施し、運動に親しむ児童生徒の育成を図るとともに、体力・運動能力の向上と運動部活動の活性化に努めた。

さらに、県内すべての小学校に体育専門アドバイザーを派遣し、体育の授業の更なる充実と児童の運動習慣づくりに務めた。

2 学校保健・学校安全の充実

学校における健康教育の充実を図るため、ヘルスプロモーションの理念に基づく各種事業を推進している。「学校すこやかプラン」は、平成27年度に各分野で開催した4つの研修会（①健康教育推進者研修会[薬物乱用防止教育]、②心の健康教育セミナー[メンタルヘルス]、③いのち生きいき研修会[性に関する指導]、④食物アレルギー対応研修会）並びにヘルシースマイル事業（肥満への対応等）を一つにまとめ、健康教育推進者研修会として再構築した。多様化・複雑化する児童生徒の健康課題に対応するため、現代的な課題を含めた児童生徒の健康課題に対する理解と学校における対応の在り方についての研修を実施し、健康教育推進の要となる養護教諭の資質向上を目指し、健康教育の充実を図った。

また、県の健康課題の一つである肥満の解消に対しては、ふくしまっ子体力向上総合プロジェクトの事業の一つとし

て、「学校における肥満対応ガイドライン」を作成し、受診の基準や指導内容について参考となる指針を示した。

顕彰事業関係では、県教育委員会が行う「福島県学校歯科保健優良校表彰」のほかに、県学校保健会の「学校保健優良校表彰」を行った。ここでは、自校の健康教育にかかわる課題を的確に捉え、地域と連携し、組織的・計画的に課題解決に向けた取組を行うとともに、児童生徒の主体的な活動が行われた学校を表彰した。

学校安全に関しては、学校防災マニュアルの見直しを図るとともに、福島県学校安全指導者養成研修会を実施した。これは、全国で通学路上における交通事故が多発したことを受け、効果的な交通安全教育の在り方等について研修を行い、交通安全教育の推進・充実を図る目的で行った。

3 食育の推進

学校における食育の方向を示す「ふくしまっ子食育指針」に基づき、食べる力、感謝の心、郷土愛を育み、望ましい食習慣を形成することを目指し、給食の時間や特別活動、各教科等教育活動全体で食に関する指導の充実を図った。また、平成26年度より東日本大震災後の新たな課題に対応するため、「ふくしまからはじめよう。元気なふくしまっ子食環境整備事業」を三部（保健福祉部、農林水産部、教育庁）連携事業として実施し、学校における食に関する指導体制の整備に努めた。さらに「朝食について見直そう週間運動」の一環で行った「ふくしまっ子ごはんコンテスト」では、応募総数が平成27年度の1.2倍である11,418点となり、家庭における食育への意識の向上につながった。

4 学校給食の充実

本年度の学校給食の実施状況を児童生徒数で見ると、食物アレルギー等で給食を受けない児童生徒を除き、完全給食は小学校99.8%、中学校99.5%、ミルク給食は小学校0.2%、中学校0.5%の実施率となっている。

米飯給食の週当たりの実施回数は学校1校あたり小学校3.34回、中学校3.40回、小・中学校平均で3.36回の実施となっている。学校給食費は、一食当たり小学校277円46銭、中学校323円48銭となっている。

次に、学校給食の充実を図るため、給食関係者を対象とした各種研修会をはじめ、学校栄養職員の専門的指導力を高めるため、新規採用学校栄養職員研修及び学校栄養職員経験者研修Ⅱを実施した。

さらに、食中毒防止等衛生管理の徹底を図るためには、平成21年4月1日に施行された「学校給食衛生管理基準」（文部科学省告示第64号）の遵守が必要であることから、その実施状況の確認及び指導・助言のため、各教育事務所の指導主事を中心として、単独校調理場等52校、共同調理場13施設及び県立学校22施設について、学校給食施設訪問実施状況点検を実施した。

あわせて、安全・安心を確認した県農林水産物を学校給

食に活用する市町村等の取組に対して「いただきます。ふくしまさん」事業を11市町村88校で実施した。また、地場産物を活かした学校給食を柱とした食育年間計画等策定研修会を実施するとともに、「高校生が提案する地元の農産物を活用した学校給食メニュー募集」を実施し、入選20作品の献立を基にしたレシピ集を県内全学校給食施設へ配付した。

5 全国高等学校総合体育大会

次年度福島、山形、宮城で開催される平成29年度全国高等学校総合体育大会（南東北インターハイ）に向けて、全国高校総体推進室を中心として大会準備を進めるとともに、県内の有望チーム・選手を指定して強化合宿等を行うインターハイ選手特別強化事業、及び県外の強豪チーム・選手を県内に招き合同合宿等を行う「ふくしまで一緒にやろう！」プロジェクトを実施し、競技力の向上及び本県の復興状況の発信に努めた。

第2節 表彰

1 体育関係

(1) 公益財団法人日本学校体育研究連合会表彰

- ア 最優秀校 該当なし
- イ 優良校 いわき市立小名浜東小学校
いわき市立小名浜第二中学校
福島大学附属特別支援学校

ウ 功労者

職名	氏名	学校・所属名
校長	堀内 真人	郡山市立芳賀小学校
校長	西間木正行	須賀川市立仁井田小学校
校長	住吉 哲也	二本松市立二本松第三中学校
校長	馬場 永好	南会津町立南会津中学校
教諭	服部 芳裕	福島県立小高工業高等学校

(2) 福島県学校体育研究連合会表彰

ア 優良校

学校名	校長名
郡山市立高野小学校	川前 照幸
いわき市立小名浜東小学校	箱崎 良二
郡山市立明健中学校	高野 信

イ 功労者

職名	氏名	学校名
校長	伊藤 好幸	桑折町立醸芳小学校
校長	水谷 大	いわき市立中央台北小学校
校長	矢館 実也	福島市立吉井田小学校
教諭	佐々木克人	郡山市立行健第二小学校
校長	矢澤 良伸	会津若松市立第二中学校
校長	丹野 英雄	いわき市立久ノ浜中学校
教諭	山崎 高司	福島県立郡山北工業高等学校

2 学校保健・学校安全関係

(1) 福島県教育委員会表彰

ア 学校保健功労者

氏名	役職名
伊藤 勝康	二本松市立油井小学校 学校薬剤師
長谷川 徹	いわき市立大野中学校 学校歯科医
高久 立朗	福島県立光南高等学校 学校歯科医

イ 特別功績者(児童・生徒・団体)の部

学校名	校長名
福島県立富岡・ふたば未来高等学校 男子・女子バドミントン部	山崎 雅弘 丹野 純一
猪苗代町立猪苗代中学校 女子バドミントン部	宇南山忠明

(2) 文部科学大臣表彰

ア 学校保健・学校安全表彰(鞞医・鞞歯科医・鞞薬剤師)

区分	氏名	勤務校
学校医	蓮沼 清夫	いわき市立平第一小学校
学校歯科医	小汲三代太	会津若松市立東山小学校
学校歯科医	古張 武	矢祭町立矢祭中学校

イ 学校保健・学校安全表彰(学校・団体)

該当なし

ウ 学校安全ボランティア活動奨励賞

学校名	代表者名
庭坂地区児童見守り隊	國井 一也

(3) 平成28年度歯科衛生図画・ポスター・書写・標語コン

クール表彰

<最優秀入賞者>

ア 図画の部

学年	学校名	氏名
幼稚園	会津若松ザベリオ学園幼稚園	佐藤 佳奈
小学校1年	いわき市立藤原小学校	石川 愛美
小学校2年	いわき市立平第五小学校	古市 朋子
小学校3年	石川町立野木沢小学校	円谷 心音
特別支援学校	福島県立会津養護学校竹田分校	芳賀 雄我

イ ポスターの部

◎ 小学校

学年	学校名	氏名
小学校4年	いわき市立植田小学校	鈴木 心彩
小学校5年	いわき市立湯本第一小学校	須田 光裕
小学校6年	会津若松市立城北小学校	平 瑠梨
特別支援学校	福島県立会津養護学校竹田分校	佐藤 亮

◎ 中学校

学年	学校名	氏名
----	-----	----

中学校1年	矢吹町立矢吹中学校	遠藤 愛里
中学校2年	いわき市立植田中学校	森西 美優
中学校3年	白河市立白河第二中学校	牧田 春花

ウ 書写の部

学年	学校名	氏名
小学校1年	白河市立白河第二小学校	室井 悠伍
小学校2年	いわき市立藤原小学校	岡田 愛唯
小学校3年	いわき市立赤井小学校	大槻 乃愛
小学校4年	いわき市立湯本第一小学校	藁谷 琢也
小学校5年	須賀川市立第一小学校	斧田明花音
小学校6年	いわき市立長倉小学校	末永 大晴
中学校全学年	会津若松市立第五中学校	佐藤日奈子
特別支援学校	福島県立聾学校	渡辺 真奈

エ 標語の部

学年	学校名	氏名
小・中学校	川俣町立福田小学校	黒澤 颯介
特別支援学校	福島県立会津養護学校竹田分校	原 綺那

(4) 福島県学校歯科保健優良校表彰

ア 特別表彰 なし

イ 栄誉賞 なし

ウ 最優秀賞 2校

No.	域内	学校名
1	県北	福島市立水保小学校
2	県中	須賀川市立長沼中学校

エ 優秀賞 23校

◎小学校(11学級以下) 13校

No.	域内	学校名
1	県中	須賀川市立白方小学校
2	県南	西郷村立米小学校
3	県南	西郷村立羽太小学校
4	県南	鮫川村立鮫川小学校
5	会津	湯川村立勝常小学校
6	会津	磐梯町立磐梯第二小学校
7	会津	湯川村立笈川小学校
8	会津	会津若松市立大戸小学校
9	会津	喜多方市立駒形小学校
10	会津	喜多方市立上三宮小学校
11	南会津	只見町立只見小学校
12	南会津	只見町立明和小学校
13	いわき	いわき市立高野小学校

◎小学校（12学級以上） 4校

No.	域内	学校名
14	県北	福島市立清水小学校
15	会津	喜多方市立第一小学校
16	いわき	いわき市立中央台東小学校
17	いわき	いわき市立郷ヶ丘小学校

◎中学校（11学級以下） 2校

No.	域内	学校名
18	県南	白河市立大信中学校
19	南会津	南会津町立南会津中学校

◎中学校（12学級以上） 1校

No.	域内	学校名
20	県中	田村市立船引中学校

◎特別支援学校 3校

No.	域内	学校名
21	特支	福島県立盲学校（中学部）
22	特支	福島県立あぶくま養護学校安積分校（中学部）
23	特支	福島県立相馬養護学校（高等部）

才 優秀活動奨励賞 1校

No.	域内	学校名
1	県南	白河市立大屋小学校

カ 努力賞 41校

◎小学校（11学級以下） 18校

No.	域内	学校名
1	県北	川俣町立福田小学校
2	県北	二本松市立塩沢小学校
3	県北	伊達市立富成小学校
4	県中	玉川村立須釜小学校
5	県中	田村市立緑小学校
6	県中	三春町立中郷小学校
7	県中	田村市立常葉小学校
8	県中	田村市立菅谷小学校
9	県中	田村市立芦沢小学校
10	県中	浅川町立山白石小学校
11	県中	田村市立関本小学校
12	県中	田村市立広瀬小学校
13	県南	中島村立滑津小学校
14	県南	白河市立信夫第二小学校
15	会津	喜多方市立松山小学校
16	会津	喜多方市立熊倉小学校
17	相双	南相馬市立金房小学校

18 | いわき | いわき市立長倉小学校

◎小学校（12学級以上） 8校

No.	域内	学校名
19	県北	桑折町立醸芳小学校
20	県中	田村市立大越小学校
21	県中	石川町立石川小学校
22	県中	須賀川市立仁井田小学校
23	県中	須賀川市立柏城小学校
24	県中	須賀川市立阿武隈小学校
25	県南	西郷村立小田倉小学校
26	県南	西郷村立熊倉小学校

◎中学校（11学級以下） 4校

No.	域内	学校名
27	県中	田村市立移中学校
28	県中	浅川町立浅川中学校
29	県南	西郷村立西郷第二中学校
30	会津	磐梯町立磐梯中学校

◎中学校（12学級以上） 3校

No.	域内	学校名
31	県北	福島市立野田中学校
32	県中	石川町立石川中学校
33	県南	西郷村立西郷第一中学校

◎特別支援学校 8校

No.	域内	学校名
34	特支	福島県立盲学校（小学部）
35	特支	福島県立郡山養護学校（小学部）
36	特支	福島県立あぶくま養護学校安積分校（小学部）
37	特支	福島県立会津養護学校（高等部）
38	特支	福島県立相馬養護学校（小学部）
39	特支	福島県立相馬養護学校（中学部）
40	特支	福島県立いわき養護学校（中学部）
41	特支	福島県立いわき養護学校（高等部）

(5) 福島県学校保健会表彰

ア 学校保健功労者（23名）

No.	職名	氏名	勤務校
1	学校医	西條 徹	福島市立信陵中学校
2	〃	近藤 聖一	福島市立岳陽中学校
3	〃	大高 眞蔵	須賀川市立第一中学校
4	〃	石川 和広	三春町立沢石小学校
5	〃	宗像 一郎	福島県立安積高等学校御館校
6	学校歯科医	齋藤 俊明	二本松市立大平小学校
7	〃	村上 秀元	郡山市立安積第三小学校

8	〃	宍戸 計一	福島市立清明小学校
9	〃	菅谷 敏	福島市立福島第四中学校
10	〃	佐藤 清人	二本松市立小浜小学校
11	〃	遠藤 秀樹	会津若松市立門田小学校
12	〃	小久保 俊一	湯川村立笈川小学校
13	〃	中村 秀勝	福島県立須賀川養護学校郡山分校
14	学校薬剤師	村田 京子	福島市立笹谷小学校
15	〃	佐藤 智子	福島市立飯坂小学校
16	〃	石井 恵子	福島県立福島北高等学校
17	〃	石岡 弘	福島県立白河高等学校
18	養護教諭	高田 智子	白河市立白河第二小学校
19	〃	富永キク子	白河市立大信中学校
20	〃	渡部 則子	猪苗代町立千里小学校
21	〃	阿久津美紀子	南会津町立館岩中学校
22	〃	川島 京子	南会津町立檜沢中学校
23	〃	羽田湖津枝	福島市立福島第二中学校

イ 学校安全ボランティア活動奨励賞（7団体）

No.	団体名	代表者名
1	子どもの安全確保協議会	須藤 正義
2	向陽町防犯パトロール隊	後藤 忠弘
3	向陽町小学校育成会防犯パトロール	渡邊 望
4	季の郷育成会防犯パトロール	田村 真理
5	浮金子どもの安全を見守り隊	大和田政勝
6	地域安全サポーターふれ愛隊ときわ	遠藤 正司
7	橋本子供見守り隊	金子 勇

ウ 学校保健会感謝状（10名）

No	職名	氏名	勤務校
1	理事	本多 静香	(前)福島県学校保健会
2	〃	本間 正幸	(前)福島県学校保健会
3	支部長	箱崎 温夫	(前)福島県学校保健会
4	学校医	酒井 徹	(前)郡山市立安積第三小学校
5	学校歯科医	築田 則光	(前)会津若松市立神指小学校
6	学校薬剤師	水戸 康雄	(前)福島市立鎌田小学校
7	〃	福田 美紀子	(前)郡山市立行健中学校
8	養護教諭	油井 喜美子	(前)福島市立笹谷小学校
9	〃	大江 まり子	(前)猪苗代町立千里小学校
10	〃	草野 秀子	(前)福島県立湯本高等学校

3 学校給食関係

(1) 文部科学大臣表彰

ア 学校給食優良学校等

学校・共同調理場名	校長・施設長名
猪苗代町立猪苗代小学校	菊地 康則

イ 学校給食功労者

職名	氏名	所属
栄養教諭	松谷 祐子	会津若松市立第一中学校

(2) 公益財団法人福島県学校給食会会長・福島県学校給食研究会会長表彰

ア 学校給食優良団体

団体名	校長・施設長名
会津若松市立湊小学校	木村 なるみ

イ 学校給食功労者

職名	氏名	所属
栄養教諭	井間真理子	川俣町立川俣南小学校
栄養教諭	大関三千子	郡山市立朝日が丘小学校
栄養教諭	近内千由里	矢吹町立矢吹中学校
栄養教諭	横田みえ子	南会津町立荒海中学校
主任調理員	齋藤 芳晴	福島県立保原高等学校定時制
前常務理事	五十嵐孝雄	公益財団法人福島県学校給食会

第3節 学校体育

1 学校体育関係各種研修

(1) 小・中・高等学校体育担当者連絡協議会

県北：平成28年9月14日（水）	とうほう・みんなの文化センター	169名参加
県中：平成28年9月12日（月）	郡山ユラックス熱海	197名参加
県南：平成28年9月13日（火）	中島村生涯学習センター	67名参加
会津：平成28年9月7日（水）	会津大学	117名参加
南会津：平成28年9月15日（木）	南会津町御蔵入交流館	24名参加
相双：平成28年9月6日（火）	万葉ふれあいセンター	61名参加
いわき：平成28年9月8日（木）	いわき合同庁舎南分庁舎	126名参加

(2) 体力向上指導者養成研修

県中央研修：平成28年6月23日（木）

あづま総合運動公園	36名参加
地区別研修	
県北地区：平成28年8月22日（月）	
国体記念体育館	94名参加
県中地区：平成28年8月19日（金）	
郡山総合体育館	85名参加
県南地区：平成28年8月18日（木）	
白河市立表郷中学校	71名参加
会津・南会津地区	
：平成28年8月5日（金）	
あいづ総合体育館	140名参加
相双地区：平成28年8月4日（木）	
南相馬市スポーツセンター	69名参加
いわき地区：平成28年8月22日（月）	
いわき総合体育館	115名参加

(3) ダンス・表現指導者養成研修会

平成28年8月1日（月）	
福島市国体記念体育館	75名参加

(4) 学校フォークダンス指導者養成研修会

平成28年11月17日（木）	
浅川町体育館	39名参加

(5) 体力向上に関する体育指導担当者研修会

県北・相双：平成28年5月30日（月）	
とうほう・みんなの文化センター	239名参加
県中・県南：平成28年5月10日（火）	
たまかわ文化体育館	239名参加
会津・南会津：平成28年6月 3日（金）	
下郷ふれあいセンター	144名参加
い わ き：平成28年5月19日（木）	
内郷コミュニティセンター	130名参加

2 福島県高等学校体育連盟

(1) 平成28年度福島県高等学校体育連盟役員

顧問(歴代会長)	折笠常弘(15代) 早川俊一(16代) 齋藤久(18代) 砂子田敦博(19代) 杉原陸夫(20代) 高城俊春(21代) 齋藤和也(22代) 古市孝雄(23代) 富田孝志(24代) 星本文(25代) 新井田大(26代) 富田昭夫(27代) 本間稔(28代) 塩田正信(県教育庁健康教育課長) 遠藤均(県体育協会専務理事)
参与(歴代理事長)	陸勤(7代) 高橋充雄(9代) 浅尾晃左(11代) 菅野一治(12代) 渡辺正昭(13代) 赤沼健一(14代) 渡邊正仁(15代) 穂本哲哉(16代)
会長	長岐博(田村高校長)
副会長(地区会長)	菅野誠(福島高校長) 小林喜則(郡山商業高校長) 山内正之(会津高校長) 廣瀬敬彦(いわき光洋高校長) 鎌田由人(相馬東高校長)
理事長	滝田勝彦(田村)
事務局長	齋藤靖(田村)
常任理事	新方浩二(健康教育課) 豊澤徹也(県体育協会) 小野泰宏(郡山北工業) 高橋寛二(郡山商業) 千田則和(郡山萌世(通信制))
常任理事・理事	県北 ☆◎ 瀬田川広行(福島商業) ○ 三浦武彦(福島明成) 矢作英樹(本宮) 齋藤智也(聖光学院) △ 平井拓己(聖光学院)
	県南 ☆◎ 清水秀昭(郡山商業) ☆○ 堀井裕典(あさか開成) ☆ 小松順衛(白河旭) ☆ 佐藤紘則(小野) ☆ 内田光信(須賀川桐陽) △ 大澤梨奈(郡山東)
	会津 ☆◎ 相原隆幸(葵) ○ 室井真仁(会津) 三田大輔(若松商業) △ 大竹幹太(川口)
	いわき ☆◎ 阿部秀幸(磐城桜が丘) ○ 糸井亮平(平工業) 小川尚之(磐城) △ 片平愛生(磐城桜が丘)
	相双 ☆◎ 齊藤清人(相馬東) ○ 皆原邦彦(相馬) 横山義彦(相馬) △ 太田麗(相馬東)
監事	星拓磨(会津学鳳) 縄央和(須賀川)
会長指名理事	新方浩二(健康教育課) 豊澤徹也(県体育協会)
幹事	佐藤琢麻(安積黎明) 五島裕美(田村) 齊藤修(郡山萌世(定時制))
(公財)福体協理事	長岐博(田村高校長)
同評議員	齋藤靖(田村)
東北高体連副会長	長岐博(田村高校長)
同常任理事	滝田勝彦(田村)
同理事	齋藤靖(田村)

☆常任理事 ◎地区理事長 ○地区副理事長 △地区生徒理事

(2) 第62回福島県高等学校体育大会日程・会場

※○…終日 □…半日

開催 地区	No.	種 目 名	日 程			会 場	参加人数	
			6/4(土)	6/5(日)	6/6(月)			
県 北	1	陸 上 競 技	5月27日(金)～30日(月)			とうほう・みんなのスタジアム	1,588	
	2	ハ ン ド ボ ー ル	6月3日(金)～5日(日)			県営あづま総合体育館 福島市国体記念体育館	656	
	3	バ ド ミ ン ト ン	6月5日(日)～7日(火)			福島市国体記念体育館	534	
	4	体 操	体操競技	5月27日(金)～29日(日)			福島市国体記念体育館	69
			新体操	5月27日(金)～29日(日)			福島市国体記念体育館	
	5	馬 術	5月14日(土)～15日(日)			福島明成高校	47	
	6	登 山	6月1日(水)～4日(土)			安達太良山系(福島市 二本松市 猪苗代町)	218	
	7	フ ェ ン シ ン グ	○	○		福島商業高校 第二体育館	18	
	8	カ ス ー 競 技	6月11日(土)			二本松市阿武隈漕艇場	13	
9	ラ イ フ ル 射 撃		○		二本松市総合射撃場	27		
県 南	10	バ ス ケ ッ ト ボ ー ル	6月11日(土)～13日(月)			郡山総合体育館 郡山市内高校	880	
	11	サ ッ カ ー	男子	5月28日(土)・29日(日)・30日(月) 6月3日(金)・5日(日)		鳥見山陸上競技場・同多目的広場 福島市十六沼公園サッカー場	600	
			女子	5月29日(日)・6月3日(金)・5日(日)		鳥見山陸上競技場・同多目的広場 福島空港公園多目的運動広場	272	
	12	ソ フ ト テ ニ ス	○	○	□	郡山庭球場	580	
	13	卓 球	5月28日(土)～30日(月)			郡山総合体育館	545	
	14	水 泳 飛 込	7月6日(水)			郡山カルチャーパークプール	4	
	15	柔 道	○	○	□	郡山西部第二体育館	364	
	16	自 転 車 競 技	トラック	5月20日(金)～21日(土)		泉崎村 泉崎国際サイクルスタジアム	53	
			ロード	5月22日(日)		西郷村 小田倉台上の周回コース		
	17	ウ ェ イ ト リ フ テ ィ ン グ	○	○		田村高校 第二体育館	44	
	18	ホ ッ ケ ー	未開催			未開催	-	
	19	ス ケ ー ト	スピード	12月9日(金)			磐梯熱海スポーツパーク郡山スケート場	7
フィギュア			未開催			未開催		
20	ア ー チェ リ ー	○			三春町菅グラウンド	20		
会 津	21	テ ニ ス	○	○	□	会津総合運動公園テニスコート あいづドーム	446	
	22	ソ フ ト ボ ー ル	○	○	□	男子 喜多方市押切川運動公園 女子 会津総合運動公園多目的広場	682	
	23	水 泳 競 泳	6月25日(土)～27日(月)			会津水泳場	449	
	24	相 撲	○	○		会津坂下町中央相撲場	22	
	25	弓 道	○	○	□	あいづ総合体育館弓道場	323	
	26	ボ ー ト	6月4日(土)～5日(日)			福島県営茨野漕艇場	95	
	27	ボ ク シ ン グ	5月27日(金)～29日(日)			磐城緑蔭中学・高等学校 ボクシング場	11	
	28	レ ス リ ン グ	○	○		田島高校	45	
	29	ス キ ー	29年1月12日(木)～14日(土)			アパロン: 会津高原だいらスキー場 クロコ: 檜枝岐村七入カスナトリコース	37	
	30	な ぎ な た	□	○		会津学風高校 第一体育館	44	
	31	駅 伝 競 走	10月26日(水)			猪苗代町駅伝コース	519	
い わ き	32	バ レ ー ボ ー ル	5月27日(金)～30日(月)			いわき市立総合体育館 内郷コミュニティセンター 磐城桜が丘高校 平工業高校	1,431	
	33	ラ グ ビ ー フ ッ ト ボ ー ル	10月28日(金)・30日(日) 11月5日(土)・12日(土)			21世紀の森公園いわきグリーンフィールド・多目的広場	230	
	34	剣 道	○	○	□	いわき市立総合体育館	128	
	35	空 手 道	6月3日(金)～5日(日)			平工業高校 体育館	71	
	36	軟 式 野 球	7月13日(水)			小名浜球場	29	
	37	ヨ ッ ト	○			いわき市 小名浜港(釜の前)	9	
特殊専門部		定 時 制 通 信 制	6月11日(土)			郡山総合体育館柔道場・剣道場 郡山庭球場 郡山萌世高校 郡山西部体育館 ふるさとの森スポーツパーク軟式野球場 須賀川アリーナ 牡丹台庭球場 福島中央高校	348	

3 福島県中学校体育連盟

(1) 平成28年度福島県中学校体育連盟役員

役職名	氏名	所属名	地区名
会長	関内 健	中央台南中	いわき
副会長	住吉 哲也	二本松三中	県北
	佐藤 卓弘	富田中	県中
	古川 晃	西郷一中	県南
	菊地 裕二	一箕中	会津
	笹川 育正	勿来一中	いわき
	荒木 清隆	小高中	相双
理事長	長正 壮平	福島三中	県北
理事	塩田 俊郎	県教育庁健康教育課指導主事	
	田中 信次	伊達中	県北

役職名	氏名	所属名	地区名
理事	塚原 雅也	富田中	県中
	馬場 正和	白河二中	県南
	佐藤 雅司	一箕中	会津
	鈴木 雅之	平三中	いわき
	藍原 広明	小高中	相双
監事	安斎 康仁	大鳥中	県北
	後藤さとみ	中島中	県南
顧問	一ノ瀬直市	北会津中	会津
顧問	鈴木 訓夫	前会長	県中
事務局長	大和田 亮	福島四中	県北

(2) 第59回福島県中学校体育大会

競技種目	競技場	期日	参加人数
陸上競技	とうほう・みんなのスタジアム	7月5日(火)～7月7日(木)	1,334
水泳競技	競泳	いわき市民プール	7月22日(金)～7月24日(日)
	飛び込み	郡山カルチャーパークプール	7月6日(水)
軟式野球	あいづ球場	7月22日(金)～7月24日(日)	4,765
	鶴沼球場	7月22日(金)～7月23日(土)	
	押切川公園球場	7月22日(金)	
	下郷町大川ふるさと公園野球場	7月22日(金)	
ソフトボール	ふるさとの森スポーツパークソフトボール場	7月23日(土)～7月24日(日)	
	ふるさとの森スポーツパークスポーツ広場	7月23日(土)～7月24日(日)	
バスケットボール	白河市中央体育館	7月23日(土)～7月24日(日)	
	白河市立表郷中学校体育館	7月23日(土)	
バレーボール	福島市立信陵中学校体育館	7月23日(土)～7月24日(日)	
	福島市立信夫中学校体育館	7月23日(土)	
	伊達市立伊達中学校体育館	7月23日(土)～7月24日(日)	
	桑折町立醸芳中学校体育館	7月23日(土)	
ソフトテニス	しらかかの森スポーツ公園テニスコート	7月23日(土)～7月24日(日)	
卓球	須賀川アリーナ	7月23日(土)～7月24日(日)	
バドミントン	南相馬スポーツセンター	7月26日(火)～7月27日(水)	
サッカー	とうほう・みんなのスタジアム	7月22日(金)～7月24日(日)	
	あづま運動公園補助陸上競技場	7月22日(金)～7月24日(日)	
	十六沼公園サッカー場	7月22日(金)	
ハンドボール	県営あづま総合体育館	7月23日(土)～7月24日(日)	
	福島市国体記念体育館	7月23日(土)	
柔道	あいづ総合体育館	7月23日(土)～7月24日(日)	
剣道	いわき市立総合体育館	7月23日(土)～7月24日(日)	
相撲	会津若松市立第六中学校相撲場	7月23日(土)～7月24日(日)	
新体操	郡山西部体育館※	7月22日(金)～7月24日(日)	
	※ 22日の新体操男子は体操競技会場にて実施		
体操競技	郡山総合体育館	7月23日(土)～7月24日(日)	
駅伝競走	西郷村台上周辺コース	10月5日(水)～10月6日(木)	604
スケート	磐梯熱海スポーツパーク郡山スケート場	12月9日(金)	7
スキー	裏磐梯猫魔スキー場	平成29年 1月11日(水)～1月13日(金)	122
	尾瀬檜枝岐CCスキーコース		

第4節 学校保健・学校安全

1 学校保健・学校安全研修会等

① 学校保健

事業名	期 日	会 場	参加人数
養護教諭 経験者 研修Ⅰ	校内研修(3日間) 校外研修(3日間)	学校の計画による 各教育事務所 の計画による 教育センター	16名
	宿泊研修 8月31日(水) ～9月2日(金)		
養護教諭 経験者 研修Ⅱ	校内研修(4日以上) 校外研修(6日以上)	学校の計画による 各教育事務所・ 学校の計画による 教育センター	11名
	宿泊研修 8月1日(月) ～8月3日(水)		
養護教諭 専門研修 講座	9月7日(水) ～9月9日(金)	教育センター	16名
健康教育 推進者 研修会	9月13日(火)	いわき合同庁舎	125名
	9月14日(水)	万葉ふれあい センター	60名
	9月16日(金)	会津大学講堂	144名

② 学校安全

・学校安全指導者養成研修会

会津・南会津：平成28年9月20日(火)	下郷ふれあいセンター	120名参加
いわき：平成28年9月27日(火)	いわき合同庁舎	107名参加

2 児童・生徒の健康管理費補助

(1) 要保護児童生徒援助費補助金(医療費)

学校安全保健法第25条の規定に基づく補助金の交付状況は次のとおりである。

ア 県立学校

対象児童生徒数(人)		設置者が援助 した額(円)	補助金 確定額(円)
区 分	特別支援学校		
要保護	0	0	0
計	0	0	0

イ 市町村立学校

対象児童生徒数(人)				設置者が 援助した額 (円)	補助金 確定額 (円)
区 分	小学校	中学校	特別支援学校		
要保護	43	20	0	1,361,616	654,000
計	43	20	0	1,361,616	654,000

3 福島県学校保健会

(1) 会 員

- ア 県内小・中学校及び高等学校の児童生徒
- イ 学校医、学校歯科医、学校薬剤師及び学校保健関係者

(2) 財 政

平成28年度予算額 4,799,490円

(3) 事業概要

- ア 学校保健講習会の開催(県内21支部単位)
- イ 学校保健優良学校・学校保健功労者表彰・学校安全ボランティア奨励賞
- ウ 各種研究大会、講習会等への派遣
- エ 刊行物の発行
学校保健会報 第47号

4 独立行政法人日本スポーツ振興センター

(1) 災害共済給付契約加入状況

県立学校の平成28年度の加入幼児児童生徒数は45,400人で、前年度に比べ409人減少した。
児童生徒は、一部の長期欠席者等を除き全員加入している。

(2) 災害共済給付状況

県立学校において、平成28年度「学校管理下」で発生した児童生徒等の災害は、給付件数では4,256件(平成27年度4,298件)、給付金額では36,762,271円である。

給付件数では42件減少、給付金額で1,179,763円増加した。

(3) 平成28年度県立学校災害共済給付状況

区分	医療費		障害見舞金		死亡見舞金		供花料		合計	
	(発生件数) 給付件数	給付額	給付件数	給付額	給付件数	給付額	給付件数	給付額	(発生件数) 給付件数	給付額
幼稚園	件 (1) 2	円 3,205	件 0	円 0	件 0	円 0	件 0	円 0	件 (1) 2	円 3,205
小学校	(14) 17	140,600	0	0	0	0	0	0	(14) 17	140,600
中学校	(15) 37	64,410	0	0	0	0	0	0	(15) 37	64,410
高等学校	全日制 (1,566) 4,150	29,302,446	2	6,800,000	0	0	1	170,000	(1,566) 4,153	36,272,446
	定時制 (16) 42	278,069	0	0	0	0	0	0	(16) 42	278,069
	通信制 (1) 5	3,541	0	0	0	0	0	0	(1) 5	3,541
合計	(1,613) 4,253	29,792,271	2	6,800,000	0	0	1	170,000	(1,613) 4,256	36,762,271

(4) 学校安全支援業務

ア 各種研修会等への講師派遣

学校栄養職員 経験者研修Ⅱ	校外研修 6日以上 宿泊研修 3日 7月27～ 29日 共通研修 1日 社会体験研修 1日 選択研修 1日	同調理場 教育センター
------------------	---	----------------

第5節 学校給食

1 学校給食に関する研修会

名称	開催月日	会場	参加人数
学校給食担当者会議	5月10日	ハイテクプラザ	98名
新規採用学校 栄養職員研修	校内研修 各15日	所属校・ 勤務共同調理場	6名
	校外研修 地区別研修A 4日 地区別研修B 3日	教育事務所の計 画による 市町村教育委員 会の計画による	
	宿泊研修A 3日 5月23日～ 25日	国立磐梯青年 交流の家	
	宿泊研修B 3日 9月28日～ 30日	教育センター	
	校内研修 4日以上	所属校・勤務共	7名

2 学校給食用パン品質調査

学校給食用パン品質を良化して、学校給食の食事内容の充実向上に役立たせるため実施した。

教育事務所	調査件数
県北	5件
県中	19件
県南	8件
会津	3件
南会津	1件
相双	2件
いわき	7件
合計	45件

3 食育等に関する研修会等

(1) 学校における食の担当者連絡会議

- 日時 平成28年5月13日(金)
- 会場 県ハイテクプラザ
- 参加者 87名

(2) ふくしまっ子の食環境を考える会

県北：平成28年8月9日（火）	112名参加
パルセいいざか	
県中：平成28年8月10日（水）	104名参加
県ハイテクプラザ	
県南：平成28年7月27日（水）	62名参加
白河合同庁舎	
会津：平成28年8月23日（火）	67名参加
湯川村公民館	
南会津：平成28年8月22日（月）	26名参加
御蔵入交流館	
相双：平成28年8月18日（木）	41名参加
かしま交流センター	
いわき：平成28年7月29日（金）	66名参加
いわき合同庁舎	

(3) 栄養教諭食育推進研修会

○ 日 時 平成28年12月9日（金）	
○ 会 場 三春町立三春中学校	43名参加

4 地場産物活用のための研修会等

(1) 学校給食を活用した食育年間計画等策定研修会

○ 日 時 平成28年9月16日（金）	
○ 会 場 県ハイテクプラザ	96名参加

(2) 地場産物活用のための懇談会

○ 日 時 平成28年10月14日（金）	
○ 会 場 福島市東部学校給食センター	16名参加

5 学校給食関係の国庫助成実績

平成23年4月1日付け23文科施第3号文部科学大臣裁定「学校施設環境改善交付金要綱」に基づく交付金の状況は、次のとおりである。

平成28年度「学校施設環境改善交付金」（学校給食施設）

設置者名	交付額（千円）	学校または共同調理場名	事業名	児童生徒数（人）	構造（区分）	対象面積（㎡）
郡山市	59,374	（仮称）西田義務教育学校（後）	共同調理場（新增築）	491	鉄筋コンクリート造（R）	374
須賀川市	6,323	稲田小中一貫校（Ⅰ期工事）	単独校調理場（新增築）	294	鉄筋コンクリート造（R）	47
相馬市	6,385	中村第二中学校（Ⅰ期）	単独校調理場（新增築）	220	鉄筋コンクリート造（R）	49
相馬市	5,244		単独校調理場（改築）			
伊達市	83,720	伊達市保原学校給食センター（Ⅰ期工事）	共同調理場（改築）	3,464	鉄骨造（S）	854
須賀川市	6,324	稲田小中一貫校（Ⅱ期工事）	単独校調理場（新增築）	—	鉄筋コンクリート造（R）	—
相馬市	8,686	中村第二中学校（Ⅱ期工事）	単独校調理場（新增築）	—	鉄筋コンクリート造（R）	—
相馬市	8,147		単独校調理場（改築）			
伊達市	83,721	伊達市保原学校給食センター（Ⅱ期工事）	共同調理場（改築）	—	鉄骨造（S）	—
計	267,924		9件			

第6節 体育施設

1 公立学校施設整備費補助（学校体育諸施設補助）

(1) 水泳プール（屋外）

設置者名	施設名	水面積（m ² ）	交付金額（千円）
矢祭町	矢祭小学校	295	15,791
会津坂下町	坂下南小学校	360	11,570
白河市	釜子小学校	325	17,397
会津美里町	高田小学校	375	43,046

(2) 学校クラブハウス

設置者名	施設名	面積（m ² ）	交付金額（千円）
該当なし			

(3) 中学校武道場

設置者名	施設名	面積（m ² ）	交付金額（千円）
埴町	埴中学校	450	17,925
平田村	ひらた清風中学校	180	7,035

第7節 全国高校総体

1 福島県実行委員会総会

(1) 第2回総会（平28.5.16）

- ア 事務局規程の一部改正について
- イ 平成27年度事業報告・収支決算
- ウ 平成28年度事業計画・収支予算
- エ 企業等地域協賛（ローカスポンサー）事業基本計画

2 専門委員会等

(1) 競技専門委員会

- ア 第3回競技専門委員会（平28.6.15）
 - （ア）競技会場・競技日程の変更
 - （イ）プログラム作成要領及びプログラム作成スケジュール
 - （ウ）記録報告書作成要領
 - （エ）平成28年度競技役員等養成事業実施要項
 - （オ）教職員役員及び高校生補助員等の協力依頼
- イ 第4回競技専門委員会（平28.8.29）
 - （ア）自転車競技での女子競技の公開競技としての実施
 - （イ）個人情報及び肖像権に関わる取扱い
 - （ウ）競技種目別大会実施要項
 - （エ）競技種目別大会競技会場施設一覧表
- ウ 第5回競技専門委員会（平29.1.30）
 - （ア）競技会場の変更
 - （イ）競技種目別大会ポスター原画 最優秀賞作品一覧
 - （ウ）役員及び補助員の服飾

(2) 広報・報道専門委員会

- ア 第2回広報・報道専門委員会（平28.12.27）
 - （ア）総合案内所設置・運営企画
 - （イ）協賛取扱要綱

(3) 宿泊・衛生専門委員会

- ア 第2回宿泊・衛生専門委員会（平28.8.26）
 - （ア）売店等設置基本方針
 - （イ）宿泊要項及び弁当調達要項
 - （ウ）会場地医療救護実施要領例
 - （エ）福島県食品衛生対策実施要領

(4) 輸送・警備専門委員会

- ア 第2回輸送・警備専門委員会（平28.12.7）
 - （ア）危機管理マニュアル
 - （イ）競技種目別駐車場・乗降計画

(5) 競技打合せ

- ア 第3回競技打合せ（平28.6.20～29）
- イ 第4回競技打合せ（平28.10.12～28）

(6) 会場地市町連絡協議会

- ア 第1回会場地市町連絡協議会（平28.8.29）

（ア）カウントダウンボードの設置

（イ）観光・おもてなし

（ウ）協賛関係

（エ）エアコン工事工程

イ 第2回会場地市町連絡協議会（平29.1.18）

（ア）南東北総体公式ホームページにおける情報掲載

（イ）県広報番組の取材協力

ウ 第3回会場地市町連絡協議会（平29.2.22）

(7) 平成28年度全国高等学校総合体育大会 「2016 情熱疾走 中国総体」の視察

（平28.6.29～8.9）

県高体連競技専門部、県競技団体、会場地市町関係者による「2016 情熱疾走 中国総体」の競技種目別大会及び組合せ抽選会等の視察。

(8) 競技種目別大会会場地担当教員派遣説明会

（平29.3.29）

会場地担当教員及び所属校管理職、会場地市町関係者への説明会を開催し、平成29年度の従事要項、開催準備スケジュール等について説明。

3 高校生活動

県内の高校生が大会の準備・運営等における「する・観る・支える」活動に主体的に取り組み、高校生スポーツ最大の祭典を自らの手で作り上げた連帯感等を共有できる大会を目指し、県内各高校に設置された高校生活動推進委員会を基に以下の活動を実施した。

(1) 県高校生活動推進委員会

ア 第3回県高校生活動推進委員会（平28.7.12）

（ア）研修

『支える』は新しいスポーツ文化となりうるか？」

講師：NPO法人うつくしまスポーツルーターズ

（イ）みやぎ総文2017・南東北インターハイ開催500日前イベント参加報告

（ウ）大会記念品について

（エ）中国総体視察計画

（オ）各競技会場の草花装飾計画

（カ）グループミーティング

「本県カウントダウンイベントについて」

イ みやぎ総文2017・南東北インターハイ開催

300日前PRイベントへの参加（平28.9.11）

ウ はばたけ世界へ 南東北総体2017 プレイメントへの参加（平28.12.11）

エ 第4回県高校生活動推進委員会（平29.3.15）

（ア）平成28年度活動報告及び平成29年度活動計画

（イ）大会記念品、モザイクアート作製計画

（ウ）本県カウントダウンイベント計画

(2) 地区高校生活動推進委員会

ア 第3回地区高校生活動推進委員会

（ア）地区・期日

県北	平 29.1.17
県南	平 29.1.27
会津	平 29.1.25
相双	平 29.1.19
いわき	平 29.1.26

(イ) 協議内容

- a 各学校推進委員会平成28年度活動報告及び平成29年度活動計画
- b 平成28年度福島県高校生活動推進委員会報告
- c 大会記念品について
- d モザイクアートについて
- e グループミーティング
「モザイクアートデザインについて」

イ 平成28年度全国高等学校総合体育大会福島県選手団結団式への参加 (平 28.7.5)

(3) 高校生活動による広報

ア 「福島の未来に輝く！スポーツわくわくプロジェクト～大空にはばたけ！スカイスports教室」 (平 28.9.22)

イ 平成28年「教育フォーラム」 (平 28.11.6)

ウ 県サポーターティングマッチ[プロバスケットBリーグ] (平 29.1.22)
(平 29.3.5)

4 各種広報活動

(1) カウントダウンボード除幕式 (平 29.1.31)

(2) 印刷物等による広報

- ア インターハイNEWS
(ポスターvol.2～vol.3作成、配付)
- イ 29南東北インターハイNEWS (平 26.6～)
県内の高等学校へ電子データによる配付
- ウ 広報誌、各種刊行物
 - (ア) 県教育委員会広報誌「ふくしま教育ニュース (第45号)」 (平 28.7月発行)
 - (イ) 県町村会機関誌「ふくしま自治 (第701号)」 (平 28.9.30 発行)
「ふくしま自治 (第702号)」 (平 28.12.26 発行)
 - (ウ) 避難者向け情報紙「ふくしまの今が分かる新聞 (第49号)」 (平 28.11.17 発行)

(3) テレビ媒体「県政広報番組」

- ア テレビユー福島「Nスタ ふくしま」
 - (ア) 「ふくしまで一緒にやろう！」プロジェクト
 - a 柔道専門部 (平 29.1.26 放送)
- イ 福島放送「Let's チャレンジふくしま」
 - (ア) バスケットボール (平 29.3.7 放送)
 - a 県立福島南高校 (男子)
 - b 県立郡山商業高校 (女子)

(4) 多様なメディア等による広報

- ア twitter 開設、情報掲載 (平 28.3～)
- イ 県教育委員会及び健康教育課ホームページへバナーの掲載 (平 28～)
- ウ 県教育委員会ホームページトップページへ最新情報NEWSとして情報掲載 (平 26～)
- エ 公式ホームページ開設 (平 28.4.22～)
 - (ア) 各種会議開催の掲載
 - (イ) 公募・入札・協賛関係など掲載
 - (ウ) 「29南東北インターハイNEWS」の掲載
 - (エ) カウントダウン「絆リレー」 (平 28.5.14～)
 - a 各高等学校高校生活動推進委員会

(5) 広報啓発物

本県版ポスター、リーフレット、クリアフォルダ、ウェットティッシュ、紙バック、両面ステッカー、公用車貼付マグネット、のぼり

5 選手の強化

(県教育委員会から県高等学校体育連盟への委託事業)

(1) インターハイ選手特別強化事業

39校68部及び指導者22名・選手76名を指定し、強化事業を実施。

ア 指定証交付式開催 (平 28.5.24)

(2) 「ふくしまで一緒にやろう！」プロジェクト

県高体連19競技専門部及びいわき・相双地区高体連による復興PR事業の実施。

92事業を展開し、県外参加者3,936名(総参加人数10,174名)の方々には福島県の現状を発信するとともに、合同練習会等を通し指導者間及び競技者間で交流を図った。

第9章 社会教育

第1節 概要

(1) 社会教育一般

県社会教育委員の会議では、公募委員2名を含む16名に委員を委嘱した。

学校・家庭・地域がそれぞれの役割を自覚し、連携・協力しながら、地域社会全体で子どもたちの教育を支援していくための体制づくりや人材育成等のあり方を審議するとともに、本県における社会教育推進や地域の教育力向上を目指した施策から、成果及び課題を整理し、平成30年3月に提言作成に向けて協議を進めた。

(第2章 第7節に記載)

(2) 地域コミュニティの再生

震災からの復興のために、地域コミュニティを再生していくことが重要である。そのために、地域の実情に即して、学校・家庭・地域住民の連携を進めるとともに、それぞれが主体的かつ確実にその役割を果たしながら、地域の教育力向上を図ることができるよう、子どもたちの健全育成と安心安全な活動拠点づくりを推進するための「放課後子ども教室推進事業」や、地域人材や社会教育団体などの参画を得て、学校と地域の連携の構築を図り、地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進する「学校支援地域本部事業」を実施するとともに、「学校・家庭・地域連携サポート事業」において、コーディネーターやボランティアを対象とした研修等を実施した。

また、災害記録の保存と県民への情報提供に活用する資料の収集を行い、移動図書館や協力車の巡回を実施して読書普及を通じた支援を行った。

(3) 家庭教育

家庭教育は、子どもが基本的な生活習慣、生活能力、豊かな情操、他人に対する思いやりや善悪の判断などの基本的倫理観、自立心や自制心、社会的なマナーを身につける上で重要な役割を担っている。しかしながら、少子高齢化、高度情報化等、社会環境が激しく変化する現在、子育てに関する課題等も多様化している。そこで、PTAや企業との連携する等、地域ぐるみで子どもたちを育む仕組みの構築に努め、「地域でつながる家庭教育応援事業」等を実施した。

(4) 青少年教育

青少年の豊かな人間性や社会性を育むためには、異年齢の子ども同士や地域の大人等の関わりのもと、自然体験、ボランティア活動、職業体験、交流体験、スポーツ・文化活動等の様々な体験の機会の充実や社会環境づくりが促進されることが必要である。そのために、「体験活動・ボランティア推進センター事業」を実施するとともに、学校・家庭・地域が連携を進めながら、地域ぐるみで青少年を育成する環境づくりが推進されるよう、子どもと大人が、共通の体験をとおして、感動したことや共感したことを話し

合い、また、震災からさらなる復興を願った「ふくしま」への思いを、日本古来の五・七・五の十七音で表現した作品を募集、表彰、広報する「ふくしまを十七字で奏でよう絆のふれあい支援事業」を実施した。

(5) 成人教育

地域における大人の持つ知識や技能、公民館等において学習した成果などを、地域社会に還元する活動の重要性が高まっていることから、地域の教育力の向上への取組と関連させながら、成人の学習活動や社会参加活動を促進するよう努めた。

(6) 子どもの読書活動推進

第三次「福島県子ども読書活動推進計画」に基づき、関係機関と連携して、地域で子どもの読書活動を推進するボランティアの資質向上を図り、学校図書館への支援等もできる人材の養成に努めるとともに、福島県子ども読書活動推進会議を開催し、読書活動推進に向けた協議を行った。

また、読書の楽しさや自ら進んで読書に親しむきっかけとして、高校生によるビブリオバトルを開催した。

(7) ユネスコ活動

ユネスコ憲章の精神に基づく教育・科学・文化活動についての理解を県民一般に広めるよう努めた。

(8) ふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業

子どもたちの豊かな人間性や生きる力を育むために「ふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業」を実施し、東日本大震災の経験を踏まえ、再発見した郷土の良さを伝え合い発信していく様な交流活動を行う団体や充実した自然体験活動等を行う団体に対し、補助金を交付した。

(9) 子どもがふみだす ふくしま復興体験応援事業

子どもたちが福島の今を伝える活動を行う中で主体的に復興に寄与する社会体験活動に取り組むことなど、その想いを具現化できる機会を提供するため、「子どもがふみだす ふくしま復興体験応援事業」を実施し、市町村や青少年育成団体等が実施する事業に対し、補助金を交付した。

第2節 社会教育一般

1 社会教育推進体制の充実

(1) 社会教育行政の推進

社会教育担当者会議

第1回 日時 平成28年4月8日(金)

場所 中町ビル

第2回 日時 平成29年2月3日(金)

場所 公立学校共済組合飯坂保養所

(2) 社会教育主事の設置

社会教育活動の充実を図るため、県立自然の家へ社会教育主事を配置するなど設置促進に努めた。

(3) 社会教育関係職員の研修

ア 市町村の社会教育主事や公民館職員、図書館職員、社会教育指導員などの社会教育関係職員を対象とした研修機会の充実を図り、その資質向上に努めた。

イ 国立教育政策研究所等で実施する専門的な研修講座への計画的な派遣に努めた。

(4) 各種社会教育関係団体等との連携

地域の教育力向上を図る観点から、各種社会教育関係団体等の果たす役割や学校・家庭・地域住民の連携を促進するための活動が重要であるため、各種社会教育関係団体等との連携に努めた。

2 社会教育施設の整備充実

(1) 県立社会教育施設の整備充実

ア 県立図書館の整備充実

県民への図書館サービスの向上を図るため、図書館資料や設備・備品等の整備充実に努めるとともに、「県立図書館情報ネットワークシステム」を活用して公立図書館や公民館図書室、学校図書館等との連携の強化に努めた。

イ 福島県自然の家の整備充実

自然の中での集団宿泊体験を通して青少年の健全育成を図る場や機会を拡充するため、自然の家の整備充実に努めた。

(2) 市町村立社会教育施設の整備促進

ア 公民館の整備促進

地域住民のための学習の拠点となる社会教育施設として、多様化した学習ニーズに的確に対応し、充実した公民館活動が行われるよう、市町村に対し、長期的な展望に立った施設・設備の在り方について助言した。

イ 市町村立図書館の整備促進

市町村立図書館を26自治体巡回し、図書館の運営相談や相互貸借資料等の搬送等を行った。

また、高等教育機関にも巡回しその連携体制の強化に努めた。

(3) 災害復旧国庫補助事業

激甚災害に指定された東日本大震災で被災した、公立社会教育施設の災害復旧事業を補助するため、災害査定（現地調査）等の事務を行った。また、未だ申請できない双葉地区等の市町村について情報収集を行い、復旧に向けての準備ができるよう働きかけた。

3 社会教育関係職員の研修

(1) 公民館職員研修会

ア 期日 平成28年5月18日(水)～19日(木)

イ 会場 福島県男女共生センター

ウ 参加対象 市町村公民館職員でおおむね3年未満の者及び社会教育関係者

エ 参加者数 38名

オ 講師

教育庁社会教育課主幹

平久井 淳

白河市中央公民館長

双石 正義

福島大学地域創造支援センター

副センター長 准教授 木暮 照正

須賀川市西袋公民館生涯学習インストラクター

大柿 重子

教育庁社会教育課主任社会教育主事 渋川 卓也

(2) 福島県市町村社会教育担当者研修会

ア 期日 平成28年9月1日(木)～2日(金)

イ 会場 郡山市立中央公民館

ウ 参加対象

社会教育関係行政職員（公民館職員、社会教育主事等の社会教育関係事業担当2年目以上の職員）、社会教育指導員等

エ 参加者数 54名

オ 講師

棚倉町教育委員会生涯学習課生涯学習係主事

古市 裕幸

文部科学省生涯学習政策局社会教育課

地域・学校支援推進室

放課後子ども総合プラン連携推進室連携支援係長

鈴木 秀彦

国見町教育委員会生涯学習課課長兼公民館長

羽根 洋一

尚絅学院大学エクステンションセンター特任教授

松田 道雄

4 社会教育研究集会

※ 全国公民館研究集会 東北地区社会教育研究集会

東北地区公民館大会 福島県公民館研究集会との合同開催

(1) 主催

一般社団法人全国社会教育委員連合 公益社団法人全国公民館連合会 東北地区社会教育委員連絡協議会 東北地区公民館連絡協議会 福島県市町村社会教育委員連絡協議会 福島県公民館連絡協議会

(2) 共催

福島県教育委員会 福島市教育委員会 会津若松市教育委員会

(3) 後援

文部科学省 青森県教育委員会 岩手県教育委員会 宮城県教育委員会 秋田県教育委員会 山形県教育委員会 福島県 福島市 会津若松市 他

(4) 日程・内容

ア 期日 平成28年10月20日(木)～21日(金)

イ 会場 とうほう・みんなの文化センター

コラッセふくしま 福島市アクティブシニアセンターA・O・Z(アオウゼ)

ウ 参加対象 全国及び東北各県や市町村の社会教育委員

公民館関係者、社会教育関係者、生涯学習・社会教育・学校教育関係者 社会教育に関心のある方

エ 参加者数 2日間のべ1, 214名(福島県782名)

オ 記念講演

講師 一般社団法人ふくしま学びのネットワーク
理事・事務局長 前川 直哉

演題 「ふくしまから始まる新しい学び」

カ 分科会

第1分科会「地域を拓く社会教育と社会教育委員の役割」

第2分科会「今日的な社会の課題に対応する社会教育活動」

第3分科会「発信！震災からの復興に向けた学び」

第4分科会「公民館を取り巻く波 指定管理とコミセン化」

第5分科会「公民館の存在意義を問う」

5 社会教育指導員の設置

(1) 設置数

ア 県北 48名

イ 県中 17名

ウ 県南 10名

エ 会津 58名

オ 南会津 11名

カ 相双 12名

キ いわき 6名 合計 162名

(2) 福島県市町村社会教育指導員研修会(年2回)

ア 第1回

(ア) 期日 平成28年5月9日(月)

(イ) 場所 郡山市公会堂

(ウ) 対象 福島県市町村社会教育指導員

(エ) 参加者数 146名

(オ) 講師 社会教育課主幹 平久井 淳

イ 第2回

(ア) 期日 平成28年10月7日(金)

(イ) 場所 白河市表郷公民館

(ウ) 対象 福島県市町村社会教育指導員、青少年教育指導員、社会教育主事、公民館職員等社会教育関係者

(エ) 参加人数 121名

(オ) 講師 (株) 楽市白河社長 鈴木 雅文
演題「社会教育とまちづくり」

6 社会教育主事の市町村派遣

※ 平成22年度より派遣していない。

7 社会教育研修会

(1) 内容

社会教育推進上の諸問題についての協議等を通してその方策を明らかにし、市町村における社会教育の振興・充実に資する。

市町村職員及び社会教育委員等を対象として希望市町村の計画に基づき実施する。

(2) 対象

公民館職員、公民館運営審議会委員、社会教育委員、社会教育関係者

(3) 期日・会場

域内	期日	実施市町村等	参加者
県北	9月15日	国見町	39名
	9月28日	大玉村	28名
県中	7月20日	天栄村	8名
	8月9日	石川地社連	25名
	10月4日	田村市	37名
県南	6月29日	矢祭町	10名
	7月5日	金山町	8名
会津	7月22日	猪苗代町	12名
	11月9日	柳津町	8名
	8月3日	下郷町	26名
南会津	11月21日	檜枝岐村	4名
	6月23日	広野町	8名
相双	8月9日	相馬市	10名
	9月28日	飯舘村	12名

合計 14箇所 参加者 235名

8 福島県公民館研究集会

※ 全国公民館研究集会・東北地区社会教育研究大会
・東北地区公民館大会と同時開催

(1) 期日 平成28年10月20日(木)～21日(金)

(2) 会場 とうほう・みんなの文化センター
コラッセふくしま

福島市アクティブシニアセンターA・O・Z

(3) 参加対象 公民館職員、公民館運営審議会委員等

(4) 参加者数 2日間のべ1, 214名(福島県782名)

(5) 記念講演

講師 一般社団法人ふくしま学びのネットワーク
理事・事務局長 前川 直哉
演題「ふくしまから始まる新しい学び」

分科会

第1分科会「地域を拓く社会教育と社会教育委員の役割」

第2分科会「今日的な社会の課題に対応する社会教育活動」

第3分科会「発信！震災からの復興に向けた学び」

第4分科会「公民館を取り巻く波 指定管理

9 社会教育職員研修派遣

(1) 東北大学社会教育主事講習

ア 主催 東北大学教育学部

イ 期日・会場

平成28年6月16日(木)～6月17日(金)

地方共済組合飯坂保養所 飯坂温泉みちのく荘
福島市飯坂学習センター

平成28年7月4日(月)～8月10日(水)

国立磐梯青少年交流の家
東北大学教育学部

ウ 受講者数 12名

エ 修了者名

域内	氏名	勤務先
県北 (2)	青木 秀正	国見町立県北中学校
	千葉 和則	伊達市立掛田小学校
県中(1)	岡部 史則	古殿町立古殿中学校
県南 (2)	鈴木 英雄	白河市立みさか小学校
	中畑 哲	塙町教育委員会
会津 (3)	石原信太郎	会津若松市立第二中学校
	佐藤 亮	会津若松市立小金井小学校
	土屋 浩行	猪苗代町立長瀬小学校
相双 (2)	安倍 聖	檜葉町立檜葉中学校
	佐藤 大志	広野町立広野小学校
いわき(1)	菊池 明彦	いわき市立泉北小学校
県立(1)	今井 康貴	県立勿来高等学校

(2) 国立教育政策研究所主催講習

ア 社会教育主事講習

(ア) 会場 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

(イ) 期日

a A講習 平成28年7月20日(水)～8月25日(木)

b B講習 平成29年1月18日(水)～2月23日(木)

(ウ) 受講者数

a A講習 0名

b B講習 3名

(エ) 修了者名

域内	氏名	勤務先
B講習 (3)	葛岡 丈治	国立磐梯青少年交流の家
	鈴木 悠愛	福島県会津自然の家
	吉田 浩子	福島県いわき海浜自然の家

イ 専門講座等

講座名	期間	受講者数
社会教育主事専門講座	12月13日(火) ～16日(金)	0

10 出版資料

資料名	部門	規格	頁数	広報手段
社会教育 No.337	社会教育	A4	12	ホームページ掲載

第3節 地域コミュニティの再生

1 放課後子ども教室推進事業

(1) 目的

すべての児童を対象とし、地域の方々の参画を得て、様々な体験活動や交流活動を行う「放課後子ども教室」を設置し、放課後等の子どもたちの安全で健やかな居場所をつくる。

(2) 県事業

○ 放課後子ども教室の実施

県立特別支援学校(3教室)

- ・ 福島県立聾学校福島分校
- ・ 福島県立聾学校平分校
- ・ 福島県立平養護学校

(3) 市町村事業

ア 運営委員会の実施

イ 子ども教室の実施

37市町村 114教室実施

2 学校支援地域本部事業

(1) 目的

地域人材や団体などの参画を得て、学校と地域が連携し、地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進する。

(2) 市町村委託

20の市町村(福島市、桑折町、国見町、大玉村、本宮市、鏡石町、天栄村、石川町、玉川村、田村市、三春町、西郷村、会津若松市、北塩原村、西会津町、相馬市、双葉町、大熊村、富岡町、檜葉町)に44の学校支援地域本部が設置され実施した。

(3) 市町村補助

2町(柳津町、三島町)に2の学校支援地域本部が設置され実施した。

3 学校・家庭・地域連携サポート事業

(1) 目的

未来を担う子どもたちを健やかに育むために、学校、家庭、地域住民等がそれぞれの役割と自覚し、地域全体で教育活動を支援する体制づくりを目指す。特に、震災後の子どもたちを取り巻く環境の変化に対応した要望に応えることのできる支援を行うことにより、教育環境の復興を加速させる。

(2) 県事業

ア 放課後子ども教室地区別研修会 6箇所

県北地区

第1回

期 日：平成28年8月3日（水）
会 場：国見町観月台文化センター
参加者数：59名
内 容：実践参観・講演

第2回

期 日：平成28年10月13日（木）
会 場：本宮市立本宮まゆみ小学校
参加者数：70名
内 容：講話・実践参観

県中地区

期 日：平成28年10月3日（月）
会 場：須賀川市東公民館
参加者数：101名
内 容：講演・実践発表・情報交換・実践参観

県南地区

期 日：平成28年8月29日（月）
会 場：白河市 新白信ビル
参加者数：63名
内 容：実践発表・ワークショップ・グループ協議

会津地区

期 日：平成28年7月28日（木）
会 場：道の駅あいづ湯川・会津坂下
参加者数：43名
内 容：実践発表・ワークショップ・グループ協議

南会津地区

期 日：平成28年8月26日（金）
会 場：下郷町ふれあいセンター
参加者数：40名
内 容：講演・実技講習

相双地区

第1回

期 日：平成28年10月3日（月）
会 場：相馬市民会館
参加者数：44名
内 容：講話・実践発表・グループ協議

第2回

期 日：平成28年10月4日（火）
会 場：三春町三春交流館
参加者数：13名
内 容：講話・実技講習・グループ協議

イ 学校支援実践研修会（本庁）

- (ア) 期日 平成28年6月7日（火）
(イ) 場所 郡山市公会堂
(ウ) 内容
○講演

「学校と地域の新たな試み」

特定非営利活動法人まちと学校のみらい
代表理事 竹原 和泉

○事例発表Ⅰ

「放課後子ども教室げんき山の紹介」
南会津町放課後子ども教室げんき山
コーディネーター 中山 美華 様

○事例発表Ⅱ

「玉川村学校支援地域本部の事例」
玉川村学校支援地域本部
コーディネーター 我妻 亜希子 様

○グループ協議

「効果的な教育プログラムの実践に向けて」
～子どもたちを元気にする取組を目指して～

(エ) 参加者 120名

ウ 学校支援実践研修会各地区研修会（事務所）

県北地区

(ア) 期 日 平成28年10月17日（月）
(イ) 場 所 半田醸芳小学校
(ウ) 参加者 25名

県中地区

(ア) 期 日 平成28年11月16日（水）
(イ) 場 所 滝根小学校
(ウ) 参加者 27名

県南地区

(ア) 期 日 平成28年11月15日（火）
(イ) 場 所 中島村輝ら里
(ウ) 参加者 26名

会津地区

(ア) 期 日 平成28年10月14日（金）
(イ) 場 所 喜多方プラザ
(ウ) 参加者 43名

南会津地区

(ア) 期 日 平成28年11月 8日（火）
(イ) 場 所 下郷ふれあいセンター
(ウ) 参加者 44名

相双地区

(ア) 期 日 平成28年11月 9日（水）
(イ) 場 所 三春町交流館
(ウ) 参加者 13名

4 東日本大震災福島県復興ライブラリー整備事業

(1) 目的

災害記録の保存と県民への情報提供のため、関連資料の収集を行う。資料は館内での提供と貸出に加え、出張展示にも活用する。また、避難自治体の教育委員会と連携し学校等への移動図書館（あづま号）の巡回を実施し、資料の貸出による支援を行う。

(2) 内容

- ア 震災及び原発事故関連資料収集
資料収集件数 10,646件
- イ 避難自治体支援
移動図書館(あづま号)による資料貸出
稼働18回 貸出2,664冊
(開催場所 飯館村、楡葉町他 計23ヶ所)

第4節 家庭教育

1 地域でつながる家庭教育応援事業

(1) 目的

本県の家庭教育推進上の大きな課題である「親の学び」を支援するために、PTAと連携し、家庭教育について親自身が学ぶ機会が充実するよう支援する。また、各地域で主体的に家庭教育の支援が行えるよう学習プログラムを作成するとともに、家庭教育支援者をリードする人材を育成する。さらに、企業と連携し地域の家庭教育を推進する。

(2) 家庭教育応援プロジェクト

- ア 福島県地域家庭教育推進協議会
 - 第1回 平成28年5月24日(火)
杉妻会館
 - 第2回 平成29年2月23日(木)
杉妻会館
- イ 地域家庭教育推進各地区ブロック会議
各教育事務所域内(7箇所)
各地区2回実施(6月~1月)
- ウ 家庭教育応援企業推進活動
連携企業数
 - 県北地区 52社(88社)
 - 県中地区 107社(175社)
 - 県南地区 9社(17社)
 - 会津地区 35社(65社)
 - 南会津地区 22社(51社)
 - 相双地区 0社(2社)
 - いわき地区 2社(20社)計 227社(418社)※()累計
- エ 親子の学び応援講座
県北地区
 - 大玉村立大玉中学校 340名
期日 平成28年7月16日(土)
講演
「映像メディアが子どもの発達に及ぼす影響」
講師:国立病院機構仙台医療センター
田澤 優作 氏
 - 川俣町PTA連絡協議会 70名
期日 平成28年8月1日(月)
講演
「インターネットを安心・安全に活用するために」

- 講師:株式会社 情報文化総合研究所
佐藤 佳弘 氏
- 伊達市立伊達中学校 510名
期日 平成28年11月12日(土)
講演「情報モラルを学ぼう」
講師:福島県教育センター情報教育チーム
主任実習講師 目黒 朋子 氏
- 福島市立鎌田小学校 260名
期日 平成28年11月26日(土)
講演「情報モラルを学ぼう」
講師:福島県教育センター情報教育チーム
主任実習講師 目黒 朋子 氏

県中地区

- 天栄村立牧本小学校 160名
期日 平成28年7月1日(金)
実技研修
「子どもたちを健康に導く運動プログラム
"BALLGAME"体験」
講師:東 秀樹 氏・安藤 太郎 氏
- 浅川町立浅川幼稚園 109名
期日 平成28年7月13日(水)
実技研修
「子どもたちを健康に導く運動プログラム
"BALLGAME"体験」
講師:東 秀樹 氏・安藤 太郎 氏
- 田村市立西向小学校 167名
期日 平成28年9月28日(水)
実技研修
「子どもたちを健康に導く運動プログラム
"BALLGAME"体験」
講師:東 秀樹 氏・安藤 太郎 氏

県南地区

- 近津小学校PTA 300名
期日 平成28年9月23日(金)
講演「親子で遊ぼう心のケア教室」
講師:NPO法人明日飛子ども自立の里
理事長 清水 国明 氏
- 泉崎第一小学校父母と教師の会 201名
期日 平成28年10月8日(土)
講演「思春期の子どもとの関わり方」
講師:親業訓練インストラクター
大屋 弘子 氏
- 中島村立中島中学校PTA 95名
期日 平成28年12月10日(土)
講演「受験というストレスに勝つ方法」
講師:スクールカウンセラー
スーパーバイザー 成井 香苗 氏
- 塙町立常豊幼稚園保護者会 11名
期日 平成29年1月20日(金)
講演「子どもに愛が伝わっていますか」

講師：親業訓練インストラクター
大屋 弘子 氏
白河市立関辺幼稚園PTA 70名
期日 平成29年2月17日(金)
講演「子どもたちに魔法の杖を！」
講師：NPO法人明日飛子ども自立の里
理事長 清水 国明 氏

会津地区

認定こども園 40名
期日 平成28年10月29日(土)
講演「幼児期に与えるメディアの影響について」
講師：株式会社スキット 梅北 勝夫 氏
会津美里町立新鶴小学校 106名
期日 平成28年11月27日(日)
講演「スポーツにおける水分補給と栄養について」
講師：大塚製菓株式会社 野崎 石松 氏
会津美里町立宮川小学校父母と教師の会 139名
期日 平成28年12月15日(木)
講演「461個の弁当は、親父と息子の男の約束」
講師：ミュージシャン 渡辺 俊美 氏

南会津地区

檜枝岐村立檜枝岐中学校PTA 82名
期日 平成28年6月27日(月)
講演「メディアコントロール」
講師：会津大学短期大学部
准教授 中澤 真 氏
南会津町立伊南小学校PTA 58名
期日 平成28年7月5日(火)
講演「メディアが子どもの生活に与える影響」
講師：株式会社スキット 梅北 勝夫 氏
南会津町立檜沢中学校父母と教師の会 68名
期日 平成28年7月8日(金)
講演「メディアコントロール」
講師：秋田大学 阿部 昇 氏
南会津町立南会津中学校父母と教師の会 80名
期日 平成28年7月15日(金)
講演「親子で学ぼう！情報モラル」
講師：福島県教育センター情報教育チーム
主任実習講師 目黒 朋子 氏
南会津町立館岩小学校PTA 39名
期日 平成28年7月8日(金)
講演「食卓を囲むことの大切さ」
講師：福島学院大学短期大学部食物栄養科
准教授 鈴木 礼子 氏
南会津町立荒海中学校父母と教師の会 50名
期日 平成28年7月13日(水)
講演「インターネット・スマホ子どもにどう使わせる？」
講師：会津大学短期大学部産業情報学科
准教授 中澤 真 氏

只見町立明和小学校PTA 142名
期日 平成28年12月6日(火)
講演「家族みんなで楽しむ読書～『家読』のすすめ～」
講師：国見町立国見小学校長 阿部 雅好 氏
フリーアナウンサー 村木 彩子 氏

相双地区

川内村立川内小学校PTA 78名
期日 平成28年7月2日(土)
講演「家庭学習の習慣化」
講師：相双教育事務所
社会教育主事 稲垣 隆一 氏
南相馬市立石神第二小学校PTA 209名
期日 平成28年11月7日(月)
講演「メディアコントロール」
講師：国立病院機構仙台医療センター
田澤 雄作 氏
飯舘村立草野・飯樋・白石小学校PTA 104名
期日 平成28年12月2日(金)
講演「コミュニケーション能力や表現力の向上」
講師：松竹芸能株式会社 じなんぼ～いず 氏

いわき地区

いわき市立鹿島小学校PTA 334名
期日 平成28年11月1日(火)
講演「ケータイ・インターネットにご用心」
講師：いわきメディア指導員 染谷 昌彦 氏
いわき市立好間第一小学校PTA 191名
期日 平成28年12月9日(金)
講演「メディアコントロール」
講師：国立病院機構仙台医療センター
田澤 雄作 氏
いわき市立小名浜第一小学校PTA 298名
期日 平成29年2月9日(木)
講演「ネットいじめの現状と情報モラル教育」
講師：いわき明星大学教養学部
地域教養学科教授 中尾 剛 氏

(3) 家庭教育応援リーダー育成事業

家庭教育支援者の実践力向上と学習プログラムの開発
ア 家庭教育全県研修 106名
期日 平成28年7月2日
場所 国立磐梯青少年交流の家
内容 選択研修
「発達障がい理解と支援」
「子どもの食が将来に及ぼす影響とは」
「今時の子ども達のネット事情」
実践発表
「自分が輝くために」
演習
「家庭教育講座の企画・運営の仕方」

イ フォローアップ研修

代表 麻乃 じゅん 氏

県北地区 33名

期日 平成28年11月28日(月)

場所 福島県青少年会館

内容 講演

「小中高校生が安全安心してインターネットを利用するために、家庭ですべきこと、地域ですべきこと」

講師：株式会社情報文化総合研究所
代表取締役 佐藤 佳弘 氏

県中地区 47名

期日 平成28年10月28日(金)

場所 福島県環境創造センター

内容 講演

「ひとりの百歩より百人の一步」
「家庭教育支援者が知っておきたいコーチングの基礎」

講師：有限会社スタイルプロデュース
代表 門馬 俊光 氏

県南地区 35名

期日 平成28年12月7日(水)

場所 新白信ビル

内容 講演

「今時の子ども達のネット事情～子ども達のトラブル背景から情報モラル教育を考える～」

講師：福島県教育センター情報教育チーム
主任実習講師 目黒 朋子 氏

会津地区 28名

期日 平成28年11月30日(水)

場所 道の駅あいづ 湯川・会津坂下

内容 講演

「食育を考えよう」
事例発表
「私たちにできること～自然体験から学ぶこと～」

講師：会津大学短期大学部
准教授 鈴木 秀子 氏

南会津地区 38名

期日 平成28年12月9日(金)

場所 御蔵入交流館

内容 実践発表

「私たちにできること～自然体験から学ぶこと～」

講師：家庭教育インストラクター
会津さざなみの会会長
増子 恵二 氏

講演

「子どもの将来は”幼児期の食”で決まる」

講師：Jフードハーモニー

相双地区 30名

期日 平成29年1月30日(月)

場所 原町区福祉会館

内容 講演

「子ども達に魔法の杖を！～自信を育む家庭教育～」

講師：NPO法人明日飛子ども自立の里
理事長 清水 国明 氏

講演

「家庭・地域でみまもる特別支援教育
～『キッズサポートかのかのん』の取組から～」

講師：特定非営利活動法人きぼう
副理事長 新妻 直恵 氏

いわき地区 31名

期日 平成29年1月20日(金)

場所 いわき市生涯学習プラザ

内容 講演

「子どもの貧困を考える」

講師：いわき明細大学
教授 鎌田 真理子 氏

ウ 親育ち応援学習プログラム

作成委員会 平成29年3月8日(水)

杉妻会館「鈴蘭」

※プログラムは県内の新入学児童保護者等に配付

第5節 青少年教育

1 体験活動・ボランティア推進センター事業

(1) 目的

青少年の社会性や思いやりの心など豊かな人間性を育むため、学校内外を通じた体験活動やボランティア活動の機会の充実を図ることを目的に情報提供やコーディネート等を行う推進センターを県に設置し、市町村並びに市町村センターにおける体験活動・ボランティア活動の推進体制を支援する。

(2) 内容

ア 本部センターの設置

(7) 構成

- ・センター長(社会教育課長)
- ・副センター長(社会教育課主幹)
- ・コーディネーター(社会教育主事兼指導主事)

(4) 内容

- ・各種研修会に関する事
- ・連絡調整、情報収集、調査研究に関する事
- ・人材登録に関する事
- ・地域センターの統括、指導助言に関する事

イ 地域センターの設置

(7) 構成

- ・センター長（教育事務所総務社会教育課長）
- ・コーディネーター（社会教育主事、指導主事）

(イ) 内容

- ・公民館及び学校の訪問指導に関すること
- ・連絡調整、情報収集、調査研究に関すること
- ・人材登録に関すること
- ・市町村センターとの連携に関すること

ウ 学校における推進体制の整備

(ア) 体験活動等推進委員会の開催

(イ) 体験活動等推進委員会主任（教頭又は社会教育主事有資格者等）の配置

エ 学習支援ボランティアの登録推進

(ア) 目的

青少年の体験活動の支援にあたるボランティアの登録を促進するとともに、学校内外における青少年の体験活動を支援することにより、地域の教育力の向上に寄与する。

(イ) 対象 ボランティアを推進する県民一般

(ウ) 内容

学習支援ボランティア、読書活動ボランティア、ノートテイクボランティア、外国出身者支援ボランティア、家庭教育支援ボランティア、病院訪問学習支援ボランティアの登録や活動を支援する。

・学習支援ボランティア登録人数	4 2 7 名
・読書活動ボランティア登録人数	2 6 4 名
・ノートテイクボランティア登録人数	2 名
・外国出身者支援ボランティア登録人数	2 5 名
・家庭教育支援ボランティア登録人数	2 0 5 名
・病院訪問学習支援ボランティア登録人数	1 9 名
計	9 4 2 名

2 ふくしまを十七字で奏でよう絆ふれあい支援事業

(1) 目的

家庭や地域における人と人のかかわりの中で感じた思いや願いを十七音で表現することを通して、子どもの豊かな心を育成するとともに、人と人との絆を深め、家庭や地域の教育力の向上を目指す。

また、全国に避難している方からも作品を募集し「ふくしま」のことを考えるきっかけとする。

(2) 内容

ア 応募期間 平成28年7月1日（金）
～9月16日（金）

イ 応募総数 41,502組

ウ 最終審査会 平成28年12月7日（水）

エ 審査員 和合 亮一（県立本宮高等学校教諭）
佐々木孝司（新地町教育委員会教育長）
室井 君男（福島県公立学校退職校長会副会長）

オ 表彰式 平成29年1月6日（金）

ホテルサンルートプラザ福島

カ 入賞数 絆部門・復興部門 最優秀賞各5組

優秀賞各5組、佳作各10組

(3) 広報・普及活動

ア 募集・応募

県内各幼稚園、保育園、小・中学校、高等学校、特別支援学校、社会教育施設、教育事務所等にチラシ・応募用紙を配布した。また、社会教育課のホームページに掲載した。

イ 事後の広報

優秀作品を社会教育課のホームページに掲載したほか、ラジオ放送での紹介とYoutubeの動画配信にて紹介した。各教育事務所においては、域内の作品集を作成し、事業の普及に努めた。

第6節 成人教育

主に各関係団体の諸活動や研修会における指導助言や人的補助を行う。

第7節 子どもの読書活動推進

1 ふくしまの未来をひらく読書のカプロジェクト

(1) 福島県子どもの読書活動推進会議

【第1回】平成28年7月27日（水）

福島県庁本庁舎101会議室

【第2回】平成29年2月16日（木）

福島県自治会館1階101会議室

ア 目的

第三次「福島県子ども読書活動推進計画」に沿って、読書活動推進に向けた取組等について協議・評価を行う。

イ 子ども読書推進会議委員

氏名	職業等	区分
高野 保夫	国立大学法人福島大学名誉教授	学識経験者
田中 清美	福島県高等学校PTA連合会 会長	社会教育関係者
遠藤 俊彦	郡山市立富田小学校 長	学校図書館関係者
坂内香代子	会津若松市立会津図書館 長	公立図書館等関係者
矢吹 貴美	家庭教育インストラクター	家庭教育関係者
齋藤千江子	児童図書研究グループ「トトロ」	読書活動に係るボランティア団体関係者

(2) 読書活動支援者育成事業

- 【県北地区】 平成28年6月16日(木)
国見町観月台文化センター 受講者42名
平成28年6月23日(木)
福島市松川学習センター 受講者43名
平成28年6月30日(木)
あだたらふるさとホール 受講者31名
平成28年9月15日(木)
福島県立図書館 受講者99名
- 【県中地区】 平成28年6月17日(金)
郡山市労働福祉会館 受講者64名
平成28年9月16日(金)
郡山市労働福祉会館 受講者68名
- 【県南地区】 平成28年7月21日(木)
棚倉町立図書館 受講者69名
平成28年10月18日(火)
白河市立図書館 受講者44名
- 【会津地区】 平成28年9月8日(木)
会津大学 受講者78名
平成28年10月4日(火)
会津大学 受講者73名
- 【南会津地区】 平成28年6月15日(水)
只見町朝日振興センター 受講者43名
平成28年10月25日(火)
南会津町御蔵入交流館 受講者52名
- 【相双地区】 平成28年9月14日(水)
広野町公民館 受講者23名
平成28年10月17日(月)
南相馬市民文化会館「ゆめはっと」
受講者36名
- 【いわき地区】 平成28年10月26日(水)
いわき市生涯学習プラザ 受講者32名
平成28年11月4日(金)
いわき市文化センター 受講者23名

(3) 子どもの読書活動推進ネットワークフォーラム

期 日：平成28年9月24日(土)
場 所：ビッグパレットふくしま 142名
内 容
シンポジウム：「生涯にわたる読書習慣の形成について」
福島大学人間発達文化学類 教授 白石 昌子
国見町教育委員会教育長 岡崎 忠昭
会津若松市立会津図書館長 坂内香代子
元高等学校司書 長崎キヨ子
ビブリオバトル紹介
会津学鳳高等学校 2年 鈴木 祐亮
葵高等学校 3年 板橋 千夏
講演：「乳幼児期における読書活動の推進について」
絵本作家 山本 省三
ポスターセッション：「乳幼児期における読書活動推進
事業委託市町村による発表」

二本松市・田村市・西郷村・矢祭町・西会津町
金山町・猪苗代町

(4) 情報発信プロジェクト「ビブリオバトル福島県大会」

期 日：平成28年11月12日(土)
場 所：福島県立図書館
参加者：発表者15名 観戦者120名
優勝 福島県立安達東高等学校 菅野 望
「怪物はささやく」パトリック・ネス(あすなろ書房)
準優勝 福島県立葵高等学校 一ノ瀬彩香
「黒笑小説」東野圭吾(集英社)
第3位 福島県立福島工業高等学校 佐藤 裕太
「はしれディーゼルきかんしゃデーデ」
すとうあさえ 鈴木まもる(童心社)

(5) 子どもの本がつなぐスマイルプロジェクト

- ア 親子ふれあい読書フェスティバル「絵本はともだち」
期 日：平成28年7月3日(日)
場 所：白河市立図書館 参加者122名
内 容：講演「親子で楽しむおはなしの世界」
幼児教育専門家 藤田 浩子
- イ 親子ふれあい読書フェスティバル「本はともだち」
期 日：平成28年11月19日(土)
場 所：いわき市産業創造館 参加者35名
内 容：講演「おはなしや本の世界を楽しもう」
千葉県浦安市企画部 主査 伊藤 明美

(6) 乳幼児期における読書活動推進事業

県内7市町村に委託：二本松市
田村市
西郷村
矢祭町
西会津町
金山町
猪苗代町
「絵本はじめまして事業」「みんなの絵本事業」

第8節 ユネスコ活動

1 ユネスコ協会事務局一覧

協会名	会長名	事務局	事務局長	設立年月日
須賀川地方ユネスコ協会	岩田悦次郎	須賀川市教委文化・スポーツ課内 須賀川市牛袋町5	河村 朝子	S46.9.13
いわきユネスコ協会	松本 恒雄	いわき市教委生涯学習課内 いわき市堂根町4-8	佐久間静子	S51.10.23
郡山ユネスコ協会	過足 満雄	学校法人尚志学園高等学校内	宗像 金三	S53.1.24

		郡山市大槻町字担ノ腰2		
白河ユネスコ協会	小野 利廣	白河市教委生涯学習スポーツ課内 白河市八幡小路7-1	根本 克己	S53. 11. 19
福島ユネスコ協会	河田 亨	福島市中央学習センター内 福島市松木町1-7	阿部 隆	S55. 7. 19
会津ユネスコ協会	吉田 幸代	会津若松市教委生涯学習センター内 会津若松市栄町3-50	石田 明夫	S55. 11. 16
川俣ユネスコ協会	佐藤 好弘	川俣町教育委員会内 伊達郡川俣町字樋ノ口11	遠藤貴美子	H16. 11. 26
郡山次世代ユネスコ協会	大本 研二	学校法人こおりやま東都学園本部気付 郡山市図景2-9-3	遠藤 典雄	H28. 1. 16
福島県ユネスコ連絡協議会	河田 亨	福島市笹木野字中西表60-6 近野元洋宅	近野 元洋	S56. 12. 5

2 福島県ユネスコ活動研修会

平成28年11月18日（金）福島市松川学習センター
参加者数 46名

第9節 ふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業

1 内容

(1) 小・中学校自然体験・交流活動等支援事業

- ・対象者：県内の小・中学校、特別支援学校小学部・中学部の児童生徒及び引率者等
- ・対象期間：4月から3月末まで
- ・実施内容：小・中学校や特別支援学校小学部・中学部が、教育課程等に位置付けられている各教科、特別活動などをよりよい環境（県内外）のもとで行う宿泊を伴う体験活動に宿泊費と活動費・交通費を補助する。
- ・補助基準：①宿泊費 一人当たり1泊5千円上限 13泊まで
②活動費・交通費 活動日数に一人当たり

2千円を乗じた額を上限

(2) 幼稚園・保育所自然体験活動等支援事業

- ・対象者：県内の幼稚園・保育所・認定こども園（認可外保育施設も含む）、特別支援学校幼稚部の幼児及び引率者等
- ・対象期間：4月から3月末まで
- ・実施内容：幼稚園・保育所・認定こども園や特別支援学校幼稚部が、年間計画等に位置付けられている園行事などをよりよい環境（県内外）のもとで行う日帰り及び宿泊を伴う体験活動に宿泊費と活動費・交通費を補助する。
- ・補助基準：①宿泊費 一人当たり1泊5千円上限 13泊まで
②活動費・交通費 活動日数に一人当たり2千円を乗じた額を上限

(3) 社会教育団体自然体験活動支援事業

- ・対象者：県内の社会教育団体（子ども会、スポーツ少年団、PTA等）
- ・対象期間：7月から8月末、12月から1月末
- ・実施内容：社会教育団体（子ども会、スポーツ少年団、PTA等）が、よりよい環境（県内外）のもとで行う長期宿泊（6泊～）を伴う体験活動に宿泊費と活動費・交通費を補助する。
- ・補助基準：①宿泊費 一人当たり1泊5千円上限 13泊まで
②活動費・交通費 活動日数に一人当たり2千円を乗じた額を上限

(4) ふくしまっ子体験活動応援補助事業

- ・対象者：県内の社会教育団体等（子ども会、スポーツ少年団、PTA、公民館、ファミリーグループ等）
- ・対象期間：7月から8月末、12月から1月末
- ・実施内容：市町村や社会教育関係団体等が、よりよい環境（県内）のもとで体験活動や交流活動を実施する場合、宿泊費と交通費・体験活動費を補助する。
- ・補助基準：①宿泊費 一人当たり1泊5千円上限 5泊まで（食費を含む）
②交通費・体験活動費 一人当たり1回2千円上限

(5) ふくしまっ子自然の家体験活動応援事業

- ・対象者：県内の幼児、小・中学生とその家族（乳児含む）
- ・実施回数：夏期間各1回、冬期間各1回
- ・場所：郡山自然の家、会津自然の家、いわき海浜自然の家
- ・内容：自然体験活動の日帰り開放プラン 計6回 交通費のみ参加者負担

第10節 子どもがふみだす ふくしま 復興体験応援事業

1 内容

- ・事業1 避難者や被災者と交流して子どもたちが元気を発信する
- ・事業2 風評被害などを経験した地域との交流を行い、地域の復興を考え他県等へ復興をアピールする
- ・事業3 自分たちの専門性を生かして何ができるかを考え、実践することでふくしまを発信する

2 採択状況

- ・応募団体 42団体
- ・採択団体 38団体
- ・補助金額 57,351千円

第11節 公民館等社会教育施設

1 公民館を除く主な社会教育施設

※震災により休館中の施設を含む

(1) 図書館の設置状況

	名 称	所在地・電話番号	設置者
県立	福島県立図書館	福島市森合字西養山1 024-535-3220	福島県
市町	福島市立図書館	福島市松木町1-1 024-531-6551	福島市

	名 称	所在地・電話番号	設置者
市町	福島市西ロライブラリー	福島市三河南町1-20 024-525-4023	福島市
村立	福島市子どもライブラリー	福島市早稲町1-1 (こむこむ内) 024-526-4200	福島市
	伊達市 教育部市立図書館	伊達市箱崎字川端7 024-551-2132	伊達市
	二本松市立二本松図書館	二本松市本町1丁目102番地 0243-23-5082	二本松市
	二本松市立岩代図書館	二本松市小浜字藤町242番地 0243-55-3255	二本松市
	しらさわ夢図書館	本宮市白岩字堤崎500 0243-44-2112	本宮市
	郡山市中央図書館	郡山市麓山一丁目5-25 024-923-6601	郡山市
	郡山市中央図書館 田村分館	郡山市田村町岩作字穂多礼40-3 024-955-3842	郡山市
	郡山市中央図書館 喜久田分館	郡山市喜久田堀之内字下河原1	郡山市

	024-959-2205	
郡山市中央図書館 緑ヶ丘分館	郡山市緑ヶ丘東三丁目1-21 024-944-0001	郡山市
郡山市中央図書館 日和田分館	郡山市日和田町字小堰23-4 024-958-2352	郡山市
郡山市中央図書館 三穂田分館	郡山市三穂田町字東屋敷6 024-953-2820	郡山市
郡山市中央図書館 中田分館	郡山市中田町下枝字大平385 024-973-2951	郡山市
郡山市中央図書館 西田分館	郡山市西田町三丁目桜内259 024-972-2807	郡山市
郡山市中央図書館 大槻分館	郡山市大槻町字中前田56 024-951-1512	郡山市
郡山市希望ヶ丘図書館	郡山市希望ヶ丘1-5 024-961-1600	郡山市
郡山市安積図書館	郡山市安積一丁目38 024-946-8850	郡山市
郡山市富久山図書館	郡山市富久山町福原字泉崎181-1 024-921-0030	郡山市
須賀川市図書館	須賀川市八幡町134 0248-75-3309	須賀川市

	名 称	所在地・電話番号	設置者
市町	須賀川市長沼図書館	須賀川市長沼字金町85 0248-67-2138	須賀川市
村立	須賀川市岩瀬図書館	須賀川市柱田字中地前22番地 0248-65-3549	須賀川市
	鏡石町図書館	鏡石町旭町440-6 0248-62-1288	鏡石町
	古殿町図書館	古殿町松川字横川235 0247-53-2305	古殿町
	三春町町民図書館	三春町字大町12-1 0247-62-3375	三春町
	小野町ふるさと文化の館・図書館	小野町大字小野新町字中通2 0247-72-2120	小野町
	田村市図書館	田村市船引町船引字扇田19 0247-82-1001	田村市
	田村市図書館滝根分館	田村市滝根町神俣字町48-1 0247-78-2001	田村市
	田村市図書館大越分館	田村市大越町上大越字元池87-5 0247-79-2161	田村市
	田村市図書館常	田村市常葉町常葉字町裏1	田村市

葉分館	0247-77-2013	
田村市図書館都路分館	田村市都路町古道字本町3 3-4 0247-75-2063	田村市
白河市立図書館	白河市道場小路96-5 0248-23-3250	白河市
白河市立図書館表郷分館	白河市表郷金山字長者久保2 0248-32-4784	白河市
白河市東図書館	白河市東釜子字狐内47 0248-34-1130	白河市
白河市大信図書館	白河市大信町屋字沢田25 0248-46-3614	白河市
矢吹町図書館	矢吹町小松481 0248-44-3595	矢吹町
泉崎図書館	泉崎村大字泉崎字館24-9 0248-53-4779	泉崎村
棚倉町立図書館	棚倉町大字棚倉字棚倉字森 町21-1 0247-33-4342	棚倉町
塙町立図書館	塙町大字塙字栄町68-6 0247-43-0808	塙町
矢祭もったいな い図書館	矢祭町大字東館字石田25 0247-46-4646	矢祭町
鮫川村図書館	鮫川村大字赤坂中野字巡ヶ 作128 0247-49-3151	鮫川村

(休館中)	0244-44-3049	
浪江町図書館 (休館中)	浪江町権現堂字矢沢町6-1 0240-34-5024	浪江町
双葉町図書館 (休館中)	双葉町大字長塚字鬼木1 0240-33-4214	双葉町
大熊町図書館 (休館中)	大熊町大字下野上字大野 669-3 0240-32-3011	大熊町
富岡町図書館 (休館中)	富岡町大字本岡字王塚 622-1 0240-21-3665	富岡町
いわき市立総合 図書館	いわき市平字田町120 0246-22-5552	いわき市
いわき市立内郷 図書館	いわき市内郷綴町榎下40-1 0246-45-1030	いわき市
いわき市立小名 浜図書館	いわき市小名浜字愛宕上7-2 0246-54-9257	いわき市
いわき市立常磐 図書館	いわき市常磐関船町作田1 0246-44-6218	いわき市
いわき市立勿来 図書館	いわき市植田町南町1丁目 2-2 0246-62-7431	いわき市
いわき市立四倉 図書館	いわき市四倉町字東一丁目 50 0246-32-5980	いわき市

名 称	所在地・電話番号	設置者
市町 村立	会津若松市立会津図書館 0242-22-4711	会津若松市
	猪苗代町図書館歴史情報館 猪苗代町字古城町132-7	猪苗代町
	喜多方市立図書館 喜多方市字柳原7503-1 0241-22-1855	喜多方市
	南会津町図書館 南会津町田島字宮本東22 0241-62-5522	南会津町
	相馬市図書館 相馬市中村字塚ノ町65-16 0244-37-2630	相馬市
	新地町図書館 新地町谷地小屋字樋掛田 40-1 0244-62-5031	新地町
	南相馬市立中央図書館 南相馬市原町区朝日町二丁目7-1 0244-23-7789	南相馬市
	南相馬市立鹿島図書館 南相馬市鹿島区寺内字迎田 22-1 0244-46-5116	南相馬市
	南相馬市立小高図書館 南相馬市小高区本町二丁目 89-1	南相馬市

名 称	所在地・電話番号	設置者
法人	クローバー子供図書館 郡山市開成6丁目346-1 024-932-2118	(財)金森和心会

(2) 博物館の設置状況

ア 登録博物館及び相当施設

名 称	所在地・電話番号	設置者 種別 登録・指定年月日
登録博物館	福島県立美術館 福島市森合字西養山1 024-531-5511	福島県 美術博物館 59.7.16
	福島県立博物館 会津若松市城東町 1-25号 0242-28-6000	福島県 総合博物館 61.11.28
	須賀川市立博物館 須賀川市池上町6 0248-75-3239	須賀川市 歴史博物館 46.7.10
	いわき市立美術館 いわき市平字堂根町4-4 0246-25-1111	いわき市 美術博物館 59.9.3
	郡山市立美術館 郡山市安原町字大谷地 130-2 024-956-2200	郡山市 美術博物館 平5.1.20
	南相馬市博物館 南相馬市原町区牛来字出 口194	南相馬市 総合博物館

	0244-23-6421	平8. 5. 9
野口英世記念館	猪苗代町大字三ツ和字前田81 0242-85-7867	(公)野口英世記念会 歴史博物館 29. 10. 21
会津民俗館	猪苗代町大字三ツ和字前田33-1 0242-65-2600	会津民俗館 歴史博物館 55. 10. 3
白虎隊記念館	会津若松市一箕町大字八幡字弁天下33 0242-24-9170	(一)白虎隊記念館 歴史博物館 63. 6. 30
奥会津博物館	南会津町糸沢字西沢山3692-20 0241-66-3077	南会津町 歴史博物館 平21. 6. 16
諸橋近代美術館	北塩原村大字桧原字剣ヶ峰1093-23 0241-37-1088	(公)諸橋近代美術館 美術博物館 平11. 8. 17
藤田記念博物館(休館中)	白河市五郎窪37-1 0248-24-1780	(公)藤田教育振興会 美術博物館 54. 9. 1
CCGA 現代グラフィックアートセンター	須賀川市塩田宮田1 0248-79-4811	(公)DNP 文化振興財団 平25. 12. 25
博物館 やないづ町立齋藤清美術館 龍が城美術館(休館中)	柳津町柳津字下平乙187 0241-42-3630 いわき市平字旧城跡27-1 0246-22-1601	柳津町 美術博物館 平11. 9. 28 (一財)白龍会 美術博物館 30. 2. 10
相当施設 会津武家屋敷会津歴史資料館	会津若松市東山町大字石山字院内1 0242-28-2525	(株)会津武家屋敷歴史博物館 56. 11. 25

名称	所在地・電話番号	設置者 種別 登録・指定年月日
博物館 安積歴史博物館 磐梯山噴火記念館	郡山市開成5-25-63 024-938-0778 北塩原村桧原字剣ヶ峰1093-36 0241-32-2888	(公)安積歴史博物館 歴史博物館 59. 9. 8 (株)ゴールドハウス目黒 科学博物館 平5. 7. 1
相当施設 會津藩校日新館	会津若松市河東町南高野字高塚山10番地 0242-75-2525	(株)会津武家屋敷 歴史博物館 平12. 11. 28
はじまりの美術館	猪苗代町新町4873 0242-62-3454	(社)安積愛育園 歴史博物館 平28. 12. 6

イ 類似施設

名称	所在地・電話番号	設置者
ふくしま海洋科学館	いわき市小名浜字辰巳町50 0246-73-2525	福島県
福島県文化財センター白河館	白河市白坂一里段86 0248-21-0700	福島県
福島県歴史資料館	福島市春日町5-54 024-534-9195	福島県
ふれあい歴史館(福島市資料展示室)	福島市上町39-1 024-563-7855	福島市

福島市民家園	福島市上名倉字大石前地内 024-593-5249	福島市
福島市古関裕而記念館	福島市入江町1-1 024-531-3012	福島市
福島市写真美術館	福島市森合町11-36 024-523-1202	福島市
UFOふれあい館	福島市飯野町大字青木字小手神森1-299 024-562-2002	福島市
民俗資料展示室	福島市飯野町大字明治字北小戸明利60 024-525-3785	福島市
羽山の森美術館	伊達郡川俣町大字西福沢字山橋内20 024-566-3367	川俣町
伊達市梁川美術館	伊達市梁川町字中町10 024-527-2656	伊達市
伊達市保原歴史文化資料館	伊達市保原町大泉字宮脇265 024-575-1615	伊達市
霊山子どもの村遊びと学びのミュージアム	伊達市霊山町石田字宝司沢9-1 024-589-2211	伊達市
二本松市歴史資料館	二本松市本町1-102 0243-23-3910	二本松市
二本松市智恵子記念館	二本松市油井字漆原町36 0243-22-6151	二本松市
二本松市大山忠作美術館	二本松市本町2-3-1 0243-24-1217	二本松市
あだたらふるさとホール	大玉村玉井字西庵183 0243-48-2569	大玉村
本宮市歴史民俗資料館	本宮市字南町裡130 0243-33-2546	本宮市
本宮市白沢ふれあい文化ホール	本宮市白岩字堤崎494-44 0243-44-3185	本宮市
郡山市開成館	郡山市開成3-3-7 024-923-2157	郡山市
郡山市歴史資料館	郡山市麓山1-8-3 024-932-5306	郡山市
郡山市こおりやま文学の森資料館	郡山市豊田町3-5 024-991-7610	郡山市
郡山市ふれあい科学館	郡山市駅前2-11-1ビッグアイ20F~24F 024-936-0201	郡山市
須賀川市歴史民俗資料館	須賀川市長沼字門口186 0248-67-2030	須賀川市
古殿町郷土文化保存伝習施設	古殿町大字松川字横川235 0247-53-2305	古殿町
天栄村ふるさと文化伝承館	天栄村大字大里字八石1-2 0248-81-1030	天栄村
石川町歴史民俗資料館	石川町字高田200-2 0247-26-3768	石川町
浅川町歴史民俗資料館	浅川町大字浅川字背戸谷地144-6 0247-36-2134	浅川町
吉田富三記念館	浅川町大字袖山字森下287 0247-36-4129	財団法人
三春町歴史民俗資料館	三春町字桜谷5 0247-62-5263	三春町

三春郷土人形館	三春町字大町30 0247-62-7053	三春町	南郷館	0241-73-2829	
小野町ふるさと文化の館・郷土資料館	小野町大字小野新町字中通2 0247-72-2120	小野町	奥会津民族館	南会津町松戸原55	南会津町
田村市歴史民俗資料館	田村市船引町船引字四城内前196番地	田村市	館岩館	0241-78-2110	
白河市歴史民俗資料館	白河市中田7-1 0248-27-2310	白河市	奥会津民族館伊南館	南会津町青柳字久川24	南会津町
白河集古苑	白河市郭内1-73 0248-24-5050	白河市	檜枝岐村歴史民俗資料館	檜枝岐村字下ノ原887-2 0241-75-2342	檜枝岐村
中山義秀記念文学館	白河市大信町屋字沢田25 0248-46-3614	白河市	会津只見考古館	只見町大字大倉字窪田33 0241-86-2175	只見町
白河市大信ふるさと文化伝承館	白河市大信町屋字沢田25 0248-46-3614	白河市	只見町ブナセンター	只見町字町下2590 0241-72-8355	只見町
泉崎資料館	泉崎村大字泉崎字館24-9 0248-54-1533	泉崎村	河井継之助記念館	只見町大字塩沢字上ノ台850-5 0241-82-2870	只見町
あぶくま高原美術館	塙町大字那倉字吉元86-1 0247-42-2510	塙町	相馬市歴史民俗資料館	相馬市中村字大手先13 0244-37-2191	相馬市
矢祭町歴史民俗資料館	矢祭町大字東館字石田25	矢祭町	鹿島歴史民俗資料館(廃止)	南相馬市鹿島区西町3-1 0244-46-4281	南相馬市
国指定名勝会津松平氏庭園	会津若松市花春町8-1 0242-27-2472	会津若松市	埴谷島尾記念文学資料館(休館中)	南相馬市小高区本町2-89-1 0244-44-3049	南相馬市
若松城天守閣	会津若松市追手町1-1 0242-27-4005	会津若松市	葛尾村郷土文化保存伝習館	葛尾村落合字落合11 0240-29-2008	葛尾村
茶室麟閣	会津若松市追手町1-1 0242-27-4005	会津若松市	双葉町歴史民俗資料館(休館中)	双葉町大字新山字本町27-1 0240-33-4763	双葉町
会津町方伝承館	会津若松市大町2-8-8 0242-22-8686	会津若松市	大熊町民俗伝承館(休館中)	大熊町大字下野上字大野669-3 0240-32-3011	大熊町
アクアマリンいなわしろカワセミ水族館	猪苗代町大字長田字東中丸344-4 0242-65-2481	猪苗代町	富岡町歴史民俗資料館(休館中)	富岡町大字本岡字王塚622-1 0240-22-2626	富岡町
喜多方市郷土民俗館	喜多方市柳原7503-1 0241-24-3821	喜多方市	檜葉町歴史資料館(休館中)	檜葉町大字北田字鐘突堂5-4 0240-25-2492	檜葉町
喜多方蔵の里	喜多方市市押切2丁目109 0241-22-6592	喜多方市	いわき市石炭・化石館	いわき市常磐湯本町向田3-1 0246-42-3155	いわき市
喜多方市美術館	喜多方市押切2丁目2 0241-23-0404	喜多方市	いわき市勿来関文学歴史館	いわき市勿来町関田長沢6-1 0246-65-6166	財団法人
喜多方市カイギュランドたかさ	喜多方市高郷町西羽賀字和尚堂3163 0241-44-2924	喜多方市	いわき市アンモナイトセンター	いわき市大久町大久字鶴房147-2 0246-82-4561	いわき市
喜多方市高郷郷土資料館	喜多方市高郷町上郷字天神後戊417 0241-44-2765	喜多方市	いわき市考古資料館	いわき市常磐湯本町手這50-1 0246-43-0391	いわき市
会津坂下町五浪美術記念館	会津坂下町字台ノ下842 0242-84-1233	会津坂下町	いわき市立草野心平記念文学館	いわき市小川町高萩字下夕道1-39 0246-83-0005	いわき市
ほっとinやないづ縄文館	柳津町大字柳津字下平乙151-1 0241-41-1077	柳津町	いわき市草野心平生家	いわき市小川町上小川字植ノ内6-1 0246-83-0005	いわき市
会津美里町民俗資料館	会津美里町米田字堂ノ後甲149 0242-54-2368	会津美里町	いわき市暮らしの伝承郷	いわき市鹿島町下矢田字散野14-16 0246-29-2230	いわき市
三島町交流センター山びこ	三島町名入字諏訪ノ上418 0241-52-2165	三島町	原郷のこけし群西田記念館	福島市荒井字横塚3-183 024-593-0639	財団法人
からむし工芸博物館	昭和村大字佐倉字上ノ原1 0241-58-1677	昭和村	種徳美術館	桑折町字陣屋12 024-582-5507	桑折町
旧南会津郡役所	南会津町田島字丸山甲4681 0241-62-3848	南会津町	東北サファリパーク	二本松市沢松倉1 0243-24-2336	株式会社
久川城資料館	南会津町青柳字久川23 0241-76-2191	南会津町	デコ屋敷資料館	郡山市西田町高柴字福内41 024-971-3900	私人
奥会津民俗館	南会津町界字川久保552	南会津町	ふくしまの森科学体験センター	須賀川市虹の台100 0248-89-1120	財団法人

(有)大桑原つつじ園	須賀川市大桑原字竹ノ花13 0248-76-5857	有限会社
(株)エイトファーム三春ハーブガーデン	三春町大字齊藤字仁井道126 024-942-1138	株式会社
リカちゃんキヤッスル	小野町小野新町中通51-3 0247-72-6364	株式会社
白河フラワーワールド	白河市南湖59 0248-23-2100	私人
南湖神社宝物館	白河市字菅生館2 0248-23-3015	私人
木の博物館	塙町大字伊香字松原160-13 0247-43-1480	有限会社
會津宮泉酒造(旧會津酒造歴史館)	會津若松市東栄町8-7 0242-26-0031	株式会社
會津葵シルクロード文明館	會津若松市追手町4-6 0242-27-1001	株式会社
(社)福島県伝統産業会館	會津若松市大町1-7-3 0242-24-5757	社団法人
大和川酒造北方風土館	喜多方市寺町4761 0241-22-2233	私人
喜多方蔵品美術館	喜多方市梅竹7294-4 0241-24-3576	私人
うるし美術博物館	喜多方市字東町4095 0241-24-4151	株式会社
御蔵入細井家資料館	南會津町静川字風下甲175 0241-62-0906	私人
福島さくら遊学舎	三春町大字鷹巣字瀬山213 0247-61-6345	株式会社

館	024-546-8311	法人
福島市社会教育会館「こぼし荘」	福島市庭坂字砥石山40-13 024-591-3366	福島市
福島市社会教育会館「立子山自然の家」	福島市立子山字金井作1 024-597-2951	福島市
福島市子どもの夢を育む施設	福島市早稲町1-1 024-524-3131	福島市
霊山子どもの村キャンプ場	伊達市霊山町石田字宝司沢9-1 024-589-2211	伊達市
二本松市青年の家	二本松市榎戸1-92 0243-23-5121	二本松市
二本松市二本松勤労青少年ホーム	二本松市榎戸1-92 0243-23-5121	二本松市
二本松市安達勤労青少年ホーム	二本松市油井字濡石3-1 0243-23-3721	二本松市
本宮市勤労青少年ホーム	本宮市字矢来39-1 0243-33-2611	本宮市
郡山市青少年会館	郡山市大槻町字漆棒82 024-961-8282	郡山市
郡山市少年湖畔の村	郡山市湖南町横沢字村西112 024-982-2115	郡山市
郡山勤労青少年ホーム	郡山市麓山1丁目8-4 024-932-3027	郡山市
須賀川市市民の森	須賀川市塩田音森20	須賀川市
須賀川市勤労青少年ホーム	須賀川市和田字柏崎44 0248-63-2154	須賀川市
小野町勤労青少年ホーム	小野町大字小野新町中道2 0247-72-2125	小野町
石川町勤労青少年ホーム	石川郡石川町字当町418番地の1	石川町
矢祭山友情の森	矢祭町山下字下河原1-1 0247-46-2162	矢祭町
會津若松市勤労青少年ホーム	會津若松市城東町14-52 0242-26-6662	會津若松市
會津若松市少年の家	會津若松市城東町15-62	會津若松市
喜多方市勤労青少年ホーム	喜多方市舞台田3119-1 0241-22-1403	喜多方市
喜多方市勤労青少年体育センター	喜多方市舞台田3119-1 0241-22-1403	喜多方市
びわ沢原森林公園	猪苗代町字琵琶沢原7095 0242-62-3291	猪苗代町
LVMH子どもアート・メゾン	相馬市中村2丁目2-15 0244-26-7415	相馬市
新地町勤労青少年ホーム	新地町大字福田字中里15-1 0244-62-3106	新地町
富岡町合宿センター(休館中)	富岡町小浜343 0240-22-7000	富岡町

(3) 青少年教育関係施設の設置状況

種別	施設名	所在地・電話番号	設置者
県設置	福島県郡山自然の家	郡山市逢瀬町多田野字中丸山46 024-957-2111	福島県
	福島県會津自然の家	會津坂下町大字八日沢字西東山 4495-1 0242-83-2480	福島県
	福島県いわき海浜自然の家	いわき市久之浜町田之網字向山53 0246-32-7700	福島県

名称	所在地・電話番号	設置者	
教育施設	国立那須甲子青少年自然の家	西郷村大字真船字村火6-1 0248-36-2331	文部科学省
教育施設	国立磐梯青少年交流の家	猪苗代町字五輪原7136-1 0242-62-2530	文部科学省
教育施設	市町村(条例)設置	25施設(別掲)	
教育施設	他県設置等	8施設(別掲)	

《市町村(条例)設置25施設》

名称	所在地・電話番号	設置者
福島県青少年会	福島市黒岩字田部屋53-5	公益財団

参考 ※ いわき市生涯学習プラザ
いわき市平字一丁目1番地ティワンビル
4・5階
※ 財団法人福島県産業振興センター産業交流館
(ビッグパレットふくしま)
郡山市安積町日出山字北千保19-8

《他県設置等8施設》

名称	所在地・電話番号	設置者
小野田自然塾	塙町大字片貝字長久木363 0247-42-2311	財団法人

越谷市立あだたら高原少年自然の家	二本松市永田字長坂国有林14林班 0243-24-2561	越谷市
羽生市立あだたら高原少年自然の家	二本松市永田字長坂国有林14林班 0243-24-2859	羽生市
葛飾区立あだたら高原少年自然の家	二本松市永田字長坂国有林14林班 0243-24-2206	葛飾区
中野区常葉少年自然の家	田村市常葉町山根字鰯5-29 0247-77-2098	中野区
朝霞私立猪苗代湖自然の家	会津若松市湊町赤井戸の口53 0242-94-2434	朝霞市
さいたま市立館岩少年自然の家	南会津町宮里字向山2847-1 0241-78-2311	さいたま市
S Y Dばんだいふれあいぴあ	北塩原村桧原字南黄連沢山 1157-192 0241-33-2335	財団法人

2 文化施設の整備充実

(1) 県立美術館の整備充実

移動展等を開催するとともに、美術作品の収集と作品・作家等に関する調査研究を計画的に推進したほか、教育普及活動に努め、本県美術振興の中心的施設として機能の充実に努めた。

(2) 県立博物館の整備充実

展示資料の収集・整備に努め、調査研究を計画的に推進し、常設展・企画展等の充実を図るとともに教育普及のための各種事業を行い、県内博物館の中心的施設として機能の充実に努めた。

(3) 県文化財センター白河館（まほろん）

文化財の収蔵と被災した地域の文化財等の公開・活用及び埋蔵文化財担当職員等の研修を図り、文化財に親しみ、文化財への理解を深める施設として機能の充実に努めた。

第12節 福島県立図書館

1 概要

福島県立図書館は、平成17年10月に策定した『福島県立図書館「学びの環境づくり」』に基づき、県民の生涯にわたる多様な学習活動に応えるため、資料及び情報の計画的な収集を図るとともに市町村立図書館等との連携のもとに効果的な図書館活動の展開に努め、県民文化の向上に寄与することを目的とした事業を行っている。

さらに、平成25年度に策定した『福島県立図書館アクションプラン（第2次）』（平成25年度～29年度）の4つの方針・9つの行動に基づき読書環境、学習環境の整備やサービスの充実に努めた。

また、平成27年2月に策定された「第三次福島県子ども読書活動推進計画」（平成27年度～31年度）に基づき、計画実現のための事業推進にも取り組んでいる。

平成27年度から整備を進めてきた、福島市出身の詩人、故長田弘氏蔵書の寄贈資料について、平成28年度に「長田弘文庫」として開設をした。また、新たに立ち上げた寄贈制度により「県民のくらし応援文庫」を開設し、3企業（団体）から582冊（140万円相当）の寄贈を受けた。

『福島県立図書館アクションプラン（第2次）』

4つの方針・9つの行動

I 東日本大震災等により失われた読書環境、学習環境を取り戻します。

- 1 東日本大震災等の記録をのこします。
- 2 支援体制の基盤を整備します。
- 3 読書環境、学習環境の整備を通じて「ふるさと再生」を支援します。

II 県民一人ひとりのお役に立てるよう図書館環境を整えます。

- 1 県民が必要とする情報を提供します。
- 2 県民が利用しやすい環境を整備します。
- 3 県民と共に歩む図書館を目指します。

III 福島県の子どもの読書活動を推進します。

- 1 「第二次福島県子ども読書活動推進計画」に基づき、県立図書館の役割を果たします。※現「第三次」

IV 「図書館の図書館」として、図書館の振興を図ります。

- 1 図書館・公民館の活動を支援します。
- 2 高等教育機関、文化施設等関係機関との連携を図ります。

(1) 図書館協議会

ア 図書館協議会委員名

区分	氏名	所属団体等（主な役職名等）
学識経験者	千葉 養伍	福島大学人間発達文化学類（教授）
	土田 節子	いわき明星大学教養学部地域教養学科（非常勤講師）
	鎌田 喜之	株式会社福島民報社（編集局次長・地域交流室次長・販売局次長）
	加藤 卓哉	福島民友新聞社株式会社（取締役 論説委員長）
	山崎 由美	公募
	横山 秀人	公募
家庭教育	矢吹 貴美	福島県家庭教育インストラクター連絡協議会
社会教育	渡辺 峯子	福島県公共図書館協会（元 須賀川市岩瀬図書館長）
学校教育関係	杉内 聡恵	福島県高等学校長協会（福島県立本宮高等学校長）
	田代 新一	福島県中学校長会（喜多方市立喜多方第二中学校長）

〔任期：平成27年10月21日～平成29年10月20日〕

※所属団体等はH29.4.1現在

（会長）千葉 養伍 （副会長）土田 節子

イ 会議

開催日 8月26日 於：県立図書館

議題等

- ・平成28年度図書館利用実績について（7月末現在）
- ・「福島県立図書館アクションプラン（第2次）」の取組状況について

2 資料の収集・整理

「福島県立図書館資料収集基本要綱」及び「福島県立図書館アクションプラン（第2次）」を踏まえ、県民からの資料要求に対応するために、各分野の基本資料を収集し迅速な整理に努めた。また、平成24年度に開設した「東日本大震災福島県復興ライブラリー」の整備充実を継続して行った。

(1) 図書館資料の収集

ア 一般資料の収集

新刊・既刊を問わず、資料的価値や利用的価値の高い資料の収集を行った。官公庁刊行物は主要なものを収集、年鑑白書や叢書等の継続資料については厳選し計画的な収集に努めた。文学作品は、受賞作品・候補作品や書評等で評価の高い作品を収集した。重点収集として、東日本大震災に関する資料をはじめ、調査相談に対応するために必要な各種参考図書、大活字本等のユニバーサルデザインに対応した資料の収集・整理に努めた。

イ 地域資料の収集

福島県に関する資料の収集に努め、福島県人著作の収集は話題性等を考慮し購入した。非売品等の資料については出版した個人・団体・機関等へ寄贈を依頼し収集に努めた。購入冊数919冊に対して寄贈を受けた冊数は5,000冊を越えた。

行政資料についても各自治体・部局へ収集の依頼を行い、県職員へは全員へメールで要請を行うなど積極的な収集に努めた。収集した資料は当館HPの「県立図書館所蔵 県内行政機関発行資料一覧」を更新し情報提供を行った。

震災関連資料及び東京電力福島第一原子力発電所事故に関する資料に関しては、HP上やチラシ等で寄贈のお願いを掲載し、約1,000冊を収集、地域資料の約16%に及んだ。重点収集とした歴史の変遷を辿る地形図は県下を網羅できず継続購入とした。

ウ 地域視聴覚資料の収集

震災関連資料及び合唱・吹奏楽関係の資料を主に96点を収集した。地元新聞のCD-ROMなど保存価値の高いものは継続的に収集し提供している。

エ 児童資料・研究資料の収集

(ア) 児童資料

市町村のモデルとして運営している「こどものへや」用児童資料として、子どもの読書活動推進に資する資料を、新刊書を中心に厳選して収集した。

重点収集として、ユニバーサルデザインや多文化に対応した資料の収集に努めた。また、中学生・高校生向け資料にいても収集した。

(イ) 研究資料

「児童図書研究室」用研究資料として、児童図書に関する調査研究及び子どもの読書活動支援に資する資料を、新刊書を中心に厳選して収集した。

また、読み聞かせ活動支援のための大型絵本や研究用児童資料としての主要な児童図書賞受賞作品も収集した。

重点収集として、子どもの読書や読書環境に関する資料の収集に努めた。

オ 逐次刊行物の収集と整備

雑誌は、資料価値を重視し、専門的な調査相談や相互貸借に対応できる資料を幅広く継続収集した。要望していた『福島民友新聞』過去紙面マイクロフィルム(昭和50-55年)101本を購入し、提供できるようになった。

新聞、雑誌の震災・原発事故関連記事についても収集に努めた。

カ 市町村支援用資料の収集

図書館未設置の自治体や、県立図書館の利用環境が十分ではない過疎・中山間地域、また、東日本大震災に伴う被災地地域の読書活動に役立たせるため、新刊書の中

心に、話題性の高い文芸書や生活に密着した情報が掲載された実用書・時事関係資料等を収集した。

逐次刊行物受入状況

(単位：種)

区分	購入	寄贈・他	計
新聞	25	59	84
雑誌	238	816	1,054
官報等	3	0	3
合計	266	875	1,141

資料受入状況

(単位：冊)

区分	購入	寄贈・他	計
一般資料	4,889	10,384	15,273
地域・行政資料	919	5,537	6,456
児童図書	2,145	851	2,996
児童図書研究書	574	365	939
市町村支援資料	1,132	1,284	2,416
合計	9,659	18,421	28,080

資料受入状況・推移

(単位：冊)

平成26年度	平成27年度	平成28年度
22,755	16,422	28,080

キ 特殊文庫の受入

福島県出身の詩人で、文芸評論家や児童文学者としても活躍した長田弘氏の遺族より、平成27年度に寄贈の申し出があった資料8,519冊(著作123冊 和書6,914冊 洋書1,605冊)を「長田弘文庫」として受入れ、平成29年2月より公開した。

開設記念として平成29年2月5日に「長田弘と出会う会」を開催し尾方邦雄氏(みすず書房 編集部)と井上卓弥氏(毎日新聞社 東京学芸部編集委員)による対談、原國雄とその仲間たちによる朗読会、終了後、希望者に書庫の見学会を行った。参加者240名。

また、平成29年3月12日には「長田弘文庫見学会」を開催し、特設展示と文庫資料収蔵の書庫を案内した。参加者8名。

分類（区分）	27年度累計	28年度増加	28年度除籍	利用替え	28年度累計	
一般資料	0 総記	31,984	382	7	0	32,359
	1 哲学	25,512	304	10	0	25,806
	2 歴史	63,529	587	32	-3	64,081
	3 社会科学	103,727	1,735	62	0	105,400
	4 自然科学	35,708	775	38	0	36,445
	5 工学・工業	34,501	734	28	0	35,207
	6 産業	27,708	568	10	-1	28,265
	7 芸術	39,682	577	20	-3	40,236
	8 語学	9,319	113	9	0	9,423
	9 文学	91,375	979	13	-3	92,338
計	463,045	6,754	229	-10	469,560	
地域資料	0 総記	16,867	665	0	0	17,532
	1 哲学	2,612	68	0	0	2,680
	2 歴史	35,758	1,073	3	4	36,832
	3 社会科学	61,799	2,178	6	0	63,971
	4 自然科学	9,198	315	0	0	9,513
	5 工学・工業	13,364	518	0	0	13,882
	6 産業	20,916	472	2	1	21,387
	7 芸術	15,765	545	3	3	16,310
	8 語学	865	29	0	0	894
	9 文学	27,053	593	1	3	27,648
計	204,197	6,456	15	11	210,649	
児童資料	研究資料	35,247	939	45	0	36,141
	児童図書	108,724	2,996	59	-1	111,660
	計	143,971	3,935	104	-1	147,801
逐次刊行物資料	雑誌	154,166	6,160	239	0	160,087
	新聞合本	15,050	184	0	0	15,234
	新聞記事ファイル	3,827	3	0	0	3,830
	計	173,043	6,347	239	0	179,151
特殊文庫	61,753	8,519	0	0	70,272	
館内用計	1,046,009	32,011	587	0	1,077,433	
市町村支援計	61,473	2,416	0	0	63,889	
合計	1,107,482	34,427	587	0	1,141,322	

3 館内奉仕

開館日は285日、入館者は167,650人、1日平均588人の利用があった。震災の影響で平成23年度に大きく落ち込んだ入館者数だが、震災前（平成22年度）の7割程度に回復してきている。しかし大きな伸びはない。

入館者数

開館日数	285日
入館者数	167,650人
（1日平均）	588人

入館者数・推移（単位：人）

平成26年度	平成27年度	平成28年度
167,097	162,594	167,650

(1) 調査相談（レファレンス）

県内外から、日常生活の中での質問、仕事上の調査研究等、多種多様な調査相談を受け、所蔵資料及び関係機関の協力を得て回答している。問い合わせは、口頭、電話、文書、FAX、電子メールにて受け付けている。総件数は昨年度より減少したが電話、文書、電子メール等の非来館での受け付けが増えている。

また、当館のホームページについては、トップページや「蔵書検索」へのアクセスが大きく伸びた。また、県内の図書館の所蔵資料を検索する「横断検索」も利用されている。

調査相談件数（単位：件）

	一般・地域・逐刊	児童資料	小計
口頭	7,015	2,697	9,712
電話	1,322	165	1,487
文書	46	0	46
FAX	25	1	26
電子メール	197	5	202
合計	8,605	2,868	11,473

調査相談件数・推移

(単位：件)

平成26年度	平成27年度	平成28年度
12,133	11,928	11,473

ホームページアクセス件数

(単位：件)

区 分	平成26年度	平成27年度	平成28年度
ト ッ プ ペ ー ジ	135,196	148,481	194,853
蔵 書 検 索	433,057	439,340	510,541
横 断 検 索	237,057	399,524	396,175
テ ィ ン タ ル ラ イ フ ラ リ ー	5,069	4,684	4,677
こ ど も の へ や	4,052	3,489	3,480
県内図書館(業務用)	13,408	—	—
利 用 案 内	13,247	14,128	14,634

(2) 館内サービス

「福島県立図書館アクションプラン(第2次)」を踏まえ、図書館資料の提供や各種講座の実施を通じ、地域の復興及び暮らしに役立つ情報の提供に努めた。

また、当館のホームページから全ての所蔵資料(貸出可能なもの)の予約ができる新Web予約サービスに加えて、平成29年2月より、Web予約した資料を市町村図書館で受取ることができる受取館指定サービスの試行を開始した。

(3) 館外個人貸出

登録者数は13,993人、貸出冊数は140,037冊、のべ人数は38,237人で、昨年度より若干減少した。

直接自宅へ資料が届く資料宅配サービス(有料)の利用は、31件、冊数は227冊で、利用冊数は昨年度より増加した。館外個人貸出状況

分 類	冊数	構成比(%)	分 類	冊数	構成比(%)
総 記	1,993	1.4	語 学	1,106	0.8
哲学・宗教	4,046	2.9	文 学	19,464	13.9
歴史・地理	6,387	4.6	地 域 資 料	7,884	5.6
社会科学	10,475	7.5	新 聞 雑 誌	7,715	5.5
自然科学	6,832	4.9	小 計	83,440	59.6
工学・工業	6,123	4.4	児 童	56,597	40.4
産 業	3,432	2.4	合 計	140,037	100.0
芸 術	7,983	5.7			

館外個人貸出状況・推移

区 分	平成26年度	平成27年度	平成28年度
冊 数	141,191	140,598	140,037
の べ 人 数	39,591	38,426	38,237

館外個人貸出登録者数(登録有効期間3年)(単位：人)

区 分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	合 計
新 規	3,577	3,145	3,130	9,852
更 新 者	1,260	1,422	1,459	4,141
合 計	4,837	4,567	4,589	13,993

館外個人貸出登録者数・推移

(単位：人)

平成26年度	平成27年度	平成28年度
14,595	14,141	13,993

(4) 特別貸出

特別貸出とは、類縁機関での展示等のための貸出を行う制度で、資料・冊数・期間などの面で配慮している。

特別貸出状況

貸 出 先	件 数	冊 数
官 公 庁 関 係	2	25
図 書 館 そ の 他	49	463
会 社 ・ 事 業 所	15	171
報 道 関 係	0	0
学 校	33	169
計	99	828

特別貸出状況・推移

(単位：冊)

平成26年度	平成27年度	平成28年度
1,134	889	828

(5) 一般資料

県民が必要とする多種多様な情報を迅速に提供するように資料整理等に努めた。

また、時事や季節、話題性のあるテーマで展示を行い資料の紹介に努めた。時事展示として、美術館企画展との関連展示「フェルメールとレンブラント展を楽しむ本」「描かれた動物たち」6月の食育月間に合わせた「おいしくたのしく食育月間」ノーベル賞発表の11月に合わせた「ノーベル文学賞の作家たち」など8回実施。ミニ展示としては、まほろん移動展に合わせた「縄文時代に関する本」や美術館企画展示関連の「エドワード・ゴッリーの優雅な秘密」「広重ビビッド関連本展示」の他、「芥川賞直木賞関連展示」「リオ・オリンピック開催国ブラジルを知る本」「冬を楽しむ」など6回実施した。

さらに、パステインダー「本の森への道しるべ」を作成し、効率かつ有効的な情報の提供に努めた。

(6) 地域資料

地域資料については、県内外の個人・団体などから様々な調査相談が寄せられた。調査相談件数の26%が福島県に関するものの問い合わせであり、的確な回答を導き出せるよう調査に取り組むとともに、迅速な対応を心がけた。また、職員間で「事例検討会」を実施しスキルアップを図った。

館内では本年度より設置された「本のひろば」のコーナーを利用しミニ展示を10回実施した。「野口英世展」「福島県の郷土かるた」など企画や講座に併せたもの以外に、「高村智恵子生誕130年展」「祝・日本遺産認定～会津三十三観音と安積疏水」「田部井淳子さん逝く」など話題とな

った出来事をタイムリーで紹介した。

一つのテーマを絞って資料を案内するパスファインダー「本の森への道しるべ」は日本遺産に認定された「安積疏水」「会津の三十三観音めぐり」など新たに6本、「郷土まんが家」など改訂を3本作成した。

公開図書室内では「福島県出身の作家「小泉武夫」「風野真知雄」「玄侑宗久」のコーナーを整え、利用されやすい工夫を行った。地域資料の貸出冊数は前年度比109%と震災前平成22年度を大きく上回り、分野別に見ると歴史地理部門が多く貸出冊数の33%を占め、東日本大震災関連資料は15%に留まったが、県人文庫は前年度の15%から19%と大きく伸びた。

資料の撮影・展示及び掲載許可の申請は27件あり、所蔵する貴重資料も幅広く利用された。デジタル化は平成8年度より継続して実施し、今年度は『郷土誌』のうち浜通りの「上真野村」「金房村」等4点を作成、全64点となった。

(7) 逐次刊行物

東日本大震災・原発事故から5年が経過し、復興を記録する『地元新聞にみる原発関連見出し一覧』を平成29年1月31日現在までに更新し、ホームページに掲載した。

『福島県公立図書館 現行購入雑誌保存年限および保存館、現行受入新聞一覧』（平成28年度版）については、本年も避難している大熊町、富岡町、双葉町、浪江町の4町以外から回答を得て発行した。

ミニ展示・軽読書コーナー展示については、毎月展示替えを行い「みんなでおいしく、たのしくごはんを食べよう!」「あたらしい東北を、みつけよう」など、他の機関との連携や季節に配慮した。

パスファインダー「本の森への道しるべ」は、英国のEU離脱などの世界情勢を扱ったテーマで新規6本作成した。

(8) 児童サービス

子どもの読書活動推進のために各種の事業を行った。

ア こどものへや・児童図書研究室の運営

資料の貸出や調査相談をはじめ、「絵本コーナー」や「新着図書コーナー」などで推奨する資料の展示を行った。また、「子ども読書活動支援コーナー」では、読書活動関係者に対して情報提供を行った。

イ おはなしかいの開催

乳幼児と保護者を対象とした「ちいさなおはなしかい」（毎月第2木曜日）や児童を対象に以下の「おはなしかい」を開催した。

・「夏の図書館ミステリーツアー」（8月18日、19日）

小学校の夏休みに合わせて、図書館の書庫探検を行い、併せて、図書館をテーマとしたおはなしかいを実施した。

・アートなおはなしかい（12月3日）

県立美術館と連携し、干支「鳥」をテーマとしたおはなしかいを実施した。おはなしかいの後、美術館で芸術鑑賞をし、図書館でステンシルによる鳥の絵を描い

た。

・クリスマス ミステリーツアー（12月17日）

年齢別に2グループに分けて見学し、それぞれを対象としたクリスマスのおはなしかいを開催した。

ウ 図書館見学の受け入れ

学校等の要望に応え、施設見学や利用案内、読み聞かせ等を行い、図書館や本に親しむ機会の提供に努めた。

エ 情報誌の発行

思春期の子どものための読書案内誌『LITTLE BIG』や児童サービス関連情報誌『児童図書研究ニュース』を発行し読書普及のための情報提供に努めた。

また、教科書改訂にあわせて『福島県立図書館 中学校国語教科書紹介図書 所蔵一覧』を発行した。

オ 「子育て支援コーナー」の運営

子育てに役立つ図書や雑誌の展示や関係各課からのパンフレット配布等、情報提供に努めた。また、親子で楽しむ「わらべうた・手遊びの本」「離乳食の本」「親子でたのしむ工作の本」などのテーマ展示を行った。

カ 子ども読書と科学のコラボ事業

科学のテーマ展示「からだをつくる食事・料理の本」「自由研究」「ノーベル賞」「動物のくらし」などを実施し資料を紹介した。

(9) 東日本大震災福島県復興ライブラリー

平成24年度より「東日本大震災福島県復興ライブラリー」を開設。常設コーナーとして、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故の関連資料を中心に、地震、津波、体験記、放射線、除染、復興、防災、エネルギー問題等の資料を配架し、利用に供している。所蔵数は、平成29年3月11日現在で10,646タイトルとなっており、一覧リストを作成しHPにアップすると共に関係機関へ配布した。また、資料紹介として「ブックガイド」を刊行し利用促進を図った。

さらに、「巡回する福島県復興ライブラリー」として、資料やパネル等を出張展示用セットとして編成し活用を図っている。今年度は、新潟県長岡市立中央図書館（10月1日～11月29日）、神奈川県立海老名市立有馬図書館（平成29年3月1日～3月27日）の2箇所出張展示が開催された。

(10) 特殊文庫・貴重資料紹介コーナー

平成28年2月より新設。壁面にて各特殊文庫概要紹介パネルの掲示をはじめ、資料の一部配架や展示ケースにて貴重資料の展示などを行い、当館所蔵の特殊文庫や貴重資料の紹介に努めた。今年度は「江戸の流行画」（4月8日～5月5日）「戦前・戦中と戦後の教科書」（6月3日～8月3日）「くらべてみよう！おやこの教科書」（8月5日～8月31日）等を行った。

また、平成29年2月より「長田弘文庫」開設にともない文庫の一部を展示し紹介した。

(11) 複写サービス

コイン式コピー機は1台、レーザープリンター1台、カラープリンター1台、マイクロプリンター2台での対応となっている。保存のために資料の媒体を変えていることから、形態にあわせてそれぞれのプリンターで対応している。
複写利用状況

区 分	件 数	枚 数
自・他館処理	4,268	51,548

複写利用状況・推移 (単位：枚)

平成26年度	平成27年度	平成28年度
55,808	51,994	51,548

(12) 来館者用インターネットコーナー

来館者が利用できるインターネット端末を一般用に6台、こどものへやに1台設置し、情報提供の便宜を図っている。また、当館職員による「はじめてのインターネット使い方講座」を2回（12月9日と平成29年2月9日）実施し、インターネット利用の啓発を図った。
インターネット利用状況

区 分	人 数
一 般	6,539
児 童	64
合 計	6,603

インターネット利用状況・推移 (単位：人)

平成26年度	平成27年度	平成28年度
6,790	6,710	6,603

(13) 展示

ア 展示コーナー企画展示

当館入り口の展示コーナーにおいて、テーマに沿った資料の展示を行った。

(ア) 「とと姉ちゃんと「暮しの手帖」」

(4月8日～5月5日)

4月から始まるNHK朝の連続ドラマにあわせて企画。後に、暮しの手帖社を興した人物、大橋鎮子(オハシマコ)と花森安治(ハナモリ ヤスジ)を紹介した展示である。

創刊号から所蔵している「暮しの手帖」のバックナンバーを併せて展示し、二人や暮しの手帖社関連のパスファインダーを作成し配布した。

(イ) 「受賞児童図書展～日本の受賞図書」

(5月7日～6月1日)

「日本絵本賞」「日本児童文学者協会賞」「五山賞」など、最近の受賞作品を展示した。

(ウ) まほろん移動展「縄文土器の年代—その古さを読み解く」 (6月3日～7月6日)

公益財団法人福島県文化振興財団との共催事業として、平成28年3月5日～5月8日にかけて、福島県文化財センター白河館で開催した同テーマによる収蔵資料展の移動展を行った。縄文時代草創期～前期初頭の土器を展示・解説し、縄文土器の年代はどのようにしてわかるのか。縄文人は何を食べていたのか等、縄文時代の暮らしを紹介した。

併せて、福島県文化財センター白河館の専門学芸員・三浦武司氏による関連講座「縄文土器の年代—スズとコゲからなぞをとく—」(第1回ふくしまを知る連続講座)を実施した。

(エ) 「ピーターラビットの世界展—ビアトリクス・ポター生誕150年—」 (7月8日～8月3日)

『ピーターラビット』シリーズの作者であるビアトリクス・ポターの生誕150年を記念して、関連資料を展示した。併せて、関連資料のパスファインダーを作成した。

(オ) 「オリンピック展 名場面のアスリートたち」 (8月5日～8月31日)

ブラジルのリオデジャネイロ五輪開催にちなみ、歴代夏季オリンピックの名場面を展示した。出場する郷土福島の選手たちについても紹介した。

併せてブラジルについても紹介し、寄贈されたパンフレットや地図、展示した資料の一覧を作成して配布した。

(カ) 「美しい本たち」 (9月2日～10月5日)

本には、文や絵などの内容だけでなく、印刷や装丁等にも工夫を凝らし表現した作品がある。その代表的なものとして、童画家であり童話作家であった武井武雄(1894—1983)が手掛け、会員限定で頒布された刊本作品がある。その刊本作品を中心に、芸術作品ともいえる、美しい本の数々を紹介した。

(キ) ふれあい歴史館移動展「「福島の引札Ⅱ」」 (10月7日～11月3日)

福島市教育委員会との共催事業として、福島市ふれあい歴史館が所蔵する引札の展示を昨年に引き続き行った。江戸時代から大正末期にかけて、福島市内の商店等が配布した色鮮やかな引札を展示した。

併せて、福島市史編纂室の柴田俊彰氏による講座「引札が語る商業のまち福島の歴史Ⅱ(第2回ふくしまを知る連続講座)」を実施した。

(ク) 「生誕140周年記念 野口英世展」

(11月5日～12月27日)

生誕140周年を迎えた福島県を代表する偉人である野口英世に関する当館所蔵資料を展示するとともに、パスファインダー「本の森へのみちしるべ野口英世」を作成した。

併せて、野口英世記念会の森田鉄平氏による「医学者・野口英世を支えた人々(第3回ふくしまを知る連

続講座)」を開催した。

(ケ) 福島県歴史資料館移動展「名所図会の世界—江戸時代の観光ガイドブッカー」

(平成29年1月6日～2月12日)

公益財団法人福島県文化振興財団との共催事業として、4月23日～6月30日にかけて、福島県歴史資料館で開催した同テーマによる展示の移動展を行った。福島県ゆかりの名所が描かれたものを中心に、代表的な名所図会を展示した。

併せて、福島県歴史資料館の副主幹兼専門学芸員渡邊智裕氏による講座「名所図会の世界—ふくしまゆかりのものを中心に—(第4回ふくしまを知る連続講座)」を実施した。

(コ) 「漱石と女性たち」(平成29年2月24日～4月5日)
2016年は日本の代表的な文豪夏目漱石の没後100年、2017年は漱石の生誕150年という、2年続けての記念の年となった。これを機に、漱石の研究資料など漱石関連の資料を「漱石と女性たち」という視点から紹介した。

イ ロビー展示

情報発信の一環としてロビー通路壁面を利用し、県民に作品発表の場を提供した。

(ア) 「中村勢津夫 色鉛筆の世界展」

(4月8日～5月5日)

(イ) 「ヨーロッパ・トルパインの世界」(5月7日～6月1日)

(ウ) 「藤守可江水彩画展」(6月3日～7月6日)

(エ) 「えがく会 作品展」(7月8日～8月3日)

(オ) 「風を感じて(パステル画)」(8月5日～8月31日)

(カ) 「第8回網代澄亭と一門による刻字展」

(9月2日～10月5日)

(キ) 「さちこの押花展」(10月7日～11月3日)

(ク) 「愛でつなぐ旅するパステルアート展」

(11月5日～11月30日)

(ケ) 「古城と風景展」(12月2日～12月27日)

(コ) 「翡翠の世界写真展」

(平成29年1月6日～2月12日)

(サ) 震災パネル展」(平成29年3月3日～3月20日)

ウ 「私のおすすめ本 メッセージカードコンテスト」展

県内の子どもたちが、感動や勇気をもらった本を1枚のカードで紹介するコンテストの優秀作品25点と、該当図書を展示した。

期間 12月20日～平成29年2月12日

場所 エントランスホール

(14) 普及事業

県内公共図書館及び公民館図書室等、図書館関係施設職員の資質の向上を図るため、講演会や講座を実施することで、幅広い知識の習得を目指し、また、一般県民に対しても開放し、図書館としての情報発信を行い、地域文化の進展に寄与した。

ア 文化講演会

(第1回)

(ア) 期 日 10月2日

(イ) 会 場 福島県立図書館

(ウ) 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員、一般県民等 80名

(エ) 演 題 「詩のこころ・雪のこころ」

(オ) 講 師 詩人 八木忠栄 氏

*福島県現代詩人の会主催事業

(第2回)

(ア) 期 日 12月10日

(イ) 会 場 福島県立図書館

(ウ) 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員、一般県民等 190名

(エ) 演 題 「地域づくり・人づくりと図書館」

(オ) 講 師 慶應義塾大学 教授 片山善博 氏

*福島市の図書館を育てる市民の会主催事業

イ ふくしまを知る連続講座

第1回「縄文時代の年代～ススとコゲからなぞをとく～」

6月19日

講師 福島県文化財センター白河館 三浦武司 氏

参加者32名

第2回「引札が語る商業のまち福島歴史Ⅱ」10月23日

講師 福島市史編纂室 柴田俊彰 氏

参加者40名

第3回「医学者・野口英世を支えた人々」11月19日

講師 野口英世記念会 森田鉄平 氏

参加者20名

第4回「名所図会の世界～ふくしまゆかりのものを中心に～」平成29年1月22日

講師 福島県歴史資料館 渡邊智裕 氏

参加者44名

ウ 衛生学予防医学講演会

福島県立医科大学の衛生学・予防医学講座との連携による講演会を、平成20年度より開催している。

開催日 8月27日

場所 福島県立図書館 第一研修室

内容

・講演1 テーマ「健康～そのわかっているようで深い意味」

講師 福島哲仁(福島県立医科大学 衛生学・予防医学講座教授)

・講演2 テーマ「身近な『食』から考える健康」

講師 伊藤央奈(管理栄養士、福島県立医科大学衛生学・予防医学講座 大学院 博士課程)

参加者 72名

エ 福島の文化を知る教室 「算額(さんがく)って、なあに？」

福島県和算研究保存会との協力事業。福島の和算につ

いての講座とワークショップを実施した。

開催日 8月7日
場 所 福島県立図書館 第一研修室
講 師 五輪教一氏・白岩信博氏（同保存会会員）
参加者 12名

オ 国立国会図書館連携文化事業

福島県公共図書館協会事務局として、国立国会図書館国際子ども図書館との共催により、ブラジルの画家・絵本作家で、2014年の「国際アンデルセン賞・画家賞」受賞のホジェル・メロ氏を招へいし、講演会とワークショップを行った。

・『講演会』

開催日 7月27日
場 所 福島県立図書館 講堂
テーマ 「本、それは差異の迷宮」
参加者 120名

・『ワークショップ』

開催日 7月28日
場 所 南相馬市立中央図書館
内 容 南相馬市立石神第一小学校の5～6年生と、ホジェル・メロ氏との造形活動。
参加者 8名

カ 県教育委員会（義務教育課連携事業）

福島県教育委員会と、JAXA宇宙教育センターの連携協定に基づいた宇宙教育関連事業に協力した。

開催日 5月22日
場 所 福島県立図書館 講堂・第一研修室
内 容 ・記念講演「宇宙と子どもたちの未来」
講師 JAXA名誉教授 的川泰宣 氏
・宇宙に関する図書の紹介
所蔵資料から関連資料を紹介・展示
・研修会
学校教育・社会教育関係者を対象にした宇宙教育の研修会
講師 JAXA職員

4 館外奉仕

(1) 移動図書館「あづま号」

以下の目的により巡回事業を実施し、連携協力を図るとともに、合計23,026冊の資料を貸出した。

ア 図書館未設置町村支援

図書館未設置町村における図書館活動の促進を図ることを目的に、資料の貸出しと公民館図書室等の運営相談を行った。17自治体に巡回し、延べ19,323冊の資料を貸出した。

イ 避難自治体支援事業

東日本大震災等の影響により避難を余儀なくされ、図書館等の運営が困難な6自治体に対し、読書環境を改善することを目的に巡回し資料の貸出しを行った。

該当自治体が設置する、仮設校及び仮設住宅等を巡回対象とし、仮設校に対しては、大熊町・葛尾村・飯館村の3自治体の幼稚園、小・中学校を延べ8回巡回し、1,027冊の貸出しを行った。その他、葛尾村の仮設住宅及び川内村公民館、浪江町の仮設図書館に対し、1,637冊を貸出した。

ウ 特別支援学校読書活動支援事業
日常的に図書館や読書施設、書店等の利用が困難な子どもたちの読書環境の向上を目的に、西郷養護学校と富岡養護学校の2校を巡回し、延べ971冊の資料を貸出した。

エ 文化施設連携事業

県内文化施設間の連携を図ることを目的に、福島県文化財センター白河館の事業（まほろろ感謝祭）に参加し、移動図書館を県民に開放するとともに、延べ68冊の資料を貸出した。
移動図書館「あづま号」貸出状況・推移（単位：冊数）

平成26年度	平成27年度	平成28年度
25,589	26,330	23,026

(2) 市町村援助のための支援貸出

大規模な図書館事業を行う市町村に対して、長期にわたり一括大量に資料の貸出しを行い、図書館・公民館図書室の読書・学習環境を支援した。

平成28年度の利用状況は次のとおりである。

本宮市教育委員会	2,568冊
喜多方市教育委員会	469冊
川俣町教育委員会	470冊
平田村教育委員会	413冊
西会津町教育委員会	320冊
合 計	4,240冊

(3) 福島県立図書館資料の譲与

再活用が十分見込まれる資料を、県内市町村教育委員会及び高等学校等に対し譲与し、図書館施設の蔵書の充実を支援した。

平成28年度の利用状況は次のとおりである。

会津版下町教育委員会	130冊
福島刑務所	201冊
合 計	331冊

(4) 学校図書館活動支援貸出

県内高等学校及び県立特別支援学校の図書館活動の充実を図るために、長期にわたり一括大量に図書の貸出しを行い、学校図書館読書・学習環境を支援した。

平成28年度は、県立相馬高等学校に対し、125冊の資料を貸出した。

(5) 学校図書館活動支援セット貸出

県内の児童・生徒の学びの環境づくりを支援するため、県内の高等学校および特別支援学校、小・中学校等に対して、その図書館活動の充実を図ることを目的に、118テ

マ（延べ277セット）を編成し貸出を行った。

28年度の利用状況は、18団体にに対し54セット（2,198冊）を貸出した。

(6) 広報資料の発行

ア 館報「あづま」

「長田弘文庫」開設に関する記事を主たる記事構成とし、第66巻（通巻270号）を2月5日に発行した。

イ 平成28年版福島県公共図書館・公民館図書室実態調査報告書（データ版）

図書館活動の振興に資するため、昭和54年度から県内公共図書館・公民館図書室の実態調査を実施し、報告書としてまとめ、県立図書館ホームページに掲載している。

主な調査結果であるが、4月1日現在、県内図書館の合計蔵書冊数は5,899,233冊で、当該人口1人当たり3.44冊（前年度3.42冊）、年間増加冊数は181,584冊である。また、平成27年度中の貸出図書冊数は、6,710,125冊（当該人口1人当たり3.92冊）であり、前年度と比べると総冊数では、185,052冊の増である。

ウ 福島県郷土資料情報

第57号を発行。特集「ふくしまの城・城絵図」に棚倉城・小峰城など6つの城について当館所蔵の城絵図を紹介している。また、年度内に実施された「ふくしまを知る連続講座」の報告や、連載記事として「福島の児童文学者」「福島県関係書誌」をまとめた。100部発行し、当館HPへも掲載する等、郷土の情報発信を発信した。

5 図書館協力

(1) 相互協力和遠隔地返却

協力貸出（他館との資料の貸借）サービス、遠隔地返却（当館資料を他館に返却する）サービスを行っている。前年と比べて利用は減少した。

相互貸借状況

区分	県内		県外		合計	
	件数	冊数	件数	冊数	件数	冊数
貸出	1,094	4,955	392	660	1,486	5,615
借用	96	130	57	74	153	204
小計	1,190	5,085	449	734	1,639	5,819

相互貸借状況・推移

（単位：冊）

平成26年度	平成27年度	平成28年度
6,652	5,839	5,819

遠隔地返却冊数・推移（利用者が来館し、直接貸出しを受けた資料を県内公立図書館に返却した冊数）

（単位：冊）

平成26年度	平成27年度	平成28年度
6,205	5,924	6,551

(2) 図書館協力車事業

県内市町村図書館などの運営を支援するため、各館を定期的に巡回し、情報の収集と提供、運営に関する相談を行った。

また、協力貸出（資料の貸借）などの資料の搬送支援を行った。平成28年度は、17コースを編成し、26自治体と2高等教育機関に対し巡回した。

(3) 県内図書館職員研修会

県内図書館職員の資質向上と専門的知識の涵養を図るため、毎年行っている。

ア 福島県図書館・公民館図書室職員等初任者研修会

（ア）テーマ 「図書館の意義と基本について」

（イ）期 日 5月27日

（ウ）会 場 福島県立図書館

（エ）参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 84名

（オ）講 師 県立図書館職員

イ 福島県図書館・公民館図書室職員等専門研修会

（ア）テーマ 「関係法令から図書館サービスを考える～危機管理としてのトラブル対応～」

（イ）期 日 平成29年1月27日

（ウ）会 場 県立図書館

（エ）参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 35名

（オ）講 師 元千葉県労働委員会事務局次長 鍵水三千男 氏

ウ 福島県内図書館初任者職員実務研修

（ア）期 日 （第1回）6月22日～24日

（第2回）9月14日・16日 *2日間

（イ）会 場 県立図書館

（ウ）参加者 （第1回）2名／（第2回）1名

（エ）講 師 県立図書館職員

(4) 第14回福島県図書館研究集会

図書館業務及び読書活動推進に関わる実務的な業研究会を行うとともに、情報交換や協議を行い図書館活動の振興を図ることを目的に、福島県公共図書館協会事務局として実施・運営している。

ア テーマ 「豊かな未来を見据えて

～図書館が果たすべきこと～」

イ 期 日 11月11日

ウ 会 場 福島県立図書館

エ 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 42名

オ 内 容

事例報告①

・テーマ「やすらぎ・つどい・ひろがる図書館～震災を経て新たな図書館をつくる～」

・報告者 名取市図書館館長 柴崎悦子 氏

事例報告②

・テーマ 「未来に向けた図書館を目指して

～さまざまな図書館づくりをとおして～

- ・報告者 アカデミック・リソース・ガイド株式会社ディレクター
野原海明 氏

研究協議①

- ・テーマ「地域の振興を踏まえた、新たな図書館の役割について」

- ・助言者 名取市図書館館長 柴崎悦子 氏
- ・司会者 白河市立図書館館長 田中伸哉 氏

研究協議②

- ・テーマ「図書館未設置地区における、図書活動の現状と課題」

- ・助言者 アカデミック・リソース・ガイド株式会社ディレクター
野原海明 氏

- ・司会者 県立図書館 専門司書 吉田 和紀

(5) 子どもの本がつなぐスマイルプロジェクト

東日本大震災で被災した子どもたちや親たちが、本とのふれあいを通して心を癒やすことを目的に、読み聞かせなどを行うフェスティバルを、平成26年度より開催している。

プロジェクト実施に併せ、子どもたちに出会って欲しい絵本を紹介したブックリスト「絵本はともだち～かがくやちしきの絵本～」 「本はともだち～読み聞かせに向く絵本～」を作成し配布した。

ア 「絵本はともだち」

(ア) 期 日 7月3日

(イ) 会 場 白河市立図書館

(ウ) 参加者 子どもと保護者・保育従事者・読書ボランティア・その他関係者等120名

(エ) 内 容

講演・実演（おはなしかい等）

- ・テーマ 「親子で楽しむおはなしの世界」
- ・講師 幼児教育専門家 藤田浩子 氏

イ 「本はともだち」

(ア) 期 日 11月19日

(イ) 会 場 いわき産業創造館（LATOV 6階）

(ウ) 参加者 子どもと保護者・学校・保育関係者・読書ボランティア・その他40名

(エ) 内 容

講演・実演（おはなしかい等）

- ・テーマ「おはなしや本の世界を楽しもう」
- ・講師 浦安市企画部主査 伊藤明美 氏

(6) 県内大学図書館間との連携

県内の大学図書館及び公共図書館間における、「図書館資料の相互貸借」「複写」「参考業務」及び「一般社会人への共通利用証発行」等の協力体制を推進するため、「福島県内大学図書館連絡協議会」の公共図書館唯一の加盟館として、「福島県内大学図書館間相互利用制度」の維持に努めた。

同協議会には、県立図書館の他、県内20の市町村立図

書館が参加館として参加している。参加している図書館は、福島市立図書館、二本松市立二本松図書館、郡山市中央図書館、須賀川市図書館、白河市立図書館、会津若松市立会津図書館、喜多方市立図書館、相馬市図書館、南相馬市立中央図書館、いわき市立いわき総合図書館、田村市図書館、小野町ふるさと文化の館、三春町民図書館、鏡石町図書館、矢吹町図書館、双葉町図書館、大熊町図書館、新地町図書館、浪江町図書館、本宮市立しらすわ夢図書館である。

さらに、福島大学附属図書館、及び、福島県立医科大学附属学術情報センター図書館とは、相互協力のための「ふくふくネット」を締結しており、それに基づき活動を行った。

第13節 福島県立美術館

1 概要

1984年に開館した福島県立美術館は、さまざまなテーマに基づく展覧会、創作や芸術鑑賞のための各種講座等の事業を実施している。また、文化財としての美術作品の収集保存、美術や地域の芸術運動に関する調査研究を継続的に実施している。これらの活動を基盤に、美術の情報センターとしての機能を担っている。

当年度の美術館活動の概要は以下のとおりである。

(1) 美術館運営協議会

ア 委員

- 山口 功 福島県中学校教育研究会美術専門部所属
(平成25.1.1～)
- 番匠あつみ 福島県高等学校教育研究会美術工芸部会所属
(平成27.1.1～)
- 杉 昭重 公益財団法人福島県文化振興財団理事長兼
福島県文化センター館長 (平成29.1.1～)
- 坂本節子 福島県家庭教育インストラクターいわきの会事務局長
(平成25.1.1～)
- 齋藤勝正 福島県美術家連盟会長
(平成29.1.1～)
- 本保 晃 日本放送協会福島放送局長
(平成27.10.17～)
- 星眞智子 西会津国際芸術村事務局長
(平成27.1.1～)
- 清水眞砂 世田谷美術館分館長
(平成27.1.1～)
- 齋藤美保子 郡山女子大学短期大学部教授
(平成27.1.1～)
- 舟木藤弘 福島県立美術館友の会理事
(平成29.1.1～)

イ 協議会の開催

- (ア) 期日 平成29年3月10日(金)
- (イ) 内容 ・運営協議会会長及び副会長の選出
・平成28年度事業実施の概要
・平成29年度事業計画案の概要
・県立美術館の運営等

(2) 他館等との連携

県内外の博物館施設および全国組織等との連携を図り運営・事業等に関する情報交換や研修等を実施した。

- 加盟団体 ・全国美術館会議 (理事)
・日本博物館協会 (会員)
・日本博物館協会東北支部 (監事)
・東北地区博物館協会 (監事)
・福島県博物館連絡協議会 (理事)

2 美術品の収集・保存

優れた美術作品鑑賞の機会を提供し、文化財を保存継承するために、コレクション(収蔵作品)の収集活動を継続的に行っている(ただし平成22年度以降、作品購入実績はない)。

今年度は作品146点および美術資料23件を寄贈により収蔵した。

(1) 収蔵作品点数(平成29年3月31日現在)

海外作品	450点	
日本画	343点	
洋画	902点	
版画	1,148点	
立体	138点	
工芸	154点	
書	39点	
素描・下絵	204点	
写真	410点	
計	3,788点	美術資料62件

(2) 収集評価委員会

ア 委員

- 原田 光 元岩手県立美術館長
(平成23.12.1～)
- 村田眞宏 豊田市美術館長
(平成23.12.1～)
- 荒屋鋪透 元ポーラ美術館長
(平成23.12.1～)
- 三上満良 宮城県美術館副館長
(平成23.12.1～)
- 佐々木吉晴 いわき市立美術館長
(平成23.12.1～)

イ 委員会の開催

- (ア) 期日 平成29年2月23日(木)
- (イ) 内容 ・平成27年度収集作品の報告
・平成28年度収集候補作品について

(3) 平成28年度収蔵作品

ア 美術作品及び美術資料の収集

国内：日本画	小川芋銭	1点
	小川千甕	19点
	佐藤玄々(朝山)	1点
	米倉 兌	3点
国内：洋画	小川千甕	72点
	田口安男	18点
	平岡権八郎	1点
	米倉 兌	8点
国内：素描・下絵	田口安男	7点
国内：版画	亜欧堂田善	1点
	安部直人	4点
国内：立体	佐藤玄々(朝山)	9点
国内：書	小川芋銭	1点
	小川千甕	1点
国内：資料	小川千甕資料	1件

荻生天泉資料 21件
井上定雄旧蔵資料 1件
計144点 美術資料23件

イ 図書資料の収集(平成29年2月26日現在)

収蔵図書数 57,798冊

(4) 保存修復

美術品の状態を維持回復し、美術品の保管・展示の環境を良好に保つために、計画的に美術品の修復や館内の保存環境調査を実施している。

ア 保存環境調査の実施

(ア) 時期 平成28年6月6日～20日

(イ) 内容 展示室、収蔵庫等の虫菌害調査、酸アルカリ濃度測定等

イ 美術作品の修復

今年度は河野保雄コレクションのガラス絵作品53点、山口薫《水》、鎌田正蔵《裸体》、長谷川利行《カフェオリエント》他12点、村上華岳《秋谿図》の修復を実施した。

ウ 敷地内の放射線測定

(ア) 時期 毎月1回、計12回測定

(イ) 場所 美術館内および敷地内 計45か所

3 展示事業

(1) 常設展

収蔵および寄託の美術作品を展示している。美術の多様な領域や数多くの作家を紹介するとともに、作品の状態の保全に配慮して、年4回(版画は年8回)展示替えを行っている。

ア 常設展示

(ア) 第Ⅰ期常設展

会期 平成28年4月2日(土)～7月3日(日)

主な内容

- ・ 亜欧堂田善と渡辺光徳：《新訂万国全図》など
- ・ 関根正二と大正洋画：岸田劉生《静物》など
- ・ 佐藤玄々(朝山)の彫刻：《山風》《牛》など
- ・ 吉井忠の絵画とその周辺：《森林帯》など

(イ) 第Ⅱ期常設展

会期 平成28年7月9日(土)～10月10日(日)

主な内容

- ・ 荻生天泉特集：《花卉虫鳥類写生図巻》《霊夢》など
- ・ 草木のある風景：山川忠義《山村雪景》など
- ・ 石原コレクション：ロダン《影の頭部》など
- ・ 清宮質文の版画とガラス絵：《ある空間(蝶)》など

(ウ) 第Ⅲ期常設展

会期 平成28年10月15日(土)～12月25日(日)

主な内容

- ・ 日本画 三良と芋銭：小川芋銭《細道絵日記》など
- ・ 浮世絵とフランス美術：ルノワール《帽子を被る女》
- ・ 河野保雄コレクション：井上長三郎《花》など
- ・ 新東京百景：恩地孝四郎《邦楽座内景》など

(エ) 第Ⅳ期常設展

会期 平成29年1月7日(土)～3月20日(月・祝)

主な内容

- ・ 現代の日本画：朝倉摂《屏風》など
- ・ 新収蔵作品：織田彩子《ガラス器の静物》など
- ・ 抽象絵画：田中敦子《WORK1968》など
- ・ 山中現《木版画集 時の器》など

イ 移動美術館

当館所蔵作品の一部を、県内の文化施設で公開展示する事業で、開催館との協働でテーマ、作品選定から実務までを行う。

今年度は国見町観月台文化センターで開催した。

(ア) 石原コレクション名品展 国見に花開く美の精華

a 会期 平成28年6月11日(土)～19日(日)

b 会場 国見町観月台文化センター 大研修室

(伊達郡国見町大字藤田字観月台15)

c 展示数 40点

d 主催 国見町、国見町教育委員会、福島県立美術館

e 観覧料 無料

f 観覧者数 800名

g 概要

横浜市のコレクター、石原巖氏の美術コレクションが平成27年度に国見町と福島県立美術館に寄贈されたことを記念して、新収蔵の石原コレクションを公開する移動美術館を国見町で開催した。展示ではロダン、佐藤忠良、舟越保武、小磯良平など国内外の著名な作家のブロンズ彫刻、素描、版画など名品40点を紹介した。

h 関連事業

(a) ギャラリートーク

期日 6月11日(土)、19日(日)

解説 宮武弘(当館学芸員) 参加者50名

(2) 企画展

今年度は6回の企画展示を開催し、国内外の様々な文化を紹介した。

ア フェルメールとレンブラント：17世紀オランダ黄金時代の巨匠たち

(ア) 会期 平成28年4月6日(水)～5月8日(日)

(イ) 分野 絵画

(ウ) 展示数 57点

(エ) 主催 東日本大震災復興事業「フェルメールとレンブラント：17世紀オランダ黄金時代の巨匠たち」展実行委員会(構成員：福島県、福島県教育委員会、福島県立美術館、テレビユー福島、福島民報社、ラジオ福島)

特別協賛 東邦銀行

協賛 東北電力、福島トヨタ、ベスト学院グループ、ヤクルト、JAグループ福島

(オ) 観覧料 一般1,500(1,300)円、大学生1,100(900)円、高校生800(600)円

(カ) 観覧者数 104,150名

(キ) 概要

17世紀オランダ絵画をメトロポリタン美術館（ニューヨーク）、アムステルダム国立美術館などのコレクションから振り返る展覧会。「光の画家」として知られるデルフト出身のヨハネス・フェルメールの《水差しを持つ女》や独特な発想、技法と構図で人気を博したレンブラント・ファン・レインの《ベローナ》をはじめ、オランダ黄金時代を彩ったさまざまな画家たちによる57作品を取り上げた。実行委員会方式により開催。

(ク) 関連事業

a 講演会①「光と影のオランダ絵画」

日時 4月10日(日)

講師 宮下規久朗氏(神戸大学教授)

会場 コラッセふくしま4階多目的ホール

参加者 213名

b 講演会②「ブルーストが描いたフェルメール」

日時 4月23日(土)

講師 田村奈保子氏(福島大学教授)

会場 コラッセふくしま4階多目的ホール

参加者 197名

c 講演会③「澄み渡る窓辺—フェルメールの女のいる空間」

日時 4月30日(土)

講師 小林頼子氏(目白大学教授)

会場 A・O・Z(アオウゼ)多目的ホール

参加者 178名

d フォーラム福島連携企画

映画上映会「真珠の耳飾りの少女」

日時 4月9日(土)

会場 フォーラム福島(福島市曾根田町7-8)

参加者 78名

イ よみがえるオオカミ 飯舘村山津見神社復元天井絵

(ア) 会期 平成28年5月28日(土)～7月3日(日)

(イ) 分野 絵画

(ウ) 展示数 266点

(エ) 主催 福島県立美術館

共催 山津見神社、和歌山大学観光学部・国際観光学研究センター、東京藝術大学、認定NPO法人ふくしま再生の会

後援 飯舘村

助成 一般財団法人地域創造

(オ) 観覧料 一般・大学生270(210)円、高校生以下無料

(カ) 観覧者数 5,549名

(キ) 概要

全村避難が続く飯舘村佐須の山津見神社の拝殿が2013年4月に火災で焼失した。拝殿に描かれていた240枚のオオカミを描いた天井絵も焼失したが、このほど和歌山大学、東京藝術大学、NPO法人福島再生の会、福島県立美術館を中心にして復元プロジェクトが立ち

上がった。本展では、完成した242枚の復元天井絵を披露、さらに飯舘のオオカミ信仰や地域の文化を関連資料によって紹介した。

(ク) 関連事業

a フォーラム「山津見神社のオオカミ天井絵をめぐって」

日時 5月28日(土)

報告 「復元プロジェクトの経緯」加藤久美氏(和歌山大学観光学部教授)、サイモン・ワーン氏(和歌山大学観光学部特任助教)

「文化財保存の観点から」荒井 経氏(日本画家、東京藝術大学准教授)

「南東北のオオカミ信仰」石黒紳一朗氏(村田町歴史みらい館副参事)

「山津見神社と飯舘の文化」佐藤俊雄氏(元飯舘村教育委員会文化財担当)

司会 増渕鏡子(当館主任学芸員)

会場 当館講堂 参加者:200名

b ワークショップ「オオカミを杉板に描こう！」

日時 5月29日(日)

講師 荒井 経氏(日本画家、東京藝術大学准教授)

参加者 22名

c ギャラリートーク

日時 6月11日(土)、25日(土)

解説 増渕鏡子(当館主任学芸員)

ウ エドワード・ゴリーの優雅な秘密

(ア) 会期 平成28年7月16日(土)～8月28日(日)

(イ) 分野 絵画

(ウ) 展示数 374点

(エ) 主催 福島県立美術館

協力 福島県立図書館、Edward Gorey Charitable Trust、Brandywine River Museum、株式会社河出書房新社

助成 芸術文化振興基金

後援 日本国際児童図書評議会(JBBY)

企画協力 株式会社イデッパ

(オ) 観覧料 一般・大学生800(600)円、高校生500(400)円、小・中学生300(200)円

(カ) 観覧者数 8,239名

(キ) 概要

エドワード・ゴリー(1925-2000)は、モノクロームの緻密な線描と不思議な世界観で、世界中に熱狂的なファンをもつアメリカの作家である。ミステリー小説のような物語と、陰影や背景までもがペンで細かく描かれたイラストで数多くの作品を発表した。本展では貴重な原画・書籍・資料など約350点を日本で初めて展示し、ゴリーの多彩な制作活動に迫る展覧会となった。県立美術館と図書館の連携企画として開催。

(ク) 関連事業

a 講演会「エドワード・ゴリーを見る／読む／訳す

楽しみ」

日時 7月18日(月・祝)

講師 柴田元幸氏(アメリカ文学研究者、翻訳家)

会場 当館講堂 参加者:230名

b ギャラリートーク

日時 8月6日(土)

講師 濱中利信氏(本展出品者) 参加者:65名

c 映画上映「國民の創生」(東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵作品)

日時:7月23日(土)

会場:フォーラム福島

協力:東京国立近代美術館フィルムセンター

d 図書館展示

期間:7月8日(金)~8月31日(水)

会場:福島県立図書館公開図書室センターホール

エ 被災地からの発信 ふくしま3.11以降を描く

(ア) 会期 平成28年9月10日(土)~10月10日(月・祝)

(イ) 分野 絵画

(ウ) 展示数 75点

(エ) 主催 被災地からの発信・心の復興支援事業実行委員会(構成員:福島県立美術館、あだたら高原美術館-ao-, 美術館とまちづくり研究会、福島造形サークル)

*平成28年度文化庁地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業

(オ) 観覧料 無料

(カ) 観覧者数 2,631名

(キ) 概要

東日本大震災とそれに続く原発事故から5年を経て、福島県の美術家たちが少しずつ震災を表現している。本展では、震災とその後の福島の状況をテーマに制作している作家7人の作品75点を展示し、作家たちが現状をどのように捉え、自己の表現に結びつけようとしているかに焦点を当てた。出品作家は片平仁、齋藤杏奈、坂内直美、松本良子、宮本興一郎、門馬美喜、油井ひろ子。

(ク) 関連事業

a シンポジウム「被災地の表現、その可能性を探る」

日時 9月10日(土)

講師 小勝禮子氏(美術史・美術批評、前栃木県立美術館学芸課長)、原田光氏(美術評論家、前岩手県立美術館長)、三上満良氏(宮城県美術館副館長)

司会 伊藤匡(当館学芸課長) 参加者:30名

b 出品作家によるギャラリートーク

①9月17日(土)

解説 片平仁、宮本興一郎、門馬美喜、油井ひろ子
参加者 30名

②10月1日(土)

解説 齋藤杏奈、坂内直美、松本良子 参加者:20名

c 移動展示

期間 10月5日(水)~16日(日)

会場 大崎市民ギャラリー緒絶の館

オ 原安三郎コレクション 広重ビビッド

(ア) 会期 平成28年10月29日(土)~12月11日(日)

(イ) 分野 版画

(ウ) 展示数 250点

(エ) 主催 福島県立美術館

共催 テレビユー福島、福島民報社

協賛 日本化薬株式会社

後援 (公財)アダチ伝統木版画技術保存財団

協力 伊達市

企画制作 TBS テレビ

(オ) 観覧料 一般・大学生1,000(800)円、

高校生600(500)円、小・中学生400(300)円

(カ) 観覧者数 17,001名

(キ) 概要

日本化薬株式会社創業者であった原安三郎(1884-1982)氏の本邦初公開となる連作を含む、美しい浮世絵風景版画展。歌川広重(1797-1858)の晩年の傑作、〈六十余州名所図会〉〈江戸名所百景〉の初摺り揃いは、大きな反響をよび、また葛飾北斎《富嶽三十六景》、同じく広重不朽の名作《東海道五拾三次之内》、さらに奇才歌川国芳の作品は、教科書でも見た名品として好評を博した。

(ク) 関連事業

a 講演会「名所江戸百景の今と昔」

日時 11月6日(日)

講師 市川信也氏(那珂川町馬頭広重美術館長)

会場 当館講堂

b ギャラリートーク

①11月11日(金) 解説:堀 宜雄(当館専門学芸員)

②12月3日(土) 解説:紺野朋子(当館副主任学芸員)

カ Gallery F コレクション再発見

(ア) 会期 平成29年1月21日(土)~2月12日(日)、
2月18日(土)~3月12日(日)

(イ) 分野 絵画、版画、資料

(ウ) 展示数 261点

(エ) 主催 被災地からの発信・心の復興支援事業実行委員会(構成員:福島県立美術館、あだたら高原美術館-ao-, 美術館とまちづくり研究会、福島造形サークル)

*平成28年度文化庁地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業

(オ) 観覧料 無料

(カ) 観覧者数 1,988名

(キ) 概要

「Gallery F」とは、当館のコレクションの中から、今まで紹介できなかった作品や新収蔵・寄託作品を取

り上げ、あるいはテーマを絞って掘り下げる小さな展覧会を意味する。今年度は5つの「Gallery F」を2期に分けて開催した。第1期では、洋画家・鎌田正蔵と関根正二を取り上げた。第2期では秀島由己男と高橋由一の版画、さらに今年度制作した鑑賞用補助教材「福島県立美術館アートカード」を使って「福島四中からの発信・しあわせアートプロジェクト」を実施した。

(ク) 関連事業

a ギャラリートーク

- ①1月28日(土) 解説 伊藤 匡 (当館学芸課長)
- ②2月4日(土) 解説 坂本篤史 (当館副主任学芸員)
- ③2月11日(土) 解説 伊藤 匡 (当館学芸課長)
- ④2月18日(土) 解説 伊藤 匡 (当館学芸課長)
- ⑤2月25日(土) 解説 伊藤 匡 (当館学芸課長)
- ⑥3月4日(土) 解説 荒木康子 (当館専門学芸員)
- ⑦3月11日(土) 解説 荒木康子 (当館専門学芸員)
伊藤 匡 (当館学芸課長)

b スペシャル・ギャラリートーク

- 日時 1月21日(土)
- 解説 杉浦 聡氏 (郡山市立美術館学芸員)

4 調査研究事業

(1) 調査研究

調査研究は美術館活動の基礎をなし、また広く県民に対して美術の情報センター機能を果たすためにデータ集積が欠かせない。県内外の美術家や作品の調査、教育普及、保存、展示等の調査を継続的に実施している。

今年度は県内の美術品調査と、第二次世界大戦後に活躍した作家の調査を重点的に行った。

5 普及事業

美術をより深く知る喜びを得る機会を提供する事業として、さまざまな講座を開催している。また、つくる楽しみを経験する契機として、各種の実技講座や、学校と連携しての出張講座等を行っている。

(1) 館内解説

学校や公民館その他の団体での鑑賞者のために、鑑賞前に学芸員が美術館の概要、鑑賞のマナー、代表的な収蔵作品の解説、常設展示や企画展示の概要等のガイダンスを行っている。

今年度の団体総数は264団体10,860人、そのうち解説を行ったのは124団体6,039人である。

(2) 鑑賞講座

館長講座「みちのくの美—その源流をたどる旅」

講師：早川博明 (当館館長)

- 第1回「青森県」 日時 平成28年5月 参加者 9名
- 第2回「秋田県」 日時 平成28年7月 参加者 28名
- 第3回「岩手県」 日時 平成28年9月 参加者 28名
- 第4回「山形県」 日時 平成28年11月 参加者 22名

第5回「宮城県」 日時 平成28年1月 参加者 14名

第6回「福島県」 日時 平成28年3月 参加者 19名

(3) 実技教室

実技教室は、広く県民各層の美術に関する関心をふまえ、美術創作と鑑賞の理解を深める一助とする目的で、各種プログラムを実施している。今年度は長期休館にともない福島市内の施設を会場として開催した。

ア 実技講座

(ア) 「大堀相馬焼をつくる」

期日 平成28年6月18日(土)、7月2日(土)

講師 半谷菊枝氏 (相馬焼窯元：半谷窯)

参加者 9名

(イ) 「粘土で表現する『首像制作』」

期日 平成28年10月9日(土)、16日(土)、23日(日)

講師 高野正晃氏 (彫刻家・武蔵野美術大学非常勤講師)

参加者 9名

(ウ) 「カシューを使って抽象表現に挑戦」

期日 平成28年12月17日(土)、平成29年1月14日(土)、21日(土)、28日(土)

講師 松本良子氏 (モダンアート協会会員)

参加者 18名

(エ) 「みんなで、大きな1りんの花を作ろう！」

期日 平成29年2月18日(土)

講師 コーチはじめ氏 (イラストレーター)

参加者 19名

イ 技法講座

(ア) 「オオカミを杉板に描こう！」

期日 平成28年5月29日(日)

講師 荒井 経氏 (日本画家、東京大学准教授)

参加者 22名

(イ) 「パズル式木版画を体験しよう」

期日 平成28年11月27日(日)、12月4日(日)

講師 丸山浩司氏 (版画家、多摩美術大学教授)

参加者 15名

(ウ) 「コラージュでつくるブックカバー」

期日 平成29年3月12日(日)

講師 佐藤洋美氏 (デザイナー、コラージュ作家)

参加者 14名

ウ 親と子の美術教室

(ア) 「コマ撮りアニメをつくってみよう！」

期日 平成28年5月21日(土)

講師 松村泰三氏 (東北芸術工科大学准教授)

参加者 小学生の親子3組7名

(イ) 「みんなで絵本をつくろう！」

期日 平成27年8月7日(日)

講師 加藤志異氏 (絵本作家)

参加者 小学生の親子10組23名

(ウ) 「クリスマスを彩るどうぶつライトをつくろう！」

期日 平成 28 年 12 月 11 日(日)

講師 冬野朋子氏 (PAPERMOON 主宰)

参加者 小学生の親子 8 組 17 名

エ 一日創作教室

(ア) 「絵封筒をつくろう！」

期日 平成 28 年 8 月 28 日(日)

講師 白木ゆう美 (当館学芸員)、

佐藤恵子 (当館スタッフ)、博物館実習生 6 名

参加者 81 名

オ わんぱくミュージアム

(ア) 「ものの表面採集をして、描いてみよう」

期日 平成 28 年 7 月 31 日(日)

講師 海老塚耕一氏 (美術家、多摩美術大学教授)

参加者 16 名

(イ) 「キラキラつやつやと七宝焼きバッジに挑戦！」

期日 平成 28 年 11 月 13 日(土)

講師 白木ゆう美 (当館学芸員) 参加者 23 名

(4) 美術館・学校教育連携事業

ア 学校連携共同ワークショップ

学校からの要望をもとに平成 15 年度より開催する連携事業。こどもたちが作家と触れ合う機会として、作家・学校・美術館の共同による創作活動を中心にした「出張ワークショップ」を開催している。この事業により相互の協力関係を密にし、新鮮な体験を通して美術や美術館への関心を高めるとともに、通常は美術館を利用しにくい地域へも文化事業の還元を図る。

今年度は幼稚園・小・中・高校合わせて 14 校で開催した。ワークショップ作品は平成 28 年 12 月 20 日(火)～25 日(日)、および平成 29 年 1 月 7 日(土)～15 日(日)の期間、当館企画展示室 B にて活動中のスナップ写真とあわせて展示した。

(ア) 「『うち』をつくる」

講師 アサノコウタ氏 (建築家)

開催校および参加人数

学校法人堀内学園富岡幼稚園 参加者 22 名

二本松市立塩沢幼稚園 参加者 14 名

福島県立福島東高等学校 参加者：8 名

(イ) 「大地のえのぐで絵をえがこう！」

講師 佐藤 香氏 (土絵作家)

開催校および参加人数

川俣町立川俣南幼稚園 参加者 13 名

福島市立森合幼稚園 参加者 53 名

白河市立関辺幼稚園 参加者 21 名

学校法人松韻学園蓬莱もみじ幼稚園 参加 15 名

福島市立福島養護学校高等部 参加者 21 名

学校法人鏡石学園岡ノ内幼稚園 参加者 60 名

三春町立三春中学校 参加者 120 名

(ウ) 「ことばと絵の音」

講師 フライデースクリーン (アートユニット)

開催校および参加人数

福島市立金谷川幼稚園 参加者 12 名

二本松市立渋川小学校 参加者 22 名

会津若松市立第一中学校 参加者 19 名

会津若松市立第二中学校 参加者 8 名

イ 先生のための美術館入門

小学校図画工作、中学校・高等学校美術の鑑賞指導について講座を開講する福島県教育センターと連携しながら、学校における美術館の活用方法を考える。

今年度は、前期 (県教育センター) 後期 (当館) の 2 回に分けて開催した。

期日 平成 28 年 8 月 24 日(水)、11 月 10 日(木)

参加者 小学校教諭 6 名、中学校教諭 5 名 計 11 名

(5) 友の会、協力会との連携事業

ア 友の会通常総会

期日 平成 28 年 6 月 4 日(土)

会場 美術館講義室 参加者 20 名

イ 友の会美術鑑賞講座

「イタリア・ルネサンス美術散策」

期日 平成 28 年 11 月 13 日(土)、12 月 18 日(日)

平成 29 年 2 月 12 日(日)

講師 坂本篤史 (当館副主任学芸員) 参加者 90 名

ウ 友の会実技講座

「はじめてでも簡単～つくって楽しい、飾ってうれしい、回転式木版画制作～」

期日 平成 28 年 11 月 19 日(土)

講師 國島 敏 (当館主任学芸員) 参加者 5 名

エ 友の会研修旅行

「風の沢ミュージアム、大崎市民ギャラリー緒絶の館、宮城県美術館」

期日 平成 28 年 10 月 15 日(土)

参加者 酒井哲朗 (当館名誉館長)、

伊藤匡 (当館学芸課長) ほか 計 43 名

オ 友の会アートチャリティ・バザー

会期 平成 28 年 12 月 4 日(土)

会場 当館エントランスホール

カ ミュージアム・コンサート

福島県立美術館協力会、福島県立美術館友の会との共同開催によるコンサート。

「仙台フィルメンバーによる クワテュール・ディゼール演奏会～おしゃべりな弦楽四重奏～」

期日 平成 29 年 3 月 12 日(土)

会場 当館エントランスホール (参加無料)

演奏 神谷未穂氏 (ヴァイオリン)、小池まどか氏 (ヴァイオリン)、清水暁子氏 (ヴィオラ)、八島珠子氏 (チェロ)

(6) その他の事業

ア 県立図書館との連携事業「アートなおはなし会」

小学生とその保護者を対象にした、図書館での絵本の読み聞かせとワークショップ。

期日 平成 28 年 12 月 3 日(土)

参加者 8 組 17 名

イ 「いま、被災地から一岩手・宮城・福島の美術と震災復興」展の開催

東日本大震災から 5 年が経過したことを機に、被災地における美術館や博物館の被災状況と、文化財レスキューをはじめとする救援活動、そして現状の課題などについて報告。あわせて、岩手・宮城・福島県の代表的な美術作品を展示してその特質と魅力を紹介した。

会期 平成 28 年 5 月 17 日(火)～6 月 26 日(日)

会場 東京藝術大学大学美術館

主催 東京藝術大学、全国美術館会議、岩手県立美術館、宮城県美術館、福島県立美術館

ウ 館外での活動

(ア) 委員の委嘱等

- ・いわき市立美術館収集評価委員(荒木康子専門学芸員)
- ・福島市写真美術館運営委員(堀宜雄専門学芸員)
- ・裏磐梯猪苗代フォトコンテスト審査員(堀宜雄専門学芸員)
- ・宇都宮美術館収集評価委員(増渕鏡子主任学芸員)
- ・相馬市史調査編さん委員(増渕鏡子主任学芸員)
- ・須賀川市歴史文化基本構想策定委員(増渕鏡子主任学芸員)
- ・一般財団法人可月亭庭園美術館評議員(増渕鏡子主任学芸員)
- ・福島大学「芸術による地域創造研究所プロジェクト」客員研究員(増渕鏡子主任学芸員、國島敏主任学芸員)
- ・西会津国際芸術村公募展審査員(坂本篤史副主任学芸員)

(イ) 寄稿、発表、受賞等

- ・『奥州二本松』歴史春秋社 2016 年 12 月(共著 堀宜雄専門学芸員)
- ・三重県立美術館講演会「ベン・シャーン 一篇の詩の最初の言葉が生まれるまで」2016 年 9 月 18 日(荒木康子専門学芸員)
- ・岡山県立美術館講演会「国吉康雄と福島県立美術館コレクション」2016 年 10 月 16 日(荒木康子専門学芸員)
- ・目白大学社会学部メディア表現学科公開講演会「福島県立美術館のこれまで、そして今考えること」講師 2016 年 11 月 23 日(荒木康子専門学芸員)
- ・森のはこ舟アートプロジェクト「絵画やスケッチを通してみる磐梯山」講師 2016 年 10 月 1 日、2 日(増渕鏡子主任学芸員)
- ・東京文化財研究所オープンレクチャー「よみがえるオオカミ- 飯館村山津見神社・天井絵の復元をめぐる」講師 2016 年 11 月 4 日(増渕鏡子主任学芸員)
- ・第 28 回倫雅美術奨励賞(増渕鏡子主任学芸員:「小川千穂展—縦横無尽に生きる」展覧会企画およびカタログ執筆)

第14節 福島県立博物館

1 概要

福島県立博物館は、資料収集・展示・調査研究・教育普及事業を中心に、内容の充実を図っている。平成28年度の博物館活動の概要は次のとおりである。

(1) 運営協議会

ア 委員

学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者10名に委嘱している。平成13年1月からは、委員の選考に一部公募方式を導入した。

学校教育	鈴木 充子	いわき市立長倉小学校
	三輪 晶子	郡山市立高瀬中学校長
	加藤 知道	県立会津学鳳中学校・高等学校長
社会教育	遠藤 俊博	(公財)福島県文化振興財団理事長
	鈴木 静人	いわき市中央公民館長
学識経験者	佐藤彌右衛門	合資会社 大和川酒造店代表社員
	長尾 修	県立博物館友の会幹事長
	一ノ瀬美枝	会津若松市教育委員会委員
	大友 靖子	家庭教育インストラクター一連絡協議会理事
	齋藤 陽子	公募委員

イ 会議

第1回 平成28年7月7日(木)

議題

- ①副会長の選出について
- ②平成28年度の事業について
- ③中期目標の達成状況について
- ④入館状況について

第2回 平成29年2月23日(木)

議題

- ①平成28年度事業の概要について
- ②平成28年度実績中期目標(1月末現在)について
- ③平成29年度事業概要について

2 資料収集事業

(1) 収集展示委員会

館の収集資料、企画展の計画等についての審議のため、12人を委嘱している。

ア 収集展示委員会委員

氏名	役職名	備考
有賀祥隆	東北大学名誉教授	委員長
野沢謙治	郡山女子大学短期大学部文化学科教授	副委員長
入間田宣夫	一関市博物館館長	委員

大石雅之	岩手県立博物館研究協力員 東北大学総合学術博物館協力研究員	委員
岡田清一	東北福祉大学教授	委員
佐々木利和	北海道大学アイヌ・先住民研究センター客員教授	委員
設楽博己	東京大学大学院人文社会系研究科教授	委員
原田一敏	東京芸術大学大学美術館教授	委員
三上喜孝	国立歴史民俗博物館准教授	委員
村川友彦	福島県史学会会長 元福島県歴史資料館課長	委員
柳田俊雄	東北大学名誉教授 東北大学総合学術博物館協力研究員	委員
玉川一郎	福島県考古学会会長	委員

イ 会議

平成28年8月4日(木)

議題

- ①今後3年間の展示計画について
- ②平成29・30年度開催予定企画展等について
- ③資料収集事業について

(2) 受贈・受託

ア 歴史資料

(ア) 受贈

江戸幕府老中返礼ほか 2件 個人
刀(表銘「陸奥大椋三善長道」)ほか3件 個人
柳津参詣図・土津神社参詣図屏風 1件 個人

(イ) 受託

鶴城風雅集 4件 個人
伊達政宗書状 1件 個人
大須賀清光筆「高砂図」ほか 2件 個人
藤田家関係写真 7件 個人
相馬藩士木幡家文書 1件 個人
松平容保和歌「冬日詠早梅」ほか1件 個人

イ 美術資料

(ア) 受贈

打敷ほか 3件 個人
津田徳民「養老の滝図蒔絵盃」ほか2件 個人
唐草蒔絵でんぶ台ほか 2件 個人
佐竹永海・遠藤香村・蒲生羅漢筆「松竹梅図」 1件 個人
漆器(膳・椀類)ほか 4件 個人

(イ) 受託

浦上秋琴「山水図」ほか 5件 個人
長尾家屋敷繪圖屏風 1件 個人
岩浅松石筆「十二月月図屏風」 1件 個人
佐藤玄玄「観音図」ほか 27件 個人
牡丹花鳥文染付土瓶ほか 10件

ウ 民俗資料

(ア) 受贈

パラシュート生地に着物	1件	個人
蚊帳ほか	12件	個人
唐箕ほか	13件	個人
山口弥一郎関連資料	28件	個人
島台ほか	4件	個人
柳行李ほか	9件	個人
男性用羽織ほか	4件	個人
笹川のあばれ地蔵写真パネル	1件	個人
微細彫刻	1件	個人
西会津町萱本のお人形様	1件	個人
大福帳ほか	2件	個人
錫杖	1件	個人
ハーモニカ	1件	個人
足踏みミシンほか	12件	個人
五月飾り	1件	個人
木炭ほか	2件	個人
宝舟ほか	18件	個人
エ 考古資料		
(ア) 受 贈		
土器片(岩谷遺跡出土)ほか	2件	個人
オ 自然資料		
(ア) 受 贈		
堀口層産動物化石	1件	個人
只見町野々沢布沢層産植物化石ほか	8件	個人
南極観測関係資料	5件	個人
(イ) 受 託		
梁川層産貝類化石	20件	
伊達市教育委員会教育長 アンモナイト化石 Haploceras spp	1件	個人
(3) 購 入		
ア 歴史資料		
大橋醒仙来簡集	1件	
イ 美術資料		
鶴川家所蔵 森川家旧蔵会津茶道資料及び会津本郷焼 資料	4件	
ウ 自然資料		
デボン紀植物化石ほか	13件	

3 保存管理事業

(1) 資料の収蔵

ア 博物館資料

資料受入れ時点における収蔵資料件数の、現在までの累計を示す。件数は概数であり、「一括」で受け入れた資料も1件と数える。

収蔵資料数 (平成29年3月31日現在)

分野	件数	備 考
考古	20,412	土器・石器・金属器ほか
民俗	13,404	生活・生業・交通・信仰・芸用具ほか
歴史	22,186	書籍・文書資料ほか
美術	6,481	絵画・彫刻・工芸資料ほか
自然	49,481	化石・岩石・鉱物ほか
合計	111,964	

イ 図書および映像資料

(ア) 収蔵図書数 (平成29年3月31日現在)

考古分野：26,546冊 民俗分野：4,809冊
歴史分野：10,410冊 美術分野：4,197冊
自然分野：16,897冊 保存分野：1,714冊
その他：55,594冊 合計：120,167冊

(イ) 収蔵映像資料数 (平成29年3月31日現在)

収蔵映像資料総数：1,370点

(2) 登録・整理

ア 資料管理システムの運用

平成25年度中に、それまでのサーバクライアント方式による資料管理システムに換えて、新たにASP方式の博物館資料管理専用システムである早稲田システム開発株式会社製 I. B. Museum SaaS を導入した。新システムは県教育委員会のFKS回線を介してインターネットに接続した端末パソコンより使用するものとし、それまで使用してきた資料管理システム専用LAN回線はFKS回線に一本化した。

新システムでは多数のデータの一括登録や一括修正が可能となり、また、経年的なランニングコストが削減された。更に、インターネット上での資料情報の外部公開が可能となった。

資料管理システム本来の目的である資料の登録および資料情報の外部公開に関しては運用が軌道に乗り、各種登録作業などがほぼ順調に進められるようになった。しかし運用が本格化するにつれ、使用中に発見される書式や登録方法の設定ミス等は引き続き散見され、これらはそのつど修正に努めており、自力で修正出来ないものについては内容を書き出して、一括して早稲田システムに修正を依頼する必要がある。また、有償の改修が必要な一部項目の再構成については、予算措置を待って改修する予定である。

イ 資料の登録・資料情報の外部公開

整理が終了した資料のデータを資料管理システムに入力し、資料の登録を行った。表中の数値は登録済み資料の件数を示す。また、システムの資料情報外部公開機能を使用し、インターネット上で公開する所蔵資料情報を新たに追加した。資料情報の外部公開数は平成28年度中

期目標の評価指標を達成したが、資料の登録数は、わずかに目標に及ばなかった。引き続き資料情報の外部公開において検索機能をより使いやすく改良することが望まれるが、システムがASP方式であるため実施可能な修正に制限があり、相当の工夫と時間が必要となる。

登録資料数・資料情報の外部公開数

(平成29年3月31日現在)

資料類別	登録資料 (平成28 年度)	登録資料 (累計)	資料情報 の外部公 開 (平成28 年度)	資料情報 の外部公 開 (累計)
考古資料類	216	12,034	1,001	2,763
民俗資料類	217	14,030	1,016	2,397
歴史資料類	283	41,041	1,460	6,236
美術工芸品類	4	6,228	0	23
自然標本類	203	24,690	2,539	9,183
合計	923	98,023	6,016	20,602

ウ ボランティア

博物館資料の整理のため、次の通り資料整理ボランティアを受け入れ、資料の整理を行った

(ア) 自然資料整理

桑原 功 特集展「収蔵庫からこんにちは」の展示設
営協力1日

星総一郎 星総一郎氏寄贈化石標本の整理延べ3日

特集展「収蔵庫からこんにちは」の展示設営協力1日

(イ) 古文書整理

古文書整理ボランティア登録者のうち10名が延べ54日参加し、松崎達夫家文書の整理作業(表題・年代・法量などのデータ採取)を行った。終了したのは191点。参加者は五十嵐晴日子、大堀義子、小関栄助、小檜山裕二、佐藤敏子、佐藤紀子、佐野喜惣次、庄司孝雄、鈴木清二、星弘明の諸氏。

(3) 貸出

ア 博物館資料

貸出資料一覧

資料名	貸出先	貸出期間	展覧会名
新島八重再現ドレス	かわまたおりもの 展示館	平成28年4月12日～6 月8日	「川俣シルクを使った 八重の桜衣装展」
ハドロサウルス類(ヒロノリュウ)の頸椎 1点 ハドロサウルス類(ヒロノリュウ)の歯 1点	北九州市立いのち のたび博物館 大阪文化館	平成28年6月21日～平 成29年1月30日	「恐竜博2016」
紙本著色蒲生氏郷像 1幅 織田信長黒印状 1幅	滋賀県立安土城考 古博物館	平成28年4月8日～6月 25日	「信長の家臣たち」
九曜紋散懸盤 1基 九曜紋散三方 1基	南相馬市博物館	平成28年4月中旬～6 月下旬	「文化財にみる市制10 年の歩み―震災からの 心の復興―」
菊漆絵提重 1組 黒塗三段重箱 1組	スペース・アルテマ イスター	平成28年4月中旬～5 月下旬	第一回 会津漆と暮ら す「お弁当のある暮ら し」展
でんぶ台 2基 丸盆 1枚	奥会津博物館伊南 館	平成28年5月上旬～11 月初旬	常設展示
萱野権兵衛宛松平容保及び照姫書状類(当館受託資料) 4点	若松城天守閣郷土 博物館	平成28年9月1日～11 月30日	企画展「松平容保」
雪村周継筆「竹に鳩図」 1幅 雪村周継筆「蔬果図」 1幅 雪村周継筆「瀟々八景図帖」(当館受託資料)1帖	東京藝術大学大学 美術館 MIHO MUSEUM	平成29年2月中旬～9 月下旬	「特別展 展雪村 ― 奇想の誕生―」

貸出資料一覧

資料名	貸出先	貸出期間	展覧会名
浦上玉堂筆「青山弾琴図」 1幅 浦上秋琴筆「春景山水図」 1幅 浦上秋琴筆「秋溪独釣図」 1幅 浦上秋琴筆「山水図(為鷗降中田史兄)」 1幅 浦上春琴筆「白衣観音図」(当館受託資料) 1幅 浦上秋琴筆「四季山水図」(当館受託資料) 4幅 浦上春琴筆「双峰臨流図」(当館受託資料) 1幅 浦上秋琴筆「山水図」(当館受託資料) 1幅 浦上秋琴筆「山水図」(当館受託資料) 1幅 「浦上系図」(当館受託資料) 1幅 佐野龍雲「玉堂先生肖像」(当館受託資料) 1幅 『龍笛譜』(当館受託資料) 1冊 『箏譜 黄盤太』『箏譜 黄盤太』(当館受託資料)2冊 『横笛假名譜 龍笛假名譜』(当館受託資料) 1冊 『亂聲 音取 品玄 入調 三鼓』(当館受託資料) 1冊 『(壹越調 平調 他)』(当館受託資料) 1冊 浦上秋琴日記・書状 1巻	岡山県立博物館 千葉市美術館	平成28年9月中旬～12 月下旬	「文人として生きる 浦上玉堂と春琴・秋琴 父子の芸術」
火頭巾 1領 九戸出陣陣立書(天正19年) 1幅 蒲生記(乾坤) 2冊 梁川城本丸庭園跡復元模型 1点	福島県文化財セン ター白河館	平成28年9月13日～平 成29年1月20日	まほろん15周年記念指 定文化財展「城跡の考 古学」
(天正18年)11月10日付け蒲生氏郷書状 1幅(天正19年) 7月13日付け蒲生氏郷法度条目 1幅芦名氏家来筋宿老 中老近習外様衆記 1冊木造蘆名盛氏坐像(複製) 1軀 塵芥集(複製) 1冊	米沢市上杉博物館	平成28年9月20日～12 月10日	特別展「伊達氏と上杉 氏一館山城跡国史跡指 定記念一」
でんぶ台 2基 丸盆 1枚	奥会津博物館伊南 館	平成28年11月1日～平 成29年11月上旬	常設展示
ワーゲノセララス 1点 サラッソセララス 1点 サブディコトモセララス 1点 ヒボノチセララス 1点 パキスフィンクテス 1点 メソプゾシア 1点	ミュージアムパー ク茨城県自然博物 館	平成28年12月15日～ 平成29年6月30日	企画展「アンモナイト ・ワールドー恐竜時代 の海へいこうー」
荒屋敷遺跡出土脚付鉢(漆塗り) 1点 荒屋敷遺跡出土縄類 1点 荒屋敷遺跡出土籠類 1点 荒屋敷遺跡出土籠類 1点 荒屋敷遺跡出土籠類 1点	福島県文化財セン ター白河館	平成28年12月23日～ 平成29年2月12日	歴史再発見事業資料展 「手仕事ふくしまー編 み組技術」
三角縁神獣鏡模造品 1点	会津若松市歴史資 料センター	平成29年2月5日	会津大塚山古墳ワーク ショップ
十二天図旧軸木(恵日寺旧蔵) 慶長六年銘 1点 延宝三年銘 1点	磐梯町磐梯山慧日 寺資料館	平成29年3月29日～12 月5日	常設展示

イ 写真資料

総数：126件238点

考古：22件 65点 民俗：7件17点

歴史：73件127点 美術：20件22点

自然：4件 7点

(4) 保存管理

収蔵資料を適切に保存するため、収蔵庫および展示室
など主要箇所での保存環境の定期調査、新規収蔵資料の生
物被害防除を実施している。

ア 保存環境調査

常設展示室・収蔵資料展示室・企画展示室、収蔵庫

(一時、第1～第6収蔵庫)、エントランスホール
、体験学習室、講堂、事務室、会議室、研究室、図書
室、空調機械室など主要なスペースについて昆虫、室
内塵埃中昆虫、空中浮遊菌、空中浮遊塵埃数、化学物
質(環境モニター、ホルムアルデヒド、酢酸、アンモ
ニアの気中濃度)及び温度、湿度、照度等について調
査を行った。

調査は季節による生息害虫等の状況を確認するため
11月23日～12月22日、2月10日～3月1日の2回にわたり
実施した。

イ 生物被害防除

8月、9月、10月に各1回、新収蔵資料などを対象に燻蒸処理を実施した。燻蒸処理件数は、合計151件であった。平成27年度に燻蒸設備の故障が判明してから館内で燻蒸処理をできないため、平成28年度はトラックの荷台内部にビニールシートを貼り付けて、仮設の被覆とした。

4 展示事業

(1) 常設展示

総合展示と部門展示からなる。総合展示は、原始から現代までの福島県の歴史を通観し、人々の暮らしを時系列に沿って展示している。原始・古代・中世・近世・近現代・自然と人間の6つのテーマで構成される。部門展示は、テーマ性の高い専門的な展示であり、民俗・自然・考古・歴史美術の展示に分かれる。平成21年度から、常設展示室内においてテーマ展・ポイント展を実施している。

ア テーマ展

常設展示室内において、特定のテーマを設定した小・中規模展示を「テーマ展」として実施した。平成28年度が8年目である。全5回実施。うち「五幅対に見る絵師」は春の企画展の関連展として開催。「100年カエル館コレクション展 かえる曼陀羅～100年カエル館から河竹登志夫さんへのオマージュ～」では関連講演会も開催した

- ①「ふるさとの考古資料6【飯館村】遺跡探訪」
(部門：考古展示室)

平成27年6月20日(土)～平成29年5月14日(日)

- ②「五幅対に見る絵師」(部門：歴史美術展示室)
平成28年4月16日(土)～6月19日(日)
- ③「けんぱくの宝1」(部門：歴史美術展示室)
7月5日(火)～8月28日(日)

- ④「100年カエル館コレクション展 かえる曼陀羅～100年カエル館から河竹登志夫さんへのオマージュ～」(部門：歴史美術展示室)
9月10日(土)～11月10日(木)

関連講演会

「カエルに惹かれる理由とカエルグッズを集める楽しみ」

講師：高山ピッキさん(100年カエル館)

日時：11月5日(土) 13時30分

会場：当館講堂

- ⑤「けんぱくの宝2」(部門：歴史美術展示室)
11月22日(火)～平成29年1月22日(日)

イ ポイント展

常設展示室内において、特定資料の公開を目的とした小規模展示を「ポイント展」として実施した。平成28年度が8年目である。全14回実施。うち「会津年中行事屏風」は春の企画展の関連展として開催。「手塚治虫の漆絵皿」は会津若松市歴史資料センター「まなべこ」との連携事業として実施した。

- ①「会津年中行事屏風」(部門：民俗展示室)

- 4月22日(金)～6月19日(日)
- ②「落下傘で作った着物」(部門：民俗展示室)
6月22日(水)～8月17日(水)
- ③「ふくしまの戦争資料」(総合：近現代展示室)
7月16日(土)～8月21日(日)
- ④「手塚治虫の漆絵皿」(展示ロビー)
7月29日(金)～8月21日(日)
- ⑤「いろいろな“箕(み)”集まれ！」(部門：民俗展示室)
8月19日(金)～11月30日(水)
- ⑥「収蔵資料にみる戦国の群雄」
(総合：中世展示室)
9月6日(火)～10月23日(日)
- ⑦「初公開 斎藤一の肖像写真」(展示ロビー)
9月14日(水)～9月30日(金)
- ⑧「只見町野々沢の化石」(展示ロビー)
9月22日(木・祝)～10月23日(日)
- ⑨「ふくしまの教育」(総合：近現代展示室)
10月22日(土)～11月13日(日)
- ⑩「ふくしま最古の化石」(展示ロビー)
10月25日(火)～11月27日(日)
- ⑪「近世に書かれた中世の城絵図」
(総合：中世展示室)
10月25日(火)～12月18日(日)
- ⑫「むかしの道具～ご飯をつくる・おいしくたもつ～」
(部門：民俗展示室)
12月2日(金)～平成29年3月1日(水)
- ⑬「流す雛人形・飾る雛人形」(部門：民俗展示室)
平成29年3月3日(金)～3月30日(木)
- ⑭「猪苗代湖の水利用」(総合：自然と人間)
平成29年3月3日(金)～3月31日(金)

(2) 特別展

ア 「新たな国民のたからー文化庁購入文化財展」

文化庁は国宝・重要文化財の指定をはじめ、文化財の保存と活用に関する様々な事業を行っている。その中に貴重な国民の「たからもの」である文化財が散逸したり、海外に流出したりすることを防ぐため、国が文化財を購入する事業がある。これによりこれまで多くの文化財が国の所有するところとなり、国立博物館や各地の博物館における展覧会で活用されている。また国民に文化財の鑑賞の機会を提供するため「新たな国民のたから展」として、近年国が購入した作品の一部やこれまでに国が購入し所蔵する文化財を公開承認施設で展覧する事業も毎年行っている。

平成28年度は福島県立博物館を会場に文化庁と共催するところとなり、当館の開館30周年を記念する特別展示として常設展観覧料で観覧できることとした。

- (ア) 会期 9月3日(土)～10月2日(日)
開館日数：26日間

- (イ) 会場 福島県立博物館企画展示室

- (ウ) 入館者数 11,077人

- (エ) 担当学芸員 高橋満

(オ) 趣 旨

受け継がれてきた日本文化や文化財の多様性を再発見する機会とする。とくに会津・福島県・東北地方・東日本にゆかりのある文化財を紹介して東日本大震災からの復興を祈念する意味合いを込める。そして国宝・重要文化財やこれに準ずる優れた美術品を多数展示し、普段なかなか目にすることができない価値ある文化財に接する機会を広く提供する。

(カ) 展示構成

- a 祈りの形 古代から鎌倉時代の多様な信仰の姿を多様な考古資料および仏像・経典・仏画等で紹介し震災からの復興を祈念する。
- b 武士の時代と文化戦いの道具を芸術品の域まで高めた精神性、漆工芸の粋を集めた婚礼調度品、中世社会の場面を示す古文書、「クールジャパン」と評価される日本文化の代表例として能と茶の湯の世界を取りあげ、日本文化の基底の一つをなす武士の時代の文化財を紹介する。以下の5つの小テーマで展開する。①武具の美 ②文字が語る中世 ③婚礼調度 ④能の世界 ⑤茶の湯

- c 受け継がれる文化・芸術王朝文化の代表とされる和歌や物語ものが、教養・憧憬・鑑賞の対象として多様に姿を変えて中世・近世へ伝えられ、その主題が新たな文化・芸術作品として受け継がれてきた歴史を古筆や絵画等にみる。
- 出品点数43件(国宝1件、重要文化財25件、重要美術品1件を含む)

主な展示品 国宝 太刀 銘正恒 一口 重要文化財 群仙図(曾我蕭白筆)六曲一双、木造阿弥陀如来坐像一躯、松藤文兵庫鎖太刀拵一口、太刀銘守次革包太刀拵一腰、小袖繡箔風景四季花文一領、色絵若松図茶壺仁清作一口、松尾社法楽和歌一卷、流水文銅鐸一口

(キ) 関連事業

- a オープニングセレモニー(主催者あいさつ・来賓あいさつ・ゲスト紹介・テープカット)
- 日時:9月3日(土) 9時30分～
- 会場:エントランスホール
- 列席:今井敦氏(文化庁主任調査官)、角屋由美子氏(米沢市上杉博物館学芸員)、芳賀幸雄氏(福島県立博物館友の会会長)、山田英一(当館副館長)
- b ギャラリートーク
- 案内:今井敦氏(文化庁主任調査官)、横須賀倫達氏(文化庁調査官)、高橋満・塚本麻衣子(当館学芸員)
- 日時:9月3日(土) 10時～
- 会場:企画展示室
- c 講演会
- 演題:「上杉景勝御手撰三十五腰」とは何か?
- 講師:角屋由美子氏(米沢市上杉博物館学芸員)
- 日時:9月3日(土) 13時30分～15時

会場:博物館 講堂

(3) 企画展示

歴史・美術・民俗・考古・自然の各分野が単独もしくは協力し企画した館のオリジナルなテーマに基づいた展示を中心に、期間を限定して開催している。平成28年度は、歴史分野が企画した展示を春に開催した。福島県立博物館は季節毎に年間の展示のコンセプトを設定している。春は、会津をテーマにした展示をとおして会津の魅力や再発見できるような内容を基本コンセプトとしている。

ア 春の企画展「幕末!若松!喜知松? 大須賀清光の屏風絵と番付」

(ア) 会 期 4月23日(土)～6月12日(日)

開館日数 45日間

(イ) 会 場 福島県立博物館企画展示室

(ウ) 入館者数 2,907人

(エ) 担当学芸員 歴史分野:阿部綾子

(オ) 趣 旨

幕末に活躍した若松在住の町絵師・大須賀清光(1809～75)の作品を可能な限り集めた展覧会。代表作である一連の「若松城下絵図屏風」は若松城下を鳥瞰的に描いた作品で、同構図で撮影した現代の航空写真をならべて展示し、清光の仕事がいかに丹念に行われていたかを証明した。他にもさまざまな画題の屏風作品や、番付など一連の著作物もあわせて紹介し、パリエーションに富む手法で幕末会津を大胆かつ繊細に切り取って今に伝えている清光の魅力にせまった。

(カ) 展示構成

プロローグ 謎の絵師誕生

第一章 本領發揮、若松城下絵図屏風

第二章 注文された屏風たち—さまざまな画題の大作—

第三章 挿絵から番付まで!—ゆかりの小作品—

エピローグ 最期の仕事

出品点数 若松城下絵図屏風、追鳥狩図屏風、松下群鶴図屏風、賤ヶ岳戦陣図屏風、蛤御門の変図屏風、江戸城登城風景図屏風、万民心の鑑、鶴城風雅集など54点

(キ) 関連事業

a 記念講演会「江戸城登城風景図屏風をよみとく—江戸の名所“下馬先”とは何か—」

日時:6月12日(日) 13時30分～15時

講師:岩淵令治氏(学習院女子大学教授)

場所:講堂

b こども向けイベント「めざせ江戸!清光の絵で道中すごろく」

日時:5月3日(火・祝) ①10時30分 ②13時30分

講師:当館学芸員

場所:体験学習室

c こども向けイベント「みんなで仕上げる清光作品 若松城下ドリームプラン」

日時:5月4日(水・祝) 13時30分～15時

講師：当館学芸員

場所：実習室

d 一般向け講座「江戸の番付で良妻チェック」

日時：5月15日（日）13時30分～14時30分

講師：阿部綾子（当館学芸員）

場所：実習室

e 一般向け講座「清光の挿絵で読む！メイドイン会津の教訓書」

日時：5月28日（土）13時30分～14時30分

講師：阿部綾子（当館学芸員）

場所：講堂

f 展示解説会

日時：4月23日（土）10時～ 5月15日（土）14時30分～ 5月28日（土）14時30分～ 6月11日（土）13時30分～

講師：阿部綾子（当館学芸員）

場所：企画展示室

（4） 特集展

特集展は、新しく収集した寄贈・寄託資料を中心に、特定のテーマに基づいて一定の期間開催する展示会である。平成28年度は、夏に開催した自然分野の特集展「南極の自然と南極観測」に加え、開館30周年記念事業の一環として、秋に分野合同で「収蔵庫からこんにちは」第2期中期目標で掲げている次世代ミュージアム機能の充実を図る活動として冬に「はま・なか・あいつ文化連携プロジェクト成果展」および「震災遺産を考える」の合計4本の特集展を企画展示室にて開催した。福島県立博物館は、企画展示と特集展に関して、季節毎に年間の展示のコンセプトを設定している。夏は、学校の夏休みの時期に、子どもたちが興味を持ち、家族や親子で楽しめる内容。秋は、福島をテーマにした展示をとおして県民が広く文化や歴史に親しむ機会を提供する内容。冬は東日本大震災や復興に関連する内容。

企画展示のように特別の観覧料金を設定せずに、特集展ごとに常設展観覧料で観覧できるか、無料で観覧できるように対応した。

ア 特集展「南極の自然と南極観測」

（ア）会 期 7月16日（土）～8月21日（日） 開館日数：32日間

（イ）会 場 福島県立博物館企画展示室

（ウ）入館者数 5,039人

（エ）担当学芸員 自然分野：相田優

（オ）趣 旨

この特集展は、県民に対し、南極の自然や南極観測隊の活動について理解を深め、地球の未来に目を向ける機会を提供することを目的として企画した。同時に夏休み期間中の子どもたちに自由研究のテーマを提供することもねらいとした。世代を問わず多くの県民に楽しみながら地球の自然と環境、その未来について考えてもらう機会を提供するものとした。

当館では、本県南相馬市出身の元南極観測隊員で元日本大学教授の小元久仁夫氏より、多数の南極観測関

連の資料の寄託を受けている。展示はこれらの資料を基本として構成したが、全体としてバランスの取れた展示を構成するために、国立極地研究所、国立科学博物館などからも資料・標本を借用し併せて展示した。

（カ） 主な展示資料

南極の岩石、鉱物、化石、風食岩、氷河擦痕、アザラシはく製、ペンギンはく製、魚類、藻類、隕石、観測機材、南極の氷 など
出品点数150点

（キ） 関連事業

a 記念講演会：演題「南極観測と基地生活の思い出」

日時：8月7日（日）13時30分～14時30分

場所：講堂

講師：元日本大学教授・元南極観測隊員 小元久仁夫氏

b 映画会

（a）「大いなる南極大陸」

日時：7月31日（日）13時30分～14時30分

場所：講堂

（b）「南極大陸の新たな幕開け」 「白い大陸からのメッセージ」

日時：8月13日（土）13時30分～14時30分

場所：当館講堂

c 展示解説会

（a） 講師：小元久仁夫氏

日時：8月7日（日）15時～16時

場所：企画展示室

（b） 講師：当館学芸員

日時：7月23日（土）、30日（土）、8月14日（日）13時30分～14時30分

場所：企画展示室

d 展関連イベント：アクアマリンふくしま移動水族館 アクアラバン展示

日時：8月21日（日）11時～15時

場所：当館正面前（野外）

イ 特集展「開館30周年記念 収蔵庫からこんにちは—福島県立博物館収蔵名品展—」

（ア）会 期 10月15日（土）～11月27日（日）

開館日数：36日間

（イ）会 場 福島県立博物館企画展示室

（ウ）入館者数 3,952人

（エ）担当学芸員 内山大介・各分野担当学芸員

（オ）趣 旨

福島県立博物館の開館30周年を記念する特集展として、開館記念式典の行われた10月15日を皮切りに開催された。今回の展示は、全体として収蔵品を中心に学芸員選りすぐりの逸品を紹介すること、そして30年間の博物館のあゆみを皆さんに知っていただくことをコンセプトに構成した。

（カ） 展示構成

a 博物館を支えるしごと —調査研究30年の足あと・はじめに・・・原山1号墳・・・あり！

- ・こわれた古墳時代の象嵌から見つけた作り方
- ・心にふれる一手紙でひもとく歴史
- ・自然部門展示室事始め フタバクジラが辿った歴史

b 災害を乗り越える 一祈りと記憶を未来へ

- ・救い出された絵馬と祈り
- ・よみがえれ 祝いのうつわ
- ・震災の記憶をつなぐ
- ・被災文化財保全の取り組み

c 〈昭和・平成〉博物館ものがたり

- ・30年の世相と博物館のあゆみ
- ・展覧会いま・むかし
- ・博物館の顔—展示解説員制服コレクション
出品点数150件

(キ) 関連事業

a 学芸員リレー解説会 (全3回)

日時：各回とも13時30分～15時30分

10月16日 (日) 担当分野／考古・保存・歴史・
民俗・震災

11月3日 (木・祝) 担当分野／自然・歴史・美術・震災

11月13日 (日) 担当分野／考古・保存・自然・
歴史・民俗・震災

講師：当館学芸員

場所：企画展示室

b 食のイベント「祝いの器・寿ぎの食」

日時：10月21日 (金) 14時30分～16時30分

講師：中山晴奈氏 (フードアーティスト) ・平出美穂
子氏 (郷土料理研究家)

場所：レストラン

参加費：500円 (材料費)

協力：食とものづくりスタジオFERMENT

c 記念講演会「原山一号墳の発掘調査」

日時：10月29日 (土) 13時30分～15時

講師：辻秀人氏 (東北学院大学教授)

場所：講堂

d トークイベント「祝いのうつわ～漆の力～」

日時：11月26日 (土) 13時30分～15時

講師：鞍田崇氏 (哲学者・明治大学准教授) / 小林め
ぐみ (当館学芸員)

場所：企画展示室

e 解説会&トークイベント「絵馬からよみとく地域の
歴史」

日時：11月27日 (日) 13時30分～15時

講師：「須賀川知る古 (しるこ) 会」の皆さん / 内山
大介 (当館学芸員)

場所：企画展示室

ウ 特集展「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト成
果展」

(ア) 会期

第1会場：2月4日 (土) ～4月11日 (火) 開

館日数：57日間 (3月31日時点で48日間)

第2会場：2月11日 (土・祝) ～4月11日 (火) 開

館日数：51日間 (3月31日時点で42日間)

(イ) 会場

第1会場：福島県立博物館常設展部門歴史美術展示室

第2会場：福島県立博物館企画展示室

(ウ) 入館者数 3,616人 (3月31日時点では2,596人)

(エ) 担当学芸員 川延安直・小林めぐみ・塚本麻衣子

(オ) 趣旨

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故から5年を迎え、その記憶も薄れつつある。しかし、巨大地震と原子力発電所事故が福島に限らない課題であることはこの国の多くの人が共有し続けなければならない課題である。はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトは、文化・芸術の視点から2011年以降福島が抱えている課題に向き合ってきた。地域に新たなアートを定着させ、アーティストとともに被災地の記憶をとどめ、未来そのものである子供たちにアートワークショップを通じて触れあってきた。2011年以降の福島を伝え、ともに考えることを目的に制作されたはま・なか・あいづ文化連携プロジェクトの成果作品を展示し、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトの5年間の成果をまとめて公開した。

(カ) 展示構成

岡部昌生「被爆樹×被曝し続ける樹、他」【フロタージュ作品】、片桐功教「sacrifice」【写真作品】等、出品点数約100点

(キ) 関連事業

a トークセッション「アートでつなぐはま・なか・あいづ 震災とアート、そして対話」

講師：赤坂憲雄 (当館館長/はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会委員長)

川延安直 (当館学芸員)

日時：平成29年2月23日 (木) 13時30分～15時

会場：講堂

b ギャラリートーク

講師：川延安直・小林めぐみ・塚本麻衣子 (当館学芸員)

日時：平成29年2月26日 (日)、3月26日 (日)
各13時30分～14時30分

会場：展示室

エ 特集展「震災遺産を考える～6本の年輪～」

(ア) 会期 平成29年2月11日 (土・祝)～4月11日 (火)

開館日数：51日間 (3月31日時点で42日間)

(イ) 会場 エントランスホール・企画展示室

(ウ) 観覧者数 3,616人 (3月31日時点では2,596人)

(エ) 担当学芸員 森幸彦・栗原祐斗

(オ) 趣旨

ふくしま震災遺産保全プロジェクトは、東日本大震災を「歴史」と位置づけ、震災が産み出したモノや震災を示すパシヨを「震災遺産」と名付けて、収集・保全、そして公開する取り組みを平成26年から実施してきた。本展示では、これまでに収集・保全した震災遺産からふくしまが経験した東日本大震災を振り返り、未来のふくしまについて考える機会にしようとして実施し

たものである。

(カ) 展示構成

- a あの日・あの時から
- b 断絶する「日常」
- c 思いがけない「未来」

出品点数 火災で溶けた街頭、富岡町災害対策本部のホワイトボード、東京電力女子サッカー部マリーゼのマスコットキャラクター「マリちゃん」の着ぐるみ、飯館村綿津見神社大杉の輪切り、津波で被災したJR常磐線の線路など107件

(キ) 関連事業

a 展示解説会

会期中に2回実施した。参加者は15名である。

b 「3Dデジタル震災遺構アーカイブ体験展示」

東北大学と連携して平成26年度から開始した県内所在震災遺構の3Dポイントクラウドデータ取得によるデジタル記録保存事業の成果を県内で公開する事業である。展示室内のブースにマーカーを設置し、最新技術MR(複合現実Mixed Realityの略)による3次元バーチャル映像をヘッドマウントディスプレイで閲覧する催しを3月10日(金)～3月12日(日)にかけて実施した。参加者は76名である。

c 柏崎市被災者サポートセンター「あまやどり」活動報告パネル展示

エントランスホールにおいて3月5日(日)から4月11日(火)にかけて実施し、展示初日には渡邊浩二氏と筑波匡介氏による解説会が行われた。参加者は17名である。

d トークセッション「県外避難者のいま」

講師：渡邊浩二氏(柏崎市被災者サポートセンター「あまやどり」)、筑波匡介氏(中越沖地震メモリアル「まちから」)

日時：3月23日(木) 13時30分～15時

東日本大震災の中で発生した福島第一原子力発電所の事故は、多くの県外避難者を発生させた。本トークセッションでは、新潟県柏崎市において避難者の訪問・見守り活動をしている柏崎市サポートセンター「あまやどり」の渡邊浩二氏にご講演頂いた。また、中越沖地震メモリアル「まちから」の筑波匡介氏には、中越地震および中越沖地震の経験を生かした防災教育・資料保全等の取り組み・実践についてご講演頂いた。参加者は64名である。また、トークセッション終了後に、エントランスホールに移動して柏崎市被災者サポートセンター「あまやどり」のパネル展示解説会が行われた。参加者は35名である。

e 参加型パネル展示「はじまりのごはん」

3.11オモイデアーカイブ・3がつ11にちをわすれないためにセンター(せんだいメディアテーク)が企画し、エントランスホールにおいて2月16日(木)から4月11日(火)にかけて実施した。この展示は東日本大震災発生翌日の朝ごはんの思い出や震災当時のことを付箋に記し、ブースに貼り付けていく参加型展示である。

(5) 共催展

他の機関・組織との連携の一環として、共催による展示会を開催している。「東日本大震災復興祈念～東北新聞五社事業協議会連携企画 藤森武写真展 みちのくの仏像」は、福島民報社主催、当館共催という形で開催した。

ア 共催展「東日本大震災復興祈念～東北新聞五社事業協議会連携企画 藤森武写真展 みちのくの仏像」

(ア) 会期 8月30日(火)～10月2日(日)

開館日数：29日間

(イ) 会場 福島県立博物館エントランスホール

(ウ) 入館者数 3,722人

(エ) 担当学芸員 塚本麻衣子

(オ) 趣旨

東北6県にはそれぞれに歴史と伝統をもつ、地域色豊かな仏像が数多く残されている。写真家の藤森武は師の土門拳の遺志を受け継ぎ、東北各地の仏像を撮り続けている。本展では、深い傷跡の残る東日本大震災被災地の復興への祈りをこめ、東北各地に残る魅力的な仏像の数々を、藤森武の迫力ある写真を主として紹介した。

(カ) 展示構成

藤森武「みちのくの仏像」【写真作品】

出品点数100点

(キ) 関連事業

トークイベント「藤森武が出会ったふくしまの仏像と文化」

講師：藤森武氏(写真家)、佐藤弥右衛門氏(大和川酒造社長)

聞き手：塚本麻衣子(当館学芸員)

日時：9月4日(日) 13時30分～15時

会場：講堂

(6) 指定文化財の公開

平成28年度の展示で以下の指定文化財の公開を行った。(館蔵・寄託品などは除く)。

ア 国指定

〈国宝〉

(ア) 「太刀 銘正恒」一口 文化庁(東京国立博物館)
〈重文〉

(イ) 「群仙図(曾我蕭白筆)」六曲一双 文化庁(分室)

(ウ) 「西行物語絵詞」一卷 文化庁(京都国立博物館)

(エ) 「木造阿弥陀如来坐像」一躯 文化庁(東京国立博物館)

(オ) 「松藤文兵庫鎖太刀拵」一口 文化庁(東京国立博物館)

(カ) 「太刀 銘包永」一口 文化庁(分室)

(キ) 「太刀 銘安綱」一口 文化庁(分室)

(ク) 「太刀 銘守次 革包太刀拵」一腰 文化庁(東京国立博物館)

(ケ) 「劍 銘江州甘呂俊長 延文五年庚子」一口 文化庁(分室)

(コ) 「太刀 銘則重」一口 文化庁(分室)

- (サ) 「太刀 銘備州長船住景光 元亨二年□月日」 一口 文化庁(分室)
 - (シ) 「色々威胴丸 附 大袖」 一領 文化庁(東京国立博物館)
 - (ス) 「小袖 繡箔風景四季花文」 一領 文化庁(分室)
 - (セ) 「黒楽茶碗(ムキ栗) 長次郎作」 一口 文化庁(分室)
 - (ソ) 「色絵若松図茶壺 仁清作」 一口 文化庁(京都国立博物館)
 - (タ) 「灰被天目茶碗(虹)」 一口 文化庁(九州国立博物館)
 - (チ) 「松竹双雀葦手鏡」 一面 文化庁(分室)
 - (ツ) 「紙本墨書大乘掌珍論(卷上)」 一卷 文化庁(京都国立博物館)
 - (テ) 「紙本墨書孔雀経単字音義(上卷)」 一卷 文化庁(京都国立博物館)
 - (ト) 「松尾社法楽和歌」 一卷 文化庁(分室)
 - (ナ) 「彩牋墨書大和物語 附 梨子地蒔絵歌絵文様篋」 一帖 文化庁(分室)
 - (ニ) 「紙本墨書源氏物語」 五十三帖のうち三帖(一帖「藤壺」・五帖「若紫」・九帖「葵」) 文化庁(分室)
 - (ヌ) 「後伏見天皇宸翰御消息(北山逗留之間)」 一幅 文化庁(分室)
 - (ネ) 「流水文銅鐸」 一口 文化庁(京都国立博物館)
 - (ノ) 「石製経筒」 一口 文化庁(九州国立博物館)
 - (ハ) 「山城国花脊別所経塚群出土品」 一括のうち金銅貝沙門天立像 一体・銅筒 一口・火舎 二口・花瓶 二口・六器 六口 文化庁(京都国立博物館)
- (以上、26件は特別展「新たな国民のたから—文化庁購入文化財展」で展示公開)
- 〈重文〉 磐城檜葉天神原遺跡出土品 檜葉町教育委員会(福島県) (総合: 原始展示室)

(7) 展示解説

ア 展示解説員

平成28年度の展示解説員は13名で前年度と変わらなかった。これに加えて前年度と同様に常設展示室内で2名分の監視員を委託できる予算を確保したが、展示解説員の増員を図ることができなかった。企画展についても、展示予算の中で監視員1名を予算化し、通常展示解説員1名に監視員1名を交えた体制で展示室の対応をせざるをえない状況であった。

さらに、企画展開催時には企画展示室の入口のモギリに人数を割かれるなどするため、常設展示室内に対応できる人員が不足する状況が恒常的に続いている。これらの状況に対して、学芸員による解説活動を増やし、定数減の状況を乗り切る対策をとっている。

このような展示解説員の減員により、過去に実施されていた解説員が主となる講座などは、今年度も実施できない状況であった。

また、展示解説員は来館者に展示を解説・案内することが第一の役割であるが、定数減により展示解説員1人

で対応しなければならないエリアが広がった関係で十分な解説活動ができない場合が少なくなく、最低限の監視業務を行うので精一杯の状況であることが多かった。きめ細やかな展示解説活動をはじめとしたより質の高い行政サービスを保障するために、展示解説員に対する研修を実施するなど、質的向上に向けた努力を行っているが、展示解説員の人数不足という量的課題については、引き続き検討をしていく必要がある。

展示解説員の業務は、総合ガイダンスと名付けられた受付での来館者への対応をはじめとして展示や館内の業務をよく知っている職員でなければ担当できない内容がほとんどである。現在の減員状況の中でどうかに対応している状況であるが、現在の定数では通常業務を実施する上では限界の状態であり、来館者への解説サービスを考えた場合、定数増が図られなければ、本来の業務にも支障を来す可能性が出てくる。

(ア) けんぱくハイライトツアー

展示解説員による常設展の定時解説で、開館30周年記念行事としてそれまで実施していた「やさしい展示解説会」をリニューアルさせたものである。原則的に他の行事の入っていない土曜と日曜日・祝日の午前11時、午後2時の2回開催を基本に実施している。1回の所要時間は約30分。各解説員が独自の解説ルートを開発し、それぞれ展示解説員ごとのテーマで解説会を実施している。今年度の「けんぱくハイライトツアー」は4月29日から3月26日の期間実施した。

〈実施状況〉 実施日数: 101日 総参加人数: 348人

(イ) 通し解説

不定期的に行われる常設展・企画展の解説。主として来館の個人・団体の要望に応じて展示解説員1名が全体を解説するもの。解説員の減員のため、通し解説は困難になってきているが、予約の団体の要望にこたえる形で実施してきていることが多い。

実施回数: 39回

(ウ) 部屋送り解説

不定期的常設展・企画展の解説。主として来館する個人の要望に応じ、各展示室の担当として立っている解説員が順に引き継いで解説する。

実施回数: 21回

(エ) 体験講座

体験講座などの解説員が主体となって実施する講座は解説員業務に比して人数が少ないために平成28年度も実施されなかった。

ただし、七夕の時期には竹飾り、クリスマスには手製のクリスマスツリー、小正月に合わせての団子飾り、ひな祭りの時期に自作の雛人形の段飾りなど、解説員が自分たちで作ったものを体験学習室内に展示することは継続している。

また、ゴールデンウィークを中心に時代衣装の試着体験に加え、期間限定で甲冑の試着体験も行うなど、体験的な活動の充実を図っている。

イ 学芸員

企画展および特集展の開催中は展示解説のために職員を配置する場が増えることになり、展示解説員だけでは解説員の昼休みや休憩時間の減員に対応できない状況であるため、学芸員が代わって展示室に立つことになっている。原則1コマ45分である。28年度は年間285回を数えた。学芸員が展示室に立つことは単なる解説員の肩代わりではなく、実際に展示室に立つことにより得るもの、気づくものが多かったが、通常業務とのバランスの点で今後の検討が必要である。

また、企画展、テーマ展、特集展については、公民館研究団体などからの依頼に応じて、担当分野の学芸員が展示解説を実施した。

ウ 展示解説のための印刷物

(ア) 福島県立博物館ガイドブック

常設展の展示内容をコンパクトに解説。裏方の館活動も紹介。昭和61年発行。28 p.

(イ) Fukushima Museum Permanent Exhibition Guide Book

英文の展示解説パンフレット。希望する来館者に無償配布。平成18年発行。14 p.

(8) 体験学習室

エントランスホール隣に設置してある無料で使用できる場所。囲炉裏のついた畳敷きの座敷と木のフローリングの部分がある。昔のおもちゃが用意されていて、自由に遊べるほか、季節ごとに昔の着物を着ることができる。着付けは衣服の上からだがかなり本格的で好評を得ている。また、資料に触れるハンズオンコーナーは半年ごとの入れ替えになっている。この部屋には展示解説員が常駐し来館者に対応している。

ア 衣装

(ア) 衣装着付け

体験学習室で時代衣装の着付け体験を行っている。着衣のままその上に着る形ではあるが、かなり本格的な衣装着付けであり、展示解説員は着付けの技術をきちんと学ばなければならないし一回の時間もかかる。しかし、他の博物館ではここまできちんと着つけることはそれほど多くはないと思われ、当館の体験学習室のセールス・ポイントでもある。

a 衣装着付け件数 534件

b 着付けた衣装

春：打掛・半袴 夏：水干・直垂

秋：天武朝女官朝服・推古朝朝服

冬：白拍子・当世具足

衣装の着付けはかなり本格的なものなので、そのため解説員の研修時間も長くなり、多人数の要望には一度に比べ難い面もある。しかし、着終わった姿を鏡に映したり、デジカメで撮影したりして満足する来館者が多く見られる。

(イ) 衣装展示

春：壺装束・大鎧 夏：編綴・武士旅姿

秋：小袖・古墳時代男子 冬：素襖・稚児鎧

イ 手作り資料展示

季節に関する手作りの資料を展示した。製作は展示解説員が担当。

7月：七夕飾り / 12月：クリスマスツリー /

1月：団子さし / 3月：手作り雛人形

ウ おもちゃ

畳の上で幼児におもちゃで遊ばせるお母さんや家族連れが多くみられる。壁の引き出しに用意されているおもちゃの利用も多い。修理を必要とするおもちゃもあり、解説員の係で担当している。

おもちゃの修理：78件

エ ハンズオンコーナー

来館者が展示品を実際に手に取り使用法を体験できるコーナー

平成28年4月～平成29年3月「古代の音色と輝き」（考古分野）

平成28年7月～平成28年9月「蚊帳体験」（民俗分野）

(9) リニューアルの検討

リニューアルに向けて、調査・研究を行うためにプロジェクトチームを設置して活動した。会議は通年で13回実施し、下記の内容について協議した。

ア これまでの経緯の確認

イ 当館の現状の把握：リニューアルのための課題・問題点の抽出・整理

ウ 過去の常設展アンケートの見直し

エ 館長講座「みんなで、明日の博物館について語ろう」参加者意見などの記録

オ リニューアルの基本方針・スケジュールについての検討

今年度は、チームのメンバーが大きく入れ替わったために、①②のような昨年度までの活動の継承から始め、次年度以後の本格的な基本構想策定の基礎を固めることに努めた。

5 調査研究事業

(1) 展示資料調査研究

将来の博物館リニューアルに向けて、新たなる研究成果と展示資料の収集のため、考古・歴史・民俗・美術・自然の各分野がテーマを設定して調査を実施している。平成28年度は、以下の4テーマの調査を実施した。

ア 山口弥一郎調査資料の研究

(ア) 分野 民俗

(イ) 趣 旨

山口弥一郎(1902-2000)は旧・新鶴村に生まれ、東北の地理学・民俗学研究に多大な業績を残した。近年では東日本大震災を経て著書『津浪と村』(1943年刊)が復刊され、津波災害と集落移動に関する研究が全国的に注目を集めている。しかし、磐梯山慧日寺資料館(磐梯町)に一括して収蔵されている山口が残した調査ノートや写真、蔵書などは、体系的な整理や目録作成にまで至っていない。本研究では磐梯町の協力のもと、同資料の整理・調査を進めることで、山口弥一郎の調査研究を見

直し、人文科学的側面からの災害研究の新しい方向性を探っていく。

(ウ) 調査概要

磐梯町と福島県立博物館で昨年度に取り交わした協約書にもとづき、平成28年度も引き続き山口弥一郎旧蔵資料の整理を進めた。調査ノートや文書類について標題・年代等を目録化し、また写真撮影等を行った。

イ 考古資料による原始・古代の画期の再検討

(ア) 分野 考古

(イ) 趣旨

縄文時代後半期から弥生時代初頭とⅡ古墳時代終末期から奈良時代（6世紀末～8世紀）の2つの時期を取り上げ、当館収蔵の当該期の考古資料を中心に取り上げ、資料の有する社会的背景を考察し、本県における原始・古代の時代変遷の画期を検討し考古地域史の確立を目指すものである。

(ウ) 調査概要

縄文時代では、南相馬市東町遺跡の複式炉土壌の水洗を行い、当時の周辺環境植生や燃料材や植物性植物の抽出を行い、量的に安定しているサンプルから周辺植生の把握に迫るデータを取得した。また県内出土古人骨の安定同位体分析に着手した。弥生時代では熊本大学と共同で土器付着炭化種子同定のための3次元計測を実施した。古墳時代では、大熊町棚和子古墳出土土器のデジタル図化を委託により実施した。また会津坂下町長井前の山古墳の発掘調査報告書を刊行した（紀要に掲載）。また福島市梅本古墳出土象嵌刀装具の調査知見を学会にて口頭発表した。

ウ 福島県産中生代軟体動物化石の研究

(ア) 分野 自然

(イ) 趣旨

福島県内には相馬地方にジュラ系相馬中村層群、いわき地方に白亜系双葉層群という中生代の地層が分布している。これらの地層からはアンモナイトや二枚貝や巻貝といった軟体動物化石を豊富に産することが知られ、特に近年は地元の化石収集家の努力によって多くの標本が発見されてきた。

しかし、これらの標本については鑑定が不十分なものもあり、論文などで発表されていないものも多い。そこで、これらの中生代軟体動物化石について鑑定内容を確認した上で成果を論文として記録・公表し、当館所蔵標本を充実させることを目指す。また、新たに追加した標本を展示する機会を設け、さらなる標本の発見・評価につなげる。

(ウ) 概要

相馬地方のジュラ系相馬中村層群の化石産地について現地調査を行った。現地調査の際には、特に巻貝のネリネア類の産状を確認、採取した。福島県立博物館に寄託されている巻貝化石について、写真撮影・鑑定作

業を進めている。

エ 戊辰戦争資料の研究

(ア) 分野 歴史

(イ) 趣旨

平成30年に戊辰戦争から150年の節目をむかえる。戦争の激戦地となり、日本の歴史が転換する舞台となった本県でも、改めて戊辰戦争の意義について問い直す必要がある。そのため戦争の経過及び戦後の復興過程までを対象として3年計画で資料調査を進め、新たな資料の発掘を行い、3年目の平成30年には調査成果を盛り込んだ企画展の開催を目指す。

(ウ) 調査概要

研究の初年度となる平成28年度は、戊辰戦争を題材とした絵画資料、白虎隊士関係資料、斗南藩関係資料を中心に調査を実施し、これまであまり知られていなかった新資料の掘りおこしにつとめた。

(2) その他の調査研究事業

ア 古文書整理事業

古文書類の調査・研究は、福島県の歴史をさぐるために欠かせない。しかし古文書を歴史資料として活用するためには、1点ずつ整理を行い、表題・年代・形態・法量・状態などのデータを採取した上で、博物館資料として登録する必要がある。このため、購入・寄贈・寄託などにより当館で受け入れた古文書の整理・登録作業を行っている。また古文書原本を状態よく保存し後世に伝えていくため、古文書をマイクロ撮影し、原本のかわりに閲覧用に提供している。

平成28年度は、前年度に引き続き松崎達夫家寄贈資料（若松城下菓種問屋文書）の整理を継続して実施したほか、新たに久米幹男家寄贈資料（絵はがき類）・斎藤恵美子家寄託資料（会津藩士篠澤家文書）・安斎勇雄コレクション等の整理作業を行った。また整理済だが未登録であった会津藩家世実紀の登録・公開、登録済だが未公開であった福島義子家寄贈資料（喜多方市福島家文書）・山本重義寄贈資料（会津藩士山本家文書）、鈴木安信コレクションの公開も合わせて行った。マイクロ撮影は前年度に引き続き「築田家追加寄託資料」の撮影を行った。

6 教育普及事業

(1) 講座・講演会

当館では館長と学芸員による各種講座を開催しているが、そのほかにも、外部に講師を依頼しさまざまな講座・講演会等を実施している。平成28年度の各講座開催数は120、総参加者数は8,229人であった。前年度（平成27年度）の開催回数は116回で今年度は4回多かった。総参加者数は前年度7,295人で、934人の増加、前年比113%であった。以下は個別講座・講演等の一覧である。

平成28年度講座・講演会等の回数と参加者数

テーマ	回数	参加者数
(1) 館長講座	12	598
(2) 考古学講座	10	160
(3) 民俗講座	3	75
(4) 歴史講座	5	342
(5) 自然史講座	1	6
(6) 保存科学講座	1	6
(7) ギャラリートーク	6	69
(8) 指導者向け研修 (中止)	0	0
(9) 実技講座	5	69
(10) 実演	2	66
(11) 企画展開連行事 (記念講演・シンポジウム・講座・展示解説会等)	27	1,335
(12) ミュージアムイベント	7	1,125
(13) 30周年記念イベント	17	2,250
(14) 復興応援パートナー事業	2	256
(15) 博学連携事業	5	110
(16) 共催事業	2	422
(17) 後援事業	7	621
(18) 企画展・特集展内覧会 (友の会)	8	719
計	120	8,229

平成28年度講座・講演会等行事一覧

ア 館長講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
館長講座1 『みんなで、明日の博物館について語ろう』 ①～博物館設立の経緯と考え方を聴く～	赤坂憲雄 (館長) 鈴木 啓 (初代学芸課長) 高橋 充 (学芸員)	4月21日 (木)	45
館長講座2 『みんなで、明日の博物館について語ろう』 ②～博物館を支えてくれた人たちの声～	赤坂憲雄 (館長) 芳賀幸雄 (友の会長) 鈴木幸治 (前友の会長) 佐藤弘子 (元友の会長) 田中 敏 (学芸課長)	5月19日 (木)	38
館長講座3 「みんなで、明日の博物館について語ろう」 ③ ～震災遺産と博物館～	赤坂憲雄 (館長) 高橋 満 (学芸員)	6月16日 (木)	42
館長講座4 「みんなで、明日の博物館について語ろう」 ④ ～福島県の自然史博物館のあり方と県立博物館の役割～	赤坂憲雄 (館長) 黒沢高秀 (福島大学教授) 竹谷陽二郎・猪瀬弘瑛 (学芸員)	7月21日 (木)	48
館長講座5 「みんなで、明日の博物館について語ろう」 ⑤ ～学校教育の中での博物館の役割～	赤坂憲雄 (館長) 荒木隆・江川トヨ子 (学芸員)	8月18日 (木)	35
館長講座6 「みんなで、明日の博物館について語ろう」 ⑥ ～「近世」・「近代」の展示を再考する～	赤坂憲雄 (館長) 阿部綾子・栗原祐斗 (学芸員)	9月15日 (木)	40
館長講座7 「みんなで、明日の博物館について語ろう」 ⑦ 博物館と地域～三十三観音めぐりでつなぐ会津仏教文化～	赤坂憲雄 (館長) 堀口一彦 (にしあいづ観光交流協会) 塚本麻衣子 (学芸員)	10月20日 (木)	54
館長講座8 「みんなで、明日の博物館について語ろう」 ⑧ 拡張する博物館～会津・漆の芸術祭から森のはこ舟アートプロジェクトまで～	赤坂憲雄 (館長) 伊藤達矢 (東京藝術大学特任准教授) 小林めぐみ (学芸員)	11月17日 (木)	43
館長講座9 「みんなで、明日の博物館について語ろう」 ⑨ 基本に立ち返る博物館～博物館の資料と展示とは～	赤坂憲雄 (館長) 内山大介 (学芸員)	12月15日 (木)	45
館長講座10 「東日本大震災を考える」 ①～会津から見た被災地～	赤坂憲雄 (館長) グローバルリーダー育成事業アメリカ研修生 (県立会津高等学校)	1月19日 (木)	63
館長講座11 「東日本大震災を考える」 ②～アートでつなぐはま・なか・あいづ 震災とアート、そして対話～	赤坂憲雄 (館長) 川延安直 (学芸員)	2月23日 (木)	81
館長講座12 「東日本大震災を考える」 ③～県外避難者のいま～	赤坂憲雄 (館長) 渡邊浩二 (地域活動サポートセンター柏崎) 筑波匡介 (中越沖地震メモリアル「まちから」)	3月23日 (木)	64

イ 考古学講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
考古学講座「縄文土器を作ろう」1	森 幸彦 (学芸員)	8月6日 (土)	9
考古学講座「縄文土器を作ろう」2	森 幸彦 (学芸員)	8月7日 (日)	9
考古学講座「縄文土器の野焼き」	森 幸彦 (学芸員)	10月2日 (日)	15
考古学講座「勾玉・ガラス玉を作ろう」	高橋 満 (学芸員)	3月25日 (土)	20
考古学講座「交通路からみた古墳時代」	荒木 隆 (学芸員)	11月23日 (水・祝)	35
交流会「サロン ド 考古学 1」	荒木 隆 (学芸員)	5月14日 (土)	14
交流会「サロン ド 考古学 2」	荒木 隆 (学芸員)	7月9日 (土)	12
交流会「サロン ド 考古学 3」	荒木 隆 (学芸員)	9月10日 (土)	11
交流会「サロン ド 考古学 4」	荒木 隆 (学芸員)	11月19日 (土)	14
交流会「サロン ド 考古学 5」	荒木 隆 (学芸員)	1月14日 (土)	10
交流会「サロン ド 考古学 6」	荒木 隆 (学芸員)	3月5日 (土)	11

ウ 民俗講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
「なぜ敷居を踏んではいけないの？ーあの世とこの世の民俗入門ー」	大里正樹 (学芸員)	11月12日 (土)	30
「大正月と小正月ってなにが違うの？ー正月行事の民俗入門ー」	江川トヨ子 (学芸員)	12月18日 (日)	25
「雛人形を早く片づけないと婚期が遅れるの？ー節句の民俗入門ー」	内山大介 (学芸員)	1月21日 (土)	20

エ 歴史講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
幕末維新期の人物①「“石”を愛した会津藩士・田村三省」	高橋 充 (学芸員)	2月4日 (土)	70
幕末維新期の人物②「知られざる斗南藩権大参事・原田五郎右衛門」	阿部綾子 (学芸員)	2月18日 (土)	81
幕末維新期の人物③「幕府の儒者とその弟子の活躍・安積良斎と中村正直」	佐藤洋一 (学芸員)	2月25日 (土)	68
幕末維新期の人物④「三春藩出身の自由民権家・河野広中」	栗原祐斗 (学芸員)	3月4日 (土)	65
幕末維新期の人物⑤「ふくしまの医療人ー近代医学の発展に貢献した人々ー」	田中伸一 (学芸員)	3月18日 (土)	58

オ 自然史講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
移動講座「化石をさがそう」 (中止)	猪瀬弘瑛ほか (学芸員)	9月18日 (日)	
移動講座「化石標本をつくろう」 (中止)	香内修ほか (学芸員)	9月19日 (月・祝)	
野外講座「鶴ヶ城の野鳥」	古川裕司 (野鳥研究家)	11月13日 (日)	6

カ 保存科学講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
高校生向け「文化財保存のための科学」	杉崎佐保恵 (学芸員)	5月21日 (土)	6

キ ギャラリートーク

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
ギャラリートーク 親子で楽しむふくしまの歴史と自然①「縄文時代のふくしま」	荒木 隆 (学芸員)	4月9日 (土)	12
ギャラリートーク 親子で楽しむふくしまの歴史と自然②「弥生時代のふくしま」	荒木 隆 (学芸員)	6月11日 (土)	10
ギャラリートーク 親子で楽しむふくしまの歴史と自然③「古墳時代のふくしま」	荒木 隆 (学芸員)	8月13日 (土)	11
ギャラリートーク 親子で楽しむふくしまの歴史と自然④「奈良・平安時代のふくしま」	荒木 隆 (学芸員)	10月8日 (土)	13
ギャラリートーク 親子で楽しむふくしまの歴史と自然⑤「鎌倉・室町時代のふくしま」	荒木 隆 (学芸員)	12月10日 (土)	12
ギャラリートーク 親子で楽しむふくしまの歴史と自然⑥「江戸時代のふくしま」	荒木 隆 (学芸員)	2月11日 (土)	11

ク 指導者向け研修

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
博物館利用指導者研修会（中止）	田中伸一ほか（学芸員）	8月3日（水）	

ケ 実技講座

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
唐人風ってなんだ？「ぷかぷか唐人風をつくろう」	斎藤歩美（山形大学工芸研究室）	4月30日（土）	12
「須賀川の絵のぼり・小旗をつくろう」	大野青峯・大野久子（伝統技術保持者）	5月5日（木・祝）	13
会津・三島の編み組み細工「ヒロロの小物入れ作り」	角田キイ子・海老名一子（伝統技術保持者）	7月9日（土）	10
会津・三島の編み組み細工「ヒロロの小物入れ作り」	角田キイ子・海老名一子（伝統技術保持者）	7月10日（日）	10
唐人風ってなんだ？「唐人和風をつくろう」	斎藤歩美（山形大学工芸研究室）	7月24日（日）	14
「縄文時代の編み物を再現しよう！」	本間一恵（バスケットリー作家）	1月15日（日）	10

コ 実演

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
「大堀相馬焼の絵付け」	山田慎一（大堀相馬焼窯元 いかりや商店白河工房）	6月19日（日）	41
「昔語り」	横山幸子（語り部）	9月17日（土）	25

サ 企画展関連行事（記念講演・シンポジウム・講座・展示解説会等）

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
企画展「幕末！若松！喜知松？大須賀清光の屏風絵と番付」 展示解説会	阿部綾子（学芸員）	4月23日（土）	20
企画展「幕末！若松！喜知松？大須賀清光の屏風絵と番付」 関連イベント 「めざせ江戸！清光の絵で道中すごろく」	阿部綾子（学芸員）	5月3日（火・祝）	56
企画展「幕末！若松！喜知松？大須賀清光の屏風絵と番付」 関連イベント 「みんなで仕上げる清光作品 若松城下ドリームプラン」	阿部綾子（学芸員）	5月4日（水・祝）	14
企画展「幕末！若松！喜知松？大須賀清光の屏風絵と番付」 関連イベント 「江戸の番付で良妻チェック」	阿部綾子（学芸員）	5月15日（日）	10
企画展「幕末！若松！喜知松？大須賀清光の屏風絵と番付」 展示解説会	阿部綾子（学芸員）	5月15日（日）	20
企画展「幕末！若松！喜知松？大須賀清光の屏風絵と番付」 関連イベント 「清光の挿絵で読む！メイドイン会津の教訓書」	阿部綾子（学芸員）	5月28日（土）	42
企画展「幕末！若松！喜知松？大須賀清光の屏風絵と番付」 展示解説会	阿部綾子（学芸員）	5月28日（土）	28
企画展「幕末！若松！喜知松？大須賀清光の屏風絵と番付」 展示解説会	阿部綾子（学芸員）	6月11日（土）	20
企画展「幕末！若松！喜知松？大須賀清光の屏風絵と番付」 関連イベント 記念講演会『江戸城登城風景図屏風を読み解く—江戸の名所”下馬先”とはなにか？—』	岩淵令治（学習院女子大学教授）	6月12日（日）	77
特集展「南極の自然と南極観測」 展示解説会	相田 優他2名（学芸員）	7月23日（土）	2
特集展「南極の自然と南極観測」 展示解説会	相田 優他2名（学芸員）	7月30日（土）	7
特集展関連映画会 「大いなる南極大陸」	相田 優（学芸員）	7月31日（日）	45
特集展記念講演会 「南極観測と基地生活の思い出」	小元久仁夫（日本大学名誉教授・元南極観測隊員）	8月7日（日）	49
特集展「南極の自然と南極観測」 展示解説会	小元久仁夫（日本大学名誉教授・元南極観測隊員）	8月7日（日）	35
特集展関連映画会 「南極大陸の新たな幕開け」・「白い大陸からのメッセージ」	香内 修（学芸員）	8月13日（土）	30
特集展「南極の自然と南極観測」 展示解説会	相田・香内・猪瀬（学芸員）	8月14日（日）	7
特集展関連イベント 「アクアマリンふくしま移動水族館アクアラバン展示」	アクアマリンふくしま	8月21日（日）	548

サ 企画展関連行事（記念講演・シンポジウム・講座・展示解説会等）

テーマ	講師・所属等	期日	参加人数
特別展 『新たな国民のたから-文化庁購入文化財展-』 オープニングセレモニー	高橋満（学芸員）	9月3日（土）	22
特別展 『新たな国民のたから-文化庁購入文化財展-』 解説会	横須賀倫達（文化庁文化財調査官）	9月3日（土）	60
特別展 『新たな国民のたから-文化庁購入文化財展-』 記念講演会 「〈上杉景勝御手撰三十五腰〉とは何か？」	角屋由美子（米沢市上杉博物館学芸員）	9月3日（土）	92
特集展「収蔵庫からこんにちは一福島県立博物館収蔵名品展」リレー展示解説会	当館学芸員	10月15日（土）	10
特集展「収蔵庫からこんにちは一福島県立博物館収蔵名品展」記念講演会『原山一号墳の発掘調査』	辻秀人（東北学院大学教授）	10月29日（土）	22
特集展「収蔵庫からこんにちは一福島県立博物館収蔵名品展」 関連 食のイベント「祝いの器・寿ぎの食」	平出美穂子・中山晴奈・小林めぐみ	10月30日（日）	17
特集展「収蔵庫からこんにちは一福島県立博物館収蔵名品展」 リレー展示解説会	当館学芸員	11月3日（木・祝）	18
テーマ展関連講演会「カエルに惹かれる理由とカエルグッズを集める楽しみ」	高山敬子・高山ビッキ（100年カエル館学芸員）	11月5日（土）	30
特集展「収蔵庫からこんにちは一福島県立博物館収蔵名品展」 リレー展示解説会	当館学芸員	11月13日（日）	13
特集展「収蔵庫からこんにちは一福島県立博物館収蔵名品展」 関連トークイベント 「絵馬が語る地域の歴史」	須賀川知る古会	11月26日（土）	41

シ ミュージアムイベント

テーマ	講師	担当者	期日	参加人数
玄如節と日本の民謡	玄如節頭彰会	内山・大里	6月25日（土）	105
夏休み子ども野外映画会「天空の城ラピュタ」		小林・竹谷・田中伸一	7月18日（月・祝）	214
会津磐梯山・市民盆踊り	会津磐梯山盆踊り保存会	内山・藤原・佐治・江川	8月15日（月）	330
夏休みナイトミュージアム	当館学芸員	相田・栗原・大里・高橋満・佐藤	8月20日（土）	76
ハワイアン in けんぱく	モハル・ハワイアンズ	香内・塚本・猪瀬	8月27日（土）	163
親子でやすらぐ子守唄コンサート	日本子守唄協会	江川・猪瀬・森	10月28日（金）	52
クリスマスクラシックライブ	f l. 市島徹 vio. 常光今日子 pia. 津山博子 語り渡辺奈菜	杉崎・高橋充・森	12月17日（土）	185

ス 30周年記念イベント

テーマ	講師	担当者	期日	参加人数
『のぞいてみよう！！けんぱくの裏側 ①』	荒木 隆	学芸員	4月16日（土）	15
『のぞいてみよう！！けんぱくの裏側 ②』	荒木 隆	学芸員	6月18日（土）	11
『のぞいてみよう！！けんぱくの裏側 ③』	荒木 隆	学芸員	8月20日（土）	17
『のぞいてみよう！！けんぱくの裏側 ④』	荒木 隆	学芸員	10月22日（土）	20
『けんぱく暗闇探検隊 ①』	荒木 隆	学芸員	5月7日（土）	17
『けんぱく暗闇探検隊 ②』	荒木 隆	学芸員	7月2日（土）	41
『けんぱく暗闇探検隊 ③』	荒木 隆	学芸員	9月3日（土）	30
『けんぱく暗闇探検隊 ④』	荒木 隆	学芸員	11月5日（土）	32
『探検！けんぱく七不思議』	荒木 隆	学芸員	7月～3月	1200
『けんぱく川柳～ひねってみました』	荒木 隆	学芸員	4月～3月	61
『おめでとう けんぱく！開館30周年記念式典』		総務課	10月15日（土）	185
対談 『ことばの力 文化の力 復興の力』	赤坂憲雄・やすみりえ	森幸彦・荒木隆	10月15日（土）	68
『けんぱく感謝祭1—東山芸妓さんと祝う けんぱく30年』	東山芸妓組合	美術分野	10月15日（土）	150

ス 30周年記念イベント

テーマ	講師	担当者	期日	参加人数
『作って！見て！感じる！ふくしま技の世界』（実技・実演フェスティバル）	伝統技術保持者	民俗分野・歴史分野	10月16日（日）	133
『博物館でも読み聞かせ』	読み聞かせボランティア	荒木 隆	10月16日（日）	25
30周年記念 『会津鶴ヶ城太鼓 若駒会』祝賀公演	会津鶴ヶ城太鼓 若駒会	学習支援班	10月16日（日）	70
『けんぱく感謝祭2—博物館の新たな門出を獅子ステップで祝おう』（会津彼岸獅子）	会津彼岸獅子	佐治 靖・荒木隆	3月12日（日）	175

セ 復興応援パートナー事業

テーマ	主催	講師・所属等	期日	参加人数
映画上映会&トークイベント『福島桜紀行』	『福島桜紀行』上映実行委員会	映画監督 銚井 喬 浪江町商工会長 原田雄一 NPOはるなか理事長 佐藤 光信	4月23日（土）	46
2017ふくしま復興の集いinあいづ	福島県会津地方振興局		3月11日（土）	210

ソ 博学連携事業

テーマ	主催	担当	期日	参加人数
会津大学ソフトウェアスタジオ館内見学会	会津大学	高橋充・森	5月6日（金）	20
若松四中美術部コラボ「むかしの町とそこに生きた人々の様子を描こう」	会津若松市立第四中学校	江川・大里	5月31日（火）	27
若松四中美術部コラボ「ドキドキ土器作り」	会津若松市立第四中学校	江川・森	7月2日（土）	27
会津大学ソフトウェアスタジオ成果発表会	会津大学	高橋充・森	7月29日（金）	20
若松一中美術部コラボ「土偶作り」	会津若松市立第一中学校	江川・森	9月3日（日）	16

タ 共催事業

テーマ	主催	講師・所属等	期日	参加人数
東日本大震災復興祈念～東北新聞五社事業協議会連携企画～藤森武写真展関連講演会「藤森武が出会ったふくしまの肖像と文化」	東北新聞五社事業協議会	写真家 藤森 武	9月4日（日）	120
ポケモン映画上映会「ボルケニオンと機巧のマギアナ」	ポケモン映画製作委員会「ピカチュウプロジェクト」		2月26日（日）	302

チ 後援事業

テーマ	主催	講師・所属等	期日	参加人数
「奈良と会津1200年の絆」	奈良と会津1200年の絆」実行委員会		4月24日（日）	168
全会津公立小中学校事務職員研究協議会総会・研修会	全会津公立小中学校事務研究協議会		6月17日（金）	110
福島県自然史博物館設立推進協議会総会	福島県自然史博物館設立推進協議会		7月21日（木）	20
会津史学会歴史文化講演会「会津が生んだ炎の名僧・日什大正師」	会津史学会	教胤寺（千葉）小松正学氏	11月6日（日）	53
会津民俗学会公開講演「東山廃村に生きた女性の半生」	会津民俗学会	滝沢洋之・長郷寅二・吉田邦吉	11月20日（日）	145
会津史談会公開文化史講座「三十三観音のいま、むかし」	会津史談会	当館学芸員 塚本麻衣子	11月25日（金）	61
平成28年度土木学会選奨土木遺産の認定受賞式・記念フォーラム	土木学会	鉄道総合技術研究所 小野田 滋 他	12月10日（土）	64

ツ 企画展・特集展内覧会等（友の会）

テーマ	主催	講師・所属等	期日	参加人数
企画展 『幕末！若松！喜知松？ 大須賀清光の屏風絵と番付』内覧会	歴史分野	阿部綾子	4月22日（金）	50
特集展 『南極の自然と南極観測』内覧会	自然分野	相田 優	7月15日（金）	60
特別展 『新たな国民のたから-文化庁購入文化財展-』展示解説会	分野合同	当館学芸員	9月3日（土）	60
特集展『収蔵庫からこんにちは』内覧会	分野合同	当館学芸員	10月14日（金）	6
友の会イベント 会津室内楽団アンサンブル「Coder anni」コンサート	博物館友の会		9月18日（日）	170
友の会イベント 30周年記念イベント県博友の会映画祭 「ナイトミュージアム エジプト王の秘密」・「超高速！参勤交代」	博物館友の会		10月1日（土）	303
友の会イベント 30周年記念イベント 「化石発掘探検活動・鉱物ミニ展示会」	博物館友の会		10月2日（日）	40
友の会イベント 30周年記念イベント 「古文書愛好会 古文書解説学習会」	博物館友の会		10月2日（日）	30

（2） 学校・文化施設との連携

各種学校および文化施設との連携を図りながら、次の事業を展開した。

ア 展示室での自主学習

常設展示室における児童・生徒の学習活動が有意義なものとなるように、発達段階や見学の目的などに応じた2種類のワークシートを準備している。

（ア） 博物館見学のしおり（小・中学生用）

常設展示室の展示資料を見る際のポイントを与えるように設問形式で構成されており、書き込みながら学べるようになっている。児童・生徒は自分のペースで見学し、自由な考察ができる。個人および団体来館する小・中学生全員に受付で配布している。

（イ） ワークシート

小学校高学年から中学生向けに作成されていて、常設展示を構成する6つの大テーマに沿うかたちで、展示室内の主要な資料を題材に取り上げている。当館ホームページからダウンロードすることによって、学習の目的に応じて選択し利用できる。

イ 団体体験学習プログラム

児童・生徒が博物館の資料を用いながら体験をすることは、多様なものの見方や考え方を育む上で有効である。当館では入館団体の多様なニーズに対応すべく、事前

申込制による「原始・古代のワザに挑戦（考古分野）」「化石にふれてみよう（自然分野）」「紙すきハガキづくり（民俗分野）」「昔の道具体験（民俗分野）」「度量衡の統一と農民の暮らし（歴史分野）」の5つの団体体験学習プログラムを準備している。昨年度同様、小学3年生の授業と連動した内容となっている「昔の道具体験」は実施回数、人数とも増加した。

○体験学習プログラム実施状況

- 「原始・古代のワザに挑戦（考古分野）」8回 233名
 - ・勾玉づくり 6回 197名
 - ・石器で切ってみよう 2回 36名
 - 「化石にふれてみよう（自然分野）」1回 27名
 - 「紙すきハガキづくり（民俗分野）」0回 0名
 - 「昔の道具体験（民俗分野）」14回 405名
 - 「度量衡の統一と農民の暮らし（歴史分野）」2回 39名
- 合計 25回 704名

ウ ゲストティーチャー

当館学芸員がもつ専門知識や経験を館外で有効に活用してもらうため、学校等教育機関の要請に応じて現地に赴き、体験学習や講話を中心とした授業を担当している。

ゲストティーチャー実施一覧

月 日	講 師	分野	内 容	実施先	科目
6月1日	高橋 充	歴史	蒲生氏郷について	福島県立若松商業高等学校	総合的な学習の時間
6月8日	高橋 充	歴史	若松城下の町と商業	福島県立若松商業高等学校	総合的な学習の時間
7月5日	小林めぐみ	美術	会津の漆器	福島県立会津学鳳高等学校	総合的な学習の時間
7月20日	相田 優	自然	博物館資料論	福島大学	講義
10月5日	森 幸彦	考古	縄文時代の三島	三島町立三島中学校	総合的な学習の時間
10月21日	内山大介	民俗	まちの歴史と地域の宝～三島町の年中行事～	三島町立三島中学校	総合的な学習の時間
2月7日	内山大介 大里正樹 江川トヨ子	民俗	昔の道具	会津若松市立城北小学校	総合的な学習の時間

7 東日本大震災からの復興支援

平成23年3月11日午後2時46分、宮城県牡鹿半島沖の海底を震源としたマグニチュード9.0の大地震が発生した。震源域は岩手県沖から茨城県沖までの南北約500km、東西約200kmの広範囲に及んだ。福島県立博物館のある会津若松市は震度5強の揺れを被った。福島県立博物館では、建物の躯体そのものには被害はなかった。しかし、設備および資料に若干の被害があり展示室の安全性の確認と修繕工事のため当面のあいだ休館とした。再開したのは平成23年4月12日（火）である。

福島県は地震とそれに伴う津波、そして東京電力福島第一原子力発電所の事故により甚大な被害を被った。当館では震災からの復興支援を目的として、平成24年度に新たに「ふくしまの文化・自然遺産の発掘と再生プロジェクト」を立ち上げた。これは次の3つの柱からなっている。

1 ふくしまの宝の発掘と保全

市町村や文化施設および大学等と連携し、被災地域の文化財の救出と保全を図るとともに、地域の宝である文化財や自然史資料を改めて調査・収集し、その価値を明らかにすることに努める。

2 ふくしまの宝の公開と活用

救出および新たに収集した文化財およびその研究成果をさまざまな形で県民に発信し、地域の誇りをとりもどすとともに、それらを教材として、ふくしまの未来を担う子供たちの育成を図る。

3 ふくしまの再生と活性化

文化施設や地域の文化団体、市民グループと連携し、文化資源を活用した地域おこし、文化的事業の開催など、文化の力を用いて地域の再生と活性化を図る。

このコンセプトに基づいて復興支援の事業を展開している。

また、東日本大震災の翌年あたりから浜通り地方の復興事業に伴う事前発掘調査が年々増大している。福島県教育委員会では発掘調査を担当できる職員に限りがあるため、他都道府県教育委員会に職員の派遣に関する協力を依頼し、毎年6名前後の職員を派遣していただいている。平成28年度は、当初計画よりも発掘調査が必要な事案が増え、既存の県教育委員会担当職員では対応が難しい状況となったため、当館考古分野の学芸員が急遽、発掘調査の実施について協力を行うことになった。

このような経過により、平成28年度は次の事業を実施した。

(1) 文化財・自然資料レスキュー

ア 平成28年度の活動

(ア) レスキュー作業の体制

前年度から継続して「福島県被災文化財等救援本部」（以下「救援本部、当館は副代表・幹事・事務局」）に参画して活動した。幹事会1回、会議1回。

(イ) 被災資料への対応

大熊町・富岡町に続いて、双葉町歴史民俗資料館に収蔵されていた資料の搬出作業が、平成28年5月に終了した。3町の資料館の収蔵資料を保管する福島県文化財センター白河館（まほろん）の仮収蔵庫の環境調査については、今年度も継続して協力した。

警戒区域の再編や解除などが進み、住民の帰還が始まる中で個人所有の資料などの保全が、あらためて必要になってきた。当該市町村など関係機関と協力しながら、民俗資料など2件を当館で受け入れた。震災後から受け入れてきた資料については、整理作業を継続して行い、また資料の返還も3件あった。

(ウ) 救出された資料の展示公開

- a 当館テーマ展「ふるさとの考古資料6【飯館村】遺跡探訪」（平成27年度から継続）
- b 当館テーマ展「けんぱくの宝1」（7月5日～8月28日）
- c 当館特集展「南極の自然と南極観測」（7月16日～8月21日）
- d 当館特集展「収蔵庫からこんにちは」（10月15日～11月27日）

(エ) 研修会・研究会への参加

被災資料の保全に関する講演会やシンポジウムなどに参加した。

(オ) 5年間のレスキュー活動紹介パネル展示

昨年度の年報にまとめた震災後5年間の活動の内容を要約して、特集展「収蔵庫からこんにちは」（10月15日～11月27日）においてパネル展示し、パンフレットにも掲載した。また、平成29年3月4日からは当館展示室内の展示ロビーにおいてパネル展示を行った。

イ 今後の課題

(ア) 受け入れてきた文化財・自然資料への対応（継続）

(イ) 旧警戒区域からの文化財・自然資料の搬出・保全（継続）

a 個人所有資料の保全

b 救出された文化財・自然資料の収蔵・公開施設についての検討

(ウ) 救出された文化財・自然資料の展示公開（継続）

(エ) 今後の災害に備えたしくみづくりや準備

8 次世代ミュージアム機能

第2期中期目標で目標設定している次世代ミュージアム機能に関して、東日本大震災による震災の共有と継承、福島県における新たな文化事業の創出と定着を達成するため、2件のプロジェクト活動を行った。

(1) はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト

平成23年3月11日の東日本大震災、その後の東京電力福島第一原子力発電所事故により福島県内には津波・地震による被害に加え放射線汚染被害、さらに、そこに由来するコミュニティの分断、風評被害が発生し、今なお多くの局面で復旧・復興が急がれている。

この状況から一歩でも前進するため、福島県立博物館と福島県下の各地域の博物館、文化事業に携わる大学、NPOなどの諸団体が連携し文化活動の支援を行うことを目的に、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトを平成24年にスタートした。

平成24年度は、地域への愛着を象徴するような文化財

の活用に配慮し復興につながる文化的事業の継続的な展開をめざした。

平成25年度は前年度の実績を踏まえ、事業をさらに発展させるとともに、福島県立博物館と地域との協働、他分野との連携・融合、地域へのアウトリーチを積極的に推進した。

平成26年度は、震災後4年目の福島に必要な文化的な事業を、各団体との協議の上で計画し、福島の文化の豊かさの再認識、福島の現状の共有と発信を柱に実施した。

平成27年度は、震災・原発事故からの時間の経過と共に際立つようになった県内各地域が抱える問題・課題の差異に留意しながら、それらの解決につながる文化的なアプローチとなることを目指した。

福島県を地理的に区分する「はま・なか・あいづ」は、それぞれの地域の文化や自然の特徴を生み、福島に多様な豊かさをもたらすものであり、福島県立博物館が開館以来その活動をもって調査、収集、記録、発信していくべきものである。平成23年以降は、その地理的区分は、同時に、震災と原発事故による影響の差異を生み出すものともなった。その差異もまた、歴史的事象として当館が記録し、将来へ残すべき福島の記憶である。豊さと課題。福島が大事にし、向き合わなくてはならないそれらを多くの方と共有することを目的に、福島県立博物館ならではの調査、記録の技術、経験、文化拠点としてのネットワークを活用し、平成28年度は11のプロジェクト・プログラムを実施した。

(2) ふくしま震災遺産保全プロジェクト

東日本太平洋沖地震は県内に甚大な被害をもたらし、原発事故も引き起こした。これらにより多量の瓦礫、仮設住宅や汚染物質の保管施設など予想しなかった非日常の景観を新たに生み出した。本プロジェクトは、震災が発生させたこれらの遺産を次世代に震災の経験を伝える地域の重要な歴史資料と捉え、それらを保全し、防災教育等へ活かすための取り組みで、平成26年度から開始した。

事業は文化庁の文化芸術振興費補助金（地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業）の採択を受け、実行委員会を組織（実行委員会構成団体：相馬中村層群研究会・南相馬市博物館・双葉町歴史民俗資料館・富岡町歴史民俗資料館・いわき市石炭化石館・ふくしま海洋科学館・いわき自然史研究会・福島県立博物館）し、事務局を県立博物館内において以下の事業を実施した。なお平成27年度から博物館内に震災遺産保全プロジェクトチームを設置した。

9 開館30周年記念事業

福島県立博物館の開館30周年にあたり、福島県立博物館の30年間の活動のアウトプット、ニューアルに向けた試行・実験の2点をコンセプトに、平成28年度を通して、記念特集展、記念イベント、広報事業を行った

- (1) 実施時期：平成28年4月～平成29年3月
- (2) 担当者

山田英一（副館長）、板橋良英（総務課長）、田中敏（学芸課長）、荒木隆・小林めぐみ・阿部綾子・内山大介・大里正樹（学芸員）

(3) 内容

ア 特集展「収蔵庫からこんにちは」

詳細は第4節展示事業 特集展を参照。

イ 記念イベント

詳細は第6節教育普及事業 30周年記念イベントを参照。

ウ 広報事業

(ア) 30周年ロゴ、イメージポスター、イメージフラッグの作成

開館30周年のシンボルカラーを、県立博物館竣工記念として会津藩祖保科正之公ゆかりの地長野県高遠町（現伊那市）より贈られ、当館周辺に植樹された「小彼岸桜」の色に決定。30周年のロゴや当館周辺の外灯に設置したイメージフラッグ等で用いて、統一した広報イメージの作成を企図した。

また、福島県立博物館の30年間の活動と未来への目標を伝えるものとして30周年イメージポスターを制作。博物館のこれまでの成果と今後の使命を発信した。

30周年ロゴ、イメージフラッグ、イメージポスター デザイン：久家三夫

(イ) 福島県立博物館シンボルマーク原案の公募と決定
福島県立博物館開館30周年を記念し、さらに人々に親しまれる場を目指して間の魅力を分かりやすく伝えるためのシンボルマークの原案を募集。平成28年4月1日時点で18歳以下の全国の小、中学生、高校生を対象とし、福島県内を中心に全国から1,043点（県内1,038点、県外5点（埼玉・東京・滋賀・奈良・佐賀））の応募があった。

選考委員による選考を経て、奈良県にある関西文化芸術高等学校ヴィジュアルデザイン専攻デジタルデザインコース3年生の上平瑠菜さんの原案が大賞を受賞した。

上平さんの原案は、福島県いわき市で出土し、当館の部門展示室自然でも復元模型を展示している「フタバサウルス（通称：フタバズキリュウ）」をモチーフとしたもの。愛らしい姿と、これからの福島の未来を生みだすように卵を抱えたデザインが評価された。

選考結果は、開館30周年記念式典で公表された。

上平さんの原案を元に、福島大学の渡邊晃一教授（美術）と渡邊ゼミの学生がマークを整え、完成させた。決定したシンボルマークは、当館の広報物等で活用されている。

(ウ) 「けんぱくラジオ」

福島県立博物館の平成28年度の活動の見どころ等をわかりやすく担当者からお伝えることを目的に、平成28年5月～平成29年2月の期間、毎月2回放送のラジオ番組「けんぱくラジオ」（放送：FM会津）を実施した。30周年記念事業担当学芸員4名が2カ月ずつメイン担当者となり、その時々のお勧め事業の担当者等も交えながら事業の紹介を行った。

第15節 福島県自然の家

1 概要

(1) 沿革

昭和47年県内初の県立少年自然の家として、また、東北でも3番目の宿泊研修用の先導的施設として「福島県少年自然の家」(以下「自然の家」という。)を開設。

昭和50年海浜型の青少年社会教育施設として「福島県海浜青年の家」(以下「青年の家」という。)を開設。同年発足した「財団法人福島県海浜青年の家」が管理運営を行うこととなる。

昭和56年県立少年自然の家2施設目となる「福島県会津少年自然の家」を開設。これに伴い、「自然の家」の名称を「福島県郡山少年自然の家」に改める。

平成8年「福島県いわき海浜自然の家」を開設。これに伴い、「青年の家」の名称を「福島県相馬海浜自然の家」に改める。運営財団の名称を「財団法人福島県海浜自然の家」に変更し、海浜型2施設の管理運営を行うこととなる。

平成10年福島県教育庁の直営であった「福島県郡山少年自然の家」及び「福島県会津少年自然の家」の名称を「福島県郡山自然の家」及び「福島県会津自然の家」と改める。これにより財団の名称を「財団法人福島県自然の家」に変更し、県内4施設の管理運営を行うこととなる。

平成18年度から指定管理者制度を導入し、平成20年度までの3年間「財団法人福島県自然の家」が指定管理者となり4施設の管理運営を行うこととなる。

指定管理者であった財団が平成20年度末をもって解散したため、平成21年度から4施設とも県の直営による管理運営となる。

平成22年度に開催した指定管理者選定検討会において「福島県いわき海浜自然の家」が「財団法人いわき市教育文化事業団」に指定管理することとなる。なお、他3施設については検討会の条件を満たす団体がいないため直営による運営が継続されることとなる。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、「福島県会津自然の家」は同年7月2日まで「福島県郡山自然の家」は同年8月28日まで避難所として運営を行う。また「福島県いわき海浜自然の家」の指定管理は震災の影響により平成23年11月1日からの開始となる。なお「福島県相馬海浜自然の家」は地震・津波の甚大な被害を受け平成24年3月31日をもって公所廃止となる。

平成25年度に開催した指定管理者選定検討会において「福島県いわき海浜自然の家」について平成26年度から平成30年度まで「財団法人いわき市教育文化事業団(平成26年度より公益財団法人に移行)」に指定管理することとなる。

(2) 所在地

ア 福島県郡山自然の家

福島県郡山市逢瀬町多田野字中丸山46

〒963-0213 TEL 024-957-2111

FAX 024-957-2112

URL <http://www.koriyama-nc.fks.ed.jp/>

イ 福島県会津自然の家

福島県河沼郡会津坂下町大字八日沢字西東山4495-1

〒969-6504 TEL 0242-83-2480

FAX 0242-83-2481

URL <http://www.aizu-nc.fks.ed.jp/>

ウ 福島県いわき海浜自然の家

福島県いわき市久之浜町田之網字向山53

〒979-0335 TEL 0246-32-7700

FAX 0246-32-7730

URL <http://www.iwaki-nc.fks.ed.jp/>

2 教育目標及び基本的視点

(1) 教育目標

恵まれた自然環境の中で、野外学習や集団宿泊活動など様々な活動を通して主体的に対応できる人々の育成を目指す生涯学習の推進のため、次の目標を設定する。

ア 自然の恩恵にふれ、自然に親しむ心や敬虔の念を育てる。

イ 集団宿泊活動を通して規律・協同・友愛及び奉仕の精神を養う。

ウ 自然体験活動を通して自ら実践し、創造する態度を育てる。

(2) 基本的視点

豊かな自然体験を楽しめる施設として、その機能を十分に発揮するために、施設・設備の整備や運営方法の確立・改善に努め、利用者が充実した活動を展開できるよう、次の基本的視点に基づきそれぞれの施設の運営にあたる。

ア 所員の英知と創意を結集し、施設の充実・整備を図り活気と魅力ある施設の運営に努める。

イ 利用者の多様なニーズや利用目的に応じた柔軟な運営を行うよう努める。

ウ 立地条件を生かした特色ある企画事業を展開するとともに、学校や地域に生きる活動種目やその指導方法の研究開発に努める。

エ 民間の指導者の協力や高校生・大学生等にボランティアとして参加していただけるように努める。

オ 現代的課題の解決に対応する事業を推進し、その情報の発信に努める。

第 16 節 福島県郡山自然の家

1 概要

郡山自然の家は、昭和 47 年に「福島県少年自然の家」という名称で設立され、小・中学校の宿泊体験学習の場として開所して以来 44 年が経過し、平成 26 年 5 月には、延べ利用者数が 160 万人に達した。

本施設は、郡山駅より西へ約 11km、郡山南インターより車で約 8 分という交通の便に恵まれ、しかも豊かな自然環境に囲まれている都市近郊型の自然の家であり、心身共に健全な青少年と心豊かな社会人を育成することを目的とした教育施設である。

平成 20 年度まで 11 年間、県内 4 つの自然の家を運営してきた財団法人福島県自然の家が解散し、平成 21 年度から県直営としての運営形態に変わり 8 年目を終了した。

利用者は、これまで主体であった小・中学生のみならず、園児、高校生、一般社会人、家族など利用者層が多様多様になってきている。恵まれた自然環境の中で、「みどり・であい・感動」をキャッチフレーズに、野外活動や集団宿泊活動を通して、「自然に親しむ心や畏敬の念」「規律・協同・友愛・奉仕の精神」「自ら実践し、創造する態度」の育成を目指し、様々な活動を展開するとともに、生涯学習の拠点として、広く県民に利用していただけるような施設を目指し、施設の改築・改修や本館の段差を解消するなど障がい者にもやさしい施設づくりを進めてきた。

また、園児から高齢者までの幅広い年齢層に対応し、多くの人に利用していただけるよう、多種多様な企画事業の展開や、特色あるプログラムの開発に努めてきた。

さらに、放射線の影響を心配する利用者の声にこたえるため、毎月エリア内の放射線量を測定してホームページに載せたり、クラフト活動で使用する木材等については、放射線量の低い地域から採集したり、「みどりの宅配便」を利用して全国から取り寄せたりした。また、放射線量が比較的高い場所のこまめな除草や表土の除去、活動コース付近の落ち葉等の清掃を実施し放射線量の低減化に努めた。

年間の利用状況は、震災前の 9 割程度まで回復し、利用団体数 4 1 5 団体、延べ利用者数 2 3, 7 1 3 人となった。

(1) 職員組織

職員組織は、以下のとおりである。

職名	所長	次長	主査	専門員	主任 社 教 主 事	社会 教育 主 事	計
人員	1	1	1	1	1	2	7

(2) 平成 28 年度重点目標と成果

「復興加速の年」と位置づけ、利用者数を震災前の水準まで戻すために次の点に力を入れて取り組んだ。

ア 利用団体への効果的な支援の充実

(ア) 団体が主体的に活動できるようにするために、学校利用・社会教育団体利用ともに、利用団体の指導者との連携を密にしてきた。学校利用については、4 月と 7 月に「学校利用指導者研修会」を実施し、フィールドワークやアーチェリーなどの実技研修の他、施設の概要説明や活動計画の立案に対しての指導・援助を行った。また、事前打合せや実地踏査・下見等を奨励し、各利用団体が主体的に活動できるように支援した。

(イ) 社会教育団体の利用については、6 月と 7 月に「社会教育団体利用指導者研修会」を実施し、施設見学や活動計画の調整などを行った。また、各団体代表者との電話連絡を密にし、各団体の利用目的に応じた活動が展開できるよう努めた。

(ウ) 職員の技能及び資質の向上を図るために、各種研修会に積極的に参加するなど、職員の研修に力を入れた。また、利用団体の指導者及び利用者の声をアンケート等により集約・分析して、職員の対応や準備物、食事等の改善に努めるとともに、利用者の立場に立った施設の運営に努めた。

イ 特色ある企画事業の運営

(ア) 季節感を生かした魅力ある企画事業を計画するとともに、ボランティアを積極的に活用したり、地域や関係機関との連携を図ったりすることができた。

(イ) 前年度の反省や評価を踏まえ内容や方法等に工夫・改善を加え、参加者の満足度を高める運営に努めた。

(ウ) 利用者増を図るために新規の企画事業を立案し、幅広い年代に応じた特色ある企画事業を実施することができた。

ウ 広報の充実と利用促進

(ア) 多くの団体に利用してもらえよう、利用拡大に向けて、積極的に広報活動を行ってきた。学校利用の拡大については、各種企画事業の案内をその都度電子メールで送付するなど、より多くの学校に利用していただけるよう PR 活動を行った。また、未来キッズ生き生き事業については、中通り地区の全小学校・児童に案内を配付し募集を図った。

(イ) 企画事業案内や事業実施後の企画事業のあしあとをホームページに掲載するなど、ホームページの改善・充実に努めた。また、毎月エリア内 13 カ所の放射線量をホームページに掲載し、利用者が安心して利用できるよう配慮した。

(ウ) 企画事業では、報道機関を通じた周知活動や広報活動を積極的に行い、利用拡大に努めた。また、新聞社

やタウン誌に企画事業に関する記事の掲載の依頼をすることで、多くの方の参加につなげることができた。

(エ) 利用促進を図るため、平成 25 年度から家族を対象とした会員登録制度を立ち上げ、名称を本所のマスコットキャラクターにちなんで「サザンピーククラブ」とした。登録した会員には会員証を発行して入所手続きの簡略化を図ったり、企画事業の案内を送付したりして利用促進につなげた。また、利用回数に応じて、特製のシールやキーホルダーを贈呈した。125 家族、443 名が会員となっている。

エ 安全管理と保健安全指導の徹底

(ア) 「事故はどこでもいつでも起こり得る」という認識に立って、所員の安全意識の向上を図り、施設設備の日常点検及び定期点検の実施はもちろんのこと、利用者に対しても働きかけ、積極的に安全対策を行ってきた。

また、特に次の点に力を入れてきた。

- 各団体の活動前のコース点検や遊具点検の徹底
- 食中毒防止のための、手洗い・アルコール消毒の徹底
- 食物アレルギー対応のための、利用団体との連絡及び食堂との連携
- スズメバチ対策のための、捕虫装置の設置と点検
- 松食い虫による倒木防止のための計画的な伐採

(イ) 防災に関しては食堂等の委託業者にも参加してもらい、消火訓練や火災が起きたことを想定した避難訓練を実施するとともに、日常の点検を怠ることのないようにした。

さらに、不審者の侵入防止を図るためのマニュアルを作成して職員研修により理解を深めた。常に来所者に声をかけ、車止めや施設の施錠に万全を期すなどして、安全管理に努めてきた。

オ 施設・設備の整備

(ア) 利用者が快適に利用できるように、現在の施設環境のもとでできることは何かを考えながら、ハード面とソフト面の両面から改善を行ってきた。

また、安全対策として、利用者が利用する総合活動館やアスレチックなどの遊具全般の点検と併せて必要な補修整備に努めてきた。

(イ) 館内については、季節ごとの掲示に心がけたり、利用者から届いた写真や手紙を工夫して掲示したりするなど、変化のある計画的な掲示に努めた。

イ ロッジ 126 名 (9 棟)

ウ テント 120 名 (20 張)

(3) 敷地面積

237,587.59 m²

(4) 建物面積

○ 延床面積 3,806.08 m²

- ・本館 (管理棟・宿泊室・研修室・浴室)
- ・体育館、総合活動館、野外活動センター、東西炊飯場、ロッジ等

(5) 設備備品等

○ 野外活動設備

- ・みどりの広場アスレチック
※28 年度リニューアルオープン
- ・フィールドアドベンチャーコース
※29 年度リニューアルオープン予定
- ・アーチェリー場 (24 的)
- ・ナイトハイクコース (3 コース)
- ・スコアオリエンテーリングポスト (20)
- ・フィールドワークコース (赤・青)
- ・スタンプラリー (20)
- ・営火場 (4)

○ その他

- ・野外炊飯用具
- ・インラインスケート
- ・frisbee ゴルフ
- ・フロッカー
- ・キンボール
- ・ペタンク
- ・マウンテンバイク
- ・グランドゴルフ
- ・ターゲットバードゴルフ
- ・そり
- ・各種クラフト用具
- ・伝承遊びセット
- ・ピアノ
- ・双眼鏡
- ・液晶プロジェクター
- ・インターネット接続大型液晶テレビ等
- ・ジェットヒーター
- ・ブルーヒーター

2 施設・設備の概要

(1) 所在地

〒963-0213

郡山市逢瀬町多田野字中丸山 46 番地

(2) 宿泊定員

ア 本館 166 名 (14 部屋)

3 企画事業

(1) 研修会事業

ア 学校利用指導者研修会（第1回、第2回）

（ア）期日・対象校及び参加者数

a 第1回

期日 平成28年4月20日(水)

対象校 4月～7月まで利用の学校

参加者 43名

b 第2回

期日 平成28年7月26日(火)

対象校 8月～10月まで利用の学校

参加者 45名

（イ）研修内容（第1回、第2回とも同じ内容）

- ・施設案内
- ・実技研修（アスレチック、フィールドワーク、スコアOL、室内アーチェリー、ニュースポーツなど）
- ・全体会
- ・施設の利用の仕方等
- ・活動プログラムの調整（所バス利用調整を含む）

イ 社会教育団体利用指導者研修会（第1回、第2回）

（ア）期日・対象団体及び参加者数

a 第1回

期日 平成28年6月12日(日)

対象 6月～7月まで利用団体の指導者

参加者 17名

b 第2回

期日 平成28年7月3日(日)

対象 8月～9月までの利用団体の指導者

参加者 16名

（イ）研修内容（第1回、第2回とも同じ内容）

- ・全体会
- ・施設の利用の仕方等
- ・活動プログラムの作成及び調整（所バス利用調整を含む）

(2) 利用拡大事業

ア サクラ・カタクリ週間

（ア）期日・対象者及び参加者数

期日 平成28年4月3日(日)～24日(日)

対象者 どなたでも

参加者 53名

イ みどりの広場アスレチックオープニングセレモニー

（ア）期日及び参加者数

期日 平成28年4月8日(金)

参加者 郡山市立多田野小学校（堀口分校含）

4年生と先生方45名

（イ）内 容 児童代表あいさつ・テープカット・自由活動

ウ さくらウォーク

（ア）期日・対象者及び参加者数

期日 平成28年4月16日(土)

対象者 どなたでも

参加者 40名

（イ）活動内容

- ・自然の家を出発し、約10kmのウォーキング
- ・みどりの広場アスレチック
- ・総合活動館開放

エ 五色沼ハイキング

（ア）期日・対象者及び参加者数

期日 平成28年5月8日(日)

対象者 小学3～6年生

参加者 16名

（イ）活動内容

- ・毘沙門沼周辺ハイキング（3.6km/エコガイド付）
- ・裏磐梯物産館、サイトステーション見学

オ 未来キッズ生き生き事業

（ア）期日・対象者及び参加者数

期日 平成28年5月15日(日)、22日(日)

対象者 二本松市・本宮市・安達郡

参加者 1回目)88名 2回目)53名

期日 平成28年6月5日(日)、19日(日)

対象者 福島市・伊達市・伊達郡

参加者 1回目)121名 2回目)53名

期日 平成28年7月10日(日)、17日(日)

対象者 郡山市・田村市・田村郡

参加者 1回目)149名 2回目)99名

期日 平成28年8月21日(日)、28日(日)

対象者 白河市・西白河郡

参加者 1回目)69名 2回目)31名

期日 平成28年9月18日(日)、25日(日)

対象者 石川郡・東白川郡

参加者 1回目)23名 2回目)22名

期日 平成28年10月16日(日)、30日(日)

対象者 須賀川市・岩瀬郡

参加者 1回目)69名 2回目)13名

（イ）活動内容

- ・スコアOL、ノルディックウォーキング
- ・活動館、みどりの広場アスレチック
- ・おうせ茶屋（出店/昼食）

カ 親子でチャレンジ

（ア）期日・対象者及び参加者数

期日 平成28年6月11日(土)

対象者 親子または祖父母と孫

参加者 53名

（イ）活動内容

- ・スコアOL、フィールドビンゴ（小学4～6年生）
- ・野外炊飯

キ 夢冒険キャンプ

（ア）期日・対象者及び参加者数

期日 平成28年8月3日(水)～5日(金)

対象者 小学5、6年生

参加者 28名

(イ) 活動内容

a 第1日

- ・開講式・オリエンテーション
- ・サイクリング・ニジマスつかみ・沢遊び
- ・野外炊飯(カレーライス)・星空観測会

b 第2日

- ・安達太良登山
- ・野外炊飯(焼肉)・ナイトハイク

c 第3日

- ・スコアオリエンテーリング
- ・野外炊飯(冷やし中華)
- ・閉講式

ク 第14回郡山自然の家オープンデー

(ふくしまっ子自然の家体験活動応援事業 夏期間)

(ア) 期日・対象者及び参加者数

期日 平成28年9月11日(日)

対象者 どなたでも

参加者 657名

(イ) 活動内容

- ・オープニングセレモニー(郡山自衛隊による和太鼓演奏・百花繚乱によるよさこい演舞)
- ・各種プログラム体験(アーチェリー・インラインスケート・缶バッジ製作・活動館開放など)
- ・イベント参加(ザリガニ釣り・似顔絵コーナー)
- ・公園の駅「おうせ茶屋」、郡山きのこファーム出店
- ・ステージ発表(天栄中学校吹奏楽部、他3団体)

ケ 手ぶらで、いも煮会

(ア) 期日・対象者及び参加者数

期日 平成28年10月15日(土)

平成28年10月23日(日)

対象者 家族またはグループ

参加者 1回目)54名 2回目)61名

(イ) 活動内容

- ・野外炊飯(いも煮会)
- ・みどりの広場アスレチック体験
- ・活動館開放

コ 蓬田岳登山

(ア) 期日・対象者及び参加者数

期日 平成28年11月5日(土)~6日(日)

対象者 一般

参加者 21名

(イ) 活動内容

- ・外部講師による講話(前日/前泊)
- ・蓬田岳登山

サ なすかしの森キンボール教室 in 郡山

(ア) 期日・対象者及び参加者数

期日 平成28年11月26日(土)~27日(日)

対象者 小学生を含む親子

参加者 23名

(イ) 活動内容

- ・キンボール教室(外部講師による)
- (プログラムⅠ~Ⅲ、ゲーム他)

シ メリークリスマス&ハッピーニューイヤー

(ア) 期日・対象者及び参加者数

期日 平成28年12月4日(日)

対象者 どなたでも

参加者 門松づくり 45名

アロマキャンドルづくり 20名

(イ) 活動内容

- ・アロマキャンドルづくり(本所職員による)
- ・門松づくり(外部講師による)

ス 親子スケート教室

(ア) 期日・対象者及び参加者数

期日 平成29年1月15日(日)

対象者 親子または家族

参加者 34名

(イ) 活動内容

- ・講師の指導による基本的な動き、自由滑走

セ わくわく!ファミリー冬のつどい

(ア) 期日・対象者及び参加者数

期日 平成29年1月28日(土)~29日(日)

対象者 小・中学生を含む家族

参加者 33名

(イ) 活動内容

- ・猪苗代スキー場でのスキー体験、そり滑り

ソ 冬の文化祭「クラフトまつり」

(ふくしまっ子自然の家体験活動応援事業 冬期間)

(ア) 期日・対象者及び参加者数

期日 平成29年2月19日(日)

対象者 どなたでも

参加者 68名

(イ) 活動内容

- ・ビュンビュンリング
- ・万華鏡
- ・ウッドアクセサリー
- ・ビュンビュン飛ばし大会
- ・表彰式

タ サザンピーククラブ感謝デー

(ア) 期日・対象者及び参加者数

期日 平成29年3月5日(日)

対象者 サザンピーククラブ会員親子

参加者 20名

(イ) 活動内容

- ・いわき海浜自然の家でのクラフト体験
- ・いわき・ら・ら・ミュウ及びその周辺での自由散策

チ みどりの広場アスレチック&活動館開放します

- (ア) 期日・対象者及び参加者数
a 期日 前期 平成28年4月9日(土)、23日(土)
対象者 特別支援学校、学級の幼児及び小学生とその家族

- b 期日 前期 平成28年4月10日(日)、24日(日)
対象者 幼児及び小学生とその家族

- (イ) 活動内容
・みどりの広場アスレチック(10基)
・体育館内で各種遊具を使った活動(ストラックアウト、竹馬、一輪車、縄跳びなど)
※ 11月～3月は、活動館の改修工事のため利用中止となった。

ツ 特別企画 自然の家でからだを動かそう

- (ア) 期日・参加者数
期日 平成28年11月15日(火)～平成29年3月28日(火)までの平日、9:00～16:00までとする。
参加者 12園、総勢368名

- (イ) 活動内容
・体育館やアスレチックを利用した運動
・屋外での雪遊び、そり滑り

(3) 協力事業

ア 安積山登山
(安積アルプス出逢いプロジェクト実行委員会主催)

- (ア) 期日・対象者及び参加者数
期日 平成28年5月28日(土)～29日(日)
対象者 どなたでも
参加者 241名

- (イ) 活動内容
・高篠山森林公園→御霊櫃峠→安積アルプス→熱海登山口→ユラックス熱海入口までの縦走トレッキング(総距離約15km)

イ ノルディックウォーキング大会
(県ノルディックウォーキング協会主催)

- (ア) 期日・対象者及び参加者数
期日 平成28年6月5日(日)
参加者 105名(5km参加者数)
- (イ) 活動内容
・5kmコース(浄土松公園→八畳座敷→冒険の丘→本所(トイレ休憩)～きこの岩コースの所員による警備)

ウ 第29回浄土松公園まつり
(浄土松公園まつり実行委員会 主催)

- (ア) 期日及び参加者数
期日 平成28年10月9日(日)
参加者 800名

- (イ) 活動内容
・クラフト体験(缶バッジ)

エ 子どもの祭典
(須賀川市明るいまちづくりの会連絡協議会主催)

- (ア) 期日及び参加者数
期日 平成28年10月9日(日)
参加者 1,000名

- (イ) 活動内容
・クラフト体験(缶バッジ)
オ 会津の冬を満喫! ウィンターフェスティバル
(会津自然の家主催)

- (ア) 期日・対象者及び参加者数
期日 平成29年1月21日(土)～22日(日)
参加者 63名(県中地区参加者)

- (イ) 活動内容
・スキー
・スノーシュー、そり滑り
・会津の民話

第 17 節 福島県会津自然の家

1 概要

福島県会津自然の家は、恵まれた自然環境の中で、自然に親しむ活動や集団宿泊生活、野外活動を体験することにより心豊かで心身ともに健全な県民を育成することを目的とした生涯学習施設である。

昭和 56 年 4 月に開所し、本年度末で 36 年になり、開所以来多くの方々にご利用いただいているところである。

本年度の利用者数は、4 万 3 千人強で、昨年度を 9 千人強上回った。これは、「ふくしまキッズフェスタ 2016 in 会津」「未来キッズ生き生き事業」や「ふくしまっ子自然の家体験活動応援事業」の実施をはじめ、様々な企画事業や、企業など、新たな利用者層への利用促進に努めてきたことによるものと考えられる。

また、5 つの重点目標を掲げ、その達成に努めるとともに、誰もが利用しやすい魅力的な施設をめざして運営の改善を図り、時代や利用者のニーズに対応した生涯学習施設の役割に積極的に取り組んできた。

(1) 職員組織

職名	所長	主幹兼次長	主任	主任社教主事	社会教育主事	指導主事	体験活動指導員	嘱託運転手	計
人員	1	1	1	1	3	1	3	1	12

(2) 平成 28 年度重点目標と成果

年間利用者数 4 万人以上の成果目標を達成するために、次の点に力を入れて取り組んできた。

【 】の数値は職員による自己評価の平均値

ア 事故の絶無を期する安全管理と保健安全指導を徹底します。【3.09】

(ア) 日常（事前、事中、事後）及び定期の安全・確認の徹底【3.13】

定期安全点検だけでなく、労務員も含めた全所員による日常点検を徹底し、事故防止に努めることができた。

(イ) 利用者への適時的確な指導助言【3.34】

気象条件等、様々な状況の変化に対応し、所員の連携を図りながら、助言に努めることができた。

(ウ) 傷病、感染症（インフルエンザ、感染性胃腸炎等）防止【3.34】

食堂業者との連携も密にし、疾病や感染症防止に

努めることができた。

(エ) 施設の整備、修繕【3.18】

日常点検を大切にし、危険箇所を発見したらすぐに整備、修繕を行った。

イ 「好感度」の高い施設を目指す親切な接遇に努めます。【3.55】

(ア) 笑顔と元気なあいさつ、親切・ていねいな接遇

【3.64】

団体対応だけでなく、来客や電話対応など、相手の立場に立った対応に努め、好感度の高い施設を目指すことができた。

(イ) 利用者一人一人の立場に立った支援及び利用目的や目標達成のための支援【3.44】

利用者のねらい達成のために、必ず団体に担当所員がつき、積極的に支援を行った。

(ウ) 施設内・フィールド内ごみゼロ及び整理整頓

【3.04】

所員だけでなく、委託業者とも連携し、清潔な所内外の環境づくりに努めることができた。

ウ 教育目標を達成する研修プログラムを充実します。

【2.99】

(ア) 里山、堤及び周辺環境の活用、四季を通して体験できる野外活動の充実【2.58】

研修委員会を中心に新たなプログラム開発を行い、各団体のニーズに合った活動ができるように配慮した。

(イ) 新たなプログラム開発による閑散期の活用方法の工夫【2.85】

閑散期に利用者を受け入れることができるように、缶バッジやカラーキャンドルなど屋内活動のプログラムを充実させてきた。

(ウ) ボランティアの確保及び活用の充実【3.05】

ボランティアセミナーを年 4 回実施し、ボランティアの確保とともに、参加者のスキルアップに努めてきた。

(エ) 職員一人一人の絶えざる研鑽と修養【3.09】

お互いのプログラム指導を見合う場を設けたり、研修の場を設けたりして、所員全体のスキルアップに努めた。

エ 生涯学習施設の拠点として、独創的で多様な企画事業と研修会を充実します。【3.05】

(ア) 自然体験活動の促進及び歴史・文化に係る事業の工夫【3.35】

会津坂下町と連携した高寺山登山や東松峠ウォーキング大会などの企画事業をとおして、地元の歴史に触れる場を設定した。

(イ) 社会や利用者のニーズに応え、前年踏襲にとらわれ

ない事業の企画立案【3.09】

ボランティアセミナーを年4回の企画事業として設定したり、年6回の未来キッズ生き生き事業において市町村ごとにバスを出したりするなど、新たな試みをし、ニーズに応えるようにした。

(ウ) P D C Aサイクルの確実な実施【3.04】

P D C Aサイクルを確実に実施することにより、反省点を活かして、次の事業などの計画立案を進めることができた。

(エ) 地域及び生涯学習施設（自然の家、公民館、美術館、博物館、図書館等）との連携【3.00】

磐梯青少年交流の家や地元の公民館との連携事業を実施するなど、相互に高めあえる場の設定をした。

オ 利用者数、利用者層を拡大する効果的で多様な広報活動を充実します。【3.35】

(ア) ホームページの充実及び適時的確な更新【3.20】

タイムリーな話題を時期を逃さず、ホームページにアップできるように、担当だけではなく、全所員で声を掛け合った。

(イ) 情報発信の工夫【3.47】

新たな利用者層にアプローチするために、フェイスブックを立ち上げ、利用促進につなげることができた。

(ウ) 誘客活動の工夫【3.23】

学校、公民館など教育施設だけではなく、企業訪問を行い、利用者の拡大につなげることができた。

(エ) 記録の蓄積及びデータの確実な分析【3.34】

利用者アンケートや食堂アンケートなどの利用者の声を、確実に集計、分析し、改善につなげることができた。

2 施設・設備の概要

(1) 所在地

河沼郡会津坂下町大字八日沢字西東山 4495 番 1

(2) 宿泊定員

ア 本館 26室 292名(うち1室障がい者用)

イ ロッジ 10棟 150名

ウ テント 10張 60名

(3) 敷地面積

249,654 m²

(4) 建物面積

ア 延床面積 5,462.7365 m²

(ア) 管理研修棟(鉄筋造2階建)

(イ) 宿泊棟(鉄筋造2階建)

(ウ) プレイホール(鉄筋造)

(エ) アセンブリホール(鉄筋造)

(オ) 機械棟(鉄筋造3階建)

(カ) ロッジ(木造平屋建)

(キ) 野外活動管理センター(鉄筋造)

(ク) 炊飯場(鉄筋造)

(ケ) 薪置場(コンクリートブロック造)

(コ) 車庫(鉄筋造)

(サ) 野外便所(鉄筋造)

(5) 運動広場面積

8,500 m²

(6) 設備備品等

ア フィールドアスレチック

イ 野外活動用具、野外炊飯用具、運動用具

ウ 双眼鏡、天体望遠鏡、テレビ、VTR

エ 液晶プロジェクター、CDカセットプレーヤー

オ ピアノ、オルガン

カ 伝承遊びセット

キ クラフト用具

ク 各種オリエンテーリング用具

ケ アルペンスキー

コ 歩くスキー(クロスカントリースキー)

サ そり

シ スノーシュー

ス 営火場(4箇所)

セ 諸活動コース

ソ その他

3 利用状況

(1) 当施設を利用可能対象者

ア 学校団体(小学校、中学校、特別支援学校、高校、大学、高等専門学校、幼稚園等の構成員及びその指導者)

イ 社会教育団体(公民館、子ども会、保育所、スポーツ少年団体、老人会、勤労青少年団体等)の構成員及びその指導者

ウ 教育長が適当と認めた者

エ その他、家族などの一般人

(2) 平成28年度の利用団体数

ア 618団体

イ 実利用者数 30,479人

ウ 延利用者数 43,083人

(3) 子どもたちへ体験活動機会提供

ア 「ふくしまっ子自然の家体験活動応援事業」(夏・冬各1回)

イ 「未来キッズ生き生き事業」(6回)

ウ 「ふくしまキッズフェスタ2016 in 会津」

エ 企画事業の実施(21事業)

4 企画事業

(1) 研修会事業

ア 学校団体指導者事前研修会

(ア) 目的

a 本所の設立の趣旨、教育目標、方針、利用のねらい及び運営方法を理解させる。

- b 児童生徒が安全に生活し充実した活動が行えるよう屋内外の施設環境を確認するとともに、各種プログラムのねらいや配慮事項を理解させ、効果的な活動計画が作成できるようにさせる。
- c 集団宿泊生活が円滑かつ効果的に進められるよう同じ時期に宿泊する他の学校団体との活動及び役割分担等について調整を図らせる。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 第1回：平成28年4月20日（水）
5/17～6/18に利用する学校の教職員45名参加
- b 第2回：平成28年4月21日（木）
6/21～7/27に利用する学校の教職員36名参加
- c 第3回：平成28年4月27日（水）
8/18～10/7に利用する学校の教職員39名参加

(ウ) 研修内容

- a 利用の仕方及び利用日までの手続き準備物の確認
- b 活動計画の作成及び同時期利用団体との調整
- c プログラム及び活動内容、指導方法の理解
- d 施設及び避難経路の確認

イ 社会教育団体指導者事前研修会

(ア) 目的

- a 本所の設立の趣旨、教育目標、方針、利用のねらい及び運営方法を理解させる。
- b 社会教育活動が安全に充実したものになるよう屋内外の施設環境を確認するとともに、各種プログラムのねらいや配慮事項を理解させ、効果的な活動計画が作成できるようにさせる。
- c 集団宿泊生活が円滑かつ効果的に進められるよう、同じ時期に宿泊する他の社会教育団体との活動及び役割分担等について調整を図らせる。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 平成28年6月12日（日）
- b 7/18～8/22に利用する社会教育団体の指導者
55名参加

(ウ) 研修内容

- a 利用の仕方及び利用日までの手続き準備物の確認
- b 活動計画の作成及び同時期利用団体との調整
- c プログラム及び活動内容、指導方法の理解
- d 施設及び避難経路の確認

ウ ボランティアセミナー

(ア) 目的

- a ボランティアに関する講話や実践例などを聞く機会とし、ボランティアの意識高揚を図る。
- b ボランティアメンバーの交流の場を設け、情報交換などを通してボランティアとしての意欲を高める。
- c プログラム体験の機会を設け、各種事業に協力する際に必要な体験活動に関わるスキルを身につけることができるようにする。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 第1回 平成28年5月15日（日）6名参加
- b 第2回 平成28年6月17日（金）138名参加
- c 第3回 平成28年7月17日（日）21名参加
- d 第4回 平成28年11月27日（日）5名参加

(ウ) 研修内容

- a ボランティア講座
- b プログラム研修
- c コミュニケーションアップ講座

エ キンボール教室 in 会津

(ア) 目的

那須甲子・磐梯・いわき海浜・郡山・会津の福島県内の国公立施設でキンボール教室を実施することにより、福島県内でのキンボールの認知度を高め、プレーを通して、家族や友人との交流を深め、他人を思いやる心や協調性、ルールを守ることの大切さなどを学び、子どもの豊かな人間性を育む。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 平成28年11月6日（日）28名参加
- b 小学生を含む親子（保護者が1名参加すれば、その子どもの友だちの参加も可）
- c 講師 齋藤大介氏（日本キンボールスポーツ福島県連盟理事長）

(ウ) 活動内容

- a 交流ゲームとルール説明
- b 実践練習
- c 練習試合とまとめ

(2) 教育研究事業

ア 高寺山歴史勉強会

(ア) 目的

高寺山山開き前日に歴史勉強会を開催し、いにしへのロマンと豊かな自然を有する高寺山及び周辺の歴史や文化を学び、興味を持って高寺山山開きに参加することができる。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 平成28年4月9日（土）30名参加
- b 一般対象

(ウ) 活動内容

高寺山歴史勉強会

イ わくわくキャンプ

(ア) 目的

- a いわき海浜自然の家やいわき地方の浜辺や海での体験活動を通して、健全な心と体、自然に親しみ気持ちを養わせる。
- b 宿泊体験を通していわきと会津の参加者同士の交流を図らせる。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 平成28年7月29日（金）～31日（日）
2泊3日
- b 県内の小学校4～6年生 33名参加

(ウ) 活動内容

- a 交流活動
- b 野外炊飯
- c ナイトハント
- d 海遊び
- e いわきデイクルーズ

ウ 通学キャンプ

(ア) 目的

- a 自然の家での集団生活や様々な体験活動を通して、子どもたちの自律的な生活態度やよりよい人間関係を形成するための社会性を育成する。
- b 中学校進学前に、他校との交流を図ることによって中学校進学の不安を取り除く。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 地区別実施期日
 - (a) 喜多方市立第二中学校地区 22名参加
平成28年11月1日(火)～3日(木)2泊3日
 - (b) 会津坂下町立坂下中学校地区 50名参加
平成28年11月17日(木)～19日(土)2泊3日
 - (c) 会津若松市立北会津中学校地区 20名参加
平成28年11月24日(木)～26日(土)2泊3日
- b 当該中学校区の小学校4～6年生

(ウ) 活動内容

- a 信頼関係づくりゲーム
- b 学習(宿題、自主学習、読書等)
- c 木工クラフト、キンボール、缶バッジ
- d 室内ゲーム

エ 冬休み楽習宿

(ア) 目的

- a 児童に冬季休業中の学習課題等に効果的に取り組む場を設定する。
- b 自主性や創造性を育みながら、学習の仕方や基本的な生活習慣を身に付けさせる。
- c 児童のふれあいの場を設定し、参加者相互の交流を図る。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 平成28年12月26日(月)～28日(水)
2泊3日 62名参加
- b 県内の小学校4～6年生

(ウ) 活動内容

- a お楽しみ交流会
- b 学習(国語、社会、算数、理科)
- c 体力づくり

(3) 利用促進事業

ア 第12回高寺山山開き(会津坂下町との共催)

(ア) 目的

- a いにしへのロマンと豊かな自然を有する高寺山の山開きを行い、登山者の安全を願うとともに、町の教育観光資源を広く内外に広報し、地域振興に資する。
- b 参加者同士が共に汗を流し登山することにより、

健康づくりと温かい心の交流の機会を提供する。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 平成28年4月10日(日)395名参加
- b 一般対象

(ウ) 活動内容

- a 山開き式典
- b 高寺山登山
- c お楽しみ抽選会、さくら汁サービス

イ 春のオープンデー

(ア) 目的

- a 自然の家オープンデーを実施することにより、県民に会津自然の家内外の環境やプログラムについて公開する。
- b 子どもたちに、心身ともにリラックスできる環境とプログラムを体験する機会を提供し明るく楽しい活動をさせる。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 平成28年5月29日(日)809名参加
- b 県内の幼児、小・中学生とその家族対象
- c ボランティア15名

(ウ) 活動内容

- a プログラム体験コーナー(無料)
カヌー体験、アスレチック(種目を限定)、森遊び、火おこし体験、ビンゴOL、UFOゴルフ、クラフト、ピザ(デモンストレーション)

ウ お月見コンサート2016

(ア) 目的

- a 中秋の名月の時期に天体望遠鏡で月面を観賞し、年中行事としての「月見」の体験をさせる。
- b 「月見」にふさわしい音楽や民話の語りを聴き、世代を越え、共に秋の夜長を楽しむ。

(イ) 期日、対象、参加者数、出演者数

- a 平成28年9月17日(土)201名参加
- b 一般対象
- c 講話講師、ピアノ演奏、民話の出演者9名

(ウ) 活動内容

- a 月面観賞～天体望遠鏡による月面観察、講話
- b 音楽コンサート
- c 会津の民話

エ 東松峠ウォーキング大会2016

(ア) 目的

- a 「旧越後街道」は、古くから会津若松と新潟県新発田市を結ぶ重要な街道であり、文化庁が選定する「歴史の道百選」に選定されており、地域の歴史的文化遺産である「東松峠」の再確認と継承・維持と保護の一環とする。
- b 東松峠ウォーキング大会に、地区外から参加を集うことにより、交流・地域の活性化を図る。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 平成28年10月22日(土)84名参加

b 一般対象

(ウ) 活動内容

<コース>

高寺コミュニティーセンター→天屋・本名→三本松→旧道→里檀→東松洞門→峠の茶屋跡→新道→三本松→天屋の阿弥陀様（希望者）→高寺コミュニティーセンター ※片門薬師堂（希望者）

オ 新そばにチャレンジ

(ア) 目的

そば打ち体験を通して、郷土の食生活、食の大切さを理解し、参加者同士の交流を深める。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 第1回：平成28年11月12日（土）
64名参加、講師3名
第2回：平成28年11月13日（日）
71名参加、講師3名
第3回：平成28年11月20日（日）
56名参加、講師3名

b 一般対象

(ウ) 活動内容

- a そば打ち実演
b そば打ち体験
c そば茹で実演
d そば茹で体験
e 試食

カ 手作り森のクリスマス

(ア) 目的

クリスマスケーキ、クラフトづくりを通して、楽しみながらケーキを作ったり、自然素材を工夫したりすることにより、家族やグループ間の交流、親睦を深める。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 第1回：平成28年12月3日（土）
47名参加、講師1名
第2回：平成28年12月4日（日）
48名参加、講師1名
b 県内の小・中学生とその家族対象

(ウ) 活動内容

- a クリスマスケーキ作り
(a) 講師の実演
(b) 生地づくり、ロールの仕方、デコレート
b クリスマスクラフト作成
c 試食

キ ウィンターフェスティバル

(ア) 目的

会津自然の家での宿泊、雪国ならではの冬を楽しむ活動などを通して、会津の冬や伝統文化のすばらしさを体験するとともに、参加者相互の交流を深めさせる。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 平成29年1月21日（土）～22日（日）1泊2日

159名参加

b 県内の小・中学生とその家族対象

(ウ) 活動内容

- a 1日目：そりすべり、木工クラフト、スノーシュー体験、雪灯籠作り、会津の民話
b 2日目：猪苗代スキー場（スキー、スノーボード、そり、エアボード）

ク そりチャレンジデー

(ア) 目的

県民にそりゲレンデを開放することにより、会津の冬の楽しさを感じさせるとともに、冬の自然体験を備えた本所への理解を深めさせ、今後の集客につなげる。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 第1回：平成29年1月29日（日）299名参加
第2回：平成29年2月12日（日）135名参加
第3回：平成29年2月19日（日）128名参加
第4回：平成29年2月26日（日）126名参加
b 県内の幼児、小・中学生とその家族対象

(ウ) 活動内容

そりすべり、チューブすべり、エアボードすべり
ケ クラフトキッズフェア

(ア) 目的

- a 親子で工夫し、楽しみながらクラフト作成を行うことにより、子どもの発想力や創造力を高めたり、親子の絆を深めたりする。
b クラフト作成の場を提供することにより、本所のプログラムについて理解を深める機会とする。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 平成29年3月5日（日）229名参加
b 県内の幼児、小・中学生とその家族対象
c ボランティア5名

(ウ) 活動内容

- a 木工クラフト
b かさ袋ロケット
c 割りばし鉄砲
d プラバン作成
e カラーキャンドル
f 新聞エコバック

(4) その他の企画事業

ア ふくしまっ子自然の家体験活動応援事業
<会津自然の家サマーフェスタ>

(ア) 目的

自然の中での冒険体験等を通して、幼児、児童、生徒に対し、自立心や忍耐力、協調性を養わせるとともに、自然と調和することの大切さを感じさせる。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 平成28年8月7日（日）254名参加
b 県内の幼児、小・中学生とその家族対象
c 派遣支援員4名、ボランティア10名
協力団体27名

(ウ) 活動内容

- a プログラム体験コーナー
アスレチック、カヌー体験、UFO ゴルフ、ミニ
樹木オリエンテーリング、森遊び、クラフト
- b 野外クッキング体験コーナー
バウムクーヘン
- c 協力団体コーナー
水辺の生き物観察コーナー、会津の民話、よさこ
い、チアリーダー、ヒップホップダンス

イ ふくしまっ子自然の家体験活動応援事業

<会津自然の家スノーフェスタ>

(ア) 目的

冬の会津での自然体験活動を通して、自立心や忍耐力、協調性を養うとともに、自然と調和することの大切さを知る。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 平成 29 年 2 月 5 日 (日) 171 名参加
- b 県内の幼児、小・中学生とその家族対象
- c 派遣支援員 4 名、インストラクター 10 名

(ウ) 活動内容

猪苗代スキー場でのスキー、そりすべり、エアボードすべり体験

ウ 未来キッズ生き生き事業

(ア) 目的

県内の子どもたちとその家族を自然の家へ招待し、プレイリーダーの協力も得ながら、一日を通して、自然の家でのプログラムに基づき、心身の健康や運動不足解消や体力増進となる取組を実施する。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 第 1 回：平成 28 年 5 月 29 日 (日) 809 名参加
第 2 回：平成 28 年 6 月 19 日 (日) 218 名参加
第 3 回：平成 28 年 7 月 3 日 (日) 110 名参加
第 4 回：平成 28 年 8 月 21 日 (日) 218 名参加
第 5 回：平成 28 年 9 月 11 日 (日) 292 名参加
第 6 回：平成 28 年 10 月 16 日 (日) 233 名参加
- b 会津地方の 12 歳以下の子供たちとその家族対象

(ウ) 活動内容

フィールドアスレチック、森遊び、UFO ゴルフ、草すべり、的あて、オリエンテーリング

エ ふくしまキッズフェスタ 2016 in 会津

(ア) 目的

アスレチック、スポーツ、レクリエーション、コンサート、宿泊キャンプ等、様々な分野のイベントを開催し、子供たちやその家族の心身のリフレッシュと自然の家の活動への理解を深めさせる。

(イ) 期日、対象、参加者数

- a 平成 28 年 10 月 1 日 (土) ~2 日 (日)
1580 名参加
- b 一般対象

(ウ) 活動内容

カヌー、アスレチック、草すべり、森遊び、UFO ゴルフ、もっくんキーホルダー、ニュースポーツチャレンジランキング、野外クッキング、屋外・屋内イベント

第18節 福島県いわき海浜自然の家

1 概要

福島県いわき海浜自然の家は、海と山の豊かな自然環境の中で様々な活動や集団宿泊体験を通して、心身ともに健全な青少年を育成することを目的とした社会教育施設として平成8年7月に開所した。

開所以来、学校の利用はもとより、スポーツ少年団、子ども会などの社会教育団体や家族などのあらゆる年齢層に利用されてきた。

しかし、平成23年3月11日の東日本大震災により休所を余儀なくされ、同年11月1日から財団法人いわき市教育文化事業団を指定管理者として一部再開をした。以降、利用者が少しでも安心して利用できる環境を創出するため、活動エリアの放射線量測定及びデータの公開を行うとともに、低減措置を講じている。

平成23年度には本館周辺、平成24年度にはつどいの広場やいこいの広場、及び第5営火場周辺の芝生張替等による線量低減措置、平成25年度にはトリムランドの除染、野営場入り口付近の崩落現場の復旧工事を実施した。平成26年度には野営場の表土入替作業や営火場のレンガ交換など除染作業を行い安全安心な活動エリアの拡大・復旧に努めた。なお、復旧工事等により平成25年度まで使用できなかったロッジ・野外炊飯場等については、除染終了後の平成26年7月より使用を再開した。しかし、山林部分の放射線対策は進まずフィールドアスレチックや冒険の森などの山での活動プログラムの再開はできていない。しかしながら、四倉海岸の海水浴の再開に合わせて、砂の芸術や磯遊びなどの本施設の目玉である海浜活動の一部を再開した。また、いかだ活動は、海での再開が困難な状況であるため平成28年度から川での活動として再開した。

平成28年度の利用状況は、543団体、延べ利用者数40,566人で、震災前の平成22年度（546団体 66,611人）に比して61%ほどであった。、学校教育団体の利用は、153団体延べ12,778人（平成22年度は342団体、延べ50,576人）と、団体数では44%、延べ人数では3割にも満たない状況である。しかしながら、全体的な団体数は、ほぼ同数に戻ってきている。これは、震災以降に公民館などに積極的に広報活動を行い社会教育団体の利用の増加に努めたためであり、平成22年度142団体、延べ13,444人の利用から平成28年度は、団体数247%増の351団体、延べ人数166%増の22,400人へと大きく利用者増に結びついている。

(1) 平成28年度重点目標と成果

震災によって、これまでの自然体験活動が制限される中、少しでも多くの利用者が、新たな発見や感動、満足感・充実感を味わうことにより、本来の活動目的が達成されるよう次の目標に取り組んだ。

ア 本施設の設置目的の明確化とその周知及び利用促進を図る。

(ア) 自然体験活動が制限される中で教育施設として、青少年健全育成を目的とした利用のあり方などを考えながら受け入れを実施。野外での活動内容が制限されていることから、クラフト活動、歴史講座などの出前講座の充実を図った。

(イ) オープンデーやクラフトのつどいなどの企画事業を充実させ、利用の促進・広報につなげることができた。

(ウ) 小・中学校等への利用促進のための情報提供、PR活動に努めるとともに、生涯学習施設としての役割に鑑み、教育文化施設や公民館への広報活動を行い、史跡・文化財めぐり、健康体操、ニュースポーツなどを実施。さらには、公民館等との連携事業を展開するなど、新たな利用者開拓を行った。

イ 利用者のニーズに対応した施設運営に努める。

(ア) 幼児から高齢者まで、多様なニーズに対応した幅広いプログラムの開発とクラフト活動に努めた。

(イ) 企画事業を通してアンケート調査を実施し、利用者のニーズについての調査・研究を行い、ニーズに応じた支援を実施した。また、利用者の自主性・主体性を助長できるよう、工夫・改善に努めた。

ウ 事故の未然防止、危機管理体制の充実に努める。

(ア) 受付やオリエンテーション、活動支援において安全のための適切な助言や指導を行った。

(イ) 学校・社会教育団体ともに事前研修会を実施し、安全で有効かつ適切な施設の活用について周知徹底するとともに、利用団体の指導者に対して適切な助言を行い安全教育の充実を図った。

(ウ) 東日本大震災を教訓として、事故発生時の緊急対応及び連絡体制を明確にし、情報の共有化を徹底し危機管理体制の充実に努めた。

無線アンテナ設備の設置による海浜活動時等の情報通信網の整備や自然災害等での避難方法のマニュアル化など、利用者の安全と被害防止に努めた。

(エ) 本年度も利用不可であったが、フィールドアスレチックコース等の安全点検を定期的に行うとともに、利用可能な遊具等の安全管理に努めた。

また、施設全体と活動エリアである海岸、さらに非活動エリア内山間部の放射線量の測定を定期的実施して公表した。

エ 定期的な業務内容の点検と改善に努める。

(ア) 計画的かつ定期的な評価により、改善点の明確化を図り、密度の高い施設運営に努めた。

(イ) 多面的かつ多角的な視点から、業務遂行の在り方について検討し、開かれた施設運営に努めた。

(ウ) 利用者へのアンケート結果を参考に、業務遂行の在り方を検討し、利用者の目線に立った支援や管理運営に努めた。

- オ 地域との連携を深め、生涯学習実践の場として機能する施設運営に努める。
- (ア) 環境ボランティアを中心に地域との関係を密接にし地域に根ざした施設づくりに努めた。
- (イ) 支援ボランティアが企画事業の一端を自主運営するなど、ボランティア活動の場の充実に努めた。
- (ウ) 公民館、支所、消防署、交番、教育文化施設等のほか、地域の各種団体など、関係機関との連携強化に努めた。
- (エ) オープンデーやクラフトのつどいなどの利用促進事業を地域の連携、協力を得て開催した。

- バドミントンコート2面、卓球台3台、ピアノ1台 キンボール 他)
- 野営場 (野外炊飯、キャンプ用品一式、冷蔵庫 他)
 - 野外活動設備 (フィールドアスレチックコース、冒険の森歩道、トリムランド、営火場5ヵ所、各種オリエンテーリングコース、ナイトハイキングコース、ウォークラリーコース、ロープコース、マウンテンバイクコース 他)
 - 多目的広場 (ソフトボール、マウンテンバイクコース、サッカーゴール 他)
 - その他 (視聴覚機器、無線機 天体望遠鏡、双眼鏡、七宝焼窯、マウンテンバイク、釣り用具一式、海浜用具一式、大型バス 他)

(2) 職員組織

所長	次長	事務主任	副主任	庶務	教育	生涯学習	運動	事務	臨時	計
1	1	1	1	3	1	4	1	1	1	17

2 施設・設備の概要

(1) 所在地

いわき市久之浜町田之網字向山53

(2) 宿泊定員

- 本館定員 300名 (和室28室)
- ロッジ定員 160名 (10棟)
- テント定員 100名 (25張)

(3) 敷地面積

- 350,171㎡

(4) 建物面積

- 6,696.97㎡
- 中心施設
本館 (宿泊室、オリエンテーションホール、研修室、野外学習室、事務室、食堂、浴室等)
体育館
- 野外施設
管理棟、ロッジ、便所等

(5) 野外活動施設面積

- つどいの広場 7,000㎡
- 多目的広場 8,890㎡
- 自然観察園 4,050㎡
- みんなの広場 4,700㎡

(6) 設備品等

- 体育館 (バレーボールコート2面、バスケットボールコート1面(バスケットボールリング、ミニバスケットボールリング)、

3 利用状況

(1) 平成28年度利用者数

延べ利用者数 40,566人

内訳	学校教育団体	153団体	12,778人
	社会教育団体	351団体	22,400人
	ファミリー	6団体	76人
	企画事業		5,312人

4 企画事業

(1) 研修会事業

ア 学校団体指導者事前研修会

(ア) 目的

本所の利用にあたって、自主的、主体的な活動を展開するため、施設見学や実技研修を行い、研修計画の立案やその実施についての理解を深める。また、学校間で調整を図り、宿泊体験活動が円滑に実施できるようにする。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成28年4月20日(水)～21日(木)
- ・対象 平成28年度利用の学校団体
- ・参加者数 59名

(ウ) 研修内容

- ・施設紹介と利用の仕方について
- ・本所プログラム活動の紹介
- ・活動プログラムの作成・調整

イ 社会教育団体指導者事前研修会

(ア) 目的

施設見学や実技研修を通して、自主的、主体的な活動の進め方や研修計画の立て方の理解を深め、活動が円滑に実施できるようにする。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成28年5月27日(金)

- ・対象 平成28年7月1日以降の利用団体及び参加希望団体

- ・参加者数 59名

(ウ) 研修内容

- ・施設紹介と利用の仕方について
- ・本所プログラム活動の紹介
- ・海浜活動(磯遊び)

ウ ボランティア養成講座

(ア) 目的

自然体験活動を支援する上で、必要な知識と技術を習得するとともに、本所のボランティアとしての活動方法を学ぶ。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成28年5月8日(日) 参加者数 13名
- 平成28年7月10日(日) 参加者数 11名
- 平成28年10月23日(日) 参加者数 13名
- 平成28年11月27日(日) 参加者数 9名

- ・対象 高校生 大学生 一般

(ウ) 内容

実施予定の自然体験活動・企画事業支援についての研修を行った。

(2) 利用促進事業

ア 春のオープンデー

(ア) 目的

施設を地域の人々に広く開放し、本所への理解を深め、地域の中での自然の家の役割を認識し、多くの方々の協力及び参加を得ながら地域づくりやまちづくりに貢献する。さらに、ボランティアスタッフとのつながりを深め、生涯学習活動や施設運営の充実を図る。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成28年5月22日(日)
- ・対象 一般
- ・参加者数 1,632名

(ウ) 内容

スポーツ体験(グラウンドゴルフ、マウンテンバイクなど)、餅つき、チアリーディングショー、太鼓演奏、クラフト体験(下敷き・缶バッジ作り、ハンカチ作り)、野外炊飯、消防車・救急車展示、海浜レストラン、海浜風呂などで楽しんだ。

イ 遊ぼう!初夏の海で〜釣り・磯遊び〜

(ア) 目的

海での釣りや磯遊びを楽しみながら家族の絆を深める。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成28年6月26日(日)
- ・対象 小学生とその家族
- ・参加者数 47名

(ウ) 内容

家族が防波堤や磯などでさまざまな魚を釣ったり、

磯遊びなどを楽しみながら海への理解を深めた。

ウ 秋のオープンデー(ふくしまっ子自然の家体験応援事業)

(ア) 目的

施設を地域の人々に広く開放し、本所への理解を深め、地域の中での自然の家の役割を認識し、多くの方々の協力及び参加を得ながら地域づくりやまちづくりに貢献する。さらに、ボランティアスタッフとのつながりを深め、生涯学習活動や施設運営の充実を図る。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成28年9月25日(日)
- ・対象 一般
- ・参加者数 1,397名

(ウ) 内容

スポーツ体験(グラウンドゴルフ、マウンテンバイクなど)、魚つかみ取り、火おこし体験、フラダンスショー、太鼓演奏、七福神、クラフト体験(缶バッジ、木のペンダント作りなど)、ダンボール迷路などを楽しんだ。

エ 親子のつどい

(ア) 目的

親子での共同作業を通して、家族の絆を深めるとともに、他の家族との交流の促進を図る。

地域の人々やボランティアへ活動の場を提供し、交流の推進を図る。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成28年10月15日(土)
- ・対象 幼児から小学生とその家族
- ・参加者数 171名

(ウ) 内容

家族で伝承遊び(竹馬、けん玉)、クラフト(キーホルダー作り)、野外炊飯(カレー作り、流しそうめん作り)、ダンボール迷路などで楽しんだ。

オ ふれあいウォーキング

(ア) 目的

ウォーキングを通して健康の大切さや本所周辺の歴史・文化、自然環境を学ぶ。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成28年10月30日(日)
- ・対象 一般
- ・参加者数 77名

(ウ) 内容

浜菊などの花を見たり、アケビや栗など秋の自然を感じながらウォーキングを行った。

カ ふれあいオータムキャンプ

(ア) 目的

自然の素晴らしさや人とふれあう喜びを体得し、協調性・社会性を身につけ、自立心を養う。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成28年11月12日(土)〜13日(日)

- ・対象 小学生
- ・参加者数 25名

(ウ) 内容

交流ゲームや野外炊飯（豚汁うどん）、キャンドルファイア、夏井川溪谷でのハイキングなどを行い参加者同士の親睦を深めた。

キ 冬を楽しもう！～スキー教室～

(ア) 目的

雪で遊ぶことの少ないいわきのこどもを対象に、県内の自然や冬の自然体験活動を学ぶ。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成29年1月8日(日)
- ・対象 小学生とその家族
- ・参加者数 40名

(ウ) 内容

猪苗代スキー場でスキーやそり遊びなどのウィンタースポーツを体験した。

ク クラフトのつどい（ふくしまっ子自然の家体験応援事業）

(ア) 目的

創作活動の場を提供し、ものづくりの楽しみや生涯学習の振興に寄与することを目的とする。併せて、本所への理解、利用促進を図る。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成29年2月19日(日)
- ・対象 幼児から中学生とその家族
- ・参加者数 454名

(ウ) 内容

コースター作り、缶バッジ、竹細工（竹とんぼ、ぼっくり）、昔遊び、おしる粉振る舞いなどを楽しんだ。

ケ 森の音楽会

(ア) 目的

普段、あまり聴くことのない演奏を身近で鑑賞することにより、日本の伝統音楽に対する関心を高めるとともに本所の利用促進を図る。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成29年3月5日(日)
- ・対象 一般
- ・参加者数 155名

(ウ) 内容

ディナーバイキング料理と太鼓や箏などの和楽器演奏を堪能した。

(3) その他の企画事業

ア 公民館等連携講座（全30件）

(ア) 目的

いわき市立公民館等と連携し、史跡見学・歴史講座、ニュースポーツ、クラフト体験などを行い、社会教育団体等の利用促進を図った。

(イ) 期間・対象及び参加者数

- ・期日 平成28年4月1日(金)～平成29年3月31日(木)

・対象 成人

・参加者数 703名

(ウ) 内容

歴史講座、クラフトやニュースポーツ体験、健康体操などを体験した。

イ 出前講座（全6件）

(ア) 目的

自然の家の活動内容の紹介と学校及び社会教育団体等への利用促進を図るために、また、生涯学習教育の一環として出前講座を行う。

(イ) 期間・対象及び参加者数

- ・期日 平成28年4月1日(金)～平成29年3月31日(木)

・対象 学校、市内公民館など

・参加者数 346名

(ウ) 内容 歴史講座、ニュースポーツ、クラフト体験など。

(4) 連携事業

ア 未来キッズ生き生き事業（主催：福島県社会教育課）

(ア) 目的

身体を動かすプログラムを提供し、県民の体力向上の促進を目的とする。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- | | |
|------------------|----------|
| ・期日 平成28年5月1日(日) | 参加者数 93名 |
| 平成28年6月12日(日) | 参加者数 79名 |
| 平成28年7月10日(日) | 参加者数 63名 |
| 平成28年7月17日(日) | 参加者数 64名 |
| 平成28年8月28日(日) | 参加者数 15名 |
| 平成28年9月11日(日) | 参加者数 9名 |

・対象 一般

(ウ) 内容

ニュースポーツや竹馬やけん玉などの昔遊び、ロープを使つての冒険遊びなどで楽しみながら身体を動かした。

イ ふれあいサマーキャンプ（共催：会津自然の家）

(ア) 目的

海での活動を通して自然や人とふれあう喜びを体得するとともに、協調性・社会性を身につける。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成28年7月29日(金)～31日(日)
- ・対象 小学生
- ・参加者数 64名

(ウ) 内容

海浜活動(砂の芸術 ボディーボード)、交流ゲーム、野外炊飯、すいか割り、水族館見学などを行い参加者同士の親睦を深めた。

ウ 体験の風リレーションシップ事業

なすかしの森キンボール教室inいわき

(ア) 目的

福島県内でのキンボールの認知度を高めることを目的とし、プレーを通して家族や友達との交流を深める。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成28年12月10日(土)～11日(日)
- ・対象 小学生とその家族
- ・参加者数 43名

(ウ) 内容

プレーを通して家族や友達との交流を深め、他人を思いやる心や協調性、ルールを守ることの大切さなどを学んだ。

エ 福島の冬！ウィンターフェスティバル

(主催:会津自然の家)

(ア) 目的

福島の冬の風情や伝統文化のすばらしさを発見させるとともに参加者相互の交流を図った。

(イ) 期日・対象及び参加者数

- ・期日 平成29年1月21日(土)～22日(日)
- ・対象 小・中学生とその保護者
- ・参加者数 41名(当所からの参加者)

(ウ) 内容

会津自然の家に宿泊し、スキーや雪遊びなどの冬の自然体験活動を満喫した。

(5) その他

ア タイ青少年日本語研修(タイ王国カインドエンジェル)

(ア) 期日 平成29年3月11日(土)～4月30日(日)

(イ) 内容

36名のタイ青少年が50日間にわたり日本語学習と観光施設見学、茶道などを体験して国際交流、日本文化への理解を深めた。

第10章 文化財

第1節 文化財保護体制の充実

(1) 指定文化財保護体制の充実(文化財パトロール)

例年、文化財保護の万全を期すため、民間の有識者を文化財保護指導委員に委嘱し、パトロール計画に基づいて、定期的に国・県指定重要文化財や重要遺跡の巡視を行い、その実態把握に努めてきた。平成28年度も巡視対象地区を14地区に編成して実施した。

(2) 文化財保護指導者研修会

ア 趣旨

文化財に関する知識の普及と愛護精神の高揚を図るため、県文化財センター白河館が実施主体となり、文化財の保護について指導的立場にある関係者に対し、文化財に関する専門的事項について講習を行い、市町村における文化財保護行政の進展に役立てることを目的とする。

イ 期日及び場所

平成28年10月13日(木)～14日(金)

郡山市

ウ 内容

(ア) 講義内容及び講師

- a 「人口2,000人の村の文化財保全」
中央学院大学
- b 「富岡町歴史・文化等保存プロジェクトチームの活動」
富岡町教育委員会
- c 「福島県の文化財保護行政の現状」
福島県教育庁文化財課
- d 「未来を拓いた『一本の水路』」
郡山市教育委員会
- e 「民俗芸能の継承の実例と課題」
民俗芸能学会福島調査団
- f 「大安場古墳の保存活用」
郡山市文化・学び振興公社

(イ) 現地研修

国指定史跡「大安場古墳」

(3) 市町村文化行政担当者会議

ア 趣旨

県内市町村の文化財行政担当者が職務を遂行するうえでの必要な知識の習得を図り、また、実務上の疑問点や問題点等について質疑・意見交換することによって、より円滑に文化財行政を推進させることを目的として開催した。

イ 期日及び場所

平成28年6月1日(水) 西庁舎12階

ウ 内容

- (ア) 文化行政の動向
- (イ) 平成28年度事業について
- (ウ) 指定文化財の対応について

第2節 埋蔵文化財の保護の充実

(1) 埋蔵文化財保護体制

県の歴史と文化を物語る文化財や県内の遺跡への関心は、県民の中で着実に高まっており、福島県教育委員会は、埋蔵文化財(遺跡)についても保存・保護のため調査体制の充実を図ってきた。平成28年度は、東日本大震災からの復旧・復興事業の埋蔵文化財調査の他道県市教育委員会から5名の派遣を受けて、文化財課の体制を強化した。

他道県市からの派遣

派遣期間	道 県 市 名
H28.4～H29.3	北海道、山梨県、愛知県、鳥取県、 神戸市

また、(公財)福島県文化振興財団遺跡調査部においては、財団職員21名、派遣教員3名、財団間出向職員3名、嘱託職員4名、計32名で調査にあたった。

福島県文化振興財団遺跡調査部職員数

年度	57	58	59	60	61	62	63	元	2	3	4	5	6	7
人員	26	26	30	40	44	47	47	55	60	60	62	62	62	62
年度	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
人員	62	62	68	68	76	61	39	40	40	40	41	41	38	32
年度	22	23	24	25	26	27	28							
人員	26	26	35	40	39	37	32							

(平成14年度までは遺跡調査課定数)

(2) 開発事業地内の保護対策

開発事業地内の遺跡の保護は、①遺跡の所在・範囲・内容等を明らかにする「分布調査」・「試掘・確認調査」の結果により、②事業者と遺跡を保護するための「保存協議」を行い、③現状保存ができない場合は、発掘調査により「記録保存」し、その成果を調査報告書としてまとめることで対応している。

ア 分布調査、試掘・確認調査

分布調査、試掘・確認調査は、遺跡を保護するための情報を収集することを目的としている。

試掘・確認調査は、一般国道115号相馬福島道路16箇所92,450㎡、一般国道289号南倉沢バイパス1箇所4,700㎡を実施した。分布調査は、会津縦貫北道路建設に伴う計画路線内190haを実施した。

イ 保存協議

昨年度の継続協議を含め、次の事業について関係機関と保存協議を実施した。

一般国道115号相馬福島道路の各事業関係機関、国道・県道の工事事務所等。

ウ 発掘調査

福島県教育委員会では、開発に伴う発掘調査(記録保存調査)を(公財)福島県文化振興財団に委託した。調

査した遺跡は下記のとおり。

- ・阿武隈川上流河川改修事業：高木遺跡（須賀川市）
4,000㎡
- ・会津縦貫南道路：瀧ノ入遺跡（下郷町）
4,000㎡
- ・一般国道115号相馬福島（霊山）道路：沼ヶ入遺跡（伊達市）
4,000㎡
- ・一般国道115号相馬福島道路（霊山～福島）：上ノ台遺跡他3（伊達市・桑折町）
11,150㎡
- ・農山漁村地域復興基盤総合整備事業：谷地中遺跡（南相馬市）
8,000㎡
- ・農山漁村地域復興基盤総合整備事業：桶師屋遺跡（南相馬市）
2,600㎡
- ・県道浪江鹿島線整備事業：植松C遺跡（南相馬市）
5,200㎡
- ・常磐自動車道ならばスマートインターチェンジ
大谷上ノ原遺跡（檜葉町）1,700㎡

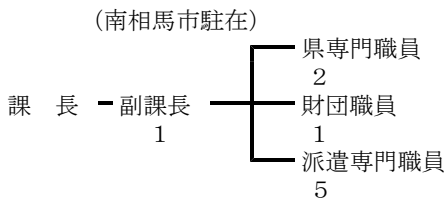
なお、県内市町村においても開発に伴う発掘調査が各市町村教育委員会によって実施しているが、遺跡の重要性や調査体制の実情に応じ、適時福島県教育委員会が指導・助言している。

(3) 平成28年度の復興事業に係る埋蔵文化財調査状況

前年度に引き続き、全国から専門職員5名の派遣を受けて県の復興調査体制を強化し、県営は場再整備事業、海岸防災林関連事業等に係る埋蔵文化財の分布調査、試掘・確認調査を迅速に実施し、復興事業計画に遅れが出ないように対応した。

また、被災市町村の復興事業に対しても、専門職員所在の有無に関わらず技術協力を実施し、復興事業の迅速化に寄与してきた。

〈平成28年度〉復興調査体制



調査対応した開発事業は以下のとおりである。

- ア 分布調査
農地改良、復興祈念公園、イノベーションコースト関連（風力発電）、中間貯蔵施設等
約1,105万㎡
- イ 試掘・確認調査
農地改良、海岸防災林、中間貯蔵施設等
約104万㎡
- ウ 災害復興に係る市町村技術協力
 - ① 南相馬市
工業団地、土砂採取、市内再開発関連等に係る分布調

査、試掘・確認調査

- ② 浪江町
防災用道路に係る本発掘調査、報告書作成、工業団地に係る分布調査
- ③ 双葉町
福島第一原子力発電所内造成に係る分布調査及び試掘・確認調査、震災アーカイブ施設に係る分布調査
- ④ 広野町
民間食堂、農地改良、ふたば未来学園寄宿舎に係る試掘・確認調査、道の駅に係る分布調査

(4) 埋蔵文化財保護体制充実のための研修

ア 福島県文化財センター白河館文化財研修
埋蔵文化財の調査を担当する自治体・団体職員などを対象とした研修会を、(公財)福島県文化振興財団へ委託し、福島県文化財センター白河館研修事業とし実施している。

イ 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所埋蔵文化財担当者専門研修

平成28年度研修を受けた者は、以下のとおり。

研修名称	期 日	受 講 者
報告書作成課程	12月8日～ 12月16日	(公財)いわき市教育文化事業団 1名
保存科学Ⅳ(遺構・石造文化財)課程	2月13日～ 2月17日	伊達市 1名 会津若松市 1名

(5) 埋蔵文化財保護普及活動

平成28年度に刊行した埋蔵文化財調査報告書は以下のとおり。

- ア 福島県内遺跡分布調査報告23
- イ 会津縦貫南道路遺跡発掘調査報告書1
- ウ 県道広野小高線関連遺跡発掘調査報告1
- エ 県道北泉小高線関連遺跡発掘調査報告2
- オ 農山漁村地域復興基盤総合整備事業関連遺跡調査報告2
- カ 一般国道115号相馬福島道路遺跡発掘調査報告5
- キ 東日本大震災復興関連遺跡調査報告3
- ク 保管場設置等工事予定地における埋蔵文化財調査報告書
- ケ 常磐自動車道遺跡調査報告73

(6) 市町村埋蔵文化財調査技術協力事業

この事業は、県内の市町村教育委員会が実施する埋蔵文化財発掘調査等について、市町村教育委員会からの要請により県教育委員会が埋蔵文化財の調査等に必要な技術を協力・支援する事業である。

調査等に必要な技術の協力・支援を行う職員は、県教育委員会の依頼により(公財)福島県文化振興財団が選任した財団職員で、分布調査、試掘確認調査、小規模な発掘調査及び出土遺物の整理や報告書作成に関する技術の協力・支援を行う。

平成28年度の技術協力の実績は、以下のとおり。

市町村	遺 跡 名	協 力 内 容
矢祭町	中山遺跡	本発掘調査
下郷町	館本遺跡	試掘・確認調査
矢祭町	中山遺跡	本発掘調査
南会津町	万福寺跡	試掘・確認調査
矢祭町	中山遺跡	本発掘調査
西会津町	横町館跡	本発掘調査
金山町	宮崎遺跡隣接地	試掘・確認調査
矢祭町	国道 349 号改良工区内	分布調査
西会津町	横町館跡	本発掘調査
矢祭町	中子遺跡・宮平遺跡	試掘・確認調査
西会津町	横町館跡	本発掘調査
矢祭町	割目遺跡	試掘・確認調査
西会津町	横町館跡	本発掘調査
川俣町	川俣代官所跡	試掘・確認調査
西会津町	横町館跡	本発掘調査
川俣町	国道 349 号改良工区内	分布調査
矢吹町	西袴館跡	試掘・確認調査
古殿町	竹貫城跡	試掘・確認調査
昭和村	国道 401 号改良工区内	試掘・確認調査
檜葉町	天神原遺跡	試掘・確認調査
須賀川市	ほ場整備（森谷宿・滑川地内）	分布調査

(7) 文化財センター整備事業

福島県教育委員会が（公財）福島県文化振興財団に委託して実施した発掘調査により出土した遺物の保存処理及び調査・研究については、渡利の県施設を活用し、福島県文化財センター整備事業の一機能として実施している。主な業務として金属製品や木製品等脆弱な出土文化財の保管管理と劣化防止措置、出土した遺物の整理・梱包・搬送・文化財データベース入力を実施している。

(8) 平成28年度開発事業に伴う試掘確認調査件数

(平成28年4月～29年3月)

No.	調査原因	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	計
1	道路建設	3	1	3	2	2	1	1	13
2	河川・ダム・空港・港湾	0	0	0	0	0	0	0	0
3	学校建設	1	5	0	0	0	2	1	9
4	その他の建物	4	5	0	1	0	13	4	27
5	宅地造成・住宅等	40	102	1	1	0	22	5	171
6	都市計画等	0	0	0	0	0	0	0	0
7	公園造成など	0	0	0	0	0	0	1	1
8	土砂採取	0	1	0	0	0	14	0	15
9	農業関係	0	0	0	1	0	34	0	35
10	電気・ガス・水道	0	0	0	0	0	0	0	0
11	その他の開発	7	9	1	1	2	23	3	46
	計	55	123	5	6	3	95	15	302

※ 試掘確認調査件数の内訳は、県教育委員会が実施したものの46件、市町村教育委員会が実施したものの271件です。

(9) 平成28年度発掘調査件数

(平成28年4月～29年3月)

No.	調査原因	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	計
1	道路建設	1	1	2	0	1	3	0	8
2	河川・ダム・空港・港湾	0	1	0	0	0	0	0	1
3	学校建設	0	0	0	0	0	0	0	0
4	その他の建物	0	0	0	1	0	0	0	1
5	宅地造成・住宅等	1	1	0	1	0	2	1	6
6	都市計画等	0	0	0	0	0	0	0	0
7	公園造成など	0	0	0	0	0	0	0	0
8	土砂採取	0	0	0	0	0	1	0	1
9	農業関係	0	1	0	1	0	3	0	5
10	電気・ガス・水道	0	0	0	0	0	0	0	0
11	その他の開発	0	0	0	0	0	2	0	2
	小計	2	4	2	3	1	11	1	24
12	史跡整備	6	0	3	5	0	1	0	15
13	学術調査	0	0	0	3	0	0	0	3
	合計	8	4	5	11	1	12	1	42

※ 発掘調査件数の内訳は、県教育委員会が実施したものの7件、市町村教育委員会が実施したものの32件、大学等研究機関が実施したものの3件です。

※ 史跡整備等には、史跡整備・遺跡整備・保存目的の範囲内容確認調査が含まれます。

(10) 平成28年度開発事業に伴う試掘調査（周知の遺跡）

No.	遺跡名	所在地	調査主体者	調査実施期間	調査面積㎡	時代	種別	調査原因
1	南諏訪原遺跡	福島市松川町字南諏訪	福島市教委	5月12日～5月13日	18㎡	縄文・奈良・平安・近世	散布地	個人住宅
2	猿内館跡	福島市下野寺字猿内	福島市教委	5月16日～5月26日	74㎡	中世	城館跡	その他開発
3	明神町遺跡	福島市飯坂町湯野字明神町	福島市教委	5月17日～5月20日	14㎡	縄文	不明	その他開発
4	南諏訪原遺跡	福島市松川町字南諏訪	福島市教委	5月24日～6月9日	204㎡	縄文・奈良・平安・近世	散布地	その他開発
5	宮代館跡	福島市宮代字屋敷畑	福島市教委	6月10日～6月29日	80㎡	平安	城館跡	住宅
6	大森城跡	福島市大森字城山	福島市教委	6月14日～月日	6㎡	中世	城館跡	個人住宅
7	御山千軒遺跡	福島市御山字仲屋敷	福島市教委	6月30日～7月7日	47㎡	奈良・平安	散布地	住宅
8	塚腰遺跡	福島市大森字西ノ内	福島市教委	7月4日～7月5日	28㎡	奈良・平安	散布地	その他開発
9	南諏訪原遺跡	福島市松川町字南諏訪	福島市教委	7月26日～8月5日	60㎡	縄文・奈良・平安・近世	散布地	個人住宅
10	田中内南遺跡	福島市上鳥渡字田中内南	福島市教委	7月27日～8月2日	40㎡	奈良・平安	散布地	個人住宅
11	大平・後関遺跡	福島市佐原字大平 他	福島市教委	7月28日～8月26日	209㎡	縄文	散布地	その他開発
12	西宮平遺跡	福島市飯野町飯野字西宮平	福島市教委	8月24日～8月25日	36㎡	奈良・平安	散布地	個人住宅
13	木曾内遺跡	福島市松川町字木曾内	福島市教委	9月7日～月日	26㎡	縄文・奈良・平安	不明	個人住宅
14	南沢又城跡	福島市南沢又字西原	福島市教委	9月12日～10月17日	121㎡	中世	城館跡	道路
15	宿地遺跡	福島市松川町字深田前 他	福島市教委	9月27日～月日	20㎡	縄文・奈良・平安	散布地	個人住宅
16	大蔵廃寺跡	福島市小倉寺字敷ヶ森	福島市教委	10月12日～月日	32㎡	平安	社寺跡	住宅
17	北五老内遺跡	福島市北五老内町	福島市教委	10月18日～10月19日	12㎡	奈良・平安	散布地	個人住宅
18	八郎内遺跡	福島市黒岩字八郎内	福島市教委	11月7日～11月15日	75㎡	縄文・平安	散布地	住宅
19	小森館跡	福島市丸子字上六反田	福島市教委	11月9日～11月22日	59㎡	中世	城館跡	住宅
20	山ノ下遺跡	福島市渡利字山ノ下 他	福島市教委	1月30日～2月7日	23㎡	縄文・古墳・奈良・平安	散布地	宅地造成
21	南館遺跡	福島市南沢又字南館	福島市教委	2月10日～2月17日	40㎡	奈良・平安	散布地	宅地造成
22	高田東遺跡	福島市南矢野目字高田東	福島市教委	4月18日～月日	24㎡	縄文	散布地	個人住宅
23	勝口前畑遺跡	福島市八島田字勝口前畑	福島市教委	4月19日～4月27日	47㎡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	他	住宅
24	山ノ下遺跡	福島市渡利字山ノ下 他	福島市教委	8月22日～9月5日	60㎡	縄文・古墳・奈良・平安	散布地	宅地造成
25	沼北遺跡	福島市松川町字沼北	福島市教委	1月17日～1月18日	40㎡	奈良・平安	散布地	住宅
26	大徳遺跡	郡山市富田町字大徳南	郡山市教委	4月12日～月日	13㎡	古墳	散布地	住宅建設
27	上野山遺跡	郡山市水門町	郡山市教委	4月18日～月日	8㎡	平安	散布地	賃貸住宅
28	咲田遺跡	郡山市咲田二丁目	郡山市教委	4月21日～月日	8㎡	縄文・古墳～平安	散布地	住宅建設
29	陣場遺跡	郡山市富久山町福原字陣場	郡山市教委	4月25日～月日	28㎡	平安	散布地	集合住宅建設
30	陣場遺跡	郡山市富久山町福原字陣場	郡山市教委	4月25日～月日	10㎡	平安	散布地	住宅建設

No.	遺跡名	所在地	調査主体者	調査実施期間	調査面積㎡	時代	種別	調査原因
31	西原遺跡群	郡山市富田町字向山	郡山市教委	4月26日～月日	10㎡	縄文・古墳～平安	散布地	専用住宅建設
32	神明町遺跡	郡山市神明町	郡山市教委	4月26日～月日	6㎡	奈良・平安	散布地	住宅建設
33	愛宕前遺跡	郡山市田村町大供字本地	郡山市教委	5月6日～月日	14㎡	平安	散布地	住宅建設
34	中台遺跡	郡山市富久山町久保田字中台	郡山市教委	5月12日～月日	11㎡	古墳～平安	散布地	アパート建設
35	柴宮山古墳群	郡山市大槻町字麦塚	郡山市教委	5月13日～月日	8㎡	古墳	古墳	住宅建設
36	荒井館跡	郡山市安積町荒井字荒井 他	郡山市教委	5月16日～月日	20㎡	中世	城館跡	住宅建設
37	徳定A・B遺跡	郡山市田村町徳定字才竹	郡山市教委	5月18日～月日	5㎡	縄文～平安	散布地	専用住宅建設
38	成山西遺跡	郡山市成山町	郡山市教委	5月19日～月日	22㎡	奈良・平安	散布地	住宅建設
39	愛宕遺跡	郡山市富久山町久保田字愛宕	郡山市教委	5月24日～月日	48㎡	奈良	散布地	市有地売却
40	西原遺跡群	郡山市富田町字矢ノ根石	郡山市教委	5月26日～月日	57㎡	縄文・古墳～平安	散布地	造成及び分譲
41	鳴神・柿内戸遺跡	郡山市富久山町福原字宝田	郡山市教委	5月31日～月日	21㎡	縄文～平安	散布地	アパート建設
42	太郎殿前遺跡	郡山市富久山町久保田字太郎殿前	郡山市教委	6月6日～月日	18㎡	古墳～平安	散布地	土地売買
43	乙高遺跡	郡山市富久山町久保田字乙高	郡山市教委	6月9日～月日	14㎡	縄文	散布地	住宅建設
44	並木遺跡	郡山市並木五丁目	郡山市教委	6月15日～月日	46㎡	縄文・平安	散布地	長屋住宅建設
45	咲田遺跡	郡山市咲田一丁目	郡山市教委	6月16日～6月17日	114㎡	縄文・古墳～平安	散布地	共同住宅建設
46	辰巳田遺跡	郡山市静町	郡山市教委	6月21日～月日	12㎡	平安	散布地	住宅建設
47	南田遺跡	郡山市富久山町久保田字南田	郡山市教委	6月22日～月日	56㎡	古墳	散布地	長屋建設
48	比丘蓮館跡	郡山市富久山町久保田字古町	郡山市教委	6月27日～月日	17㎡	中世	城館跡	分譲住宅建設
49	比丘蓮館跡	郡山市富久山町久保田字古町	郡山市教委	7月1日～月日	7㎡	中世	城館跡	住宅建設
50	備前館跡	郡山市備前館二丁目	郡山市教委	7月4日～月日	42㎡	中世	城館跡	売買
51	新屋敷遺跡	郡山市新屋敷一丁目	郡山市教委	7月4日～月日	50㎡	奈良・平安	散布地	売買
52	清水の上遺跡	郡山市笹川三丁目	郡山市教委	7月7日～月日	59㎡	縄文	散布地	専門学校建設
53	宮ノ脇遺跡	郡山市中田町高倉字宮ノ脇	郡山市教委	7月8日～月日	14㎡	縄文	散布地	校舍改築
54	南山田古墳群	郡山市桜ヶ丘二丁目	郡山市教委	7月8日～月日	14㎡	古墳	古墳	住宅建設
55	八雲遺跡	郡山市安積町荒井字外川原	郡山市教委	7月11日～月日	17㎡	古墳～平安	散布地	住宅建設
56	旧屋敷遺跡	郡山市安積町日出山字新鍬	郡山市教委	7月12日～月日	38㎡	縄文	散布地	アパート建設
57	柴宮山古墳群	郡山市大槻町室ノ木東	郡山市教委	7月19日～月日	28㎡	古墳	古墳	分譲住宅建設
58	清水台遺跡	郡山市咲田二丁目	郡山市教委	7月21日～月日	10㎡	奈良・平安	官衙跡	住宅建設
59	成山館跡	郡山市成山町	郡山市教委	7月21日～月日	17㎡	中世	城館跡	住宅建設
60	大根畑遺跡	郡山市安積町荒井字大根畑	郡山市教委	7月25日～月日	39㎡	縄文・奈良～平安	散布地	保育所建設

No.	遺跡名	所在地	調査主体者	調査実施期間	調査面積㎡	時代	種別	調査原因
61	東笹原遺跡	郡山市安積町日出山字南台	郡山市教委	7月26日～月日	28㎡	平安	散布地	集合住宅建設
62	原ノ町遺跡	郡山市大槻町字原ノ町	郡山市教委	7月28日～月日	11㎡	古墳～平安	集落跡	住宅建設
63	堤三丁目遺跡	郡山市堤三丁目	郡山市教委	8月1日～月日	15㎡	平安	散布地	住宅建設
64	大欠遺跡	郡山市安積町荒井字山ノ神	郡山市教委	8月2日～月日	11㎡	奈良	散布地	住宅建設
65	中台遺跡	郡山市富久山町久保田字中台	郡山市教委	8月4日～月日	17㎡	古墳～平安	散布地	集合住宅建設
66	大徳遺跡	郡山市富田町字大徳南	郡山市教委	8月8日～月日	10㎡	古墳	散布地	住宅建設
67	篠川館跡	郡山市安積町笹川字高石坊	郡山市教委	8月10日～月日	34㎡	中世	城館跡	集合住宅建設
68	阿久戸遺跡	郡山市町東三丁目	郡山市教委	8月22日～月日	11㎡	弥生・古墳～平安	散布地	住宅建設
69	神明町遺跡	郡山市神明町	郡山市教委	8月23日～月日	11㎡	奈良・平安	散布地	住宅建設
70	成山館跡	郡山市安積町長久保一丁目	郡山市教委	8月25日～月日	28㎡	中世	城館跡	集合住宅建設
71	鳴神・柿内戸遺跡	郡山市富久山町福原字神明	郡山市教委	8月29日～月日	8㎡	縄文～平安	散布地	住宅建設
72	大根畑遺跡	郡山市久留米一丁目	郡山市教委	9月1日～月日	14㎡	縄文・古墳～平安	散布地	住宅建設
73	清水台遺跡	郡山市清水台二丁目	郡山市教委	9月6日～9月17日	222㎡	奈良・平安	官衙跡	集合住宅建設
74	西原遺跡群	郡山市富田町字若木下	郡山市教委	9月9日～月日	18㎡	縄文・古墳～平安	散布地	アパート建設
75	北田遺跡	郡山市西田町三丁目字大森	郡山市教委	9月12日～月日	72㎡	古墳～平安	散布地	資材置場建設
76	堀北遺跡	郡山市中田町中津川字宇津熊	郡山市教委	9月26日～月日	85㎡	縄文・平安	散布地	鉄塔建替
77	水穴遺跡	郡山市富田町字水穴	郡山市教委	9月27日～月日	11㎡	平安	散布地	整地工事
78	郡山宿上榊形A遺跡	郡山市本町一丁目	郡山市教委	10月3日～月日	4㎡	近世	その他	長屋住宅
79	巳六段遺跡	郡山市安積町荒井字雷神山	郡山市教委	10月4日～月日	21㎡	奈良・平安・近世	散布地	個人住宅建設
80	陣場遺跡	郡山市富久山福原字陣場	郡山市教委	10月6日～月日	38㎡	平安	散布地	集合住宅建設
81	古垣遺跡	郡山市富久山町久保田字下河原	郡山市教委	10月11日～月日	34㎡	古墳	散布地	分譲住宅
82	古垣遺跡	郡山市富久山町久保田字古垣	郡山市教委	10月14日～10月15日	77㎡	古墳	散布地	開発造成及び分譲住宅
83	原ノ町遺跡	郡山市大槻町字二本木	郡山市教委	10月18日～月日	25㎡	古墳～平安	集落跡	住宅建設
84	山崎館跡	郡山市富久山町八山田字山崎	郡山市教委	10月19日～月日	11㎡	中世	城館跡	住宅建設
85	針生遺跡群	郡山市大槻町字林ノ東	郡山市教委	10月20日～月日	17㎡	奈良・平安	散布地	住宅建設
86	徳定A・B遺跡	郡山市田村町徳定字中河原	郡山市教委	10月25日～月日	11㎡	縄文～平安	散布地	校舎建設
87	新屋敷遺跡	郡山市新屋敷一丁目	郡山市教委	11月1日～月日	14㎡	奈良・平安	散布地	住宅建設
88	大安場古墳群	郡山市田村町桜ヶ丘二丁目	郡山市教委	11月2日～月日	13㎡	古墳	古墳	住宅建設
89	宮前遺跡	郡山市大槻町字町裏	郡山市教委	11月7日～月日	11㎡	縄文	散布地	住宅建設
90	太郎殿前遺跡	郡山市富久山町久保田字太郎殿前	郡山市教委	11月8日～月日	42㎡	古墳～平安	散布地	事務所・倉庫建設

No.	遺跡名	所在地	調査主体者	調査実施期間	調査面積㎡	時代	種別	調査原因
91	西原遺跡群	郡山市富田町字向山	郡山市教委	11月10日～月日	24㎡	縄文・古墳～平安	散布地	住宅建設
92	西原遺跡群	郡山市富田町字向山	郡山市教委	11月14日～月日	7㎡	縄文・古墳～平安	散布地	住宅建設
93	黒河地遺跡	郡山市三徳田町八幡字前畑	郡山市教委	11月15日～月日	28㎡	縄文	散布地	住宅建設
94	大師前遺跡	郡山市富久山町福原字神明	郡山市教委	11月16日～月日	50㎡	平安	散布地	太陽光パネル
95	成田北ノ内遺跡	郡山市安積町成田字北ノ内	郡山市教委	11月24日～月日	14㎡	平安	散布地	住宅建設
96	畑田遺跡	郡山市安積町荒井字外川原	郡山市教委	11月25日～月日	7㎡	平安	散布地	住宅建設
97	中野遺跡	郡山市大槻町字下町東	郡山市教委	11月29日～月日	11㎡	奈良	散布地	専用住宅建設
98	平館跡	郡山市田村町金屋字宝蔵	郡山市教委	11月30日～月日	34㎡	中世	城館跡	集合住宅建設
99	西原遺跡群	郡山市富田町字西原	郡山市教委	12月6日～月日	14㎡	縄文・古墳～平安	散布地	売買
100	西原遺跡群	郡山市富田町字若木下	郡山市教委	12月6日～月日	15㎡	縄文・古墳～平安	散布地	分譲住宅
101	下館跡	郡山市片平町字北町東	郡山市教委	12月8日～月日	17㎡	中世	城館跡	宅地分譲
102	堀込遺跡	郡山市日和田町字宇類原	郡山市教委	12月9日～月日	5㎡	平安	散布地	住宅建設
103	阿久戸遺跡	郡山市富田町字町東	郡山市教委	12月15日～月日	8㎡	弥生・古墳～平安	散布地	住宅建設
104	阿久戸遺跡	郡山市町東二丁目	郡山市教委	12月15日～月日	42㎡	弥生・古墳～平安	散布地	アパート建設
105	長久保遺跡	郡山市安積町長久保一丁目	郡山市教委	12月16日～月日	55㎡	古墳～平安	散布地	宅地分譲
106	久留米遺跡	郡山市久留米二丁目	郡山市教委	12月21日～月日	20㎡	縄文	散布地	賃貸住宅建設
107	西原遺跡	郡山市富久山町福原字宝田	郡山市教委	12月22日～月日	38㎡	縄文・平安	散布地	土地売買に係る調査
108	旧屋敷遺跡	郡山市安積町日出山字旧屋敷	郡山市教委	1月9日～月日	34㎡	縄文	散布地	集合住宅建設
109	成山西遺跡	郡山市成山町	郡山市教委	1月18日～月日	11㎡	奈良・平安	散布地	住宅建設
110	向館跡	郡山市富田町字館南	郡山市教委	1月23日～月日	57㎡	中世	城館跡	売買及び分譲
111	境橋遺跡	郡山市安積町笹川字境橋	郡山市教委	1月26日～月日	21㎡	奈良・平安	散布地	住宅建設
112	上之内遺跡	郡山市富久山町福原字陣場	郡山市教委	1月31日～月日	7㎡	古墳・平安・中世	散布地	住宅建設
113	福原遺跡	郡山市富久山町福原字福原	郡山市教委	1月31日～月日	7㎡	古墳～平安	散布地	住宅建設
114	古町遺跡	郡山市富久山町久保田字古町	郡山市教委	2月2日～月日	17㎡	古墳	散布地	土地売買
115	日光池西遺跡	郡山市安積町笹川字荒池下	郡山市教委	2月6日～月日	42㎡	奈良	散布地	老人ホーム建設
116	古垣遺跡	郡山市富久山町久保田字下河原	郡山市教委	2月9日～月日	21㎡	古墳	散布地	住宅建設
117	下権現遺跡	郡山市久留米一丁目	郡山市教委	2月14日～月日	7㎡	縄文～平安	散布地	住宅建設
118	柴宮山古墳群	郡山市大槻町字室ノ木	郡山市教委	2月15日～月日	41㎡	古墳	古墳	住宅建設
119	柴宮山古墳群	郡山市大槻町字室ノ木	郡山市教委	2月15日～月日	10㎡	古墳	古墳	住宅建設
120	愛宕遺跡	郡山市富久山町久保田字愛宕	郡山市教委	2月16日～月日	59㎡	奈良	散布地	長屋住宅建設

No.	遺 跡 名	所 在 地	調査主体者	調査実施期間	調査面積㎡	時 代	種 別	調査原因
121	古垣遺跡	郡山市富久山町久保田字太郎殿前	郡山市教委	2 月 21 日 ~ 月 日	28 ㎡	古墳	散布地	宅地分譲
122	清水台遺跡	郡山市赤木町	郡山市教委	2 月 22 日 ~ 月 日	11 ㎡	奈良・平安	官衙跡	住宅建設
123	清水台遺跡	郡山市清水台二丁目	郡山市教委	2 月 22 日 ~ 月 日	8 ㎡	奈良・平安	官衙跡	美容所建設
124	根木屋館跡	郡山市西田町根木屋字根木屋	郡山市教委	2 月 27 日 ~ 2 28 日	157 ㎡	中世	城館跡	砕石法に基づく真土採取
125	恩田遺跡	郡山市富久山町久保田字恩田	郡山市教委	3 月 2 日 ~ 月 日	24 ㎡	古墳～平安	散布地	住宅建設
126	咲田遺跡	郡山市咲田二丁目	郡山市教委	3 月 3 日 ~ 月 日	20 ㎡	縄文・古墳～平安	散布地	専用住宅建設
127	咲田遺跡	郡山市咲田二丁目	郡山市教委	3 月 3 日 ~ 月 日	15 ㎡	縄文・古墳～平安	散布地	住宅建設
128	清水台遺跡	郡山市清水台二丁目	郡山市教委	3 月 6 日 ~ 月 日	8 ㎡	奈良・平安	官衙跡	住宅建設
129	桃見台遺跡	郡山市桃見台	郡山市教委	3 月 6 日 ~ 月 日	10 ㎡	縄文	散布地	住宅建設
130	徳定 A・B 遺跡	郡山市田村町徳定土地区画整理事業地55街区	郡山市教委	3 月 7 日 ~ 3 月 8 日	54 ㎡	縄文～平安	散布地	集合住宅建設
131	向館跡	郡山市富田町字向館	郡山市教委	3 月 8 日 ~ 月 日	18 ㎡	中世	城館跡	住宅建設
132	下権現遺跡	郡山市安積町荒井字下権現山	郡山市教委	3 月 9 日 ~ 月 日	22 ㎡	縄文～平安	散布地	住宅建設
133	寺池 A 遺跡	郡山市日和田町字寺池	郡山市教委	3 月 14 日 ~ 月 日	11 ㎡	縄文	散布地	住宅建設
134	池北遺跡	郡山市安積町荒井字大池	郡山市教委	3 月 14 日 ~ 月 日	7 ㎡	古墳	散布地	住宅建設
135	篠川館跡	郡山市安積町笹川字篠川	郡山市教委	3 月 16 日 ~ 月 日	12 ㎡	中世	城館跡	集合住宅建設
136	上野山遺跡	郡山市水門町	郡山市教委	3 月 17 日 ~ 月 日	28 ㎡	平安	散布地	住宅建設
137	上野山遺跡	郡山市水門町	郡山市教委	3 月 17 日 ~ 月 日	34 ㎡	平安	散布地	集合住宅建設
138	鹿島館跡	郡山市小原田三丁目	郡山市教委	3 月 21 日 ~ 月 日	18 ㎡	縄文・奈良・平安	散布地	集合住宅建設
139	原ノ町遺跡	郡山市大槻町字西ノ宮	郡山市教委	3 月 22 日 ~ 月 日	56 ㎡	古墳～平安	集落跡	宅地分譲
140	咲田遺跡	郡山市咲田二丁目	郡山市教委	3 月 23 日 ~ 月 日	19 ㎡	縄文・古墳～平安	散布地	住宅改築
141	清水台遺跡	郡山市赤木町	郡山市教委	3 月 23 日 ~ 月 日	28 ㎡	奈良・平安	官衙跡	集合住宅建設
142	小茶円遺跡	いわき市平山崎字馬場	いわき市教委	4 月 13 日 ~ 4 月 19 日	74 ㎡	奈良・平安	集落跡	宅地造成
143	泉・渡辺町条里跡	いわき市渡辺町洞字関田他	いわき市教委	4 月 14 日 ~ 4 月 26 日	39,315 ㎡	奈良・平安	生産遺跡	宅地造成
144	牛転古墳群	いわき市平下高久字牛転	いわき市教委	4 月 19 日 ~ 5 月 19 日	1,191 ㎡	古墳	古墳	整地
145	応時遺跡	いわき市勿来町大高応時	いわき市教委	4 月 19 日 ~ 5 月 19 日	559 ㎡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	散布地	個人住宅
146	薄磯貝塚	いわき市平薄磯字三反田	いわき市教委	5 月 9 日 ~ 月 日	357 ㎡	縄文・弥生	貝塚	無線基地局
147	江栗馬場遺跡・大高江栗条里跡	いわき市錦町江栗馬場	いわき市教委	5 月 12 日 ~ 5 月 24 日	6,513 ㎡	古墳・奈良・平安	散布地	特別養護老人ホーム
148	塚前古墳・塚前遺跡	いわき市小名浜林城字塚前	いわき市教委	5 月 19 日 ~ 5 月 30 日	8,106 ㎡	古墳・奈良・平安	散布地・古墳	宅地造成
149	伊賀屋敷遺跡	いわき市勿来町窪田伊賀屋敷	いわき市教委	6 月 20 日 ~ 8 月 19 日	3,830 ㎡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	集落跡	幼稚園建替え
150	輪山遺跡	いわき市岩間町輪山	いわき市教委	6 月 10 日 ~ 月 日	135 ㎡	旧・縄文・弥生・古墳	散布地	鉄塔建設
151	道山 A 遺跡	いわき市勿来町窪田道山	いわき市教委	7 月 20 日 ~ 7 月 21 日	11,849 ㎡	古墳	散布地	葬祭場建築のための土地造成

No.	遺跡名	所在地	調査主体者	調査実施期間	調査面積㎡	時代	種別	調査原因
152	作田遺跡	いわき市内郷小島町作田	いわき市教委	10月11日～10月12日	1,350㎡	古墳・奈良・平安	散布地	個人病院建築
153	小谷作広畑遺跡	いわき市好間町小谷作字広畑	いわき市教委	12月16日～12月19日	702㎡	縄文・古墳・奈良・平安・中世	集落跡・社寺跡	集合住宅建築
154	大畑B遺跡	いわき市泉町下川字大畑	いわき市教委	12月19日～12月20日	679㎡	縄文・弥生・平安	散布地	商業店舗建築
155	遠野古館跡	いわき市遠野町入遠野字大多田他	いわき市教委	1月17日～1月19日	9,000㎡	中世	城館跡	基幹農道整備事業
156	平城跡	いわき市平字旧城跡	いわき市教委	2月6日～2月10日	200㎡	古墳・中世・近世	城館跡・集落跡	公園整備事業
157	鬼越遺跡	白河市鬼越	白河市教委	5月25日～月日	40㎡	古墳	散布地	集合住宅
158	地屋前遺跡	白河市東上野出島字地屋前	白河市教委	12月26日～3月29日	77㎡	縄文・奈良・平安	散布地	県道改良
159	須賀川城跡	須賀川市弘法坦	須賀川市教委	6月3日～月日	20㎡	中世・近世	城館跡	その他の建物
160	要害館跡	須賀川市仲の町	須賀川市教委	11月30日～月日	22㎡	中世・近世	城館跡	住宅
161	上人壇廃寺跡	須賀川市岩瀬森	須賀川市教委	3月2日～月日	41㎡	古代	寺院跡	住宅
162	水上遺跡	喜多方市慶徳町新宮字水上・熊野	喜多方市教委	4月11日～4月15日	11㎡	平安～近世	社寺跡	社務所建設
163	宗光寺跡	喜多方市熱塩加納町宮川字一の沢	喜多方市教委	5月11日～5月19日	22㎡	中世・近世	社寺跡	道路改良工事
164	山崎横穴古墳群	喜多方市慶徳町山科字墓東	喜多方市教委	9月26日～10月13日	1,414㎡	古墳	古墳	崖面改修工事
165	相馬中村城跡	相馬市中村字北町144	相馬市教委	4月1日～月日	18㎡	中世・近世	城館後	防護柵修繕
166	前田遺跡	相馬市塚部字前田109	相馬市教委	8月8日～月日	12㎡	奈良・平安	散布地	個人住宅
167	篠田遺跡	相馬市大曲字大毛内	相馬市教委	6月27日～月日	20㎡	奈良・平安	散布地	集合住宅
168	観音前C遺跡	相馬市小泉字寺前71-1	相馬市教委	9月11日～月日	12㎡	古墳～平安	散布地	集合住宅
169	二本松城跡	二本松市郭内三丁目 他	二本松市教委	9月12日～12月26日	500㎡	中世～近世	城館跡	その他建物
170	上大平遺跡	田村市船引町船引字上大平	田村市教委	10月17日～11月18日	400㎡	縄文・奈良～平安	散布地	国道288号船引バイパス建設
171	石ノ宮製鉄遺跡(1次)	南相馬市鹿島区永田字永田	南相馬市教委	3月4日～4月12日	48㎡	古代	製鉄	土砂採取
172	高見町C遺跡(3次)	南相馬市原町区高見町1丁目	南相馬市教委	4月8日～4月11日	3㎡	弥生・古墳・古代	散布地	集合住宅建設
173	前迫製鉄遺跡(1次)	南相馬市鹿島区川子字宮田	南相馬市教委	4月12日～5月20日	90㎡	古代	製鉄	土砂採取
174	鷺内遺跡(3次)	南相馬市鹿島区寺内字鷺内	南相馬市教委	4月21日～5月16日	62㎡	縄文・古代	散布地	学校建設
175	新田原遺跡(2次)	南相馬市原町区信田沢字新田原	南相馬市教委	5月18日～5月30日	135㎡	古代	散布地	宅地造成
176	永田古墳群B(2次)	南相馬市鹿島区永田字永田	南相馬市教委	5月23日～5月31日	73㎡	古墳	古墳	土砂採取
177	桜井D遺跡(16次)	南相馬市原町区上洪佐字原田	南相馬市教委	6月6日～6月7日	12㎡	弥生・古墳・古代	散布地	個人住宅建設
178	小高城跡(3次)	南相馬市小高区小高字城下	南相馬市教委	6月15日～月日	50㎡	中近世	城館	個人住宅建設
179	桜井B遺跡(13次)	南相馬市原町区上洪佐字原田	南相馬市教委	6月14日～6月15日	38㎡	弥生・古墳・古代	散布地	集合住宅建設
180	城ノ内遺跡(1次)	南相馬市原町区高字鍛冶内	南相馬市教委	6月21日～6月22日	25㎡	古代	散布地	個人住宅建設
181	荒神前遺跡(6次)	南相馬市小高区片草字荒神前	南相馬市教委	6月27日～月日	10㎡	縄文・弥生・古墳・古代	散布地・集落	個人住宅建設

No.	遺跡名	所在地	調査主体者	調査実施期間	調査面積㎡	時代	種別	調査原因
182	仏供田B遺跡(1次)	南相馬市小高区上根沢字仏供田	南相馬市教委	6月22日～6月29日	36㎡	古代	製鉄	土砂採取
183	北海老北畑遺跡(1次)	南相馬市原町区北海老字北畑	南相馬市教委	6月17日～7月19日	195㎡	古墳	古墳	墓地造成等
184	比丘尼沢遺跡(2次)	南相馬市原町区上北高平字比丘尼沢	南相馬市教委	6月20日～3月13日	277㎡	古代	製鉄	土砂採取
185	熊野前遺跡(1次)	南相馬市鹿島区小島田字北畑	南相馬市教委	7月5日～月日	14㎡	古墳	散布地	個人住宅建設
186	片草南原遺跡(2次)	南相馬市小高区片草字南原	南相馬市教委	7月11日～月日	10㎡	縄文・弥生・古墳・古代	散布地・集落	個人住宅建設
187	赤柴遺跡(2次)	南相馬市原町区押釜字押釜	南相馬市教委	7月21日～月日	27㎡	縄文・古墳・古代	散布地・集落	土砂採取
188	荒神前遺跡(7次)	南相馬市小高区片草字一里段	南相馬市教委	8月1日～8月2日	3㎡	縄文・弥生・古墳・古代	散布地・集落	個人住宅建設
189	中村平遺跡(3次)	南相馬市小高区吉名字中村平	南相馬市教委	8月1日～月日	14㎡	弥生・古墳・古代	散布地	個人住宅建設
190	迎山遺跡(1次)	南相馬市小高区飯崎字迎山	南相馬市教委	8月9日～9月14日	73㎡	古代	製鉄	土砂採取
191	高松C遺跡(1次)	南相馬市原町区上北高平字高松	南相馬市教委	9月6日～9月9日	13㎡	縄文・古代	散布地	市道改良
192	石橋遺跡(2次)	南相馬市原町区牛来字石橋	南相馬市教委	9月14日～9月16日	32㎡	縄文・古代	製鉄・散布地	土砂採取
193	桜井B遺跡(14次)	南相馬市原町区上渋佐字原田	南相馬市教委	9月28日～10月3日	30㎡	弥生・古墳・古代	散布地	集合住宅建設
194	八幡林遺跡(15次)	南相馬市鹿島区寺内字八幡林	南相馬市教委	10月27日～12月2日	144㎡	縄文・弥生・古墳	散布地・集落	集合住宅建設
195	深沢遺跡(1次)	南相馬市鹿島区川子字深沢	南相馬市教委	10月26日～月日	4㎡	弥生	散布地	送電線建設
196	荻原遺跡(7次)	南相馬市小高区羽倉字南沢	南相馬市教委	10月31日～12月5日	124㎡	縄文	散布地	土砂採取
197	赤坂B遺跡(1次)	南相馬市原町区石神字赤坂	南相馬市教委	10月18日～11月29日	185㎡	古代	製鉄	土砂採取
198	荒神前遺跡(8次)	南相馬市小高区片草字西堂	南相馬市教委	11月1日～月日	17㎡	縄文・弥生・古墳・古代	散布地・集落	個人住宅建設
199	赤柴遺跡(3次)	南相馬市原町区馬場字赤柴	南相馬市教委	11月15日～月日	20㎡	縄文・古墳・古代	散布地・集落	個人住宅建設
200	台遺跡(1次)	南相馬市小高区小谷字台	南相馬市教委	11月17日～11月25日	400㎡	古墳・古代	散布地	農地造成
201	梨木下西館跡(3次)	南相馬市原町区雫字塔場下	南相馬市教委	12月14日～2月2日	267㎡	中世	城館	土砂採取等
202	迎山遺跡(2次)	南相馬市小高区飯崎字迎山	南相馬市教委	12月13日～3月8日	60㎡	古代	製鉄	土砂採取
203	大田和広畑遺跡(5次)	南相馬市小高区金谷字北原	南相馬市教委	1月11日～月日	2㎡	縄文・古代	散布地・集落	境内電話無線基地局建設
204	仏供田B遺跡(2次)	南相馬市小高区上根沢字仏供田	南相馬市教委	1月24日～1月31日	54㎡	古代	製鉄	土砂採取
205	鷺内遺跡(4次)	南相馬市鹿島区寺内字鷺内	南相馬市教委	1月25日～3月10日	258㎡	縄文・古代	散布地	学校建設
206	泉館跡(3次)	南相馬市原町区泉字町下	南相馬市教委	2月22日～月日	16㎡	古代・中近世	城館	工場・駐車場
207	陣ヶ崎A遺跡(2次)	南相馬市原町区馬場字原	南相馬市教委	3月16日～3月17日	60㎡	縄文	散布地	宅地造成
208	小高城跡(4次)	南相馬市小高区小高字古城	南相馬市教委	3月13日～月日	27㎡	中世	城館	社務所移築計画策定
209	西迫横穴墓群(2次)	南相馬市原町区下太田字川内迫	南相馬市教委	7月27日～9月9日	273㎡	古墳	横穴墓群	工業団地造成
210	高子館跡(2次)	伊達市保原町上保原字高子	伊達市教委	4月19日～4月20日	40㎡	縄文・中世	城館跡	駐車場整備
211	鈴竹遺跡	伊達市梁川町新田字鈴竹	伊達市教委	4月26日～4月27日	6㎡	縄文・奈良・平安	散布地	個人住宅
212	関ノ下A遺跡	伊達市月館町御代田字関ノ下	伊達市教委	7月7日～7月8日	43㎡	奈良・平安	散布地	店舗建設

No.	遺跡名	所在地	調査主体者	調査実施期間	調査面積㎡	時代	種別	調査原因
213	中志和田遺跡	伊達市字田町	伊達市教委	7月25日～7月25日	3㎡	縄文	散布地	個人住宅
214	中室内遺跡	伊達市保原町上保原字中室内	伊達市教委	7月29日～8月4日	14㎡	古墳・奈良	散布地	個人住宅
215	早稲田遺跡(2次)	伊達市保原町字早稲田	伊達市教委	8月5日～8月5日	3㎡	古墳・奈良・平安	散布地	個人住宅
216	宮本遺跡	伊達市伏黒字上悪戸	伊達市教委	8月25日～8月25日	4㎡	奈良・平安	散布地	個人住宅
217	宮本遺跡(2次)	伊達市伏黒字上悪戸	伊達市教委	9月21日～9月21日	4㎡	奈良・平安	散布地	個人住宅
218	梁川城跡(33次)	伊達市梁川町字天神町	伊達市教委	11月9日～11月10日	6㎡	縄文・中世・近世	城館跡	個人住宅
219	宮本遺跡(3次)	伊達市伏黒字宮本	伊達市教委	1月26日～1月26日	6㎡	奈良・平安	散布地	個人住宅
220	中室内遺跡(2次)	伊達市保原町上保原字大地内	伊達市教委	2月1日～2月1日	5㎡	古墳・奈良	散布地	個人住宅
221	金秀寺遺跡(14次)	伊達市字梨子木町	伊達市教委	2月9日～2月9日	4㎡	縄文・平安	散布地	集合住宅
222	梁川城跡(34次)	伊達市梁川町字天神町	伊達市教委	2月22日～2月22日	4㎡	縄文・中世・近世	城館跡	仏堂移転
223	金秀寺遺跡(15次)	伊達市字梨子木町	伊達市教委	2月9日～2月9日	12㎡	縄文・平安	散布地	個人住宅
224	道城場遺跡	伊達市保原町大泉字道城場	伊達市教委	3月13日～3月13日	1㎡	古墳	散布地	個人住宅
225	久保田遺跡	伊達市月館町月館字久保田	伊達市教委	3月28日～3月29日	40㎡	縄文・平安	散布地	学校建築
226	田向遺跡	伊達市保原町上保原字田向	伊達市教委	3月21日～3月21日	4㎡	縄文	散布地	個人住宅
227	団子森遺跡	本宮市荒井字団子森	本宮市教委	10月9日～10月11日	4㎡	奈良・平安	散布地	グラウンド拡張
228	山崎条里遺構	国見町大字山崎字堰下13番1	国見町教委	4月12日～月日	24㎡	古代	条里	個人住宅
229	藤田城跡	国見町大字山崎字北古館4番2	国見町教委	5月13日～月日	12㎡	中世	城館	個人住宅
230	山崎条里遺構	国見町大字山崎字堰下6番3	国見町教委	5月13日～月日	12㎡	古代	条里	個人住宅
231	阿津賀志山防塁	国見町大字石母田字国見山下4番15、4番17	国見町教委	10月3日～12月27日	18㎡	古代	防塁	道路建設
232	藤田城跡	国見町大字山崎字宮館1-19	国見町教委	1月18日～月日	6㎡	中世	城館	個人住宅
233	川俣代官所跡	川俣町字寺久保	川俣町教委	10月25日～10月28日	108㎡	近世	城館跡	宅地造成
234	稲荷面遺跡	大玉村大山字三合目	大玉村教委	4月13日～月日	42㎡	奈良平安	散布地	個人住宅
235	道坂遺跡	大玉村大山字後川	大玉村教委	5月18日～月日	97㎡	弥生	散布地	個人住宅兼店舗
236	大石遺跡	大玉村玉井字大石	大玉村教委	8月23日～月日	2㎡		散布地	個人住宅
237	薄黒内B遺跡	大玉村玉井字薄黒内	大玉村教委	8月23日～月日	2㎡		散布地	事務所・資材置・駐車場
238	館本遺跡	下郷町大字湯野上字館本	下郷町教委	4月20日～4月21日	24㎡	縄文	散布地	県道拡幅工事
239	館ノ川遺跡	只見町大字只見字向山	只見町教委	5月16日～月日	25㎡	縄文	散布地	設備増設
240	万福寺跡	南会津町古町字祖父林地内	南会津町教委	5月16日～5月21日	340㎡	縄文・中世	寺社跡	スキーコース工事
241	外輪堂遺跡	磐梯町大字赤枝字外輪堂	磐梯町教委	3月29日～3月30日	100㎡	平安	散布地	県道改良工事
242	阿久津権現堂遺跡	会津美里町	会津美里町教委	4月26日～4月27日	30㎡	奈良・平安	古墳	個人住宅
243	中背戸遺跡	棚倉町大字金沢内字中背戸	棚倉町教委	6月14日～6月16日	4㎡	奈良・平安	散布地	範囲確認

No.	遺跡名	所在地	調査主体者	調査実施期間	調査面積㎡	時代	種別	調査原因
244	中子遺跡ほか1遺跡	矢祭町大字下関河内字沼ヶ沢・宮平	矢祭町教委	7月25日～7月29日	213㎡	縄文・平安	散布地	国道349号線改良事業
245	割目遺跡	矢祭町大字中石字割目	矢祭町教委	9月12日～9月21日	346㎡	縄文・弥生・古墳・平安	集落跡・散布地	基幹農道整備事業
246	竹貫城跡	古殿町大字竹貫字竹貫	古殿町教委	11月28日～12月2日	126㎡	中世	城館跡	宅地造成
247	東町VI遺跡	広野町大字下北迫字東町	広野町教委	7月6日～7月8日	322㎡	奈良	散布地・集落跡	宿舍建設
248	東町VI遺跡	広野町大字下北迫字東町	広野町教委	8月22日～8月26日	137㎡	奈良	散布地・集落跡	資材置き場
249	宮田条里遺跡	広野町下浅川字宮田	広野町教委	9月3日～月日	105㎡	奈良・平安	その他	宿舍建設
250	宮田条里遺跡	広野町下浅川字宮田	広野町教委	1月16日～1月17日	202㎡	奈良・平安	その他	宿舍建設
251	宮田条里遺跡	広野町下浅川字宮田	広野町教委	2月7日～2月17日	2,086㎡	奈良・平安	その他	圃場整備
252	新町I遺跡	広野町下北迫字新町	広野町教委	2月22日～月日	68㎡	奈良・平安	散布地	店舗建設
253	宮田条里遺跡	広野町下浅川字宮田	広野町教委	2月23日～月日	15㎡	奈良・平安	その他	個人住宅
254	宮田条里遺跡	広野町下浅川字宮田	広野町教委	10月31日～11月1日	64㎡	奈良・平安	その他	宿舍建設
255	久保田遺跡隣接地	檜葉町下小碓字久保田地内	檜葉町教委	9月14日～月日	30㎡	弥生・古墳	散布地	その他建物
256	宮下遺跡隣接地	檜葉町山田岡字宮下地内	檜葉町教委	10月14日～月日	54㎡	弥生・奈良・平安	散布地	その他建物
257	広畑遺跡隣接地	檜葉町山田岡字広畑地内	檜葉町教委	10月14日～月日	20㎡	奈良・平安	散布地	住宅
258	浄光東遺跡隣接地	檜葉町井出字浄光東地内	檜葉町教委	1月30日～月日	192㎡	縄文	散布地	その他建物
259	南平C遺跡	大字大川原字南平	大熊町教委	7月14日～7月20日	120㎡	古代・近世	散布地	事務所建設
260	南平A遺跡	大字大川原字南平	大熊町教委	12月19日～12月21日	400㎡	近世	散布地	駐車場建設
261	三貫地遺跡	新地町駒ヶ嶺字三貫地西 他	新地町教委	9月20日～1月30日	20㎡	縄文	散布地	農地復旧(桑の木抜根)
262	八龍町遺跡	南相馬市鹿島区北右田字八龍町	福島県教委	4月12日～4月13日	32㎡	平安・中世	集落跡	農地整備
263	竹花遺跡	南相馬市鹿島区北右田字竹花	福島県教委	6月14日～月日	90㎡	弥生・古墳・奈良・平安・中世	集落跡	農地整備
264	桶師屋遺跡	南相馬市鹿島区北右田字桶師屋	福島県教委	6月14日～2月17日	166㎡	古墳	集落跡	農地整備
265	反町遺跡	南相馬市鹿島区南屋形字反町・御北前	福島県教委	12月15日～12月16日	289㎡	弥生・古墳・平安	集落跡	農地整備
266	大六天遺跡	南相馬市鹿島区江垂字大六天・堂前	福島県教委	11月28日～月日	4㎡	古墳・奈良・平安	散布地・集落跡	農地整備
267	船着横穴墓群	南相馬市鹿島区江垂字塚田・塩崎字船着	福島県教委	11月29日～11月30日	66㎡	古墳	横穴墓	農地整備
268	萱浜原畑遺跡	南相馬市原町区萱浜字南見谷地・字見谷地	福島県教委	7月11日～月日	78㎡	弥生・古墳・奈良・平安	散布地	農地整備
269	愛原遺跡	南相馬市原町区字愛原	福島県教委	6月28日～7月4日	165㎡	奈良・平安	散布地	農地整備
270	南才ノ上遺跡	南相馬市原町区萱浜字北才ノ上・南才ノ上	福島県教委	6月29日～7月7日	240㎡	縄文・古墳・奈良・平安	散布地	農地整備
271	五畝田・犬遺跡	南相馬市原町区雫字五畝田・犬這・北迫田	福島県教委	7月1日～7月4日	30㎡	縄文・弥生・奈良・平安	散布地・集落跡	農地整備
272	町川原遺跡	南相馬市原町区上太田字堀子・中島	福島県教委	11月9日～11月15日	73㎡	縄文・奈良・平安	その他の遺跡・製鉄跡・散布地・集落跡	農地整備
273	八重草遺跡	南相馬市原町区上太田字堀子・中太田字八重草	福島県教委	11月8日～12月2日	440㎡	縄文	散布地	農地整備

No.	遺跡名	所在地	調査主体者	調査実施期間	調査面積㎡	時代	種別	調査原因
274	八重畑遺跡	南相馬市原町区中太田字八重畑	福島県教委	11月7日～2月17日	246㎡	奈良・平安	散布地	農地整備
275	下太田高田遺跡	南相馬市原町区下太田字榎町他	福島県教委	11月15日～2月16日	644㎡	古墳・平安	集落跡	農地整備
276	塚田B遺跡	南相馬市原町区下太田字榎町他	福島県教委	11月15日～2月10日	699㎡	古墳	集落跡	農地整備
277	角部内北台遺跡	南相馬市小高区角部字市ノ谷・字北台	福島県教委	4月25日～5月9日	56㎡	奈良・平安	散布地	農地整備
278	大悲山遺跡	南相馬市小高区泉沢字後屋・字大久	福島県教委	4月25日～4月26日	78㎡	平安	寺社跡・散布地	農地整備
279	明地遺跡	南相馬市小高区女場字明地	福島県教委	4月27日～月日	78㎡	不明	その他の生産遺跡(水田)	農地整備
280	代IV遺跡	広野町大字上北迫字代	福島県教委	9月1日～9月6日	6㎡	古墳・奈良・平安	散布地	農地整備
281	小滝平遺跡	広野町大字折木字北沢	福島県教委	7月26日～8月5日	9㎡	縄文・弥生	散布地	農地整備
282	西の沢遺跡	広野町大字折木字西の沢	福島県教委	10月26日～11月4日	81㎡	縄文	散布地	農地整備
283	西の沢II遺跡	広野町大字折木字西の沢	福島県教委	10月26日～11月4日	544㎡	縄文	散布地	農地整備
284	南町古墳	南相馬市鹿島区南海老字南町	福島県教委	12月9日～12月22日	291㎡	古墳	古墳	その他開発
285	南海老南町遺跡	南相馬市鹿島区南海老字北原	福島県教委	7月20日～9月14日	1,696㎡	古墳・奈良・平安・近世	散布地・集落跡	その他開発
286	地藏堂C遺跡	南相馬市原町区北泉字地藏堂	福島県教委	5月24日～6月10日	170㎡	縄文	その他の生産遺跡(製塩)	その他開発
287	湊遺跡	南相馬市原町区下渋佐字湊	福島県教委	5月16日～9月2日	656㎡	縄文・古墳	散布地	その他開発
288	北原貝塚	南相馬市小高区浦尻字前田	福島県教委	6月6日～6月9日	238㎡	縄文・弥生	その他の墳墓・貝塚	その他開発
289	南新田塩田跡	南相馬市小高区井田川字南新田	福島県教委	11月28日～12月8日	968㎡	近世	その他の生産遺跡(塩)	その他開発
290	辻内遺跡	南相馬市原町区牛越字辻内	福島県教委	5月12日～5月13日	59㎡	縄文・平安	散布地・集落跡	住宅
291	堂ノ上遺跡	双葉町大字郡山字堂ノ上	福島県教委	9月12日～9月29日	292㎡	奈良・平安・中世	寺社跡・散布地	その他開発
292	上ノ台館跡他15遺跡	伊達市他1町	福島県教委	4月1日～3月31日	4,506㎡	縄文～中世	—	道路建設

(11) 平成28年度開発事業に伴う試掘調査（未周知範囲）

No.	遺 跡 名	所 在 地	調査主体者	調査実施期間	調査面積㎡	時 代	種 別	調査原因
1	方八町・横塚地区	郡山市横塚五丁目	郡山市教委	1月19日～1月20日	250㎡			売買及び分譲
2	西田地区義務教育学校整備関連	郡山市西田町三丁目字鍋焼田	郡山市教委	6月30日～7月1日	147㎡			西田地区義務教育学校整備
3	駒形第三地区	喜多方市塩川町窪字諏訪後	喜多方市教委	10月18日～11月21日	1,312㎡	奈良～中世	散布地	農業基盤整備
4	鹿島区寺内字本屋敷地区	南相馬市鹿島区寺内字本屋敷	南相馬市教委	9月15日～9月30日	180㎡	—	—	店舗建設
5	小高区羽倉字南沢地区	南相馬市小高区羽倉字南沢	南相馬市教委	1月16日～3月31日	267㎡	縄文・古代	集落・製鉄	土砂採取
6	下小墾地区	榎葉町下小墾字久保田地内	榎葉町教委	3月9日～月日	585㎡			その他建物
7	OK-B14	大字大川原字西平	大熊町教委	10月12日～10月13日	65㎡			町営墓地造成
8	OK-B14	大字大川原字西平	大熊町教委	10月24日～10月26日	273㎡			工業団地造成
9	OK-B14	大字大川原字西平	大熊町教委	1月19日～1月25日	243㎡			町営墓地造成
10	OK-B6	大字大川原字南平	大熊町教委	1月26日～月日	82㎡			事務所建設
11	右田・海老地区（1箇所）	南相馬市鹿島区北右田字銀宮・字沼田	福島県教委	4月12日～4月13日	133㎡			農地整備
12	南屋形地区（1箇所）	南相馬市鹿島区南屋形字江中子	福島県教委	12月15日～12月16日	66㎡			農地整備
13	太田地区（3箇所）	南相馬市原町区中太田字堀内	福島県教委	11月1日～11月9日	482㎡			農地整備
14	小高東部地区（1箇所）	南相馬市小高区泉沢字大久	福島県教委	4月25日～4月26日	12㎡			農地整備
15	鶴ヶ崎工区（1箇所）	広野町大字上北迫字鶴ヶ崎	福島県教委	11月1日～11月22日	528㎡			農地整備
16	門沢工区（3箇所）	広野町大字上北迫字門沢	福島県教委	8月19日～11月16日	709㎡			農地整備
17	南山工区（1箇所）	広野町大字上浅見川字小滝平	福島県教委	8月18日～月日	100㎡			農地整備
18	北沢工区（1箇所）	広野町大字折木字北沢	福島県教委	11月7日～11月10日	238㎡			農地整備
19	亀ヶ崎工区（2箇所）	広野町大字折木字亀ヶ崎他	福島県教委	10月24日～11月7日	374㎡			農地整備
20	鹿島地区	南相馬市鹿島区北右田字南高屋釜 他	福島県教委	8月2日～1月12日	432㎡			その他開発
21	鹿島地区	南相馬市鹿島区鳥崎字寺下 他	福島県教委	9月26日～9月27日	180㎡			その他開発
22	原町区（3箇所）	南相馬市原町区下洪佐字赤沼 他	福島県教委	5月19日～6月10日	204㎡			その他開発
23	小高地区（1箇所）	南相馬市原町区小浜字東谷地・字谷地	福島県教委	7月8日～月日	90㎡			その他開発
24	大熊地区（1箇所）	大熊町大字小入野字東平	福島県教委	5月11日～5月13日	99㎡			その他開発
25	南倉沢地区	下郷町南倉沢字木賊	福島県教委	9月26日～10月5日	63㎡	縄文	散布地	道路建設

(12) 平成28年度発掘調査一覧

No.	遺跡名	所在地	調査主体者	調査実施期間	面積㎡	時代	種別	調査原因
1	若松城郭内武家屋敷跡 岩田市右衛門邸跡	会津若松市城前	会津若松市教委	7月20日～10月17日	960㎡	近世	武家屋敷	市営住宅建設
2	笹山原No.16遺跡	会津若松市湊町赤井字笹山原	郡山女子大	5月14日～5月24日	100㎡	縄文・奈良・平安	散布地	学術調査
3	清水台遺跡	郡山市清水台二丁目	郡山市教委	11月7日～1月24日	454㎡	奈良・平安	官衙跡	集合住宅建設
4	塚前古墳	いわき市小名浜林城字塚前	いわき市教委	10月28日～11月16日	270㎡	古墳	古墳	宅地造成
5	天王山遺跡	白河市久田野豆柄山	白河市教委	12月5日～12月28日	13㎡	弥生	散布地	範囲内容確認
6	小峰城跡	白河市郭内地内	白河市教委	7月4日～3月31日	308㎡	中世・近世	城館跡	災害復旧
7	虚空蔵遺跡	須賀川市前田川字虚空蔵	須賀川市教委	7月29日～11月30日	500㎡	弥生・古墳・中世	集落	前田川地区ほ場整備
8	野田B遺跡ほか1遺跡	喜多方市塩川町中屋沢字野田	喜多方市教委	5月12日～12月21日	3,808㎡	平安・中世	集落跡	農業基盤整備
9	灰塚山古墳(6次)	喜多方市慶徳町新宮字小山腰	東北学院大学	8月7日～9月8日	100㎡	古墳	古墳	学術調査
10	灰塚山古墳(7次)	喜多方市慶徳町新宮字小山腰	東北学院大学	3月16日～3月31日	100㎡	古墳	古墳	学術調査
11	古屋敷遺跡	喜多方市塩川町大田木字古屋敷	喜多方市教委	11月22日～12月13日	146㎡	古墳	居館跡	史跡整備
12	相馬中村城跡	相馬市中村北町86-1	相馬市教委	6月2日～8月24日	511㎡	中世・近世	城郭	個人住宅改築
13	黒木田遺跡	相馬市中野字明神前347	相馬市教委	10月7日～11月29日	360㎡	奈良・平安	集落跡	個人住宅改築
14	郡山台遺跡	二本松市姫子松	二本松市教委	4月22日～6月24日	779㎡	古墳・平安	衙跡・集落	個人住宅建設
15	二本松城跡	二本松市郭内3丁目 他	二本松市教委	6月14日～7月13日	92㎡	中世・近世	城館跡	範囲確認
16	二本松城跡	二本松市郭内3丁目 他	二本松市教委	6月14日～7月13日	26㎡	中世・近世	城館跡	範囲確認
17	北ノ作遺跡	田村市船引町上移字北ノ作	田村市教委	10月17日～12月14日	520㎡	縄文	散布地	市道北ノ作線改良工事
18	梨木下西館跡(2次)	南相馬市原町区雫字塔場下	南相馬市教委	5月12日～7月12日	420㎡	古墳, 古代	集落	農地造成
19	中島館跡・中沖遺跡	南相馬市小高区飯崎字中島	南相馬市教委	9月16日～10月26日	3,000㎡	縄文-中世	集落	農業基盤整備事業
20	堂庭遺跡(8次)	伊達市梁川町八幡字堂庭	伊達市教委	5月17日～7月1日	212㎡	中世・近世	社寺跡	範囲内容確認
21	梁川城跡(32次)	伊達市梁川町字鶴ヶ岡	伊達市教委	7月12日～1月5日	840㎡	中世・近世	城館跡	範囲内容確認
22	阿津賀志山防塁	国見町大字西大枝字原前道下213番	国見町教委	8月20日～10月22日	50㎡	古代	防塁	自然崩壊

No.	遺跡名	所在地	調査主体者	調査実施期間	面積㎡	時代	種別	調査原因
23	阿津賀志山防塁	国見町大字石母田字国見山下地内ほか	国見町教委	10月3日～12月13日	400㎡	古代	防塁	史跡整備
24	柏木城跡	北塩原村大字大塩字柏木城	北塩原村教委	6月2日～12月14日	106㎡	中世	城館跡	範囲確認
25	横町館跡	西会津町野沢字下小屋上	西会津町教委	4月18日～11月25日	4,870㎡	中世・近世	城館跡	役場庁舎移転工事
26	慧日寺跡	磐梯町大字磐梯字堂東	磐梯町教委	6月24日～12月16日	320㎡	平安～近世	寺院跡	史跡整備
27	堂後遺跡	湯川村大字勝常寺字代舞	湯川村教委	6月7日～8月26日	75㎡	弥生～中世	散布地	範囲内容確認
28	向羽黒山城跡	会津美里町字三日町地内	会津美里町教委	7月19日～12月13日	1,000㎡	中世	城館跡	史跡整備
29	棚倉城跡	棚倉町大字棚倉字城跡	棚倉町教委	6月27日～8月31日	26㎡	近世	城館跡	範囲確認
30	中山遺跡	矢祭町大字下関河内字中山	矢祭町教委	2月22日～6月20日	1,000㎡	縄文	集落跡・散布地	国道349号線改良事業
31	我満平遺跡	矢祭町大字中石井字我満平	矢祭町教委	6月20日～12月21日	3,180㎡	縄文・平安・近世	集落跡・散布地	基幹農道改良事業
32	高橋遺跡	檜葉町井手字堂ノ下地内	檜葉町教委	6月14日～8月31日	978㎡	縄文・奈良・平安	散布地・集落跡	その他開発
33	天神原遺跡	檜葉町北田字天神原1	檜葉町教委	11月10日～3月24日	429㎡	弥生	その他の墓	範囲内容確認調査
34	西平C遺跡	大熊町大字大川原字西平地内	大熊町教委	7月12日～12月16日	5,500㎡	奈良・平安	生産遺跡	工業団地造成
35	大平山A横穴墓群 大平山城跡・寺院跡	浪江町大字請戸字大平山・薬師堂・北迫	浪江町教委	5月23日～11月21日	2,400㎡	古墳・奈良・平安・近世	横穴墓、城館跡、寺院跡	防災手段移転促進事業アクセス道路及び住宅団地
36	瀧ノ入遺跡他1遺跡	下郷町大字白岩字瀧ノ入	福島県教委	5月11日～11月25日	4,100㎡	縄文・弥生・古代・中世	—	会津縦貫南道路
37	高木遺跡	須賀川市浜尾字高木	福島県教委	4月18日～1月31日	5,400㎡	弥生・古墳・奈良・平安・鎌倉	集落跡	河川改修工事
38	沼ヶ入遺跡他4遺跡	伊達市他1町	福島県教委	4月1日～3月31日	18,850㎡	—	—	相馬福島道路
39	大谷上ノ原遺跡	檜葉町大字大谷字上ノ原	福島県教委	5月24日～10月26日	1,700㎡	旧石器・縄文	集落跡	常磐道スマートインターチェンジ
40	谷地中遺跡	南相馬市原町区金沢字谷地中	福島県教委	5月25日～12月2日	8,000㎡	縄文・弥生・奈良・平安	製鉄跡・集落跡	公設土取り場
41	桶師屋遺跡	南相馬市鹿島区北右田字桶師屋	福島県教委	5月11日～2月10日	2,600㎡	古墳・奈良・平安・中世・近世	集落跡	農業基盤整備
42	植松C遺跡	南相馬市原町区上北高平字植松	福島県教委	4月25日～2月10日	5,200㎡	縄文・平安	集落跡	県道浪江鹿島線改良工事

第3節 文化財保存助成の充実

(1) 文化財保存助成事業

国指定文化財の防災設備保守点検等の管理に必要な経費について、助成を行った。

事業区分	補助事業者	名称	種別	事業内容	金額(単位:円)			
					事業費	国庫補助	県費補助	市町村等
国指定文化財の管理に関する事業	八葉寺	八葉寺阿弥陀堂	建造物	防災保守点検等	233,064	57,000	58,000	118,064
国指定文化財の管理に関する事業	延命寺	延命寺地藏堂	建造物	防災保守点検等	263,800	65,000	66,000	132,800
国指定文化財の管理に関する事業	飯盛正徳	旧正宗寺三匠堂	建造物	防災保守点検等	497,380	124,000	124,000	249,380
国指定文化財の管理に関する事業	横山操	旧滝澤本陣横山家住宅	建造物	防災保守点検等	255,960	63,000	63,000	129,960
国指定文化財の管理に関する事業	勝福寺	勝福寺観音堂	建造物	防災保守点検等	433,200	108,000	107,000	218,200
国指定文化財の管理に関する事業	熊野神社	熊野神社長床	建造物	防災保守点検等	1,149,720	286,000	286,000	577,720
国指定文化財の管理に関する事業	円満寺	円満寺観音堂	建造物	防災保守点検等	942,280	225,000	224,000	493,280
国指定文化財の管理に関する事業	飯野八幡宮	飯野八幡宮	建造物	防災保守点検等	842,023	206,000	206,000	430,023
国指定文化財の管理に関する事業	願成寺	阿弥陀堂(白水阿弥陀堂)	建造物	小修理	1,066,500	267,000	266,000	533,500
国指定文化財の管理に関する事業	福生寺	福生寺観音堂	建造物	防災保守点検	54,000	12,000	12,000	30,000
国指定文化財の管理に関する事業	常福院	常福院薬師堂	建造物	防災保守点検	54,000	11,000	11,000	32,000
国指定文化財の管理に関する事業	法用寺	法用寺本堂内厨子及び仏壇	建造物	防災保守点検	43,200	9,000	10,000	24,200
計	12件				5,835,127	1,433,000	1,433,000	2,969,127

(2) 指定文化財保存活用事業(災害復旧事業を除く)

文化財の修理・防災・整備・調査・管理、埋蔵文化財保存調査等の事業(保存事業)とそれらの文化財を活用した事業(活用事業)を一体的に行った事業(保存活用事業)に必要な経費について、助成を行った。

ア 国指定文化財

事業区分	補助事業者	名称	種別	事業内容	金額(単位:円)			
					事業費	国庫補助	県費補助	市町村等
美術工芸品保存修理	会津若松市	会津大塚山古墳出土品	美術工芸品	修理	8,992,000	4,496,000	810,000	3,686,000
建造物保存修理	横山操	旧滝澤本陣横山家住宅	建造物	屋根葺替	32,163,000	27,338,000	792,000	4,033,000
記念物保存修理	猪苗代町	会津藩主松平家墓所	史跡	環境整備	9,960,000	4,980,000	550,000	4,430,000
建造物保存修理	南会津町	南会津町前沢	伝統的建造物群	保存修理	2,588,620	1,294,000	270,000	1,024,620
建造物保存修理	下郷町	下郷町大内宿	伝統的建造物群	保存修理	8,104,500	5,267,000	630,000	2,207,500
建造物保存修理	只見町	旧五十嵐家住宅	建造物	保存修理	2,258,000	1,467,000	270,000	521,000
建造物保存修理	相馬中村神社	相馬中村神社本殿・幣殿・拜殿	建造物	保存修理	87,364,000	74,259,000	2,500,000	10,605,000
記念物保存修理	南相馬市	観音堂石仏	史跡	環境整備	5,696,000	2,848,000	850,000	1,998,000
建造物保存修理	専称寺	専称寺本堂・総門	建造物	保存修理	87,364,000	74,259,000	2,430,000	10,675,000
計	9件				235,498,120	191,712,000	8,292,000	35,494,120

イ 県指定文化財

事業区分	補助事業者	名称	種別	事業内容	金額（単位：円）			
					事業費	国庫補助	県費補助	市町村等
建造物保存修理	安洞院	安洞院多宝塔	建造物	屋根修復等	8,233,000	0	2,192,000	6,041,000
建造物保存修理	川辺八幡神社	川辺八幡神社	建造物	茅屋根改修	23,448,000	0	7,730,000	23,158,000
美術工芸品保存修理	白河ハリストス正教会	白河ハリストス正教会のイコン	美術工芸品	絵画の修復	885,000	0	290,000	595,000
建造物保存修理	(株) 素対館	旧中畑陣屋主屋	建造物	茅屋根改修	4,794,000	0	1,270,000	3,524,000
建造物保存修理	喜多方市	旧外島家住宅	建造物	茅屋根改修	9,135,000	0	2,121,000	7,014,000
記念物保存修理	いわき市	上平蘆のシイノキ群	天然記念物	枯枝の伐採・剪定	1,939,000	0	640,000	1,299,000
建造物保存修理	法用寺	法用寺三重塔	建造物	保存修理	9,220,000	0	3,070,000	6,150,000
計	7件				57,654,000	0	17,313,000	47,781,000

(3) 指定文化財保存活用事業（災害復旧事業）

東日本大震災により被災した国指定・県指定文化財の修復等保存事業に必要な経費について、助成を行った。

ア 国指定文化財

事業区分	補助事業者	名称	種別	事業内容	金額（単位：円）			
					事業費	国庫補助	県費補助	市町村等
建造物保存修理	専称寺	専称寺本堂及び総門	建造物	建物傾斜大を修復	105,600,000	89,760,000	7,920,000	7,920,000
計	1件				105,600,000	89,760,000	7,920,000	7,920,000

イ 県指定文化財

事業区分	補助事業者	名称	種別	事業内容	金額（単位：円）			
					事業費	国庫補助	県費補助	市町村等
重要有形民俗文化財保存修理	相馬市	田代駒焼登り窯	重要有形民俗文化財	天井崩落や剥離等を修復	6,480,000	0	3,240,000	3,240,000
美術工芸品保存修理	大円寺	木造薬師如来坐像（付台座）・木造菩薩立像	美術工芸品	仏像修理	1,055,000	0	527,000	528,000
計	2件				7,535,000	0	3,767,000	3,768,000

(4) 地域の「きずな」を結ぶ民俗芸能支援事業

東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故による被害により避難を余儀なくされた地域の市町村で活動した保存団体が行う、用具類の新調・修理、稽古等に必要な経費について、助成を行った。

市町村	補助事業者	名称	種別	事業内容	金額 (単位: 円)			
					事業費	国庫補助	県費補助	市町村等
浪江町	請戸の田植踊	請戸芸能保存会	無形民俗	用具の新調、稽古、公開	950,145	0	950,145	0
双葉町	前沢女宝財踊り	前沢婦人会芸能保存会	—	稽古、公開	205,000	0	200,025	0
双葉町	三字の神楽	三字芸能保存会	—	稽古、公開	23,450	0	23,450	0
双葉町	渋川の神楽	渋川の神楽	—	用具の新調、稽古、公開	532,925	0	532,925	0
双葉町	相馬流れ山踊り	双葉町相馬流れ山踊り保存会	—	稽古、公開	296,100	0	250,000	0
双葉町	山田のじゃんがら念仏踊り	山田芸能保存会	—	稽古、公開	160,800	0	159,625	0
大熊町	熊川稚児鹿舞	熊川稚児鹿舞保存会	無形民俗	稽古、公開	254,900	0	250,000	0
南相馬市	栢窪の神楽	栢窪神楽保存会	—	用具の新調・修理	749,844	0	749,844	0
南相馬市	村上の神楽	村上神楽保存会	—	用具の新調	428,544	0	428,544	0
南相馬市	高倉の神楽	高倉神楽保存会	—	用具の新調	324,000	0	324,000	0
南相馬市	下江井の浜踊り	下江井浜下り保存会	無形民俗	用具の新調	395,280	0	395,280	0
南相馬市	小高郷相馬流れ山踊り	小高郷相馬流れ山踊り保存会	—	用具の新調	748,000	0	748,000	0
南相馬市	南海老の大蛇神楽	南海老芸能保存会	—	用具の新調	744,000	0	744,000	0
南相馬市	北海老子供手踊り	北海老子供手踊り保存会	—	用具の新調	749,940	0	749,940	0
計	14件				6,562,928	0	6,505,778	0

第4節 文化財の保護と公開の推進

(1) 第58回北海道・東北ブロック民俗芸能大会

北海道・東北地区に伝承されている民俗芸能を広く一般に公開し、その価値を周知するとともに、無形民俗文化財の保存・伝承、文化財公開による地域振興等に寄与する。

ア 期 日 平成28年10月29日 リハーサル・実行委員会

10月30日 開会式・民俗芸能公開

イ 場 所 岩手県民会館（岩手県盛岡市）

ウ 公開演目 派遣団体 1団体

「鹿島下町の子供手踊り」下町子供手踊り保存会
（南相馬市）

(2) 文化財保護強調週間の実施

文化財保護の一層の推進を図るために、11月1日から11月7日までの文化財保護強調週間を中心に、チラシを作成、配布し、県民に対し啓発を行った。

(3) 文化財防火デーの実施

文化財の防火について、所有者、管理者はもとより、県民の理解と協力を高めるため、1月26日の文化財防火デーを中心に、チラシを作成、配布するなど啓発を行った。

また、各市町村教育委員会においては、消防署等の協力を得て、防火訓練、防火診断、防火査察等を実施した。

第5節 銃砲刀剣類の登録状況

美術品若しくは骨とう品としての価値のある火縄式銃砲等の古式銃砲又は美術品としての価値のある刀剣類の登録審査会を次のとおり実施した。

(1) 登録審査委員

塚本憲司、佐藤安弘、阿部榮、溝井辰美

(2) 登録審査会の実施状況

期 日	会 場	審査数	失格数	登録数	左 の 内 訳	
					刀 剣	銃 砲
4月19日	いわき合同庁舎	47	1	46	46	0
7月29日	郡山市労働福祉会館	49	7	42	42	0
9月15日	会津若松合同庁舎	26	0	26	26	0
11月24日	杉妻会館	51	3	48	48	0
2月14日	郡山市労働福祉会館	52	2	50	48	2
計		225	13	212	210	2

※ 再交付に係る審査を除く。

(3) 銃砲刀剣類の譲り受け・相続等の届け出状況

区 分	銃 砲 等	刀 剣 類
譲り受け	22	554
相 続	4	132
貸 付 け	1	0
保 管 の 委 託	0	5
計	27	691

第6節 文化財センター白河館の運営状況

(1) 利用者数

平成28年度の入館者は、前年度の入館者（27,227人）に比べ2,114人増加した。団体利用は、前年度に比べ167名減少した。平成13年7月の開館からの延べ入館者数は、486,244人となった。

(平成29年3月31日現在)

	入館者数(人)	ホームページ・データベースアクセス件数(件)
4月	2,130	14,297
5月	3,986	9,076
6月	2,949	9,046
7月	3,540	15,019
8月	2,702	13,910
9月	2,977	11,508
10月	2,369	15,267
11月	1,965	11,066
12月	1,281	8,032

1月	1,084	7,112
2月	2,391	9,622
3月	1,967	4,541
計	29,341	128,496

(2) 入館者の内訳と傾向

1日平均来館者数 4月：82人 5月：148人
6月：113人 7月：126人
8月：90人 9月：115人
10月：91人 11月：79人
12月：56人 1月：47人
2月：100人 3月：73人

地域別利用状況 県内者 83%（うち白河市 37%）
県外者 17%

年齢層別利用状況 入館者全体のうち、児童生徒(高校生以下)が41%、団体入館者が30%を占める。

(3) 団体利用者の内訳と傾向

(単位 人) (平成29年3月31日現在)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
幼稚園・保育園	団体数		1	1								1		3
	入館者数		17	32								32		81
小学校	団体数	12	14	29	8		11	7	1		3	4		89
	入館者数	523	760	1,351	591		800	415	27		130	93		4,690
中学校	団体数	2		1	2									5
	入館者数	207		4	158									369
高等学校	団体数		1				1	1		1				4
	入館者数		30				38	29		21				118
養護学校	団体数						1							1
	入館者数						39							39
大学	団体数								1					1
	入館者数								14					14
幼小中高PTA (保護者のみ)	団体数						1							1
	入館者数						14							14
幼小中高PTA (保護者と児童生徒)	団体数			3	2		1	2						8
	入館者数			248	142		58	144						592
研究会	団体数													0
	入館者数													0
子ども会	団体数			1	2	1	1					1		6
	入館者数			15	100	20	24					38		197

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
公民館等	団体数		3	1	2	3	1	4	5	2		2		23
	入館者数		76	8	56	92	20	149	106	52		64		623
福祉施設・ デイケアサービス	団体数	1	4	4	7	2		3		1	1	3	5	31
	入館者数	15	46	39	63	57		30		8	10	35	63	366
資料館等	団体数					1	1	1	1	1				5
	入館者数					7	25	43	13	14				102
歴史研究団体	団体数								1					13
	入館者数								26					26
県・市町村・ 教委・審議会等	団体数				1	2			1		1			5
	入館者数				80	68			6		5			159
その他	団体数	3	3	6	8	6	6	8	5	3			1	49
	入館者数	29	76	117	447	301	89	163	93	75			41	1,431
計	団体数	18	26	46	32	15	24	26	15	8	5	11	6	232
	入館者数	774	1,005	1,814	1,637	545	1,107	973	285	170	145	262	104	8,821
総入館者に占める 団体入館者の割合%		36	25	62	46	20	37	41	15	13	13	11	5	30

(4) 情報発信事業の利用者

参加者：合計 378名

文化財データベースアクセス件数128,496件

(平成29年3月31日現在)

(文化財データベース公開件数380,903件、文化財情報提供システム406件をインターネット上で公開し、白河館のイベント情報等もホームページで紹介している。)

・基礎研修

「縄文時代早期の土器群について」 5月 1日 参加者 34名
「被災資料の保全・記録実習」 6月18日 参加者 10名
「教職員等発掘調査体験研修」 8月3日～5日 参加者 18名
「職人のワザを後世に伝えるために」

12月17日 参加者 10名

「史実検証の手法—神指城と直江状の検討と—toもに—」

2月25日 参加者 19名

・専門研修

「最新技術による出土品分析法」 7月16日 参加者 12名
「史料保全・記録実習」 9月10日 参加者 14名
「文化財保護指導者研修会」 10月13日～14日 参加者150名
「弥生土器研究の諸課題」 11月19日 参加者 11名

<特別研修>

「縄文土器の年代—ススとコゲからなぞをとく—」

6月19日 参加者 38名

「白河郡の平安時代について」 8月26日 参加者 16名

「平田村における近年の発掘成果」 1月24日 参加者 28名

「福島県内の中世及び近世の城郭について」

3月22日 参加者 18名

(7) 体験学習事業の状況

過去の生活の一部を体験しながら学べるよう、復元品等を用いた体験学習の普及活動を、館内・館外で行う。

活動を行うための施設として、屋内に体験活動室、別棟として体験学習館を設けている。また、野外展示施設では、体験広場を囲むように、縄文時代の家、前方後円墳、奈良時代の家、奈

(5) 資料管理業務

県教育委員会による調査の出土品約51,000箱を、教育・普及・研究への活用が可能な環境に整備して収蔵管理。

写真掲載・転載の申し込み28件、出土品借受の申し込み12件。収蔵庫保管品の館内閲覧13件。

(6) 研修事業の状況

埋蔵文化財や無形の文化財の調査・保護を担当する自治体・団体職員、学校教育・生涯学習に携わる教職員などを対象とした研修を実施する。

区分	研修対象者	研修内容
基礎研修	教職員・市町村職員等	主に発掘調査技術の向上と整理技術の向上などをめざす。
専門研修	教職員・市町村職員等	考古資料を基に、深く細やかな指導を行うための知識や技術の習得と、総合的な歴史価値判断能力の習得などをめざす。
特別研修	教職員・市町村職員等	上記以外の研修(教職員を主な対象とする発掘調査研修、市町村職員等の要望に応じて随時実施する研修、無形の文化財に関する研修等)

ア 平成28年度研修実施状況

(平成29年3月31日現在)

良時代の倉庫、製鉄炉、室町時代の館を復元展示している。

ア 常時体験型体験学習

事前に予約を必要としない個人来館者を対象に実施するメニューと、事前予約制で、団体で体験学習を希望する場合を対象とするものを用意している。内容は、火おこし、勾玉づくり、土器づくりなどである。

常時体験型体験活動状況 (平成29年3月31日現在)

	来館者数(人)	体験者数(人)	割合(%)
4月	2,130	2,482	117
5月	3,986	2,051	51
6月	2,949	3,226	109
7月	3,540	3,229	93
8月	2,702	2,237	83
9月	2,977	2,205	74
10月	2,369	1,966	83
11月	1,965	628	32
12月	1,281	325	25
1月	1,084	640	59
2月	2,391	596	25
3月	1,967	643	33
計	29,341	20,298	

※ 体験者数は1人で複数メニューを体験した場合も合算した延べ人数である。

イ 募集型体験学習

事前に参加者を募集して土器づくり・布づくりなどの単発プログラムを行う「実技講座」、事前に参加者を募集し、関連性・継続性のあるメニューを年間6回実施する「まほろん森の塾」などのプログラム。

・まほろん森の塾

- 第1回「入塾式、昔の技を学ぼう」 6月26日 参加者14名
- 第2回「釣針をつくる」 7月24日 参加者11名
- 第3回「釣針で魚を釣る」 8月7日 参加者8名
- 第4回「紙をつくる」 9月11日 参加者11名
- 第5回「縄文時代の料理をつくる」 10月9日 参加者13名
- 第6回「ほうきづくり、修了式」 11月13日 参加者11名

・実技講座

- 「家族で土器づくり初級編①製作」 5月15日 参加者14名
- 「家族で土器づくり初級編②野焼き」 6月12日 参加者7名
- 「カラムシから布をつくろう①刈り取り」 7月3日 参加者14名
- 「カラムシから布をつくろう②糸づくり」 7月17日 参加者13名
- 「鹿角の釣針で魚を釣ってみよう①釣針づくり」 7月24日 参加者7名
- 「鹿角の釣針で魚を釣ってみよう②魚釣り」 8月7日 参加者7名
- 「染色にちょうせん」 8月21日 参加者21名

「カラムシから布をつくろう③布づくり」

- 8月28日 参加者14名
- 「茶わんづくり①製作」 10月16日 参加者17名
- 「茶わんづくり②絵付け」 11月20日 参加者17名
- 「竹かごをつくろう①ヒゴづくり」 12月11日 参加者13名
- 「竹かごをつくろう②かご編み」 12月17日 参加者14名
- 「竹かごをつくろう③かご編み」 12月18日 参加者14名
- 「家族で門松をつくろう(前期)」 12月24日 参加者17名
- 「家族で門松をつくろう(後期)」 12月25日 参加者21名
- 「縄文土器づくり上級編①形づくり」 1月28日 参加者12名
- 「縄文土器づくり上級編②文様づけ」 1月29日 参加者10名
- 「アクセサリーをつくろう」 2月12日 参加者11名
- 「縄文土器づくり上級編③野焼き」 2月26日 参加者10名

ウ まほろんイベント

- 「GWまほろんまつり」 5月3日～5日 参加者1,808名
- 「歴史と植物を学ぶ野外展示解説会」 6月26日 参加者26名
- 「まほろん夏まつり」 7月31日 参加者329名
- 「まほろんを描こう」 8月11日～15日 参加者37名
- 「まほろん15周年体験フェスタ」 9月25日 参加者732名
- 「歴史と植物を学ぶ野外展示解説会」 10月23日 参加者11名
- 「まほろん感謝デー」 11月27日 参加者574名
- 「まほろん写真コンテスト」 1月7日～15日 参加者16名
- 「まほろん冬まつり」 2月19日 参加者1,057名

エ 「おでかけまほろん」

文化財センター白河館の職員が、土器や体験学習器材を携えて、学校を訪問し、体験学習の支援をしたり、先生方と連携して授業を進めるプログラム。平成28年度は43校で実施。参加者数は延べ860名。(平成28年度実績(実施日順)：大玉村立玉井小学校、双葉町立双葉北小学校、双葉町立双葉南小学校、須賀川市立小塩江小学校、喜多方市立堂島小学校、田村市立常磐小学校、郡山市立安積第一小学校、川俣町立福田小学校、田村市立関本小学校、本宮市立岩根小学校、郡山市立大田小学校、玉川村立須釜小学校、塙町立常豊小学校、福島県立聾学校福島分校、二本松市立旭小学校、福島県立聾学校会津分校、磐梯町立磐梯第一小学校、柳津町立柳津小学校、南会津町立館岩小学校、喜多方市立駒形小学校、会津若松市立湊小学校、磐梯町立磐梯第二小学校、大玉村立大山小学校、郡山市立海老根小学校、昭和村立昭和小学校、南会津町立田島第二小学校、浅川町立里白石小学校、二本松市立渋川小学校、本宮市立和田小学校、北塩原村立裏磐梯小学校、本宮市立五百川小学校、福島県立須賀川養護学校、田村市立美山小学校、伊達市立伊達東小学校、二本松市立石井小学校、川俣町立川俣南小学校、本宮市立糠沢小学校、伊達市立小手小学校、伊達市立白根

小学校、二本松市立油井小学校、福島県立聾学校平分校、郡山市立根木屋小学校、福島県立あぶくま養護学校)

オ まほろん出前講座

公民館等生涯学習施設で実施される活動等を対象として、弓矢体験、勾玉づくりなどの体験学習を実施する。平成28年度は8か所で実施し、297名が参加した。

(平成28年度実績(実施日順)：いわき市立内郷公民館、矢吹町中央公民館、会津美里町本郷公民館、棚倉町子どもセンター、須賀川市稲田公民館、広野町ひろの元気教室、桑折町中央公民館、相馬市東部公民館)

カ まるごとまほろん

文化財センター白河館に収蔵する発掘資料を、各地の行事等で展示するとともに、火おこし、弓矢などの体験学習も実施するプログラム。平成28年度は6か所で実施し、2,265名が参加した。

(平成28年度実績：国立磐梯青少年交流の家(2回実施)、国立那須甲子青少年自然の家、須賀川市教育委員会、大玉村あだたらふるさとホール、ふくしま階洋科学館、那須高原ビジターセンター)

キ 講座・講演会

館長の講演会、白河館の学芸員などが講師となる「まほろん文化財講座」を開催した。

- ・館長講演会 シリーズ『北日本の考古学』
 - 第1回「君の故郷に弥生はあるか？」
5月21日 聴講者 51名
 - 第2回「北日本に人はどう住み始めたか？」
7月16日 聴講者 37名
 - 第3回「北日本の縄文時代後半期から続縄文期」
9月17日 聴講者 49名
 - 第4回「北日本の文化はどう形づくられたか？」
11月12日 聴講者 26名
 - 第5回「謎のオホーツク人とアイヌ文化」
2月4日 聴講者 48名
- ・文化財講演会
 - 「震災遺産と文化財を考える」 6月5日 聴講者 60名
 - 「白河郡衙遺跡群について」 8月26日 聴講者 44名
 - 「開館15周年記念講演会・シンポジウム『城跡を掘るⅠ—城跡研究のいま—』」 10月29日～30日 聴講者155名
 - 「開館15周年記念講演会・シンポジウム『城跡を掘るⅡ—近世城郭の展開—』」 12月3日～4日 聴講者151名
- ・文化財講座
 - 「古代ふくしまの歴史的画期」 1月15日 聴講者 20名
- ・文化財に関するビデオ上映会
 - 「福島の伝統技師」 12月17日 聴講者 15名

(8) 常設展事業

常設展示室では、収蔵遺物や復元品を、「見て、触れて、考え、学ぶ」というプロセスを通じて理解しやすい形で展示している。常設展示では、次の各展示コーナーにより構成される。「話題の遺跡」「みんなの研究ひろば」「しらかわ歴史名場面」

「ふくしまの宝物」については年間数回程度の展示替えを行っている。

- めぐみの森(導入部)
- 暮らしのうつりかわり
- 暮らしをささえた道具たち
- 遺跡を掘る
- 話題の遺跡(最新の話題になった遺跡の発掘調査成果等を紹介する)
- みんなの研究ひろば(体験学習などを通して得られた成果や、児童、生徒、一般研究家の研究成果等の発表の場として活用する。平成28年度は、被災地から救出された文化財の展示コーナーとしても活用した)
- ふくしまの文化財
- のぞいてみよう福島の遺産
- しらかわ歴史名場面(白河地方の文化財を集め、白河地方の歴史の一こまを展示する)
- クイズふくしま歴史発見

(9) 企画展事業

特別展示室では、指定文化財展・収蔵資料展などの企画展を開催している。

ア 企画展

- ・ふくしま復興展Ⅰ
「震災遺産と文化財」
5月28日～7月3日 観覧者3,447名
- ・ふくしま復興展Ⅱ
「ふくしま平安ものがたり」
7月23日～9月25日 観覧者7,070名
- ・指定文化財展
「城跡の考古学」
10月15日～12月18日 観覧者4,391名
- ・収蔵資料展
「縄文土器の年代Ⅱ—縄文中期の世界に迫る—」
3月4日～3月30日 観覧者1,846名
(平成28年度中入館者数)

イ 移動展

- ・収蔵資料展
「縄文土器の年代—ススとコゲからなぞをとく—」
福島県立図書館
6月3日～7月6日

(10) ボランティア運営事業

ア 「まほろんボランティア」の活動状況

- ・施設・展示の案内 ・体験学習用器材の整備など
- ・ボランティア連絡会(3回開催)

イ 登録数

個人ボランティア 20名

第11章 福利厚生

[教職員の健康管理・福利厚生事業]

第1節 概要

(1) 教職員の健康管理については、教職員の安全確保と健康の保持増進のため、労働安全衛生法や学校保健安全法等に基づき各種事業を実施した。

(2) 保健・厚生事業については、特定健康診査等を実施するとともに、教職員人間ドック等をはじめとする健診事業を、県、市町村、公立学校共済組合、一般財団法人福島県教職員互助会等が連携を図り、実施した。教職員の健康管理を重点目標とし、生活習慣病の早期発見・早期治療等健康づくりを支援するための人間ドックや大腸がん検診等の健診事業のほか、保養所等利用助成事業等を実施した。

また、教職員の生涯生活設計の推進のためのライフプラン講座、教職員の健康管理意識を高めるため、生活習慣病、メンタルヘルス等に関する各種セミナー事業を実施し、教職員の心身の健康づくりを支援した。さらに、ふくしま教職員こころのケア事業等をはじめとする各種相談事業やストレスチェック事業を実施し、メンタルヘルス対策の充実を図った。

主な事業と実績は、以下のとおりである。

第2節 事業実績

1 教職員の健康管理

教職員の健康管理を適正に行うため、雇入時健康診断、教職員定期健康診断、教職員結核健康診断、ストレスチェック事業等を実施した。

(1) 雇入時健康診断結果

教育庁及び県立学校等の新規採用教職員

ア 健康診断実施状況の内訳

受診者数	要注意者数		要精密検査者数	
	人数	割合	人数	割合
156	49	31.4%	50	32.1%

イ 精密検査の内訳

検査項目	聴力	血圧	貧血	血中脂質	肝機能	血糖	尿	心電図	胸部
受診者数	156	156	156	156	156	156	155	155	155
要精密検査者数	3	8	6	24	7	0	8	5	0
要精密検査率	1.9%	5.1%	3.8%	15.4%	4.5%	0%	5.2%	3.2%	0%

(注) 要精密検査者については、要精密検査項目が1人で2つ以上ある場合には、該当項目にそれぞれ計上した。

(2) 教職員定期健康診断結果

教育庁及び県立学校等教職員（新規採用教職員を除く）

ア 健康診断実施状況の内訳

区分		受診者数	要注意者数		要精密検査者数	
年齢・性別		人数	人数	割合(%)	人数	割合(%)
35歳以上	男性	3,283	901	27.4%	1,942	59.2%
	女性	2,081	732	35.2%	987	47.4%
	計	5,364	1,633	30.4%	2,929	54.6%
35歳未満	男性	717	259	36.1%	281	39.2%
	女性	671	195	29.1%	186	27.7%
	計	1,388	454	32.7%	467	33.6%
合計	男性	4,000	1,160	29.0%	2,223	55.6%
	女性	2,752	927	33.7%	1,173	42.6%
	計	6,752	2,087	30.9%	3,396	50.3%

イ 要精密検査の内訳

検査項目	聴力		血圧		貧血		血中脂質		肝機能		腎機能	
	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上
受診者数	1,379	5,323	1,381	5,333	1,379	5,326	1,379	5,326	1,379	5,326	1,379	5,135
要精密検査者数	15	274	75	806	50	240	235	1,302	119	605	53	187
要精密検査率	1.1%	5.1%	5.4%	15.1%	3.6%	4.5%	17.0%	24.4%	8.6%	11.4%	3.8%	3.6%
検査項目	血糖		尿		心電図		胃エックス線		大腸がん		眼底	
	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上	35歳未満	35歳以上
受診者数	1,381	5,335	1,365	5,288	/	5,301	/	4,148	/	5,027	/	5,265
要精密検査者数	12	228	81	326	/	231	/	225	/	279	/	214
要精密検査率	0.9%	4.3%	5.9%	6.2%	/	4.4%	/	5.4%	/	5.6%	/	4.1%

(注) 要精密検査者については、要精密検査項目が1人で2つ以上ある場合には、該当項目にそれぞれ計上した。

(3) 教職員結核健康診断結果

教育庁及び県立学校等教職員（新規採用教職員を除く）

受診者数	要精密検査者数	要精密検査率
6,476人	44人	0.7%

(4) 教職員ストレスチェック事業（県）

労働安全衛生法に基づくストレスチェックを教育庁及び県立学校等教職員（平成28年7～11月実施）

検査を受けた職員数、率 6,628人、92.2%

(5) VDT作業従事教職員健康診断（県）

教育庁及び県立学校等教職員のうち作業に従事したもの

受診者数 4,751人

(6) 警戒区域等で業務に従事した職員の健康診断（県）

教育庁及び県立学校等教職員のうち作業に従事したもの

受診者延数 893人

2 保健事業

(1) 特定健康診査等（共済組合）

平成28年度中に、40～74歳となった公立学校共済組合員（任意継続組合員も含む）とその被扶養者を対象に、特定健康診査を実施した。特定健康診査の結果、生活習慣病のリスクが高い場合、その程度に応じて特定保健指導を実施した。

対象者数	受診者数	受診率	保健指導
A	B	B / A	対象者
17,579人	15,322人	87.2%	2,786人（H28年度確定値）

(2) 人間ドック（県・市町村・公立大学法人・共済組合・互助会）

ア 教職員人間ドック（県・市町村・公立大学法人・共済組合・互助会）

平成28年4月1日現在、満35・38・40・43・45・48・50・53・55・58歳、61歳以上の教職員を対象に、人間ドック（脳ドックを含む。）を実施した。

対象者数 A	申込者数 B	受診者数 C	申込率			受診率				検診結果			
			B/A	C/A	C/B	異常なし	要注意	要精検	治療中				
6,593人	5,493人	5,438人	83.3%	82.5%	99.0%	3.9%	34.8%	36.6%	24.7%				

イ 配偶者人間ドック（共済組合・互助会）

平成28年4月1日現在、満35歳以上の被扶養配偶者を対象に、人間ドックを実施した。

申込者数 A	受診者数 B	受診率 B/A	検診結果			
			異常なし	要注意	要精検	治療中
314人	276人	87.9%	5.4%	38.0%	39.6%	17.0%

ウ 定年退職予定者人間ドック（互助会）

平成28年4月1日現在、満59歳の教職員を対象に、人間ドックを実施した。

対象者数 A	申込者数 B	受診者数 C	申込率			受診率				検診結果			
			B/A	C/A	C/B	異常なし	要注意	要精検	要治療				
547人	403人	399人	73.7%	72.9%	99.0%	3.3%	23.6%	29.1%	44.1%				

(3) 大腸がん検診（共済組合・互助会）

平成28年4月1日現在、満35歳以上の教職員（人間ドック及び脳ドック受診者を除く。）を対象に、大腸がん検診を実施した。

対象者数 A	申込者数 B	受診者数 C	申込率			受診率				検診結果			
			B/A	C/A	C/B	異常なし	要注意	要精検	治療中				
10,942人	1,067人	923人	9.8%	8.4%	86.5%	62.0%	26.7%	11.3%	0%				

(4) 乳がん・子宮がん検診（県・公立大学法人・共済組合・互助会）

平成28年4月1日現在、満20歳以上の女性教職員（人間ドック及び脳ドック受診者を除く。）を対象に、乳がん・子宮がん検診を実施した。

対象者数 A	申込者数 B	受診者数 C	申込率			受診率				検診結果			
			B/A	C/A	C/B	異常なし	要注意	要精検	治療中				
6,624人	4,063人	3,786人	61.3%	57.2%	93.2%	83.6%	9.9%	6.0%	0.5%				

(5) 脳ドック（県・市町村・公立大学法人・共済組合・互助会）

平成28年4月1日現在、満40・43・45・48・50・53・55・58歳、61歳以上の教職員を対象に、脳ドックを実施した。

※申込者数及び受診者数は教職員人間ドックの内数で、検診結果は人間ドック項目を除いた項目の構成比率である。

対象者数 A	申込者数 B	受診者数 C	申込率			受診率				検診結果			
			B/A	C/A	C/B	異常なし	要注意	要精検	治療中				
5,837人	820人	812人	14.0%	13.9%	99.0%	46.4%	31.3%	22.0%	0.3%				

(6) 脳検診（共済組合・互助会）

平成28年4月1日現在、満40・43・45・48・50・53・55・58歳、61歳以上の教職員を対象に、脳検診を実施した。

対象者数 A	申込者数 B	受診者数 C	申込率			受診率				検診結果			
			B/A	C/A	C/B	異常なし	要注意	要精検	治療中				
5,837人	2,001人	1,923人	34.3%	32.9%	96.1%	82.8%	12.9%	4.0%	0.3%				

(7) 肺がん検診（共済組合・互助会）

平成28年4月1日現在、満40歳以上の教職員を対象に、肺がん検診を実施した。

対象者数 A	申込者数 B	受診者数 C	申込率			検診結果			
			B/A	C/A	C/B	異常なし	要注意	要精検	治療中
14,479人	1,590人	1,540人	11.0%	10.6%	96.9%	64.4%	27.3%	6.7%	1.6%

(8) 胃がん検診（共済組合・互助会）

平成28年4月1日現在、満30・33歳の教職員を対象に胃がん検診を実施した。

対象者数 A	申込者数 B	受診者数 C	申込率			検診結果			
			B/A	C/A	C/B	異常なし	要注意	要精検	治療中
583人	101人	82人	17.3%	14.1%	81.2%	85.3%	9.8%	4.9%	0%

3 厚生事業

(1) 厚生事業

ア ライフプラン講座（共済組合・互助会）

教職員一人ひとりが、生涯にわたり健やかで充実したゆとりある生活を送ることができるよう、退職後の生活を視野に入れた生涯生活設計づくりとその実現を支援するため、ライフプラン講座を開催した。

日 程	平成28年8月4日～5日		
会 場	ビッグパレットふくしま		
プログラム	ライフプラン設計演習 ○20代～30代コース（8月4日） 株式会社FP研究所 今野 隆文 氏 ○40代コース（8月4日） 株式会社FP研究所 石田 英憲 氏 ○50代～60代コース（8月5日） 株式会社FP研究所 石田 英憲 氏		
受講者数	396人		

イ 在宅介護講座（共済組合）

組合員を対象に、在宅介護に必要な知識や技術を身につけるための実技中心の1日介護講座を実施した。

日 程	平成28年 8月9日	平成28年 8月10日	平成28年 8月16日
会 場	福島県男女共生センター		
プログラム	(1) 講義「在宅介護の基礎知識」 (2) 実技Ⅰ「環境整備と更衣の仕方」 (3) 実技Ⅱ「食事介助法と排泄援助」 (4) 実技Ⅲ「清潔援助」 8月9日 （福島県介護福祉士会 関根 誠一 氏 和田 広美 氏） 8月10日 （福島県介護福祉士会 佐藤 恵二 氏 夏井 佑子 氏） 8月16日		

（福島県介護福祉士会 小山田 米子 氏 佐久間 良子 氏）

受講者数	21人	19人	14人
------	-----	-----	-----

ウ 管理・監督者メンタルヘルス研修会

管理・監督者に対し、メンタルヘルスケアに関する基礎知識や職場環境等の改善方法を習得させるため、研修会を実施した。

日 程	平成28年5月6日～平成28年10月21日（計16回）		
会 場	県内各方部		
講 師	ウェルリンク株式会社 小西喜朗氏、和田隆氏、武井規之氏、船見敏子氏、迫加奈氏		
受講者数	計1,699人		

エ メンタルヘルスセミナー（共済組合）

組合員の心の健康を保持増進するため、メンタルヘルスに関する基礎知識を習得するための講座を開催した。

日 程	平成28年8月2日	平成28年8月3日
会 場	とうほう・みんなの文化センター	ビッグパレットふくしま
プログラム	講演：メンタルヘルスの基礎知識 演習：アンガーマネジメント 講師：(株)カイツック 藤野 佳織氏、林 秀多氏、篠原 緑氏	
受講者数	67人	117人

オ 女性のための健康セミナー（共済組合）

女性組合員を対象に、健康意識の向上を図るため、女性特有の病気についての知識や予防法等を習得する講演、実技を行うセミナーを開催した。

日 程	平成28年7月21日	平成28年7月25日
会 場	会津アピオ	新舞子ハイツ
プログラム	(1) 講演 「女性のための健康セミナー」 ((株)カイツック講師 樋口 恵子 氏)	

プログラム	(2) 演習 「簡単ハンドトリートメント」 ((株)カイトック講師 樋口 恵子 氏) (3) 実技 「楽しく! “動けるカラダ”を目指しましょう!!」 ((株)カイトック講師 綿貫 恵子 氏)	
受講者数	77人	47人

カ 教職員のためのカラダ元気力アップ!セミナー (共済組合)

組合員を対象に、生活習慣病の知識と予防法等に関する講話と運動指導を行うセミナーを実施した。

日程	平成28年 7月26日	平成28年 7月27日	平成28年 7月28日	平成28年 7月29日
会場	ビッグパレットふくしま	いわき新舞子ハイツ	会津アピオスペース	パルセいいざか
プログラム	(1) 講演 「快適人生への未来日記」 (2) 演習 「セルフチェックでメタボ改善」 (3) 実技 「ボクシングエクササイズ&リラクゼーション」 (株)カイトック 講師 皆川 芳弘 氏			
受講人数	54人	54人	47人	46人

キ 保育補助 (共済組合)

平成28年度内に出産し又は出産を予定する女性組合員及び被扶養配偶者を有する組合員に対し、保育の支援及び福祉の向上に資するため、乳幼児の保育に必要な用品を出生児1人につき1セット交付した。

区分	内容	交付件数
Aセット	電子レンジで除菌セット ベビー用耳式体温計 お風呂用湯温計	87件
Bセット	ベビー食器セット (14点セット) ベビーマグセット (スペアパーツ付属)	197件
Cセット	ベビー用バスローブ 肌着 (前開きミニオール)	57件
Dセット	月刊「赤ちゃん和妈妈」 12冊 お誕生号 1冊 単行本 「赤ちゃんのつぶやき」 1冊 「やさしい離乳食」 1冊 冊子 「お医者さんにかかるまでに」 1冊	9件
計		350件

ク 教職員健康相談事業 (共済組合)

(こころとからだの健康相談)

健康上の不具合や心身の悩みについて相談を受けられ

るよう、18医療機関に相談業務を委託。

のべ利用件数 24件

ケ 教職員相談事業 (県)

専任の相談員を配置し、教職員の各種相談に応じた。
相談件数 241件

コ メンタルヘルスサポート (セルフチェック) 事業

公立学校共済組合福島支部のホームページにアクセスし、所定の質問に回答することで、自己の状態を確認した。
アクセス数 30,821件

サ ふくしま教職員こころのケア事業 (共済組合)

東日本大震災を受けて、日常のストレスやこころの悩みを専門のカウンセラーに相談できる機会を提供するため、7カウンセリング機関に業務を委託。

カウンセリングのべ利用件数 696件
講師派遣利用件数 6件
グループカウンセリングコース・
ピアカウンセリングコース利用件数 1件

シ 教職員メンタルヘルスカウンセリング事業 (県)

常勤講師等臨時的任用職員等の心の疾患の未然防止や心の健康保持増進を図るため7カウンセリング機関に業務を委託

カウンセリングのべ利用件数 3件

ス ストレスチェック事業 (共済組合)

公立学校共済組合の被災組合員等対策事業を活用し、平成25年度～4か年にわたり4月1日現在で偶数年齢の組合員を対象に実施した。(平成28年11月実施)

※二巡目最終年度

回答者数 7,399人
回答率 92.0%

セ 保養所等利用助成 (共済組合)

組合員が福島支部指定の共済組合宿泊施設を利用した場合、利用料金の一部を助成した。あづま荘休館中は、地方職員共済組合飯坂保養所飯坂温泉「みちのく荘」への宿泊についてあづま荘利用時と同額の助成をした。

○ あづま荘利用助成

区分	助成対象	助成内容	助成件数
宿泊利用助成	組合員・被扶養者・配偶者・子・父母・祖母が宿泊したとき	1人1泊1食まで2,000円 1人1泊2食3,000円等	8,855件
会議室利用助成	組合員が開催する諸会議	会議室料金の2分の1の額	36件
結婚式利用助成	新郎・新婦が組合員のとき	1組 200,000円	0件
	新郎・新婦の一方あるいは親が組合員のとき	1組 100,000円	0件
会食利用助成	組合員が5名以上で、かつ1人5,000円以上の会食を行ったとき	1人 1,000円	83件

法要利用助成	組合員及び直系親族が法要を行うとき	利用額の30% (上限70,000円)	5件
年金受給者等利用助成	福島支部発行の「宿泊施設特別利用者証」の交付を受けた者が宿泊したとき	1人 1,000円	373件

○ 他支部保養所等利用助成

県内2、県外11の指定宿泊施設利用に対し、1人1泊1,500円、計1,575件の助成を行った。

ソ 指定旅館等利用助成（互助会）

会員の保養及び健康の保持増進を図るため、県内（26施設）、県外（9施設）の宿泊施設等を指定し、会員が利用したとき、利用料金の一部を助成した。

区 分	助成件数	金 額
宿泊利用助成	12,489件	32,332千円
会食利用助成	50件	50千円
アケアリン利用助成	410件	351千円
計	12,949件	32,733千円

タ 弔慰供花（共済組合）

在職中に亡くなった組合員の霊前に供花を行い、哀悼の意を表した。

供花件数 15件

チ 法律相談（共済組合）

組合員が抱える民事問題を早期解決に導くため法律相談を実施した。

相談件数 7件

ツ リフレッシュ助成（互助会）

勤続10年及び20年の節目に心身のリフレッシュを図るための助成（旅行券又は宿泊施設利用券）を実施した。

実施件数 680件

テ 永年勤続リフレッシュ助成（互助会）

永年勤続表彰会員及び20年以上30年未満勤続し退職した会員等に対し、助成品（旅行券、宿泊施設利用券、図書券又は現金）を交付した。

永年勤続表彰会員 645名

20年以上30年未満勤続し退職した会員 10名

勤続30年以上で表彰を受けずに退職した会員 6名

ト 国内外旅行助成（互助会）

福島空港を利用して旅行した会員に対し、旅行代金の一部を助成した。

区 分	助成件数	金 額
国内旅行	215件	1,075千円
海外旅行	1件	5千円
計	216件	1,080千円

ナ 教育塔合祀遺族助成（互助会）

教育塔に合祀された教職員、生徒児童等の遺族が教育祭に参加するための経費の一部を助成した。

教育祭参加者数 4人

(2) 公益事業

ア ヘキ地等教育事業助成（互助会）

県人事委員会指定の特地以上のへき地学校及び特別支援学校に在学する児童生徒の健全育成を図るため、これらの学校に図書を贈呈した。

対象校 98校

児童生徒数 5,843人

イ 互助会文庫（互助会）

県民の教育文化の向上に寄与するため、県立図書館に図書を寄贈し、広く県民の利用に供した。

一般・児童生徒用 1,089冊（累計 61,041冊）

第3節 貸付事業

1 共済組合

平成28年度における共済組合貸付事業は、住宅貸付け（介護構造部分貸付けを含む。）をはじめ、一般、教育、医療、結婚、特例住宅災害、葬祭の7種類の貸付けを行った。

(1) 貸付けの状況

種類別貸付けの状況は次のとおりである。

(単位：件、千円)

種類別	件 数	金 額	金額割合
一般貸付け	102	129,981	39.3
住宅貸付け	11	64,454	19.5
教育貸付け	45	92,600	28.0
医療貸付け	1	1,200	0.4
結婚貸付け	4	6,600	2.0
特例住宅災害貸付け	3	33,300	10.1
葬祭貸付け	2	2,500	0.7
計	168	330,635	100.0

第4節 宿泊・保養施設

公立学校共済組合では、組合員の福利厚生施設として、飯坂保養所「あづま荘」を運営しているが、平成28年度の利用状況は、次のとおりである。なお、平成28年2月から同年7月まで耐震改修工事のため休館した。

種 別	施 設	
	あづま荘	
利 用 人 員	宿 泊	11,472 人
	会 議	1,407 人
	宴 会	369 人
	婚 礼	0 人
	休 憩	15 人

	計	13,263 人
利用率	宿泊	49.8 %
	宿泊外	2.0 %

※利用率

$$\begin{aligned} \cdot \text{宿泊} &= \frac{\text{利用人員（宿泊）}}{\text{宿泊延定員（宿泊定員} \times \text{営業日数）}} \times 100 \\ \cdot \text{宿泊外} &= \frac{\text{利用人員（会議・宴会・婚礼）}}{\text{宿泊外延定員（宿泊外定員} \times \text{営業日数）}} \times 100 \end{aligned}$$

第5節 児童手当（特例給付を含む）

次代の社会を担う児童の健やかな成長に資することを目的とする「児童手当法」に基づき、以下のとおり支給した。

（単位：人、千円）

	平成29年3月の 認定状況		支給額
	受給 資格者数	支給対象 児童数	
本庁・教育機関等	123	195	24,450
小学校	1,183	1,975	259,550
中学校	1,099	1,832	244,795
高等学校	1,114	1,861	248,550
特別支援学校	319	550	72,660
計	3,838	6,413	850,005

第8節 短期給付

1 共済組合

平成28年度末現在における組合員数は、現職組合員数19,379人（前年同期比16人減）、任意継続組合員346人（同20人減）の計19,725人（同36人減）である。

また、被扶養者数は、17,600人（同691人減）、組合員1人当たりの被扶養者数は、0.892人となっている。

平成28年度の共済組合短期給付の給付総額は、5,308,113千円で、前年度対比62,046千円の減少となった。

総額に占める割合は、法定給付 97.72%、附加給付 2.28%となっており、給付の内訳は次のとおりである。

共済組合短期給付内訳表

法定給付				附加給付			
	種別	件数（件）	給付額（千円）		種別	件数（件）	給付額（千円）
医療給付	本人医療費	176,695	1,783,468	医療給付 その他 の給付	家族療養費	916	29,314
	家族医療費	150,632	1,455,818		家族訪問看護療養費	0	0
	高額療養費	2,798	288,397		出産費	241	12,050
	薬剤	147,983	977,431		家族出産費	120	6,000
	移送費	0	0		埋葬料	11	275
	小計	478,108	4,505,114		家族埋葬料	13	325
その他	出産費	254	104,803	直営保健給付家族療養費	0	0	
	家族出産費	134	56,164	傷病手当金	22	5,147	
	埋葬料	11	550	災害見舞金	0	0	

第6節 財産形成貯蓄制度

教職員の計画的な財産形成を促進するために財産形成貯蓄を導入し、昭和62年3月から控除預入を開始したが、平成28年度における契約状況は次のとおりである。

財産形成貯蓄契約状況

◎貯蓄種類別契約件数（平成29年3月31日現在）

（単位：件）

	期日指定 定期預金	金銭信託	公社債投 資信託	積立保険	計
一般貯蓄	7,573	65	149	596	8,383
年金貯蓄	1,846	46	62	298	2,252
住宅貯蓄	484	9	15	51	559
計	9,903	120	226	945	11,194

契約者数 8,543人

[福利給付事業]

第7節 概要

教職員の福利給付事業については、県教育委員会、公立学校共済組合、一般財団法人福島県教職員互助会において、組合員（会員）に対する各種の給付事業を実施した。

一方、長期給付事業については、教職員等への退職手当、恩給及び厚生（共済）年金の支給を行った。

なお、平成28年度の年金額は平成27年度から据え置きとなった。

また、恩給年額については、平成22年度以降据え置きとなっている。

の 給 付	家族埋葬料	13	650	結婚手当金	0	0
	傷病手当金	336	86,880	入院附加金	0	0
	出産手当金	18	1,567			
	休業手当金	4	37			
	育児休業手当金	2,500	425,662			
	介護休業手当金	47	5,591			
	弔慰金	0	0			
	家族弔慰金	0	0			
	災害見舞金	0	0			
	小計	3,317	681,904			
	① 法定給付 計	481,425	5,187,018	② 附加給付 計	1,323	53,111

③ 一部負担金払戻金	2,267	67,984
短期給付合計(①+②+③)	485,015	5,308,113

2 互助会

平成28年度末現在の互助会の会員数は、16,576人（前年同期比158人減）となっている。

互助会給付規程に基づいた短期給付金及び厚生給付金事業の内訳については、次のとおりである。

(1) 短期給付金

種 別	件数 (件)	給付額 (千円)	
医療補助金 (被扶養者)	12,415	50,741	
死亡弔慰金	(会員)	14	700
	(被扶養者)	11	470
災害見舞金	0	0	
出産見舞金	(会員)	177	8,850
	(被扶養者)	104	3,120
計	12,721	63,881	

(2) 厚生給付金

種 別	件数 (件)	給付額 (千円)
医療給付金	42,508	158,082
死亡給付金	554	19,450
出産給付金	91	2,760
結婚祝金	198	9,900
入学祝金	589	17,670
入院療養見舞金	1,475	17,095
障害見舞金	77	3,850
育児休業給付金	2,322	33,730
介護休暇給付金	25	2,856
計	47,839	265,393

第9節 長期給付

平成28年度の教職員等に対する退職給付の執行状況は、次のとおりである。

1 恩給

(1) 恩給の受給者数及び支給の状況

ア 支給人員及び支給額

普通恩給等の支給人員及び支給額は、次のとおりである。

平成28年度末現在の受給者数は74人（前年度比11人減）、平成28年度における支給総額は105,704千円（同25,469千円減）となっており、受給者の高齢化に伴い、いずれも減少傾向にある。

学校種別	普通恩給		扶助料		退隠料		遺族扶助料		計	
	人員 (人)	支給額 (千円)	人員 (人)	支給額 (千円)	人員 (人)	支給額 (千円)	人員 (人)	支給額 (千円)	人員 (人)	支給額 (千円)
小学校	6	11,978	42	58,518	2	2,188	0	0	50	72,684
中学校	1	1,578	17	25,489	2	2,219	0	0	20	29,286
特別支援学校	0	0	0	0	0	0	1	112	1	112
高等学校	0	0	0	0	0	0	1	945	1	945
教育庁その他	0	0	1	1,732	0	0	1	945	2	2,677
計	7	13,556	60	85,739	4	4,407	3	2,002	74	105,704

イ 裁定及び失権

裁定を受けた者及び死亡等により受給権を失った者は、次のとおりである。(単位：人)

恩給種別	裁 定	失 権	左のうち 完全失権
普通恩給	0	2	1
扶 助 料	1	10	10
退 隠 料	0	0	0
遺族扶助料	0	0	0
計	1	12	11

(2) 恩給の改定について

恩給は、国民年金改定率(国民年金法第27条で規定する改定率)を基準に毎年度改定し、当該年度の4月以降に適用される。

直近の改定としては、平成21年度に0.9%の引き上げがされているが、22年度以降は実施していない。

被用者年金一元化法により、平成28年4月分以後の年金の支払額について端数処理の方法が変更された。

2 退職手当

(1) 退職手当の支給人員及び支給額

退職手当の支給人員及び支給額は、次のとおりである。

学校種別	人員 (人)	支給額 (千円)
教育庁・その他	10	235,843
小 学 校	1,102	7,211,877
中 学 校	757	4,151,975
高 等 学 校	541	3,220,159
特別支援学校	349	715,029
計	2,759	15,534,883

(2) 失業者の退職手当

退職手当のうち「失業者の退職手当」の支給人員及び支給額は、次のとおりである。

学校種別	人員 (人)	支給額 (千円)
教育庁・その他	0	0
小 学 校	31	9,536
中 学 校	21	6,792
高 等 学 校	8	2,917
特別支援学校	14	4,642
計	74	23,887

3 年金

(1) 進達件数

老齢厚生(退職共済)年金等の本部への進達件数は、次のとおりである。

(単位：件)

進達区分	旧共済法による年金		新共済法・一元化法による年金					計
	退職年金	障害年金	老齢厚生(退職共済)年金	老齢厚生(退職共済)年金(特別)	老齢厚生(退職共済)年金(繰上)	障害厚生(共済)年金	遺族厚生(共済)年金	
決定請求	0	0	23	64	2	19	21	129
改定請求	0	0	17	45	0	0	0	62

(2) 支給人員及び支給額

老齢厚生(退職共済)年金等の平成28年度末現在における支給人員は22,235人で、平成28年度における支給額は376億9,897万4千円、平均年齢は77.4歳である。

平成27年10月の被用者年金一元化以降は、新たに厚生年金、職域加算額の年金及び年金払い退職給付の年金が決定されることになったが、一人の者に厚生年金と職域加算額の年金など複数の年金受給権が発生することになるため、年金種別ごとの受給者数が増加している。

前年度に比較して人員で664人の増加、支給額で10億303万8千円の減少となっている。

年金種別	受給者数(人)			平均年齢	平均年金額(円)	支給額(円)	
	男	女	計				
厚 生 年	老 齢 厚 生 年 金	355	290	645	65.4	1,300,608	838,892,160
	老 齢 厚 生 年 金 (特 別)	156	204	360	62.0	1,071,355	385,687,800
	障 害 厚 生 年 金	6	10	16	57.3	1,038,534	16,616,544

金	遺族厚生年金	20	66	86	63.9	1,229,016	105,695,376
	小計	537	570	1,107	64.1	—	1,346,891,880
年	終身退職年金	—	—	14	66.2	964	13,496
	有期退職年金	—	—	12	66.1	1,808	21,696
払	公務障害年金	—	—	0	—	0	0
	公務遺族年金	—	—	0	—	0	0
給	小計	—	—	26	66.2	—	35,192
新	退職共済年金(既裁定)	6,404	4,187	10,591	77.2	1,791,569	18,974,507,279
	退職共済年金(職域加算)	346	286	632	65.4	240,509	152,001,688
共	退共(特別・既裁定)	643	700	1,343	63.2	1,480,482	1,988,287,326
	退共(特別・職域加算)	139	191	330	61.9	229,762	75,821,460
済	退職共済年金(繰上)	0	0	0	—	0	0
	障害共済年金(既裁定)	163	133	296	61.0	1,183,491	350,313,336
年	障害共済年金(職域加算)	6	10	16	57.3	192,016	3,072,256
	遺族共済年金(既裁定)	429	4,062	4,491	82.1	1,685,624	7,570,137,384
金	遺族共済年金(職域加算)	34	267	301	77.7	128,448	38,662,848
	遺族共済年金(厚年計算)	14	201	215	83.3	1,732,801	372,552,215
・	小計	8,178	10,037	18,215	76.5	—	29,525,355,792
職	退職年金	491	1,707	2,198	89.4	2,639,438	5,801,484,724
	減額退職年金	22	142	164	85.1	1,919,807	314,848,348
域	通算退職年金	4	10	14	92.1	664,891	9,308,474
	障害年金	22	25	47	78.3	2,129,621	100,092,187
加	遺族年金	17	446	463	85.7	1,297,670	600,821,210
	通算遺族年金	0	1	1	92.0	136,645	136,645
算	小計	556	2,331	2,887	88.4	—	6,826,691,588
旧	合計	—	—	22,235	77.4	—	37,698,974,452

※支給額は平均年金額に受給者数を乗じた額である。

※受給者数について、一人の者に厚生年金及び職域加算額が裁定された場合はそれぞれ1件の年金受給権が発生するものとして合計している。

※既裁定とは一元化前に裁定された共済年金であり、職域加算とは一元化後に裁定された厚生年金等の旧職域部分の年金である。(例：退共(職域加算)には、老齢厚生年金及び退共(厚年計算)の旧職域部分を合算している。)

※厚年計算とは一元化後に受給権が発生した共済年金であり、厚生年金保険法が適用される。

(3) 年金額の改定

平成27年平均の全国消費者物価指数(生鮮食品を含む総合指数)の対前年比変動率はプラス0.8%、対前年度比名目手取り賃金変動率はマイナス0.2%であった。

本来水準の額の算定については、新規裁定者(68歳未満)は名目手取り賃金変動率、既裁定者(68歳以上)は物価変動率を基準として再評価率を改定する。ただし、新規裁定者・既裁定者ともに、名目手取り賃金変動率が1を下回り、かつ、物価変動率が名目手取り賃金変動率を上回る場合は、「1」を基準として改定される。この場合、マクロ経済スライドによる調整は行われないため、平成28年度の年金額は平成27年度から据え置きとなった。

また、改定率政令の改正により、平成28年度の国民年金法による改定率は「0.999」(平成27年度と同率)とされた。

第12章 福島県教育センター

第1節 概要

教育センターは、教育に関する専門的・技術的事項の調査と研究、教育関係職員の研修、情報教育、教育相談及び教育図書・資料の作成・収集・提供等、本県の学校教育の向上・発展に寄与するための事業を実施してきた。

また、カリキュラムセンター業務として、学校や教職員及び市町村教育委員会をはじめとする教育機関等を対象に、学校経営を含む教育活動全般について、研究成果・資料・情報を提供するとともに、要請に応じて指導主事の派遣等の支援を行ってきた。

平成28年度より初任者の負担軽減や継続的な研修を考慮し、「2年次教員フォローアップ研修」を設け、実践的指導力の向上を図った。

なお、事業概要は、次のとおりである。

1 調査・研究事業

教育センターの使命、役割を自覚し、県教育委員会のシンクタンクとしての期待に十分こたえられるようにするとともに、本県の教育推進上の課題や学校教育の在り方に対応するために、本県学校教育の諸課題の解決に役立つ先導的・実証的な調査・研究を進めてきた。

(1) 調査

本県の教育に関する実態や課題を的確に把握するため、客観的で広範囲な基礎データを継続的に収集し分析した。さらに、その調査結果を教育センターでの研究に生かし、各学校や教育機関等へ提供した。

(2) 研究

「学校での様々な実践に生かす」視点から、本県の教育課題を具体的に把握し、それらの課題に対処する基礎的・実証的な研究を行った。

研究の推進に当たっては、研究調査のためのチームを組織し、また、教育センターの役割と学校現場のニーズに基づく研究とするために、研究協力校、研究協力者を全県的に募り、開かれた研究の実践に努めた。

調査研究チーム、情報教育チーム、教育相談チームがそれぞれ共同研究を行った。

これらの研究成果は、「教育センターWebサイト」「研究紀要」「所報ふくしま『窓』」等に掲載するとともに、平成28年11月25日（金）に実施した「福島県教育研究発表会」においても発表し、その成果を各学校や教育機関へ提供した。

2 研修事業

教職員の資質と指導力の向上を図るために、「平成28年度福島県公立学校教職員現職教育計画」に基づいて各種の研修

講座を計画した。

基本研修、職能研修（職能研修Ⅰ、職能研修Ⅱ）、専門研修について、平成28年度の実績は、次のとおりであった。

講座数	76講座
講座開設数	137回
講座研修者数	4,617人（延べ人数）
講座開設期間	平成28年4月5日～平成29年2月17日
前年度比	
講座数	5 増
講座開設数	7 増
講座研修者数	274 増

3 情報教育事業

福島県内の学校・教育関係機関を接続する「ふくしま教育総合ネットワーク（FKS）」事業では、安全・安心なサービス提供のためのネットワーク基盤の運用・整備及び保守対応を行った。また、FKSのメールシステムやTV会議システムを更新するものとして、新たにグループウェア機能を付加したG Suite（システム名「FCS:ふくしま教育クラウドサービス」）を本年度より現システムと併行運用にて稼働を開始させ、平成29年度の単独での本格運用に備えた。さらに、ネットワークについても、多様なICT教育に対する質的・量的な新たな需要に応えるために、ネットワーク回線の高規格化及びサーバのクラウド化に関する企画を本年度より開始し、平成30年度の本格運用を目指すこととした。

情報教育における研修事業では、学習指導要領へ対応した研修の充実を図り、「教科指導におけるICT活用」、「児童生徒の情報活用能力の育成」、「校務の情報化」を3つの柱とした「教育の情報化の推進」に向けて取り組んだ。

専門研修では、「校務処理における表計算（関数）講座」や「フラッシュ型教材を用いたICT活用の授業実践講座」、「クラウドと連携したNetCommonsによるグループウェア構築講座」、「校内ネットワークの管理と運用基礎講座」などを行った。また、基本研修での講義等とおして、「情報モラル教育」及び「教科指導におけるICT活用」の研修の充実を図った。さらに、職能研修では「教育の情報化」の講義を行い、教育の情報化が円滑かつ確実に実施されるよう努めた。

4 教育相談事業

教育相談事業では、児童生徒の教育上の諸問題について来所及び電話で相談を受け、問題の改善・解決をめざした。

来所相談では不登校、集団不適應に関する相談が、電話相談では学校への不満、いじめ、不登校に関する相談が多かった。

学校への不満やいじめに関する電話相談の中で早急な対応が必要と思われる事案については、当該校の管理職に情報を

提供し、その共有に努めた。いじめに関する電話相談については、相談者の思いを受け止めるとともに、今後の対応と一緒に考えたり、身近な相談機関を紹介したりした。不登校に関する電話相談については、来所による相談も可能であることを積極的に伝えた。

5 教育図書・資料事業

県内教職員の教育活動に役立つ教育図書及び教育資料の収集・分類・整理に努め、データベース化して教育センターWebサイト (<http://www.center.fks.ed.jp/>) に掲載し、図書検索を可能にした。また、文献資料利用相談への対応並びに貸し出し等のサービスも行い、教職員の研修・研究活動を援助してきた。

教育センター広報誌「所報ふくしま『窓』」第171号、172号及び「研究紀要」第46集を発行した。

第2節 調査・研究事業

1 調査・研究

平成28年度の調査・研究として、教育庁より依頼された調査研究チーム、情報教育チーム、教育相談チームの3件に取り組んだ。

(1) 調査研究チームによる研究

「思考力」を高める問題解決的な学習指導の在り方～アクティブ・ラーニングを取り入れた授業の提案～

児童生徒の学力向上は本県の喫緊の課題であり、「言語活動の充実(21、22年度)」、「活学力の育成(23、24年度)」、「教師のコーディネート(25年度)」、「校内研修の在り方(26、27年度)」と、教師の授業力向上について研究してきた。

今年度は、研究の対象を算数科・数学科に絞り、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を提案した。具体的には、研究協力校における授業実践を通して、「思考力」を高める「深い学び」の過程を実現させる上で必要な授業づくりの視点や手だて等を明らかにし、問題解決的な学習の質的改善を目指した。

研究協力校における実践の結果、次のような成果と課題が確認された。

(成果)

- 算数科・数学科における「思考力」を高める学習指導の改善のポイントを整理し、提案することができた。
- 子どもが一度経験した思考・表現の手続きを、次は子ども自らが進めていくことができるように、学習の内容と方法の両方を学びの過程として組み立てることが、「思考力」向上につながることを確認できた。
- 子どものアクティブ・ラーニングを支える教師のアクティブ・ラーニングの重要性を再確認できた。そして、子どもの学びの姿を見取り、子どもの学びの過程に沿っ

た柔軟な授業展開ができる授業力を付けるには、不断の授業改善が欠かせないことが明らかになった。

(課題)

- 「思考力」を高める指導方法の工夫・改善の研究を、指導と評価の両面から更に深め、授業実践を通して、その有効性を検証する必要がある。
- 「思考力」を高める学習指導の在り方に関する研究を、他教科に広げるとともに、算数科・数学科の問題解決の過程で身に付けた「思考力」を、他領域・他分野や教科横断の問題解決の過程で活用できるようにする手だての研究を、更に深めていく必要がある。

(2) 情報教育チームによる研究

タブレットPC等の特性を生かした効果的な利用法に関する研究(第一年次)～ICT機器の活用と運用管理～
文部科学省より、タブレット端末活用による学習効果等において、おおむね有効な結果が出ている。今後導入が見込まれるタブレットPCを中心とした、教育ICT機器活用に関する研究を進めた。研究は2年計画で、今年はその一年次にあたり、主に教育センター内での調査・研究を進めた。

(成果)

- 毎年学校単位で行っている「福島県の情報教育の実態等に関する調査」に加え、教育センターの研修に参加した教員を対象に、ICT活用に関するアンケートを実施し、校種や教科ごとの取り組み状況、教員の意識、ICT活用における効果や課題、現場の教員の声等を明確にとらえることができた。
 - 教育現場で利用されているICT機器を検証し、それぞれの機器の特徴把握を行い、導入が進むタブレットPCの優位性が確認できた。教科指導におけるタブレットPC・画面転送装置・拡大提示装置の組合せによる活用を検証し、その有効性を確認した。
 - 各教科の指導主事より、実際に研修の中で指導しているICTの効果的な活用事例を収集した。それらを整理、分類することで、教育におけるICTの有効性について6つの観点、15の項目にまとめ、活用時の具体的なイメージと、効果的なICT活用場面の指針とした。
 - 理科の指導主事と協力し、教育センターの研修の研究協議において、協働学習ツールを使い、意見の共有を行った。また、中学校理科の長期研究員の実践で、各班の実験結果をタブレットPCを用いて共有し、クラス全体の結果を踏まえた考察につなげる実践を行った。
- (課題)
- ICT機器の整備は、自治体ごとに差があるため、一年次の研究では、少ない機器でも利用できる場면을研究の中心に据えた。ただし、整備が進んでいる地域もあり、児童生徒がグループで1台または1人1台利用する場面で、指導法や活用事例等の研究を進めていく必要がある。
 - ICTの進化は速く、より使いやすいハードやソフト、

教育コンテンツが日々生まれている。活用可能なアプリ等の継続的な情報収集と活用検証を進め、優れたものを広く県内に紹介していく必要がある。

- 県内の教育ICTの活用を活性化することで、次期学習指導要領で検討されている新しい学びへのICTの活用や小学校で必修となるプログラミング教育の実践につなげていきたい。

(3) 教育相談チームによる研究

生徒指導・教育相談における児童生徒を支援する力を高める研究(第一年次)～児童生徒理解に焦点を当てて～

本研究では、児童生徒理解に焦点を当てた校内研修と日常指導の充実を図ることを通して、教員の児童生徒を支援する力を高めることをめざした。今年度は、小・中学校1校ずつの研究協力校において、児童生徒理解の在り方や児童生徒理解の深化、理解したことを生かした指導・支援の在り方に焦点を当てた4回の小・中学校合同の校内研修を行った。また、昨年度のQ-Uの結果が「満足型学級」となっている教員を対象に行った基礎調査をもとに、「日常指導ふりかえりシート」を作成し、校内研修の中で活用することにより、研究協力校の先生方の日常指導の充実を図った。

(成果)

- 「日常指導ふりかえりシート」を通して、協力校の教員が自身の日常指導を振り返ったり、目標を明確にもったりすることにより、日常指導の充実に向けた意識の高揚を図ることができた。
- 同一の校舎で生活しながらも、これまで教員同士が教育相談・生徒指導について互いに学び合う機会が少なかった協力校において、小・中学校合同の校内研修を複数回実施したことにより、課題意識とともに小・中学校9年間を見通した支援を行う意義が共有された。
- 事前・事後のアンケートの比較から、多角的・多面的な理解を基に児童生徒を支援していこうとする意識の高まりや、組織としての同僚性・協働性の高まりを確認することができた。

(課題)

- 協力校における「日常指導ふりかえりシート」の活用状況について確認し、それらが児童生徒を支援する上でどのように有効であったか、具体的にどのような支援に結び付いたかについて把握する必要がある。
- 児童生徒が学級担任の日常指導をどのようにとらえているかについて、可能な限り把握する。
- 年間数回の教育センター主体による校内研修だけでは、教員の「児童生徒を支援する力」の向上を図ることは難しいため、当チームが昨年度までに作成した「児童生徒を支援する力が高まる校内研修実践資料」の活用を提案するなど、協力校の教員が主体的に校内研修を進めることができるよう支援する必要がある。

2 長期研究員制度による研究

平成23年度より長期研究員制度が復活した。長期研究員は、年間を通じて各自が研究テーマを設定して計画、実践、評価、まとめを行うこととしている。平成28年度は、15名が研究に取り組み、福島県教育研究発表会では9名が成果を発表した。また、研究結果を『研究紀要』『研究報告書』にまとめるとともにWebサイトに掲載した。

第3節 研修事業

1 研修講座の概要

(1) 基本研修

ア 新規採用者・初任者研修

教職員としての基礎・基本を習得する研修である。

(7) 幼稚園教諭

a 園内における研修(10日)

b 園外における研修(10日)

・宿泊研修(2泊3日)

・地区別研修(各地区)(3日)

・参観研修(3日)

・選択研修(1日)

(4) 小・中学校教諭

a 校内における研修(150時間以上)

b 校外における研修(22日)

(a) 宿泊研修(6日)

宿泊研修A(2泊3日)

宿泊研修B(2泊3日)

(b) 地区別研修(16日)

・地区別研修A(7日)(教育センター、各教育事務所による計画)

一般研修、授業研修、へき地校研修、カウンセリング研修、特別支援学校研修

・地区別研修B(9日)(市町村教育委員会、勤務校による計画)

研究発表集会等研修、一般研修、社会奉仕体験活動研修、企業等体験研修、他校種園参観研修

(7) 高等学校教諭

a 校内における研修(150時間以上)

b 校外における研修(22日)

(a) 宿泊研修(8日)

基本研修(1泊2日)、一次研修(2泊3日)

二次研修(2泊3日)

(b) 教科別研修(3日)(教科ごとに初任者配置校を会場として実施)

(c) 地区別研修(11日)

・地区別研修A(7日)(各地区)

一般研修、社会奉仕等体験研修、カウンセリング研修、特別活動等研修、安全教育研修

・地区別研修B（4日）（各学校による計画）

特別支援学校研修、他校での授業参観等研修

(エ) 公立学校実習助手（高校教育課主管 高等学校初任者研修と合同開催）

a 校内における研修（2日程度）

b 校外における研修（9日）

(a) 基本研修（1泊2日）

(b) 地区別研修（7日）（各地区）

一般研修、社会奉仕等体験研修、カウンセリング研修、特別活動等研修、安全教育研修

(オ) 養護教諭（小・中・高・特別支援）

a 校内における研修（15日）

b 校外における研修（14日）

(a) 宿泊研修（6日）

宿泊研修A（2泊3日）

宿泊研修B（2泊3日）

(b) 地区別研修（8日）

・地区別研修A（6日）（教育センターによる計画）

一般研修、カウンセリング研修、企業等体験・社会奉仕等体験研修

・地区別研修B（2日）（各実施校による計画）
特別支援学校研修、学校訪問研修

(カ) 学校栄養職員

a 学校等内における研修（15日）

b 学校等外における研修（13日）

(a) 宿泊研修（6日）

・宿泊研修A（共通研修）（2泊3日）

・宿泊研修B（専門研修）（2泊3日）

(b) 地区別研修（7日）

・地区別研修A（4日）（各地区）

一般研修、特別支援学校研修、単独校実地研修、共同調理場実地研修

・地区別研修B（3日）（各教育委員会による計画）
一般研修、他校園参観研修、企業等体験研修

イ 2年次教員フォローアップ研修

初任者研修を修了した教諭に対して、初年度に培った基礎的な力を、日々の教育実践に生きる確かな資質や能力へと高める研修である。

(ア) 小学校・中学校教諭

a 校内研修（30時間以上）

b 校外研修（3日）

(イ) 高等学校教諭

a 校内研修（30時間以上）

b 校外研修（3日）

(ウ) 公立学校実習助手（高校教育課主管 高等学校2年次教員フォローアップ研修と合同開催）

a 校外における研修（2日程度）

ウ 経験者研修 I

在職期間が5年に達した教職員を対象とし、専門的知識と技能を高め、資質の向上を図る研修である。

(ア) 小・中学校教諭

a 校内研修（5日）

b 校外研修（3日）

宿泊研修（2泊3日）

(イ) 高等学校教諭

a 校内研修（5日）

b 校外研修（3日）

宿泊研修（2泊3日）

(ウ) 養護教諭（小・中・高・特別支援）

a 校内研修（3日）

b 校外研修（3日）

宿泊研修（2泊3日）

エ 経験者研修 II

在職期間が10年に達した教職員を対象とし、幅広い識見と豊かな社会性を得させ、併せて学校組織マネジメントに資する能力の育成を図るとともに、組織の中核として運営に資する人材の育成と職能の更なる向上を図る研修である。

(ア) 幼稚園教諭

a 園内研修（7日）

b 園外研修（5日）

宿泊研修（1泊2日）、共通研修（各地区）（1日）、社会体験研修（1日）、選択研修（1日）

(イ) 小・中学校教諭

a 校内における研修（15日）

b 校外における研修（10日）

共通研修（各地区）（1日）、教科指導研修（2泊3日）生徒指導研修（各地区）（1日）、社会体験研修 I（2日）、選択研修（3日）

(ウ) 高等学校教諭

a 校内における研修（15日）

b 校外における研修（10日）

共通研修（1日）、生徒指導研修（1日）、教科指導研修 I（1日）、教科指導研修 II（2日）、社会体験研修 I（2日）、選択研修（3日）

(エ) 養護教諭（小・中・高・特別支援）

a 校内研修（4日）

b 校外研修（6日）

共通研修（1日）、宿泊研修（2泊3日）、社会体験研修 I（1日）、選択研修（1日）

(オ) 学校栄養職員

a 校内研修（4日）

b 校外研修（6日）

共通研修（1日）、宿泊研修（2泊3日）、社会体験研修 I（1日）、選択研修（1日）

オ 経験者研修 III

教務主任、学年主任等の中堅教員に対する学校管理運

當上の諸問題の解決や、専門的な職能の向上を図る研修である。

- (7) 県立学校教諭
教育センター（2泊3日）
- (イ) 小・中学校教諭
教育センター（2泊3日）

(2) 職能研修

新任の校長・教頭・教務主任に対する職能研修Ⅰ及び学校の教育活動が円滑に展開できるよう担当教員の職責・職能に応じた研修を実施する職能研修Ⅱを実施した。

ア 職能研修Ⅰ

- (7) 市町村立小・中・特別支援学校新任校長研修会
教育センター（1泊2日）
- (イ) 県立学校新任校長研修会
教育センター（1泊2日）
- (ウ) 市町村立小・中・特別支援学校新任教頭研修会
教育センター（1泊2日）
- (エ) 県立学校新任教頭研修会
教育センター（1泊2日）
- (オ) 新任教務主任研修会（小・中・高・特別支援）
各地区（1日）（関係各教育事務所または各中核市教育委員会による計画）

イ 職能研修Ⅱ

- (7) 複式学級担当教員研修会
教育センター（1泊2日）
- (イ) 免許外教科担任教員研修会
教育センター（2泊3日）
- (ウ) 校長のためのマネジメント講座
教育センター（1泊2日）
- (エ) 教頭のためのマネジメント講座
教育センター（1泊2日）
- (オ) 小・中学校におけるキャリア教育実践講座
教育センター（1泊2日）
- (カ) 養護教諭専門研修講座
教育センター（2泊3日）

(3) 専門研修

個に即応した指導力の向上を図るために、情報教育、学校教育相談（基礎、実践、予防・開発的教育相談）、道徳教育実践（小・中）、各教科（小・中・高）、高等学校理科実習実技などの各講座を実施した。

2 研修講座

(1) 平成28年度研修講座数・受講者数

ア 基本研修

	基本研修					計
	初任研	2年次	経験Ⅰ	経験Ⅱ	経験Ⅲ	
講座数	6	3	4	6	2	21
(延べ数)	46	4	6	20	2	78
延べ受講者数	2,236	169	206	598	93	3,302

イ 職能研修

	職能研修		計
	職能研修Ⅰ	職能研修Ⅱ	
講座数	4	6	10
(延べ数)	4	7	11
延べ受講者数	275	342	617

ウ 専門研修

	専門研修	計
	専門研修	
講座数	45	45
(延べ数)	48	48
延べ受講者数	698	698

エ 総計

	基本研修	職能研修	専門研修	計
講座数	21	10	45	76
(延べ数)	78	11	48	137
延べ受講者数	3,302	617	698	4,617

(2) 平成28年度研修講座実施状況

ア 基本研修

講座名	会場	期日	受講者数		
幼稚園	教育センター	8月8日 ～8月10日	66		
		小学校	磐青 教育センター	5月23日 ～5月25日 7月27日 ～7月29日 8月3日 ～8月5日	123
			中学校	磐青 教育センター	5月23日 ～5月25日 8月17日 ～8月19日
高等学校	教育センター	4月5日 ～4月6日 4月20日 ～4月22日 9月7日 ～9月9日 9月28日 ～9月30日	50		

			2月15日 ～2月17日	
養護教諭	磐青 教育センター		5月23日 ～5月25日 11月9日 ～11月11日	30
栄養職員	磐青 教育センター		5月23日 ～5月25日 9月28日 ～9月30日	6
地区別 研修	幼・小・ 中・高・ 栄・養 (32講座)		各地区 で実施	2,236
2年次教員 フォロー アップ 研修	小学校	教育センター	7月21日 8月8日	69
	中学校	教育センター	8月10日	56
	高等学校	教育センター	7月22日	46
	地区別 研修	高等 学校	各地区 で開催	342
経験者研修 I	小学校	教育センター	6月15日 ～6月17日	56
	中学校	教育センター	10月5日 ～10月7日 10月18日 ～10月20日	45
	高等学校	教育センター	同上	91
	養護教諭	教育センター	8月31日 ～9月2日	16
経験者研修 II	幼稚園	教育センター	5月30日 ～5月31日	15
	小学校	教育センター	9月12日 ～9月14日	62
	中学校	教育センター	8月31日 ～9月2日	40
	高等学校	教育センター	4月13日 7月5日 ～7月6日 2月8日 ～2月9日	51
	養護教諭	教育センター	8月1日 ～8月3日	9
	栄養職員	教育センター	7月27日 ～7月29日	7
地区別 研修	幼・小・中 ・高・養 ・栄		各地区 で開催	311

		(14講座)		
経験者研修Ⅲ	県立学校	教育センター	10月26日 ～10月28日	58
	小学校 中学校	教育センター	10月24日 ～10月26日	35

イ 職能研修

講座名		期日	受講者数
職 能 研 修 一	市町村立小・中・特別支援 学校新任校長研修会	4月27日 ～4月28日	97
	県立学校新任校長研修会	5月12日 ～5月13日	21
	市町村立小・中・特別支援 学校新任教頭研修会	5月16日 ～5月17日 5月19日 ～5月20日	130
	県立学校新任教頭研修会	5月19日 ～5月20日	27
	市町村公小・中・特別支援 学校新任教務主任研修会	各教育事務 所の日程	71
	県立学校新任教務主任研修会	各教育事務 所の日程	17
職 能 研 修 二	複式学級担当教員研修会	5月23日 ～5月24日	46
	免許外教科担任教員研修会	5月9日 ～5月11日	38
		5月25日 ～5月27日	46
	校長のためのマネジメント 講座	6月23日 ～6月24日	77
	教頭のためのマネジメント 講座	9月15日 ～9月16日	79
	小・中学校におけるキャリア 教育実践講座	9月5日 ～9月6日	40
養護教諭専門研修講座	9月7日 ～9月9日	16	

ウ 専門研修

講座名		期日	受講者数
教	言語活動の充実を図る小学校 国語科指導力向上講座	8月22日 ～8月23日	25
	アクティブ・ラーニングにつ ながる小学校国語科指導力講 座	11月1日 ～11月2日	9
	社会科の見方や考え方をはぐ くむための校外学習を取り入 れた授業づくり講座	9月26日 ～9月27日	5
	算数的活動の充実を図る授業 づくり講座	8月22日 ～8月23日	17
	主体的な問題解決の活動を育	6月20日	4

科	成する小学校理科授業づくり講座	～6月21日	
	実践事例に学ぶ図画工作科指導法講座	6月27日	11
教	小学校外国語活動講座	8月22日～8月23日	10
	言語活動の充実を図る中学校国語科指導力向上講座	8月1日～8月2日	14
	数学的活動の充実を図る授業づくり講座	6月20日～6月21日	2
	主体的な問題解決の活動を育成する中学校理科授業づくり講座	8月1日～8月2日	12
育	匠に学ぶものづくり講座	8月4日～8月5日	6
	アクティブ・ラーニングにつながる中学校英語指導講座	11月1日～11月2日	10
	思考力・表現力の向上を図る数学問題作成・研究講座	8月1日～8月2日	7
	科学的な自然観をはぐくむ理科観察・実験講座	9月20日～9月21日	14
	実習助手のための理科観察・実験講座	6月14日～6月15日	8
	教科書を活用してコミュニケーション能力をはぐくむ英語指導力向上講座	8月1日～8月2日	15
	授業改善に結び付く国語科の評価問題作成・研究講座	9月8日～9月9日	12
	国語科指導におけるPISA型読解力研究講座	9月15日～9月16日	14
	社会科・地理歴史科・公民科の評価の在り方講座	8月22日～8月23日	17
	資料の有効活用を図る社会科・地理歴史科・公民科の授業づくり講座	6月20日～6月21日	11
系	資料の活用・データの分析(統計)における数学の指導力向上講座	11月1日～11月2日	10
	創作(音楽づくり)指導の充実を図る授業実践講座	11月8日～11月9日	9
	日本伝統音楽の授業づくり講座	8月8日～8月9日	6
	はじめての合唱指導講座	6月21日	15
	創造性をはぐくむ図画工作・美術の鑑賞指導法講座①②	8月24日 11月10日	20
	創造性をはぐくむ美術の表現指導法講座	9月20日～9月21日	13
	明日からの実践に役立つ「体づくり運動」指導力向上講座	11月1日～11月2日	6
	児童生徒の「わかる」「できる」	8月1日	20

	「かかわる」を引き出す体育授業力向上講座	～8月2日	
	家庭科を担当する先生のための基礎基本講座	8月1日～8月2日	4
教育相談系	消費者教育の充実を図る家庭科の授業づくり講座	10月14日	7
	CAN-DOリストを活用した言語活動の指導と評価実践講座	7月7日～7月8日	4
	児童生徒理解に生かす学校教育相談基礎講座	7月21日～7月22日	40
	事例研究を中心に児童生徒理解を深める学校教育相談実践講座	6月30日～7月1日 10月13日～10月14日 2月13日～2月14日	66
	人間関係づくりに生かす予防・開発的教育相談講座	6月20日	37
	校務処理に生かす表計算(関数)講座	6月27日	37
	校務処理に生かす表計算(統計分析)講座	8月9日	19
	フラッシュ型教材を用いたICT活用の授業実践講座	9月5日	13
	校内ネットワークの管理と運用基礎講座	6月14日～6月15日	11
	クラウドと連携したNetCommonsによるグループウェア構築講座	10月14日	22
情報教育系	NetCommonsによる学校Webサイト構築講座	8月22日～8月23日	22
	情報モラル教育指導者実践講座	11月1日	13
	「特別の教科 道徳」の授業づくり講座	8月22日～8月23日	38
	自己有用感や所属感をはぐくむ特別活動実践講座	6月20日～6月21日	5
教科外教育系	防災・放射線教育授業づくり講座	7月4日	11
	今日の健康課題を捉えた対応力向上講座	8月19日	28

3 指導主事派遣等

平成28年度の指導主事派遣及び出前講座の概要は次のとおりである。カッコ内は昨年度比。「出前講座」での指導主事派遣人数は、指導主事派遣人数に含む。

指導主事派遣人数 227名(24名減)

(内訳) 小学校	74名 (15名減)
中学校	45名 (2名減)
高等学校	22名 (2名増)
教育委員会等	31名 (22名減)
各種教育団体等	55名 (13名増)

「出前講座」での指導主事派遣人数 160名

(内訳) 小学校	49名
中学校	42名
高等学校	15名
教育委員会等	13名
各種教育団体等	41名

第4節 情報教育事業

1 研修講座の概要

公立小・中・高等学校・特別支援学校の情報教育に関する教員研修（専門研修）の概要は以下のとおりである。

(1) ネットワークを活用するための講座（小・中・高・特支）

- ア 校内ネットワークの管理と運用基礎講座
- イ クラウドと連携したNetCommonsによるグループウェア構築講座

(2) 授業実践講座（小・中・高・特支）

- ア フラッシュ型教材を用いたICT活用の授業実践講座
- イ 情報モラル教育指導者実践講座

(3) 校務の効率化を目指す講座（小・中・高・特支）

- ア 校務処理に生かす表計算（関数）講座
- イ 校務処理に生かす表計算（統計分析）講座

(4) 学校Webサイトに関する講座（高・特支）

- ア NetCommonsによる学校Webサイト構築講座

基本研修においては、国や県の情報教育の施策に基づき情報教育の意義や重要性を強調し、また、個人情報の扱いや情報セキュリティについても、その重要性・緊急性に言及した。

自主講座においては、6月4日に「表計算入門講座」を実施し、各地から7名の参加を得た。また、一般社団法人「福島県情報産業協会」と連携した、小・中学生対象の「子どものためのロボットワークショップ」は、8月20日に6組12名の小・中学生とその保護者の参加により実施した。

2 施設利用概況

基本研修の実践講座の各教科において、「教科指導におけるICT活用」を共通項目で指導するため、パソコンやプロジェクタ等ICT機器の活用機会やパソコン研修室の利用は多く、以下のとおりであった。

パソコン研修室利用状況

利用区分	講座数	利用日数	実人数	延べ人数
教育センター研修	40	75	485	902
講 基本研修	21	45	192	440

	専門研修 (出前講座)	15	24	213	317
	職能研修	4	6	80	145
教育庁研修	3	6	40	72	
合計	43	81	525	974	

第5節 教育相談

教育相談チームでは、来所及び電話による教育相談を受けている。今年度の来所相談・電話相談の概要は、以下のとおりである。

1 対象別

来所相談件数・電話相談回数

※ 対象の区分は、誰についての相談内容かで分けたものである。来所相談日数は103日、電話相談日数は243日であった。

種別	対象	幼	小	中	高	一般	教員	計
		来所相談	件数	0	33	17	45	4
	人数	0	44	25	54	7	2	132
電話相談	回数	4	162	265	91	43	76	641

2 区分別

来所相談件数・電話相談回数

※ 対象の区分で数値の高い「性格行動」には「不登校」の相談、「教育一般」には「いじめ」、「学校への不満」の相談が含まれる。

種別	対象	知能 学業	性格 行動	身体 神経	進路 適性	教育 一般	その 他	計
		来所相談	件数	21	57	11	3	7
	人数	21	87	12	3	7	2	132
電話相談	回数	5	65	31	15	337	188	641

3 地区別来所相談件数

県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	県外	計
42	19	13	12	9	3	3	0	101

4 月別相談件数・回数

種別	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
		来所相談	件数	2	3	2	27	1	2	25	3	3	2	27
	人数	3	6	4	32	3	4	27	6	6	3	31	7	132
電話相談	回数	42	55	59	62	45	40	66	51	37	76	58	50	641

第6節 教育図書・資料事業

全国各教育研究機関から送付された研究紀要や資料及び県内各学校から寄せられた研究資料を収集、整理・保管し、

レファレンスサービスを行っている。所の研究成果を普及するため、研究紀要や「所報ふくしま『窓』」を刊行した。

1 教育図書・教育資料の収集

教育図書購入冊数	45冊
寄贈教育図書等（VTRを含む、教科書は除く）	2冊
定期刊行図書購入冊数	28冊
研究紀要等寄贈冊数	206冊
恵贈定期刊行物数	33冊

2 教育資料の刊行

研究紀要	第46集
所報ふくしま「窓」	第171号～第172号

付記

平成16年度より、教育センターにおいて、指導が不適切である教員等に対して長期特別研修を開始し、平成20年度から「指導が不適切である教員等の取扱いに関する要綱」に基づき、指導改善研修を実施している。平成28年度は1名。

第13章 福島県養護教育センター

第1節 概要

昭和61年の開所以来、関係機関と連携協力しながら、教育相談、教職員の研修、調査・研究、図書・資料の収集と情報提供、広報・啓発等の事業を行ってきた。

今年度は、第6次福島県総合教育計画（改訂版）に基づき、早期からの教育的支援、小・中学校及び高等学校に在籍する発達障がいを含む特別な支援を必要とする児童生徒等への支援、特別支援学校の専門性の向上と特別支援教育におけるセンター的機能の充実に向けた支援、関係機関との連携等の充実に努めてきた。

1 教育相談事業

障がい等の心配のある乳幼児・児童生徒に関する教育相談機関として、本人、保護者（家族）、保育所・幼稚園、小・中学校及び高等学校、特別支援学校関係者、教育委員会等からの依頼に応じ、疑問や悩みを一緒に話し合い、特別支援教育の専門的観点からの相談を行った。相談者の心情に寄り添い、相談を通して、子どもへの適切な支援策や指導法について共に見つけ出すようにした。また、面接、行動観察、必要に応じて心理検査等を行い、関係機関との連携を図りながら専門的・総合的観点からの相談を進めた。

センター相談での相談受理件数は248件（昨年度比98%）、延べ件数は588件（昨年度比86%）であった。障がい種別による相談実件数では、情緒障がい（発達障がいを含む）に関する相談が最も多く約70%を占めている。知的障がいに関する相談は約20%であり、合わせると実件数全体の90%以上を占める。相談者は、保護者、教員、保育士、関係機関等である。

その他の地域においても、学校等に出向き、支援を必要としている子どもに対し、適切な支援と指導が行えるよう必要な支援や助言を行った。学校等のニーズに応じ、ケース検討会や校内研修会等の開催や運営等への支援を行った。さらに、地域における教育相談機能の質的向上を図るため、学校等と保健福祉の関係機関、教育委員会、教育事務所、医療機関等との適切な連携を支援し、地域の支援体制の整備を進めた。

2 教職員研修事業

特別支援学校の基本研修においては、今年度から2年次教員フォローアップ研修を新たに加え、教職経験年数に応じて、基礎的・基本的な事項を中心とした研修や教員の専門的な知識・能力の深化を図る研修、教員として教育活動全般にわたる広い視野に立った研修等を実施した。また、小・中学校や高等学校、特別支援学校の教員を対象とする職能研修では、その職責に応じた資質・力量の向上を目指した研修を行った。さらに、専門研修の各講座では、特別な支援を必要とする幼児児童生徒の正しい理解や教育的な対応、授業の改善や充実につながる研修を行うとともに、最新の知見を取り入れた各種講座を設け実施した。

基本研修の受講者は初任者研修56名（6回）、2年次教員フォローアップ研修47名（1回）、経験者研修Ⅰ44名（1回）、経験者研修Ⅱ25名（2回）で、受講者総数は延べ477名であった。職能研修の受講者総数は延べ592名（特別支援学級等新任担当教員研修

会117名、特別支援学級担当教員（経験三年）研修会36名、小・中学校特別支援教育コーディネーター研修会161名、高等学校特別支援教育コーディネーター研修会96名、特別支援学校特別支援教育コーディネーター研修会22名、特別支援学校訪問教育・医療的ケア担当教員研修会27名、通級指導教室担当教員研修会61名）、そして、専門研修講座（17講座）の総受講者は延べ548名であった。また、研修の機会を広く提供する公開講座（6講座）の聴講者総数は63名で、自主研修講座（2講座）の参加者総数は105名であった。

3 調査研究・教育研究事業

震災後の本県が当面している特別支援教育の今日的課題及び学校における教育実践上の具体的課題解決に向けて、以下の研究等を行った。

(1) 調査研究

「入院児童生徒等の学習状況調査と支援体制の整備」

（一年次）～切れ目のない教育や学習の充実を目指して～近年、医療の進歩等により病気の子どもたちを取り巻く環境は大きく変化し、入院児童生徒等についての教育保障が課題となっている。平成28年度、文部科学省は「入院児童生徒等への教育保障体制整備事業」を実施し、県教育委員会では、委託を受けて「入院児童生徒等の学習支援体制整備事業」に取り組んでいる。本調査研究は、この事業との関連を図りながら、入院児童生徒等の学習状況及び支援状況の調査・検討により学習支援体制の充実を目指して研究を行った。

(2) 教育研究

「特別支援学校教員の協働による専門性の向上・継承と校内組織の活性化」（一年次）～学び合う学校組織（OJL）への取組～

平成27年中央教育審議会「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について（答申）」の中で、大量退職と大量採用の時期を迎え、専門性の向上と継承に課題があることを指摘している。また、幅広い経験年数と年齢層で構成された学校組織において、組織的・協働的に取り組む専門的な力も育成していく必要性を示し、本県の施策（第6次福島県総合教育計画）にも反映している。そこで、本教育研究は、本県の特別支援学校における現状と課題を明確にし、OJL（On The Job Learning）の理念を取り入れ、専門性向上と継承及び校内組織の活性化に向けて各特別支援学校と連携し、研究を行った。

4 教育図書・資料の収集・提供事業

本県特別支援教育の中心的施設としての機能の充実をめざして広く特別支援教育関係図書・資料の収集に努め、関係教職員等が活用できるよう、整備・充実を図った。

本年度も特別支援教育の指導に関する図書の充実と教育資料の収集、Webサイトによる紹介等を推進した。

なお、3月末日現在での特別支援教育関係図書の蔵書数は6,626冊、定期刊行物5種、教育資料数4,390点である。

5 広報・啓発事業

特別支援教育に関する情報及び資料、並びに本センターの事業内容を広報誌や各種発行物として関係諸機関等に配付し、特別支援教育に対する啓発や理解推進を図った。併せて、事業内容を多くの方々に伝えるため、Webサイトでも情報提供に努めた。

6 情報教育事業

研修講座を中心に、障がいのある児童生徒の学習を支援するため、ICT等支援機器の活用に関する研修の企画運営を行った。Googleアプリを使用したテレビ会議システムによる学習指導の支援を行った。

第2節 教育相談事業

1 相談対象

相談は、障がいのある、又はその心配のある乳幼児、児童、生徒及びその保護者や関係者を対象として実施した。相談の種類は次のとおりである。

- 視覚にかかわる相談
- 聴覚にかかわる相談
- 病弱・虚弱にかかわる相談
- 言語にかかわる相談
- 知的発達にかかわる相談
- 肢体不自由にかかわる相談
- 重複した障がいにかかわる相談
- 情緒等(LD、ADHD、高機能自閉症、アスペルガー症候群、自

<年齢・学校別相談件数>

年齢・学校	乳幼児(歳)		小学校(学年)						中学校(学年)			高等学校(学年)			一般 他	計
	0~4	5	1	2	3	4	5	6	1	2	3	1	2	3		
センター 実件数	8	23	28	20	21	13	25	22	29	13	10	16	10	4	6	248
相談 延件数	16	32	67	51	42	34	60	36	76	47	36	32	33	14	12	588

<障がい種別相談件数>

障がい種	視覚 障がい	聴覚 障がい	知的 障がい	肢体 不自由	病弱 虚弱	言語 障がい	情緒 障がい	重複 障がい	その他	計
センター 実件数	1	7	53	5	2	3	175	2	0	248
相談 延件数	1	12	120	7	6	6	434	2	0	588

<地区別相談件数>

地区	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	その他	計
延件数	66	366	70	13	4	31	28	10	588

第3節 教職員研修事業

受講者の資質、指導力、専門性の向上をめざし、講座内容の一層の充実を図った。

- ・専門研修講座を17講座設け、そのうち6講座を公開講座とし、受講者のニーズに応えるようにした。
- ・講座は講義を中心としながらも、演習や実技、協議等に重点を置いて構成し、研修内容・方法に工夫を加えた。研修を通して受講者が自らの課題に気付き、その解決に主体的に取り組むことができるように、話し合いの活動を多く取

閉症、緘黙、不登校等)にかかわる相談

2 形態

(1) センター相談

電話での申込みにより、来所日時をあらかじめ調整し、相談者の来所による教育相談を行った。また、相談の内容によっては電話のみによる相談も行った。

(2) 要請を受けての相談

困難な事例や特に必要な場合には学校等に出向き、現地においての相談を行った。また小・中学校、高等学校から支援要請を受け、事例研究を通しての相談を行った。

3 現状と課題

特別支援教育の相談については、各学校において特別支援教育の校内委員会や教育相談・進路指導、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーが組織として機能してきたと考える。本センターの教育相談については、そのような地域・学校等の機能とどのように連携していくのか、さらに検討が必要である。

相談者からの主訴では、幼児については、就学に向けて多様な学びの場についての情報提供が多く、小学生では、他者とのコミュニケーションや学習面についてが多い。小学校高学年からは、生活において不適応を起こし、「暴力」「不登校」についての相談が増加している。子どもの困難さの背景を探る必要から、関係者によるケース会議の開催が重要となっている。

り入れ、具体的な方策に結び付くようにした。

- ・特別支援教育に関する県内外の専門家や各学校で先進的な実践をしている教員などを招へいして、新たな知見を広げたり具体的な実践に触れたりする機会の充実を図った。
- ・調査研究や教育研究等の成果を基にして、特別支援教育に関する専門的知識・技能の習得とともに、真摯に実践に取り組む資質の向上に努めた。

1 教職員の研修講座

(1) 専門研修

講 座 名	期日及び期間	受講者数(人)
発達障がいのある教育Ⅰ 発達障がいのある幼児児童生徒の基礎的な理解と対応	8月 1日	61
発達障がいのある教育Ⅱ 発達障がいのある児童生徒のライフステージを考える	8月 5日	26
特別支援教育の充実Ⅰ 障がいのある子どもを支える保護者や関係機関との連携	10月 7日	45
特別支援教育の充実Ⅱ 通常の学級で学ぶ児童生徒の多様な学びに応じた指導の充実一個々の可能性を伸ばす	8月 9日	39
特別支援教育の充実Ⅲ 多様な学びを支える心理教育的アセスメント	10月13日	31
特別支援教育の充実Ⅳ 障がいのある幼児児童生徒とのかかわり合いの本質	9月21日	48
特別支援教育の充実Ⅴ キャリア発達と社会参加	9月29日	17
特別支援教育の充実Ⅵ 特別支援学校におけるチーム力向上とマネジメント	8月22日	25
特別支援教育実践力アップⅠ 知的障がいのある児童生徒の特性と授業づくり	7月 6日	23
特別支援教育実践力アップⅡ 知的障がいのある児童生徒の授業充実－子どもの力を伸ばす教材・教具－	9月16日	36
特別支援教育実践力アップⅢ 特別支援学校における重度・重複障がいのある児童生徒の理解と授業づくり	7月 8日	19
特別支援教育実践力アップⅣ 特別支援学校における授業力向上－目標と評価を生かす－	10月 5日	21
特別支援教育実践力アップⅤ 〔実技研修〕チーム力向上のためのメンタルヘルスとリスクコミュニケーション	10月21日	14
特別支援教育実践力アップⅥ インクルーシブ教育システムにおける合理的配慮と教材・支援機器の活用	8月23日	72
特別支援教育実践力アップⅦ 特別支援学級の授業充実－ケース検討と授業づくり－	8月10日	13
特別支援教育実践力アップⅧ 特別支援学級の学級経営－教育課程と校内支援体制－	8月24日	15
幼児期から児童期への支援を継続する幼小連携－子どもの発達を考える－	7月25日	43
計		548

(他に公開講座に63名、自主研修講座に105名が参加)

(2) 基本研修

研 修 名	期日及び期間	受講者数(人)
特別支援学校初任者研修 一般研修	4月13日～14日	56
特別支援学校初任者研修 カウンセリング研修	6月15日～16日	56
特別支援学校初任者研修 宿泊一次研修	8月 2日～ 4日	56
特別支援学校初任者研修 教育課程別研修	9月14日	56
特別支援学校初任者研修 学部別研修	11月 9日	56
特別支援学校初任者研修 宿泊二次研修	2月 8日～10日	56
特別支援学校2年次教員フォローアップ研修 教科等指導研修	8月19日	47
特別支援学校経験者研修Ⅰ 基本研修	6月29日～7月 1日	44
特別支援学校経験者研修Ⅱ 共通研修	6月21日～23日	25
特別支援学校経験者研修Ⅱ 教科(領域)指導研修	1月19日～20日	25
計		477

(3) 職能研修

研 修 名	期日及び期間	受講者数(人)
特別支援学級等新任担当教員研修会	(共通) 4月20日～21日 (地区別) 11月	117 72
特別支援学級担当教員(経験三年)研修会	(地区別) 9月	36
小・中学校特別支援教育コーディネーター研修会	(地区別) 6月	161
高等学校特別支援教育コーディネーター研修会	(地区別) 5・6月	96
特別支援学校特別支援教育コーディネーター研修会	5月13日	22
特別支援学校訪問教育・医療的ケア担当教員研修会	7月22日	27
通級指導教室担当教員研修会	7月14日	61
計		592

第4節 調査研究・教育研究事業

1 調査研究

「入院児童生徒等の学習状況調査と支援体制の整備」
(一年次)～切れ目のない教育や学習の充実を目指して～

【研究の趣旨と構想】

入院児童生徒等の学びの場は、小・中学校、高等学校、特別支援学校などがあるが、病状や治療方法、本人や保護者の希望などにより一人一人異なる。入院児童生徒等の状況や指導・支援方法の理解は十分でない現状があり、ニーズに応じた学習指導及び学習支援の実施については課題が多い。

そこで、現状の分析と課題の整理を行うため、本県における長期にわたり又は継続的に入院する児童生徒等(以下「入院児童生徒等」という。)の学習状況等について小・中学校、高等学校、特別支援学校(病弱)における取組を調査する。また、学習支援体制の整備に向けて、各学校、教育委員会、病院等の関係機関が連携して支援する体制の構築方法を検討する。さらに、病弱教育についての理解・啓発を図るため、実践事例の集積及び情報提供等を進める。これらが、入院児童生徒等の切れ目のない教育や学習の機会の保障につながると考え研究を行う。なお、本調査研究は、文部科学省の委託を受けた県教育委員会「入院児童生徒等への学習支援体制整備事業」と提携して進める。

【研究の経過】

(1) 推進地区における入院児童生徒等が在籍する小・中学校の学習状況及び支援状況

特別支援学校(病弱)のある病院、もしくは特別支援学校(病弱)が隣接する病院に入院した児童生徒の特別支援学校への転学は、治療期間や本人・保護者の希望等を踏まえて行われている。今年度は、県事業の推進地区である県北・県中・会津地区の特別支援学校(病弱)及び小・中学校での入院児童生徒等の状況と学校の取組等を把握するために聞き取りによる調査を行った。

ア 入院等により特別支援学校に転学する児童生徒に対する取組の現状

- ・ ケース会議もしくはカンファレンスを実施し、関係者間での共通理解を図っている。

- ・ 情報交換や交流及び共同学習等の小・中学校と特別支援学校の連携を進め、児童生徒の学習の充実を図っている。

イ 退院等により、特別支援学校から前籍校等に転学する児童生徒に対する取組の現状

- ・ ケース会議もしくはカンファレンスを実施し、関係者間での共通理解を図っている。
- ・ 児童生徒及び保護者に対して相談支援等を行い、退院後のフォローアップを進めている。

ウ 特別支援学校に転学しない児童生徒に対する取組の現状

- ・ ケース会議もしくはカンファレンスを実施し、関係者間での共通理解を図っている。
- ・ 在籍校(小・中学校)の教員が課題を届ける等の支援や相談支援を行っている。
- ・ 支援の要請に応じて、特別支援学校の教員が学習状況の確認等の支援や相談支援を行っている。

エ 関係機関の連携

- ・ 情報交換等の医療機関と小・中学校、特別支援学校の連携を進めている。
- ・ 小・中学校、特別支援学校、県教委、地教委等が連携し、関係者間での共通理解を図っている。

(2) 県内の高等学校における長期入院生徒に関する調査
県立高等学校における入院児童生徒等の状況と学校の取組等を把握するため、電子メールによる調査票の送付と回答、電話及び訪問による聞き取りによる調査を行った。

ア 一次調査：県内の全県立高等学校(97校)

- ・ 病気やけがによる入院による休学等
休学：10人(9校) 転学：4人(4校) 退学：2人(2校)
- ・ 年間延べ30課業日以上入院した生徒数
29人(23校)(内、原級留置：9人 9校)

イ 二次調査：一次調査において該当生徒が在籍との回答のあった県立高等学校(29校)

- ・ 休学した生徒(10人)
登校(復学)：3人、自宅療養：1人、入院：1人、休学：3人、転学：1人、死亡：1人
- ・ 年度間延べ30課業日以上入院した生徒(29人)

登校（復学・進級）・卒業：17人、入院：1人、
休学：5人、転学：5人、退学：1人、死亡：4人

- ・ 調査回答時点で入院している生徒（10人）

登校：6人、入院：3人、自宅療養：1人

- ・ 学校の対応等として、「本人の意向確認」「病院や自宅へ課題等を届ける」「特別支援学校の学習支援の利用」「保護者との連携、医療（主治医や医療ソーシャルワーカー等）との連携」「教職員間の共通理解」「単位の修得に向けた補充の実施（必要な場合）」などの取組が行われていた。

【研究のまとめ】

推進地区である県北・県中・会津地区における入院児童生徒等の学習状況及び支援状況、県立高等学校入院生徒の調査の結果、入院児童生徒等の学習支援体制の充実に向けた要点は次の4点である。

(1) 「児童生徒や保護者の思いに寄り添う対応」

一人一人の思いを大切にされた対応が入院児童生徒等のよりよい学習や生活に結び付く。ニーズに応じた支援のためには、児童生徒や保護者の思いを確認し、寄り添う対応が出発点となる。

(2) 「関係者の理解」

関係者の理解が支援の充実につながっている取組が多かったことから、学習機会の保障の重要性、学習活動による治療効果の向上、特別支援学校の役割等も含めた入院児童生徒等への学習保障の理解の推進が重要である。

(3) 「関係機関との連携と協働による対応」

病状等に応じた対応のためには、医療機関との情報共有が必要であることが各学校の取組から明らかになった。また、児童生徒や保護者、学校の取組を支えるためには、市町村教育委員会や教育事務所等の関係機関が連携する体制づくりが不可欠となる。関係者による連携と協働が入院児童生徒等の学習と支援の充実につながると言える。

(4) 「学習支援等でのICT機器の活用に対する支援」

入院児童生徒等は、治療により移動や行動に制限を受ける場合があり、ICT機器の活用は学習等を進める上で活動の幅を広げる有効な支援の一つとなる。学習保障の充実に向けた対応の一つとして、ICT機器の活用も大切になる。

学習支援体制の整備は、入院児童生徒等の教育を受ける権利を保障し、学習の遅れを防ぐことから不可欠となる。また、「学びたい」という思いに寄り添い、一人一人に応じた適切な学習機会の確保と支援を行うことは、治療においても大きな効果があるとも言われている。日々成長する子どもたちが切れ目のない教育を受けることができるように、二次次も入院児童生徒等の学習の充実を目指す取組について調査研究を進める。

「特別支援学校教員の協働による専門性の向上・継承と校内組織の活性化」(一年次)～学び合う学校組織(OJL)への取組～

【研究の趣旨と目的】

本県では、大量退職と大量の採用の時期を迎え、幅広い経験年数と年齢層、そして様々なキャリアを持った教員で構成された学校組織において、次世代の教員に、これまでの取組の継承を確実にを行い、教員の専門性をさらに向上させ、一人一人の良さを最大限に発揮することが必要とされている。そのために、学校組織において、組織的・協働的に諸課題に取り組む専門的な力の育成についても取り組んでいくことが必要とされている。

そこで、本研究では、教員同士の「学び合い」を意識して取り組むために、OJT(On The Job Training)ではなく、OJL(On The Job Learning)の理念に着目して、次の3つの目的で研究を行った。

- 特別支援学校の専門性の向上・継承と校内組織の活性化に向けて、課題を明確にする。
- 「互いに学び合う主体的な学校組織(OJL)」の在り方を考え、各校の具体的な取組を支援し提言を行う。
- 校内組織の活性化を推進する教員(以下：OJLサポート教員)との研修を通して、特別支援学校における子どもの学びの充実と人材育成の原動力とする。

【研究の経過】

(1) 特別支援学校の専門性の向上・継承と校内組織の活性化にむけて、本県での課題の明確化

ア 教育課題調査によるデータ分析

各校の現状を把握するために、経験者研修Ⅰ・Ⅱの教員を対象に、アンケートを行った。教育課題について、「授業実践」「仕事、人間関係、その他」のカテゴリーに分けて分析し、そのための解決策を「校内」「校外・自分自身」に分けて分析を行った。

イ OJLサポート教員に対する研修会

4月「OJLサポート教員連絡協議会」8月専門研修「特別支援学校におけるチーム力向上とマネジメントの実際」を実施した。OJLの理念に対して理解を深めたり、外部講師によるOJLに関する演習を行ったりするなどして、各学校の中核を担う人材の育成を図った。さらに、各校の取組についての情報交換・協議の場を設け、福島県内の特別支援学校での取組がより促進し、専門性の向上・継承につながるようにした。

ウ 研究協力校との実践

(ア) A校での取組

「校内研修の場を活用したOJLのアプローチ」に取り組んだ。教育課題把握シートを使い、校内での「学び合い」の現状と課題を分析し、課題解決に向けて校内研修グループを小学部、中学部、高等部と意図的に設定した。成果として、他学部との連携をすることができたこと、幅広い専門性、経験年数の教員と若手教員が学び合う機会となったことが挙げられた。

(イ) B校での取組

「交流及び共同学習を通じたOJL」に取り組んだ。

2 教育研究

0JLの視点を取り入れることで、合同で行う授業において、どう相手校と連携すればいいの、話し合いや情報交換の方法を工夫して取り組んできた。成果として、教員同士が学び合い、授業を作ることで、授業場面においての子どもの変容が見られ、交流及び共同学習の充実につながった。また、この実践から教員の協働には「つながり」「学校間での連携」「取組の共有と理解啓発」が重要であることが分かった。

【研究のまとめ】

(1) 成果

ア 本県の特別支援学校の課題の明確化

経験者研修Ⅰ・Ⅱの教員に実施した教育課題調査によるアンケート分析や本県の特別支援学校の教員年齢や経験年数のバランスを明らかにすることで、課題解決に向けた視点や校内での学び合いへの意識向上が明確になった。

イ 「場」と「しかけ」によって一歩動き出す

0JLの理念を踏まえた実践を行うことで、校内組織が活性化し、専門性の継承・向上が促されたことが0JLサポート教員への意識調査から明らかになった。活性化に向けた取組を「場」と「しかけ」という言葉で整理し、より意識して取組が推進できる環境を整えた。

ウ 活性化したチームに共通する6つの視点

組織が活性化した取組の実践内容から、共通項を洗い出し「信頼、尊重、創造、双方向対話、協働・共同体、支援サポート」を明らかにすることができた。今後、この6つの視点を軸に組織・チームを見直すことができると考える。

(2) 課題

ア ティーチング、コーチングの知識・技能の必要性

0JLの理念を実現するためには、相手への伝え方、引き出し方が課題として挙げられ、今後、実践的な研究が必要である。

イ 0JLの理念の研究及び普及

新しい考え方の0JLの理念に関して、当センターとして引き続き研究を深め、各校の0JLサポート教員の取組がより促進されるようにしていくことが必要である。

今後もこの成果と課題を生かしながら、本県の施策がより推進されるよう取り組み、専門性の継承・向上と組織の活性化を図っていく。

教育関係定期刊行物は5種類購入し、いつでも閲覧できるように分類・配架した。

(3) 教育資料の収集・整理

全国の関係機関や県内の教育機関の協力により、研究紀要・研究報告書・ハンドブック等の収集に努め、本年度収集した194冊を分類・配架した。県内の資料についても、学校別に分類・配架した。

第6節 広報・啓発事業

1 所報「特別支援教育」(69号)

(1) 内容

ア 巻頭言

「特別支援教育に携わって思うこと」

福島県特別支援学校長会会長

福島県立盲学校長（現：福島県立視覚支援学校）

阿部 教夫 氏

イ 特集「協働・連携による特別支援教育の充実とインクルーシブ教育システムの推進に向けて」

(ア) 調査研究から(一年次)

「入院児童生徒の学習状況調査と支援体制の整備」

(イ) 教育研究から(一年次)

「特別支援学校教員の協働による専門性の向上・継承と校内組織の活性化」

ウ 講演ノート

教育講演会より

「みんなちがって、みんないい～障がいのある子どもの暮らしの中で～」

一般社団法人「発達障がいファミリーサポート

Marble」

代表理事 国沢 真弓

エ インフォメーション

(ア) 平成28年度 教育相談の報告

(イ) 平成28年度 研修講座実施状況

(ウ) 養護教育センター特別支援教材ポータル

(2) 規格、ページ等

ア 規格 A4判

イ ページ数26ページ

ウ Webサイトで公開

エ 各関係機関へ配付

2 研究紀要「第30号」

(1) 内容

ア 調査研究

「入院児童生徒の学習状況調査と支援体制の整備―切れ目のない教育や学習の充実を目指して―」(第一年度)

イ 教育研究

「特別支援学校教員の協働による専門性の向上・継承と校内組織の活性化―学び合う学校組織(0JL)への取組―」(第一年度)

(2) 規格、ページ、部数

ア 規格 A4判

イ ページ数 50ページ

第5節 教育図書・資料の収集・提供事業

1 教育図書・資料の収集・整理

(1) 教育図書の収集・整理

教育図書については、特別支援教育に関する専門図書の充実に努め、本年度206冊の新規購入及び受贈の結果、蔵書数は6,626冊になった。その種類は、障がい児の教育関係図書が1,419冊、その他の図書が5,207冊である。障がい児関係図書については、利用しやすいように障がい別(視覚障がい、聴覚障がい、知的障がい、肢体不自由、病弱、言語障がい、情緒障がい、重複障がい等)に配架している。

(2) 教育関係定期刊行物の収集・整理

- ウ Webサイトで公開
- エ 各関係機関へ配付

第7節 情報教育事業

1 ICT活用支援

専門研修講座において、「インクルーシブ教育システム構築における合理的配慮と教材・支援機器の活用」を実施し、講義や教材・支援機器・ICT等の活用についての演習を行い、特別支援教育における教材・支援機器等の活用促進と実践力や専門性の向上を図った。

また、初任者研修の基本研修において、情報モラルに関する講義を実施した。

テレビ会議システムの活用においては、特別支援学校と連携し、テレビ会議システムを活用した学習支援のあり方について情報提供を行った。

2 情報機器活用

研修講座を中心に、支援機器に関する情報提供やWebカメラ等の貸出を行った。

3 情報教育ネットワークとWebサイトの充実

特別支援教育に関する情報発信をするために、Webサイトをネットコモンズを活用して新設した。また、Webサイトで本センターの事業内容を多くの方々に伝えるため、研修や研究の広報充実に努めた。

広報・啓発事業担当者と協力し、「教材・支援機器ポータル」「センターだより」「コーディネートハンドブック」を、Webサイトに掲載し、適宜新しい情報の追加を行った。

- 本センターWebサイトアクセス件数 13,574件
(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

平成28年度実績 教育年報

発 行 平成 30 年1月31日
編集発行 福島県教育委員会
福島市杉妻町2-16
TEL (024) 521-7759
